

高萩市

大高台遺跡 北久保B遺跡

一般県道高萩塙線バイパス整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和3年3月

茨城県高萩工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第453集

高萩市

お お た か だ い
大 高 台 遺 跡
き た く ほ び
北 久 保 B 遺 跡

一般県道高萩塙線バイパス整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和3年3月

茨城県高萩工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県高萩工事事務所による一般県道高萩碓線バイパス整備事業に伴って実施した、大高台遺跡及び北久保B遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、弥生時代から平安時代にかけての集落跡が、鎌倉時代から江戸時代にかけては掘立柱建物跡が多数確認でき、寺院跡の可能性が高まりました。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県高萩工事事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、高萩市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和3年 3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 柴原 宏一

例 言

- 1 本書は、茨城県高萩工事事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成30年度から令和元年度に発掘調査を実施した、茨城県高萩市赤浜1883番地4ほかに所在する大高台遺跡及び茨城県高萩市赤浜1543番地3ほかに所在する北久保B遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成31年1月4日～令和元年8月31日
整理 令和2年4月1日～令和3年3月31日
- 3 発掘調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 胸澤悦郎 平成31年1月4日～3月31日
首席調査員兼班長 櫻井完介 平成31年4月1日～令和元年8月31日
次席調査員 水井敦 平成31年1月4日～3月31日
次席調査員 三浦裕介
次席調査員 野内智一郎 平成31年1月4日～3月31日
嘱託調査員 野田良直 平成31年1月4日～3月31日
調査員 萩原宏季 平成31年4月1日～令和元年8月31日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長小林和彦のもと、以下の者が担当した。
次席調査員 三浦裕介 令和2年4月1日～6月31日
調査員 萩原宏季
- 5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。
萩原宏季 第1章～第3章・第5章
三浦裕介 第4章
- 6 本書の作成にあたり、掘立柱建物跡から出土した礎板として用いられた石材及びその他の石器・石製品の岩石鑑定は、茨城大学名誉教授 田切美智雄氏にご指導いただいた。中世陶磁器の産地及び年代については、土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員 比毛君男氏にご指導いただいた。
- 7 鉄製品保存処理、金属製品X線写真撮影、炭化種実同定をバリノ・サーヴェイ株式会社、炭化物の科学分析による年代測定は山形大学高感度加速器質量分析センターに委託した。それぞれの化学分析の結果は資料が出土した遺構とともに掲載した。
- 8 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

凡 例

- 1 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、大高台遺跡は $X = +82,920\text{ m}$ 、 $Y = +78,200\text{ m}$ の交点を基準点(A1a)とし、北久保B遺跡は $X = +82,760\text{ m}$ 、 $Y = +78,880\text{ m}$ の交点を基準点(A1a)とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3、…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物一覧表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 HG-遺物包含層 HT-方形堅穴遺構 SA-柱穴列 SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡

SF-道路跡 SI-堅穴建物跡 SK-土坑 SY-炭窯 P-ピット PG-ピット群

土層 ローム-ロームブロック 粘土-粘土ブロック 粘-粘性 締-締まり K-攪乱

含有量 A-多量 B-中量 C-少量 D-微量 ○'-極めて

粘性・締まり A-強い B-普通 C-弱い ○'-極めて

サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

		石
		須臾器
●土器	○土製品	□石器・石製品
△金属製品	■瓦	----- 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構一覧表・遺物一覧表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、現存値は()を、推定値は[]を付して示した。

(2) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、一覧表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 堅穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

- 7 今回報告する遺構の調査年次と、整理の段階で遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは目次の後に表で示した。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
大高台遺跡・北久保B遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 位置と地形	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 大高台遺跡	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	13
1 弥生時代の遺構と遺物	13
(1) 竪穴建物跡	13
(2) 遺物包含層	22
2 古墳時代の遺構と遺物	25
竪穴建物跡	25
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	44
(1) 竪穴建物跡	44
(2) 掘立柱建物跡	96
(3) 土 坑	103
4 中世～近世の遺構と遺物	105
(1) 掘立柱建物跡	105
(2) 方形竪穴遺構	146
(3) 地下式坑	166
(4) 土坑墓	168
(5) 火葬施設	169
(6) 道路跡	171
(7) 溝 跡	173
(8) 土 坑	175
(9) 粘土貼土坑	189

5	その他の遺構と遺物	194
(1)	溝跡	195
(2)	柱穴列	196
(3)	土坑	197
(4)	炭窟跡	236
(5)	ピット群	237
(6)	遺構外出土遺物	248
第4節	小 結	252
第4章	北久保B遺跡	261
第1節	調査の成果	261
第2節	基本層序	261
第3節	遺構と遺物	264
1	旧石器時代の遺物	264
(1)	調査の方法	264
(2)	出土石器	264
2	古墳時代の遺構と遺物	268
	竪穴建物跡	268
3	奈良時代の遺構と遺物	283
	竪穴建物跡	283
4	室町時代の遺構と遺物	293
	方形竪穴遺構	293
5	その他の遺構と遺物	300
(1)	溝跡	300
(2)	土坑	302
(3)	遺構外出土遺物	307
(4)	遺物包含層	308
第4節	小 結	309
第5章	総 括	311
	写真図版	PL 1～PL50
	抄 録	
	付 図	

挿 図 目 次

第1図	大高台遺跡・北久保B遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院25,000分の1「高萩」)	8	第10図	第40号竪穴建物跡出土遺物実測図	21
第2図	大高台遺跡・北久保B遺跡調査区設定図(高萩市都市計画図2500分の1)	10	第11図	第1号遺物包含層実測図	23
第3図	基本土層図	12	第12図	第1号遺物包含層出土遺物実測図	24
第4図	第6号竪穴建物跡実測図	13	第13図	第1号竪穴建物跡実測図	25
第5図	第6号竪穴建物跡出土遺物実測図	14	第14図	第1号竪穴建物跡出土遺物実測図	26
第6図	第11号竪穴建物跡・出土遺物実測図	15	第15図	第16号竪穴建物跡実測図	27
第7図	第17号竪穴建物跡・出土遺物実測図	17	第16図	第16号竪穴建物跡・出土遺物実測図	28
第8図	第24号竪穴建物跡・出土遺物実測図	18	第17図	第20号竪穴建物跡実測図	30
第9図	第40号竪穴建物跡・出土遺物実測図	20	第18図	第20号竪穴建物跡出土遺物実測図	31
			第19図	第21号竪穴建物跡実測図	32
			第20図	第21号竪穴建物跡・出土遺物実測図	33

第21図	第30号竪穴建物跡実測図	35	第86図	第149号土坑実測図	104
第22図	第30号竪穴建物跡出土遺物実測図	36	第87図	第149号土坑出土遺物実測図	105
第23図	第31号竪穴建物跡実測図(1)	38	第88図	第1号掘立柱建物跡実測図	106
第24図	第31号竪穴建物跡実測図(2)	39	第89図	第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図	107
第25図	第31号竪穴建物跡下層出土遺物実測図	40	第90図	第2号掘立柱建物跡実測図	107
第26図	第31号竪穴建物跡上層出土遺物実測図	41	第91図	第3号掘立柱建物跡実測図	108
第27図	第33号竪穴建物跡実測図	42	第92図	第4号掘立柱建物跡実測図	109
第28図	第39号竪穴建物跡出土遺物実測図	42	第93図	第5号掘立柱建物跡実測図	110
第29図	第39号竪穴建物跡実測図	43	第94図	第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	111
第30図	第2号竪穴建物跡実測図	45	第95図	第7号掘立柱建物跡実測図	112
第31図	第2号竪穴建物跡出土遺物実測図	46	第96図	第8号掘立柱建物跡実測図	113
第32図	第3号竪穴建物跡実測図	47	第97図	第8号掘立柱建物跡出土遺物実測図	114
第33図	第3号竪穴建物跡出土遺物実測図	48	第98図	第9号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	115
第34図	第4号竪穴建物跡実測図	49	第99図	第10号掘立柱建物跡実測図	116
第35図	第4号竪穴建物跡出土遺物実測図	50	第100図	第11号掘立柱建物跡実測図	117
第36図	第5号竪穴建物跡・出土遺物実測図	51	第101図	第12号掘立柱建物跡実測図(1)	118
第37図	第7号竪穴建物跡実測図	53	第102図	第12号掘立柱建物跡実測図(2)	119
第38図	第7号竪穴建物跡出土遺物実測図	54	第103図	第14号掘立柱建物跡出土遺物実測図	119
第39図	第8号竪穴建物跡・出土遺物実測図	55	第104図	第14号掘立柱建物跡実測図	120
第40図	第9号竪穴建物跡出土遺物実測図	56	第105図	第19号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	122
第41図	第9号竪穴建物跡実測図	57	第106図	第20号掘立柱建物跡実測図	123
第42図	第10号竪穴建物跡・出土遺物実測図	58	第107図	第23号掘立柱建物跡実測図(1)	124
第43図	第12号竪穴建物跡実測図	59	第108図	第23号掘立柱建物跡実測図(2)	125
第44図	第12号竪穴建物跡竈・出土遺物実測図	60	第109図	第23号掘立柱建物跡出土遺物実測図	127
第45図	第13号竪穴建物跡実測図	62	第110図	第23号掘立柱建物跡P23炭化材出土状況	128
第46図	第13号竪穴建物跡・出土遺物実測図	63	第111図	第25号掘立柱建物跡実測図	131
第47図	第14号竪穴建物跡・出土遺物実測図	65	第112図	第26号掘立柱建物跡実測図	132
第48図	第15号竪穴建物跡実測図	67	第113図	第27号掘立柱建物跡実測図	134
第49図	第15号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	68	第114図	第28号掘立柱建物跡実測図	135
第50図	第15号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)	69	第115図	第28号掘立柱建物跡P11出土礎板石実測図	136
第51図	第18号竪穴建物跡・出土遺物実測図	70	第116図	第29号掘立柱建物跡出土遺物実測図	136
第52図	第19号竪穴建物跡実測図	71	第117図	第29号掘立柱建物跡実測図	137
第53図	第19号竪穴建物跡出土遺物実測図	72	第118図	第30号掘立柱建物跡実測図	138
第54図	第22号竪穴建物跡・出土遺物実測図	72	第119図	第31号掘立柱建物跡実測図	139
第55図	第23号竪穴建物跡実測図	73	第120図	第31号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	140
第56図	第23号竪穴建物跡出土遺物実測図	74	第121図	第33号掘立柱建物跡出土遺物実測図	141
第57図	第26号竪穴建物跡実測図	75	第122図	第33号掘立柱建物跡実測図	142
第58図	第26号竪穴建物跡出土遺物実測図	76	第123図	第39号掘立柱建物跡実測図	143
第59図	第27号竪穴建物跡実測図	76	第124図	第40号掘立柱建物跡実測図	144
第60図	第27号竪穴建物跡・出土遺物実測図	77	第125図	第40号掘立柱建物跡出土遺物実測図	145
第61図	第28号竪穴建物跡実測図	79	第126図	第3号方形竪穴遺構・出土遺物実測図	146
第62図	第28号竪穴建物跡出土遺物実測図	80	第127図	第49-50号方形竪穴遺構実測図	147
第63図	第29号竪穴建物跡・出土遺物実測図	81	第128図	第49号方形竪穴遺構出土遺物実測図	148
第64図	第32号竪穴建物跡・出土遺物実測図	83	第129図	第50号方形竪穴遺構出土遺物実測図	149
第65図	第32号竪穴建物跡出土遺物実測図	84	第130図	第53-54号方形竪穴遺構実測図	150
第66図	第34号竪穴建物跡・出土遺物実測図	84	第131図	第70号方形竪穴遺構実測図	150
第67図	第35号竪穴建物跡実測図	85	第132図	第70号方形竪穴遺構出土遺物実測図	151
第68図	第36号竪穴建物跡実測図	86	第133図	第73号方形竪穴遺構・出土遺物実測図	153
第69図	第36号竪穴建物跡竈実測図	87	第134図	第82号方形竪穴遺構実測図	153
第70図	第36号竪穴建物跡出土遺物実測図	88	第135図	その他の方形竪穴遺構実測図(1)	154
第71図	第37号竪穴建物跡出土遺物実測図	89	第136図	その他の方形竪穴遺構実測図(2)	155
第72図	第37号竪穴建物跡実測図	90	第137図	その他の方形竪穴遺構実測図(3)	156
第73図	第38号竪穴建物跡実測図	91	第138図	その他の方形竪穴遺構実測図(4)	157
第74図	第38号竪穴建物跡出土遺物実測図	92	第139図	その他の方形竪穴遺構実測図(5)	158
第75図	第41号竪穴建物跡実測図	93	第140図	その他の方形竪穴遺構実測図(6)	159
第76図	第42号竪穴建物跡実測図	93	第141図	その他の方形竪穴遺構実測図(7)	160
第77図	第43号竪穴建物跡・出土遺物実測図	94	第142図	その他の方形竪穴遺構実測図(8)	161
第78図	第32号掘立柱建物跡実測図	96	第143図	その他の方形竪穴遺構実測図(9)	162
第79図	第34号掘立柱建物跡実測図	98	第144図	その他の方形竪穴遺構実測図(10)	163
第80図	第35号掘立柱建物跡実測図(1)	99	第145図	中世一近世方形竪穴遺構出土遺物実測図	165
第81図	第35号掘立柱建物跡実測図(2)	100	第146図	第1号地下式坑出土遺物実測図	166
第82図	第36号掘立柱建物跡実測図	100	第147図	第1号地下式坑実測図	167
第83図	第37号掘立柱建物跡実測図	101	第148図	第1号土坑竈・出土遺物実測図	168
第84図	第38号掘立柱建物跡実測図	102	第149図	第1号火葬施設実測図	169
第85図	第98号土坑・出土遺物実測図	103	第150図	第1号道路跡液状板状凹凸面実測図・第1号道路跡	

	出土遺物実測図	171	第214図	第5号ピット群実測図	239
第151図	第1号遺跡跡実測図	172	第215図	第6号ピット群実測図	240
第152図	第2号溝跡出土遺物実測図	173	第216図	ピット群出土遺物実測図(1)	246
第153図	第2・4号溝跡実測図	174	第217図	ピット群出土遺物実測図(2)	247
第154図	第136号土坑出土遺物実測図	175	第218図	遺構外出土遺物実測図(1)	249
第155図	第136号土坑実測図	176	第219図	遺構外出土遺物実測図(2)	250
第156図	第152号土坑・出土遺物実測図	177	第220図	大高台遺跡集落変遷図	253
第157図	第175号土坑実測図	178	第221図	大高台遺跡集落変遷図	256
第158図	第273号土坑実測図	186	第222図	基本土層図	262
第159図	第331号土坑実測図	186	第223図	北久保日道跡遺構全体図	263
第160図	第331号土坑出土遺物実測図	187	第224図	旧石器時代調査範囲グリッド図	264
第161図	第377号土坑実測図	187	第225図	旧石器時代出土遺物実測図(1)	265
第162図	第377号土坑出土遺物実測図	188	第226図	旧石器時代出土遺物実測図(2)	266
第163図	第395号土坑実測図	188	第227図	第1号竪穴建物跡実測図	268
第164図	第395号土坑出土遺物実測図	189	第228図	第1号竪穴建物跡出土遺物実測図	269
第165図	第230号土坑実測図	190	第229図	第2号竪穴建物跡実測図(1)	270
第166図	第262号土坑・出土遺物実測図	190	第230図	第2号竪穴建物跡実測図(2)	271
第167図	第382号土坑実測図	191	第231図	第2号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	272
第168図	その他の粘土貼土坑実測図(1)	191	第232図	第2号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)	273
第169図	その他の粘土貼土坑実測図(2)	192	第233図	第5号竪穴建物跡実測図	274
第170図	その他の粘土貼土坑実測図(3)	193	第234図	第5号竪穴建物跡出土遺物実測図	275
第171図	その他の粘土貼土坑・出土遺物実測図	194	第235図	第6号竪穴建物跡実測図	276
第172図	第1・5～9号溝跡実測図	195	第236図	第7号竪穴建物跡実測図	276
第173図	第4号柱穴実測図	196	第237図	第7号竪穴建物跡出土遺物実測図	277
第174図	第5号柱穴実測図	196	第238図	第8号竪穴建物跡実測図(1)	277
第175図	その他の土坑実測図(1)	197	第239図	第8号竪穴建物跡実測図(2)	278
第176図	その他の土坑実測図(2)	198	第240図	第8号竪穴建物跡出土遺物実測図	278
第177図	その他の土坑実測図(3)	199	第241図	第9号竪穴建物跡実測図	278
第178図	その他の土坑実測図(4)	200	第242図	第10号竪穴建物跡実測図	279
第179図	その他の土坑実測図(5)	201	第243図	第11号竪穴建物跡・出土遺物実測図	280
第180図	その他の土坑実測図(6)	202	第244図	第12号竪穴建物跡実測図	280
第181図	その他の土坑実測図(7)	203	第245図	第13号竪穴建物跡実測図	281
第182図	その他の土坑実測図(8)	204	第246図	第13号竪穴建物跡出土遺物実測図	282
第183図	その他の土坑実測図(9)	205	第247図	第3号竪穴建物跡実測図	284
第184図	その他の土坑実測図(10)	206	第248図	第3号竪穴建物跡・出土遺物実測図	285
第185図	その他の土坑実測図(11)	207	第249図	第4号竪穴建物跡実測図(1)	286
第186図	その他の土坑実測図(12)	208	第250図	第4号竪穴建物跡実測図(2)	287
第187図	その他の土坑実測図(13)	209	第251図	第4号竪穴建物跡遺物出土状況図	288
第188図	その他の土坑実測図(14)	210	第252図	第4号竪穴建物跡掘方実測図	289
第189図	その他の土坑実測図(15)	211	第253図	第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	290
第190図	その他の土坑実測図(16)	212	第254図	第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)	291
第191図	その他の土坑実測図(17)	213	第255図	第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)	292
第192図	その他の土坑実測図(18)	214	第256図	第1・2・3号方形竪穴遺構実測図	294
第193図	その他の土坑実測図(19)	215	第257図	第4号方形竪穴遺構実測図	295
第194図	その他の土坑実測図(20)	216	第258図	第5号方形竪穴遺構・出土遺物実測図	295
第195図	その他の土坑実測図(21)	217	第259図	第6・7号方形竪穴遺構実測図	296
第196図	その他の土坑実測図(22)	218	第260図	第8号方形竪穴遺構実測図	296
第197図	その他の土坑実測図(23)	219	第261図	第9号方形竪穴遺構実測図	297
第198図	その他の土坑実測図(24)	220	第262図	第10号方形竪穴遺構・出土遺物実測図	297
第199図	その他の土坑実測図(25)	221	第263図	第11号方形竪穴遺構実測図	298
第200図	その他の土坑実測図(26)	222	第264図	第12号方形竪穴遺構実測図	298
第201図	その他の土坑実測図(27)	223	第265図	第13・14号方形竪穴遺構実測図	299
第202図	その他の土坑実測図(28)	224	第266図	第2号溝跡実測図	300
第203図	その他の土坑実測図(29)	225	第267図	第3号溝跡出土遺物実測図	301
第204図	その他の土坑実測図(30)	226	第268図	第3号溝跡実測図	301
第205図	その他の土坑出土遺物実測図(1)	227	第269図	その他の土坑実測図(1)	302
第206図	その他の土坑出土遺物実測図(2)	228	第270図	その他の土坑実測図(2)	302
第207図	第1号炭竈跡実測図	236	第271図	その他の土坑実測図(3)	303
第208図	ピット群位置図	237	第272図	その他の土坑実測図(4)	305
第209図	第1号ピット群実測図	237	第273図	その他の土坑出土遺物実測図	306
第210図	第2号ピット群実測図	237	第274図	遺構外出土遺物実測図	307
第211図	第3号ピット群実測図(1)	238	第275図	第1号竪穴包合層実測図	308
第212図	第3号ピット群実測図(2)	239	第276図	松岡城跡E地点第1号掘立柱建物跡実測図	313
第213図	第4号ピット群実測図	237			

挿表目次

第1表	大高台遺跡・北久保B遺跡周辺遺跡一覧	9
第2表	第6号竪穴建物跡出土遺物一覧	14
第3表	第11号竪穴建物跡出土遺物一覧	16
第4表	第17号竪穴建物跡出土遺物一覧	16
第5表	第24号竪穴建物跡出土遺物一覧	19
第6表	第40号竪穴建物跡出土遺物一覧	21
第7表	弥生時代竪穴建物跡一覧	22
第8表	第1号遺物包含層出土遺物	24
第9表	第1号遺物包含層出土土器集計	24
第10表	第1号竪穴建物跡出土遺物一覧	26
第11表	第16号竪穴建物跡出土遺物一覧	29
第12表	第20号竪穴建物跡出土遺物一覧	31
第13表	第21号竪穴建物跡出土遺物一覧	33
第14表	第30号竪穴建物跡出土遺物(1)	34
第15表	第30号竪穴建物跡出土遺物(2)	36
第16表	第31号竪穴建物跡出土遺物一覧	41
第17表	第39号竪穴建物跡出土遺物一覧	44
第18表	古墳時代竪穴建物跡一覧	44
第19表	第2号竪穴建物跡出土遺物一覧	46
第20表	第3号竪穴建物跡出土遺物一覧	48
第21表	第4号竪穴建物跡出土遺物一覧	50
第22表	第5号竪穴建物跡出土遺物一覧	52
第23表	第7号竪穴建物跡出土遺物一覧	52
第24表	第8号竪穴建物跡出土遺物一覧	56
第25表	第9号竪穴建物跡出土遺物一覧	56
第26表	第10号竪穴建物跡出土遺物一覧	59
第27表	第12号竪穴建物跡出土遺物一覧	61
第28表	第13号竪穴建物跡出土遺物一覧	64
第29表	第14号竪穴建物跡出土遺物一覧	64
第30表	第15号竪穴建物跡出土遺物一覧	66
第31表	第18号竪穴建物跡出土遺物一覧	71
第32表	第19号竪穴建物跡出土遺物一覧	71
第33表	第22号竪穴建物跡出土遺物一覧	72
第34表	第23号竪穴建物跡出土遺物一覧	74
第35表	第26号竪穴建物跡出土遺物一覧	76
第36表	第27号竪穴建物跡出土遺物一覧	77
第37表	第28号竪穴建物跡出土遺物一覧	80
第38表	第29号竪穴建物跡出土遺物一覧	82
第39表	第32号竪穴建物跡出土遺物一覧	84
第40表	第34号竪穴建物跡出土遺物一覧	85
第41表	第36号竪穴建物跡出土遺物一覧	87
第42表	第37号竪穴建物跡出土遺物一覧	89
第43表	第38号竪穴建物跡出土遺物一覧	92
第44表	第43号竪穴建物跡出土遺物一覧	96
第45表	奈良・平安時代竪穴建物跡一覧	96
第46表	奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧	103
第47表	第98号土坑出土遺物一覧	104
第48表	第149号土坑出土遺物一覧	104
第49表	奈良・平安時代土坑一覧	105
第50表	第1号掘立柱建物跡出土遺物一覧	107
第51表	第6号掘立柱建物跡出土遺物一覧	112
第52表	第8号掘立柱建物跡出土遺物一覧	114
第53表	第9号掘立柱建物跡出土遺物一覧	115
第54表	第14号掘立柱建物跡出土遺物一覧	119
第55表	第14号掘立柱建物跡出土土版石一覧	120
第56表	第19号掘立柱建物跡出土土版石一覧	121
第57表	第19号掘立柱建物跡出土遺物一覧	121
第58表	第23号掘立柱建物跡出土土版石一覧	126
第59表	第23号掘立柱建物跡出土遺物一覧	126
第60表	第28号掘立柱建物跡出土土版石一覧	136
第61表	第29号掘立柱建物跡出土遺物一覧	137

第62表	第31号掘立柱建物跡出土土版石一覧	141
第63表	第31号掘立柱建物跡出土遺物一覧	141
第64表	第33号掘立柱建物跡出土遺物一覧	141
第65表	第40号掘立柱建物跡出土遺物一覧	145
第66表	中世～近世掘立柱建物跡一覧	145
第67表	第3号方形竪穴遺構出土遺物一覧	147
第68表	第49号方形竪穴遺構出土遺物一覧	148
第69表	第50号方形竪穴遺構出土遺物一覧	149
第70表	第70号方形竪穴遺構出土遺物一覧	152
第71表	第73号方形竪穴遺構出土遺物一覧	153
第72表	中世～近世方形竪穴遺構一覧	164
第73表	中世～近世方形竪穴遺構出土遺物一覧	166
第74表	第1号地下式土坑出土遺物一覧	167
第75表	第1号土坑墓出土遺物一覧	168
第76表	第1号道路跡出土遺物一覧	173
第77表	第2号溝跡出土遺物一覧	173
第78表	第2号溝付岡柱穴ビット群一覧	174
第79表	中世～近世溝跡一覧	175
第80表	第136号土坑出土遺物一覧	176
第81表	第152号土坑出土遺物一覧	177
第82表	第331号土坑出土遺物一覧	187
第83表	第377号土坑出土遺物一覧	188
第84表	第396号土坑出土遺物一覧	189
第85表	中世～近世土坑一覧	189
第86表	第262号土坑出土遺物一覧	191
第87表	中世～近世粘土貼土坑出土遺物一覧	194
第88表	中世～近世粘土貼土坑一覧	194
第89表	その他の溝跡一覧	195
第90表	第4号柱穴ビット群一覧	196
第91表	第5号柱穴ビット群一覧	196
第92表	その他の土坑出土遺物一覧	228
第93表	その他の土坑一覧	229
第94表	第1号ビット群一覧	237
第95表	第2号ビット群一覧	237
第96表	第3号ビット群一覧	239
第97表	第4号ビット群一覧	237
第98表	第5号ビット群一覧	239
第99表	第6号ビット群一覧	244
第100表	ビット群出土遺物一覧	245
第101表	遺構外出土遺物一覧	248
第102表	中世～近世陶磁器分類一覧	258
第103表	旧石器時代出土遺物一覧	266
第104表	第1号竪穴建物跡出土遺物一覧	269
第105表	第2号竪穴建物跡出土遺物一覧	273
第106表	第5号竪穴建物跡出土遺物一覧	275
第107表	第7号竪穴建物跡出土遺物一覧	277
第108表	第8号竪穴建物跡出土遺物一覧	278
第109表	第11号竪穴建物跡出土遺物一覧	280
第110表	第13号竪穴建物跡出土遺物一覧	282
第111表	古墳時代竪穴建物跡一覧	283
第112表	第3号竪穴建物跡出土遺物一覧	285
第113表	第4号竪穴建物跡出土遺物一覧	292
第114表	奈良時代竪穴建物跡一覧	293
第115表	第5号方形竪穴遺構出土遺物一覧	295
第116表	第10号方形竪穴遺構出土遺物一覧	298
第117表	京町時代方形竪穴遺構一覧	299
第118表	第3号溝跡出土遺物一覧	301
第119表	その他の溝跡一覧	301
第120表	その他の土坑出土遺物一覧	306
第121表	その他の土坑一覧	306
第122表	遺構外出土遺物一覧	308

写真図版目次

PL1	大高台道路遠景 (南から)	PL10	第 37 号型穴建物跡	PL20	SI40-1 ~ 16, HG 1-1 ~ 12
PL1	大高台道路遠景 (北から)	PL11	第 38・39 号型穴建物跡		第 1・16・20・21・30 号型
PL2	大高台道路調査区 2 区全景	PL11	第 43 号型穴建物跡		穴建物跡出土遺物
PL3	調査区北部	PL11	第 32 号型立柱建物跡		SI 1-1・3, SI16-1・3・7,
PL3	調査区中央部	PL11	第 34 号型立柱建物跡		SI20-1・3 ~ 5, SI21-1,
PL4	第 6 号型穴建物跡遺物出土状況 (1)	PL11	第 37 号型立柱建物跡		SI30-1・4・8 ~ 10
PL4	第 6 号型穴建物跡遺物出土状況 (2)	PL11	第 98 号土坑遺物出土状況	PL21	第 30・31・39 号型穴建物跡
PL4	第 6 号型穴建物跡	PL11	第 149 号土坑遺物出土状況		出土遺物
PL4	第 11 号型穴建物跡	PL11	第 149 号土坑		SI30-11 ~ 16, SI31-1 ~ 7
PL4	第 17 号型穴建物跡遺物出土状況	PL12	第 23 号型立柱建物跡		SI39-1
PL4	第 17 号型穴建物跡	PL12	第 3 号型立柱建物跡検出状況	PL22	第 2 ~ 5・7 号型穴建物跡出土
PL4	第 24 号型穴建物跡遺物出土状況	PL12	第 5 号型立柱建物跡		遺物
PL4	第 24 号型穴建物跡	PL12	第 6 号型立柱建物跡		SI 2-5・6, SI 3-3, SI 4-2,
PL5	第 40 号型穴建物跡遺物出土状況	PL12	第 7 号型立柱建物跡		SI 5-1・3, SI 7-2 ~ 4・6・
PL5	第 40 号型穴建物跡	PL13	第 11 号型立柱建物跡		7・9・10
PL5	第 1 号遺物包含層 (北から)	PL13	第 23 号型立柱建物跡 P 3 土層断面	PL23	第 9 号・12・14・15 号型穴建
PL5	第 1 号遺物包含層 (南から)	PL13	第 23 号型立柱建物跡 P 5		物跡出土遺物
PL5	第 1 号型穴建物跡		礎板出土状況		SI 9-2, SI12-5 ~ 7,
PL5	第 16 号型穴建物跡遺物出土状況	PL13	第 23 号型立柱建物跡 P18		SI14-1, SI15-1 ~ 9・11・
PL5	第 16 号型穴建物跡	PL13	第 23 号型立柱建物跡 P23		12・14・15・16
PL5	第 20 号型穴建物跡貯藏穴		柱材出土状況 (1)	PL24	第 19・23・26 ~ 28・32・
	遺物出土状況	PL13	第 23 号型立柱建物跡 P23		34・36 号型穴建物跡出土遺物
			柱材出土状況 (2)		SI19-1, SI23-1, SI26-1,
PL6	第 20 号型穴建物跡		第 23 号型立柱建物跡 P32		SI27-3, SI28-1・3・4,
PL6	第 21 号型穴建物跡	PL13	第 3 号方形型穴遺構遺物出土状況		SI32-2・4, SI34-1,
PL6	第 30 号型穴建物跡遺物出土状況 (1)	PL13	第 50 号方形型穴遺構遺物出土状況		SI36 1 ~ 5
PL6	第 30 号型穴建物跡遺物出土状況 (2)	PL14	第 70 号方形型穴遺構	PL25	第 36 号型穴建物跡, 第 6・
PL6	第 30 号型穴建物跡	PL14	第 1 号地下式坑		9・19・23・31・40 号型立
PL6	第 31 号型穴建物跡遺物出土状況	PL14	第 1 号土坑墓遺物出土状況 (1)		柱建物跡, 第 149 号土坑
PL6	第 31 号型穴建物跡竈	PL14	第 1 号土坑墓遺物出土状況 (2)		出土遺物
PL6	第 31 号型穴建物跡	PL14	第 1 号火葬施設		SI36-6・8・10 ~ 12, SB 6-1,
PL7	第 39 号型穴建物跡貯藏穴	PL14	第 1 号道路跡東部		SB 9-1,
	遺物出土状況	PL14	第 1 号道路跡仮状遺構確認状況		SB19-1, SB23-2・3・5,
PL7	第 2 号型穴建物跡	PL15	第 1 号道路跡		SB31, SB40-1・3,
PL7	第 3 号型穴建物跡	PL15	第 2 号溝跡		SK149-1・2・8
PL7	第 4 号型穴建物跡	PL15	第 152 号土坑遺物出土状況 (1)	PL26	第 49・50・70・76 号型穴
PL7	第 5 号型穴建物跡遺物出土状況	PL15	第 152 号土坑遺物出土状況 (2)		遺構, 第 136・331・377 号
PL7	第 5 号型穴建物跡	PL15	第 136 号土坑土層断面		土坑出土遺物
PL7	第 7 号型穴建物跡遺物出土状況	PL15	第 136 号土坑遺物出土状況		HT49-1・3, TH50 5 ~ 7,
PL8	第 7 号型穴建物跡	PL16	第 175 号土坑炭灰糸検出状況		HT70-6, HT76-7,
PL8	第 8 号型穴建物跡	PL16	第 273 号土坑遺物出土状況		SK136-4, SK331-1 ~ 3,
PL8	第 9 号型穴建物跡	PL16	第 331 号土坑		SK377-2
PL8	第 10 号型穴建物跡	PL16	第 377 号土坑遺物出土状況	PL27	第 38・70・73 号方形型穴
PL8	第 12 号型穴建物跡	PL16	第 395 号土坑遺物出土状況		遺構, 第 1 号道路跡, 第 152・
PL8	第 13 号型穴建物跡	PL16	第 230 号土坑		332・331・377 号土坑出土遺物
PL8	第 14 号型穴建物跡遺物出土状況	PL16	第 230 号土坑掘方土層断面		HT38-3, HT70 1 ~ 3,
PL8	第 14 号型穴建物跡	PL16	第 253 号土坑		HT73-1・2, SF 1-4,
PL9	第 15 号型穴建物跡遺物出土状況 (1)	PL17	第 253・255 号土坑		SK152-1, SK262-1・2,
PL9	第 15 号型穴建物跡遺物出土状況 (2)	PL17	第 262 号土坑		SK331-4・5, SK377-1
PL9	第 15 号型穴建物跡	PL17	第 382 号土坑	PL28	第 33・88・177・179・201・
PL9	第 18 号型穴建物跡	PL17	第 4 号柱穴列		242・253・396・398・421 号
PL9	第 23 号型穴建物跡遺物出土状況	PL17	第 5 号柱穴列		土坑, 第 3 号ビット群, 遺
PL9	第 23 号型穴建物跡	PL17	第 3 号ビット群		構外出土遺物, SK33-2,
PL9	第 26 号型穴建物跡	PL17	第 6 号ビット群と方形型穴遺構		SK88-7, SK177-10, SK179-12,
PL9	第 27 号型穴建物跡	PL17	第 1 号炭屑跡		SK201-16, SK242-27, SK253-19,
PL10	第 28 号型穴建物跡竈 1	PL18	第 6・11・17・24 号型穴建		物跡出土遺物
PL10	第 28 号型穴建物跡竈 2		物跡出土遺物		SK395-1・3, SK398-24,
PL10	第 28 号型穴建物跡		SI 6-1 ~ 9・11・12, SI11-		SK421-17, PG 3-4・5・13,
PL10	第 29 号型穴建物跡竈		1 ~ 5・9, SI17-1 ~ 4,	PL29	遺構外-15・30
PL10	第 29 号型穴建物跡		SI24-1 ~ 7		第 451 号土坑, 第 3・6 号ビ
PL10	第 32 号型穴建物跡	PL19	第 40 号型穴建物跡, 第 1 号		ット群, 遺構外出土遺物
PL10	第 36 号型穴建物跡		遺物包含層出土遺物		SK451-28, PG 3-2・8・

PL30	遺構外2・4-11	PL39	第7号竪穴建物跡	遺物出	PL45	第2号溝跡
	遺構外出土遺物		土状況		PL45	第3号溝跡
PL31	遺構外-12-14-16-22-25-26-28-29	PL39	第7号竪穴建物跡		PL46	旧石器時代出土遺物(1)
	第17-24-31-38号竪穴建物跡、第3号ピット群、遺構外出土遺物	PL40	第8号竪穴建物跡	遺物出	PL46	3-10-11-12-13-14-15
PL32	SI17-5, SI24-9, SI38-2, PG 3-20~22	PL40	第8号竪穴建物跡	P 1 遺物出土状況	PL47	16-17-18-20-25
	遺構外42~44	PL40	第11号竪穴建物跡	遺物	PL47	旧石器時代出土遺物(2)
PL33	第8-13-15-27-28-38号竪穴建物跡、遺構外出土遺物	PL40	第11号竪穴建物跡	遺物	PL48	19-27-30-31-37-39-40-42-45-46
	SI 8-4, SI13-5, SI15-18, SI27-5, SI28-6, SI38-3, 遺構外31~37	PL40	第13号竪穴建物跡	遺物	PL48	51-53-57-59-61-63
PL34	第2・4・37号竪穴建物跡、第98-136-331号土坑、第6号ピット群、遺構外出土遺物	PL40	第13号竪穴建物跡	P 2 遺物出土状況	PL49	第1・2・7・8-13号竪穴建物跡出土遺物
	SI 2-9, SI4-3, SI37-3, SK38-1, SK136-6, SK331-6, PG6-38, 遺構外40-41-47-48	PL41	第13号竪穴建物跡	P 3 遺物出土状況	PL49	SI 7-1
PL35	第15号竪穴建物跡、第31号掘立柱建物跡、第7・38号方形竪穴遺構、第70-242号土坑、第6号ピット群、遺構外出土遺物	PL41	第1号遺物含包層	炉	PL49	SI 8-1
	SI15-20, SE31-3, HT 7-1, HT38-4, SK70-6, SK242-2, PG 6-39, 遺構外-51-52	PL41	第3号竪穴建物跡	竈	PL49	SI 13-1・2・7
PL36	第3号方形竪穴遺構、第1号土坑墓(SK148)、第1号道路跡、第377号土坑	PL41	第3号竪穴建物跡	重なり状況	PL49	第4-13号竪穴建物跡出土遺物
	第3・5号ピット群出土遺物HT 3-1, SK148-1~5, SF 1-5, SK377-3 PG 3-30, PG 5-35	PL42	第4号竪穴建物跡	遺物出	PL50	SI 4-1・2・3・4・5・6・7・9・10-12-18-20
PL37	第70号方形竪穴遺構、第175号土坑出土遺物	PL42	第4号竪穴建物跡	遺物出	PL50	SI 13-3・4・5・6
	HT70-14~22, SK175-炭化米	PL42	第4号竪穴建物跡	遺物出	PL50	第2・4-13号竪穴建物跡、第5-10号方形竪穴遺構、第3号溝跡、第42号土坑、遺構外出土遺物
PL37	遺跡遠景(北から)	PL42	第4号竪穴建物跡	遺物出	PL50	SI 2-15-16
PL37	遺跡全景(館直から)	PL42	第4号竪穴建物跡	遺物出	PL50	SI 4-21-22-28-29-30-31
PL38	旧石器時代遺物出土状況	PL42	第4号竪穴建物跡	遺物出	PL50	SI 13-8
PL38	第1号竪穴建物跡 貯蔵穴遺物出土状況	PL42	第4号竪穴建物跡	2 区遺物出土状況(1)	PL50	HT 5-1
PL38	第1号竪穴建物跡 竈	PL42	第4号竪穴建物跡	2 区遺物出土状況(2)	PL50	HT 10-1
PL38	第1号竪穴建物跡	PL42	第4号竪穴建物跡	2 区遺物出土状況(3)	PL50	SD 3-1
PL38	第2号竪穴建物跡 遺物出土状況(1)	PL42	第4号竪穴建物跡	2 区遺物出土状況(4)	PL50	SK42-1
PL38	第2号竪穴建物跡 遺物出土状況(2)	PL43	第4号竪穴建物跡	4 区遺物出土状況(1)	PL50	HD-4・5・6・7
PL38	第2号竪穴建物跡 遺物出土状況(3)	PL43	第4号竪穴建物跡	4 区遺物出土状況(2)	PL50	
PL38	第2号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL43	第4号竪穴建物跡	4 区遺物出土状況(3)	PL50	
PL39	第2号竪穴建物跡 竈	PL43	第4号竪穴建物跡	4 区遺物出土状況(4)	PL50	
PL39	第2号竪穴建物跡	PL43	第4号竪穴建物跡	竈掘方	PL50	
PL39	第5号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL43	第4号竪穴建物跡	掘方	PL50	
PL39	第5号竪穴建物跡	PL44	第1号方形竪穴遺構		PL50	
PL39	第5号竪穴建物跡	PL44	第1・5・9号方形竪穴遺構		PL50	
PL39	第6号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL44	第2号方形竪穴遺構		PL50	
PL39	第6号竪穴建物跡	PL44	第3号方形竪穴遺構		PL50	
PL39	第6号竪穴建物跡	PL44	第4号方形竪穴遺構		PL50	
PL39	第6号竪穴建物跡	PL44	第5号方形竪穴遺構		PL50	
PL39	第6号竪穴建物跡	PL44	第6・7号方形竪穴遺構		PL50	
PL39	第6号竪穴建物跡	PL44	第8号方形竪穴遺構		PL50	
PL39	第6号竪穴建物跡	PL45	第10号方形竪穴遺構		PL50	
PL39	第6号竪穴建物跡	PL45	第11号方形竪穴遺構		PL50	
PL39	第6号竪穴建物跡	PL45	第2号溝跡		PL50	
PL39	第6号竪穴建物跡	PL45	第3号溝跡	遺物出土状況	PL50	

遺構調査年次

平成 30 (2018) 年度調査

北久保 B 遺跡

大高台遺跡 調査 1 区 (SK 1 ~ 10, HG 1),

調査 2 区 (SK11 ~ 48, SF 1)

平成 31・令和元 (2019) 年度調査

大高台遺跡 調査 2 区 (SI 1 ~ 43, SB 1 ~ 40, HT 1 ~ 82,

第 1 号地下式坑, 第 1 号火葬施設, SD 1 ~ 9,

SK49 ~ 470, SY 1, PG 1 ~ 6)

大高台遺跡遺構名変更表

旧名称	新規名称	旧名称	新規名称	旧名称	新規名称	旧名称	新規名称	旧名称	新規名称
SI 25	SK149	18-P 3	PG 3-F301	24-P 5	PG 3-F372	P10	SB 2-P 7	P385	SB14-P 4
SB 8-P12	PG 3-P142	18-P 4	PG 3-F304	24-P 6	SB31-P 9	P12	SB 4-P10	P400	SB14-P 5
8-P14	PG 3-P143	18-P 5	PG 3-F305	24-P 7	SB31-P15	P21	SB 4-P 8	P401	SB23-P16
SB 15-P 1	PG 3-P144	18-P 6	PG 3-F309	24-P 8	SB31-P16	P35	SB 4-P 6	P416	SB39-P 4
15-P 2	PG 3-P173	18-P 7	SB23-P34	24-P 9	SB31-P17	P36	SB 5-P 9	P417	SB40-P 2
15-P 3	SB23-P 7	18-P 8	PG 3-F631	24-P10	PG 3-F373	P37	SB 4-P 5	P442	SB23-P18
15-P 4	PG 3-P176	18-P 9	SB23-P12	24-P11	PG 3-F380	P50	SB 6-P 3	P458	SB 6-P 4
15-P 5	PG 3-P189	18-P10	SB23-P38	24-P12	PG 3-F382	P51	SB 6-P 1	P462	SB20-P 4
15-P 7	SB26-P 8	18-P11	PG 3-F248	41-P 1	SB23-P26	P53	SB40-P20	P500	SB39-P 3
15-P 8	PG 3-P192	SB 21-P 2	SB31-P12	SA 1	SD 2-SA 1	P73	SB10-P 2	P543	SB23-P 9
SB 16-P 1	PG 3-P193	21-P 3	SB31-P 9		2 SD 2-SA 2	P74	SB40-P17	P553	SB31-P11
16-P 2	PG3-P194	21-P 4	SB31-P 8		3 SD 2-SA 3	P78	SB39-P 2	P590	SB23-P 6
16-P 3	PG 3-F201	21-P 5	SB31-P 7	HT	18/SK63	P86	SB40-P 5	P593	SB23-P37
16-P 4	PG 3-F260	21-P 6	SB31-P13	SK	87 第 1 号地下式坑	P151	SB39-P 1	P597	SB38-P 1
16-P 5	PG 3-F261	21-P 7	SB31-P14		92 SB 1-P 4	P214	SB40-P15	P613	SB40-P11
16-P 6	PG 3-F243	21-P 8	SB31-P15		99 SB 1-P 9	P235	SB14-P11	P646	SB26-P10
16-P 7	PG 3-F270	21-P 9	SB31-P17		101 SB20 貯蔵穴	P237	SB10-P 7	P654	SB23-P36
16-P 8	PG 3-F279	SB 22-P 1	PG 3-F327		103 SB 1-P 1	P242	SB10-P 1	P678	SB23-P 1
SB 17-P 1	SB23-P19	22-P 2	PG 3-F201		105 SB 1-P 2	P247	SB 8-P 4	P748	SB11-P 2
17-P 2	SB23-P20	22-P 3	PG 3-F328		106 SB 7-P 4	P253	SB23-P58	P781	SB 8-P12
17-P 3	SB23-P21	22-P 4	PG 3-F329		116 SB 1-P 5	P263	SB23-P19	P862	SB27-P10
17-P 4	SB23-P22	22-P 5	PG 3-F336		182 SB 6-P 1	P333	SB26-P 2	PG 6-F53	HT50-P 1
17-P 5	SB23-P 2	22-P 6	PG 3-F573		192/HT35	P341	SB40-P19	P98	SB36-P 5
17-P 6	SB23-P36	22-P 7	PG 3-F338		330/SK342	P355	SB40-P 1	P129	SB 9-P10
17-P 7	SB23-P14	SB 24-P 1	PG 3-F339		424/SB39 貯蔵穴	P357	SB39-P 5	P136	SB33-P 9
17-P 8	SB23-P13	24-P 2	PG 3-F340		462/HT82	P360	SB39-P 6	P385	SB14-P 4
SB18-P 1	PG 3-F285	24-P 3	SB25-P 3		PG 3-P 4	P378	SB14-P 8	SX	1 第 1 号火葬施設
18-P 2	PG 3-F287	24-P 4	PG 3-F371		P 9	P379	SB14-P 7	3	SK136

大高台遺跡欠番遺構

SB13 , HT 5・6・10・59・75

SK64・127・168・194・203・218・225・264・298・304・305・323・338・419・423・432・454・463

SD 3 , SX 2

PG 3 - P386・404・405・408・413 ~ 415・423・424・451 ~ 453・502・523・524・526・535・549・575・595・596・602 ~ 605・621・630・633・675・695・709・713 ~ 718・722・726・727・729・740・741・747・768・798・802・805 ~ 807・817 ~ 819・821・826・830 ~ 833・836 ~ 840・842・845・850・851・856 ~ 858・868 ~ 871

PG 6 - P15・22・40 ~ 42・44・45・48・53・98・101・102・129・136・180・181・195・198・218・230・233 ~ 235・254・260・262 ~ 265・267 ~ 270・281・282・296・301・302・314・317・321・323・327 ~ 329・331 ~ 334・336・337・344・349 ~ 356・370・372・380・385・388 ~ 391・394 ~ 396・400・402・405 ~ 408・410 ~ 414

北久保 B 遺跡

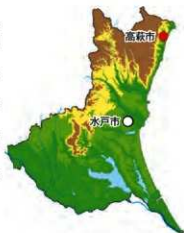
遺構名変更 旧名称 SK46 → 新規名称 SI13 - P 3

欠番遺構 SK32・46・60

おおかだい きたくほびー
大高台遺跡・北久保B遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

大高台遺跡・北久保B遺跡は高萩市の北部、関根川^{せきねがわ}左岸の標高約21～45mの台地上に位置しています。県道高萩塙線バイパス建設に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成30・31年度・令和元年度に大高台遺跡の8,640㎡、北久保B遺跡の1,593㎡について発掘調査を行いました。



大高台遺跡の調査内容と成果

弥生時代の^{たてあなたてものあと}竪穴建物跡5棟、古墳時代の竪穴建物跡8棟、奈良・平安時代の^{ほったてばしらたてものあと}竪穴建物跡29棟、掘立柱建物跡6棟、中世から近世の掘立柱建物跡26棟等を確認しました。古墳時代前期の竪穴建物跡からは、^{はじき}土師器と共に弥生土器が出土していることから、弥生時代から古墳時代に移り変わる時期に営まれた集落



大高台遺跡・北久保B遺跡調査区遠景（南西方向から）

と考えられます。奈良・平安時代の集落からは、ようたいぐ てつせいぼうすいしや腰帯具や鉄製紡錘車が出土しており、多珂郡の郡衙に近い集落であった可能性があります。中世の当地域には、鎌倉時代末期に日蓮宗の僧日弁が開山した妙法寺が所在したと伝えられています。今回の調査で確認されたそばんいし礎板石を持つ大型の掘立柱建物跡や「日弁」と墨書された土器の存在から、これらの遺構が妙法寺に関連する施設であった可能性があります。また、当時貴重であった輸入陶磁器や茶道具等も出土しており、在地の有力者とのつながりが窺えます。



礎板が据えられた中世の掘立柱建物跡

北久保 B 遺跡の調査内容と成果

古墳時代の堅穴建物跡 11 棟、奈良時代の堅穴建物跡 2 棟、室町時代の方形ほうけい堅穴遺構 14 基、時期不明の溝跡 2 条、土坑 58 基を確認しました。

奈良時代の第 4 号堅穴建物跡の北壁際と南壁際の 2 か所からは、数多くの土器片がまとまって出土しました。これらは、建物が使用されなくなってから投棄されたものと考えられます。同時期の遺構は第 3 号堅穴建物跡 1 棟のみであることから、調査区の東側に集落が広がっていることが想定されます。

また、第 5 号方形堅穴遺構からは、中国の明代に鑄造されたこうぶつほう「洪武通寶」が出土しました。



まとまって出土した土器片



遺構の床面近くから出土した「洪武通寶」

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成23年6月20日、茨城県高萩工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに一般県道高萩境線バイパス整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成23年9月28日及び平成26年6月25日に現地踏査を行い、平成28年12月13日、平成29年2月21日、9月27日及び10月31日に大高台遺跡、平成30年8月28日及び8月29日に北久保B遺跡の試掘調査を実施した。茨城県教育委員会教育長は平成29年11月10日に大高台遺跡、平成30年9月3日に北久保B遺跡が事業地内に所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを、茨城県高萩工事事務所長あてに回答した。

茨城県高萩工事事務所長は、平成30年2月5日に大高台遺跡、11月12日に北久保B遺跡について、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を茨城県教育委員会教育長に提出した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成30年2月14日に大高台遺跡、11月16日に北久保B遺跡について工事着手前に発掘調査を実施するよう茨城県高萩工事事務所長あてに通知した。

茨城県高萩工事事務所長は、平成30年3月1日及び平成31年2月19日に大高台遺跡、平成30年11月19日に北久保B遺跡について、一般県道高萩境線バイパス整備に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を、茨城県教育委員会教育長に提出した。茨城県教育委員会教育長は、平成30年3月7日及び平成31年2月19日に大高台遺跡、平成30年11月19日に北久保B遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について茨城県高萩工事事務所長あてに回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県高萩工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け、平成31年1月4日から3月31日まで及び平成31年4月1日から令和元年8月31日まで大高台遺跡の、平成31年1月4日から3月31日まで北久保B遺跡の発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

大高台遺跡の調査は、平成31年1月4日から3月31日までの3か月間と平成31年4月1日から令和元年8月31日までの5か月間、北久保B遺跡の調査は平成31年1月4日から3月31日の3か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成30年度

工程		期間		1月	2月	3月
		調査	準備			
調査	表土	準備	確認	■		
				■		
遺構	調査				■	
					■	
遺物	写真	洗浄	整理	■		
				■		
補綴	調査				■	
					■	

■ 大高台遺跡

■ 北久保B遺跡

令和元年度

工程		期間		4月	5月	6月	7月	8月			
		調査	準備								
調査	表土	準備	確認	■							
				■							
遺構	調査	■									
		■									
遺物	写真	洗浄	整理	■							
				■							
補綴	調査								■		
									■		

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

大高台遺跡は、茨城県高萩市赤浜 1883 番地 4 ほか、北久保 B 遺跡は茨城県高萩市赤浜 1543 番地 3 ほか
に所在している。

遺跡の所在する高萩市は茨城県の北東部に位置し、東部は太平洋に面し、西部は福島県から連なる阿武隈山地の南端部である多賀山地にあたる。市域の大部分を山地が占め、東部の低地・台地はこれらの山地の東麓にひらけている。当該地域の地形は、山地・洪積台地・沖積低地に分けられ、山地は標高 300～400 m のなだらかな地形をなす。洪積台地は、標高 30～120 m で、台高萩、駒木原、和野、赤浜地域など多賀山地の東縁を東南東方向に走り、多賀山地に源を発する花貫川、大北川、関根川等の各水系により大きく浸食され、台地と沖積低地が入り組む複雑な様相を示している。海岸付近の低地部は、砂丘が形成され市街地となっている。

両遺跡は、高萩市の北東部の赤浜台地に位置し、大高台遺跡は標高約 45 m の台地上、北久保 B 遺跡は標高約 21 m の段丘中腹に位置している。台地南端部は、関根川の浸食により段丘状となって急激に落ち込んでおり、斜面には多くの湧水点が存在している。

第2節 歴史的環境

海と山に囲まれた当地は、生活・食環境に恵まれ、古くから人々の生活跡が残されている。その始まりは古く旧石器時代にまで遡り、丘陵部の上君田宿ノ上や宿、堅石で掘斧やナイフ形石器が採集されている。昭和 45 年には、工業団地造成に伴い赤浜遺跡（赤浜古墳群）(6) の調査が行われ、ナイフ形石器・掻器・削器・石刃・石核・剥片等が出土し、茨城県内における最初の旧石器時代の調査として知られている¹⁾。

縄文時代になると、花貫川や関根川にも海水が流入し、鳥名や上手綱付近まで内湾がひろがり、台地上や山麓部には多くの集落跡が確認されている。関根川上流左岸の台地上にある小場遺跡からは、後期・晩期の集落跡のほか、祭祀場跡とみられる配石遺構が多数確認されている。また、土偶・異形台付土器・手燗形土器・香炉形土器などの祭祀的遺物も多量に出土しており注目されている²⁾。

弥生時代中期後半には、北茨城市足洗遺跡出土土器を標識とする足洗式土器が、県北部を中心に分布している³⁾。後期には、日立市十王台遺跡群出土土器を標識とする十王台式土器が広がりを見せ、高萩市内では鳥居前遺跡 (19) から堅穴建物跡が 1 棟確認されている⁴⁾。

古墳時代の古墳及び集落は、台地上や海岸沿いの砂丘上に分布している。海岸部の赤浜台地上に位置する赤浜古墳群 (6) には、前方後円墳である 6 世紀中葉の琵琶墓古墳と、6 世紀末から 7 世紀初頭の赤浜 1 号墳を中心とする円墳 2 基が現存している。かつては台地上に多くの古墳が存在していたが、耕作による削平や、造成工事により消滅した。赤浜 2～4 号墳の発掘調査では、7 世紀の 4 号墳から金銅装大刀をはじめ耳環、刀子、鉄鏡、須恵器の横瓶などが出土している⁵⁾。また、海岸段丘上には多くの横穴墓が構築されている。赤浜台地の南崖面には大久保横穴群 (7) や高戸横穴 (8) が、国道 6 号線沿いの崖面には山王台横穴群 (15) や滝坂横穴 (16) が存在している⁶⁾。当該期の集落は台地の縁部部を中心に確認されており、鳥居前遺跡などが挙げ

られる。また、花貫川左岸の砂丘上に立地している浜野遺跡からは、坏・高坏・堅白・鉢・提瓶・柄杓等の土製模倣品が出土しており、後期の祭祀遺跡として知られている⁷⁾。

奈良・平安時代の当地は、常陸国多珂郡に当たり、陸奥国との国境に近い地域である。大高台遺跡(①)は多珂郡家の推定地として著名な遺跡で、古くから遺物が採集されている。また、当遺跡から南に約6kmの場所には、『常陸国風土記』に記された「藻嶋駅家」と推定される日立市長若山官衙遺跡があり、方形に廻る区画溝の内側から掘立柱建物跡や礎石建物跡が多数確認されている⁸⁾。その脇を南北に延びる道路跡は、古代の東海道常陸路であると考えられている。また『万葉集』には、「遠妻し 多珂にありせば 知らずとも 手綱の浜の尋ねて来なまし」と詠まれており、「手綱の浜」は現在の赤浜海岸と考えられている。西原遺跡(23)からは、9世紀代の瓦塔片をはじめ、「月丁」「月支」と刻書された須恵器の蓋が採集されている⁹⁾。

中世の当地は多珂郡に含まれており、平安時代末期から佐竹氏の所領であった。しかし、治承4(1180)年に挙兵した源頼朝によって没収され、御家人の宇佐美祐茂が地頭となり、安良川城(17)を拠点として統治していた。15世紀になると、多珂郡大塚郷の菅原城から下手綱龍子山に居を移した大塚氏が当地を治め、龍子山城(28)を整備した。当地域には、ほかにも館の功古館跡(11)、権現山館跡(39)、西館屋敷跡など中世館が点在しているが、縄張りや館主については不明な点が多い¹⁰⁾。また、嘉元元(1303)年、日蓮宗開祖日蓮の高弟の一人で、越後阿蘭梨といわれた日弁は、赤浜の地に願成寺と妙法寺を開いたとされる。願成寺は現在も赤浜の地に遺されているが、妙法寺は元禄年間の水戸藩2代藩主、徳川光圀による寺社改革に際して成沢村(現日立市西成沢町)に移された。日弁は布教の途中、陸奥国伊具郡(現宮城県角田市)で異教徒に殺害され、その遺骸は弟子たちによって運ばれ赤浜の妙法寺内に埋葬されたと伝えられている¹¹⁾。現在、妙法寺が存在したと伝えられる地域は「法華堂前」という字名と呼ばれ、かつて寺院が存在したことを今に伝えている。日弁の墓所のみが大高台遺跡の東側隣接地に現在でも残されており、今回の調査では、寺院に関係すると思われる遺構を確認した。

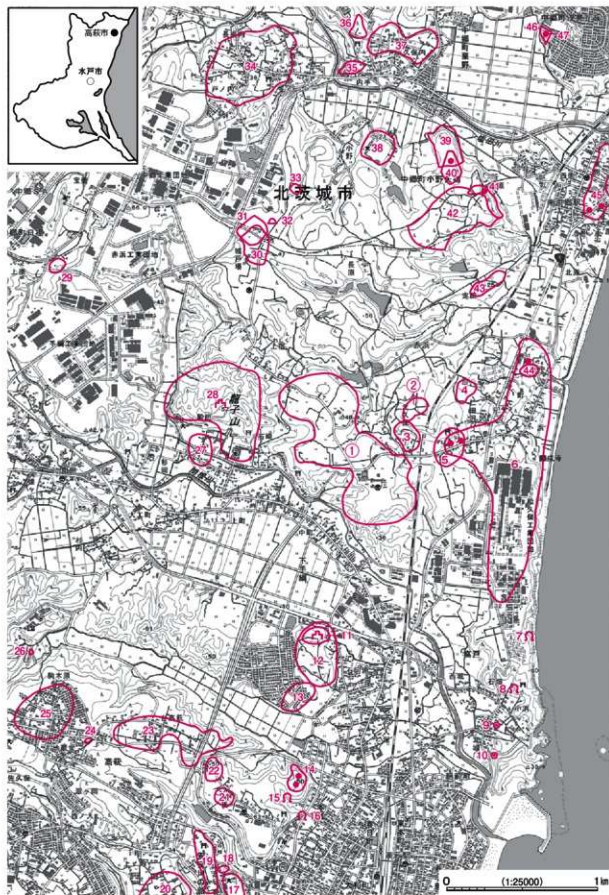
慶長元(1596)年、それまで当地域を支配していた大塚氏は陸奥国楢葉郡(福島県双葉郡広野町)の折木城に転封となり龍子山城を離れた。その後、慶長7(1602)年、佐竹氏が秋田へ転封となると、出羽国角館から戸沢政盛が4万石を領して小川城(現小美玉市)へ入った。慶長11(1606)年、龍子山城を改修して松岡城と改称し、小川城から松岡城へ居城を移し松岡藩となった。戸沢氏の支配した期間は約20年間と短期間ではあったが、大塚氏時代の中世的な山城から龍子山の麓を中心とした近世的な平城へと改修を行い、町割りを整備するなど、その後の松岡城の基礎となった。戸沢氏は、元和8(1622)年出羽国山形の最上氏改易により出羽国新庄へ転封となり、松岡藩は水戸藩領となる。その後、正保3(1646)年に水戸藩附家老中山信正の領地となった。以後、明治4(1871)年の廃藩置県に至るまで14代にわたり、中山家がこの地を治めた。明治元(1868)年、松岡領は水戸藩から独立して松岡藩となる。明治4年7月には廃藩置県により松岡県となったが、同年11月には茨城県に編入された¹²⁾。近世末から近代初頭にかけて、松岡領内には日棚窟、大塚窟、石岡窟、木皿窟の陶器窟が採集していたことが確認されている。いずれの窟も高萩市の北に隣接する北茨城市に所在し、これらの窟で生産された陶器は松岡焼と称されている。松岡焼は、松岡城や島名城、水戸城から出土しているほか、当時の記録には「御府内に多く積出す」と記されていることから、江戸市中にまで広く流通していたと考えられる¹³⁾。

註

- 1) 瓦吹堅 編「高萩市の文化財」高萩市教育委員会 2015年3月
- 2) 沼田文夫 「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書6 小場遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告第35集 1986年3月
- 3) 川崎純徳ほか「赤浜遺跡発掘調査報告書」高萩市教育委員会 1972年3月
- 4) 小川和博・大淵淳志ほか「鳥居前遺跡発掘調査報告書」高萩市教育委員会 2005年3月
- 5) 諸星政得ほか「赤浜古墳群（発掘調査の概要）」高萩市教育委員会 1972年3月
- 6) 瓦吹堅 「災害関連緊急傾斜面地崩壊対策工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 滝坂横穴群」茨城県教育財団文化財調査報告第181集 2001年3月
- 7) 瓦吹堅 「砂地の糞店 - 高萩市浜野遺跡出土の祭祀遺物 -」『日本基層文化論叢』2010年
- 8) 日立市教育委員会「東海道常陸路及び長者山官衙遺跡」『瀬崎駅家推定遺跡発掘調査成果報告書』日立市文化財調査報告第108集 2017年3月
- 9) 註1)と同じ
- 10) 註1)と同じ
- 11) 笹岡明「赤浜の「十羅節」地名」『高萩市民文化誌 ゆずりは第10号』高萩市文化協会 2004年3月
- 12) 宮田和男「松岡城跡D地点 - 高萩市立松岡小学校校舎改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -」高萩市教育委員会 2011年3月
- 13) 豊田智美・河野一也ほか「高名城跡 - 関東第五烽火台館建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -」高萩市教育委員会 2010年7月

参考文献

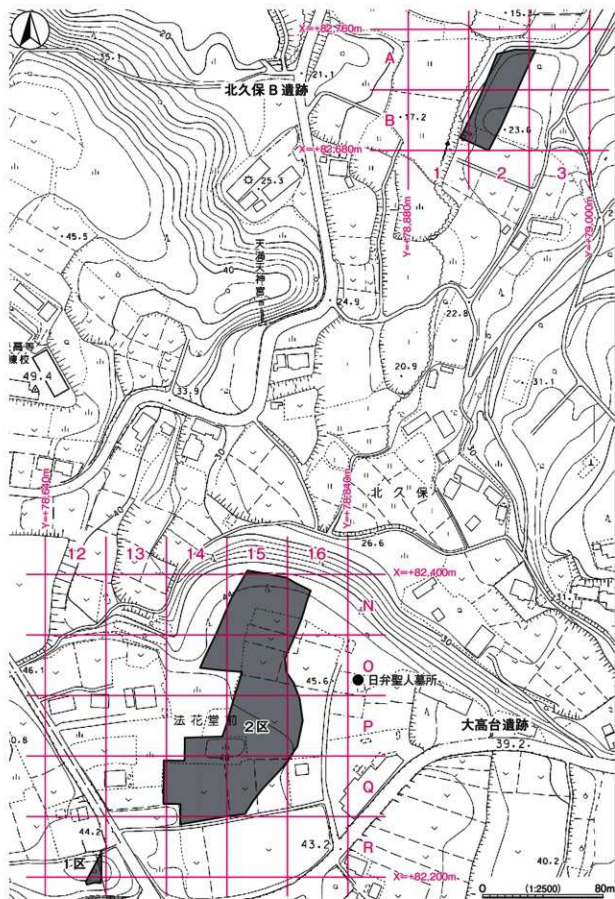
- 茨城県教育庁文化課「茨城県遺跡地図 地図編」茨城県教育委員会 2001年3月
茨城県教育庁文化課「茨城県遺跡地図 地名表編」茨城県教育委員会 2001年3月
茨城県史編集会「茨城県史料考古資料 先土器・縄文時代」茨城県 1979年3月
茨城県史編集会「茨城県史料考古資料編 弥生時代」茨城県 1991年3月
茨城県史編集会「茨城県史料考古資料編 古墳時代」茨城県 1974年2月
茨城キリスト教大学常陸国研究会「リュウガイ遺跡」高萩市教育委員会 1976年3月
北茨城市史編さん委員会「北茨城市史 上巻」北茨城市 1988年6月
北茨城市史編さん委員会「北茨城市史 下巻」北茨城市 1987年6月
櫻村宣行「松岡城A地点遺跡」松岡城A地点遺跡調査会 1982年8月
十王町史編さん調査会「十王町史 通史編」十王町 2011年3月
高萩市史編さん委員会「高萩市史上」高萩市 1969年11月
高萩市史編さん委員会「高萩市史下」高萩市 1969年11月
早川麗司「十王台遺跡群（十王台中遺跡・十文字遺跡・藤ヶ台遺跡・西上台遺跡）県営中山間地域総合整備事業十王地区・集道1号及び2号の整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」『日立市文化財調査報告 第102集』日立市教育委員会 2015年3月
早川麗司「東浦遺跡 市立関南小学校校舎改築工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『北茨城市文化財調査報告13』北茨城市教育委員会 2017年3月
日立市史編さん委員会「新修 日立市史 上巻」日立市 1994年9月



第1図 大高台遺跡・北久保B遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院25,000分の1「高萩」)

第1表 大高台遺跡・北久保B遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	大高台遺跡		○	○	○	○	○	○	25	胸木原遺跡		○					
②	北久保B遺跡				○	○	○		26	杉内遺跡						○	
3	北久保遺跡			○					27	雉子尾遺跡		○					
4	落ヶ沢遺跡			○					28	松岡城跡 (龍子山城跡)						○	○
5	堤遺跡		○	○					29	下上原遺跡		○	○				
6	赤浜古墳群	○		○	○				30	刈又作遺跡 (刈又坂遺跡)		○					
7	大久保横穴群				○				31	引地坂口遺跡		○					
8	高戸横穴				○				32	引地坂口塚群						○	
9	高戸磨崖仏	不明							33	小野B遺跡		○					
10	高戸岩陰遺跡			○	○	○			34	日棚遺跡				○	○		○
11	館の坊古館跡					○	○		35	若宮遺跡					○		○
12	館の坊遺跡		○	○					36	栗野静神社遺跡				○	○		○
13	前塚遺跡			○					37	栗野遺跡		○	○		○		○
14	山王台古墳群				○				38	小野遺跡		○		○	○		
15	山王台横穴群				○				39	権現山館跡						○	
16	滝坂横穴				○				40	権現山古墳群				○			
17	安良川城跡						○		41	輪台古墳群				○			
18	八幡台遺跡			○					42	輪台遺跡		○	○	○	○		
19	鳥居前遺跡			○	○	○	○		43	定田遺跡			○				
20	土器台遺跡		○	○					44	浜町遺跡			○	○			
21	宮後遺跡			○					45	矢指塚古墳群				○			
22	若狹前遺跡		○	○					46	糠塚遺跡		○	○				
23	西原遺跡				○	○			47	糠塚古墳群				○			
24	地藏堂遺跡		○	○													



第2図 大高台遺跡・北久保B遺跡調査区設定図(高萩市都市計画図2,500分の1)

第3章 大高台遺跡

第1節 調査の概要

大高台遺跡は、高萩市の北東部に位置し、関根川左岸の標高約45mの台地上に立地している。遺跡の地形は、多賀山地から尾根上に延びる赤浜台地の頂部に広がり、周辺は関根川の浸食により複雑に入り組み段丘となっている。調査面積は8,640㎡で、調査前の現況は畑地と山林である。

調査の結果、竪穴建物跡42棟（弥生時代5・古墳時代8・奈良・平安時代29）、掘立柱建物跡32棟（奈良・平安時代6・中世～近世26）、方形竪穴遺構76基（中世～近世）、地下式坑1基（中世）、土坑墓1基（中世）、道路跡1条（中世～近世）、土坑430基（奈良・平安時代2・中世～近世7・時期不明421）、粘土貼土坑19基（中世～近世）、溝跡8条（中世～近世2・時期不明6）、火葬施設1基（中世）、遺物包含層1か所（弥生時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に36箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、弥生土器（蓋・壺・甕）、土師器（坏・高台付坏・埴・器台・高坏・壺・甕・瓶・手捏土器）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・甕）、陶器（碗・壺・甕・仏飯器・花瓶）、磁器（碗、皿）、土製品（紡錘車・羽子）、石器・石製品（石核・剥片・石鏃・磨製石斧・石皿・磨石・敲石・砥石・紡錘車・腰帯具）、金属製品（刀子・鎌・紡錘車・釘・櫛）などである。

第2節 基本層序

調査区中央部の台地上の平坦面（P140区）にテストピット1、調査区北西部の斜面部（N152区）にテストピット2を設定した。

第1層は表土で、地表面から褐色のローム土が厚く堆積している。黒色土を除去した後盛られた客土で、炭化物を含み締まりは弱い。

第2層は、褐色を呈するソフトローム層。層厚10～17cmである。

第3層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層で、軽石粒子を少量含む。鹿沼軽石層との漸移層で層厚8～25cmである。

第4層は、浅黄色を呈する鹿沼軽石層で、層厚10～18cmである。

第5層は、黄褐色を呈するハードローム層である。砂粒子・小礫を微量含む、粘性は弱く締まりは強い。層厚は10～30cmである。

第6層は、黄褐色を呈するハードローム層である。砂粒子を中量、小礫を微量含む、締まりは強く粘性は第5層よりも弱い。層厚は8～20cmである。

第7層は、黄褐色を呈するハードローム層で、色調は第6層に比べてやや明るい。砂粒子を中量、小礫を微量含む、締まりは強い。層厚は12～35cmである。

第8層は、にぶい黄色を呈するハードローム層である。砂粒子を中量、小礫を微量含む。第7層に比べて砂粒子と小礫が多い。層厚は15～25cmである。

第9層は、明黄褐色を呈するシルト層である。砂粒子を中量、小礫を微量含む。層厚は13～22cmである。

第10層は、明黄褐色を呈するシルト層である。色調は第9層に比べて明るい。砂粒子を少量含みシルト質である。下層は未掘であるため、層厚は不明である。

第11層は、にぶい黄褐色を呈する砂層である。細砂主体の層で、粘性・締まりともに弱い。層厚は10～30cmである。

第12層は、にぶい黄褐色を呈する砂層である。粗砂を中量含み、粘性・締まりともに弱い。層厚は10cmである。

第13層は、にぶい黄褐色を呈する砂層で、色調は第12層に比してやや暗い。細砂主体の層で、粘性・締まりともに弱い。層厚は6～20cmである。

第14層は、灰黄褐色を呈する砂層である。粗砂を中量含み、粘性・締まりともに弱い。層厚は8cmである。

第15層は、灰黄褐色を呈する砂層である。細砂主体で、粘性・締まりともに弱い。層厚は10cmである。

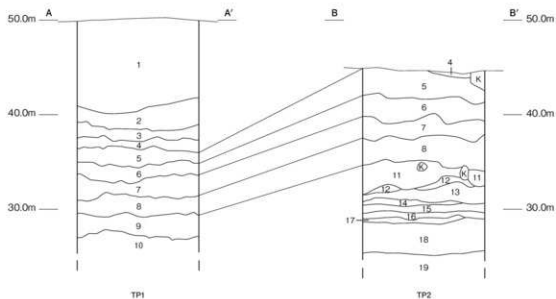
第16層は、灰黄褐色を呈する砂層である。粗砂を多量含み、粘性・締まりともに弱い。層厚は10cmである。

第17層は、灰黄褐色を呈する砂層である。粗砂を中量含み、粘性・締まりともに弱い。層厚は10cmである。

第18層は、灰黄褐色を呈する砂層である。粗砂主体で、粘性・締まりともに弱い。層厚は30～35cmである。

第19層は、黄褐色を呈する砂層である。細砂主体で、粘性・締まりともに弱い。下層は未掘であるため、層厚は不明である。

遺構は、第2層から第4層の上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 弥生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡5棟、遺物包含層1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第6号竪穴建物跡（第4・5図 PL.4）

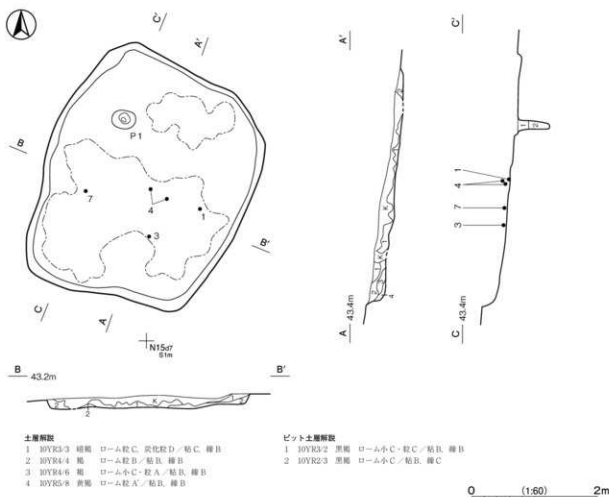
位置 調査2区北部のN15c6区、標高43mほどの台地傾斜部に位置している。

規模と形状 長軸4.03m、短軸3.08mの不整長方形で、主軸方向はN-23°-Eである。壁高は9~25cmで、外傾して立ち上がっている。

ピット 深さ52cmで、性格は不明である。

床 北の谷に向かって緩やかに傾斜している。全体的に締まりが弱く、明確な硬化面は確認できなかったが、南側半分と北側の一部が比較的締まっている。

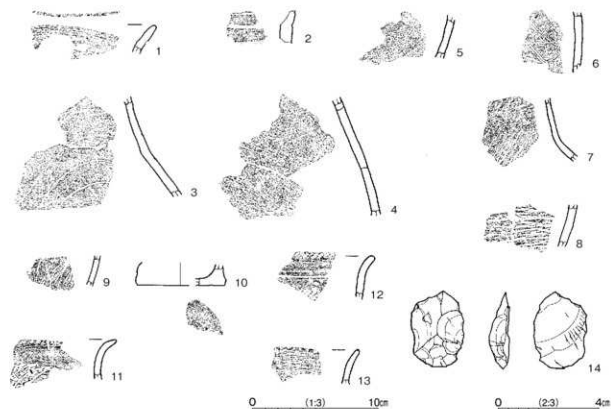
覆土 4層に分層できる。覆土が攪乱され、本跡の埋没過程を判断することができなかった。



第4図 第6号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 弥生土器片 100点 (壺97, 甕3), 石器2点 (剃片) が出土している。いずれも細片であるが、1・3・4・7は比較的大型の破片で、床面と覆土下層から出土している。その他、2・5・6・8～14は覆土中から散在して出土している。

所見 時期は、出土土器から弥生時代中期後葉に比定できる。



第5図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2表 第6号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考		
1	弥生土器	壺	長石・雲母・針状鉱物・チャート	にぶい橙	口唇部へう状工具による刻み目 口縁部轡歯状工具(3本)による格子文	床面	PL18		
2	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・針状鉱物・チャート	にぶい黄橙	胴部横走沈線文	覆土中	PL18		
3	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	胴部渦巻沈線文	床面	PL18		
4	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	胴部轡歯状工具(3本)による連弧文 外面保付着	覆土下層	PL18		
5	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	胴部轡歯状工具(3本)による連弧文 外面保付着	覆土中	PL18		
6	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	胴部轡歯状工具(3本)による沈線文	覆土中	PL18		
7	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	胴部から胴部縦方向の熱赤文L	床面	PL18		
8	弥生土器	壺	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄橙	胴部縦方向の熱赤文L	覆土中	PL18		
9	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	胴部縦方向の熱赤文L	覆土中	PL18		
10	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	胴部内外面横位のナデ	覆土中			
11	弥生土器	甕	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	口唇部へう状工具による刻み目 胴部横位の単筋縄文L	覆土中	PL18		
12	弥生土器	甕	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	口唇部単筋縄文L	覆土中	PL18		
13	弥生土器	甕	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	口唇部へう状工具による刻み目 口縁部横ナデ 胴部横位の単筋縄文L	覆土中			
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
14	剃片	3.1	2.1	0.8	4.05	テサイト	背面多方向の割離痕	覆土中	

第11号竪穴建物跡 (第6図 PL4)

位置 調査2区北部のN16d4区、標高41mほどの傾斜地に位置している。

重複関係 第1号火葬施設に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区外に延び、また北部が削平されているため、長軸3.50m、短軸3.37mしか確認できなかった。平面形は、確認できた壁の状況から、隅丸方形もしくは隅丸長方形と推測され、主軸方向はN-25°-Wと推定できる。壁高は最大16cmで、外傾して立ち上がっている。

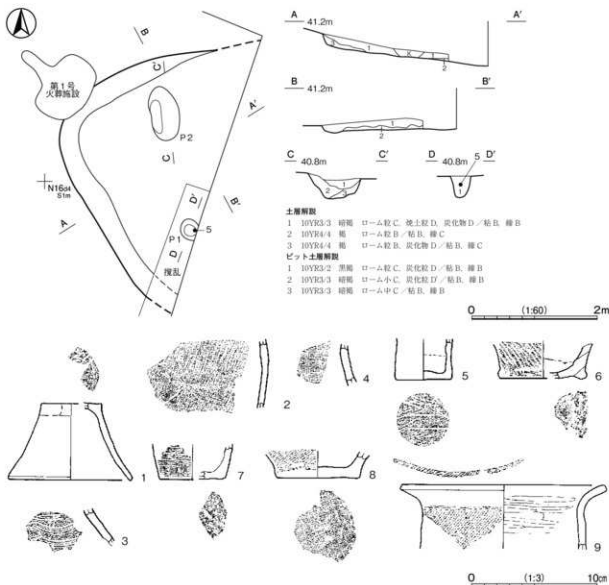
ピット 2か所。P1・P2は深さ32cm・38cmで、配置から主柱穴と考えられる。

床 北東の谷に向かって緩やかに傾斜しており、全体的に締まりが弱い。

覆土 3層に分層できる。覆土の粒子が均一で、規則的な堆積状況を呈することから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 弥生土器片128点(蓋1, 壺126, 甕1)が出土している。P1の覆土中層から5が出土している。1~4・6~9はいずれも小片で、建物跡の覆土中から散在して出土しており、1・9は接合が可能であったことから、埋没過程で投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期前葉に比定できる。



第6図 第11号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第3表 第11号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	天井径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	蓋	[46]	6.1	[96]	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	天井部木垂痕 上端部横位の指ナデ	覆土中	30% PL18
番号	種別	器種	胎土			色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考
2	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物			橙	胴部附加条一種 外面彫付帯			覆土中	PL18
3	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物			にぶい橙	胴部磨面状工具(4本)による連弧文			覆土中	PL18
4	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物			にぶい橙	胴部磨面状工具(2本)による横線文後縦線文			覆土中	PL18
5	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物			にぶい赤褐	内外面横位のナデ 内面輪積み痕			P1 覆土中層	PL18
6	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物			にぶい黄橙	胴部下端輪縁不明の附加縄文			覆土中	
7	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物			にぶい黄橙	胴部下段横位の平行波線文 底部外面春日庄痕			覆土中	
8	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物			にぶい褐	胴部下段赤縄文し 底部外面春日庄痕			覆土中	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	弥生土器	釜	16.2	(5.2)	—	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	良好	口唇部横方向の束筋縄文し段へず巻き 外面横方向のし	覆土中	30% PL18

第17号竪穴建物跡(第7図 PL4)

位置 調査2区北部のN156区、標高44mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第85号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が耕作などにより削平され、床面が露出した状態で確認した。長軸は5.29m、短軸は4.48mと推定できる。平面形は、方形もしくは長方形と推測され、主軸方向はN-25°-Eと推測できる。壁高は最大12cmで、直立している。

床 平坦で、中央部から南壁際にかけて踏み固められている。被熱により南部が部分的に赤変している。

炉 ほぼ中央部に付設されている。規模は長軸70cm、短軸43cmで、床面を3cm程掘りくぼめて使用している。炉床面は被熱し、赤変硬化している。

ピット 2か所。P1・P2は、深さ18cm・36cmで、配置から主柱穴と考えられる。

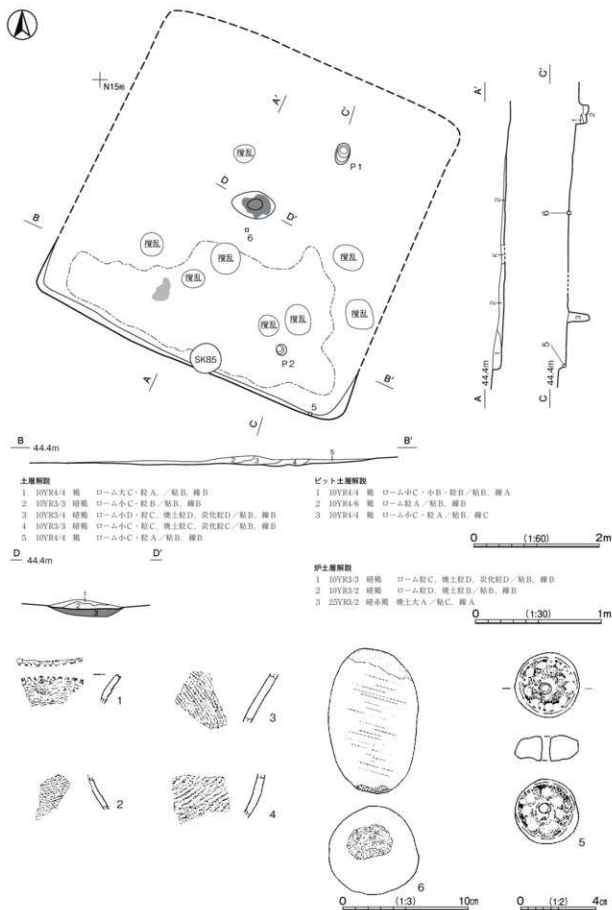
覆土 5層に分層できる。覆土の大半が削平されており、埋没過程を判断することができなかった。

遺物出土状況 弥生土器片32点(壺)、土製品1点(紡錘車)、石器1点(磨石)が出土している。5は南東隅の床面上から出土しており、遺棄された可能性がある。1~4は覆土中から散在して出土している。

所見 時期は、出土土器と遺構の形状から、弥生時代後期後葉に比定できる。覆土下層に焼土と炭化物を含んでいることと、床面が被熱している状況から焼失建物と考えられる。

第4表 第17号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	胎土			色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考
1	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物			黒褐	口唇部横位の波線後外面へず状工具による刺突文 磨面状工具(2本)による横位の波状文			覆土中	PL18
2	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物			橙	胴部赤縄文L(横)			覆土中	PL18
3	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物			にぶい黄橙	胴部単筋縄文RL(横)			覆土中	PL18
4	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物			にぶい黄橙	胴部単筋縄文LR(横)			覆土中	PL18
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
5	紡錘車	3.4	1.3	0.5	15.73	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	両面竹管刺突文		床面	PL31
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
6	磨石	10.5	7.2	7.1	821.09	花崗岩	側面全面磨痕 先端部敲打痕			床面	

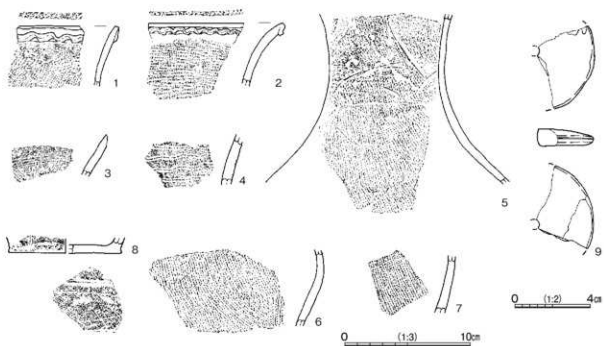
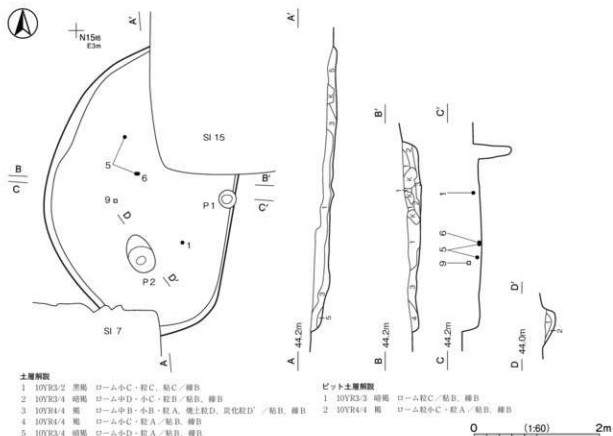


第7図 第17号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第24号竖穴建物跡 (第8図 PL 4)

位置 調査2区北部のN158区、標高44mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第7・15号竖穴建物に掘り込まれている。



第8図 第24号竖穴建物跡・出土遺物実測図

規模と形状 第7・15号竪穴建物に掘り込まれているため、長軸は4.10 mしか確認できなかった。短軸は2.98 mである。平面形は不整楕円形で、主軸方向はN-12'-Eである。壁高は8~30cmで外傾して立ち上がっている。

床 平坦。全体的に締まりが弱く、明確な硬化面は確認できない。

ピット 2か所。P1・P2は深さ60cm・28cmで、性格は不明である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 弥生土器片91点(壺)、石器1点(紡錘車)が出土している。5・6は床面直上から、1は覆土下層から出土した。その他の遺物は小片で、覆土中から散在して出土していることから、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は出土土器から、弥生時代後期前葉に比定できる。

第5表 第24号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	壺	石英、長石・雲母・針状鉱物	にぶい赤褐色	口唇部半筋縄文LR(横) 口縁部複合口縁下縁に筋による連続押圧、頸部半筋縄文LR(斜)	覆土下層	PL18
2	弥生土器	壺	石英、長石・雲母	灰黄褐色	口唇部半筋縄文LR(斜) 口縁部複合口縁下縁に筋による連続押圧、頸部半筋縄文LR(斜)	覆土中	PL18
3	弥生土器	壺	石英、長石・雲母・針状鉱物	橙	頸部網目状工具(3本)による格子文	覆土中	PL18
4	弥生土器	壺	石英、長石・雲母・針状鉱物	にぶい黄褐色	頸部二重沈線による横走波状文	覆土中	PL18
5	弥生土器	壺	石英、長石・雲母・針状鉱物	橙	頸部附加条一種(附加2条)	床面	20% PL18
6	弥生土器	壺	石英、長石・雲母・針状鉱物	にぶい褐色	頸部附加条一種(附加2条)	床面	10% PL18
7	弥生土器	壺	石英、長石・雲母・針状鉱物	橙	頸部附加条一種(附加1条)	覆土中	PL18
8	弥生土器	壺	石英、長石・雲母・針状鉱物	にぶい褐色	頸部半筋縄文LR(斜) 底部木葉痕及び棒状の圧痕	覆土中	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	紡錘車	—	0.9	[0.6]	[9.34]	珪質泥岩	孔部片面穿孔、外縁部横走線痕	覆土中層	25% PL18

第40号竪穴建物跡(第9・10図 PL5)

位置 調査2区南部のQ15a2区、標高45 mほどの台地上に位置している。

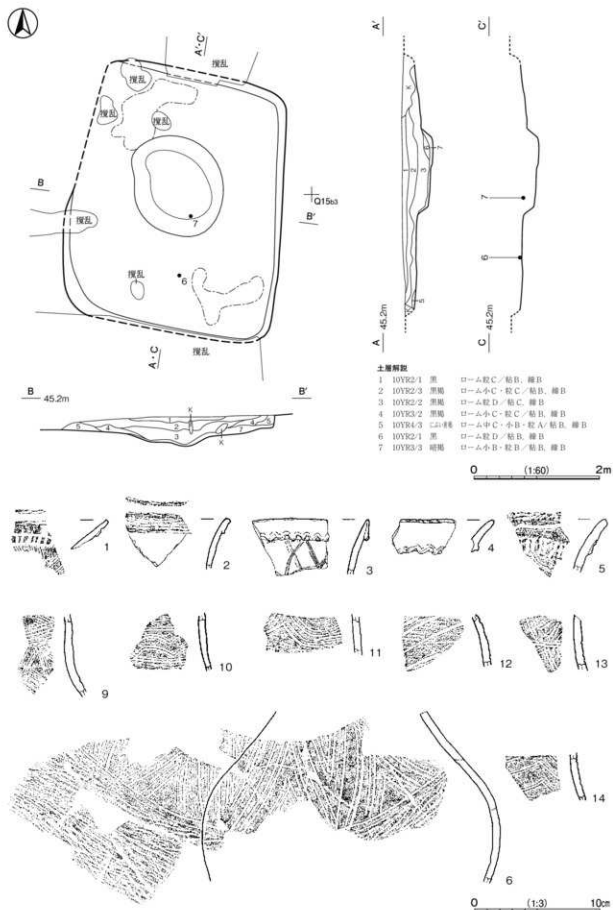
規模と形状 長軸4.12 m、短軸3.45 mの隅丸長方形で、主軸方向はN-8'-Eである。壁高は15~19cmで、垂直に立ち上がっている。

床 平坦で、中央部に長軸1.7 m、短軸1.44 m、深さ15cmの土坑状の掘り込みがある。全体的に締まりが弱く、明確な硬化面は確認できないが、北西部と南東部が比較的締まっている。

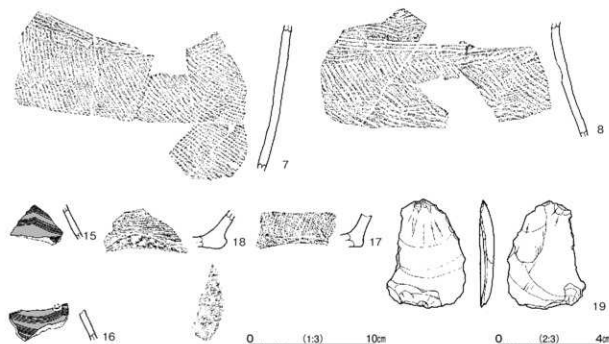
覆土 7層に分層できる。規則的な堆積で、覆土の粒子が均一であることから自然堆積と考えられる。同時期に埋没しており、中央部の掘り込みとの時期差は認められない。

遺物出土状況 弥生土器片252点(高坏1、壺251)、石器1点(剥片)が出土している。床面直上から6が、土坑状の掘り込みの上面からは7が大型破片で出土した。その他の遺物は覆土中から散在して出土したことから、建物の埋没過程での投棄、あるいは自然流入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から、弥生時代後期前葉に比定できる。



第9図 第40号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第10図 第40号堅穴建物跡出土遺物実測図

第6表 第40号堅穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	高坏	石英・長石・雲母・針状鉱物	にじい黄橙	口唇部縦縞不明の附加文・口縁部縦縞帯付け唇へラ状工具による刻み目 胴部垂袋状工具(3本)による格子文	覆土中	PL19
2	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にじい黄	口縁部複合口縁 横糸縞なし 外面塚付着	覆土中	PL19
3	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にじい黄橙	複合口縁下部附による連続押圧 胴部縦面状工具(3本)による格子文	覆土中	PL19
4	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	口唇部へラ状工具による刻み目 複合口縁下部附による連続押圧	覆土中	PL19
5	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	口唇部縦縞文上による押圧 口縁部半載竹管による重弧文 胴部上位隆帯付付け後連続交互刺突 胴部中位半載竹管による重弧文	覆土中	PL19
6	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にじい黄	胴部上位半載竹管による重山形文 下位輪縞不明の附加条縞文	床面	20% PL19
7	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にじい黄	胴部附加条一種(附加2条) 後体部上位縦面状工具による横位の沈線文	覆土下層	PL19
8	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	胴部附加条一種(附加2条) 後体部上位縦面状工具による横位の沈線文	覆土中	PL19
9	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	灰褐	胴部縦面状工具(3本)による格子文 胴部縦縞不明の附加条縞文	覆土中	PL19
10	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	灰褐	胴部半載竹管による横走文区画内に重連弧文 胴部輪縞不明の附加条縞文	覆土中	PL19
11	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	胴部沈縞による重連弧文 竹管による刺突文	覆土中	PL19
12	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にじい黄	胴部平行沈縞区画内に沈線文単軸縞文LR	覆土中	PL19
13	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	胴部半載竹管による重山形文	覆土中	PL19
14	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にじい黄	胴部半載竹管による重連弧文	覆土中	PL19
15	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にじい黄	胴部縦面状工具(3本)による重連弧文 赤彩	覆土中	PL19
16	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にじい黄	胴部縦面状工具(3本)による重連弧文 赤彩 焼成後の穿孔	覆土中	PL19
17	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	浅黄橙	胴部附加条一種(附加2条)	覆土中	
18	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にじい黄橙	胴部附加条一種(附加2条)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
19	測片	4.3	3.1	0.5	6.91	アイサイト	縦長測片 自然面打点	覆土中	

第7表 弥生時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長×幅(m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設				礎土	主な出土遺物	時期	備考	
								土柱穴	土入口	どっ	伊・電					石礎穴
6	N156	N-23°-E	不整形 長方形	4.03×3.08	9~25	傾斜	-	-	-	1	-	-	不明	弥生土器、銅片	弥生時代 中期後葉	
11	N1644	N-25°-W	「個人用形」 長方形	(3.50)×(3.37)	12~16	傾斜	-	2	-	-	-	-	自然	弥生土器	弥生時代 後期前葉	本跡→第1号穴 葬施設
17	N1569	N-25°-E	「方形」 長方形	5.29×[4.48]	12	平坦	-	2	-	-	伊1	-	不明	弥生土器、土製品、 石器	弥生時代 後期後葉	本跡→SK85 焼失建物
24	N1568	N-12°-E	不整形 長方形	(4.10)×2.98	8~30	平坦	-	-	-	2	-	-	人為	弥生土器、石器	弥生時代 後期前葉	本跡→S17・15
40	Q15a2	N-8°-E	「大」 長方形	4.12×3.45	15~19	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	弥生土器、銅片	弥生時代 後期前葉	

(2) 遺物包含層

第1号遺物包含層(第11・12図 PL 5)

位置 調査1区南東部のR128～S12b7区、標高41～44mほどの台地南側斜面に位置している。

確認状況 台地南側の斜面部に暗褐色土の広がりを確認し、調査区西壁と南壁で土層観察を行い遺物包含層の所在を確認するとともに、堆積状況の確認を行った。表土層下は6層に分層でき、第1・2層は暗褐色を基調とする無遺物層である。第3～5層にかけては黒色から黒褐色を基調とする遺物包含層である。第6層は黒色土とローム層の漸移層で無遺物層である。

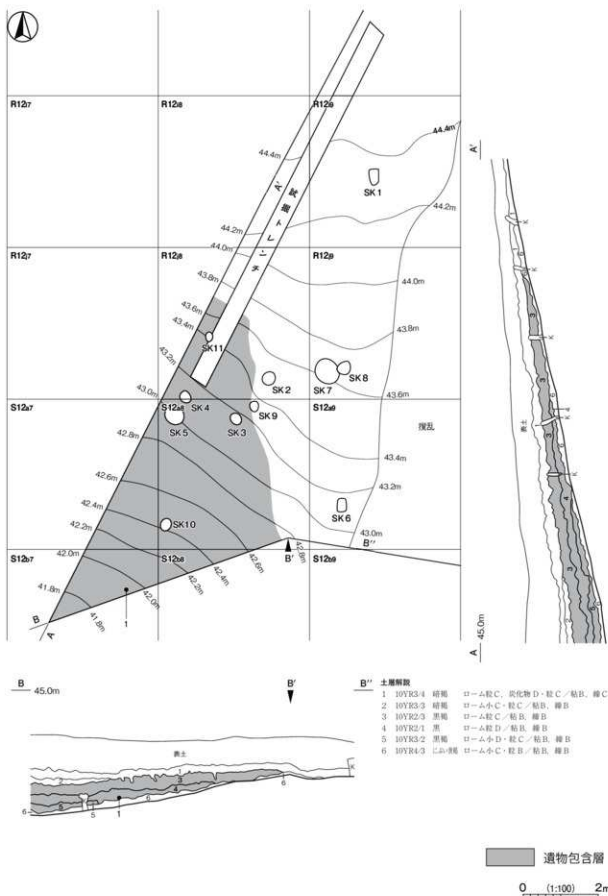
重複関係 第3～5・10・11号土坑に掘り込まれている。

調査の方法 調査は第3層上面から開始した。遺物包含層の確認範囲を4×4mグリッドを基本として覆い、グリッドごとに深さ15cmを1xとして2x、3x…と掘り下げ、無遺物層の第6層に達するまで掘り下げた。最深部は約90cmの深さであった。

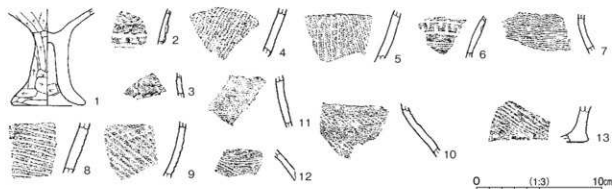
包含層の広がりと**堆積状況** 包含層が形成された位置は台地際の斜面部に当たり、台地の南側を東西に流れる関根川に向かって傾斜しており、その斜面地を南西方向に延びる浅い谷津に遺物包含層が形成されている。第14図で示した等高線は、遺物包含層掘削後に図示した旧地形を表している。堆積土の粒子は均一で、斜面の傾斜に沿って平行に自然堆積している。

遺物出土状況 出土した遺物は弥生時代中期後葉から後期後葉にかけてと、古墳時代後期のものであり、弥生土器片227点(総重量1437.9g)、土師器片36点(総重量265.0g)、石器2点(砥石1・剥片1)が出土している。1xから2xまでが第3層に相当し、土師器片36点(265.0g)、弥生土器片84点(493.2g)が、3xから4xまでが第4層に相当し、弥生土器片61点(482.9g)、5xから6xまでが第5層に相当し、弥生土器片82点(391.4g)が出土した。出土した遺物はいずれも細片で、また、器面が著しく磨滅しているものが多くみられることから、斜面部に堆積する黒色土層の形成の際に流入したものと考えられる。遺物の大半は残存状態が悪く、器種や施文を特定し得る遺物は極めて少ないが、第5層中の出土遺物は比較的大形の破片が多い。

所見 本遺物包含層は、出土した遺物の年代から、第3層が弥生時代後期後葉から古墳時代後期、第4層が弥生時代後期後半、第5層が弥生時代中期後半から後期前半にかけて形成されたものと考えられる。



第11図 第1号遺物包含層実測図



第12図 第1号遺物包含層出土遺物実測図

第8表 第1号遺物包含層出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	高坏	—	(7.7)	5.4	石英・長石・雲母・針状鉱物・赤色粒子・粗織	にぶい黄橙	普通	脚部外面へウ倒り痕ナデ	第4層中	50% PL19
2	弥生土器	広口壺				石英・長石・雲母	にぶい橙		脚部磨面状工具による波状文 隆帯貼り付け後指による連続押	2X	PL19
3	弥生土器	広口壺				石英・長石・雲母	にぶい黄橙		脚部磨面状工具（5本単位）による縦スリット区画後横位の波状文	3X	PL19
4	弥生土器	壺				石英・長石・雲母・針状鉱物・小礫	明赤褐		脚部単筋縄文LR（横）	1X	PL19
5	弥生土器	壺				石英・長石・雲母	灰黄褐		脚部附加条一種（附加1条）	2X	PL19
6	弥生土器	壺				石英・長石・雲母・粗織	灰黄褐		脚部横位の平行沈線内を連続交互斜交	5X	PL19
7	弥生土器	壺				石英・長石・雲母・針状鉱物・小礫	にぶい黄橙		脚部磨面状工具による波状文・横走文	4X	PL19
8	弥生土器	壺				石英・長石	にぶい橙		脚部軸縄不明の附加条縄文	5X	PL19
9	弥生土器	壺				石英・長石	にぶい黄橙		脚部軸縄不明の附加条縄文による沢状構成	5X	PL19
10	弥生土器	壺				石英・長石・雲母・赤色粒子・小礫	橙		脚部横位の平行沈線内に斜位の刷目目	5X	PL19
11	弥生土器	壺				石英・長石・雲母・針状鉱物・小礫	橙		脚部磨面状工具（3本単位）による横走文	5X	PL19
12	弥生土器	壺				石英・長石・雲母・針状鉱物	にぶい橙		脚部二重沈線文	5X	PL19
13	弥生土器	壺				石英・長石	にぶい橙		脚部軸縄不明の附加条縄文	5X	

第9表 第1号遺物包含層出土土器集計

		弥生土器											土師器	部位別総量				
		附加条縄文	無条文	単筋縄文	沈線文				磨面状工具	隆帯押し	無文	不明			ハケ目調整(台付書)	坏	壺	
					1条1単位	2条1単位	3条1単位	4条1単位										
第3層	1x	9 (73.3)		2 (28.5)			1 (5.5)	1 (5.5)	2 (7.2)				5 (28.0)	3 (15.9)	1 (6.0)	4 (20.5)	31 (238.5)	59 (438.9)
	2x	22 (134.0)				2 (6.5)	3 (11.6)	1 (2.8)	3 (10.4)	1 (3.4)	2 (9.5)	14 (44.8)	13 (90.3)					61 (319.3)
第4層	3x	12 (71.8)	4 (22.0)	4 (35.5)			1 (8.5)		2 (10.7)				2 (10.5)	2 (9.4)				37 (272.9)
	4x	7 (32.6)	1 (9.0)	1 (2.8)	3 (15.8)				1 (2.6)				2 (10.7)	9 (28.5)				24 (210.0)
第5層	5x	22 (17.3)	2 (11.5)	3 (14.1)	1 (5.3)	11 (36.2)	1 (15.1)			1 (6.8)			6 (23.0)	29 (96.1)				76 (285.4)
	6x	2 (27.0)	1 (23.1)										3 (26.3)					6 (76.4)
分類別総量		74 (316.0)	8 (75.6)	10 (80.9)	4 (21.1)	13 (42.7)	6 (40.7)	2 (8.3)	8 (16.9)	2 (10.2)	2 (9.5)	42 (345.8)	56 (202.2)	1 (6.0)	4 (20.5)	31 (238.5)	263 (1702.9)	

※ () 内は重量 単位 g

2 古墳時代の遺構と遺物

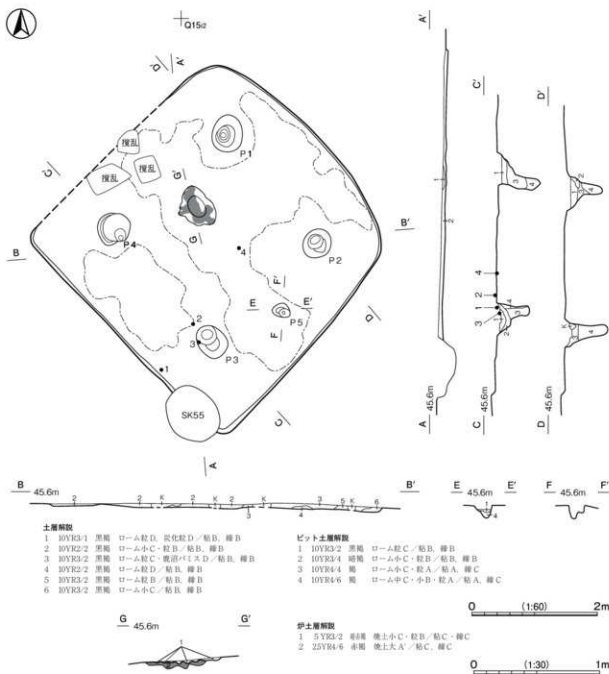
当時代の遺構は、竪穴建物跡8棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

第1号竪穴建物跡（第13・14図 PL 5）

位置 調査2区南部のQ15a2区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第55号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西壁は耕作により削平され、床面が露出した状態で確認した。規模は、長軸4.46m、短軸4.45mで、平面形は北・東コーナーが緩やかに彎曲した方形を呈する。主軸方向はN-41°-Wである。壁高は最大6cmである。



第13図 第1号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

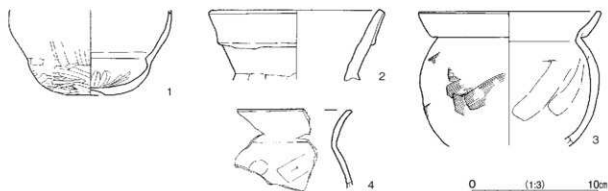
炉 中央からやや北西寄りに付設されている。規模は長軸0.70 m、短軸0.46 mの不整形円形で、床面を4 cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面は第2層上面で、火熱を受け赤変硬化している。

ピット 5か所。P1～P4は深さ50～68cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ20cmで、形状や配置から出入口施設に伴うものと考えられる。

覆土 6層に分層できる。覆土の大半が削平されており、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 弥生土器片31点(壺)、土師器片70点(埴1, 壺1, 小型甕1, 甕類67)が出土している。1・2・4は中央部から南部の床面直上から散在して出土している。3はP3覆土上層から出土している。これらは、本跡廃絶の際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期後葉に比定できる。



第14図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

第10表 第1号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	-	(6.8)	2.4	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	胴部外面ヘラナデ 体部外面多方向のヘラ磨き 内面放射状のヘラ磨き	床面	40% PL20
2	土師器	壺	[12.4]	(5.6)	-	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部粘土帶貼り付け 胴部縦位のヘラナデ	床面	10%
3	土師器	小型甕	[14.4]	(10.7)	-	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	不良	口縁部粘土帶貼り付け 体部外面多方向のヘラ 目調整 内面斜位のヘラナデ	P3 覆土上層	40% PL20
4	土師器	甕	-	(6.2)	-	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	不良	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	床面	10%

第16号竪穴建物跡 (第15・16図 PL 5)

位置 調査2区北西部のN15j1区、標高45 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第89号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部が削平されているため、南北軸は5.10 m、東西軸は5.04 mと推定できる。平面形は隅丸方形で、主軸方向はN-59°-Wと推定できる。壁高は最大40cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。中央部が火熱を受けて赤変している。

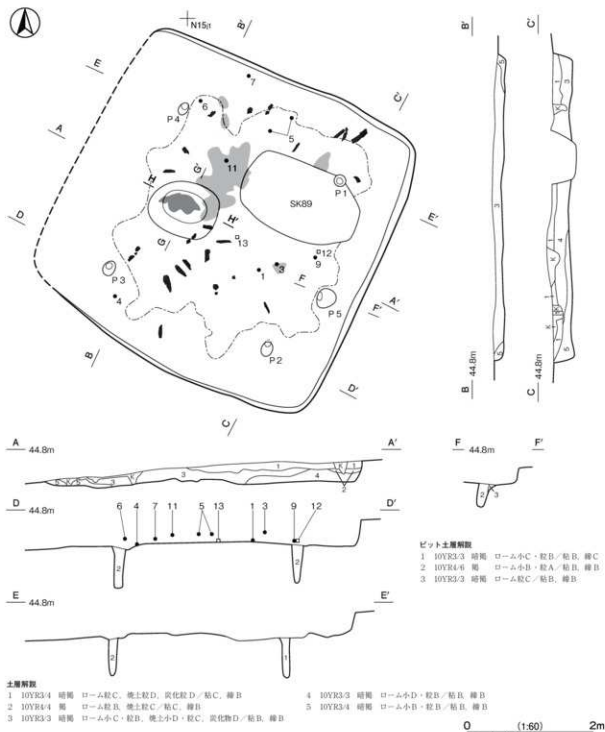
炉 中央からやや北西壁寄りに付設されている。規模は長軸1.14 m、短軸0.87 mの楕円形で、床面を7 cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面は第3層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 5か所。P1～P4は、深さ57～65cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ36cmで、形状や配置から出入口施設に伴うものと考えられる。

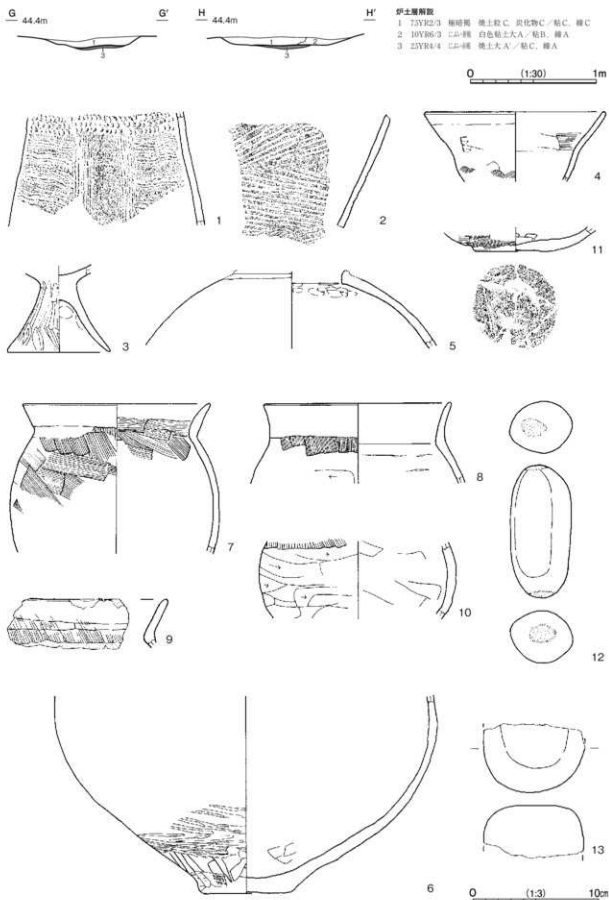
覆土 5層に分層できる。第3～5層にロームブロックを含むことや、不規則な堆積であることから埋め戻されている。

遺物出土状況 弥生土器片 159 点 (壺), 土師器片 752 点 (坏 1, 高坏 1, 鉢 1, 壺 3, 甕類 746), 石器 5 点 (剥片 3, 磨石 2) が出土している。1・4・13 が中央部から南部にかけての床面直上から出土し, 3・5~7・9・11・12 は覆土中層から下層にかけて散在して出土した。弥生土器の出土数は土師器に比べ客体的ではあるが, 両者が比較的大型破片で床面上から出土していることから本跡に伴うものと考えられる。床面直上と覆土下層からは磨石が出土しており, 土器と同様に埋め戻しの際に投棄されたものとみられる。床面直上からは炭化材が出土していることから焼失建物と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から古墳時代前期中葉に比定できる。



第 15 図 第 16 号堅穴建物跡実測図



第 16 图 第 16 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第11表 第16号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	弥生土器	広口甕	-	(9.0)	-	石英・長石・雲母	灰青	普通	肩部上段平軌背骨による帯状刺突・唇面土状土具(石を単位)による縦スリット区画後縁位の突起状土文	床面	10% PL.20
2	弥生土器	広口甕	-	(9.0)	-	石英・長石・雲母	浅黄橙	普通	胴部輪縄不明の附加条縄文による引状構成	覆土中	10%
3	土師器	高坏	-	(6.9)	(8.2)	石英・長石・雲母・針状鉱物	浅黄橙	普通	胴部外面縦位のヘラナデ指ナデに往するヘラナデ・内面指頭痕	覆土中層	20% PL.2)
4	土師器	鉢	[140]	(5.5)	-	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	普通	口縁部外・内面縦位の指ナデ 体部外面ハケ目調整	床面	10%
5	土師器	甕	-	(7.7)	-	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	不貞	体部外面ナデ 内面指頭痕	覆土中層	10%
6	土師器	甕	-	(15.8)	7.2	石英・長石・針状鉱物・小塵	橙	普通	体部外面下縁ヘラナデ 体部外面下縁位のヘラナデ後縁位のハケ目調整 内面縦位のヘラナデ	覆土下層	30%
7	土師器	甕	[149]	(11.9)	-	石英・長石・雲母・針状鉱物	灰青	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後縁位の指ナデ 胴部外・内面ハケ目調整 体部外面ハケ目調整	覆土下層	20% PL.20
8	土師器	甕	[150]	(6.3)	-	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	普通	胴部外面縦位のハケ目調整後縁位の指ナデ 体部外面ヘラナデ 内面指頭痕	覆土中	10%
9	土師器	甕	-	(3.9)	-	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部外面斜位のハケ目調整後縁位の指ナデ	覆土下層	10%
10	土師器	甕	-	(6.1)	-	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部外面縦位のハケ目調整 体部外面縦位のヘラナデ 内面斜位のヘラナデ	覆土中	10%
11	土師器	甕	-	(1.9)	6.7	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙・黒褐	普通	体部外面ハケ目調整 内面ヘラナデ 底部本葉部 破砕後の粗粒状あり	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	磨石・磨石	10.6	4.9	4.1	317.27	石英質安山岩	内縁の両端部に叩打痕 側面擦痕	覆土下層	
13	磨石	(5.5)	8.1	(4.1)	(251.00)	花崗岩	擦痕を伴う平坦面	床面	

第20号竪穴建物跡(第17・18図 PL.5・6)

位置 調査2区南部のN16h1区、標高44mほどの斜面部に位置している。

重複関係 第33号竪穴建物跡を掘り込み、第14号竪穴建物、第98・144号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部の大半が削平され、第14号竪穴建物に掘り込まれているため、長軸は6.41m、短軸は4.93mしか確認できなかった。平面形は、方形もしくは長方形で、主軸方向はN-25°-Eと推定される。壁高は最大32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた範囲は平坦で、南東部が踏み固められている。壁溝は南東壁と南西壁際に確認され、西コーナー部手前で途切れている。南西壁のやや西寄りの壁際から中央に向かって延びる間仕切溝1条を確認した。間仕切溝西側の床面が若干低くなっている。

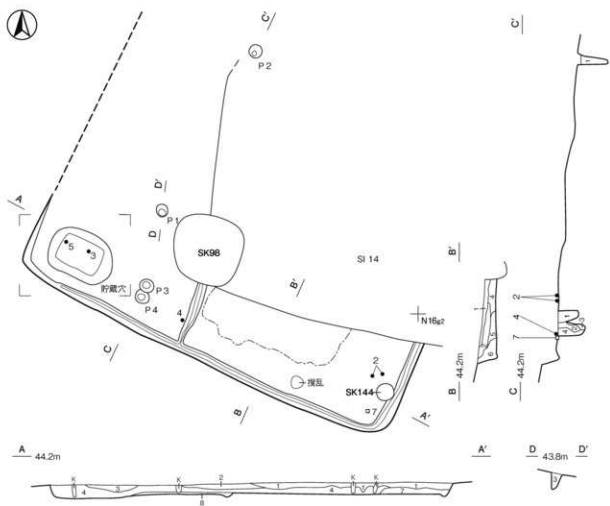
ピット 4か所。P1・P2は、深さ28cm・49cmで、配置から主柱穴と考えられる。P3・P4は、深さ32cm・42cmで、形状や配置から出入口施設に伴うものと考えられる。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長軸1.06m、短軸0.75mの隅丸長方形で、深さは32cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は単一層で、ロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含むことや、不規則な堆積をしていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 弥生土器片19点(壺)、土師器片82点(埴8、壺1、甕71、台付壺1、甌1)、石器2点(石皿、敲石)が出土している。2・7は南東コーナー付近、4は南壁中央付近の床面上から出土し、1・6は覆土中から散在して出土していることから、投棄されたものと考えられる。また、貯蔵穴の底面からは、3・5が完形に近い状態で出土しており、建物の廃絶時に遺棄されたと考えられる。覆土中からは石皿片が1点出土しており、当該期の他の竪穴建物跡の床面直上から磨石が出土していることから、この石皿も本跡の時期に伴う遺物と考えられる。3の壺内部に堆積した土壌の洗浄を行ったところ、炭化種子0.08gを検出した。自然科学分析を行った結果イネであることが判った。鑑定結果については178頁に掲載した。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期後葉に比定できる。



土層解説

- 1 10YR2-2 赤褐色 ローム粒D / 粘B, 雜B
- 2 10YR2-3 赤褐色 ローム小C・粒C / 粘B, 雜B
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム小C・粒B, 地土小C・粒B / 粘B, 雜C
- 4 10YR3-3 暗褐色 ローム粒B / 粘B, 雜B
- 5 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・小B・粒B / 粘B, 雜B
- 6 10YR3-2 赤褐色 ローム粒C・地土小D・粒C / 粘B, 雜B
- 7 10YR3-4 暗褐色 ローム粒B / 粘B, 雜C
- 8 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒B / 粘B, 雜B

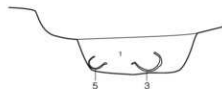
ビッド土層解説

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム小C・粒B / 粘B, 雜C
- 2 10YR3-4 暗褐色 ローム小B・粒B / 粘B, 雜C
- 3 10YR4-4 黒 ローム粒A / 粘B, 雜B
- 4 10YR4-3 黒・黒 羅ーム小B・粒A, 地土粒D / 粘B, 雜C

0 (1:60) 2m



E 44.0m

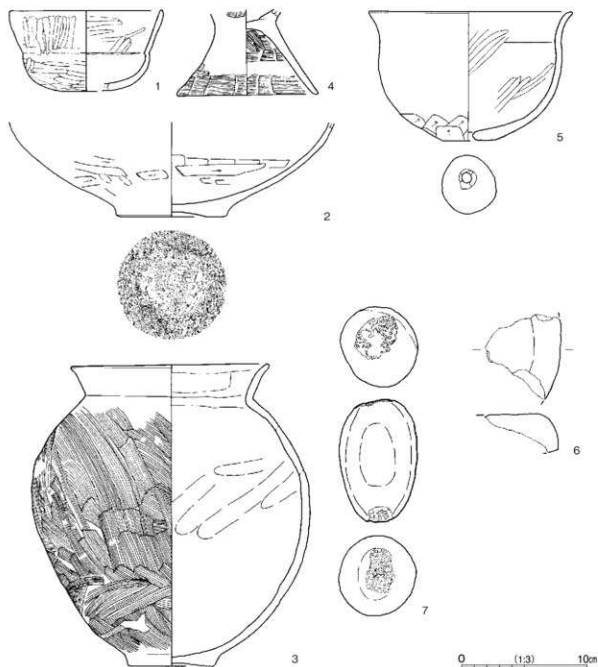


貯蔵穴土層解説

- 1 10YR4-4 黒 ローム小C, 炭化粒D / 粘B, 雜B

0 (1:30) 1m

第 17 図 第 20 号堅穴建物跡実測図



第18図 第20号堅穴建物跡出土遺物実測図

第12表 第20号堅穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	12.2	6.4	-	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部外面面欠、内面横位のヘラ磨き 体・底部外面横位のヘラ磨き	覆土中	40% PL.2)
2	土師器	壺	-	(7.5)	8.8	石英・長石・雲母・小礫	橙	普通	体部外・内面ヘラ磨り 底部本葉痕 底部中央ヘラ磨り	床面	30%
3	土師器	甕	15.6	24.0	6.7	石英・長石・雲母・針状鉱物・小礫	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ハケ目調整 内面ヘラナデ 底部外面ヘラ磨り	貯蔵穴底面	80% PL.2)
4	土師器	台付甕	-	(6.7)	[11.2]	石英・長石・雲母・針状鉱物・小礫	にぶい黄橙	普通	胴部外面ナデ後腹部ハケ目調整 内面ハケ目調整	床面	10% PL.2)
5	土師器	甕	16.1	10.3	4.1	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	普通	体部内面斜位のヘラ磨き 外面下部ヘラ磨り 底部焼成後両側からの穿孔	貯蔵穴底面	100% PL.2)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	石皿	(6.8)	(6.0)	(3.1)	(95.33)	石英片岩	一面に磨痕	覆土中	
7	基石・重石	9.8	6.8	6.4	308.55	花崗岩	円縁の両端に磨行痕 側面に擦痕	床面	

第21号竪穴建物跡 (第19・20図 PL 6)

位置 調査2区南部のO14c8区、標高44mほどの台地斜面部に位置している。

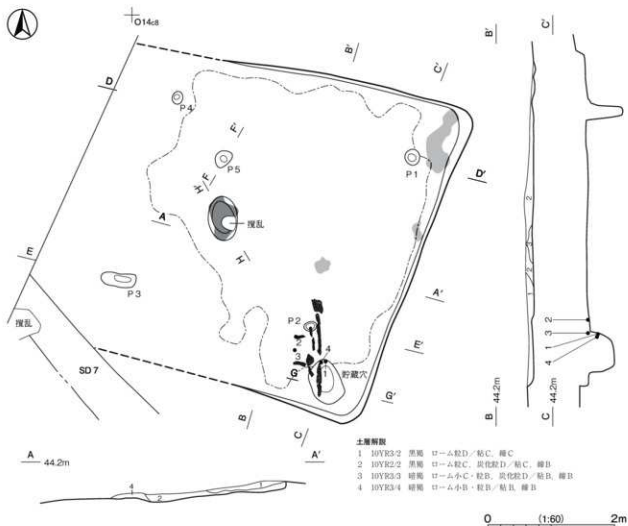
重複関係 第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が大きく削平されており、南北軸は5.25mで、東西軸は4.58mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測され、主軸方向はN-11°-Eと考えられる。壁高は最大30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた範囲は平坦で、南西部を除き踏み固められている。

炉 主柱穴の配置からみると、中央部からやや西寄りに付設されている。長軸0.69m、短軸0.45mの楕円形を呈し、床面を5cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面は火熱を受け、赤変硬化している。

ピット 5か所。P1～P4は深さ58～76cmで、配置から主柱穴と考えられる。P3は、形状が他の主柱穴



第19図 第21号竪穴建物跡実測図

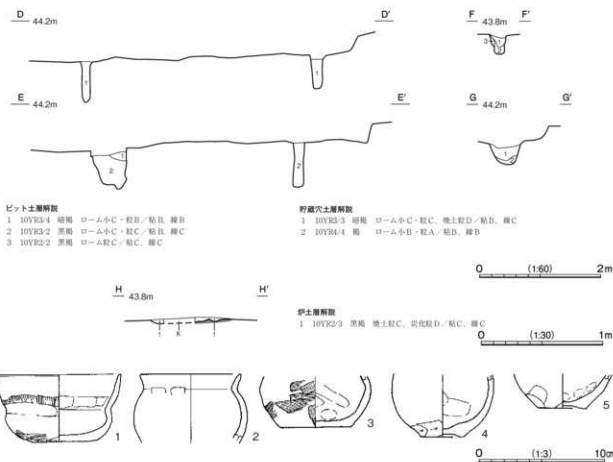
と異なり、平面形は長楕円形を呈する。P5は、深さ34cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長軸0.71m、短軸0.49mの楕円形で、深さ43cm、底面は碗状で、壁面は外傾して立ち上がる。覆土は2層に分層でき、ロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

遺物出土状況 弥生土器片24点(壺)、土師器片80点(埴19、甕類61)、ミニチュア土器4点(甕)が出土している。1・4は、貯蔵穴の覆土中層から出土しており、2・3は南東部の床面上から出土している。遺物の出土位置が、南東コーナー付近に集中していることから、埋め戻しの際にまとめて投棄されたと考えられる。床面上からは建物の構造物と考えられる炭化材と焼土が出土しており焼失建物と考えられる。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期後葉に比定できる。南東コーナー部付近からミニチュア土器の甕が集中的に投棄されており、建物廃絶に伴う祭祀行為が想定できる。



第20図 第21号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第13表 第21号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	埴	[98]	5.3	-	石灰・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	胴部外面縦位のハケ目調整長楕円の指ナデ 内面縦位のヘラナデ 胴部外面ハケ目調整	貯蔵穴 覆土中層	40% P1, 20
2	土師器	甕	[8, 2]	(5.5)	-	石灰・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ヘラナデ	床面	40%
3	ミニチュア土器	甕	-	(4.1)	[5.6]	石灰・長石・雲母・針状炭化物	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整 内面指ナデ	床面	40%
4	ミニチュア土器	甕	-	(5.0)	[3.4]	石灰・長石・雲母・針状炭化物	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ指ナデ 内面指ナデ 底部外面ヘラナデ	貯蔵穴 覆土中層	30%
5	ミニチュア土器	甕	-	(2.7)	3.9	石灰・長石・雲母・針状炭化物	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラ指ナデ 内面指調整	覆土中	10%

第30号竪穴建物跡（第21・22図 PL6）

位置 調査2区南部のN15g4区、標高44mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第13号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 東コーナー部が削平され、床面が露出した状態で確認した。規模は、長軸5.23m、短軸5.02mの隅丸方形で、主軸方向はN-24°-Eである。壁高は最大17cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。部分的に被熱による赤変が見られる。

炉 2か所。炉1は、中央からやや南西寄りに付設されている。規模は、長軸0.81m、短軸0.63mの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめて使用している。中央部が若干火熱を受けている。炉2は、東コーナー部に付設されている。規模は、長軸0.70m、短軸0.56mの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめて使用しており、底面全体が火熱を受けて赤変している。床面直上から炭化材が出土しており、建物焼失に伴う構造材と考えられる。

ピット 7か所。P1～P4は深さ44～72cmで、配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ21cmで、南壁際に位置することから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7はいずれも深さ30cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 北コーナー部に付設されており、規模は、長軸0.65m、短軸0.50mの楕円形で、深さは16cmである。焼土ブロックと炭化材が含まれることから埋め戻されている。

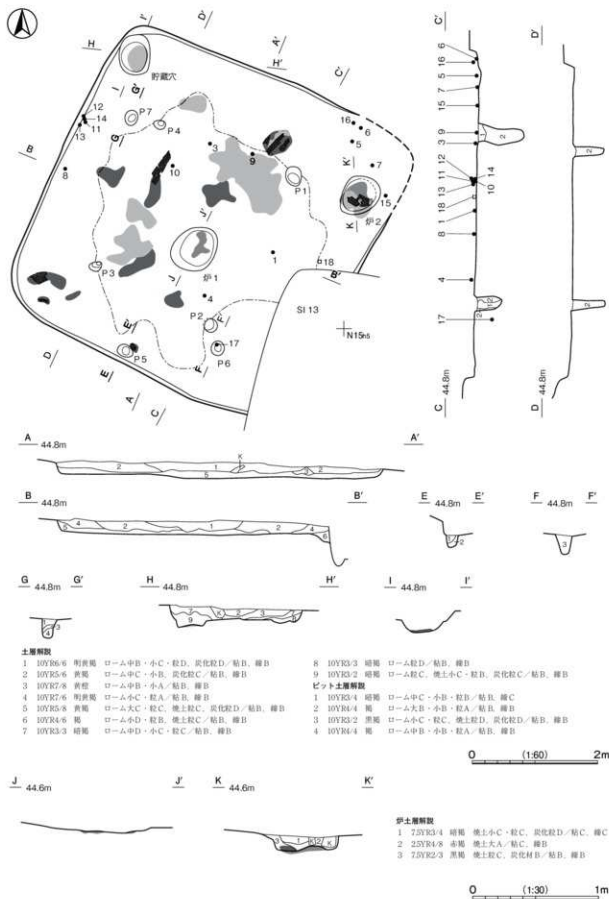
覆土 9層に分層できる。ロームブロックを多く含んでおり、不規則的な堆積状況をしていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 弥生土器片55点（壺）、土師器片133点（坏1・埴2、器台1、壺4、小型甕6、甕頸110、手捏土器9）、石製品1点（浮子カ）が出土している。遺物の多くは、床面上から出土しており、4・9は中央部から完形に近い状態、8は西部の壁際から押し潰された状態で出土したことから、建物廃絶時に遺棄されたと考えられる。また、手捏土器が9点出土しており、15は北東コーナー部付近の床面上から散在して出土し、17はP6底面から出土している。11～14は西壁際の覆土下層からまとめられた状態で出土していることから、埋め戻しの過程で意図的に遺棄されたと考えられる。その他、建物の構造材と考えられる炭化材や焼土が床面上から出土している。覆土中からは弥生土器や土師器の細片が出土しているが、器面の磨減が著しく、埋め戻しの埋土に混入したものと考えられる。

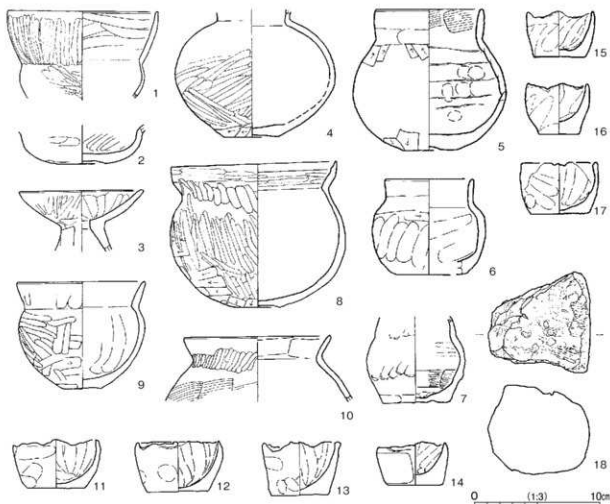
所見 時期は、出土土器から古墳時代前期後葉に比定できる。手捏土器の出土数が多く、また、故意にまとめられた状態で出土しており、建物の廃絶に伴う祭祀行為が想定できる。床面に被熱痕が認められることや、炭化材、焼土が多く確認できたことから、焼失建物と考えられる。

第14表 第30号竪穴建物跡出土遺物一覧（1）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	120	(69)	-	石英・長石・雲母・針状炭素物	にぶい	普通	口縁～前面外面縦位のヘラナデ 内面縦位のヘラナデ 体部外面縦位のヘラナデ	床面	40% PL20
2	土師器	埴	-	(31)	38	石英・長石・雲母・針状炭素物	にぶい	普通	体部外面縦位のヘラナデ 内面縦位のヘラナデ 底部ヘラナデ	覆土中	30%
3	土師器	器台	98	(48)	-	石英・長石	にぶい	普通	影文部外・内面縦位のヘラナデ 脚部外面縦位のヘラナデ	床面	30%
4	土師器	壺	-	(101)	44	石英・石英・雲母・針状炭素物	にぶい	黄橙	体部外面下半斜位のヘラナデ 後下層縦位のヘラナデ	床面	80% PL20
5	土師器	壺	[84]	(53)	[42]	石英・長石・雲母・針状炭素物・小礫	にぶい	普通	口縁部外面縦位のヘラナデ 内面縦位のヘラナデ 調整 体部外面ヘラナデ 後下層ナデ 内面縦位のヘラナデ	床面	40%
6	土師器	壺	[69]	76	[61]	石英・長石・雲母・針状炭素物	にぶい	普通	体部外面ヘラナデ 後下層ナデ 調整 内面縦位のヘラナデ	床面	40%
7	土師器	壺	-	(68)	54	石英・長石・雲母・針状炭素物	にぶい	黄橙	体部外面縦位のヘラナデ 下層部縦位の指ナデ 内面ヘラナデ 調整 底部縦位の指ナデ	床面	40%



第21図 第30号堅穴建物跡実測図



第 22 図 第 30 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 15 表 第 30 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	土師器	小型甕	130	115	36	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	良好	口縁部外・内面積位のヘラナデ 器部外面ヘラナデ 器部外面積位のヘラナデ 底部ヘラナデ	床面	96% PL20
9	土師器	小型甕	100	85	30	石英・長石・雲母・針状鉱物	に灰・黄緑	普通	器部外面積位のヘラナデ 器部外面積位のヘラナデ 器部外面積位のヘラナデ 器部外面積位のヘラナデ	床面	96% PL20
10	土師器	甕	116	(53)	-	石英・長石・雲母・針状鉱物	に灰・橙	普通	口縁部内面積位のヘラナデ 器部外面積位のヘラナデ 外面ハケ目調整	床面	10% PL20
11	土師器	手捏土器	63	41	45	石英・長石・雲母・針状鉱物	に灰・黄緑	普通	外・内面指ナデ	覆土下層	90% PL21
12	土師器	手捏土器	64	40	48	石英・長石・雲母・針状鉱物	に灰・黄緑	普通	外・内面指ナデ 外面指頭直	覆土下層	82% PL21
13	土師器	手捏土器	60	42	46	石英・長石・雲母・針状鉱物	に灰・黄緑	普通	外・内面指ナデ 外面指頭直	覆土下層	80% PL21
14	土師器	手捏土器	53	34	43	石英・長石・雲母・針状鉱物	に灰・黄緑	普通	外面ヘラナデ 内面指ナデ 底部に爪痕残す	覆土下層	90% PL21
15	土師器	手捏土器	53	36	42	石英・長石・雲母・針状鉱物	に灰・黄緑	普通	外・内面指ナデ	床面	80% PL21
16	土師器	手捏土器	44	40	32	石英・長石・雲母・針状鉱物	に灰・橙	普通	外・内面指ナデ	覆土下層	89% PL21
17	土師器	手捏土器	(60)	41	46	石英・長石・雲母・針状鉱物	に灰・黄緑	普通	外・内面指ナデ 外面指頭直	P6 底面	30%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
18	浮子	8.2	8.0	7.1	79.55	軽石	研削調整面 2面		床面		

第31号竪穴建物跡（第23～26図 PL 6・7）

位置 調査2区南部のO14d0区、標高44mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第1号土坑墓、第135号土坑、第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が削平と倒木により壊されており、西コーナー部の床面が露出した状態で確認した。規模は、長軸7.15m、短軸7.14mの方形で、主軸方向はN-41°-Wである。壁高は最大44cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 平坦で、全体的に踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。焚口から煙道までは89cm、燃焼部は幅52cmである。袖は砂質粘土を多量に含む第8～10層を積み上げて構築され、左袖の先端部は攪乱され欠損しているが、右袖の先端部には、凝灰質泥岩の切り石が据え付けられている。切り石は、燃焼部側が被熱し赤変していることから、補強材と考えられる。火床部は火床面から最大17cm掘りくぼめ、ロームや砂質粘土を主体とする第11～16層を充填した上に構築されている。火床面は第11層上面で、火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に15cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。覆土第1・5層は天井部の崩落土である。

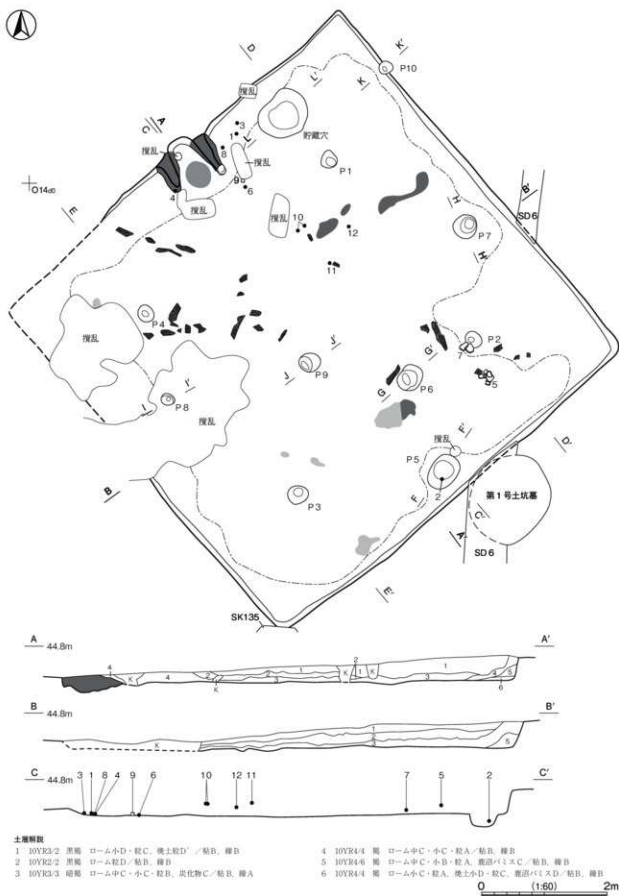
ピット 10か所。P1～P4は、深さ65～76cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ16cmで、位置と形状から出入口施設に伴うピットと考えられる。南西壁際にP7が、北東壁際にP8が位置し、深さはそれぞれ112cm・148cmと他の柱穴に比べ形態が大きく異なっている。対になって存在しており、補助柱の可能性がある。P6・P9・P10は深さ35～50cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 竈の右側に位置している。長軸0.82m、短軸0.67mの楕円形で、深さ32cm、底面は平坦で、壁面は外傾して立ち上がっている。覆土は3層に分層でき、ロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

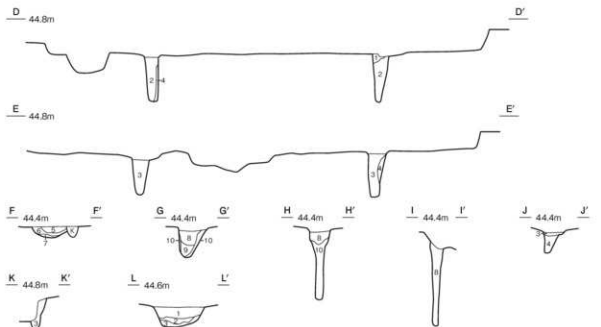
覆土 6層に分層できる。第3～6層は、ロームブロックを含んでいることから埋め戻されており、上層の第1・2層は、粒子が均一で規則的な堆積をしていることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 弥生土器片149点（壺148、甕1）、土師器片803点（坏30、椀1、埴2、壺4、台付甕1、甕類715、甌50）、須恵器片35点（坏24、高台付坏4、蓋3、盤1、甕3）、石製品1点（支脚）が出土している。1・3・8は、竈に向かって右側の床面上からまとまって出土しており、4は左袖部左際の床面上から正位で出土していることから、遺棄されたと考えられる。また、竈前方の床面上からは、竈の切石と同質の凝灰質泥岩製の支脚が出土している。出入口施設であるP5の覆土中層からは、2が出土しておりほぼ完形に近い状態に復元できたことから柱の抜き取り後に故意に投棄された可能性がある。建物の構造材と考えられる炭化材や焼土が床面上から出土しており、焼失建物と考えられる。床面上からの出土遺物は、建物廃絶時の原位置を保っていると思われることから、覆土第3層以下は廃絶後間もなく埋め戻されたと考えられ、5・7は埋め戻しの際に投棄された遺物とみられる。覆土上層の自然堆積層である第1・2層中からは、10～12のほか、須恵器片が散在して出土しており、建物跡の埋没過程で投棄された遺物と考えられる。

所見 時期は、床面直上及び下層の人為堆積層中からの出土土器から6世紀前葉に比定できる。また、覆土上層の自然堆積層中からの出土土器の年代は8世紀中～後葉であることから、建物跡の埋没過程で投棄されたものと考えられ、8世紀代には廃棄土坑として利用されていたと考えられる。



第23图 第31号竖穴建物跡実測图(1)



ピット土層解説

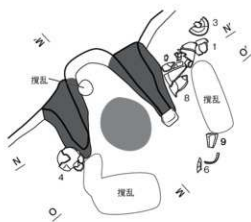
- 1 跡734/4 堀 ローム粒C/粘土 雜B
- 2 跡730/4 堀 ローム粒C/粘土 雜C
- 3 跡730/2 堀 ローム小C・粒C、焼土粒D/粘土、雜C
- 4 跡734/4 堀 ローム中B・小B・粒A/粘土、雜B
- 5 跡730/4 堀 ローム粒C、焼土小C・粒C、炭化粒C/粘土、雜C
- 6 跡730/3 堀 焼土中B・小B・粒A、炭化粒C/粘土、雜C
- 7 跡730/6 堀 ローム粒A、焼土小D・粒C/粘土、雜B

- 8 跡730/3 堀 ローム小C・粒B/粘土、雜B
- 9 跡730/4 堀 ローム中B・小B・粒A/粘土、雜C
- 10 跡734/6 堀 ローム大C・中C・小B・粒B/粘土、雜B

貯蔵穴土層解説

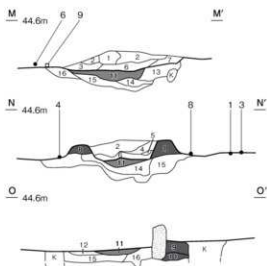
- 1 跡730/3 堀 ローム中C・粒C、焼土粒D、炭化物C/粘土、雜B
- 2 跡730/4 堀 ローム小B・粒C、炭化物C・粒C、炭屑/粘土/粘土、雜C
- 3 跡730/4 堀 ローム中C・小B・粒A、炭化粒D/粘土、雜C

0 (1:60) 2m



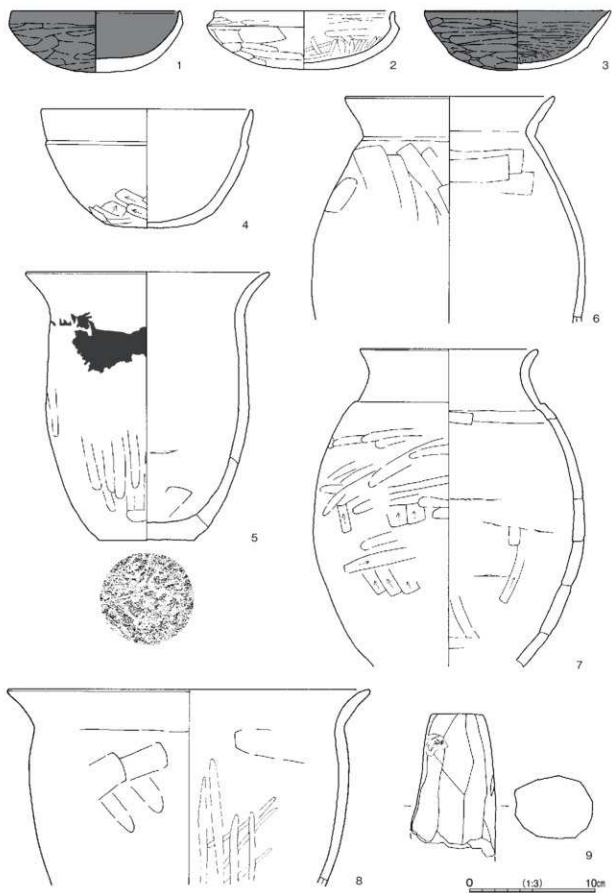
層土層解説

- 1 跡730/4 堀 ローム粒D、焼土粒D、砂質粘土粒A/粘土、雜B
- 2 跡730/3 堀 ローム粒D、焼土小D・粒C、砂質粘土粒C/粘土、雜B
- 3 跡730/2 堀 焼土小C・粒B、炭化粒B、砂質粘土粒C/粘土、雜B
- 4 跡730/4 堀 焼土中D・小C・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘土、雜B
- 5 跡730/4 堀 焼土粒D、砂質粘土粒A/粘土、雜B
- 6 跡730/4 堀 ローム小D・粒C、焼土小C・粒C、砂質粘土粒B/粘土、雜B
- 7 跡730/3 堀 ローム小C・粒C、焼土中D・小C・粒C/粘土、雜A
- 8 跡730/2 堀 砂質粘土粒A/粘土、雜A

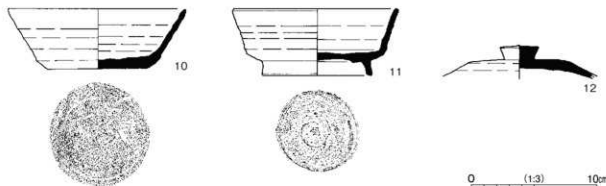


0 (1:30) 1m

第24図 第31号貯穴建物跡実測図(2)



第 25 图 第 31 号竖穴建物跡下層出土遺物実測図



第26図 第31号竪穴建物跡上層出土遺物実測図

第16表 第31号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	坏	133	4.9	-	石英・長石・針状灰物	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラナデナデ 外・内面黒色処理	床面	90% PL21
2	土師器	坏	144	4.6	-	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のへラナデ 体部外面へラナデ 内面放射状のへラナデ	P5 覆土中層	90% PL21
3	土師器	坏	147	4.7	-	石英・長石・雲母	にぶい赤黄	普通	口縁部外・内面横位のへラナデ 体部外面へラナデ	床面	80% PL21
4	土師器	碗	166	9.5	-	石英・長石・小礫	にぶい橙	普通	体部外面下半へラナデ 外・内面焼出し器面荒れ	床面	80% PL21
5	土師器	甕	[192]	21.3	7.5	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のへラナデ 底蓋木製 外面上半に灰化物付着	覆土下層	40% PL21
6	土師器	甕	168	(180)	-	石英・長石・小礫	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のへラナデ 内面横位のへラナデ	床面	40% PL21
7	土師器	甕	[140]	(25.2)	-	石英・長石・雲母・針状灰物・小礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のへラナデ 内面多方向のへラナデ	覆土下層	40% PL21
8	土師器	瓶	[287]	(15.5)	-	石英・長石・雲母・針状灰物	にぶい橙	普通	体部外面へラナデ 内面へラナデ後まぼらなへラナデ	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	支脚	(11.4)	(6.7)	(4.9)	(294)	潮気質泥岩	表面ノミ状工具による調整 基部欠損 焼熱面	床面	PL31

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
10	須恵器	坏	[140]	4.8	8.0	石英・長石	灰黄	普通	底部一方内のへラナデ 二次焼成により器面荒れる	覆土上層	へラ記号「V」 50%
11	須恵器	高台付坏	[130]	5.3	8.7	石英・長石	橙	普通	底部回転へラ切り後高台貼り付け	覆土上層	60%
12	須恵器	蓋	-	(2.7)	-	石英・長石	灰	普通	大井部外・内面ロクロナデ 外面回転へラナデ 後つまみ貼り付け	覆土上層	20%

第33号竪穴建物跡 (第27図)

位置 調査2区北部N16g1区、標高44mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第14・20号竪穴建物に掘り込まれている。

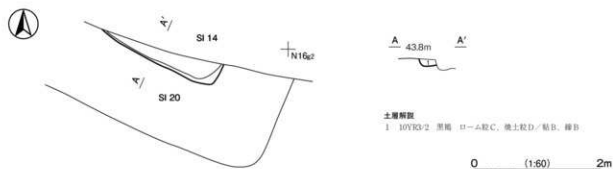
規模と形状 第20号竪穴建物の床面下で確認した。北側の大半が第14号竪穴建物によって掘り込まれているため、東西軸は200m、南北軸は0.37mしか確認できなかった。平面形は、方形もしくは長方形と推定され、主軸方向は不明である。壁高は9cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた範囲は平坦で、硬化していない。

覆土 遺構の重複により覆土がほとんど残存しておらず、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 弥生土器片4点(壺), 土師器片12点(埴1, 甕類11)が出土している。いずれも細片で、図示することができなかった。

所見 残存状態が悪く、遺物も少ないため明確な年代は不明であるが、古墳時代前期と考えたい。



第27図 第33号竪穴建物跡実測図

第39号竪穴建物跡（第28・29図 PL 7・11）

位置 調査2区中央部のO15j6区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第38号竪穴建物、第23・25・31号掘立柱建物、第407・421・422号土坑、第3号ピット群に掘り込まれている。

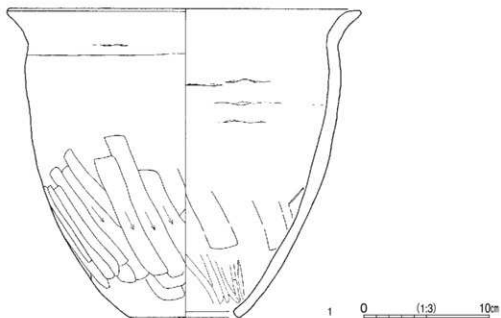
規模と形状 遺構の重複と削平により、壁溝が確認できたのみである。規模は、長軸6.16m、短軸6.12mの方形で、主軸方向はN-50°-Wである。

床 削平され、遺構確認面に露出した状態である。第2層が、掘り方に充填された床の構築土と考えられ、大型のロームブロックを含む暗褐色土である。壁溝は、北西壁の一部を除き巡っている。

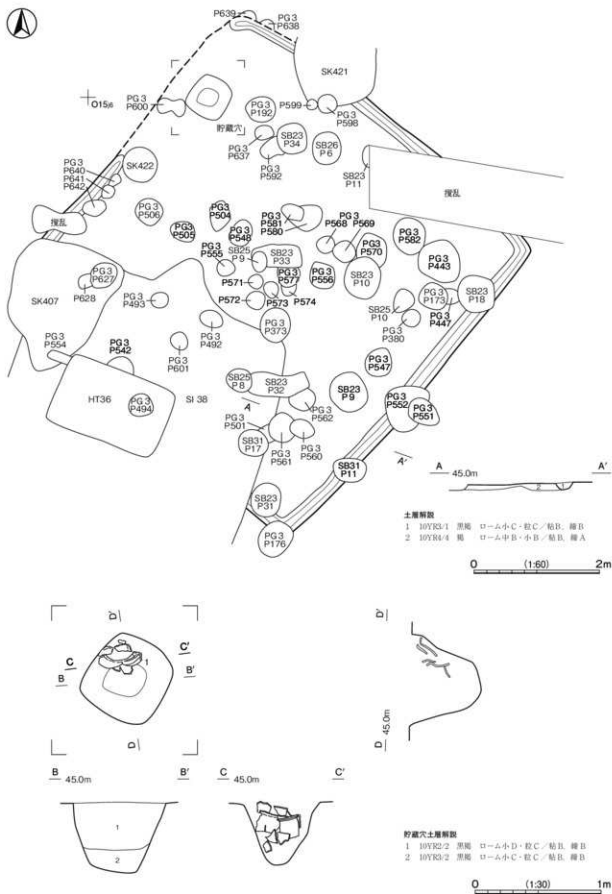
ピット 第3号ピット群に掘り込まれており、伴う柱穴を判断することができなかった。

貯蔵穴 北コーナー部からやや南寄りに位置する。長軸0.64m、短軸0.63mの隅丸方形で、深さ56cm、底面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は2層に分層でき、ロームブロックを含むことから埋め戻されている。覆土上層から中層にかけて1が出土している。

覆土 第1層は、壁溝に堆積した覆土である。堆積状況は不明である。



第28図 第39号竪穴建物跡出土遺物実測図



第29図 第39号貯穴建物跡実測図

遺物出土状況 弥生土器片1点(壺),土師器片8点(甕類7,瓶1)が出土している。1は貯蔵穴覆土中から、北側の壁際に押し潰された状態で出土しており、廃絶時に貯蔵穴内に遺棄され、埋め戻しの際の土圧で押し潰されたとみられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀前半と捉えたい。

第17表 第39号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	瓶	276	246	87	石英・長石・雲母・赤色粘土・鉄状態物	浅黄褐色	不貞	口縁部外・内面横ナデ 体部上平外面指ナデ 内面ヘラ削り後ヘラナデ 下半外面斜位のヘラ削り・内面斜位のヘラ削き	貯蔵穴覆土中	95% PL.21

第18表 古墳時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高	床面	欄溝	内部施設				竪土	主な出土遺物	時期	備考	
				長軸×短軸(m)	(cm)				柱穴	土口	ピット	炉					竪蔵穴
1	Q152	N-41°-W	楕丸方形	4.46 × 4.45	0-6	平坦	-	4	1	-	炉1	-	不明	弥生土器, 土師器	前期後葉	本跡→SK25	
16	N151	N-59°-W	楕丸方形	[3.10] × 5.04	0-40	平坦	-	4	1	-	炉1	-	人為	弥生土器, 土師器	前期中葉	本跡→SK89 焼失建物	
20	N16a1	N-25°-E	方形 長方形	6.41 × (4.93)	0-32	平坦	ほぼ 全周	2	2	-	-	1	人為	弥生土器, 土師器, 灰化層子	前期後葉	SEG→E跡→ S14, SK98, 114	
21	O14c8	N-11°-E	方形 長方形	5.25 × (4.58)	12-30	平坦	-	4	-	1	炉1	1	人為	弥生土器, 土師器	前期後葉	本跡→SD 7 焼失建物	
30	N15g4	N-24°-E	楕丸方形	5.23 × 5.02	0-17	平坦	-	4	1	2	炉2	1	人為	弥生土器, 土師器	前期後葉	本跡→S113 焼失建物	
31	O14d0	N-41°-W	方 形	7.15 × 7.14	12-44	平坦	-	4	1	5	竪土 之高碑	1	人為 自然	弥生土器, 土師器, 須恵器	6世紀前期	本跡→第1号土坑墓 SD 6, SK135 焼失建物	
33	N16g1	-	方形 長方形	(2.00 × 0.37)	9	平坦	-	-	-	-	-	-	-	人為	弥生土器, 土師器	前期	本跡→S114・20
39	O15f6	N-50°-W	方 形	6.16 × 6.12	-	-	ほぼ 全周	-	-	-	-	-	-	人為	弥生土器, 土師器	6世紀前半	本跡→SK98, S103・25・ 26・3, HOKUSHO, G1-G2, PG 3

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡29棟、掘立柱建物跡6棟、土坑2基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第2号竪穴建物跡 (第30・31図 PL 7)

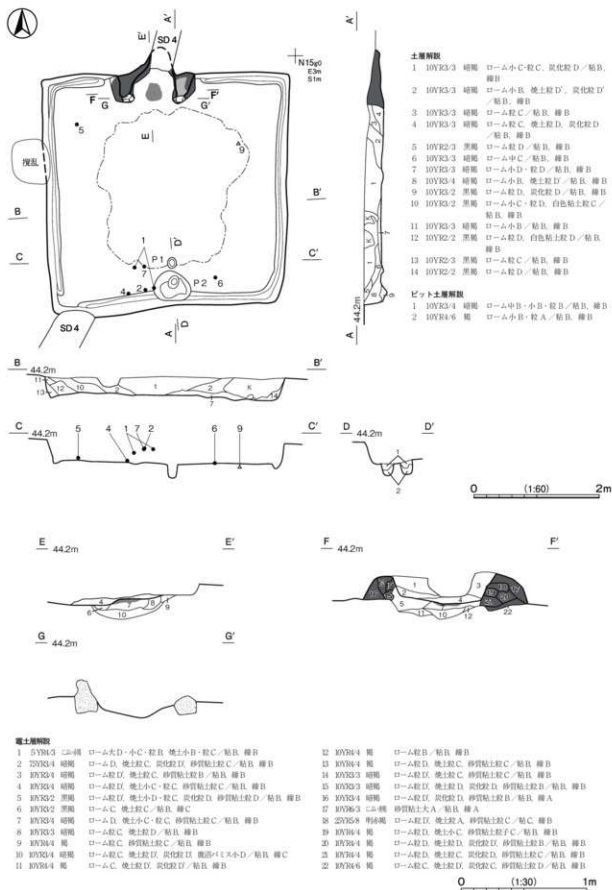
位置 調査2区北東部のN15g0区、標高44mほどの台地上に位置している。

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。

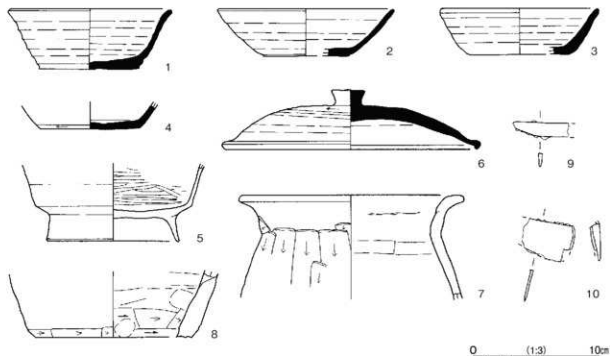
規模と形状 長軸382m、短軸370mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は28～38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で中央部が踏み締まっている。壁溝は、南西コーナー部を除き巡っている。

竪 北壁の中央部からやや西寄りに付設されている。第4号溝の掘り込みによって煙道が壊されており、確認できた規模は焚口部から煙道部までは88cm、燃焼部幅は67cmである。竪は、袖部を砂質粘土などを含む第13～22層を積み上げて構築し、先端部を凝灰質泥岩の切石で補強している。火床部は、袖の基部を構築した後、床面を23cmほど掘り下げて、第5～12層を充填して整地されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで使用しており、火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は、火床部から段を有し緩やかに立ち上がっている。



第30図 第2号堅穴建物跡実測図



第31図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図

第19表 第2号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[127]	4.8	8.0	石英・長石・針状鉱物	灰白	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	SI3.2と接合 60%
2	須恵器	坏	[139]	3.8	[6.8]	石英・長石・繊維	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	20%
3	須恵器	坏	[124]	3.7	[7.6]	石英・長石・繊維	にぶ・黄緑	不良	底部回転糸切り	覆土中	30%
4	須恵器	坏	-	(2.1)	7.8	石英・長石	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	床面	20%
5	土師器	高台付坏	-	(6.2)	10.3	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面横位のヘラ磨き 底部高台削り付け 内面黒色処理	床面	50% PI.22
6	須恵器	蓋	20.1	4.8	-	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	床面	60% PI.22
7	土師器	鉢	[174]	(8.3)	-	石英・長石・雲母・繊維	にぶ・黄緑	良好	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り	覆土中層	10%
8	土師器	瓶	-	(5.3)	[124]	石英・長石・雲母・繊維	橙	普通	体部内面横ナデ 内面下端横位のヘラ削り 二次形成により器面荒れ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
9	刀子	(4.5)	1.1	0.3	(4.65)	鉄	基部欠損	刃部断面三角形	床面	PI.33
10	鎌	(4.2)	(3.4)	(0.2)	(7.88)	鉄	基部削り曲げ	先端部欠損	覆土中	

ピット 2か所。南壁際の中央部に位置し、主軸の方向に並んで配列されている。規模は深さともに25cmで、P2の周囲が若干くぼんでいる。配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 14層に分层できる。不規則的な堆積状況で、ロームブロックを含むことから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片108点(坏12, 高台付坏1, 甕類94, 瓶1), 須恵器片34点(坏26, 蓋3, 甕類5), 金属製品2点(刀子, 鎌)が出土している。4~6・9は床面から散在して出土しており, 建物廃絶時に投棄されたもの。1・2・7は南側の覆土中層から一括して出土していることから埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。1は本跡の南側に隣接する第3号竪穴建物跡から出土した遺物と接合した。

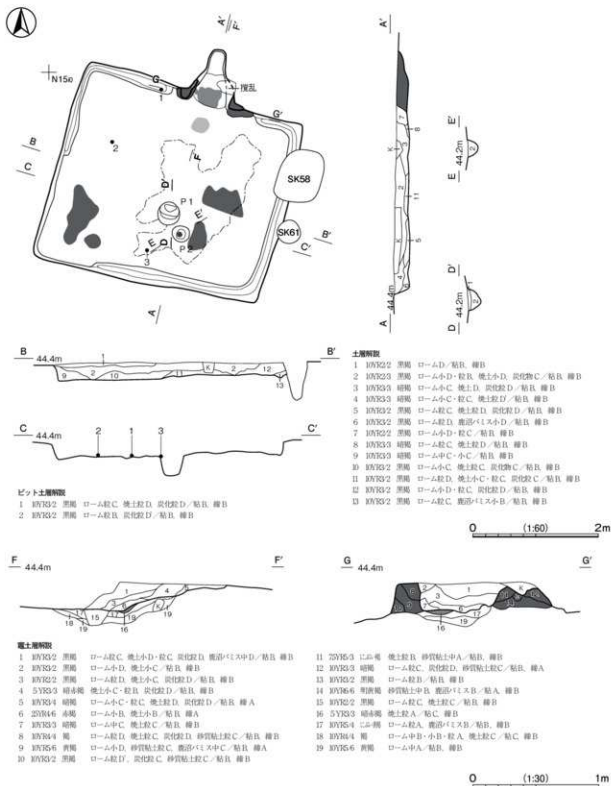
所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第3号竪穴建物跡 (第32・33図 PL 7)

位置 調査2区北東部のN150区、標高44mほどの台地上に位置している。

重複関係 第58・61号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.70m、短軸3.22mの長方形で、主軸方向はN-19°-Eである。壁高は15~26cmで、ほぼ直立している。



第32図 第3号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、中央部がよく踏み締まっている。壁溝は南西コーナー部を除き巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは93cm、燃烧部幅62cmである。竈は床面を13cmほど掘り下げて、ローム土を主体とする第17～19層を充填して整地した上に構築されている。袖部は地山を凸状に掘り残して基部とし、その上にロームと砂質粘土を含む第8～14層を積み上げて構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで使用しており、第16層上面が火熱を受けて赤変硬化している。掘り方の第15層はピット状に掘り込まれており、支脚を抜き取った痕跡の可能性がある。煙道部は、壁外に79cm掘り込み、火床部から緩やかに立ち上がっている。

ピット 2か所。中央部から南寄り位置し、P1は深さ30cm、P2は深さ16cmで、底面に柱の当たり痕跡が確認できたが、性格は不明である。

覆土 13層に分層できる。不規則的な堆積状況をしていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片782点(坏21, 甕類712, 瓶49)、須恵器片19点(坏14, 高台付坏1, 蓋4)、石器2(剥片)、金属製品1点(不明)が出土している。1～3は床面直上から散在して出土しており、2は北側に近接する第2号竈穴建物跡から出土した1と接合関係にある。また、床面直上から焼土と炭化材が出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定され、また、焼土と炭化材の出土状況から、焼失建物と考えられる。



第33図 第3号竈穴建物跡出土遺物実測図

第20表 第3号竈穴建物跡出土遺物一覧

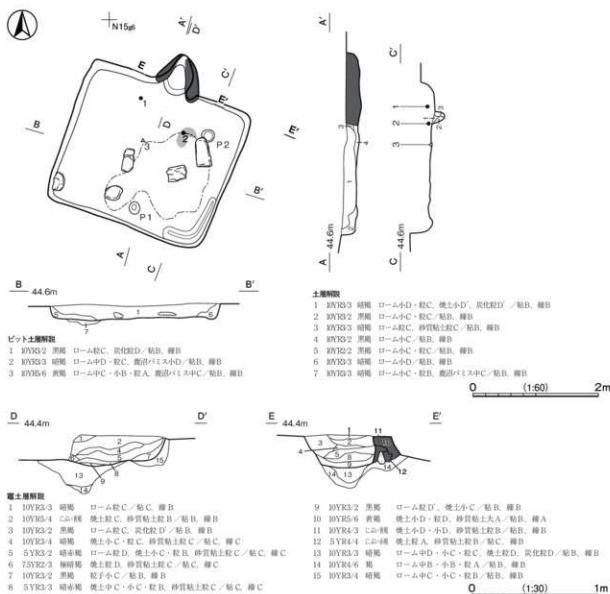
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	坏	[130]	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面口縁部横ナデり 内面ヘラ削き	底部ヘラ削り	床面	40%
2	須恵器	坏	[127]	4.8	8.0	石英・長石・針状鉱物	灰白	普通	底部回転ヘラ切り		床面	S211上接合部3区-1
3	瓶蓋器	蓋	124	(1.5)	-	石英・長石・燧石	灰	普通	大弁部回転ヘラ削り つまみ打ち文	内面磨蝕	床面	90%・PL22 転用瓶

第4号竈穴建物跡 (第34・35図 PL7)

位置 調査2区北部のN15g6区、標高44mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.70m、短軸2.38mの方形で、主軸方向はN-19°-Eである。壁高は23～25cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部から南東側が踏み締まっている。壁溝は、南東コーナー部のみ確認できた。掘方は西部の一部のみで、ロームブロックを多く含む第7層を埋土して構築している。



第34図 第4号竪穴建物跡実測図

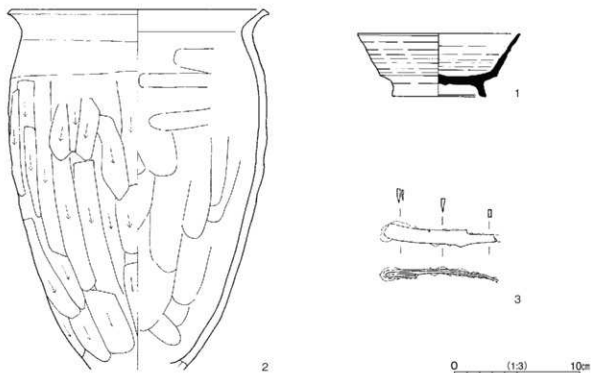
竪 北壁の中央部に付設されている。焚口から煙道までは56cm、燃焼部幅は32cmである。竪は、床面を27cmほど掘り下げて、ローム土を含む第13～15層を充填して整地した上に構築されている。袖部は、砂質粘土を多く含む第10～12層を積み上げて構築され、右袖の内部からは、芯材である凝灰質泥岩が出土した。火床部は床面より5cmほど皿状に掘りくぼんでいる。煙道部は壁外へ52cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がり、奥壁で直立している。第2層は天井部の崩落土である

ピット 2か所。P1は深さ26cmで、南壁中央部付近に位置することから出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は北東コーナー部から中央に寄った位置にあり、深さ20cmであるが、性格は不明である。

覆土 6層に分層できる。不規則的な堆積状況をしていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土器器片117点(坏1, 甕類116), 須恵器片20点(坏12, 高台付坏3, 蓋2, 甕類3), 金属製品1点(刀子), 石2点が出土している。3は床面から、1・2は覆土下層から出土している。また、覆土中層からは、竪の補強材とみられる被熱した凝灰質泥岩の切石が出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第35図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図

第21表 第4号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	灰皿器	高台付灰	[130]	5.0	7.5	石英・長石・繊維	灰	普通	底部斜縁ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	40%
2	土師器	甕	[200]	(28.6)	-	石英・長石・雲母・柱状鉱物	明赤褐	普通	口縁部外・内面種ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面縦位のヘラナデ	覆土下層	50% PL22
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
3	刀子	(8.9)	1.9	0.9	(9.25)	鉄	刃部断面三角形	基部面長方形	刃先が故意に折り返されている	床面	PL33

第5号竪穴建物跡 (第36図 PL7)

位置 調査2区北東部のN16e4区、標高42mほどの台地斜面部に位置している。

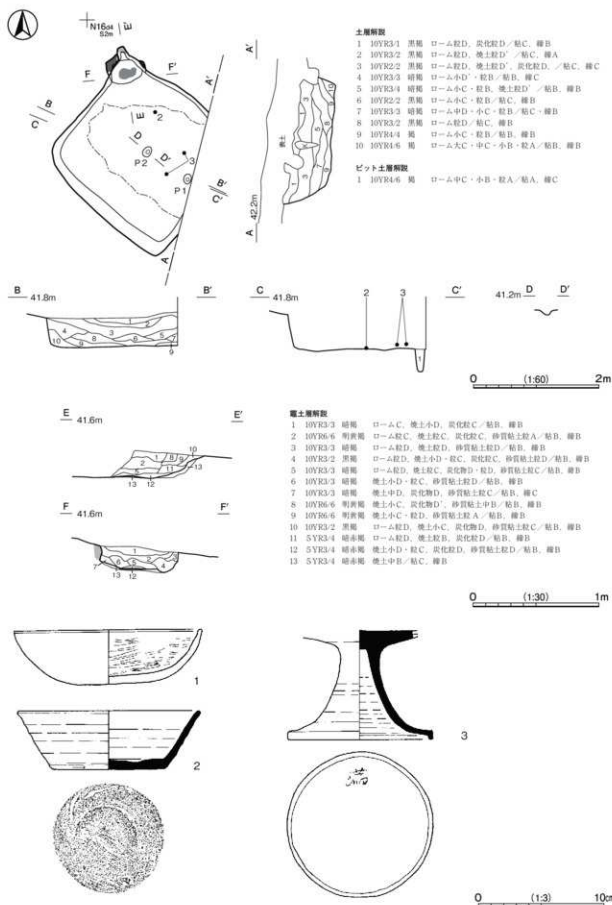
規模と形状 長軸242m、短軸237mの方形で、主軸方向はN-54°-Wである。壁高は45～61cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部から南西部が踏み締まっている。

竈 北東コーナー部に付設されている。袖部や構築材がほとんど残存しておらず、廃絶時に壊されたと考えられる。焚口部から煙道部までは51cm、燃焼部幅は48cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、第13層上面が火床面で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外へ32cm掘り込まれ、先端部が細く突出しており、火床部から外傾して立ち上がっている。第2・8・9層は天井部の崩落土である。

ピット 2か所。P1は深さ41cmで、南東壁付近に位置していることから、出入口施設に伴うピットの可能性がある。P2は中央部に位置し、深さ9cmで、性格は不明である。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則的な堆積状況であることから埋め戻されている。



第36図 第5号堅穴建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片75点(坏2, 甕類73), 須恵器片5点(坏3, 盤1, 高盤1)が出土している。2は床面, 3は覆土下層から出土している。1は覆土中から細片の状態で出土したが, 接合し復元できたものである。これらの遺物は, 埋め戻しの際に投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定される。

第22表 第5号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[148]	4.3	-	石英・長石・雲母・赤色粒子・繊維	橙	普通	外面ナデ 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	60% PL22
2	須恵器	坏	[144]	4.7	8.8	石英・長石・針状鉱物・繊維	暗灰黄	普通	体部下層回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り 持ちヘラ削り	床面	60% ヘラ削り「2」
3	須恵器	高盤	-	(82)	11.6	石英・長石・繊維	灰	普通	脚部クロコナデ	覆土下層	60% PL22

第7号竪穴建物跡 (第37・38図 PL7・8)

位置 調査2区北部のN15g8区, 標高44mほどの台地上に位置している。

重複関係 第24号竪穴建物跡を掘り込み, 第66・67号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.42m, 短軸3.32mの方形で, 主軸方向はN-4°-Eである。壁高は25~43cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 北西コーナー部を除いて踏み締まっている。壁溝は全周している。

竈 北壁の東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは55cm, 燃焼部幅は45cmである。竈は, 床面を最大14cm掘り下げて, 第16~21層を充填して整地した上に構築されている。袖部は, 第8~15層を積み上げて構築され, 両袖の先端部には補強材として凝灰質泥岩の切石が据えられている。また, 竈の手前からは割れた切石が出土していることから焚口部の天井に横架されていた部材と考えられる。火床部は床面とほぼ同じ高さで使用している。火床部は第16・18層上面で, 火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ7cmほど掘り込み, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

ピット 2か所。P1は深さ37cmで, 南壁際中央部に位置していることか, 出入口施設に伴うピットである。P2は深さ20cmで, 性格は不明である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含み, 不規則的な堆積状況であることから埋め戻されている。

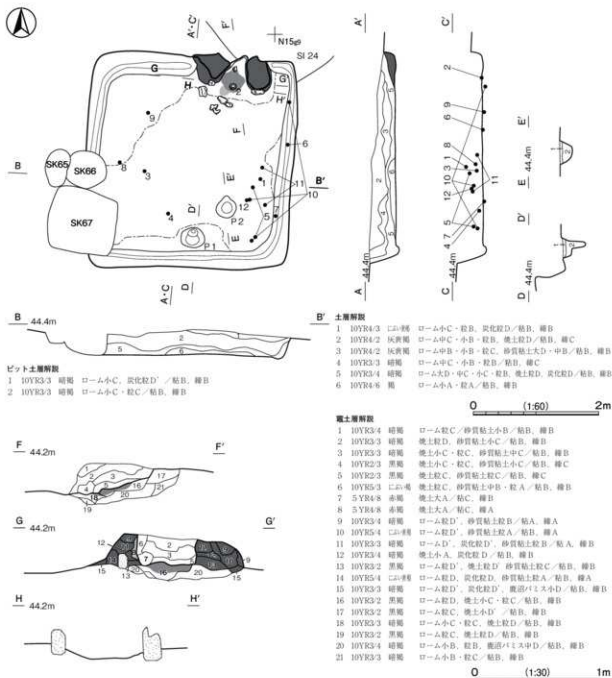
遺物出土状況 土師器片185点(坏13, 壺2, 甕類168, 鉢1, 手捏土器1), 須恵器片61点(坏49, 蓋1, 短頸壺1, 高盤1, 甕類9), 礫4点が出土している。2・6・7・9・10は床面から出土しており, 他の遺物は中層から下層にかけて出土している。10は, 壁溝の底面から出土したものと, 覆土中層から出土したものが接合関係にあることから, 床面直上から覆土中層の遺物は, 埋め戻し時に一括して投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。

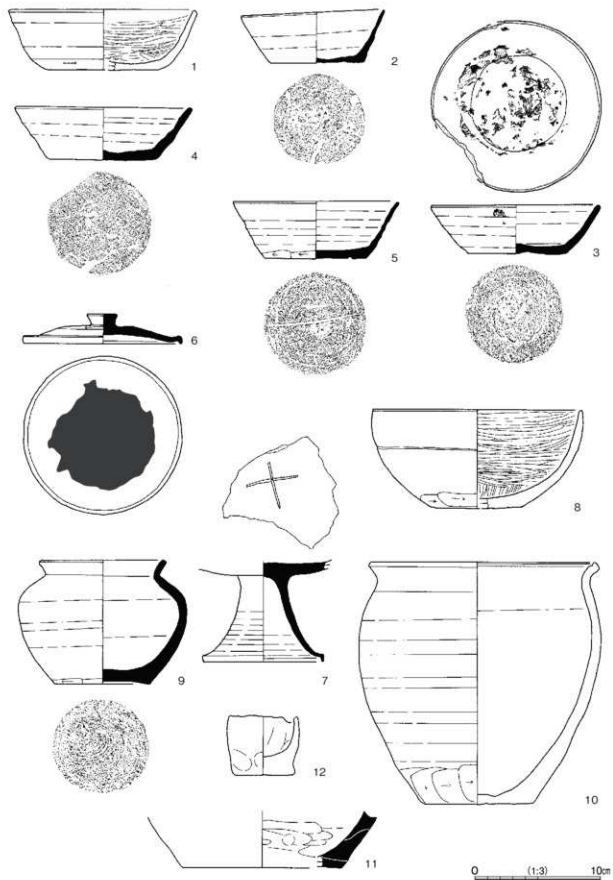
第23表 第7号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[145]	4.8	(87)	石英・長石・雲母・針状鉱物・繊維	にぶい黄	普通	体部下層回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラナデ 内面黒色処理	覆土中層	40% 100%
2	須恵器	坏	11.5	4.2	7.4	石英・長石・針状鉱物・繊維	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	床面	100% PL22
3	須恵器	坏	14.0	4.2	8.2	石英・長石・針状鉱物・繊維	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り 内面塗付着	覆土下層	90% PL22

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	須恵器	坏	[140]	4.2	8.2	石灰・長石・ 針状炭化物・繊維	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後手持ちヘラナデ	覆土下層	60% PL.22
5	須恵器	坏	[130]	4.6	8.3	石灰・長石・ 針状炭化物・繊維	浅黄	普通	底部回転ヘラ切り後手持ちヘラナデ	覆土中層	ヘラ記号「一」 50%
6	須恵器	蓋	12.6	2.3	-	石灰・長石・ 針状炭化物・繊維	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け 内面磨 り付着	床面	100% PL.22
7	須恵器	高盤	-	(8.0)	(9.6)	石灰・長石・繊維	灰	普通	脚踏ロクロナデ	床面	ヘラ記号「十」 60% PL.22
8	土師器	鉢	[16.5]	7.9	[7.2]	石灰・長石・雲母・ 繊維	にぶい橙	普通	口縁部外側面ナデ 体部下端ヘラ削り 内面ヘ ラ削り 黒色処理	覆土下層	30%
9	須恵器	短頸壺	9.7	9.9	7.6	石灰・長石・雲母・ 繊維	浅黄橙	不貞	口縁部一体部外・内面ロクロナデ 体部下端ヘ ラ削り 底部回転糸切り	床面	90% PL.22
10	土師器	甕	17.9	19.4	8.8	石灰・長石・雲母・ 赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	口縁部一体部外・内面ロクロナデ 体部下端ヘ ラ削り	床面・ 覆土中層	80% PL.22
11	須恵器	甕	-	(4.5)	[12.6]	石灰・長石・ 針状炭化物・繊維	黄灰	普通	体部外・内面磨ナデ 底部多方向のヘラ削り	覆土下層・ 中層	
12	土師器	手拭土器	[5.4]	4.7	4.4	石灰・長石・雲母・ 針状炭化物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外・内面磨ナデ 指摺痕	覆土中層	70%



第37図 第7号竪穴建物跡実測図



第 38 图 第 7 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第8号竪穴建物跡 (第39図 PL 8)

位置 調査2区北部のN15e4区、標高44mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第70号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部は攪乱により、東西軸280m、南北軸2.18mしか確認できなかったため、平面形及び主軸方向は不明である。

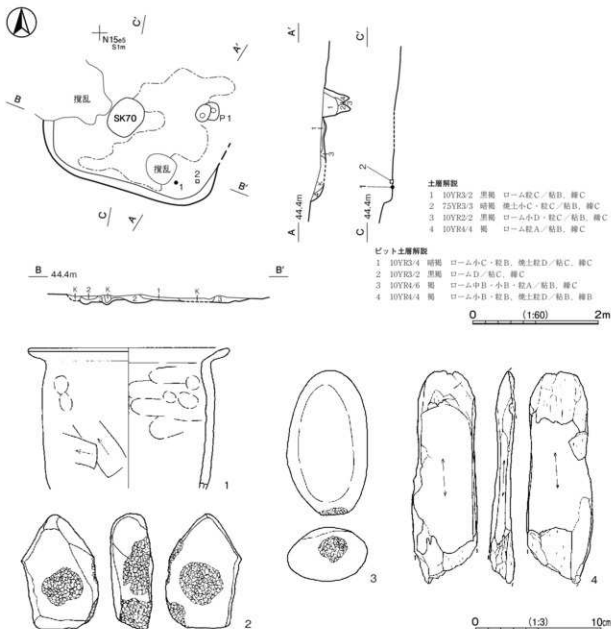
床 平坦で、中央部から南部にかけて踏み締まっている。

ピット P1は深さ37cmで、堆積状況から柱の建て替えが行われた可能性があるが、性格は不明である。

覆土 4層に分層できる。覆土の大半が削平されており、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片92点(坏5、甕類87)、石器3点(台石、敲石、砥石)が出土している。1・2は南東コーナー部付近の床面から出土している。

所見 本跡は年代を特定できる遺物が少なく詳細な時期は難しいが、出土土器の特徴から9世紀代と考えられる。



第39図 第8号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第24表 第8号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	15.8	11.2	—	石英・長石・雲母・ 緑礫	にぶ・黄緑	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面横ナデ	床面	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	台石	9.2	6.1	3.3	253.23	石英片麻岩	表裏面中央、側面に叩打痕			床面	
3	砥石	11.5	6.4	4.3	430.24	石英	円縁の端部に叩打痕			覆土中	
4	砥石	(16.9)	5.2	2.0	(394.7)	粘板岩	縦面3面			覆土中	PL32

第9号竪穴建物跡 (第40・41図 PL 8)

位置 調査2区北部のN1564区、標高44mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第88号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.12m、短軸3.00mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は25~51cmで直立している。

床 平坦で、中央部がよく踏み締まっている。壁溝は、南壁から北西コーナー部にかけて通っており、西壁中央部で途切れている。

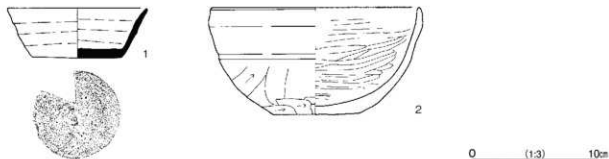
竈 北壁の中央から東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは89cmで、燃焼部幅は32cmである。竈は、床面を45cmほど掘り下げて、第15~23層を充填して整地した上に構築され、袖部は、砂質粘土主体の第14層で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで使用しており、火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ22cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第2~8層は天井部の崩落土である。

ピット 深さ28cmで、底面に柱の当たり痕跡が確認できた。南壁際の中央部に位置することから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層に分層できる。不規則的な堆積をしていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片106点(坏3, 碗1, 甕類102), 須恵器片4点(坏)が出土している。2は竈周辺の床面から、1は南壁際の覆土下層から出土している。

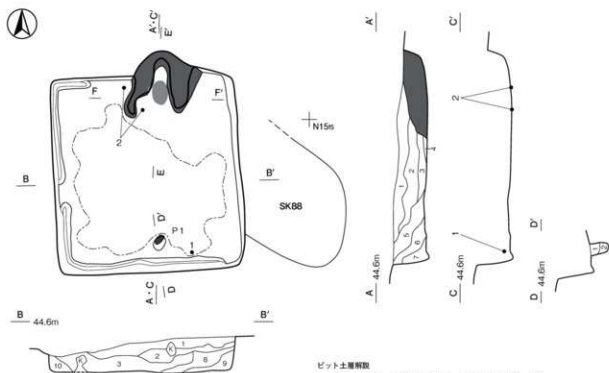
所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定される。



第40図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図

第25表 第9号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	11.0	4.0	7.1	石英・長石・ 緑礫・雲母・ 赤色粒子	にぶ・黄緑	普通	底部回転へつ切り後手持ちへつ割り	覆土下層	60%
2	土師器	碗	16.6	8.5	7.0	石英・長石・雲母・ 赤色粒子	橙	普通	外面口縁部横ナデ 下部へつ割り 内面へつ割り 黒色処理	床面	90% PL23



ピット土層解説

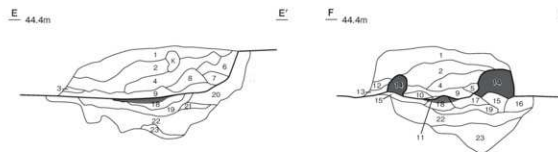
- 1 10YR4-4 層 ローム小C・粒A、焼土粒D' / 粘B、雜B
2 10YR4-6 層 ローム小B・粒A、炭渣バリエスC / 粘B、雜B

土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム粒D'、焼土粒D'、炭化粒D' / 粘B、雜B
2 10YR3-3 暗褐色 ローム小C・粒C、炭化粒D / 粘B、雜B
3 10YR3-3 暗褐色 ローム中D、炭化物D、砂質粘土中D、粘B、雜B
4 10YR4-3 緑褐色 ローム粒D、砂質粘土粒D' / 粘B、雜B
5 10YR3-3 暗褐色 ローム中C、焼土小D、炭化物D / 粘B、雜B

- 6 10YR3-3 暗褐色 ローム小C、炭化物D / 粘B、雜B
7 10YR4-4 層 ローム粒B / 粘A、雜C
8 10YR3-3 暗褐色 ローム中D・粒C、炭化粒C / 粘B、雜B
9 10YR4-4 層 ローム中D・粒B / 粘B、雜C
10 10YR3-3 暗褐色 ロームC、炭化粒D / 粘B、雜B

0 (1:60) 2m



土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム小D・粒C / 粘B、雜C
2 10YR4-3 緑褐色 ローム小C・粒C、焼土小C・粒C、炭化粒D、砂質粘土小C / 粘B、雜B
3 10YR4-4 層 砂質粘土粒B / 粘B、雜B
4 10YR6-4 緑褐色 砂質粘土大A / 粘B、雜A
5 10YR5-8 黄褐色 ローム大A' / 粘B、雜A
6 10YR4-3 緑褐色 焼土小C・粒C、砂質粘土中C・粒B / 粘C、雜C
7 7.5YR3-3 暗褐色 焼土小B・粒B、砂質粘土粒B / 粘C、雜C
8 10YR4-3 緑褐色 焼土粒C、砂質粘土中B・粒A / 粘B、雜A
9 10YR3-4 暗褐色 焼土粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C / 粘B、雜B
10 7.5YR4-6 層 ローム小B・粒A、砂質粘土粒C / 粘B、雜B
11 7.5YR3-3 暗褐色 焼土粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C / 粘C、雜B

- 12 10YR2-2 黒褐色 ローム粒D / 粘B、雜A
13 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒B / 粘B、雜B
14 10YR5-4 緑褐色 砂質粘土粒A / 粘B、雜B
15 10YR3-4 暗褐色 ローム粒D、焼土粒D / 粘B、雜B
16 10YR4-4 層 焼土粒C、砂質粘土小C / 粘B、雜B
17 5YR3-3 暗赤褐色 焼土中C・小C・粒B / 粘B、雜B
18 7.5YR3-4 暗褐色 焼土粒C、炭化粒D / 粘B、雜B
19 10YR4-6 層 ローム中A / 粘A、雜A
20 10YR5-4 緑褐色 ローム大C、砂質粘土大A、雜C / 粘B、雜A
21 10YR5-6 黄褐色 ローム中C・粒A' / 粘B、雜B
22 10YR3-2 黒褐色 ローム中C・小C・粒C / 粘B、雜B
23 10YR4-4 層 ローム大D・中C・小B・粒A / 粘A、雜C

0 (1:30) 1m

第41図 第9号堅穴建物跡実測図

第10号竪穴建物跡 (第42図 PL 8)

位置 調査2区北部のN157区、標高44mほどの台地上に位置している。

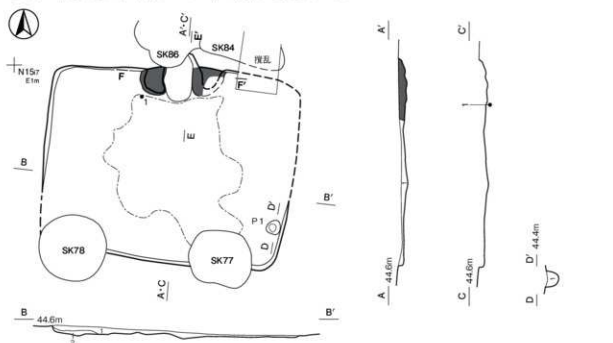
重複関係 第77・78・86号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 攪乱のため確認できた規模は、長軸3.82m、短軸2.97mの長方形で、主軸方向はN-9°-Eである。

床 ほは平坦で、中央部が踏み締まっている。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部が第86号土坑により壊されており、焚き口から煙道部までは67cmしか確認できなかった。燃焼部幅は46cmである。竈は床面を再度14cmほど掘り下げて、第8層で整地した上に構築されている。袖部は、砂質粘土を多く含む第5~7・9・10層を積み上げて構築されている。火床部は床面から8cmほどくぼんでいる。煙道部は壁外へ25cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

ピット 深さ21cmで、南東コーナー部の北部に位置している。



土層解説

- 1 10YK3-2 黒褐色 ローム小C / 粘B、礫B
- 2 10YK3-2 黒褐色 ローム小D・粒C / 粘B、礫B

ピット土層解説

- 1 10YK2-3 黒褐色 ローム小B・粒C / 粘B、礫B

E 44.6m



E'

F 44.6m



F'

竈土層解説

- 1 10YK3-3 暗褐色 ローム粒D'・焼土粒D'、砂質粘土粒B / 粘B、礫B
- 2 10YK3-3 暗褐色 ローム粒D、焼土粒D'、砂質粘土粒C / 粘B、礫B
- 3 10YK3-3 暗褐色 ロームC、焼土小C、砂質粘土粒D / 粘B、礫B
- 4 10YK3-4 暗褐色 ローム小C・粒C、焼土粒D、黒褐色ローム小C / 粘B、礫B
- 5 10YK3-4 暗褐色 ローム小D、焼土粒D、砂質粘土粒D / 粘B、礫B
- 6 10YK3-2 黒褐色 ローム粒C、砂質粘土粒B / 粘B、礫B
- 7 10YK3-2 黒褐色 ローム小D'・粒D、砂質粘土粒C / 粘B、礫B
- 8 10YK3-3 暗褐色 ローム小C、焼土粒D'、炭化粒D' / 粘B、礫B
- 9 10YK3-8 黄褐色 ローム粒C、砂質粘土大A / 粘B、礫A
- 10 10YK4-6 黄褐色 ローム中C・小C・粒B、砂質粘土粒C / 粘B、礫B



0 (1:3) 5cm

第42図 第10号竪穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。覆土の大半が削平されており、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片47点(坏6, 甕類41), 須恵器片6点(坏4, 高台付坏1, 甕類1)が出土している。竈周辺の床面直上から1が出土している。

所見 時期は、出土土器及び周囲の竈穴建物跡との主軸方向の関係から、8世紀後葉～9世紀前葉に比定される。

第26表 第10号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付坏	-	(22)	8.2	石美・長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	床面	ヘラ削り下1/20%

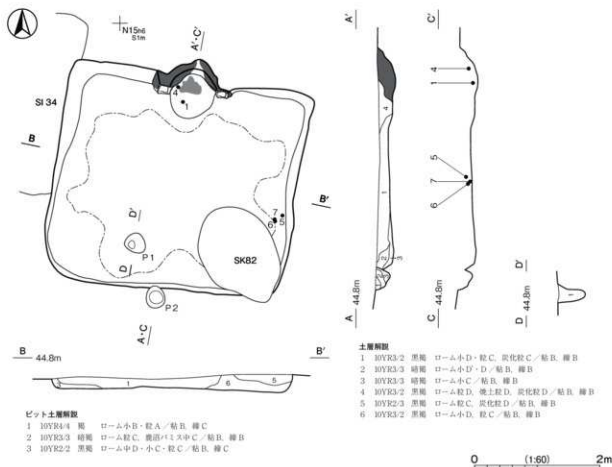
第12号竈穴建物跡 (第43・44図 PL 8)

位置 調査2区北部のN15h6区。標高44mほどの台地上に位置している。

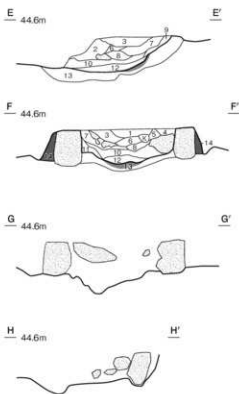
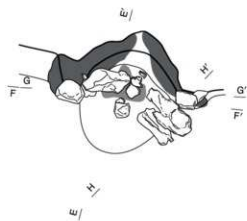
重複関係 第34号竈穴建物跡を掘り込み、第82号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.87m, 短軸3.51mの長方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は15～23cmで外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部がよく踏み締まっている。



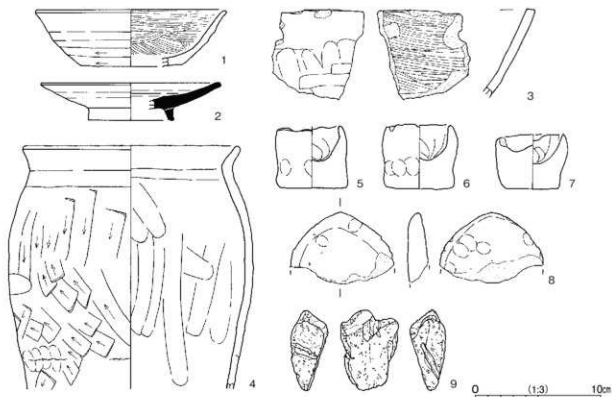
第43図 第12号竈穴建物跡実測図



0 (1:30) 1m

墓土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 砂-ム粒D、炭化物D / 粘土、雜A
- 2 10YR3-3 暗褐色 砂-ム粒C、燒土粒C、炭化物C / 粘土、雜B
- 3 10YR4-3 紅褐色 砂-ム粒C、燒土粒D、炭化物D、砂質粘土粒C / 粘土、雜B
- 4 10YR4-3 紅褐色 砂-ム粒D、燒土小粒D、砂質粘土粒B / 粘土、雜A
- 5 10YR4-3 紅褐色 砂-ム粒D、燒土小C、粘土、砂質粘土粒B / 粘土、雜B
- 6 10YR3-3 暗褐色 砂-ム粒D、燒土小C、粘土、雜B
- 7 10YR4-3 紅褐色 砂-ム粒D、燒土粒D、砂質粘土粒C / 粘土、雜B
- 8 10YR2-3 黑褐色 砂-ム粒D、燒土粒D、炭化物D / 粘土、雜B
- 9 10YR4-3 紅褐色 燒土粒D、炭化物D、砂質粘土粒B / 粘土、雜A
- 10 5YR3-4 暗赤褐色 砂-ム小D、粘土、燒土粒B、炭化物D / 粘土、雜B
- 11 10YR4-3 紅褐色 砂-ム粒D、燒土粒D、炭化物D、砂質粘土粒D / 粘土、雜B
- 12 10YR3-3 暗褐色 砂-ム粒D、燒土粒C / 粘土、雜B
- 13 10YR3-3 暗褐色 砂-ム中D、ムC、粘土、燒土粒D / 粘土、雜A
- 14 10YR4-3 紅褐色 燒土粒D、炭化物D、砂質粘土粒大A / 粘土、雜A



第44圖 第12号堅穴建物跡竈・出土遺物実測図

第27表 第12号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[150]	4.5	[8.1]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部下層・底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土下層	20%
2	須恵器	皿	[142]	3.0	[6.8]	石英・長石・燧石	灰白	不貞	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中	10%
3	土師器	鉢	-	(7.1)	-	石英・長石・雲母・ 鉄燧石	橙	良好	外面口縁部指ナデ 体部ヘラナデ 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	
4	土師器	甕	[170]	(19.0)	-	石英・長石・雲母・ 鉄燧石・赤色粘土	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内 面指ナデ	覆土下層	20%
5	土師器	手捏土器	4.8	4.9	5.3	石英・長石・雲母・ 鉄燧石・赤色粘土	にぶい黄橙	普通	体部外・内面指ナデ 指頭痕	覆土下層	95% PL.23
6	土師器	手捏土器	5.1	5.1	5.2	石英・長石・雲母・ 鉄燧石・赤色粘土	にぶい黄橙	普通	体部外・内面指ナデ 指頭痕	覆土下層	95% PL.23
7	土師器	手捏土器	[4.9]	4.3	4.2	石英・長石・雲母・ 鉄燧石・赤色粘土	にぶい黄橙	普通	体部外・内面指ナデ 指頭痕	覆土下層	90% PL.23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
8	不明 土製品	(8.3)	(5.6)	1.7	(50.26)	石英・長石・雲母・ 赤色粘土	にぶい黄橙	表裏面に指頭痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	浮子	6.4	4.6	2.9	13.89	軽石	側面3か所に階切りによる溝状の加工	覆土中	

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは45cm、燃焼部幅68cmである。竈は、床面を最大15cmほど掘り下げ、第13～15層を充填して整地した上に構築されている。軸部は、先端部に凝灰質泥岩の切石が据え付けた後、砂質粘土主体の第16層を塗り込めて構築されている。凝灰質泥岩の板石が崩れ落ちた状態で出土しており、焚口部の天井に横架されていた補強材と考えられる。火床部は浅い皿状を呈している。火床面は第13層上面で、火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に13cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第4・5・9層は天井部の崩落土である。

ピット 2か所。P1は深さ45cmで、南部の西寄りに位置し、P2は深さ24cmで、南壁中央部の壁外に位置している。

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況をしていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片195点(坏18, 鉢1, 甕類176), 須恵器片19点(坏9, 蓋1, 盤1, 皿1, 甕類4, 手捏土器3), 不明土製品1点, 石製品1点(浮子)が出土している。1・4は竈内及び竈前面の下層から出土している。5～7は手捏土器で、東壁際中央部の下層にまとまって出土している。2・3・8・9は覆土中から散在して出土しており、埋め戻しの際の投棄、もしくは埋土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後半に比定される。手捏土器がまとめられた状態で出土していることから、本跡廃絶に関する祭祀行為があったことが想定される。

第13号竪穴建物跡 (第45・46図 PL.8)

位置 調査2区北部のN15b5区、標高44mほどの台地上に位置している。

重複関係 第30・34号竪穴建物跡を掘り込み、第141・142号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺4.35mの方形で、主軸方向はN-14°-Eである。壁高は21～28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、西部を除き踏み締まっている。

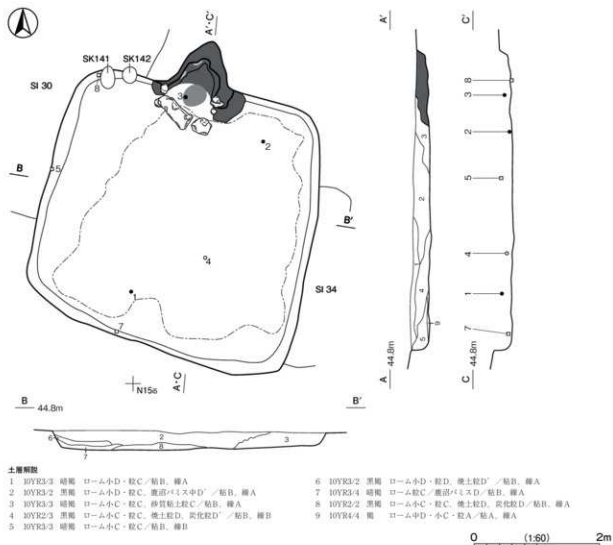
竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは70cm、燃焼部幅72cmである。竈は、床面を20cm

ほど掘り下げ、第11～17・21・22層を充填して整地した上に構築されている。袖部は、砂質粘土を多く含む第18～20層を積み上げて構築されており、両袖の先端部には凝灰質泥岩の切石で補強している。火床部は床面とはほぼ同じ高さで使用している。火床面には作り直しを確認でき、古い火床面を掘り込んだ後、第11・12層を充填して新しい火床面を構築しており、第11層の上面が火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ43cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がり奥壁で直立している。第4層は、砂質粘土主体の天井部の崩落土であり、竈前面から出土した凝灰質泥岩の切石は、焚口部の天井に横架されていたものが崩落したものと考えられる。

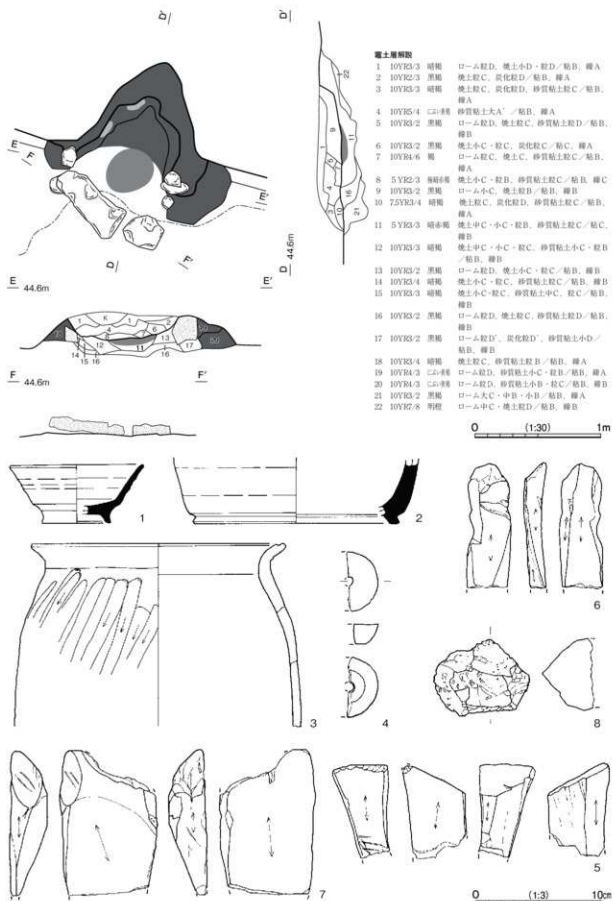
覆土 9層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則的な堆積状況をしていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 459点（坏28、高台付坏1、甕類430）、須恵器片108点（坏89、高台付坏9、蓋2、短頸壺2、甕類6）、土製品1点（紡錘車）、石器5点（剥片2、砥石3）、石製品1点（浮子カ）が出土している。これらは散在して出土していることから、埋め戻しの際に投棄されたものか、埋土に混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第45図 第13号竈穴建物跡実測図



竈土層解説

- | | | | |
|----|----------|-------|----------------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土小D、粒D/粘B、雜A |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 焼土粒C、炭化粒D/粘B、雜A |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 焼土粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜A |
| 4 | 10YR5/4 | 二色赤褐色 | 砂質粘土大A' / 粘B、雜A |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒D、焼土粒C、砂質粘土粒D/粘B、雜B |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 焼土小C、粒C、炭化粒C、粘C、雜A |
| 7 | 10YR4/6 | 黒 | ローム粒C、焼土C、砂質粘土粒C/粘B、雜A |
| 8 | 5YR2/3 | 黄褐色 | 焼土小C、粘B、砂質粘土粒C/粘B、雜C |
| 9 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小C、焼土粒B/粘B、雜B |
| 10 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | 焼土粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜A |
| 11 | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | 焼土中C、小C、粒B、砂質粘土粒C/粘C、雜B |
| 12 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 焼土中C、小C、粒C、砂質粘土小C、粒B/粘B、雜B |
| 13 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒D、焼土小C、粒C/粘B、雜B |
| 14 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 焼土小C、粒C、砂質粘土粒C/粘B、雜B |
| 15 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 焼土小C、粒C、砂質粘土中C、粒C/粘B、雜B |
| 16 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒D、焼土粒C、砂質粘土粒D/粘B、雜B |
| 17 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒D'、炭化粒D'、砂質粘土小D/粘B、雜B |
| 18 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 焼土粒C、砂質粘土粒B/粘B、雜A |
| 19 | 10YR4/3 | 二色赤褐色 | ローム粒D、砂質粘土小C、粒B/粘B、雜A |
| 20 | 10YR4/3 | 二色赤褐色 | ローム粒D、砂質粘土小B、粒C/粘B、雜B |
| 21 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム大C、中B、小B/粘B、雜A |
| 22 | 10YR7/8 | 明橙 | ローム中C、焼土粒D/粘B、雜B |

第46図 第13号竈穴建物跡・出土遺物実測図

第28表 第13号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	風塵器	高台付椀	[106]	4.7	[5.5]	石英・長石	灰	普通	口縁部～体部外・内面ロクロナデ 底部割転へ 少切り後高台貼り付け	覆土中層	40%
2	風塵器	短頸甕	-	[5.2]	[16.2]	石英・長石・細礫	黄灰	普通	底部高台貼り付け 体部内面下端自然軸	床面	
3	土師器	甕	[200]	[14.5]	-	石英・長石・雲母・ 細礫	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面割転へのり積 り	覆土中層	20%
番号	器種	径	厚さ	口径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
4	紡錘車	4.7	1.6	0.7	[17.27]	石英・長石	にぶい黄橙	表面指ナデ		覆土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
5	砥石	(7.4)	4.5	5.0	[15708]	粘板岩	砥面4面 側面に筋状の砥ぎ痕		覆土中層	PL32	
6	砥石	(9.9)	3.6	1.8	[60.83]	粘板岩	砥面3面 側面に自然面が残る		覆土中		
7	砥石	(11.5)	7.2	3.0	[28114]	粘板岩	砥面4面 側面に筋状の砥ぎ痕		覆土下層		
8	浮子	6.1	7.6	(4.2)	[2415]	軽石	部分的に磨蝕による調整痕が残る		床面		

第14号竪穴建物跡 (第47図 PL.8)

位置 調査2区北東部のN16f1区、標高44mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第20・33号竪穴建物跡を掘り込み、第98・128・140・143号土坑に掘り込まれている。第124・130・131号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 北部が削平され、東西軸は5.26m、南北軸は3.88mしか確認できなかった。平面形は、方形もしくは長方形で、主軸方向はN-103°-Eと推定される。壁高は、最大28cmで直立している。

床 平坦で、中央部と竈の前方が踏み締まっている。壁溝は、確認できた範囲内では南壁際の東部で一旦途切れて巡っている。中央から南東寄りの位置に被熱した範囲が確認できた。

竈 東壁北寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは69cm、燃焼部幅58cmである。竈は、床面とほぼ同じ高さの地山の上に直接構築されている。袖部は、砂質粘土を多く含む第13～15層を積み上げて構築され、袖の先端部には凝灰質泥岩の切石が据え付けられている。焚口の天井部に構築されていた凝灰質泥岩の切石が、南壁際の床面上から出土している。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、第12層が火熱を受けて赤変硬化した地山の範囲である。焚口の手前32cmの範囲にまで火熱を受けていた。煙道部は壁外へ44cm掘り込まれ、火床部から段を有し、外傾して立ち上がっている。第2・3・6層は天井部の崩落土である。

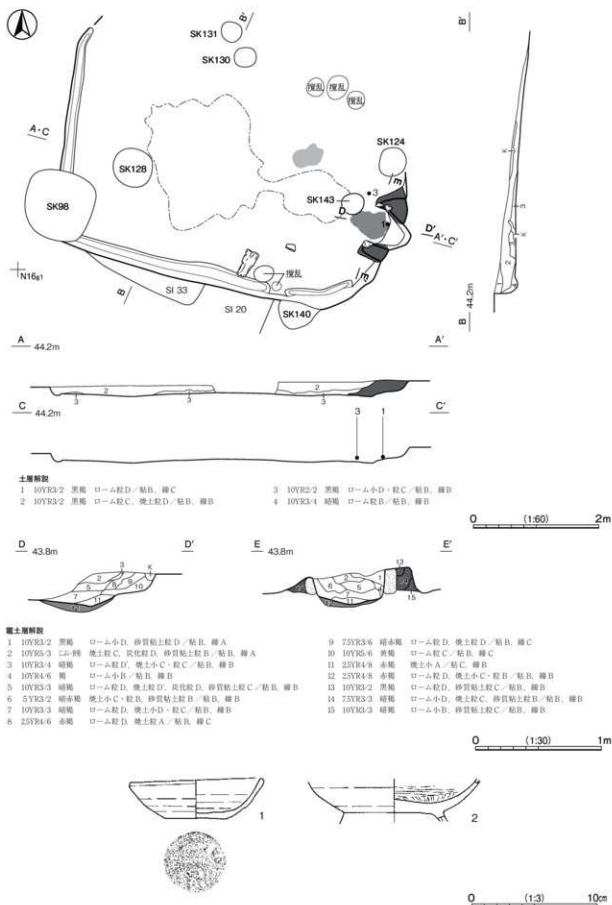
覆土 3層に分層できる。覆土の粒子が均一で、規則的な堆積状況であることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片258点(坏30, 高台付椀1, 甕類227), 須恵器片40点(坏22, 高台付坏3, 蓋2, 甕類13), 石器2点(剥片)が出土している。竈の火床部から煙道に立ち上がる位置から完形の土師器坏1が逆位で出土しており、竈の天井部の崩落土の下から出土していることから竈内に意図的に遺棄した可能性がある。

所見 時期は、出土土器から10世紀中葉に比定される。床面の一部に被熱した範囲がみられるが、焼土や炭化材は確認できなかった。

第29表 第14号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.4	3.3	5.0	石英・長石・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部～体部外・内面ロクロナデ 底部割転糸 切り	竈内底面	100% PL23
2	土師器	高台付椀	-	(3.2)	-	石英・長石・雲母・ 細礫	橙	普通	体部ロクロナデ 底部割転糸切り後高台貼り付 け 内面へ2置き	覆土下層	20%



第47図 第14号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第15号竪穴建物跡（第48～50図 PL 9）

位置 調査2区北部のN15e9区、標高44mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第24号竪穴建物跡を掘り込み、第2号溝、第149号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.58mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は55cmで直立している。

床 平坦で、中央部がよく踏み締まっている。壁溝が全周している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは106cm、燃焼部幅56cmである。袖部は、砂質粘土主体の第15～27層で構築されている。火床部は、袖部構築後に床面を20cmほど掘り下げて、第14層を充填して構築されている。煙道部は壁外へ47cm掘り込まれ、砂質粘土を多く含む第28層を裏込めして構築され、火床部から外傾して立ち上がっている。第29・30層は、ピット状に掘り下げられており、竈構築以前のものと考えられる。

ピット 深さ16cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。第18層がP1の覆土である。

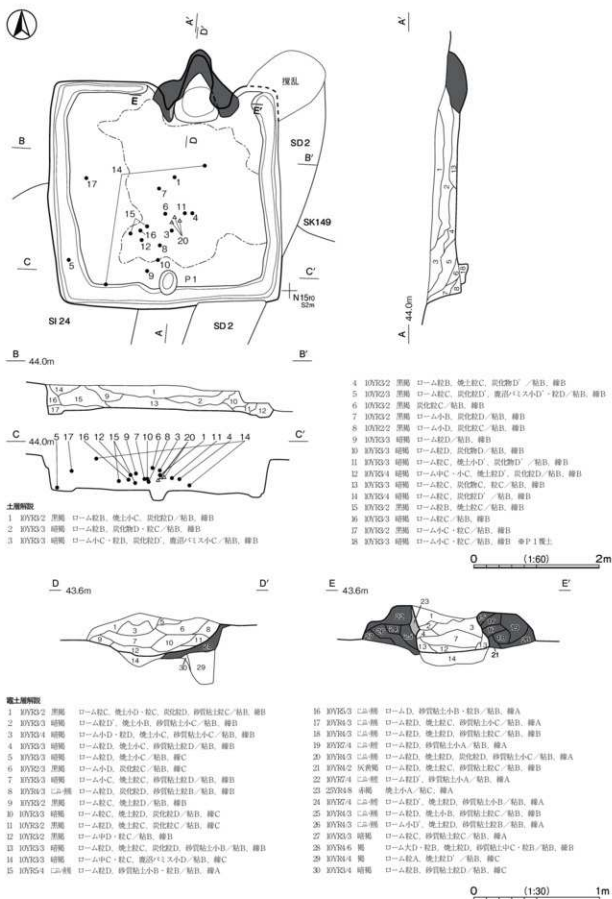
覆土 17層に分层できる。不規則的な堆積状況をしていることから、埋め戻されている。

第30表 第15号竪穴建物跡出土遺物一覧

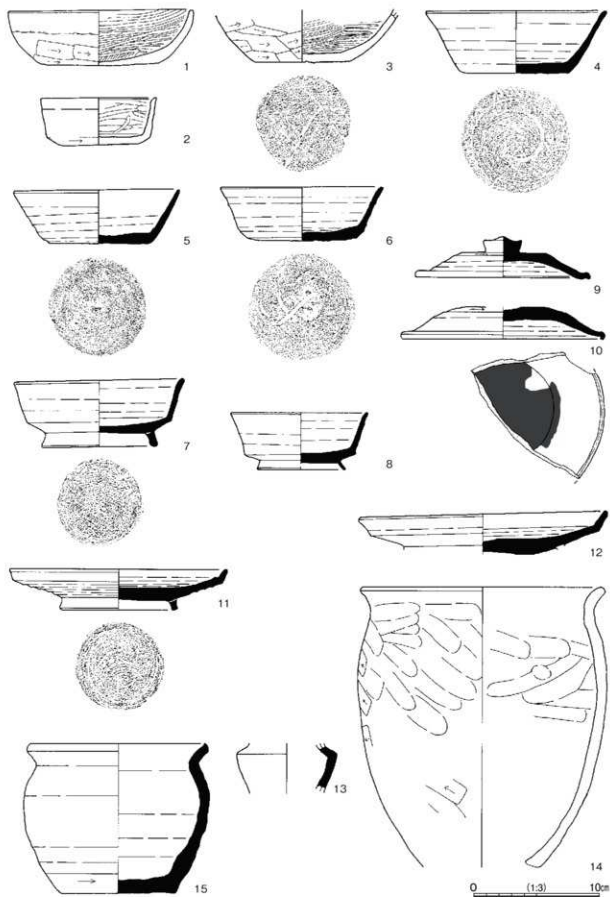
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	145	4.4	94	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端～底部へラ削り 内面へラ磨き	覆土中層	80% PL23
2	土師器	坏	92	3.8	63	石英・長石・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	外面体部口クラナデ 体部下端～底部回転へラ削り 内面へラ磨き 黒色処理	覆土中	40% PL23
3	土師器	坏	-	(42)	75	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面～底部へラ削り 内面へラ磨き 黒色処理	覆土中層	70% PL23
4	須恵器	坏	[142]	4.9	86	石英・長石・雲母・繊維	灰白	普通	底部回転へラ削り	覆土中層	80% PL23
5	須恵器	坏	130	4.4	78	石英・長石・針状鉱物・繊維	灰黄	普通	底部回転へラ削り後指ナデ	覆土下層	80% PL23
6	須恵器	坏	[128]	4.3	88	石英・長石・針状鉱物	灰オレンジ	普通	底部回転へラ削り後手持ちへラ削り	覆土中層	70% PL23 へラ記号「一」
7	須恵器	高台付坏	133	5.3	89	石英・長石・針状鉱物・繊維	灰	普通	底部回転へラ削り後高台貼り付け	覆土中層	80% PL23
8	須恵器	高台付坏	108	5.6	69	石英・長石・針状鉱物・繊維	灰	普通	底部高台貼り付け後指ナデ	覆土中層	70% PL23
9	須恵器	蓋	140	3.3	-	石英・長石・繊維	にぶい赤黒	普通	天井部回転へラ削り後つまみ貼り付け	覆土中層	100% PL23
10	須恵器	蓋	[160]	(26)	-	石英・長石・針状鉱物・繊維	黄灰	普通	天井部回転へラ削り後つまみ貼り付け つまみ欠損 内面摩耗 部付着	覆土中層	20% 転用碗
11	須恵器	盤	[172]	3.2	94	石英・長石・針状鉱物・繊維	灰黄	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	覆土中層	70% PL23
12	須恵器	盤	195	3.4	-	石英・長石・針状鉱物・繊維	灰黄	普通	底部回転へラ削り後高台貼り付け	覆土中層	40% PL23
13	須恵器	短輪甕	-	(40)	-	石英・長石	灰白	普通	体部外・内面口クラ成形	覆土中	10%
14	土師器	甕	190	(222)	-	石英・長石・雲母・針状鉱物	にぶい黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後指ナデ	覆土上層～下層	60% PL23
15	須恵器	甕	[119]	11.9	92	石英・長石・針状鉱物・繊維	にぶい黄橙	普通	口縁～体部外・内面口クラナデ 外面体部下端回転へラ削り	覆土中層	60% PL23
16	須恵器	甕	-	(106)	[122]	石英・雲母・針状鉱物・繊維	浅黄橙	普通	体部外面叩きナデ 内面指痕痕	覆土中層	10% PL23
17	須恵器	甕	-	(149)	-	石英・長石・繊維	黄灰	普通	体部外面叩き目 内面指痕痕	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
18	砥石	14.6	5.4	1.2	[109.6]	粘板岩	砥面4面 裏面剥離	覆土中	PL32
19	砥石	(10.0)	(5.4)	2.2	(73.67)	粘板岩	砥面2面 側面に砥石の砥き目 断面三角形	覆土中	

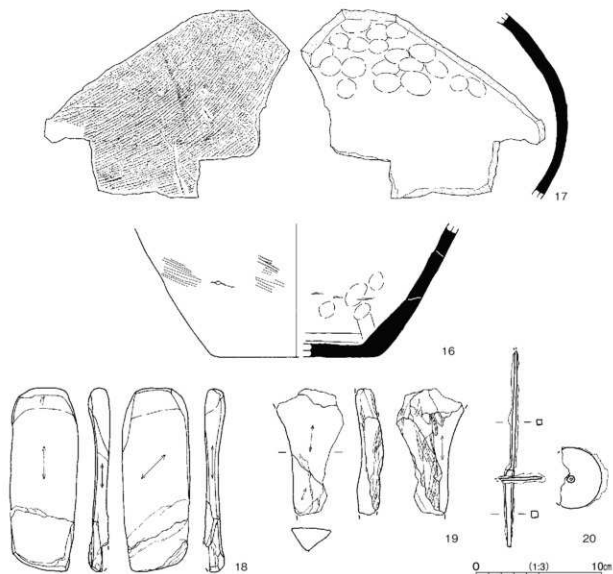
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
20	紡錘車	(15.6)	4.8	0.5～0.6	(26.47)	鉄	紡錘部・紡錘先端部欠損	覆土中層	PL34



第 48 図 第 15 号堅穴建物跡実測図



第49图 第15号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第50図 第15号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片248点(坏75, 甕類173), 須恵器片72点(坏48, 高台付坏14, 蓋2, 盤2, 短頸壺1, 甕類5), 石器6点(剥片3, 砥石3), 金属製品3点(釘2, 紡錘車1)が出土している。中央部を中心に広く散在しており, 覆土中層から多量に出土している。14は, 覆土上層と下層から出土したものが接合しており, 覆土中の遺物は, 一括して投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定される。

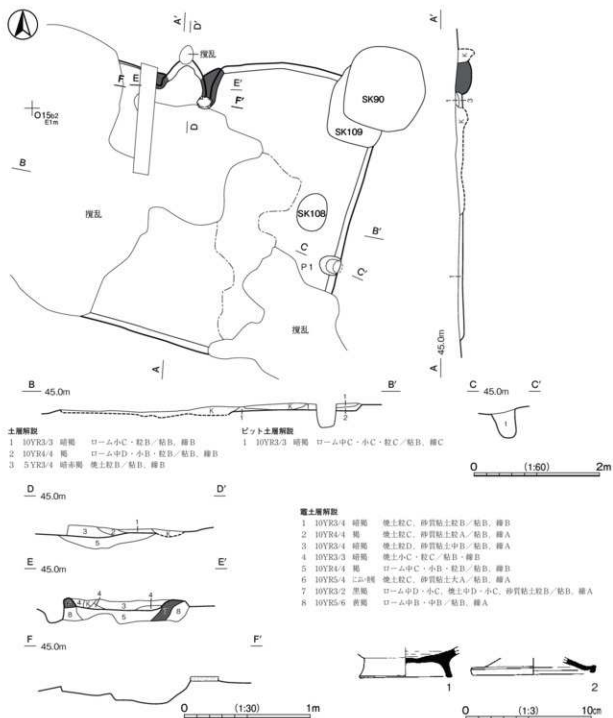
第18号竪穴建物跡 (第51図 PL.9)

位置 調査2区中央部のO15b2区、標高45mの台地上に位置している。

重複関係 第90・108・109号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 攪乱と削平を受けており、南北軸4.75m、東西軸4.02mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-10°-Eと推測できる。壁高は最大10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、西部がよく踏み締まっている。



第51図 第18号竪穴建物跡・出土遺物実測図

竈 北壁に付設されている。焚口部から煙道部までは72cm、燃焼部幅62cmである。竈は、床面を8cmほど掘り下げ、砂質粘土主体の第6・7層と、ローム主体の第8層を積み上げて袖の基部を構築した後、第5層を充填して火床部が構築されている。右袖部の先端には、補強材として凝灰質泥岩が据え付けられている。火床部は床面とほぼ同じ高さで使用しており、煙道部は壁外へ10cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。火床部からは、明確な被熱範囲が確認できなかった。

ピット 深さ47cmで、東壁際に位置している。

覆土 3層に分層できるが、覆土がほとんど残存しておらず、詳しい堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片68点(坏2, 甕類66), 須恵器片25点(坏13, 高台付坏8, 蓋3, 甕類1), 石器3点(石核1, 剥片2)が出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定される。

第31表 第18号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付坏	-	(24)	(7.4)	石英・長石・輝石	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	30%
2	須恵器	蓋	(96)	(1.3)	-	石英・長石	灰	普通	外内面ロケロナデ	覆土下層	

第19号竪穴建物跡 (第52・53図)

位置 調査2区西部のO14e7区、標高44mほどの台地斜面部に位置している。

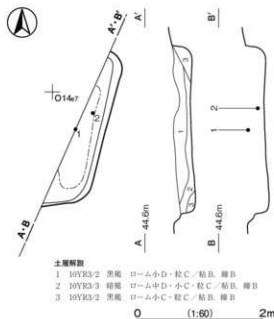
規模と形状 遺構の大半が調査区外に延びており、南北軸2.46m、東西軸0.70mしか確認できなかった。平面形及び主軸方向は不明である。壁高は17～28cmで、直立している。

床 平坦で、東部がよく踏み締まっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含むことから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片7点(甕類), 須恵器片4点(坏), 石器1点(砥石)が出土している。1は第1層から、2は第1層下位から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定される。



第52図 第19号竪穴建物跡実測図

第32表 第19号竪穴建物跡出土遺物一覧

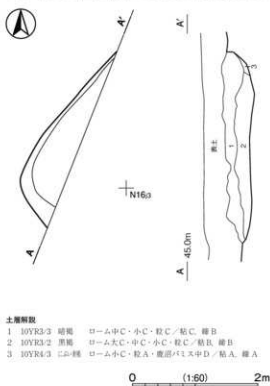
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	126	5.2	6.9	石英・長石・黒色粘土	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後指ナデ	覆土中層	90% PL29
2	須恵器	坏	(129)	4.7	(8.2)	石英・長石・黒色粘土	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後指ナデ	覆土中層	30%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3	砥石	(59)	(4.3)	(0.8)	(25.27)	粘板岩	砥面1面 裏面剥離		覆土中		



第 53 図 第 19 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 22 号竪穴建物跡 (第 54 図)

位置 調査 2 区北東部の N162 区、標高 44 m ほどの台地上に位置している。



土層解説

- 1 10YR3-2 暗褐色 ローム中C・小C・粒C/粒C、礫B
- 2 10YR3-2 黒褐色 ローム中C・中C・小C・粒C/粒B、礫B
- 3 10YR4-3 黒褐色 ローム小C・粒A・鹿沼パリス中D/粒A、礫A

規模と形状 東部が調査区外に延びており、規模は北東・南西軸 2.92m、北西・南東軸 0.92m しか確認できなかった。平面形及び主軸方向は不明である。壁高は 32～48cm で外傾して立ち上がっている。

床 確認できた範囲内ではほぼ平坦で、締まりが弱い。
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含むことから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 8 点 (坏 2, 甕類 6), 須恵器片 3 点 (坏, 盤, 甕) が出土している。いずれも細片で、埋め戻し時に混入した遺物とみられる。

所見 遺構の形態や時期を特定できる遺物は確認できなかったが、隣接する第 5・23 号竪穴建物跡と傾き方向や形状が類似していることから、9 世紀前葉と考えられる。



第 54 図 第 22 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 33 表 第 22 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	須恵器	盤	-	(1.4)	-	石英・長石	黄灰	普通	底部回転へう割り後高台貼り付け		覆土中	

第 23 号竪穴建物跡 (第 55・56 図 PL 9)

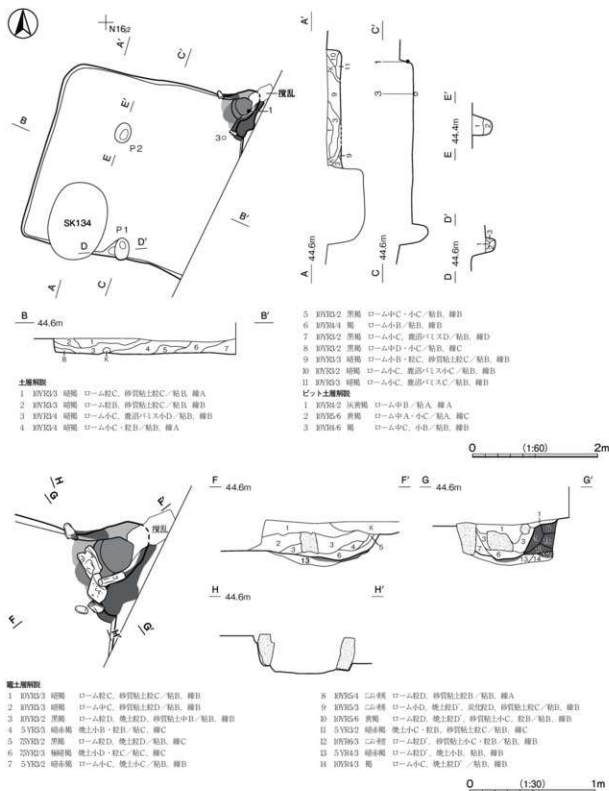
位置 調査 2 区北東部の N162 区、標高 44 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 134 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が調査区外に延びているが、規模は長軸 3.13m、短軸 2.94m である。平面形は方形で、主軸方向は N-14°-E と推定できる。壁高は 20～28cm で、直立している。

床 平坦で、全体的に踏み締まっている。

竈 北東コーナー部に付設されている。煙道部が攪乱を受けており、焚口部から煙道部までは64cmしか確認できなかった。燃燒部幅は35cmである。竈は、床面を12cmほど掘り下げ、砂質粘土を含む第13・14層を充填して整地した上に構築され、袖部は砂質粘土を多く含む第8～12層を積み上げて構築されている。両袖の先端には凝灰質泥岩の切石が据えられており、竈の覆土中からは崩落した状態で切石が出土しており、焚口部



第55図 第23号竈穴建物跡実測図

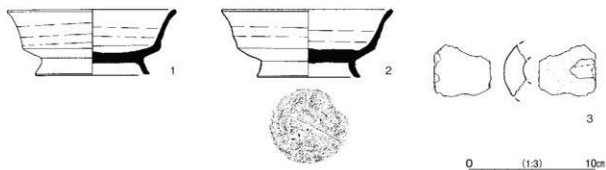
の補強材として構築されていたものと考えられる。火床部は床面より7cmほど掘りくぼんでいる。火床面は第13層上面で、火熱を受け赤変している。煙道部は壁外へ20cm掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。第3層は天井部の崩落土である。

ピット 2か所。P1は深さ22cmで、南壁の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ30cmで、性格は不明である。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則的な堆積状況であることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片22点(坏2、甕類20)、須恵器片10点(坏8、高台付坏2)、土製品2点(羽口)、金属製品6点(不明)、石器1点(敲石)が出土している。1は甕の覆土中層から、2は覆土中から散在して出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定される。



第56図 第23号竪穴建物跡出土遺物実測図

第34表 第23号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付坏	[132]	5.2	9.0	石英・長石	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け 粘土がマーズル状に凝結する	覆土中層	80% P1:24
2	須恵器	高台付坏	135	5.4	8.1	石英・長石・ 黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中	ヘラ記明-J 60%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
3	口取	(5.5)	(4.2)	(1.8)	(22.11)	石英・長石・針状 鉱物・赤色粒子	橙	外縁指痕圧痕	使用による黒変	床面	

第26号竪穴建物跡 (第57・58図 PL 9)

位置 調査2区北部のO15a4区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第27号竪穴建物跡を掘り込み、第146号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.20m、短軸4.97mの方形で、主軸方向はN-18°-Eである。壁高は9cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、全体的に踏み締まっている。

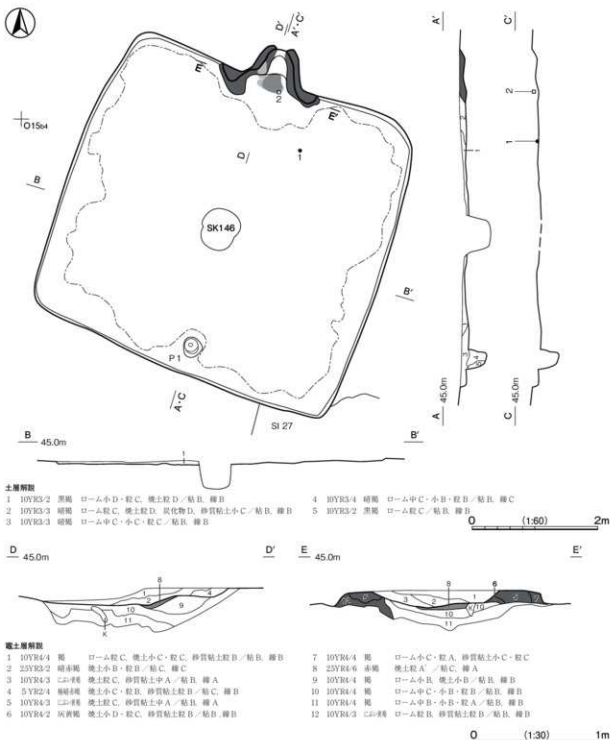
竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは88cm、燃焼部幅76cmである。竈は、床面を28cmほど掘り下げ、左袖部を構築した後、ローム主体の第8～11層を充填して整地し、その上に右袖部を構築している。袖部は、砂質粘土主体の第5～7・12層で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで使用している。火床面は第8層上面で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外へ51cm掘り込み、火床部から段を有し、緩やかに立ち上がっている。

ピット 深さ32cmで、南壁際の中央部に位置することから出入口施設に伴うピットと考えられる。第4・5層がP1の覆土である。

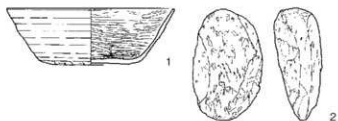
覆土 3層に分層できるが、覆土がほとんど残存しておらず、詳しい堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片175点(坏24, 甕類151), 須恵器片26点(坏25, 甕類1), 石器1点(剥片), 石製品1点(浮子カ)が出土した。1は床面直上から, 2は竈の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から, 9世紀中葉に比定される。



第57図 第26号竈穴建物跡実測図



第58図 第26号竪穴建物跡出土遺物実測図

0 (1:3) 5cm

第35表 第26号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	13.3	4.5	5.9	長石・針状鉱物	にがい黄緑	普通	外・内面ロクロナデ 内面黒色処理	床面	80% PL24
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	浮子か	8.9	5.5	3.8	37.06	軽石	表面研磨による調整			底層土中層	

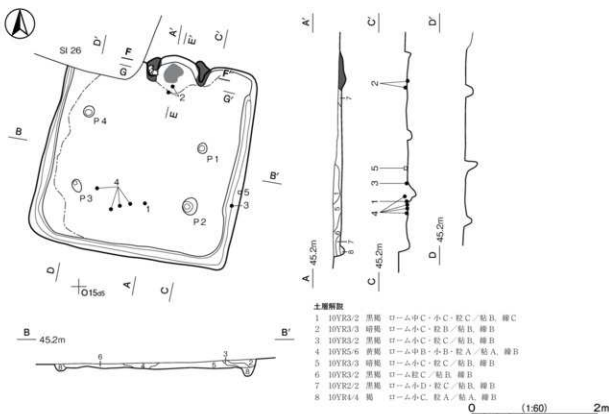
第27号竪穴建物跡 (第59・60図 PL 9)

位置 調査2区北部のO15c5区、標高45mほどの台地上に位置している。

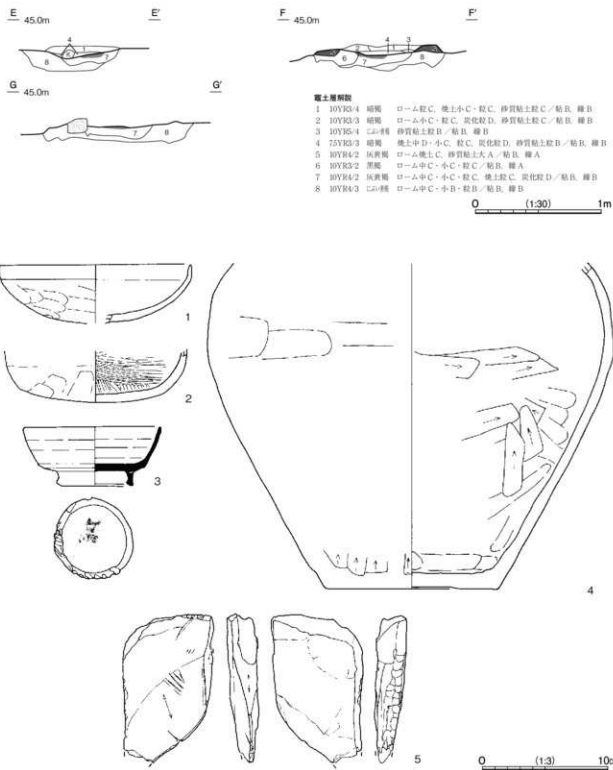
重複関係 第26号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.20m、短軸3.17mの方形で、主軸方向はN-11°-Eである。壁高は4~9cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦で、全体的に踏み締まっている。壁溝は、北壁を除いて巡っている。



第59図 第27号竪穴建物跡実測図



第60図 第27号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第36表 第27号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[152]	(4.6)	-	石英・長石・雲母・針長炭屑	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部～底部外面ヘラ削	床面	40%
2	土師器	坏	-	(4.2)	-	石英・長石・雲母	橙	普通	体部～底部外面ヘラナデ 内面ヘラ磨き	床面	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	須恵器	高台付坏	108	48	61	石英・長石・細礫	褐色	普通	底部高台貼り付け後ナデ 高台に貫状の敷物付痕	床面	95% 「PL24 遺書」出
4	土師器	甕	—	(25.9)	136	石英・長石・雲母・ 細礫	灰褐色	普通	体部外・内面へう刷り 器面貫れ	床面	30%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
5	砥石	(118)	7.3	2.5	(239.20)	粘板岩	砥面2面	側面を鑿状工具により整形	床面	PL32	

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは46cm、燃焼部幅63cmである。竈は、床面を20cmほど掘り下げ、第6～8層を充填して整地した上に構築されている。袖部は、補強材として凝灰質泥岩の切石を掘方の整地と同時に据えた後、砂質粘土主体の第5層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで使用しており、火床面は第6・7層上面で、火熱を受け赤変硬化している。煙道は壁外に9cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

ピット 4か所。P1～P4は深さ9～18cmで、配置から支柱穴と考えられる。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片37点（坏4、甕類33）、須恵器片1点（高台付坏）、石器2点（剥片、砥石）が出土している。1～5は床面直上から出土している。1・2は破片であり埋土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、出土土器から、8世紀後葉に比定される。

第28号竪穴建物跡（第61・62図 PL10）

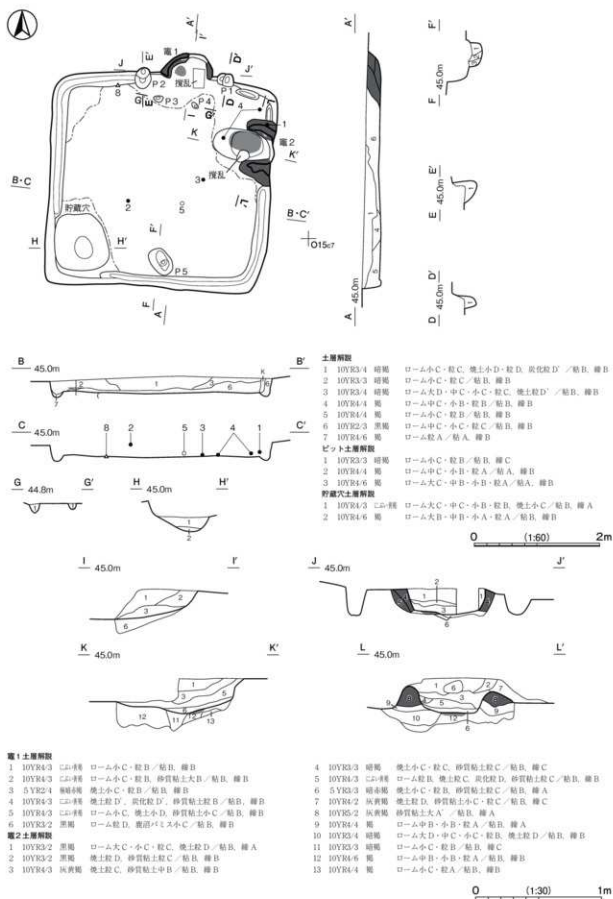
位置 調査2区北部のO15b6区、標高45mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸351m、短軸337mの方形で、主軸方向はN-8°-Eである。壁高は9～19cmで、ほぼ直立している。

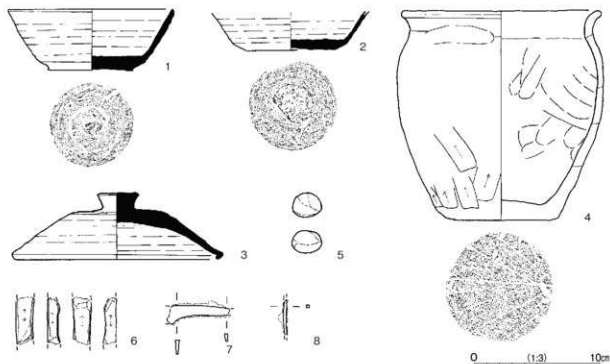
床 平坦で、全体的に踏み締まっている。壁溝は南西コーナー部を除いて巡っている。

竈 2か所。竈1は北壁の中央部からやや東寄りに付設されている。袖部が壊されており、確認できた規模は、火床部から煙道部まで64cm、燃焼部幅56cmである。床面を11cmほど掘り下げ、黒褐色土を主体とした第6層を充填して整地した上に構築されている。燃焼部の内壁は砂質粘土を含む第4・5層を貼って構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで使用しており、火床面は第6層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ37cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。竈2は東壁の北寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは57cm、燃焼部幅45cmである。竈は、床面を19cmほど掘り下げ、ローム土を多く含む第10～13層を充填して整地した上に構築されている。袖部は砂質粘土主体の第8層と、ロームブロックを含む第9層を積み上げて構築されている。火床部は床面から7cm下がっており、第12層上面が火床面で、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外へ9cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がり、奥壁で外傾している。北側の竈1の袖部が整理されていることから、竈1の後に竈2を構築したと思われる。

ピット 5か所。P1・P2は竈1の両側の壁面際に位置し、深さ39cm・40cmで、形状から作り替えが行われたと思われる。P3・P4は竈1の正面に位置し、深さ13cm・9cmである。竈1を挟み対になって存在することから、竈1に伴うピットと考えられる。P5は、南壁際中央部に位置し、深さ32cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。



第 61 図 第 28 号貯穴建物跡実測図



第 62 図 第 28 号竪穴建物跡出土遺物実測図

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。一辺 0.89m ほどの隅丸方形で、深さ 23cm、底面は皿状を呈している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 211 点 (坏 8、甕 203)、須恵器片 34 点 (坏 27、高台付坏 2、蓋 1、壺 1、甕類 3)、土製品 1 点 (不明)、石器 2 点 (剥片、砥石)、金属製品 2 点 (刀子、釘か) が出土している。1 は竈 2 左袖際からほぼ完形に近い状態で出土していることから遺棄された可能性がある。3・4・8 は床面直上から 5 は覆土下層から、2 は覆土上層からそれぞれ出土しており、埋め戻しの際に投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から、9 世紀前葉に比定される。

第 37 表 第 28 号竪穴建物跡出土遺物一覧

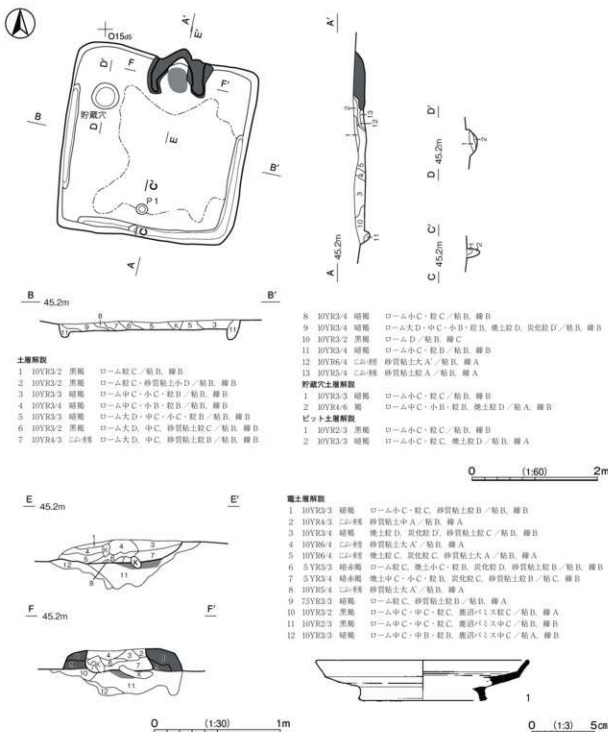
番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	130	49	66	長石	灰	良好	底部回転ヘラ切種指ナデ	胎土に白色粘土がマーズを表に混じり崩れてきぬ副か。	床面	100% PL24
2	須恵器	坏	-	(30)	71	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り		覆土上層	60%
3	須恵器	蓋	158	5.3	-	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け		床面	100% PL24
4	土師器	甕	[154]	16.7	8.8	石英・長石・雲母・針状配物	明赤褐	普通	口縁部外・内面種ナデ	体部外面ヘラ削り種ナデ内面種ナデ 底部木蓋痕	床面	60% PL24
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考	
5	不明土製品	2.4	2.0	1.8	6.91	石英・長石	明褐	手捏ね成型 表面指ナデ		覆土下層		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考		
6	砥石	(3.8)	1.5	1.0	(7.43)	粘板岩	紙面 4 面 両端部欠損		覆土中	PL32		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考		
7	刀子	(5.0)	(1.5)	(0.3)	(5.37)	鉄	片岡 茶臼断面形台形 刃部・茶先端部欠損		覆土中			
8	釘か	(2.8)	0.2	0.2	(1.02)	鉄	断面正方形 両端部欠損		床面			

第29号竪穴建物跡 (第63図 PL10)

位置 調査2区北部のO15d5区、標高45mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.01m、短軸2.89mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は42～47cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部から東部にかけて踏み締まっている。壁溝は西壁際中央部と東壁中央部から南壁の西部にかけて通っており、南壁中央部から西側が浅くなり段差がついている。



第63図 第29号竪穴建物跡・出土遺物実測図

竈 北壁の中央部からやや東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは65cm、燃焼部幅53cmである。竈は、床面を最大21cm掘り下げ、黒褐色主体の第10～12層を充填して整地した上に構築され、袖部は砂質粘土主体の第8・9層を積み上げて構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで使用しており、火床面は第11層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。第4～7層は、天井部の崩落土である。

ピット 南壁際の中央部に位置し、深さ21cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に付設されている。径42mの円形で、深さ13cmの皿状を呈している。覆土は2層に分層でき、ロームブロックを含むことから埋め戻されている。

覆土 13層に分層できる。不規則的な堆積状況であることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器84点（坏6、甕類78）、須恵器1点（盤）覆土中から出土している。いずれも細片で、埋め戻しの際の埋土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定される。

第38表 第29号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	盤	168	32	103	石英・長石	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部高台船り付け	覆土中	10%

第32号竪穴建物跡（第64・65図 PL10）

位置 調査2区北部のO15e2区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第147号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部が大きく攪乱され壊されている。長軸3.23m、短軸3.12mの方形で、主軸方向はN-14°-Eである。壁高は12～21cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み締まっている。

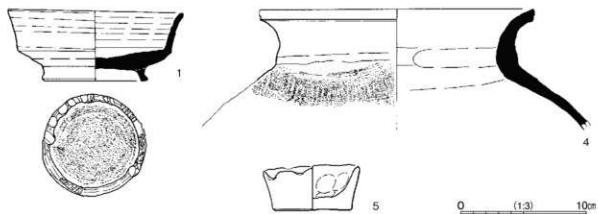
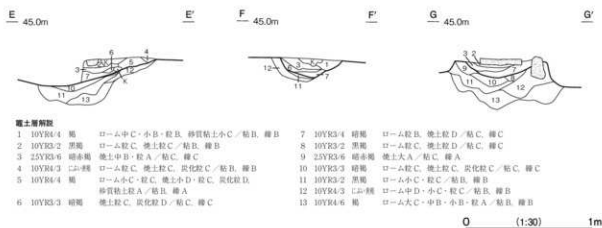
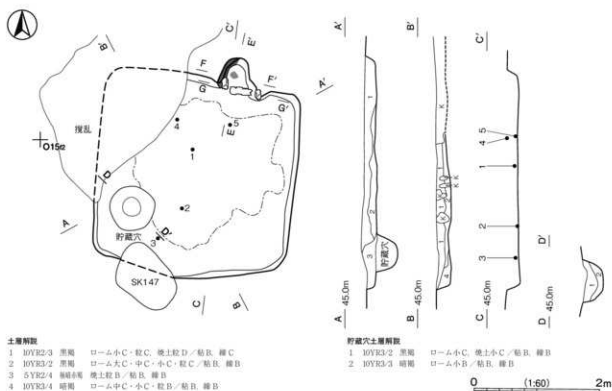
竈 北壁の中央部から東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは56cm、燃焼部幅35cmである。竈は、床面を最大17cm掘り下げて、第8～13層を充填して整地した上に構築されている。袖部は、補強材として凝灰質泥岩の切石を整地と同時に据えた後、砂質粘土とロームを含む土を用いて構築されている。焚口部の覆土中から、同質の石材を用いた板状の切石が崩落した状態で出土しており、焚口天井部の補強材として構築されていたと考えられる。火床面は床面から4cm下がって使用しており、火床面は第8～10層の上面で、部分的に火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外へ41cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。径0.71mの円形で、深さ35cmのU字状を呈している。壁は外傾して立ち上がっている。

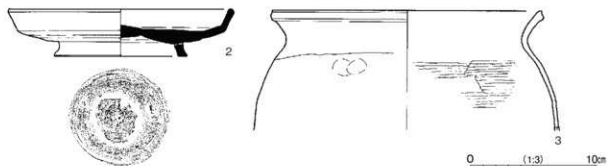
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則的な堆積状況であることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片62点（坏7、高坏1、甕類53、手捏土器1）、須恵器片11点（坏5、高台付坏2、盤1、甕類3）、石器1点（磨石）が出土している。2・5は床面直上から、1・3・4は覆土下層から散在して出土しており、埋め戻しの際に投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から、8世紀後葉に比定される。



第64図 第32号堅穴建物跡・出土遺物実測図



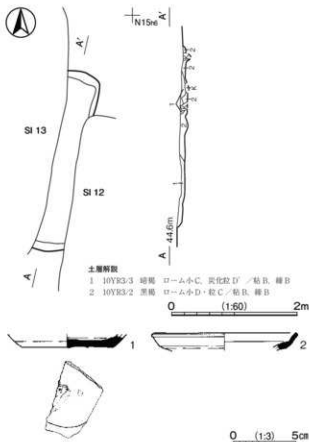
第 65 図 第 32 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 39 表 第 32 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付坏	13.8	5.7	8.0	石英・長石・針状鉱物	灰	普通	底部斜転へラ切縁高台輪り付け後ナデ 高台に黄状の軟物圧痕	覆土下層	80%
2	須恵器	盤	[17.6]	3.8	10.5	石英・長石	黄灰	普通	底部斜転へラ切縁高台輪り付け	床面	60% [17.24]
3	土師器	甕	[21.4]	(9.5)	-	石英・長石・雲母・赤色粒子		普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面指ナデ 裾頸部 内面ハケ目状工具によるナデ	覆土下層	10%
4	須恵器	甕	[22.0]	(9.5)	-	石英・長石	灰黄	普通	口縁部斜転ナデ 体部外面平行叩き 胎土に白色粘土がマーズル状に混じる	覆土上層	10% [17.24]
5	土師器	手捏土器	7.4	3.5	6.0	石英・長石・雲母・針状鉱物	に灰を	普通	体部外面指ナデ 内面細頸痕	床面	90%

第 34 号竪穴建物跡 (第 66 図)

位置 調査 2 区北部の N15h5 区、標高 44 m ほどの台地上に位置している。



第 66 図 第 34 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第 12・13 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 遺構の重複によって壊されており、南北軸 291m、東西軸は 0.53m しか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向は不明である。壁高は 7cm で、外傾して立ち上がっている。

床 やや凹凸があり、締まりが弱い。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則的な堆積状況であることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 17 点 (甕類)、須恵器片 2 点 (坏、盤) が出土している。いずれも細片であり、埋め戻しの際の埋土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、遺構の重複関係から、9 世紀中葉以前と考えられる。

第40表 第34号竪穴建物跡出土物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(1.1)	(7.4)	石英・長石	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	図書 [] PL24
2	須恵器	盤	(11.4)	(1.4)	-	石英・長石	灰	普通	ロクロ成形	覆土中	

第35号竪穴建物跡 (第67図)

位置 調査2区北部のO15g3区、標高44mほどの台地上に位置している。

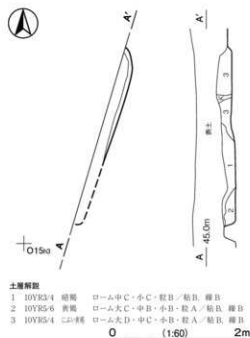
規模と形状 大半が調査区外に延びており、南北軸2.88m、東西軸0.23mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向は不明である。壁高は7cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、締まりが弱い。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則的な堆積状況であることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片8点(甕類)が出土している。いずれも細片であり、図示することができなかった。これらは、埋め戻しの際の埋土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、周辺遺構との主軸方向の関係から、9世紀代と考えられる。



第67図 第35号竪穴建物跡実測図

第36号竪穴建物跡 (第68～70図 PL10)

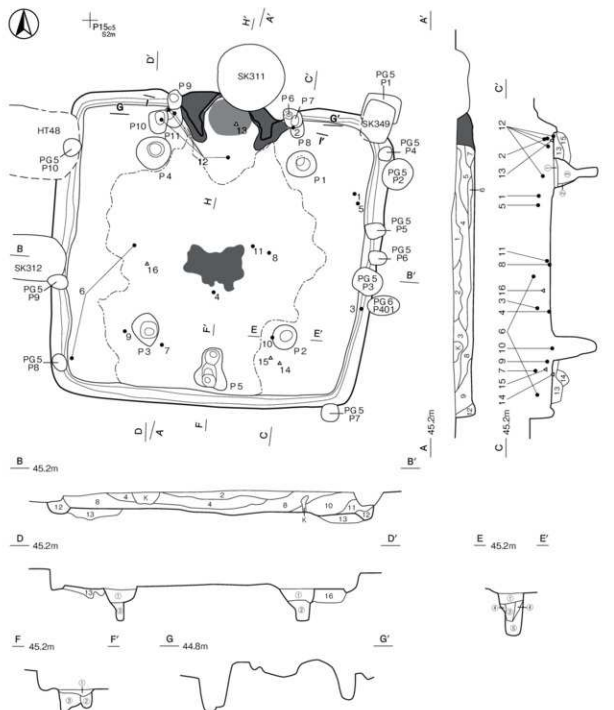
位置 調査2区中央部のP15d5区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第48号方形竪穴遺構、第311・312・349号土坑、第5号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.22m、短軸4.91mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は21～32cmで、直立している。

床 平坦で、中央部から南壁際にかけて踏み締まっている。掘方は、中央部が浅く地山をそのまま床面として利用しているのに対し、壁際は深く黒褐色土を基調とした第13～16層を充填して構築されている。壁溝は全周している。床面の中央部において、東西径93cm、南北径75cmの範囲で火熱を受けて黒変した箇所がみられたが、掘り込みはなく、周辺から灰や炭化物等は出土していない。

竈 北壁の中央部に付設されている。第311号土坑の掘り込みにより煙道部が壊されており、確認できた規模は焚口部から火床部まで88cmである。燃焼部幅は90cmである。竈は、床面を25cmほど掘り下げ、袖部を構築した後、ローム主体の第3～5層を充填し、火床部を構築している。右袖部は、砂質粘土を含む第6～9層を積み上げて構築されている。火床部は、床面とほぼ同じ高さで使用しており、火床面は第3層上面で、火熱を受け変質化している。煙道部は壊されており確認できなかった。竈を挟む様に、ピットが6か所付設されている。



土層解説

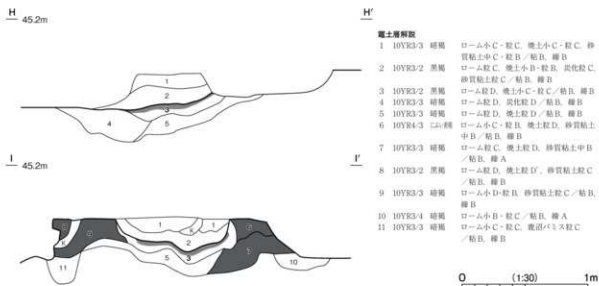
- | | | |
|----|-------------|------------------------------------|
| 1 | 10YR3-3 暗褐色 | ローム小C・焼土粒 D / 粘土 雜土 |
| 2 | 10YR3-3 暗褐色 | ローム小B・粒土・炭化粒 D / 粘土 雜土 |
| 3 | 10YR3-2 黒褐色 | ローム小D・粒土・焼土粒 D / 炭化粒 C / 粘土 雜土 |
| 4 | 10YR2-2 黒褐色 | ローム小D・粒土・焼土粒 C / 砂質粘土中 D / 粘土 雜土 |
| 5 | 10YR4-3 赤褐色 | ローム粒 D、焼土小 C、砂質粘土中 B / 粘土 雜土 |
| 6 | 10YR4-2 灰褐色 | ローム粒 D、焼土粒 D、炭化粒 D、砂質粘土中 B / 粘土 雜土 |
| 7 | 10YR3-3 暗褐色 | ローム粒 D、焼土粒 C、炭化粒 D / 粘土 雜土 |
| 8 | 10YR2-2 黒褐色 | ローム小D・粒土・粘土 雜土 |
| 9 | 10YR2-2 黒褐色 | ローム中D'・小D'・粒土 / 粘土 雜土 A |
| 10 | 10YR3-2 黒褐色 | ローム小C・粒土、炭化粒 D / 粘土 雜土 |
| 11 | 10YR3-2 黒褐色 | ローム小D・粒土、炭化粒 D / 粘土 雜土 A |
| 12 | 10YR3-2 黒褐色 | ローム小D / 粘土 雜土 |
| 13 | 10YR3-2 黒褐色 | ローム中C・小B / 炭化粒 C / 粘土 雜土 A |

- | | | |
|----|-------------|---------------------------|
| 14 | 10YR3-2 黒褐色 | ローム小C、炭化粒 C 中粘土 / 粘土 雜土 |
| 15 | 10YR3-4 暗褐色 | ローム中C・粒土、炭化粒 C 小C |
| 16 | 10YR3-2 黒褐色 | ローム小C、焼土小 C、炭化粒 C / 粘土 雜土 |

ビット土層解説

- | | | |
|---|-------------|------------------------------|
| ① | 10YR3-2 黒褐色 | ローム中C・小B・粒土、炭化粒 D / 粘土 雜土 |
| ② | 10YR2-2 黒褐色 | ローム小D・粒土 / 粘土 雜土 |
| ③ | 10YR3-2 黒褐色 | ローム小C・粒土 / 粘土 雜土 |
| ④ | 10YR3-3 暗褐色 | ローム小B・粒土、炭化粒 C 小C / 粘土 雜土 |
| ⑤ | 10YR3-4 暗褐色 | ローム中C・小B・粒土、炭化粒 C 小C / 粘土 雜土 |

第 68 図 第 36 号堅穴建物跡実測図



第69図 第36号竪穴建物跡実測図

ピット 11 か所。P1～P4 は深さ 49～74cm で、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5 は深さ 36cm で、南壁際の中央部に位置することから出入口施設に伴うピットとみられる。P6～P11 は深さ 40～55cm で、竈を扶むように3本ずつ重複して位置することから作り替えとみられ、性格は不明であるが、竈に伴うピットと考えられる。

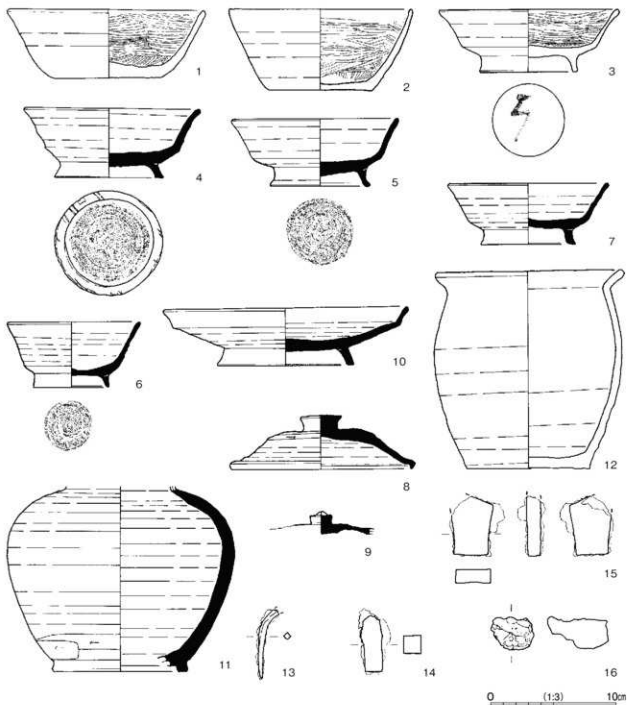
覆土 12層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則的な堆積状況であることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 605 点 (坏 35, 高台付坏 1, 甕類 568, 手捏土器 1), 須恵器片 103 点 (坏 73, 高台付坏 14, 釜 8, 甃 2, 短頸壺 1, 甕類 5), 土製品 1 点 (支脚), 石器 1 点 (磨石), 金属製品 3 点 (釘 1, 不明 2), 鉄滓 1 点が出土している。4・8・10・12～14 は床面直上から出土しており、1～3・5～7・9・11・12・15・16 は覆土の中層から下層にかけて散在して出土している。12 は、床面と覆土中層から出土したものが接合関係にあることから、埋め戻しの際に一括して投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から、8世紀後葉に比定される。

第41表 第36号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	154	5.6	8.4	石英・長石・雲母・黒色粒子	灰白	普通	体部外面クワロナテ 底部手持ちへう張り	内部へう磨き 黒色処理	覆土中層 80% Pl.24
2	土師器	坏	146	6.5	8.2	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰	普通	体部外面クワロナテ 底部手持ちへう張り	内部へう磨き 黒色処理	覆土中層 70% Pl.24
3	土師器	高台付坏	[140]	5.0	7.7	石英・長石・雲母	灰白	普通	体部内面へう磨き	黒色処理 底部高台張り付け後ナテ	覆土中層 黒書 [] 70% Pl.24
4	須恵器	高台付坏	138	5.6	8.6	石英・長石・チヌート	灰白	良好	底部回転へう張り後高台張り付け	高台に置状の 敷物仕立 胎土に白粉粘土がワール長に混じる	床面 90% Pl.24
5	須恵器	高台付坏	133	5.4	7.8	石英・長石・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転へう張り後高台張り付け		覆土中層 へう記号 [] 70% Pl.24
6	須恵器	高台付坏	10.5	5.2	6.0	石英・長石・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転へう張り後高台張り付け		覆土中層 60% Pl.25
7	須恵器	高台付坏	[126]	4.9	[7.6]	石英・長石	灰黄	普通	底部回転へう張り後高台張り付け		覆土中層 40%
8	須恵器	甕	143	4.3	-	石英・長石・黒色粒子	黄灰	普通	天井部回転へう張り後つまみ張り付け		床面 95% Pl.25
9	須恵器	甕	-	(1.8)	-	石英・長石	灰	普通	天井部回転へう張り後つまみ張り付け		覆土下層
10	須恵器	甕	193	4.7	11.0	石英・長石	灰	普通	底部回転へう張り後高台張り付け		90% Pl.25
11	須恵器	短頸壺	-	(14.7)	[10.6]	石英・長石・黒色粒子	灰	普通	体部外面下縁回転へう張り 回転へう張り後高台張り付け	外部留部・内面底部に自然輪	覆土下層 30% Pl.25
12	土師器	甕	147	15.9	9.8	石英・長石・雲母	灰	普通	体部内外面クワロナテ		床面 覆土中層 70% Pl.25



第70図 第36号竪穴建物跡出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	釘	(5.5)	(1.6)	(0.6)	(4.93)	鉄	断面形方形 頭部欠損 曲がっている	床面	
14	不明	(4.5)	(1.7)	(1.4)	(42.80)	鉄	断面形方形	床面	
15	不明	(4.8)	(3.3)	1.1	(39.77)	鉄	断面形長方形 先端部欠損	覆土中層	
16	輪状洋	(4.9)	(3.5)	2.6	(38.22)	鉄	多孔質	覆土中層	

第 37 号竪穴建物跡 (第 71・72 図 PL10)

位置 調査 2 区中央部の P15 区、標高 45 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 規模は長軸 4.17m、短軸 3.75m である。平面形は長方形で、主軸方向は N - 10° - E である。壁高は 20 ~ 29cm で直立している。

床 平坦で、全体的に踏み締まっている。壁溝は全周している。

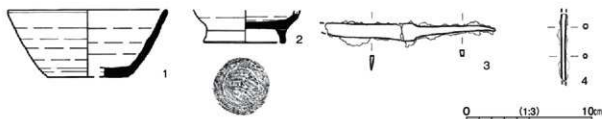
竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 76cm で、燃焼部の幅は 69cm である。右袖部は地山の上に砂質粘土を多く含む第 6 層を積み上げて構築している。火床部は、床を 16cm ほど掘り下げ、第 7 ~ 11 層を充填して構築している。第 7 層上面が火床面で、火熱を受け赤変している。火床部から煙道部に立ち上がる位置に凝灰質泥岩の切石を用いた支脚が据え付けられており、第 8 層が支脚据え付けに伴う埋土と考えられる。煙道は壁外へ 50cm 掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。第 2・4 層は、天井部の崩落土である。

ピット 6 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 18 ~ 26cm で、配置から支柱穴と考えられる。P 5 は深さ 48cm で、南壁際の中央部に位置しており、南壁面に向かって傾くように開口している。位置と形状から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 18cm で、性格は不明である。

覆土 10 層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則的な堆積状況であることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 124 点 (坏 3, 甕 121), 須恵器片 16 点 (坏 13, 高台付坏 1, 甕 2), 石製品 1 点 (支脚), 金属製品 2 点 (刀子, 釘) が出土している。2・3 は覆土下層から、1・4 は覆土上層から散在して出土している。竈の火床部に据え付けられた支脚は原位置を保持していたものの、風化が激しく図示することができなかった。

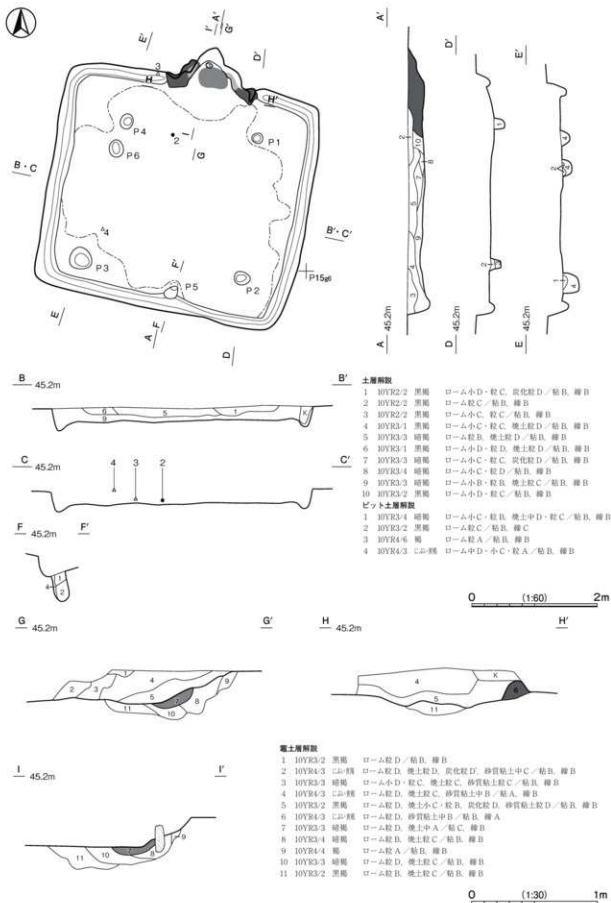
所見 時期は、出土土器から、9 世紀中葉に比定される。



第 71 図 第 37 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 42 表 第 37 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[126]	5.3	6.4	石英・長石・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後指ナゲ	覆土中層	20%
2	須恵器	高台付坏	-	(2.6)	6.6	石英・長石・針葉植物・黒色粒子	に灰質焼	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	40%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
3	刀子	(136)	1.4	0.4	(3.11)	鉄	断面形三角形	両側	先端部欠損	覆土下層	PL33
4	釘	(53)	0.4	0.4	(3.49)	鉄	断面形方形	両端部欠損		覆土上層	



第72図 第37号堅穴建物跡実測図

第 38 号竪穴建物跡 (第 73・74 図 PL11)

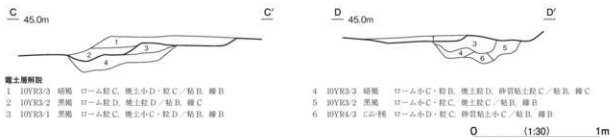
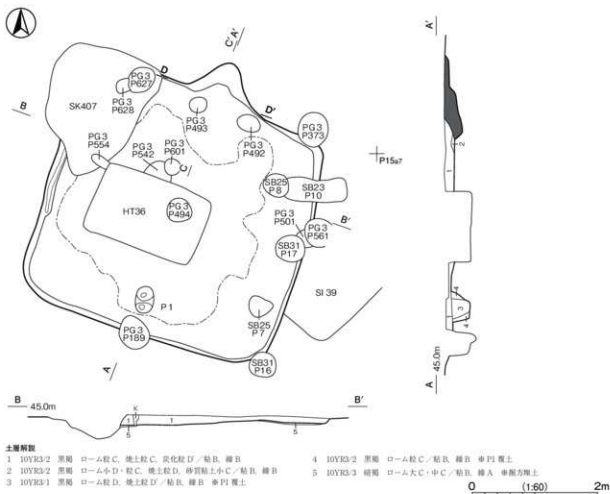
位置 調査 2 区中央部の O15j5 区、標高 45 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 39 号竪穴建物跡を掘り込み、第 23・25・31 号掘立柱建物、第 36 号方形竪穴遺構、第 407 号土坑、第 3 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.25m、短軸 4.00m の方形で、主軸方向は N - 21° - E である。壁高は 7cm で、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み締まっている。壁溝は西壁際の中央部において部分的に確認できた。掘方は、東西の壁際にわずかに確認でき、ロームブロックを含む第 5 層を埋土して床面を整地している。

竈 北壁の中央部に付設されている。袖部は残存しておらず規模は不明である。火床部は、床面を最大 14cm 掘り下げ、第 3 ~ 6 を充填して構築されている。煙道部は壁外 60cm 掘り込み、火床部から緩やかに立ち上がっている。



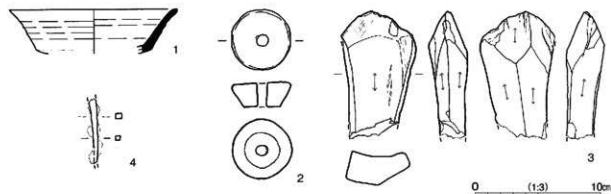
第 73 図 第 38 号竪穴建物跡実測図

ピット 南壁際の中央部に位置し、深さ29cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層に分層できる。覆土の遺存状況が悪く、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片106点(坏17, 甕類89), 須恵器片26点(坏21, 高台付坏1, 蓋1, 甕類3), 土製品1点(紡錘車), 石器1点(紙石), 金属製品1点(釘)が出土している。細片が多く、覆土中から散らして出土している。

所見 時期は、出土土器から、8世紀後葉に比定される。



第74図 第38号竪穴建物跡出土遺物実測図

第43表 第38号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付坏	[134]	[35]	-	石英・長石	黄灰	普通	外内面口ロナデ	覆土中	10%
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
2	紡錘車	4.7	2.0	0.9	36.14	石英・長石・重母・針状産物・磁障	にぶい橙	断面形進台形	表面指ナデ	覆土中	PL31
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3	紙石	(10.1)	(5.9)	3.1	(157.76)	粘板岩	紙面6面	1面がU字状に彎曲	覆土中	PL32	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
4	釘	(5.1)	(0.6)	(0.5)	(4.97)	鉄	断面形方形	両端部欠損	覆土中		

第41号竪穴建物跡 (第75図)

位置 調査2区中央部のO15h3区、標高45mほどの台地上に位置している。

規模と形状 遺構の大半が西側の調査区外に延びており、南北軸4.06m、東西軸1.24mしか確認できなかった。また、削平により、遺構確認時には床面がほとんど露出した状態であった。平面形は、方形または長方形と推定でき、主軸方向は不明である。

床 はほぼ平坦で、中央部から南部にかけて踏み締まっている。掘方は、全体に5～25cmほど掘りくぼめ、ロームブロックを含む第3～6層を埋土して構築している。第3層上面の締まりが強い。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

所見 時期は、周辺遺構の主軸方向との関係から、奈良・平安時代と考えられる。

第42号竪穴建物跡 (第76図)

位置 調査2区中央部のO152区、標高45mほどの台地上に位置している。

規模と形状 遺構の大半が西側の調査区外に延びており、南北軸3.52m、東西軸0.58mしか確認できなかった。また、南壁が削平されており、平面形は、方形または長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。

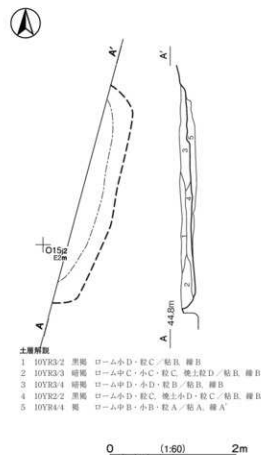
床 ほほ平坦で、中央部が踏み締まっている。掘方は、10cmほど掘りくぼめ、ロームブロックを含む第5層を埋土して構築しており締まりが強い。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則的な堆積状況であることから埋め戻されている。

所見 時期は、周辺遺構の主軸方向との関係から、奈良・平安時代と考えられる。



第75図 第41号竪穴建物跡実測図



第76図 第42号竪穴建物跡実測図

第43号竪穴建物跡 (第77図 PL11)

位置 調査2区中央部のP15e1区、標高44mほどの台地上に位置している。

重複関係 第453号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 大部分が削平され、南北軸295m、東西軸2.09mしか確認できなかった。平面形は方形、または長方形で、主軸方向はN-2°-Eと推定できる。

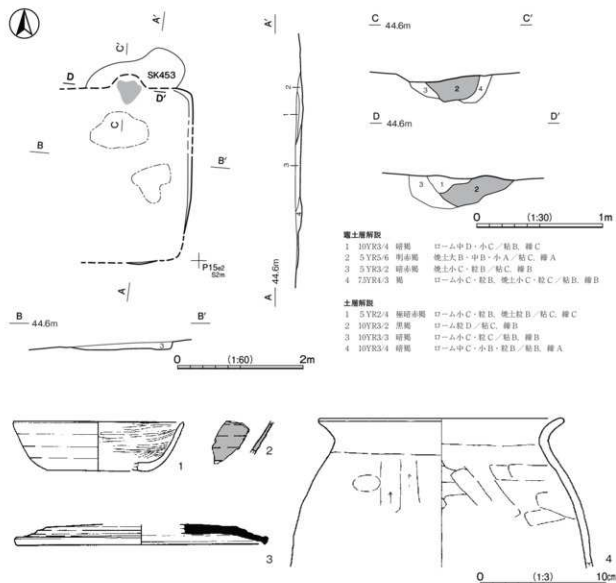
床 平坦で、竈の正面と中央部の東寄り部分が部分的に踏み締まっている。

竈 北壁に付設されている。削平により火床部が露出した状態で、袖部は確認できなかった。火床部は、第453号土坑の覆土を掘り込んで構築されており、第2層上面が火床面である。最大26cm掘り下げ、ロームを含む第1～4層を充填して構築しており、確認できたのは南北42cm、東西40cmの範囲のみである。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片35点(坏5、甕類30)、須恵器片6点(坏3、高台付坏1、蓋1、盤1)、灰軸陶器片1点(椀)が出土している。いずれも細片で、覆土中から散在して出土している。

所見 時期は、出土土器から、9世紀前葉に比定される。



第77図 第43号竈穴建物跡・出土遺物実測図

第44表 第43号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	数	備考	出土位置	備考	
1	土師器	坏	[134]	39	[79]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	黒色処理		覆土中	20%	
2	灰釉陶器	甌	-	(26)	-	長石・黒色粒子	灰黄緑	良好	体部外・内面クロナサ	外面施釉		覆土中		
3	須恵器	蓋	[198]	(16)	-	石英・長石	にぶい橘	普通	天井部回転ヘラ削り			覆土中	10%	
4	土師器	羹	[196]	(128)	-	石英・長石・雲母	黒黒	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面ヘラ削り後ナデ	指痕	内面ヘラナ	覆土中	10%

第45表 奈良・平安時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁塗	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)	(cm)				柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2	N1560	N-3'-W	方形	3.82 × 3.70	28 ~ 38	平坦	ほぼ全周	-	2	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、金属製品	9世紀前半	本跡→SD4	
3	N1580	N-19'-E	長方形	3.70 × 3.22	15 ~ 26	平坦	ほぼ全周	-	2	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、石器、金属製品	9世紀前半	本跡→SK58・61 跡大建物	
4	N1566	N-19'-E	方形	2.70 × 2.38	23 ~ 25	平坦	一部	-	1	1	北壁	-	人為	土師器、須恵器、金属製品、石	8世紀後半		
5	N1664	N-54'-W	方形	2.42 × 2.37	45 ~ 61	平坦	-	-	1	1	北壁	-	人為	土師器、須恵器	8世紀後半		
7	N1568	N-4'-E	方形	3.42 × 3.32	25 ~ 43	平坦	全周	-	1	1	北壁	-	人為	土師器、須恵器	9世紀前半	本跡→SK66・67	
8	N1564	-	-	2.80 × (2.18)	0 ~ 13	平坦	-	-	1	-	-	-	不明	土師器、石器	9世紀代	本跡→SK70	
9	N1584	N-3'-W	方形	3.12 × 3.00	25 ~ 51	平坦	一部	-	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	9世紀前半	SK88 → 本跡	
10	N157	N-9'-E	長方形	3.82 × 2.97	0 ~ 11	平坦	-	-	1	-	北壁	-	不明	土師器、須恵器	3世紀前半 - 9世紀前半	本跡→SK77・78・86	
12	N1566	N-10'-E	長方形	3.87 × 3.51	15 ~ 23	平坦	-	-	2	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、土製品	9世紀後半	SE31 → 本跡→SK92	
13	N1565	N-14'-E	方形	4.35 × 4.35	21 ~ 28	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、土製品、石器	9世紀前半	SD4 → 本跡 → SK141・142	
14	N1601	N-103'-E	[方形・長方形]	5.26 × (3.88)	0 ~ 28	平坦	全周	-	-	-	東壁	-	自然	土師器、須恵器、石器	10世紀中葉	SD2・3 → 本跡 → SK98・120・10・113	
15	N1569	N-7'-E	方形	3.58 × 3.58	48 ~ 55	平坦	全周	-	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、石器、金属製品	8世紀後半	SD24 → 本跡 → SD2、SK189	
18	O1582	N-10'-E	[方形・長方形]	4.75 × (4.02)	0 ~ 10	平坦	-	-	-	1	北壁	-	不明	土師器、須恵器、石器	9世紀前半	本跡→SK90・106・109	
19	O1467	-	-	(2.86) × (0.70)	17 ~ 28	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器、須恵器、石器	9世紀中葉		
22	N1662	-	-	(2.92) × (0.92)	32 ~ 48	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器、須恵器	9世紀前半		
23	N162	N-14'-E	方形	3.13 × 2.94	20 ~ 28	平坦	-	-	1	1	北壁	-	人為	土師器、須恵器、土製品、金属製品、石器	9世紀後半	本跡→SK134	
26	O1564	N-18'-E	方形	5.20 × 4.97	5 ~ 9	平坦	-	-	1	-	北壁	-	不明	土師器、須恵器、石器	9世紀中葉	SE27 → 本跡 → SK146	
27	O15c5	N-11'-E	方形	3.20 × 3.17	4 ~ 9	平坦	ほぼ全周	4	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	8世紀後半	本跡→SE26	
28	O1566	N-8'-E	方形	3.51 × 3.37	9 ~ 19	平坦	ほぼ全周	-	1	4	東壁	1	人為	土師器、須恵器、土製品、金属製品	9世紀前半		
29	O1565	N-9'-E	方形	3.01 × 2.89	42 ~ 47	平坦	一部	-	1	-	北壁	1	人為	土師器、須恵器	9世紀後半		
32	O15e2	N-14'-E	方形	3.23 × 3.12	12 ~ 21	平坦	-	-	-	-	北壁	1	人為	土師器、須恵器	8世紀後半	本跡→SK147	
34	N1565	-	-	(2.91) × (0.53)	7	凹凸	-	-	-	-	-	-	人為	土師器	9世紀中葉	本跡→SE12・13	
35	O15g3	-	-	(2.88) × (0.23)	7	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器	9世紀代		
36	P1565	N-3'-E	方形	5.22 × 4.91	21 ~ 32	平坦	全周	4	1	6	北壁	-	人為	土師器、須恵器、石器、金属製品、土製品	8世紀後半	本跡→HT46、SE311・312・304、PG3	
37	P1565	N-10'-E	長方形	4.17 × 3.75	20 ~ 29	平坦	全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、石器、金属製品	9世紀中葉		
38	O15j5	N-21'-E	方形	4.25 × 4.00	7	平坦	一部	-	1	-	北壁	-	不明	土師器、須恵器、石器、金属製品	SE39 → 本跡→SE23・25・31、HT36、SK497、PG3		
41	O15h3	-	[方形・長方形]	(4.06) × (1.24)	0 ~ 10	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器	8世紀後半	跡・平岡式	
42	O15k2	-	[方形・長方形]	(3.52) × (0.58)	0 ~ 17	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器	8世紀後半	跡・平岡式	
43	P15e1	N-2'-E	[方形・長方形]	(2.96) × (2.09)	0 ~ 12	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、灰釉陶器	9世紀前半	SK453 → 本跡	

(2) 掘立柱建物跡

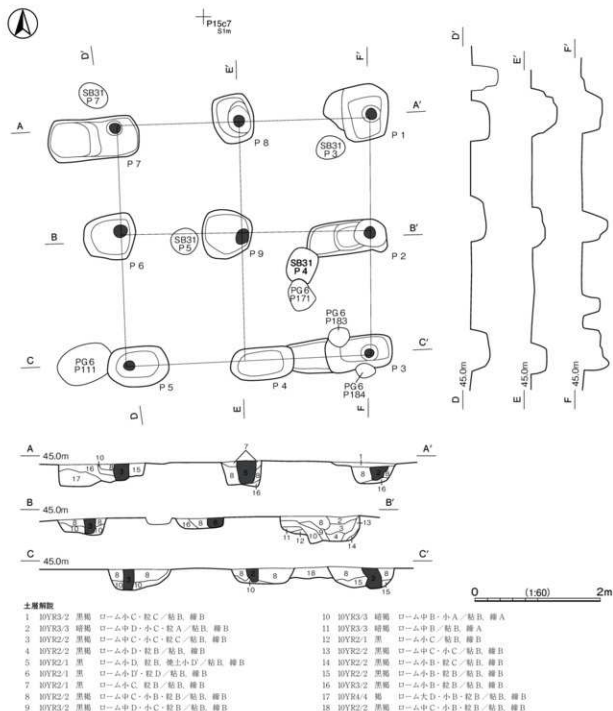
第32号掘立柱建物跡 (第78図 PL11)

位置 調査2区中央部のP15d7区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第6号ピット群を掘り込み、第31号掘立柱建物、第6号ピット群に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向がN-86°-Eの東西棟である。規模は桁行4.26m、梁行3.95m、面積は16.83m²である。柱間寸法は、桁行1.9(6尺)~2.4(8尺)m、梁行1.6(5尺)~2.2(7尺)mである。柱筋は揃っているが、ややいびつである。

柱穴 9か所。平面形は隅丸長方形または不整形形で、規模は長軸0.80~1.45m、短軸0.50~0.64mである。



第78図 第32号掘立柱建物跡実測図

深さは17～45cmで、掘方の壁面は直立または外傾している。9か所ある柱穴の内、南面中央のP4を除き、底面に柱の当たり痕跡が確認できた。当たり痕跡は径14～24cmである。土層断面では、P2を除き柱痕跡が確認でき第2・3・5・6層が柱痕跡である。P2は柱を抜き取ったとみられ、第2～4層が抜き取り痕と思われる。

遺物出土状況 弥生土器片4点、土師器片22点が出土している。いずれも細片で図示することができず、表面が摩滅しているものが多くみられることから埋土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、柱の掘方形状が、中世以降のものに比べ広いことや、周辺遺構の主軸方向との関係から、奈良・平安時代と考えられる。

第34号掘立柱建物跡（第79図 PL11）

位置 調査2区中央部のP15e7区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第458・474号土坑を掘り込み、第6号ピット群に掘り込まれている。第457号土坑との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行は、北辺4間、南辺3間、梁行2間の掘立建物跡で、桁行方向がN-87°-Eの東西棟である。規模は桁行6.91～7.20m、梁行3.50～3.67m、面積は25.29㎡である。柱間寸法は、桁間1.43～3.55m（5尺～12尺）、梁間1.45～2.20m（5尺～7尺）で、柱筋は概ね揃っている。建物中央部のP12は、間仕切り柱と考えられる。

柱穴 12か所。平面形は円形、楕円形、隅丸方形、不整形と統一性がない。規模は長軸35～86cm、短軸32～69cm、深さは16～45cmで、掘方の壁は直立または外傾して立ち上がっている。P6・P9・P12において土層断面で柱痕跡が確認された。P2・P4・P11・P12においては柱穴の底面から柱の当たりが確認でき、硬化範囲は円形で、径は15～20cmである。

遺物出土状況 土師器片8点（甕）がP3・P5・P6から出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、柱の掘方形状が、中世以降のものに比べ広いことや、周辺の遺構の主軸方向との関係から、奈良・平安時代と考えられる。

第35号掘立柱建物跡（第80・81図）

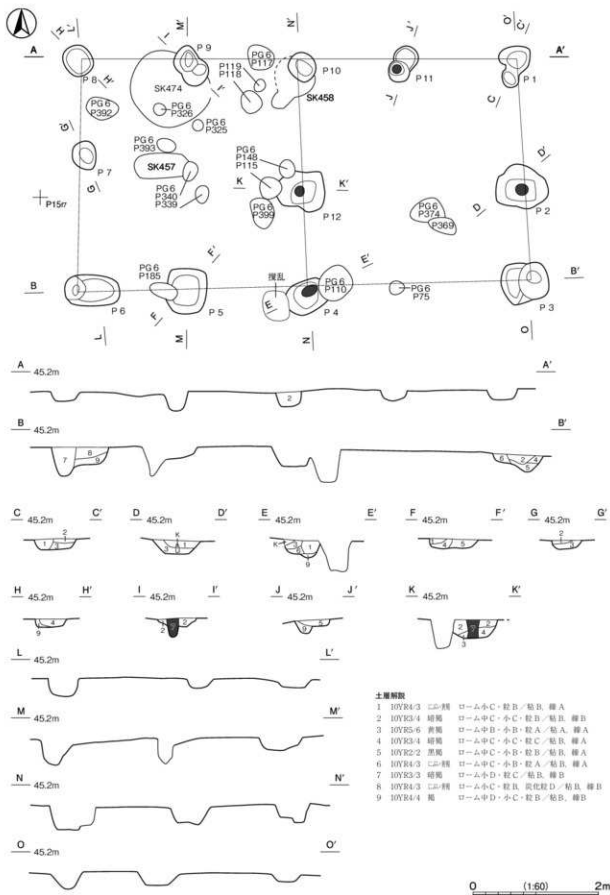
位置 調査2区中央部のP16c1区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第6号ピット群を掘り込み、第33・41・53・54号方形竪穴遺構、第279・326号土坑、第6号ピット群に掘り込まれている。第276～278・280・281・324号土坑との新旧関係は不明である。

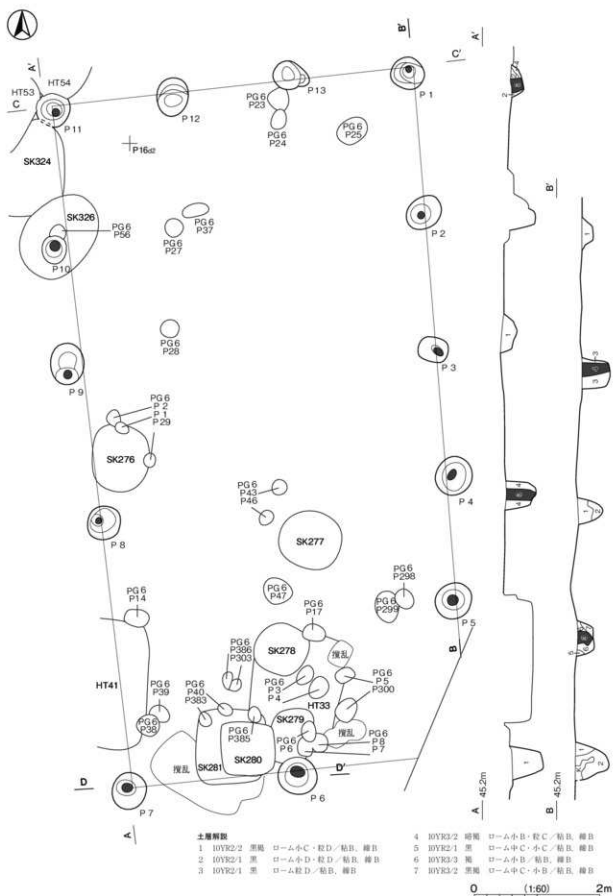
規模と構造 南東部が調査区外に延びており、また他の遺構との重複から、確認できた規模は桁行4間、梁行は北辺3間、南辺2間である。掘立建物跡で、桁行方向がN-8°-Wの南北棟である。規模は桁行10.85m、梁行5.76m、面積は62.50㎡である。柱間寸法は、桁間2.25～2.60m（8尺～9尺）、梁間1.88～2.76m（6尺～9尺）で、柱筋は概ね揃っている。

柱穴 13か所。平面形は円形で、規模は径40～65cm、深さは19～55cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P2・P4・P6・P8・P11において土層断面で柱痕跡が確認でき、P12・P13を除く柱穴からは底面から柱の当たりが確認できた。柱痕跡は円形で、径は10～23cmである。

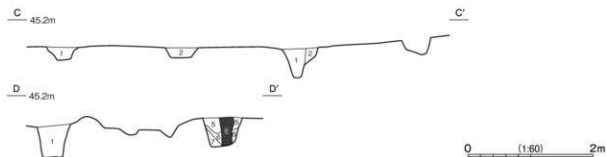
遺物出土状況 土師器片45点、須恵器片1点がP1・P3～P6・P8・P11の覆土及び埋土中から出土している。いずれも細片で図示することができなかった。構築時の埋土に混入した遺物と考えられる。



第79図 第34号掘立柱建物跡実測図



第 80 図 第 35 号獨立柱建物跡実測図 (1)



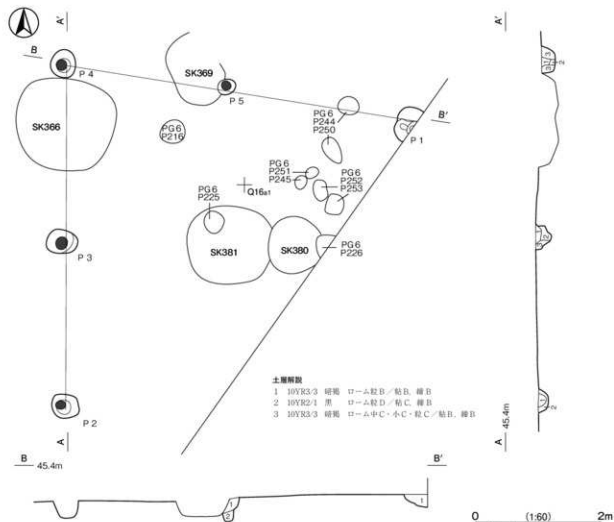
第81図 第35号掘立柱建物跡実測図(2)

所見 柱の掘方形状が、中世以降のものに比べ広く、構築時の埋土も黒色土主体の締まりの弱い土である。また、主軸方向は中世以降の建物が東に振れているのに対し、やや西に振れていることなどから、本跡の時期は奈良・平安時代と考えられる。

第36号掘立柱建物跡 (第82図)

位置 調査2区南東部のP150区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第369号土坑に掘り込まれている。第366・380・381号土坑、第6号ピット群との新旧関係は不明である。



第82図 第36号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 南東部が調査区外に延びており、桁行2間、梁行2間しか確認できなかった。欄柱建物跡で、桁行方向は不明である。確認できた規模は北辺5.67m、西辺5.45m、面積は20.52㎡である。柱間寸法は、北辺2.58～3.00m（9尺～10尺）、西辺2.62～2.84m（9尺）で、柱筋は通っているが、北西コーナー部が鋭角に折れている。

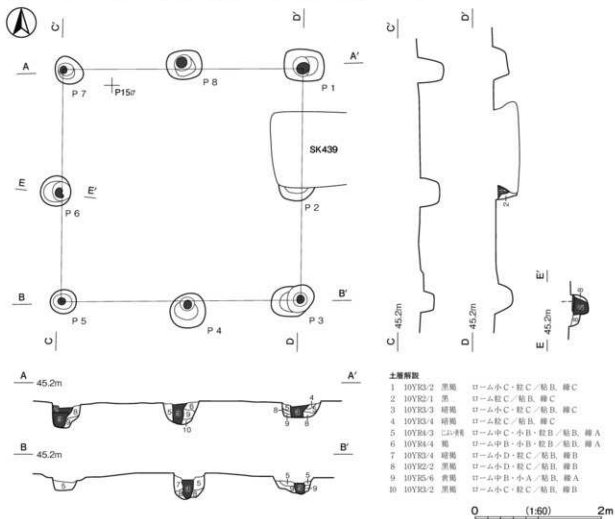
柱穴 5か所。平面形は円形で、規模は径28～58cm、深さは20～36cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P2～P5においては柱穴の底面から柱の当たり痕跡が確認でき、硬化範囲は円形で、径14～20cmである。

遺物出土状況 土師器片1点（甕）がP4の覆土中から出土している。細片のため図示できなかった。埋土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないため不明であるが、柱掘方の形状や覆土の状況が第35号掘立柱建物跡に酷似しており、ほぼ同時代の建物跡と想定されることから、本跡の時期は奈良・平安時代と考えられる。

第37号掘立柱建物跡（第83図 PL11）

位置 調査2区中央部のP15h6区、標高45mほどの台地上に位置している。



第83図 第37号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第439号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の欄柱建物跡で、桁行方向がN-87°-Eの東西棟である。規模は桁行3.85m、梁行3.80m、面積は14.63㎡である。柱間寸法は、桁行1.8～2.0（6尺～7尺）m、梁行1.8～2.0（6尺～7尺）mで、柱筋は揃っている。

柱穴 8か所。平面形は隅丸長方形または不整形円で、規模は長径0.41～0.82cm、短径0.38～0.54cmである。深さは21～43cmで、掘方の壁は直立または外傾している。P2を除き、柱穴の底面から径12～20cmの柱当たりが確認できた。また、P5を除く柱穴からは、土層断面において、第1～3層で示した柱痕跡が確認できた。

遺物出土状況 弥生土器片2点が出土しているが、埋土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、柱の掘方形状が中世以降のものに比べ広いことや、周辺の遺構の主軸方向との関係から、奈良・平安時代と考えられる。

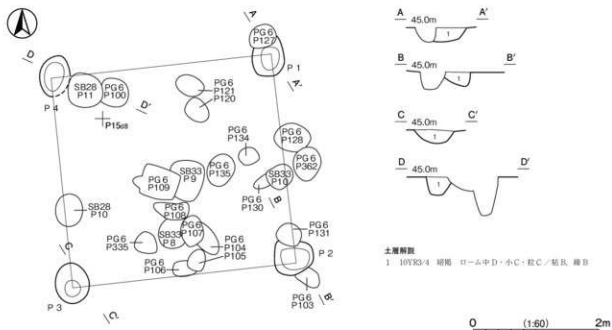
第38号掘立柱建物跡（第84図）

位置 調査2区中央部のP15c7区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第28・33号掘立柱建物、第6号ピット群に掘り込まれている。

規模と構造 桁行1間、梁行1間の欄柱建物跡で、桁行方向がN-78°-Eの南北棟である。規模は桁行3.50～3.55m（12尺）、梁行3.34～3.35m（11尺）、面積は11.79㎡である。

柱穴 4か所。平面形は楕円形で、規模は長径63～84cm、短径49～57cmで、深さは18～22cmである。掘方の壁は、外傾して立ち上がっている。



第84図 第38号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 1点(甕)がP2の覆土中から出土している。細片で、埋土に混入した遺物と考えられる。
所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないため不明であるが、遺構の形状や主軸方向から、本跡の時期は奈良・平安時代と考えられる。

第46表 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧

番号	位置	前行方向	柱間数		面積	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時期	備考
			幅×梁間	幅×梁間(m)		(㎡)	幅間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数			
32	P15d7	N-86°-E	2×2	4.26×3.95	16.83	1.90-2.40	1.60-2.20	礎柱	9	狭長長方形、不整形	17-45	熟土・土師器	奈良・平安時代 PG6→本跡→SI31、PG6
34	P15e7	N-87°-E	4-3×2	6.91-7.20×3.50-3.67	25.29	1.43-3.35	1.43-2.30	礎柱	12	ほぼ正方形、長方形	16-45	土師器	奈良・平安時代 SI68-E1→柱→PG6 SI67形状不明
35	P16c1	N-8°-W	4×2-3	10.85×5.76	62.50	2.25-2.60	1.88-2.76	礎柱	13	円形	19-55	土師器、須恵器	奈良・平安時代 PG6→本跡→H120・41・33・54・SK270・725・PG6 SK276-278・280・281・320形状不明
36	P159	-	(2)×(2)	5.67×5.45	30.52	2.28-3.00	2.62-2.84	礎柱	5	円形	20-36	土師器	奈良・平安時代 本跡→SK309 306・380・381 PG6 形状不明
37	P15b6	N-87°-E	2×2	3.85×3.80	14.63	1.80-2.00	1.80-2.00	礎柱	8	不整形長方形、長方形	21-43	熟土・土師器	奈良・平安時代 本跡→SK439
38	P15c7	N-78°-E	1×1	3.50-3.55×3.34-3.45	11.79	3.50-3.35	3.34-3.45	礎柱	4	不整形長方形、楕円形	18-22	土師器	奈良・平安時代 本跡→SI28・33、PG6

(3) 土坑

第98号土坑 (第85図 PL11)

位置 調査2区北部のN16f1区、標高44mほどの台地斜面部に位置している。

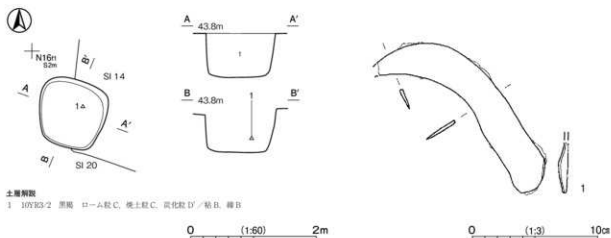
重複関係 第14・20号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 長径11.2m、短径1.07mの不整形円で、深さは69cmである。底面は平坦で壁は直立している。

覆土 単一層で、一括して埋め戻されている。

遺物出土状況 弥生土器片 9点、土師器片 45点(坏9、甕類36)、須恵器片 8点(坏)、金属製品 1点(鎌)が出土している。1は、覆土中層からほぼ完成形で出土した。

所見 時期は、第14号堅穴建物跡との重複関係から10世紀中葉以降と考えられる。



第85図 第98号土坑・出土遺物実測図

第47表 第98号土坑出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	鎌	(13.3)	(3.0)	0.3	(63.17)	鉄	先端部欠損 基部折り曲げ	覆土中層	PL33

第149号土坑 (第86・87図 PL11)

位置 調査2区北部のN15e0区、標高44mほどの台地斜面部に位置している。

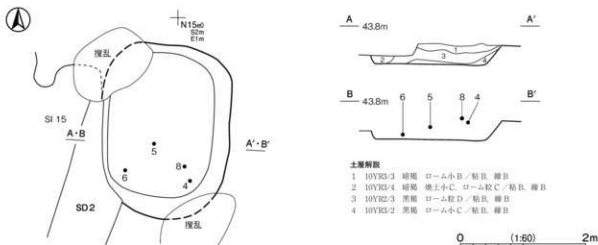
重複関係 第15号堅穴建物跡を掘り込み、第2号溝に掘り込まれている。

規模と構造 長径2.27m、短径1.98m、長径方向がN-3°-Eの楕円形で、深さは33cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片90点(坏5、甕類84、瓶1)、須恵器片63点(坏42、高台付坏7、盤1、蓋1、甕類12)、石器4点(剥片3、砥石1)、鉄滓1点が出土している。大型の破片が南寄りの覆土中層から下層にかけて出土しており、埋め戻しの際に一括して投棄されたと考えられる。

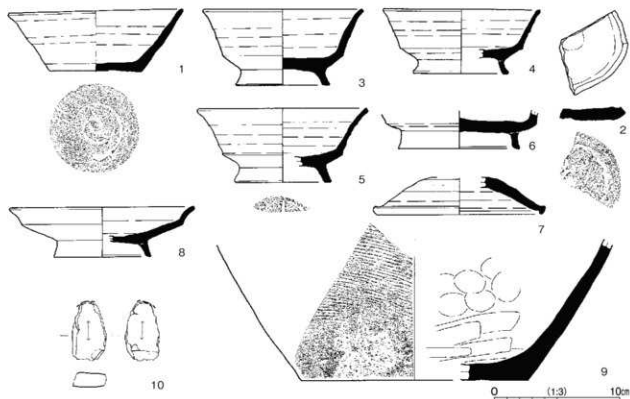
所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定される。



第86図 第149号土坑実測図

第48表 第149号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.7	5.0	7.3	石英・長石	灰白	普通	底部回転へら切り後ナデ	覆土中	80% PL25
2	須恵器	坏	-	(1.1)	-	石英・長石	灰黄	普通	底部回転へら切り後ナデ 底部内面研磨	覆土中	私用風 PL25
3	須恵器	高台付坏	12.6	6.1	7.3	石英・長石	暗灰黄	普通	底部回転へら切り後高台貼り付け	覆土中	60%
4	須恵器	高台付坏	[12.4]	5.1	[7.4]	石英・長石	灰	良好	底部回転へら切り後高台貼り付け	覆土上層	40% 「へら切型」=J 49%
5	須恵器	高台付坏	[13.4]	5.9	[7.6]	石英・長石・黒色粘土	灰黄	良好	底部回転へら切り後高台貼り付け	覆土中層	40%
6	須恵器	高台付坏	-	(3.0)	9.6	石英・長石	灰	良好	底部回転へら切り後高台貼り付け 白色粘土がマゼンラ状に混じる	覆土下層	40%
7	須恵器	蓋	[13.2]	(3.0)	-	石英・長石・黒色粘土	灰	良好	天井部回転へら削り	覆土中	20%
8	須恵器	盤	[14.4]	3.9	[7.8]	石英・長石	黄灰	普通	底部回転へら切り後高台貼り付け	覆土上層	30% PL25
9	須恵器	甕	-	(11.2)	(18.2)	石英・長石・黒色粘土	灰	良好	底部外面下層積長のへらナデ後底部副位の平行叩き 内面下位へらナデ 当て具痕	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
10	砥石	(4.7)	(2.7)	1.1	(20.56)	粘板岩	砥面2面		覆土中		



第87図 第149号土坑出土遺物実測図

第49表 奈良・平安時代土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
98	N16f1	-	不整形	1.12 × 1.07	69	直立	平坦	人為	土師器、須恵器、金属製品	SI14・20 → 本跡
149	N15e0	N-3°-E	精円形	2.27 × 1.98	28 ~ 33	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、石器	SI15 → 本跡 → SI12

4 中世～近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡26棟、方形竪穴遺構76基、地下式坑1基、土坑墓1基、火葬施設1基、道路跡1条、溝跡2条、土坑7基、粘土土坑19基を確認した。以下、各項の遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

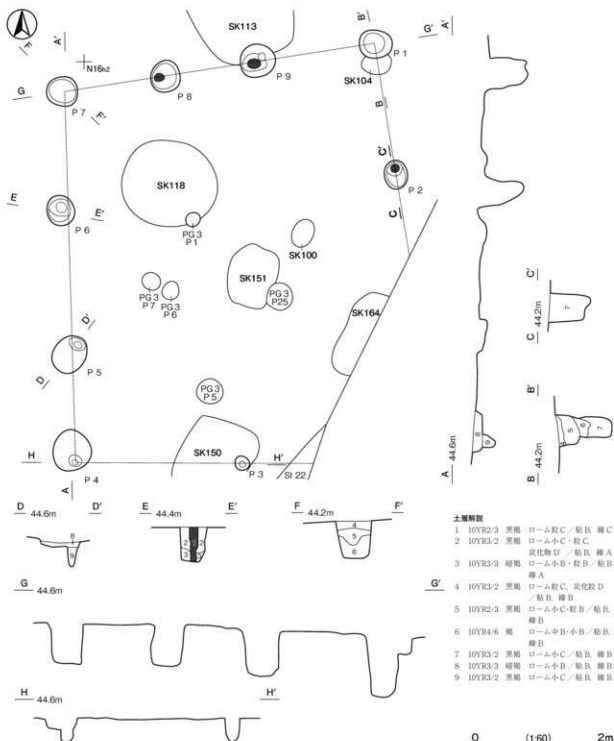
第1号掘立柱建物跡 (第88・89図)

位置 調査2区中央部のN16h2区、標高44mほどの台地上に位置している。

重複関係 第104・113・150号土坑を掘り込んでいる。第22号竪穴建物跡、第100・118・151・164号土坑、第3号ピット群との新旧関係は不明である。

規模と構造 南東部が調査区外に延びており、確認できた規模は桁行3間、梁行3間である。個柱建物跡で、桁行方向がN-9°-Wの東西棟である。規模は桁行5.85m、梁行5.05m、面積は29.54㎡である。柱間寸法は、桁行1.85～2.23m(6尺～7尺)、梁行1.52～2.66m(5尺～9尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 9か所。平面形は円形で、掘方の壁は直立している。柱穴の規模は、建物の北側に当たるP1・2・6~9は、径37~54cmで、深さは67~98cmと比較的に深いのに対し、南側のP3~P5は径29~62cmで、深さは35~38cmと北側の柱穴に比べて浅くなっている。P4・P5の掘方は、間口を広く掘った後、柱を立てる位置をさらに細く掘り込んでおり段がつく形状を呈している。P3は、段は認められないが、P4・P5の下半部、規模と形状がほぼ同じである。これらの様相から北側のP1・2・6~9が中心の構造物で、南

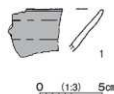


第88図 第1号掘立柱建物跡実測図

個のP3～P5は底等の付属構造物の柱穴である可能性がある。P6では土層断面で柱痕跡が確認されたが、他の柱穴においては確認できず、抜き取られたと考えられる。P2・P8・P9においては柱穴の底面から柱の当たり痕跡が確認でき、硬化範囲は円形または楕円形で、径14～21cmである。

遺物出土状況 土師器片3点、須恵器片1点、陶器片2点（平碗、甕）がP2・P3の覆土中から出土している。1はP3の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀以降に比定される。



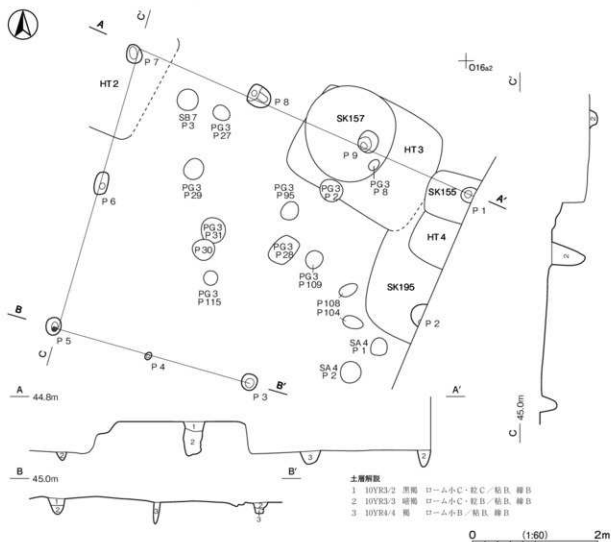
第89図 第1号掘立柱建物跡
出土遺物実測図

第50表 第1号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	陶器	平碗	-	(33)	-	瀬戸・淡黄	ロクロ成形 外・内面輪軸	戻軸	古瀬戸	P3覆土中	古瀬戸後期

第2号掘立柱建物跡 (第90図)

位置 調査2区中央部のO15a0区、標高45mほどの台地上に位置している。



第90図 第2号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第2・4号方形竪穴遺構、第195号土坑を掘り込み、第155・157号土坑に掘り込まれている。第7号掘立柱建物跡、第3号方形竪穴遺構、第3号ピット群との新旧関係は不明である。

規模と構造 南東部が調査区外に延びており桁行3間、梁行2間しか確認できなかった。側柱建物跡で、桁行方向がN-67°-Wの東西棟である。確認できた規模は桁行5.75m、梁行4.55m、面積は26.16㎡である。柱間寸法は桁行1.55～2.15m（5尺～7尺）、梁行2.25～2.38m（8尺）で、柱筋は揃っている。

柱穴 9か所。平面形は円形で、規模は径10～38cm、深さは15～55cmである。掘方の壁は直立または外傾している。P4は、間口の直径が10cmと狭く、底面がさらに細くなっていることから、杭状の打ち込み柱と考えられる。P5は、底面に柱の当たりが確認でき、硬化範囲は円形で、径8cmである。

遺物出土状況 土師器片3点がP5・P6の覆土中から出土している。いずれも細片で、柱抜き取り後の覆土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世～近世初頭に比定できる。

第3号掘立柱建物跡（第91図 PL12）

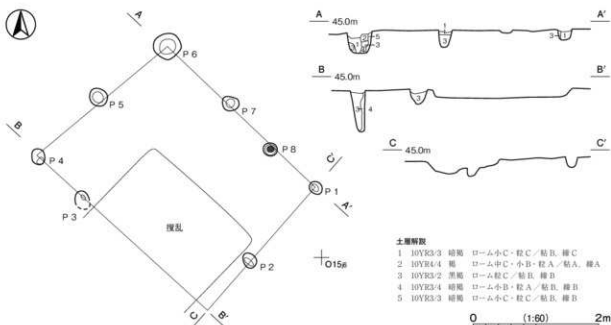
位置 調査2区中央部のO155区、標高45mほどの台地上に位置している。

規模と構造 掘乱を受けており、南東部の柱穴を確認することができなかったが、桁行3間、梁行2間の側柱建物跡と推定され、桁行方向がN-46°-Wの東西棟である。規模は桁行3.25m、梁行2.65m、面積は8.61㎡である。柱間は桁行0.90～1.35m（3尺～5尺）、梁行1.35m（5尺）で、柱筋は通っている。

柱穴 8か所。平面形は円形で、規模は径22～43cm、深さは4～65cmで、掘方の壁は直立または外傾している。P8は、深さ4cmと浅いものの、底面に柱の当たりが確認でき、硬化範囲は円形で、径11cmである。

遺物出土状況 土師器片1点がP6の覆土中から出土している。細片のため混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世～近世初頭に比定できる。



第91図 第3号掘立柱建物跡実測図

第4号掘立柱建物跡 (第92図)

位置 調査2区中央部のO15b0区、標高45mほどの台地上に位置している。

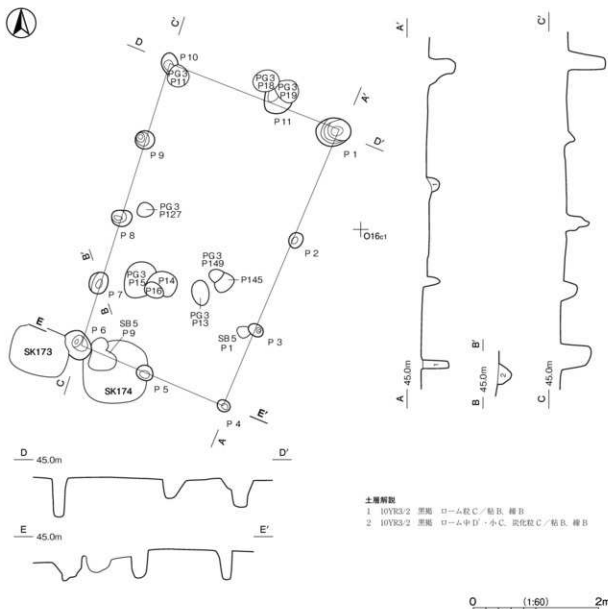
重複関係 第5号掘立柱建物跡、第174号土坑を掘り込み、第173号土坑、第3号ピット群に掘り込まれている。

規模と構造 桁行は西平4間、東平3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-23°-Eの南北棟である。規模は桁行4.75m、梁行2.55~2.88m、面積は1289㎡である。柱間寸法は、桁行1.02~1.83m(3尺~6尺)、梁行1.05~1.83m(3尺~6尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 11か所。平面形は円形で、径21~55cm、深さは16~60cmで、掘方の壁は直立または外傾して立ち上がっている。建物の隅に当たる箇所の柱穴が他の柱に比べて深く掘られている。

遺物出土状況 土師器片1点がP1の覆土中から出土しているが、細片で、柱抜き取り後の覆土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世~近世初頭に比定できる。



第92図 第4号掘立柱建物跡実測図

第5号掘立柱建物跡 (第93図 PL12)

位置 調査2区中央部のO15c0区、標高45mほどの台地上に位置している。

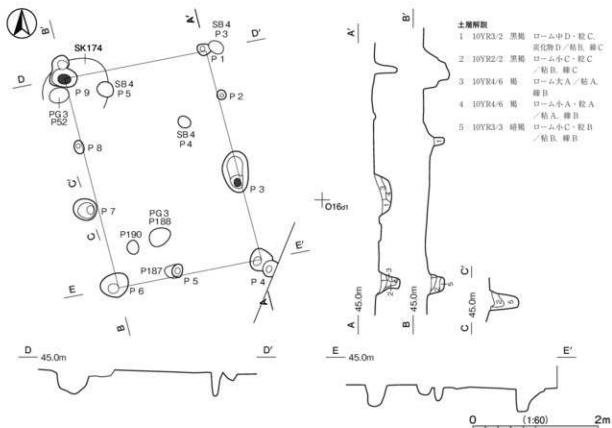
重複関係 第174号土坑、第3号ピット群を掘り込み、第4号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行は北妻1間、南妻2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-14°-Wの南北棟である。規模は桁行3.42m、梁行2.27m、面積は7.76㎡である。柱間寸法は、桁行0.77~1.25m(3尺~4尺)、梁行0.95~1.30m(3尺~4尺)で、柱筋は概ね揃っている。

柱穴 9か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径22~67cm、短径15~39cmである。深さは5~48cmで、掘方の壁は直立または外傾して立ち上がっている。P3・P9において柱穴の底面から柱の当たりが確認でき、硬化範囲は円形で、径13~20cmである。

遺物出土状況 土師器片1点がP5覆土中から出土している。細片で、柱抜き取り後の覆土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世~近世初頭に比定できる。



第93図 第5号掘立柱建物跡実測図

第6号掘立柱建物跡 (第94図 PL12)

位置 調査2区中央部のO15e9区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第6・21号方形竪穴遺構、第183号土坑、第3号ピット群に掘り込まれている。第39号掘立柱建物跡、第251号土坑との新旧関係は不明である。

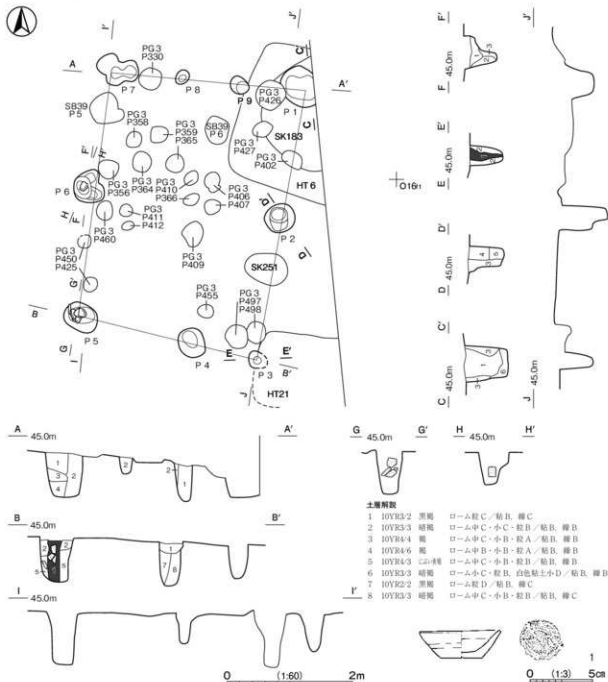
規模と構造 桁行2間、梁行は北妻3間、南妻2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-7°-Eの南北棟である。規模は桁行3.89~4.35m、梁行2.92~3.09m、面積は12.38㎡である。柱間寸法は、桁行1.85~2.35m(6尺~

8尺)、梁行0.95～1.85m(3尺～6尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 9か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径25～70cm、短径18～56cmである。深さは26～85cmで、掘方の壁は直立または外傾している。P3・P5で、柱状の痕跡が確認できたが、P5の柱痕跡から礫が出土していることから、柱は抜き取られており、埋め戻しの際に礫が混入したと考えられる。P6の覆土中層からも礫が出土しているが、礎板として据えられたものではなく、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

遺物出土状況 土師器片7点、須恵器片1点、土師質土器片2点(小皿)がP1・P2・P4・P5の覆土中から出土している。1は、P5の掘方の埋土中から完形に近い状態で出土しており、柱を立てる際に意図的に埋納された可能性がある。

所見 時期は、出土土器から16世紀後葉～17世紀前葉に比定される。



第94図 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第51表 第6号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考
1	土師置土器	小皿	6.3	2.3	3.5	石英・長石・雲母・針状鉱物	暗褐色	良好	ロタロ成形 底部回転赤切り	出土位置 P5埋土中 96% PL25

第7号掘立柱建物跡 (第95図 PL12)

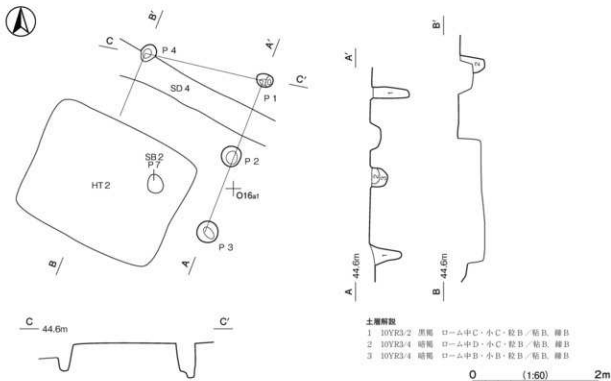
位置 調査2区中央部のN150区、標高44mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号方形竪穴遺構、第4号溝に掘り込まれている。第2号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 南西部が第2号方形竪穴遺構に掘り込まれており柱穴を確認することができなかったが、桁行2間、梁行1間の隅柱建物と推定される。桁行方向がN-21°-Eの南北棟で、規模は桁行257m、梁行190m、面積は4.88㎡と推定される。柱間寸法は、桁行1.25～1.32m(4尺)、梁行1.91m(6尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 4か所。平面形は円形または楕円形で、規模は径21～34cm、深さは28～61cmで、掘方の壁は直立または外傾している。コーナー部に当たるP1・P3・P4が深く掘り込まれている。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世～近世初頭に比定できる。

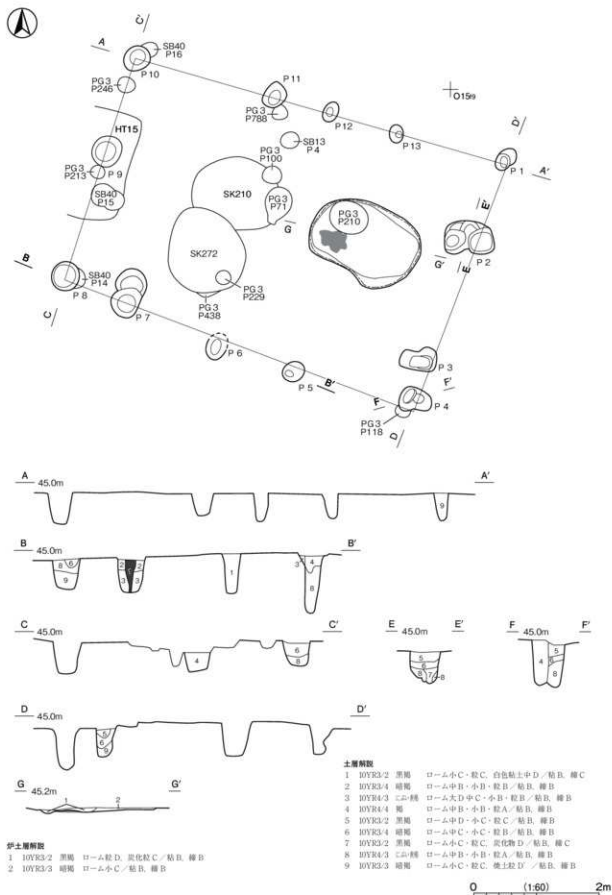


第95図 第7号掘立柱建物跡実測図

第8号掘立柱建物跡 (第96・97図)

位置 調査2区中央部のO158区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第3号ピット群を掘り込み、第40号掘立柱建物、第15号方形竪穴遺構に掘り込まれている。第210・272号土坑との新旧関係は不明である。



第96図 第8号掘立柱建物跡実測図

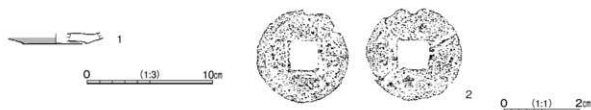
規模と構造 桁行4間、梁行3間の欄柱建物跡で、桁行方向がN-68°-Wの東西棟である。規模は桁行5.94～6.10m、梁行3.72～3.95m、面積は23.12㎡である。柱間寸法は、桁行0.95～2.20m（3尺～7尺）、梁行0.62～2.08m（2尺～7尺）で、柱筋は概ね揃っている。

柱穴 13か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径23～57cm、短径20～46cmである。深さは42～96cmで、掘方の壁は直立または外傾している。P7の土層断面で柱痕跡が確認できた。

炉 建物の中央部から東寄りに付設されている。長径1.78m、短径1.27mの不整楕円形を呈する。深さ3cmの地床炉で、底面は平坦で全体的に踏み締まっており、西部が火熱を受けて赤変硬化している。

遺物出土状況 土師器片3点、土師質土器片3点（小皿）、陶器片1点（小皿）、磁器片1点（碗）、銭貨1点（不明）、鉄滓1点がP2・P4・P7の覆土中から出土している。いずれも細片で、埋土及び柱抜き取り後の覆土に混入した遺物と考えられる。他の遺構において、柱穴から銭貨が出土する例が複数確認できることから、P4覆土中から出土した銭貨は意図的に埋納された可能性も考えられる。

所見 時期は、出土土器から16世紀中葉に比定される。



第97図 第8号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第52表 第8号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
1	陶器	内光皿	-	(0.8)	(5.0)	磁青・オリーブ黄	顔りだし高台 見込み部輪割ぎ	灰輪	瀬戸・美濃	P2覆土中	大塚3期 二次焼成
番号	銭種	径	孔径	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴		出土位置	備考
2	不明	2.53	0.70	0.12	(2.52)	銅	不明	断軸により銭種不明		P4覆土中	

第9号掘立柱建物跡（第98図）

位置 調査2区中央部のO15g7区、標高45mほどの台地上に位置している。

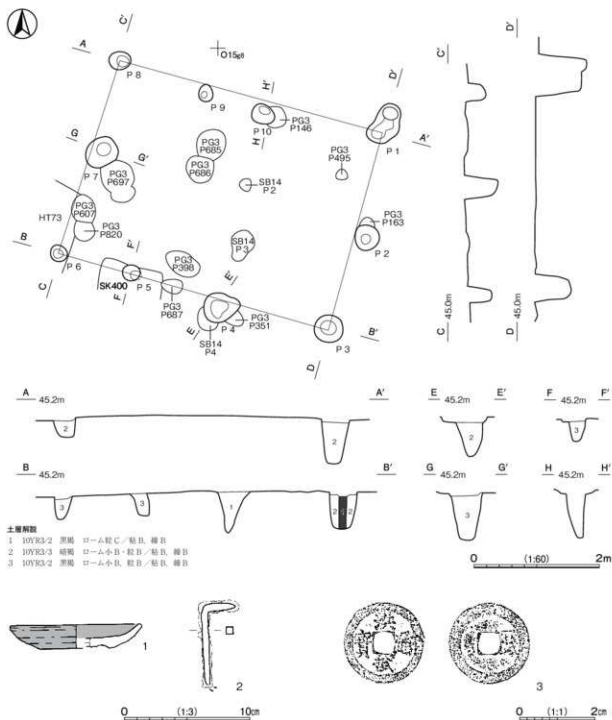
重複関係 第14号掘立柱建物跡、第73号方形竅穴遺構、第400号土坑、第3号ピット群を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁間2間の欄柱建物跡で、桁行方向がN-74°-Wの東西棟である。規模は桁行4.32～4.45m、梁行3.20～3.25m、面積は14.14㎡である。柱間寸法は、桁行1.00～1.85m（3尺～6尺）、梁行1.51～2.04m（5尺～7尺）で、柱筋はばらつきがある。P3で柱痕跡を確認した。

柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径25～65cm、短径22～44cmである。深さは25～71cmで、掘方の壁は直立または外傾している。

遺物出土状況 土師器片3点、土師質土器片5点（小皿3、火舎2）、陶器片2点（小皿、壺）、銭貨1点（洪武通寶）、金属製品2点（釘、鏡）がP3・P4・P6・P7の覆土及び埋土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀中葉に比定できる。



土層解説

- 1 10YR3-2 黒層 ローム粒C / 粒B / 粒A
 2 10YR3-3 暗層 ローム小B / 粒B / 粒A 種B
 3 10YR3-2 黒層 ローム小B / 粒B / 粒A 種B

第98図 第9号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第53表 第9号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	内売皿	[10.1]	1.9	[5.5]	長石・オリーブ黄	刷りだし高台 見込み部輪跡が	灰釉	瀬戸・美濃	P 4 覆土中	40% P125 二次焼成 大塚3期
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	鉄	(6.5)	2.8	0.6	(21.05)	鉄	断面形方形 先端部欠損			P 3 覆土中	
番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初周年	特徴		出土位置	備考
3	漢武造貨	2.17	0.53	0.17	2.69	銅	1368年	明銭		P 4 覆土中	

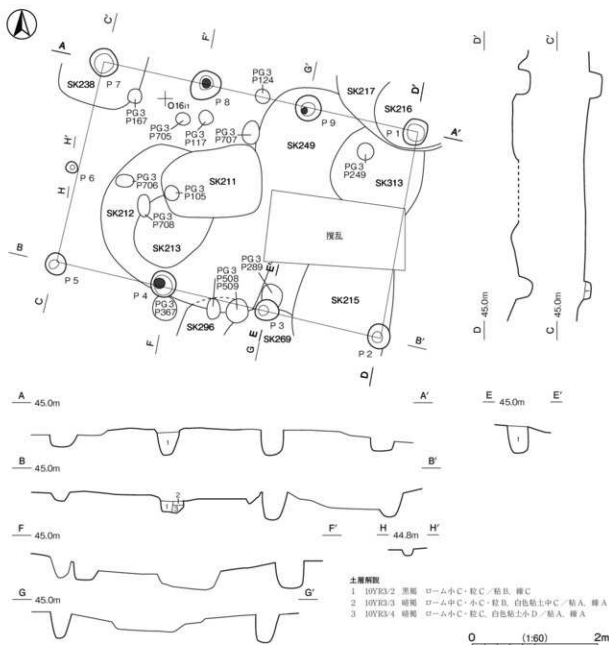
第10号掘立柱建物跡 (第99図)

位置 調査2区中央部のO161区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第212・215～217・238・249・269号土坑、第3号ピット群を掘り込んでいる。第211・213・296・313号土坑との新旧関係は不明である。

規模と構造 東部が擾乱を受けているため、P1～P2間の柱穴は確認できなかった。桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡と推定でき、桁行方向がN-77°-Wの東西棟である。規模は桁行5.08～5.25m、梁行3.27～3.32m、面積は17.02㎡である。柱間寸法は、桁行1.65～1.90m(6尺)、梁行1.45～1.75m(5尺～6尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 9か所。平面形は円形で、規模は径18～49cm、深さは11～44cmで、掘方の壁は直立または外傾している。柱穴の規模は桁行の8か所は平面及び深さがほぼ同じであるのに対し、梁行中央部のP6は小規模である。P4・



第99図 第10号掘立柱建物跡実測図

P 8・P 9において柱穴の底面から柱当たりが確認でき、硬化範囲は円形で、径9～17cmである。

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿)がP 2・P 9の覆土中から出土している。いずれも細片で、柱抜き取り後の覆土中に混入した遺物と考えられる。

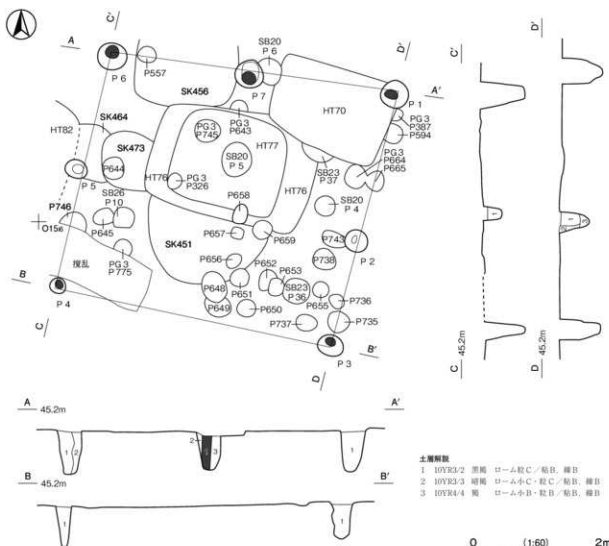
所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世～近世初頭に比定できる。

第 11 号掘立柱建物跡 (第 100 図 PL13)

位置 調査2区中央部の O15h6 区、標高 45 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 20 号掘立柱建物跡、第 70・82 号方形竪穴遺構、第 456・464 号土坑、第 3 号ピット群を掘り込んでいる。第 23・26 号掘立柱建物跡、第 76・77 号方形竪穴遺構、第 451・473 号土坑との新旧は不明である。

規模と構造 桁行は、北平 2 間、南平 1 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 82° - W の東西棟である。規模は桁行 4.45 ~ 4.60 m、梁行 3.81 ~ 4.18 m、面積は 18.08 m² である。柱間寸法は、桁行 2.25 ~ 4.42 m (8 尺 ~ 15 尺)、梁行 1.74 ~ 2.35 m (6 尺 ~ 8 尺) で、柱筋は概ね揃っている。



第 100 図 第 11 号掘立柱建物跡実測図

柱穴 7か所。平面形は円形で、規模は径26～47cm、深さは30～66cmで、掘方の壁は直立している。P1・P3・P4・P6・P7の底面からは柱当たりが確認でき、硬化範囲は円形で、径14～22cmである。

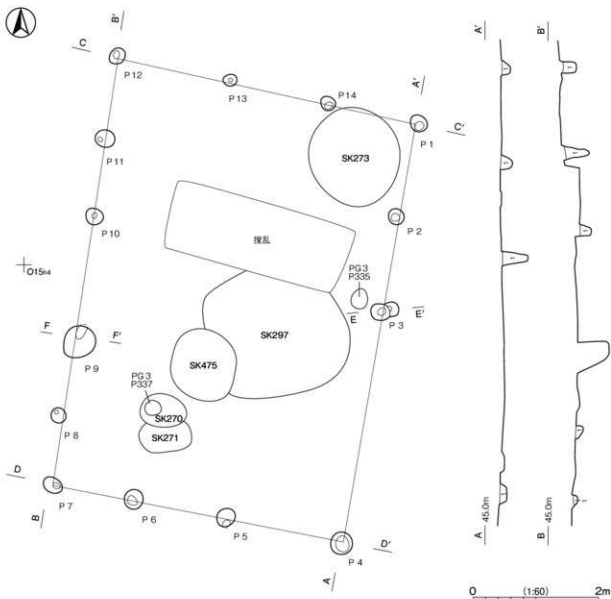
遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）、金属製品1点（釘）がP1・P6の覆土中から出土している。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世～近世初頭に比定できる。

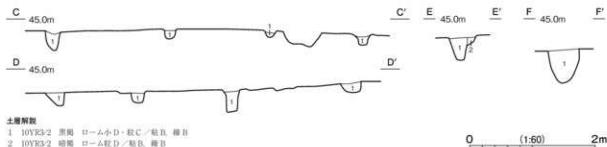
第12号掘立柱建物跡（第101・102図）

位置 調査2区中央部のO15g4区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第270・271・273・297・475号土坑、第3号ピット群との新旧関係は不明である。



第101図 第12号掘立柱建物跡実測図（1）



第102図 第12号掘立柱建物跡実測図(2)

規模と構造 桁行は、西平5間、東平3間、梁行3間の欄柱建物跡で、桁行方向が $N-11^{\circ}-E$ の南北棟である。規模は桁行6.72～6.84m、梁行4.70～4.84m、面積は32.34㎡である。柱間寸法は、桁行1.08～2.00m(4尺～7尺)、梁行1.35～1.88m(5尺～6尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 14か所。平面形は円形で、規模は径22～49cm、深さは12～50cmで、掘方の壁は直立または外傾している。P9のみが大型で、他の柱穴の規模はほぼ揃っている。土層断面と底面に柱痕跡は確認できなかった。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世～近世初頭に比定できる。

第14号掘立柱建物跡(第103・104図)

位置 調査2区中央部のO156区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第20・22・78・81号方形竅穴遺構、第231～233・237号土坑、第3号ピット群を掘り込み、第9号掘立柱建物に掘り込まれている。第40号掘立柱建物跡、第73号方形竅穴遺構、第400号土坑との新旧関係は不明である。

規模と構造 南東部が調査区外に延びており桁行3間、梁行3間の欄柱建物跡で、桁行方向が $N-70^{\circ}-W$ の東西棟と推定できる。規模は桁行5.36～5.82m、梁行4.00～4.45m、面積は23.62㎡である。柱間寸法は、桁行1.52～2.42m(5尺～8尺)、梁行0.90～2.25m(3尺～8尺)で、柱筋はばらつきがある。

柱穴 12か所。平面形は円形で、規模は径19～55cm、深さは15～71cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P12の土層断面で柱痕跡が確認できた。他のピットでは確認できず、抜き取られたとみられる。P10においては柱穴の底面から柱の当たり痕跡が確認でき、硬化範囲は円形で、径19cmである。また、P7の底面からは凝灰質泥岩の大礫が出土しており、礎板として据えられたものと考えられる。

遺物出土状況 須恵器片1点、土師質土器片8点(小皿)、陶器片1点(小皿)がP7・P12の覆土及び埋土中から出土している。1はP12から出土しており、掘方の埋土に混入した遺物と考えられる。

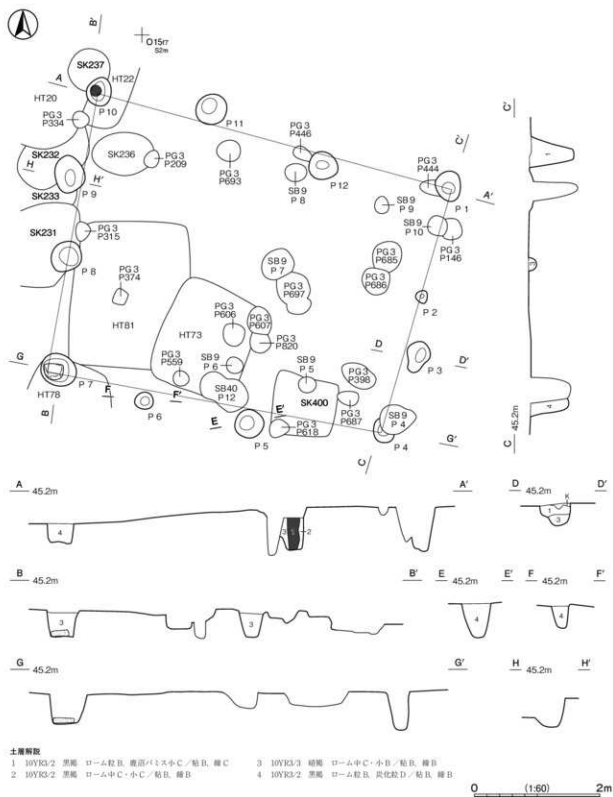


0 (1:3) 5cm

所見 時期は、出土土器から16世紀後葉以降に比定される。 第103図 第14号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第54表 第14号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	丸皿	[104]	24	[58]	鉄面・オリーブ黄	ロクロ成形 傾りだし高台	灰軸	瀬戸・美濃	P2覆土中	30% 大塚3期



第104図 第14号掘立柱建物跡実測図

第55表 第14号掘立柱建物跡出土礎板石一覧

出土 遺構	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	石材	特徴	備考
P 7	底面	36.5	27.1	7.4	79	凝灰質泥岩	加工痕不明	

第19号掘立柱建物跡（第105図）

位置 調査2区中央部のO15h7区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第284号土坑、第3号ピット群を掘り込み、第257号土坑、第3号ピット群に掘り込まれている。第20・23・26号掘立柱建物跡、第251号土坑との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向がN-66°-Wの東西棟である。規模は桁行6.57～6.85m、梁行3.85～4.31m、面積は27.38㎡である。柱間寸法は、桁行1.40～1.65m（5尺～6尺）、梁行1.15～3.25m（4尺～11尺）で、柱筋はばらつきがある。

柱穴 11か所。平面形は円形で、規模は径26～64cm、深さは20～59cmで、掘方の壁は直立または外傾している。P4の土層断面で柱痕跡が確認された。P3の底面からわずかに高い位置から礫が2点重なった状態で出土しており、礎板として据えられたものと考えられる。

遺物出土状況 土師器片2点、須恵器片5点、土師質土器片1点（香炉）、金属製品2点（釘）がP6～P9の覆土中から出土している。1は、P6覆土中から出土した土師質土器の香炉で、体部がスタンプにより施文されている。菊花文体の下部に雷文と推定される文様の一部が確認でき、第179号土坑から出土したものと胎土や施文具が酷似していることから、同一個体である可能性が高い。

所見 時期は、出土土器から16世紀以降に比定される。

第56表 第19号掘立柱建物跡出土礎板石一覧

出土遺構	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	石材	特徴	備考
P3	下層（下）	357	228	133	134	角閃石片岩	角礫	
	下層（上）	183	135	51	15	アブライト	準円礫 表面に焼熱痕	

第57表 第19号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	香炉	[100]	[29]	-	石英・長石・雲母	黒褐色	良好	焼成否不明 胴部スタンプによる施文（上部菊花文、下部雷文）	P6覆土中	10% PL25

第20号掘立柱建物跡（第106図）

位置 調査2区中央部のO15h7区、標高45mほどの台地上に位置している。

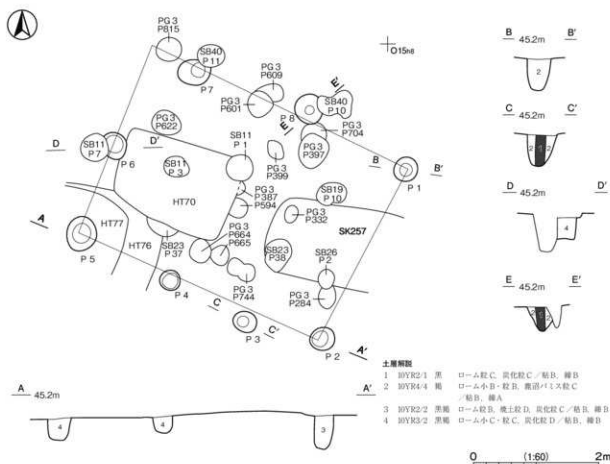
重複関係 第70・76・77号方形竅穴遺構、第3号ピット群を掘り込み、第11・40号掘立柱建物に掘り込まれている。第19・23・26号掘立柱建物跡、第257号土坑との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行は、北平2間、南平3間、梁行は、西妻2間、東妻1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-67°-Wの東西棟である。規模は桁行4.17～4.52m、梁行3.02～3.07m、面積は13.23㎡である。柱間寸法は、桁行0.87～1.42m（3尺～5尺）、梁行1.02～2.60m（3尺～9尺）で、柱筋はばらつきがある。

柱穴 8か所。平面形は円形で、規模は径32～48cm、深さは25～55cmで、掘方の壁は直立または外傾している。P3・P8の土層断面で柱痕跡が確認された。

遺物出土状況 土師器片4点、須恵器片3点がP4・P5覆土中から出土している。いずれも細片で、柱抜き取り後の覆土に混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世～近世初頭に比定できる。



第106図 第20号掘立柱建物跡実測図

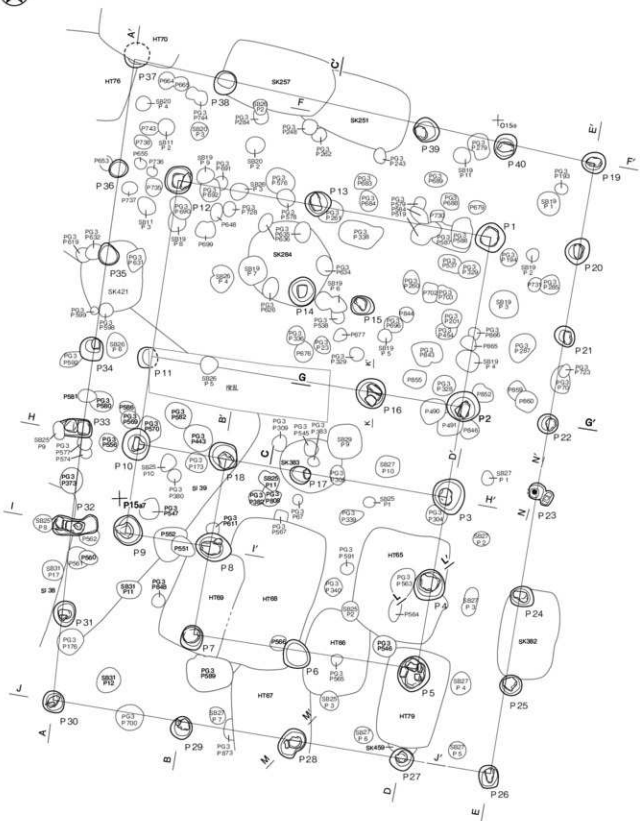
第23号掘立柱建物跡 (第107～110図 PL12・13)

位置 調査2区中央部のP15a7区、標高45mほどの台地上に位置している。

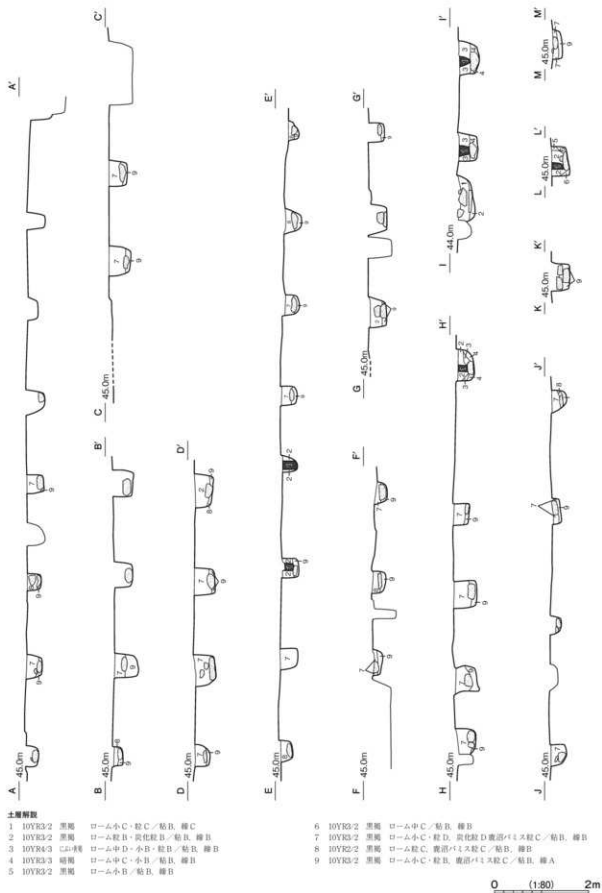
重複関係 第38・39号竪穴建物跡、第65～69・76・79号方形竪穴遺構、第257・284・382・383・421号土坑、第3号ピット群を掘り込み、第25号掘立柱建物、第70号方形竪穴遺構に掘り込まれている。第11・19・20・26・27・31号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行は北妻2間、南妻3間の身舎に、桁行7間、梁行4間の庇が廻る側柱建物跡で、桁行方向がN-9°-Eの南北棟である。庇の北妻中央部が第251号土坑に掘り込まれているため柱穴を確認することができなかったが、柱間寸法から5間であったと考えられる。身舎内の柱の配列は、南西部では規則的に配置されているのに対し、北部ではまばらである。また、身舎南西角の柱穴は確認できなかった。規模は、身舎が桁行9.28m、梁行6.72mで、面積は62.36㎡である。庇の出は、南・北・東面が1.86m(6尺)、西面が1.24m(4尺)で、庇を含めた規模は、桁行13.12～13.66m、梁行9.38～9.98m、面積は129.62㎡である。身舎の柱間寸法は、桁行が1.94～3.64m(6尺～12尺)、梁行2.16～3.74m(7尺～12尺)であり、柱筋は揃っている。庇の柱間寸法は、1.48～2.78m(5尺～9尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 40か所。P1～P18は身舎の柱穴である。平面形は円形または楕円形で、長径36～76cm、短径36～72cmである。深さは52cmで掘方の壁は直立している。P19～P40は縁の柱穴である。平面形は円形または楕円形で、長径40～64cm、短径36～49cmである。深さは36～48cmで掘方の壁は直立している。



第 107 图 第 23 号掘立柱建物跡実測图 (1)



第108図 第23号掘立柱建物跡実測図(2)

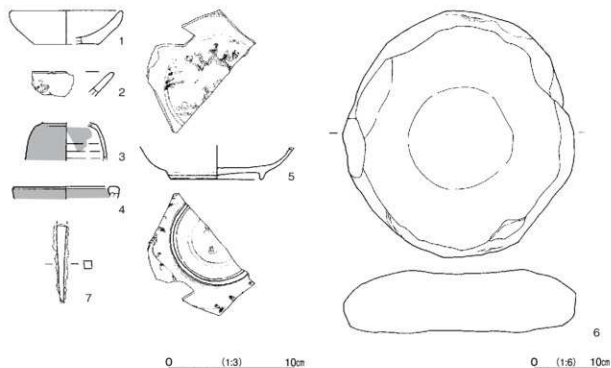
第58表 第23号掘立柱建物跡出土礎板石一覧

出土 遺構	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	石材	特徴	備考
P 1	底面	41.5	290	203	58.6	花崗岩	扉門礎 表面に焼熟痕	
P 2	覆土中層	39.5	22.8	16.5	19.0	花崗岩	扉門礎 側面に柱痕跡径11.3cm 上半部が焼熟し窪み着	
	底面	38.7	31.0	12.8	17.5	花崗岩	扉門礎 表面に窪み着、径12.0cmの柱痕跡	
P 3	底面	38.1	28.0	15.8	24.8	細粒花崗岩	扉門礎 表面に柱痕跡径13.2cm	
P 4	底面	42.4	34.5	17.9	27.2	泥岩	扉門礎	
	中層	18.3	12.2	1.0	2.3	花崗岩	扉門礎	
P 5	中層	24.1	17.1	5.6	4.1	花崗岩	扉門礎 表面に焼熟痕	
	中層	20.5	15.0	9.5	4.4	泥岩	扉門礎	
	底面	70.5	34.8	13.1	41.6	雲母片岩	角礎	
	底面	21.6	17.9	7.8	2.5	花崗岩	扉門礎 焼熟痕あり	
P 7	中層	39.3	36.6	10.6	22.2	花崗岩	板石の周縁部を打ち欠き円盤状に加工	第109図-6
P 8	底面	41.7	25.3	18.8	25.5	長石質花崗岩	扉門礎	
P 9	底面	24.3	16.8	18.2	20.0	アブライト、 ペグマタイト	扉門礎 弱い焼熟痕 表面に柱痕跡径13.2cm	
P 10	中層	34.2	29.7	17.2	21.6	花崗岩	扉門礎 表面のみ風化が顕著	
P 12	底面	36.0	32.0	21.0	29.6	花崗閃緑岩	扉門礎 表面に柱痕跡径12.0cm、表面風化が顕著	
	覆土中層	41.6	26.5	13.7	15.0	泥岩	扉門礎	
P 13	覆土下層	32.6	21.7	14.0	12.0	細粒花崗岩	扉門礎 表面に焼熟痕、窪み着	
P 14	覆土下層	24.7	25.1	9.0	8.7	花崗岩	扉門礎	
P 15	底面	31.6	22.3	10.9	10.3	花崗岩	扉門礎	
	覆土中層	25.5	21.7	13.0	12.2	閃緑岩	扉門礎	
P 16	覆土中層	32.3	15.1	12.0	9.0	花崗岩	扉門礎	
	底面	40.1	35.3	14.8	23.6	花崗岩	扉門礎 表面に柱痕跡径14.5cm	
P 17	底面	32.0	24.2	9.6	9.4	花崗閃緑岩	扉門礎 表面に窪み着、柱痕跡径13.5cm	
P 18	底面	36.0	34.2	17.1	36.5	細粒花崗岩	扉門礎	
P 19	覆土下層	34.4	21.8	14.4	13.3	花崗岩	扉門礎 表面に焼熟痕 窪み着 柱痕跡径13.4cm	
P 20	覆土下層	36.4	22.6	15.6	14.6	花崗岩	扉門礎 表面に焼熟痕 窪み着	
P 21	覆土下層	16.3	15.6	7.1	2.1	花崗岩	扉門礎 表面裏面に焼熟痕 側面焼熟なし 表面に柱痕跡径12cm	
P 22	覆土下層	28.7	24.2	7.8	9.9	アブライト	表面に窪み着、柱痕跡径14.2cm	
P 24	底面	30.9	23.7	7.1	6.7	長石質花崗岩	扉門礎	
P 25	底面	23.1	21.6	7.7	5.2	花崗岩	扉門礎	
P 26	底面	24.7	18.1	6.9	4.7	花崗岩	扉門礎	
P 27	中層	27.0	24.0	10.5	7.0	アブライト	扉門礎	
P 28	中層	30.5	23.5	11.5	11.7	花崗岩	扉門礎	
P 29	底面	26.0	24.0	11.0	9.1	細粒花崗岩	扉門礎 表面に焼熟痕	
P 30	中層	19.5	10.7	6.3	1.1	花崗岩	扉門礎	
P 31	底面	25.8	21.9	10.8	7.8	アブライト	表面に柱痕跡径15.3cm	
P 32	中層	41.4	36.2	14.8	21.5	花崗岩	扉角礎 表面に柱痕跡径14.5cm	
	中層	22.7	26.8	7.5	4.5	アブライト	扉門礎	
	下層	61.5	26.0	8.0	18.4	雲母片岩	角礎	
P 33	底面	31.7	28.1	15.2	22.7	長石質花崗岩	扉門礎	
	底面	26.6	9.0	12.3	4.9	花崗岩	扉門礎 側面に焼熟痕、窪み着	
P 34	底面	34.4	21.8	14.4	13.3	花崗岩	扉門礎 表面に窪み着、柱痕跡径13.4cm	
P 39	覆土中層	38.2	25.7	15.0	18.0	花崗岩 ペグマタイト	扉門礎	
P 40	覆土下層	29.0	21.1	10.0	8.8	アブライト	扉門礎 表・側面に窪み着	

第59表 第23号掘立柱建物跡出土遺物一覧

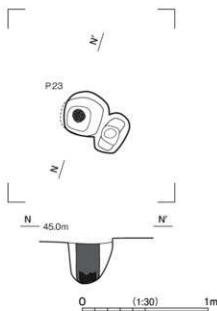
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	(84)	2.7	(52)	石灰・長石・赤色粘土・針状鉱物	にぶい橙	普通	ロクロ成形	P10 覆土中	40%
2	土師質土器	小皿	-	(20)	-	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	普通	ロクロ成形	P23 覆土中	黒書「砂」 P1-25

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
3	陶器	茶入	-	(31)	-	緻密・黒	肩薬茶入 ロク口成形	鉄軸	瀬戸・美濃系	P38 覆土中	数量2 頁25
4	陶器	香炉	[8.4]	(1.0)	-	緻密・オリーブ黄	筒型香炉 ロク口成形	瓦軸	吉原戸	P 9 覆土中	後期Ⅲ-Ⅳ
5	磁器	小皿	-	(2.6)	7.4	緻密・白	呉須による染付 内面山文 外面 繪草 底部外面に年記跡「二三」	透明軸	景徳鎮産系	P18 覆土中	SK400と複合 30% 頁25
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
7	釘	(6.1)	(0.8)	(0.6)	(9.14)	鉄	断面形方形 頭部欠損		P 3 覆土中		



第109図 第23号掘立柱建物跡出土遺物実測図

P 32・P 33の掘方は長楕円形を呈しており、長径68～98cm、短径38～42cmで、他の柱穴とは異なる形状である。P 6・P 11・P 23・P 35～P 38を除く33か所の柱穴の底面付近からは礎が出土しており、礎板として据えられたものと考えられる。柱穴の規模及び礎板の大きさは、身舎と考えられる柱の方が大きく構築されている。礎板に使用された石材はほとんどが川原等で採取できる円礫をそのまま用いているが、P 7に据えられた6は、扁平な石材の周縁部を調整し円形に加工したものと考えられる。出土した礎板石の中には、火熱を受けて表面が荒れているものや煤が付着したものが多く確認できる。礎の中には片面のみに被熱痕跡がみられるものがあることから、元は礎石として使用されていたものが、火災により火熱を受けた後に礎板に転用されたと考えられる。火熱を受けた石材の表面は荒れているが、柱の接地面は被熱を免れており、痕跡として確認できた。石材に残された柱の当たりから、径約15cm前後の丸材が柱として据えられていたと推定される。P 2・P 5・P 9・P 10・P 18からは複数の礎板石が重なった状態で確認されており、柱穴の深さを調整するために据えられたものとみられる。P 3・P 4・P 8・P 9・P 23・P 24の土層断面において柱痕跡が確認できたが、他の柱穴からは確認できず、抜き取られたものと思われる。P 23の底面からは、炭化した柱材が出土しており、柱は忌持ち丸太材を用いている。礎板石はなく素掘りのまま直接柱が立てられている。



第110図 第23号掘立柱建物跡P23
炭化材出土状況図

遺物出土状況 土師器片13点、須恵器片5点、土師質土器片13点(小皿)、陶器片4点(小皿、甕、茶入、香炉)、磁器片1点(皿)、金属製品4点(釘)が、P 2・P 3・P 5・P 8・P10・P13・P 15～P 17・P 21・P 32・P 33・P 39の覆土中から出土している。P 16から出土した5は、第400号土坑から出土したものと接合した。出土した遺物はすべて細片であり、埋土及び柱抜き取り後の覆土に混入したものと考えられる。

所見 本跡は、今回の調査で確認された掘立柱建物跡の中で最大の規模を誇る。また、礎板石を用いた工法や庇を廻らす構造などが、他の掘立柱建物跡とは大きく異なり、本調査区内における掘立柱建物群の中でも、中心的な施設であった可能性がある。本跡の東側は、周辺に比べ遺構の密度が低いことから、建物を意識した空間があったことが想定される。また、身舎を廻る庇の幅が、南・北・東側がほぼ同寸であるのに対し、西側のみが狭く構築されていることから、建物の正面が東側であったことが想定できる。柱

穴内から出土した礎板石の中には片面に被熱痕跡が見られるものがあり、礎石を転用したものと考えられる。本跡構築以前に礎石建物が存在したと考えられることから、礎石建物の焼失後に本跡が再建された可能性がある。また、両面に被熱痕跡がみられるものも存在することから、焼失による建て替えが複数回行われ、その度に石材を転用していた可能性がある。時期はP23から出土した柱材とみられる炭化材の放射性炭素年代測定の結果から、14世紀末～15世紀前葉に柱材が切り出されたことが判明した。出土した遺物から廃絶時期は、17世紀後葉とみられる。本跡は掘立柱建物であるが木材の伐採時期と建物の廃絶時期には年代差がある。

第23号掘立柱建物跡出土炭化材の科学分析

1. はじめに

本分析調査では、中世の掘立柱建物跡とされる遺構から出土した炭化材を対象に加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と測定方法

表1に試料情報を示す。測定試料は、元素分析計、質量分析計、ガラス真空ラインにより構成されるグラフアイト調整システムにてグラフアイト化を行った。その後加速器質量分析装置(NEC製 15SDH)を用いて放射性炭素濃度を測定した。

3. 結果

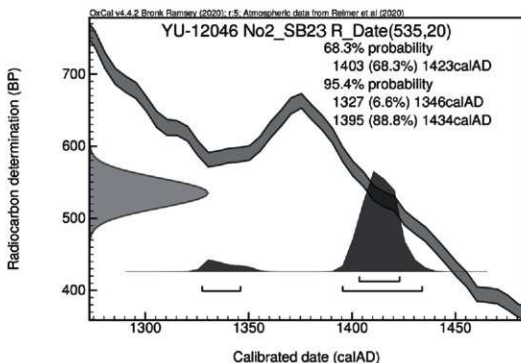
表2に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}C$)、同位体分別効果の補正を行った放射性炭素年代、較正曲線データを使用して放射性炭素年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。

表1. 試料情報

ラゴコード	測定試料名	試料情報	試料状態	処理
YU - 12046	No2_SB23-P28	遺構番号: SB23 - P28 炭化物試料 No 2_SB23-P28	前処理後の試料 98.819mgから 2.353mg使用	AAA 処理 1 M HCl 80 度 1 時間 1 M NaOH 80 度 1 時間 (7 回) 1 M HCl 80 度 1 時間

表2. 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	試料名	$\delta^{13}C$ (‰)	放射性炭素年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	放射性炭素年代を暦年に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
YU - 12046	No2_SB23-P14	-25.16 \pm 0.33	535 \pm 20	1403AD (68.3%) 1423AD	1327AD (6.6%) 1346AD 1395AD (88.8%) 1434AD



==== 年代測定の考え方 ====

放射性炭素(14C)年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。14C年代(yrBP)の算出には、14Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した14C年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の14C年代がその14C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された14C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い(14Cの半減期5730 \pm 40年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。14C年代の暦年較正にはOxCal4.4.21(較正曲線データ: IntCal202)を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された14C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に

2 σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年校正曲線を示す。

参考文献

- 1) C Bronk Ramsey, BAYESIAN ANALYSIS OF RADIOCARBON DATES, Radiocarbon, 51 (1) 337-360 (2009).
- 2) Paula J Reimer, William E N Austin, Edouard Bard, Alex Bayliss, Paul G Blackwell, Christopher Bronk Ramsey, Martin Butzin, Hai Cheng, R Lawrence Edwards, Michael Friedrich, Pieter M Grootes, Thomas P Guilderson, Irka Hajdas, Timothy J Heaton, Alan G Hogg, Konrad A Hughen, Bernd Kromer, Sturt W Manning, Raimund Muscheler, Jonathan G Palmer, Charlotte Pearson, Johannes van der Plicht, Ron W Reimer, David A Richards, E Marian Scott, John R Southon, Christian S M Turney, Lukas Wacker, Florian Adolphi, Ulf Büntgen, Manuela Capano, Simon M Fahrni, Alexandra Fogtmann-Schulz, Ronny Friedrich, Peter Köhler, Sabrina Kudsk, Fusa Miyake, Jesper Olsen, Frederick Reinig, Minoru Sakamoto, Adam Sookdeo, Sagra Talamo, THE INTCAL20 NORTHERN HEMISPHERE RADIOCARBON AGE CALIBRATION CURVE (0-55 CAL kBP), Radiocarbon, 62, 1-33 (2020).

第 25 号掘立柱建物跡 (第 111 図)

位置 調査 2 区中央部の O156 区、標高 45 m ほどの台地上に位置している。

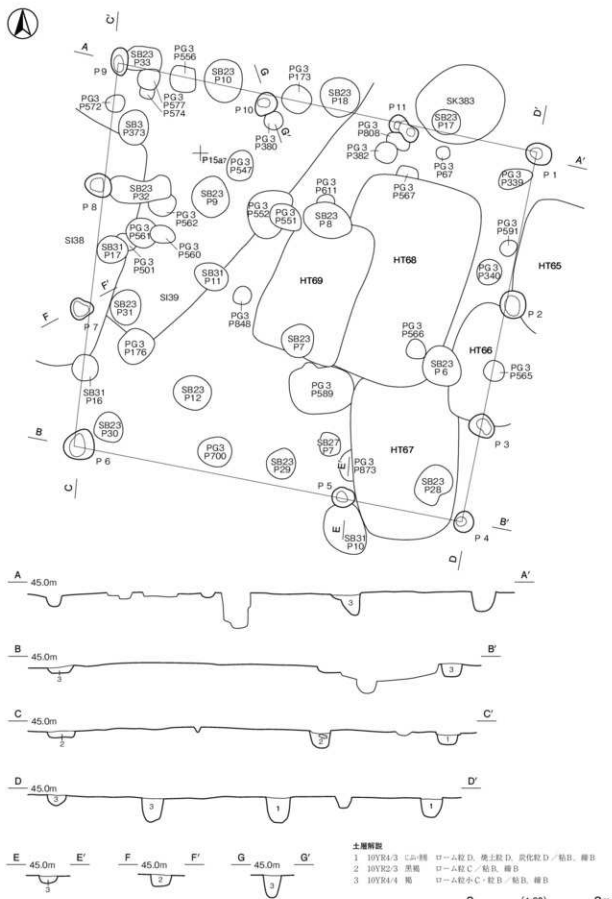
重複関係 第 38・39 号竪穴建物跡、第 23・31 号掘立柱建物跡、第 65・66 号方形竪穴遺構、第 3 号ピット群を掘り込んでいる。第 27 号掘立柱建物跡、第 67～69 号方形竪穴遺構、第 383 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行は、北平 3 間、南平 2 間、梁行 3 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 78° - W の東西棟である。規模は桁行 6.15～6.67 m、梁行 5.87～6.00 m、面積は 38.04m²である。柱間寸法は、桁行 1.92～4.20m (6 尺～14 尺)、梁行 1.42～2.35m (5 尺～8 尺) で、柱筋はばらつきがある。

柱穴 11 か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径 32～51cm、短径 25～44cm である。深さは 11～37cm で、掘方の壁はほぼ直立している。土層断面で柱痕跡が確認出来ないことから、柱は抜き取られたとみられる。P 8 の覆土上層からは、扁平な礫が斜位で出土している。礫の下層の覆土の締まりがあまり強くなく、また、出土状況も斜位であることから、礎板として据えられたものではなく、柱の抜き取り後に投棄されたものと考えられる。

遺物出土状況 土師器片 13 点、須恵器片 5 点、陶器片 1 点 (小皿カ)、金属製品 1 点 (不明) が P 1・P 2・P 5～P 7・P 9～P 11 の覆土中から出土している。P 1 から灰釉丸皿と思われる陶器片が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から、16 世紀中葉以降に比定できる。



第111图 第25号掘立柱建物跡実測图

規模と構造 桁行4間、梁行は、北妻2間、南妻3間の側柱建物跡で、桁行方向がN-13°-Eの南北棟である。規模は桁行7.56～8.15m、梁行5.20～5.56m、面積は42.26㎡である。柱間寸法は、桁行1.85～2.28m（6尺～8尺）、梁行1.88～1.93m（6尺）で、柱筋は概ね揃っている。

柱穴 13か所。平面形は円形もしくは楕円形で、規模は長径37～72cm、短径30～52cmである。深さは29～57cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P3・P6の土層断面で柱痕跡を確認した。

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）がP4覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世～近世初頭に比定できる。

第27号掘立柱建物跡（第113図）

位置 調査2区中央部のP15a7区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第383号土坑を掘り込み、第23・25号掘立柱建物跡、第65～69号方形竪穴遺構、第3号ピット群との新旧関係は不明である。

規模と構造 西部の桁行と、南部の梁行は、重複のため確認できなかったが、桁行4間、梁行3間の側柱建物跡であったと推定される。桁行方向はN-11°-Eの南北棟である。規模は桁行5.81～6.34m、梁行4.64～5.00m、面積は29.28㎡である。確認できた柱間寸法は、桁行1.05～1.25m（4尺）、梁行0.91～1.62m（3尺～5尺）で、柱筋は概ね揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形または隅丸長方形で、規模は長軸31～77cm、短軸28～61cm、深さは10～78cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P2において土層断面で柱痕跡が確認され、P1・P9からは柱の当たりが確認できた。P1の柱当たりは覆土第4層上面で確認でき、第4層の締まりが非常に強いことから、柱材の長さに応じて柱穴の深さを調整するためにローム土を充填し、突き固めたとみられる。

遺物出土状況 土師器片3点がP9の覆土中から出土しているが、細片で図示できない。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世～近世初頭に比定できる。

第28号掘立柱建物跡（第114・115図）

位置 調査2区中央部のP15b8区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第33・38号掘立柱建物跡を掘り込み、第6号ピット群に掘り込まれている。

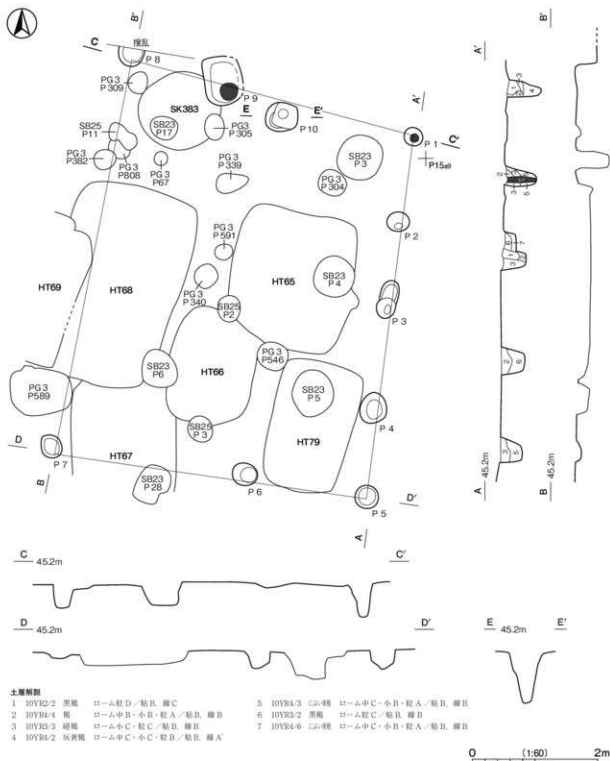
規模と構造 西部の桁行の一部が攪乱を受けており確認ができなかったが、桁行5間、梁行3間の側柱建物跡であると推定され、桁行方向がN-11°-Eの南北棟である。規模は桁行8.31～8.50m、梁行5.37～5.45m、面積は45.47㎡である。確認できた柱間寸法は、桁行1.40～1.57m（5尺）、梁行1.45～2.05m（5尺～7尺）で、柱筋は通っている。

柱穴 14か所。平面形は円形で、規模は径23～55cm、深さは8～62cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P11～P13の底面からは礫が出土しており、礎板として据えられたものと考えられる。P11・P13は扁平で大型の一枚岩を用いているのに対し、P12は雲母片岩の板石を底面に据えた上に15cmほどの川原石を複数敷き詰めている。P11の土層断面において柱痕跡が確認できた。

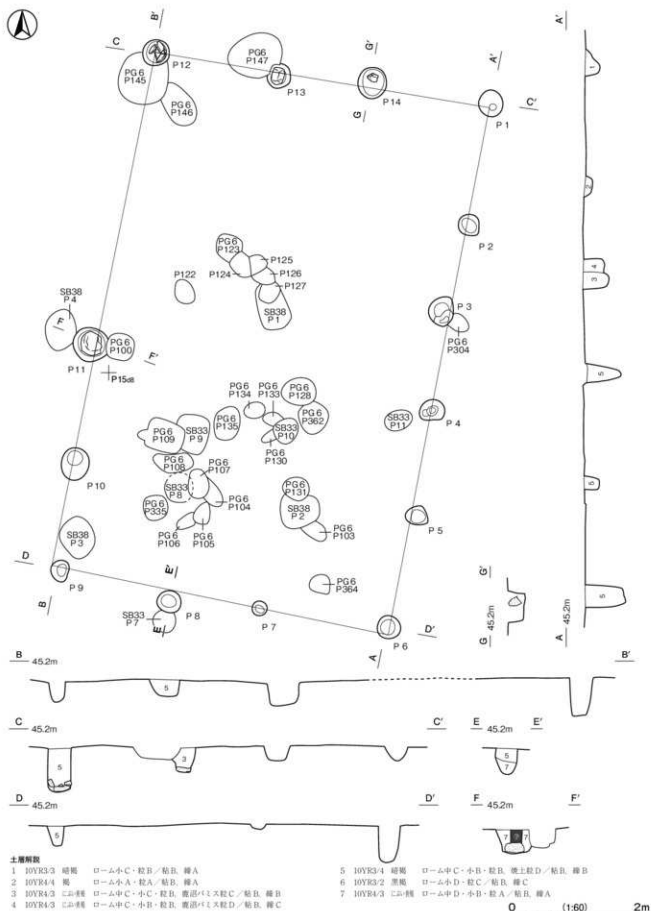
遺物出土状況 土師器片2点が出土しているが、細片であり埋土に混入したものである。礎板として使用された礫は、川原石をそのまま使用しているものがほとんどであるが、P11の底面から出土した1は緑面を打ち、

欠き面取り状の加工が施されている。被熱痕が確認できることから、礎石として利用されていたものを、後に礎板に転用したと考えられる。P 14 の覆土中層からも礫が出土しているが、柱抜き取り後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、年代を特定できる遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世～近世初頭に比定できる。



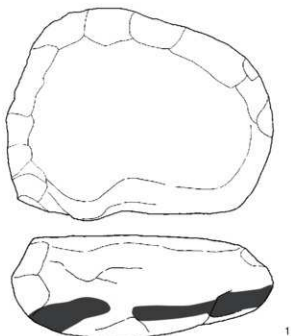
第 113 図 第 27 号掘立柱建物跡実測図



第 114 図 第 28 号掘立柱建物跡実測図

第 60 表 第 28 号掘立柱建物跡出土礎板石一覧

出土 遺構	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	石材	特徴	備考
P 11	底面	426	338	169	38.9	花崗岩	打ち欠きによる面取り加工 表面に焼熱痕跡	第 115 図 - 1
P 12	底面	615	260	80	18.4	雲母片岩	角礫	
P 13	底面	342	238	158	13.4	アズライト	準円礫 焼熱痕	
P 14	覆土中層	221	178	125	4.4	花崗岩	角礫	



第 115 図 第 28 号掘立柱建物跡 P 11 出土礎板石実測図

0 (1:6) 10cm

第 29 号掘立柱建物跡 (第 116・117 図)

位置 調査 2 区中央部の P15a9 区、標高 45 m ほどの台地上に位置している。

規模と構造 桁行は西平 1 間、東平 2 間、梁行 2 間の掘立柱建物跡で、桁行方向が N - 7° - E の南北棟である。規模は桁行 4.01 ~ 4.09 m、梁行 2.64 ~ 2.75 m、面積は 10.91 m² である。柱間寸法は、桁行 1.72 ~ 3.60 m (6 尺 ~ 12 尺)、桁行 0.45 ~ 1.82 m (2 尺 ~ 6 尺) で、柱筋は通っている。

柱穴 7 か所。平面形は円形で、規模は径 24 ~ 46 cm、深さは 12 ~ 65 cm で、掘方の壁はほぼ直立している。P 1 において土層断面で柱痕跡を確認した。

遺物出土状況 銭貨 2 点 (至大通寶) が出土している。1 は P 1、2 は P 2 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土した銭貨が渡来銭であることから、中世 ~ 近世初頭に比定できる。

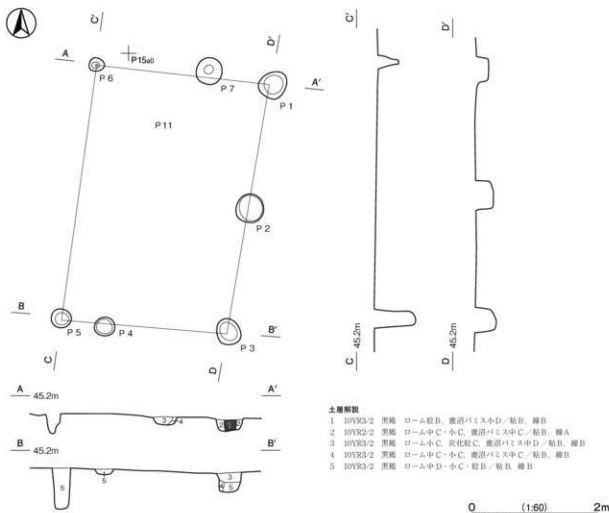


第 116 図 第 29 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

0 (1:1) 2cm

第 61 表 第 29 号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	遺 種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初測年	特 徴	出土位置	備 考
1	至大透貫	2.25	0.56	0.19	3.03	銅	1310 年	元銭	P 1 覆土中	
2	至大透貫	2.35	0.59	0.15	2.32	銅	1310 年	元銭	P 2 覆土中	



第 117 図 第 29 号掘立柱建物跡実測図

第 30 号掘立柱建物跡 (第 118 図)

位置 調査 2 区中央部の O15i9 区、標高 45 m ほどの台地上に位置している。

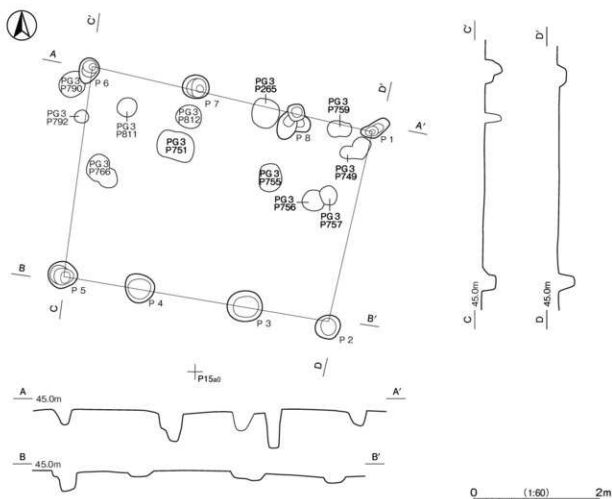
重複関係 第 3 号ピット群を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 1 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 80° - W の東西棟である。規模は桁行 4.25 ~ 4.57 m、梁行 3.15 ~ 3.44 m、面積は 14.53 m² である。柱間寸法は、桁行 1.24 ~ 1.72 m (4 尺 ~ 6 尺)、桁行 3.24 ~ 3.42 m (10 尺 ~ 11 尺) で、柱筋は通っている。

柱穴 8 か所。平面形は円形で、規模は径 28 ~ 55 cm、深さは 7 ~ 62 cm で、掘方の壁面はほぼ直立している。

遺物出土状況 陶器片 1 点 (皿^カ) が、P 2 覆土中から出土しているが、細片のため図示できない。灰釉で、瀬戸・美濃系丸皿の破片とみられる。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀中葉以降に比定される。



第118図 第30号掘立柱建物跡実測図

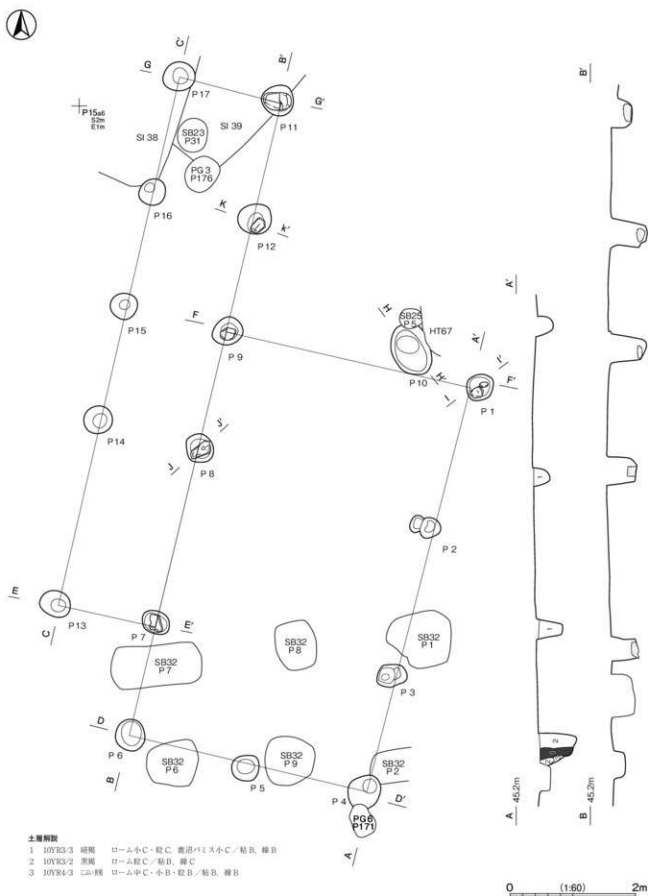
第31号掘立柱建物跡 (第119・120図)

位置 調査2区中央部のP15b7区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第38・39号竪穴建物跡、第32号掘立柱建物跡を掘り込み、第25号掘立柱建物、第67号方形竪穴遺構、第6号ピット群に掘り込まれている。

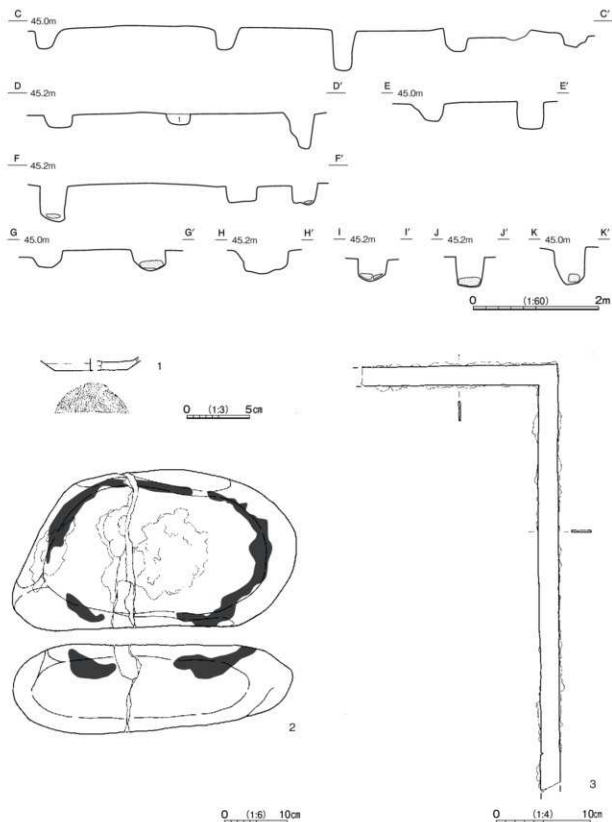
規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物の北西部に、桁行4間、梁行1間の構造物が付属している。桁行方向がN-14°-Eの南北棟である。規模は中心施設が、桁行6.58～6.60m、梁行3.87～4.05m、付属構造物が桁行8.54～8.59m、梁行1.58～1.65mで、面積は併せて39.93㎡である。柱間寸法は、中心施設が桁行1.45～2.45m(5尺～8尺)、桁行1.45～3.66m(5尺～12尺)、付属構造物は、桁行1.35～2.58m(5尺～9尺)、梁行1.07～1.17m(4尺)で、柱筋は揃っている。中心施設の北側に位置するP10は本跡に伴うものか不明である。

柱穴 17か所。平面形は、P1～P9・P11～P17が円形で、規模は径32～54cm、P10が楕円形で、長径84cm、短径59cmである。深さは17～61cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P1・P7～P9・P11・P12の底面からは礫が出土しており、礎板として据えられたものと考えられる。礎板石には被熱痕が確認でき、礎石として利用されていた石材を転用して埋設されたと考えられる。中心施設と付属構造物は、P7～P9を共有して構築されている。P4は、土層断面で柱痕跡が確認できたが、他の柱穴からは確認できず、抜き取られたと考えられる。



第119図 第31号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 須恵器片2点、陶器片1点(小皿)、金属製品2点(釘、指矩カ)がP3・P4・P8から出土している。2は、P11の覆土中から出土しており、柱の抜き取り後の埋め戻しの際に投棄されたと考えられる。
所見 時期は、出土土器から16世紀以降に比定される。



第120図 第31号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第62表 第31号掘立柱建物跡出土礎板石一覧

出土遺構	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	石材	特徴	備考
P 1	底面	228	195	11.0	62	花崗岩	華円礎	
P 7	底面	320	222	12.0	127	アブライト	華円礎 表面に被熱痕 柱頭跡径 11.8cm	
P 8	底面	389	208	12.8	153	細粒花崗岩	華円礎 裏面に被熱痕	
P 9	底面	307	243	11.8	149	アブライト	華円礎 表面に被熱痕	
P11	底面	446	272	14.5	282	アブライト	華円礎 柱設置部を縦行し平坦に調整 被熱痕 表面に保付着	第120図-2
P12	底面	231	21.6	7.7	52	花崗岩	華円礎 表面に被熱痕	

第63表 第31号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	鉢物小皿	-	(1.0)	(5.8)	観音・黄	底部回転糸切り	-	古瀬戸	P 11 覆土中	複製 P4.25
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
3	陶器*	(45.2)	(20.8)	0.2	(178.6)	鉄	平面形L字状 断面形板状 両端部欠損			P 8 覆土中	PL34

第33号掘立柱建物跡 (第121・122図)

位置 調査2区中央部のP15d8区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第51号方形竪穴遺構、第6号ピット群を掘り込み、第28号掘立柱建物、第6号ピット群に掘り込まれている。第38号掘立柱建物跡、第50号方形竪穴遺構との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-83°-Wの東西棟である。規模は桁行6.72～6.75m、梁行3.19～3.66m、面積は23.07㎡である。柱間寸法は、桁行1.50～1.95m(5尺～7尺)、梁行1.05～2.15m(4尺～7尺)で、柱筋はばらつきがある。

柱穴 12か所。平面形は円形で、規模は径25～62cm、深さは11～65cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P3の土層断面で柱痕跡が確認されたが、他の柱穴では認められず、抜き取られたと考えられる。P1・P3・P9の覆土中からは礎が出土しており、P1・P9は柱の抜き取り後に投棄されたもの、P3は、柱を埋設する際に掘方の埋土に混入したものであり、いずれも礎板として据えられたものではない。

遺物出土状況 土師器片1点、土師質土器片3点(小皿)、瓦質土器片1点(掃鉢)、金属製品1点(不明)がP3・P7・P11の覆土中から出土している。いずれも細片であり、構築時の埋土、または柱抜き取り後の覆土中に混入したものである。

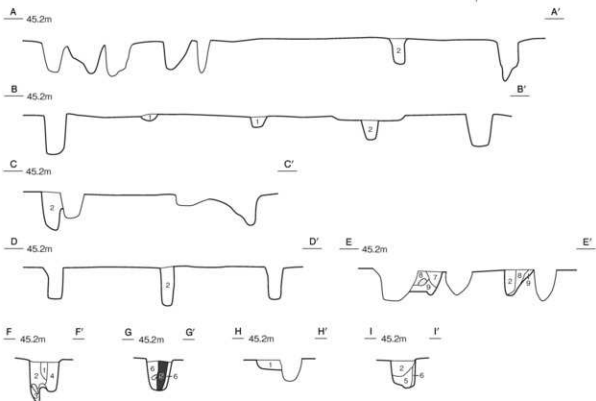
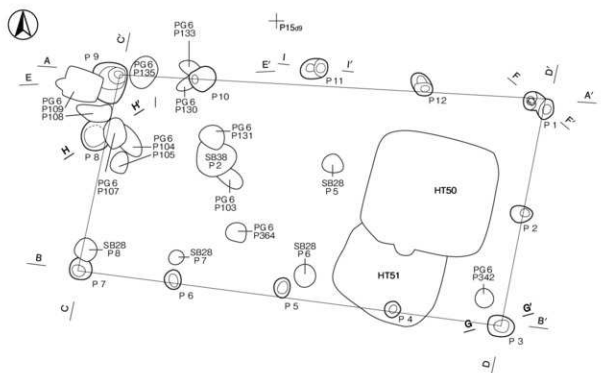


0 (1:3) 5cm

所見 時期は、出土土器から16世紀以降に比定される。 第121図 第33号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第64表 第33号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	瓦質土器	掃鉢	-	(1.6)	-	石英・長石	赤灰	良好 内面底部に平方目(単位不明) 底部回転糸切り、内面使用による変滅	P 7 覆土中	



土層解説

- 1 10Y3/4 暗褐色 ローム小D・粒C、炭化殻D/粘B、礫B
- 2 10Y3/2 黒褐色 ローム中D・小C粒C/粘B、礫B
- 3 10Y3/2 黒褐色 ローム小C・粒C/粘B、礫B
- 4 10Y3/2 黒褐色 ローム中D・小C・粒C/粘B、礫B
- 5 10Y3/4 黒褐色 ローム中C・小C・粒C、炭化殻D/粘B、礫C

- 6 10Y8/6 黒 ローム大C・中C・小D・粒A、焼土粒D/粘B、礫A
- 7 10Y7/3 二色焼土 ローム小C・粒B/粘B、礫B
- 8 10Y3/3 暗褐色 ローム中C・小C・粒C、粘B、礫B
- 9 10Y3/3 暗褐色 ローム粒D/粘B、礫B

0 (1:60) 2m

第 39 号掘立柱建物跡 (第 123 図)

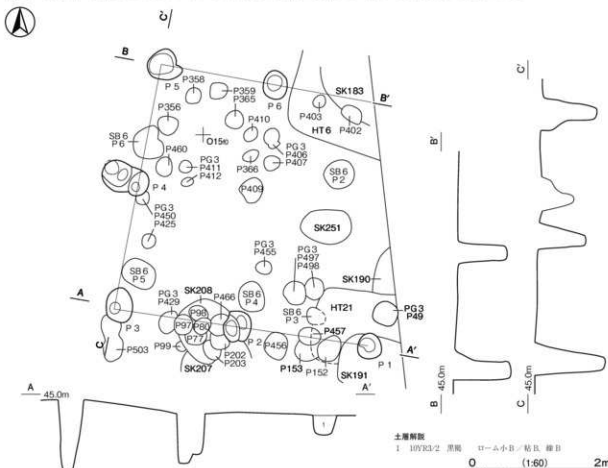
位置 調査 2 区中央部の O15f0 区、標高 45 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 21 号方形竪穴遺構、第 191・207・208 号土坑、第 3 号ピット群を掘り込んでいる。第 6 号掘立柱建物跡、第 6 号方形竪穴遺構、第 183・190・251 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と構造 東部が調査区外に延びており、南辺 2 間、北辺 2 間しか確認できなかった。側柱建物跡で、桁行方向は不明である。確認できた規模は北辺 3.42 m、南辺 4.10 m、西辺 3.95 m、面積は 16.20 m² である。柱間寸法は、北辺 1.82 m (6 尺)、南辺 1.88 ~ 2.20 (6 尺 ~ 7 尺)、西辺 1.96 ~ 2.00 m (7 尺) で、柱筋は揃っている。

柱穴 6 か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径 41 ~ 56 cm、短径 38 ~ 47 cm、深さは 32 ~ 112 cm で、掘方の壁面は直立している。コーナー部に当たる P 3 及び P 4 が他の柱穴よりも深く掘られている。

所見 時期は、遺物が出土していないが、周辺の遺構の分布から中世 ~ 近世初頭に比定できる。



第 123 図 第 39 号掘立柱建物跡実測図

第 40 号掘立柱建物跡 (第 124・125 図)

位置 調査 2 区中央部の O15e7 区、標高 45 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 20 号掘立柱建物跡、第 15・73 号方形竪穴遺構、第 177・186・200 号土坑、第 3 号ピット群を掘り込み、第 8 号掘立柱建物跡、第 3 号ピット群に掘り込まれている。第 9・14 号掘立柱建物跡、第 199・210・272・400 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行は西平 6 間、東平 7 間、梁行は北妻 4 間、南妻 3 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 22°



土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム小C・粒C/粘土、礫目
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中B・小B・粒目/粘土、礫目
- 3 10YR3-2 暗褐色 ローム小C・粒B/粘土、礫目
- 4 10YR3-2 黒褐色 ローム中B・粒C/粘土、礫目
- 5 10YR3-2 黒褐色 ローム粒C・黒褐色土粒C/粘土、礫目

- 6 10YR3-2 黒褐色 ローム粒B/粘土、礫目
- 7 10YR2-2 黒褐色 ローム小C・粒C/粘土、礫目
- 8 10YR3-2 黒褐色 ローム中C・小B・粒B、黒褐色土粒小D/粘土、礫目
- 9 10YR3-2 黒褐色 ローム中B・小C/粘土、礫目

0 (1:80) 2m

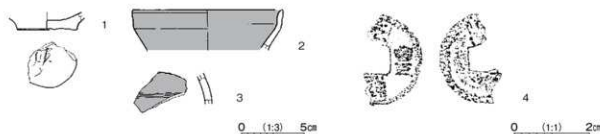
第124図 第40号掘立柱建物跡実測図

- E の南北棟である。規模は桁行 10.76 ～ 11.04 m、梁行 5.92 ～ 7.52 m、面積は 73.25m²である。柱間寸法は、桁行 0.50 ～ 2.85 (2 尺～ 10 尺)、梁行 1.65 ～ 2.45m (6 尺～ 8 尺) で、柱筋はばらつきがある。

柱穴 20 か所。平面形は円形で、規模は径 24 ～ 79cm、深さは 12 ～ 82cm で、掘方の壁面は直立、または外傾して立ち上がっている。柱痕跡は確認されていない。

遺物出土状況 土師器片 3 点、須恵器片 1 点、土師質土器片 6 点 (小皿 5、鉢 1)、陶器片 2 点 (天目茶碗、瓶子)、金属製品 1 点 (釘)、銭貨 2 点 (元龜通寶、不明) が P 7・P 8・P 10・P 13 から出土している。いずれも細片であり、柱抜き取り後の覆土に混入したものである。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後葉に比定できる。



第 125 図 第 40 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 65 表 第 40 号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	-	(1.3)	[4.6]	右巻・長石・赤色粘土・針状炭化物	橙	普通	口口成形成 底部回転糸切り	P 7 覆土中	IV-25 筆書「遺上」
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸輪	産地	出土位置	備考
2	陶器	天目茶碗	[119]	(3.2)	-	銀青・灰濁	口口成形成 外内面施軸	鉄軸	瀬戸・美濃	PL3 覆土中	一次焼成 大高台 3 期
3	陶器	瓶子	-	(2.5)	-	鐵青・オリーブ灰	輪縁み成形成 外部外面 2 条 1 単位の花脚・外周施軸	灰軸	古瀬戸	P 7 覆土中	IV-25
番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鑄年	特徴		出土位置	備考
4	元龜通寶	[249]	(0.65)	0.15	(1.20)	銅	1078 年	北宋銭	筆書 一部欠損	P 7 覆土中	北宋銭

第 66 表 中世～近世掘立柱建物跡一覧

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱	柱穴	主要出土遺物	時期	備考
						桁間(m)	梁間(m)					
1	N1602	N-9°-W	3×3	5.85×5.05	29.54	1.85-2.23	1.52-2.06	圓柱	9	円形 35-98 土師部、須恵部、陶器	16 世紀以降	SE22SK104-113-150→本跡 SK100-118-131-154(新形不明)
2	O1540	N-67°-E	(3)×(2)	(5.75)×(4.05)	26.16	1.55-2.15	2.25-2.38	圓柱	9	円形 15-55 土師部	中世～近世初期	HT2-4, SK195→本跡 →SK130-157 SEG, HTAASA-UP33(新形不明)
3	O1584	N-46°-W	3×2	3.25×2.65	8.61	0.90-1.35	1.35	圓柱	8	円形 4-65 土師部	中世～近世初期	
4	O1580	N-23°-E	3-4×2	4.75×2.55 ～2.98	12.89	1.02-1.83	1.05-1.81	圓柱	11	円形 16-60 土師部	中世～近世初期	SH5SK174→本跡 →SK172-173
5	O1560	N-14°-W	3×1-2	3.42×2.27	7.76	0.77-1.25	0.95-1.30	圓柱	9	円形・楕円形 5-48 土師部	中世～近世初期	
6	O1569	N-7°-E	2×2-3	3.89×4.35× 2.92-3.32	12.38	1.85-2.35	0.95-1.85	圓柱	9	円形・楕円形 26-85 土師部、須恵部、土師質土器	近世初期 →PG2 17 世紀遺物	HT6-21, SK183→本跡 →PG2 SE30, SK251(新形不明)
7	N1590	N-21°-E	2×1	2.57×1.90	(4.88)	1.25-1.32	1.91	圓柱	4	円形・楕円形 28-61 土師部	中世～近世初期	HT2, SD4 SD2(新形不明)
8	O1588	N-68°-W	4×3	5.94×6.10× 3.72-3.95	23.12	0.95-2.30	0.62-2.08	圓柱	13	円形・土師質土器・陶器、瓦葺	16 世紀	PG1→PG3→S300 HT13 SK230-272(新形不明)
9	O1567	N-74°-W	3×2	4.32×4.45× 3.40-3.25	14.14	1.00-1.85	1.51-2.04	圓柱	10	円形・楕円形 25-71 土師部、土師質土器、陶器、瓦葺、金属製品	16 世紀中葉	SD14, HT73, SK600, PG3→本跡
10	O1611	N-77°-E	3×2	5.08×5.25× 3.27-3.32	17.02	1.65-1.90	1.45-1.75	圓柱	9	円形 11-44 土師質土器	中世～近世初期	SK212-215-217-228-289, PG1→本跡 SK211-213-289-313(新形不明) SK210, HT70-82
11	O1586	N-82°-W	1-2×2	4.45×4.60× 3.81-4.18	48.08	2.25-4.42	1.71-2.35	圓柱	7	円形 30-66 土師質土器、金属製品	中世～近世初期	SK223-26, HT76-77, SK451-473(新形不明)

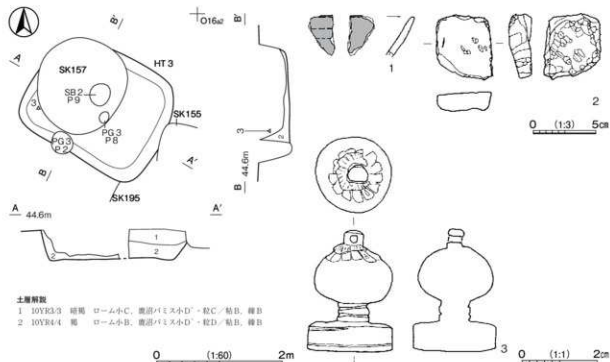
番号	位置	方位方向	柱間数	規模 桁×梁間	面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴		柱 穴 構造	柱穴数	平面 形状	深さ (cm)	主要出土遺物	時 期	備 考
						桁間(m)	梁間(m)	構造	深さ							
12	O156a	N-11°-E	3-5×3	6.72-6.84× 4.20-4.84	32.34	1.08- 2.00	1.35- 1.88	欄柱	14	円形	12-50		中世→ 古墳初期	SK270・271・273・297・ 475, PG3 新石		
14	O156b	N-70°-W	3×3	5.36-5.82× 4.00-4.45	23.62	1.52- 2.42	0.90- 2.25	欄柱	12	円形	15-71		新石器 土師器土器 金属製品	HT20・22・78・81 SK231- 233・237 PG3→新石→S99 SB40HT73 SK300 新石		
19	O156f	N-66°-W	4×3	6.57-6.85× 3.85-4.31	27.28	1.40- 1.65	1.15- 3.35	欄柱	11	円形	20-160		土師器 須恵器 土師器土器 金属製品	新石器 古墳初期 SK288 PG3→新石→SK257 PG3 SK240 PG3→新石→SK251 新石		
20	O156g	N-67°-W	2-3×1-3	4.17-4.52× 3.02-3.07	13.23	0.89- 1.42	1.02- 2.60	欄柱	8	円形	25-55		土師器 須恵器 金属製品	中世→ 古墳初期 SK288 HT15-69-76-79 SK257 SK1-32-38-39 PG3→新石→SK252 HT73 SK31 SK11-19-20-26-27-31 新石		
23	P156f	N-9°-W	5-4×3	9.36-9.68× 5.76-6.00	55.98	1.18- 3.05	1.60- 2.06	欄柱	40	円形・ 楕円形	16-40		土師器 須恵器 土師器土器 陶器 金属製品	15 新石 16 新石		
25	O156e	N-78°-W	2-3×3	6.15-6.67× 5.87-6.00	38.04	1.92- 4.20	1.42- 2.35	欄柱	11	円形・ 楕円形	11-37		土師器 須恵器 陶器 金属製品	古墳中世 SK257 新石→新石 SK288 PG3 新石		
26	O156d	N-13°-E	4×2-3	7.56-8.15× 4.64-5.00	42.26	1.85- 2.28	1.88- 1.93	欄柱	13	円形・ 楕円形	29-57		土師器	中世→ 古墳初期 SK278 SK257-66 PG3→新石 SK11-19-20-25 HT70-73 77 SK313-61 新石		
27	P156g	N-11°-E	4×3	5.81-6.34× 4.64-5.00	29.28	1.05- 1.25	0.91- 1.62	欄柱	10	円形・ 楕円形	10-78		土師器	中世→ 古墳初期 SK263→新石→HT27-68 SK257 新石→新石 PG3 新石		
28	P156h	N-11°-E	5×3	8.31-8.50× 5.37-5.45	45.47	1.40- 1.57	1.45- 2.05	欄柱	14	円形	8-62		土師器	中世→ 古墳初期 SK333-38→本跡→PG6		
29	O156j	N-7°-E	1-2×2	4.01-4.09× 2.64-2.75	10.91	1.72- 3.60	0.45- 1.82	欄柱	7	円形	12-65		土師器 銭貨	中世→ 古墳初期 SK288 HT73 SK257-66 PG3→新石 PG3→本跡		
30	O156i	N-80°-W	3×1	4.25-4.57× 3.15-3.44	14.53	1.24- 1.72	3.24- 3.42	欄柱	8	円形	7-62		陶器	古墳中世 PG3→本跡		
31	P156f	N-14°-E	3×2	4.58×4.05 8.51×8.58	39.93	1.35- 2.58	1.07- 1.17	欄柱	17	円形・ 楕円形	17-61		須恵器 陶器 金属製品	新石器 古墳 HT15 PG6		
33	P156h	N-83°-W	4×2	6.72-6.75× 3.19-3.66	23.07	1.50- 1.95	1.05- 2.15	欄柱	12	円形	11-65		土師器 土師器土器 瓦葺土器 金属製品	新石器 古墳 HT15 PG6→本跡→SK28 PG6 SK28 HT30 新石		
39	O156i	-	3×(3)	3.42-4.10 ×3.95	16.20	1.82- 2.20	1.96- 2.00	欄柱	6	円形・ 楕円形	32-112			中世→ 古墳初期 HT2 SK31-25 SK3 SK257 SK36 HT8 SK303-300-251 新石		
40	O156e	N-22°-E	6-7×1-3	10.76-11.04 ×5.92-7.52	73.25	0.50- 2.85	1.65- 2.45	欄柱	20	円形	12-82		土師器 須恵器 土師器土器 陶器 金属製品 銭貨	古墳後世 SK28-20 HT15-73 SK177- 186-200 PG3→新石→PG3 SK9-14 SK199-230-272- 400 新石		

(2) 方形竪穴遺構

第3号方形竪穴遺構 (第126図 PL13)

位置 調査2区北東部のO161a区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第195号土坑を掘り込み、第155-157号土坑、第3号ピット群に掘り込まれている。第2号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。



土器解説

- 1 10YR3/3 埴輪 ローム小C、断面パリス小D'・紋C/粘B、種B
- 2 10YR4/4 埴 rome小B、断面パリス小D'・紋D/粘B、種B

第126図 第3号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

規模と形状 長軸 227m、短軸 173m の隅丸方形で、主軸方向は N-59°-W である。壁は外傾しており、壁高は最大 48cm である。

床 平坦で、硬化面はみられない。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 3点、須恵器片 1点、陶器片 2点（平碗、甕）、金属製品 1点（権）が出土している。

覆土中から散在して出土しており、埋め戻しの際に投棄されたもの、もしくは覆土に混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から、16世紀後葉に比定できる。

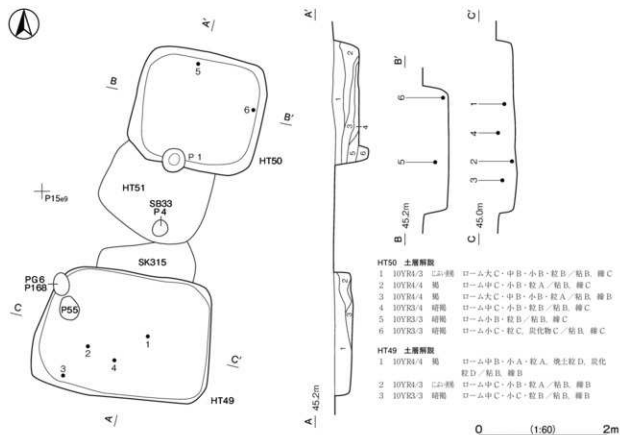
第 67 表 第 3 号方形竪穴遺構出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	平碗	-	(32)	-	細密・灰黄	ロタロ成形 内・外面輪軸	灰軸	瀬戸・美濃系	覆土中	大宮3期
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
2	砥石	5.2	4.5	1.8	57.20	長石・石英	浅黄橙	常滑焼裏を砥石に転用		覆土中	
番号	器種	高さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3	権	3.2	2.3	2.2	45.20	銅	断面形円形 鋸部に菊座の装飾		覆土中層	PL35	

第 49 号方形竪穴遺構 (第 127・128 図)

位置 調査 2 区中央部の P15e9 区、標高 45m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 315 号土坑を掘り込み、第 6 号ビット群に掘り込まれている。



第 127 図 第 49・50 号方形竪穴遺構実測図

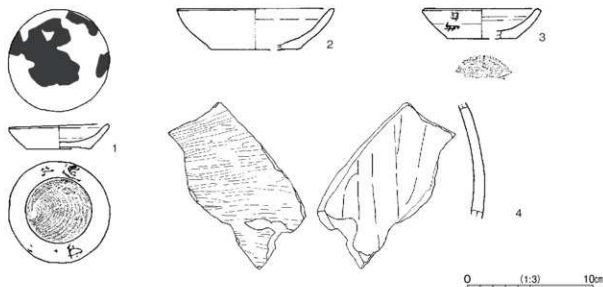
規模と形状 長軸 270m、短軸 1.94 m の隅丸長方形で、主軸方向は N - 82° - W である。壁は直立しており、壁高は 25 ~ 29cm である。

床 平坦で、硬化面はみられない。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積で、ロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片 7点 (小皿)、瓦質土器片 1点 (鉢カ)、陶器片 1点 (甕) が出土している。土師質土器片小皿には、墨書がされているものがあり、1は「□選カ □□」と記されており、油煙が付着していることから灯明皿として使用されていたと考えられる。3は覆土中から出土している。縦位に「日弁」と墨書が認められる。1は完形で、他も大型破片が多いことから、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 本跡は、後述する第50号方形堅穴遺構と並んで位置し、主軸の方向もほぼ同じである。出土遺物では両者から墨書土器が出土しており、本跡と第50号方形堅穴遺構は、同時期に並列して存在していた可能性がある。時期は、出土土器から16世紀後葉~17世紀前葉に比定できる。



第128図 第49号方形堅穴遺構出土遺物実測図

第68表 第49号方形堅穴遺構出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	8.0	1.9	5.2	石英・長石・雲母・針状鉱物	にぶ黄褐色	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 窯付き	覆土中層	100% PL26 墨書「□選カ」
2	土師質土器	小皿	[125]	3.3	[7.4]	石英・長石・雲母・針状鉱物	にぶ黄褐色	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	50%
3	土師質土器	小皿	[9.2]	2.4	[5.4]	石英・長石・雲母・針状鉱物	にぶ黄褐色	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土上層	40% PL26 墨書「日弁」
4	瓦質土器	深鉢類	-	[9.3]	-	石英・長石・雲母・針状鉱物・赤色鉄子	黒	普通	体部外面積位のヘラ磨き 内面縦位の指ナデ外・内面着色処理	覆土上層	10%

第50号方形堅穴遺構 (第127・129図 PL14)

位置 調査2区東部のP15d9区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第51号方形堅穴遺構を掘り込んでいる。

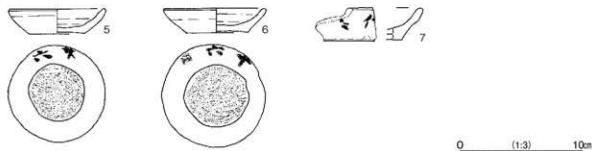
規模と形状 長軸 201m、短軸 1.85 m の隅丸長方形で、主軸方向は N - 78° - W である。壁は直立しており、壁高は 38 ~ 42cm である。南の壁際にピットが1か所付属している。P1は、円形で径 35cm、深さ 51cm である。

床 平坦で、硬化面はみられない。

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積で、ロームブロックが含まれることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿)、金属製品1点(不明)が出土している。5・6は完形で、覆土中層から散在して出土しており、それぞれ「廿六」、「十六日」と墨書されている。7は破片であるが墨書が確認でき、人偏とみられる文字の一部が確認できる。遺物は、完形または大型破片であることから、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 第49号方形竪穴遺構の北側に位置している。本跡からは、日付とみられる墨書がなされた土師質土器の小皿が2点、判読不明の小皿が1点出土しており、第49号方形竪穴遺構と同様に宗教的な様相が感じられる。時期は、16世紀後葉～17世紀前葉に比定できる。



第129図 第50号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第69表 第50号方形竪穴遺構出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
5	土師質土器	小皿	7.8	2.0	4.6	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り	覆土中層	100% PL26 墨書「廿六」
6	土師質土器	小皿	8.3	2.0	5.2	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り	覆土下層	100% PL26 墨書「十六日」
7	土師質土器	小皿	-	2.6	-	石英・長石	橙	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り	覆土中	10% PL26 墨書「イ」

第53号方形竪穴遺構 (第130図)

位置 調査2区中央部のP16c1区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第35号掘立柱建物跡、第54号方形竪穴遺構、第324号土坑を掘り込み、第325号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.66m、短軸1.54mの隅丸方形で、主軸方向はN-64°-Wである。壁は外傾して立ち上がり、壁高は8～25cmである。

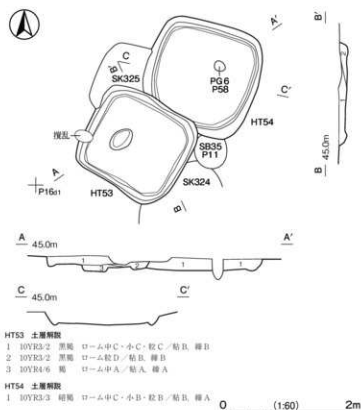
床 平坦で、壁際に浅い溝が巡っている。硬化面はみられない。中央部からやや西に寄った位置に長径42cm、短径27cm、深さ11cmの楕円形の掘り込みが確認できたが、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積で、ロームブロックを多量に含んでいることから埋め戻されている。

所見 本跡は、壁際に溝を持つ形状の方形竪穴遺構である。時期は、遺物が出土していないことから詳細は不明であるが、周囲の方形竪穴遺構と規模や形状が類似していることから、16世紀～17世紀前葉に比定できる。

第54号方形竪穴遺構 (第130図)

位置 調査2区中央部のP16c1区、標高45mほどの台地上に位置している。

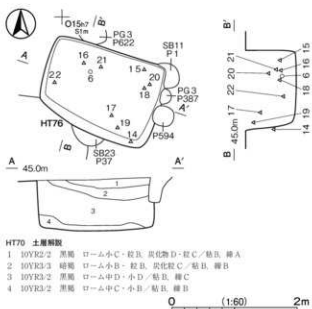


第130図 第53・54号方形竪穴遺構実測図

第70号方形竪穴遺構 (第131・132図 PL14)

位置 調査2区中央部のO15h7区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第23号掘立柱建物跡、第76号方形竪穴遺構を掘り込み、第11号掘立柱建物、第3号ピット群に掘り込まれている。



第131図 第70号方形竪穴遺構実測図

重複関係 第35号掘立柱建物跡を掘り込み、第53号方形竪穴遺構、第325号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第53号方形竪穴遺構との重複により、長軸1.79m、短軸1.75mしか確認できなかった。隅丸方形で、主軸方向はN-21°-Wである。壁は外傾しており、壁高は15~20cmである。

床 平坦で、壁際に浅い溝が巡っている。硬化面はみられない。

覆土 単一層。ロームブロックを多量に含んでいることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片3点、須恵器片2点が出土しているが、埋土に混入したものである。

所見 時期は、遺物が出土していないが、形状や遺構の配置から、16世紀から17世紀前葉に比定できる。

規模と形状 長軸1.91m、短軸1.40mの長方形で、主軸方向はN-70°-Wである。壁は直立しており、壁高は75~83cmである。

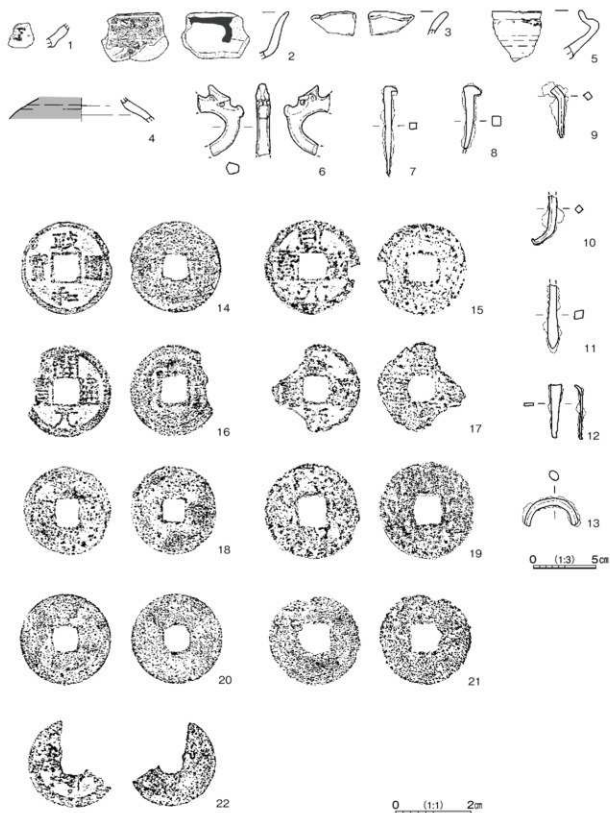
床 平坦で、硬化面はみられない。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片6点、土師質土器片9点(小皿5、内耳土鍋3、香炉カ1)、陶器片4点(向付1、瓶1、甕2)、磁器片1点(碗)、土製品1点(把手)、金属製品9点(釘6、毛抜きカ1、不明2)、銭貨9点(政和通寶1、乾元重寶1、開元通寶1、皇宋通寶1、不明5)が出土している。埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。5は、陶器の向付で、

第152号土坑からも出土しており、同一個体である可能性がある。また、銭貨9点が覆土中層から散在して出土している。

所見 時期は、出土遺物から、17世紀前葉に比定される。



第132図 第70号方形形穴遺構出土遺物実測図

第70表 第70号方形竪穴遺構出土遺物一覧

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考				
1	土師質土器	小皿	石灰・長石・雲母・黒色粘土・赤色粘土	にぶい黄橙	ロクロ成形	覆土中	PL27 [27] [27]				
2	土師質土器	香炉*	石灰・長石・雲母・黒色粘土	にぶい黄橙	ロクロ成形 外面菱形スタンプ文 内面窪付着	覆土中	PL27 [27] [27]				
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	布地	出土位置	備考
3	磁器	桜花皿	-	(1.8)	-	緻密・明赤灰	口縁部内面に2条の波状文	青紙粘	龍泉窯系	覆土中	PL27
4	陶器	瓶子	-	(1.9)	-	緻密・灰黄	輪積み成形 体部外面施釉	灰釉	古瀬戸	覆土中	
5	陶器	志野鉄絵付	-	(3.9)	-	緻密・灰白	ロクロ成形 鉄絵染付 内外面施釉	長石釉	美濃・美濃系	覆土中	登壇期
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
6	把手	(5.7)	(3.7)	(1.2)	(11.91)	石灰・長石・黒色粘土	にぶい黄橙	両端部欠損 龍頭の意匠	覆土中層	PL36	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
7	釘	7.1	1.1	0.5	9.82	鉄	断面形方形 頭部L字状	覆土中			
8	釘	(5.1)	1.5	0.8	(11.63)	鉄	断面形方形 頭部L字状 先端部欠損	覆土中			
9	釘	(4.2)	(1.1)	(0.7)	(5.56)	鉄	断面形方形 頭部欠損 く字状に折れ曲がっている	覆土中			
10	釘	(3.9)	(2.0)	(0.7)	(5.29)	鉄	断面形方形 頭部欠損 J字状に曲がっている	覆土中			
11	釘	(5.2)	(0.9)	(0.7)	(10.26)	鉄	断面形方形 頭部欠損	覆土中			
12	毛抜き*	(4.2)	1.0	0.7	(2.19)	鉄	断面名長方形 先端部楕状に開く 基部折れ曲がり欠損	覆土中			
13	不明	(4.3)	(2.2)	0.7	(8.62)	鉄	断面形円形 C字状	覆土中			
番号	種別	径	孔距	厚さ	重量	材質	初録年	特徴	出土位置	備考	
14	政和通寶	2.48	0.63	0.13	2.82	銅	1111年	北宋銭	覆土中層	PL36	
15	乾元重寶	2.51	0.66	0.17	(2.40)	銅	758年	唐銭 一部欠損	覆土中層	PL36	
16	開元通寶	2.44	0.63	0.14	(2.00)	銅	621年	唐銭 一部欠損	覆土中層	PL36	
17	皇宋通寶	(2.41)	0.61	0.15	(1.83)	銅	1039年	北宋銭 篆書体 一部欠損	覆土上層	PL36	
18	不明	2.35	0.53	0.18	2.41	銅	-	唐銭により銭種不明	覆土中層	PL36	
19	不明	2.56	0.74	0.18	2.46	銅	-	唐銭により銭種不明	覆土上層	PL36	
20	不明	2.44	0.67	0.11	2.29	銅	-	唐銭により銭種不明	覆土中層	PL36	
21	不明	2.45	0.74	0.13	2.79	銅	-	唐銭により銭種不明	覆土中層	PL36	
22	不明	[2.41]	(0.55)	0.11	(0.91)	銅	-	唐銭により銭種不明 欠損	覆土中層	PL36	

第73号方形竪穴遺構 (第133図)

位置 調査2区東部のO15g7区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第81号方形竪穴遺構を掘り込み、第9・40号掘立柱建物、第3号ピット群に掘り込まれている。

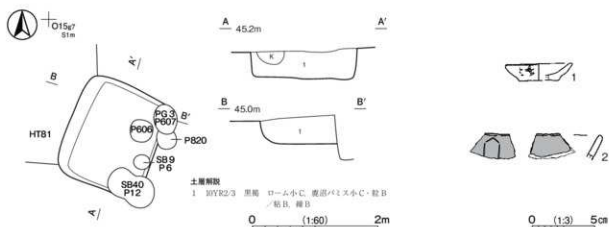
規模と構造 長軸1.67m、短軸1.45mの長方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁高は40～56cmで、直立している。

床 平坦で、硬化面はみられない。

覆土 単一層で、ロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片11点、須恵器片1点、土師質土器片1点(小皿)、磁器片1点(碗)、金属製品3点(不明)が出土している。いずれも細片であり、混入した遺物と考えられる。

所見 時期は、遺構との重複関係や出土土器から、16世紀後半～17世紀前半に比定できる。



第133図 第73号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第71表 第73号方形竪穴遺構出土遺物一覧

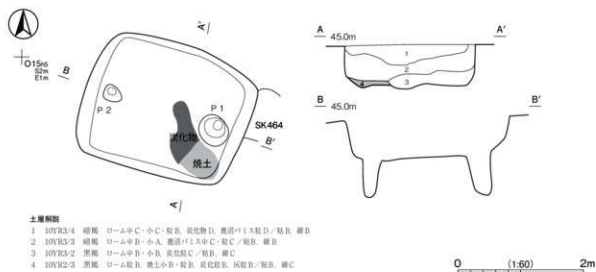
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師土器	小皿	[5.2]	1.3	[3.3]	[灰-紅-緑-黄緑]	黄	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土中	10% P1.27 撮影 [正]
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪索	産地	出土位置	備考
2	磁器	唐平文皿	-	(2.0)	-	磁赤・黄灰	外面沈線による透方文 外・内面施釉	青磁軸	龍泉原系	覆土中	P1.27

第82号方形竪穴遺構 (第134図)

位置 調査2区東部のO15h5区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第464号土坑を掘り込み、第471号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 長軸2.61m、短軸2.12mの長方形で、主軸方向はN-71°-Wである。壁高は45~65cmで、直立している。



第134図 第82号方形竪穴遺構実測図

床 平坦で、硬化面はみられない。

ピット 2か所。主軸の中心線上対になって確認された。径30～50cm、深さ62cmである。

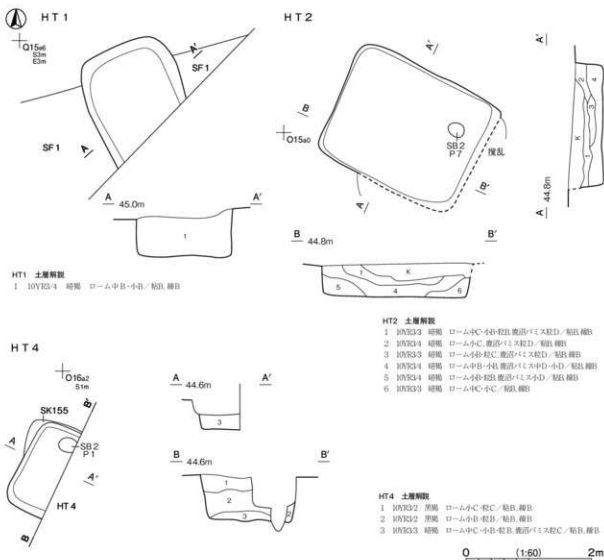
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれることから埋め戻されている。第4層は焼土と灰を含む層で埋め戻しの埋土である。

遺物出土状況 弥生土器片2点、土師器片1点、須恵器片3点、陶器片3点(碗、小皿、甕)が出土している。いずれも細片であり、混入した遺物と考えられる。

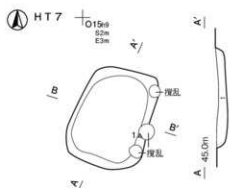
所見 時期は、周辺の遺構の分布状況から16世紀～17世紀前葉に比定される。ピットの配置から、上層構造を持つ建物の可能性がある。

その他の方形竪穴遺構

その他の方形竪穴遺構及び出土遺物については、実測図(第135～145図)及び一覧表(第72・73表)にて掲載する。

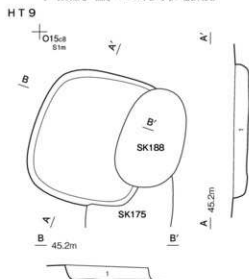


第135図 その他の方形竪穴遺構実測図(1)



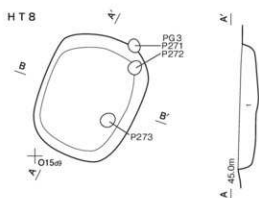
HT7 土層解説

1 10YK3/2 黒期 ローム中D・小C/粘土、礫石



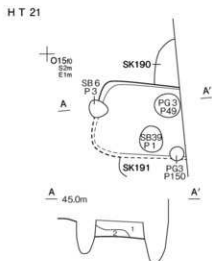
HT9 土層解説

1 10YK3/2 黒期 ローム中C・小B・粘土/粘土、礫石

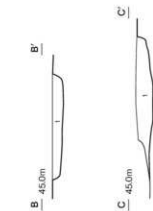
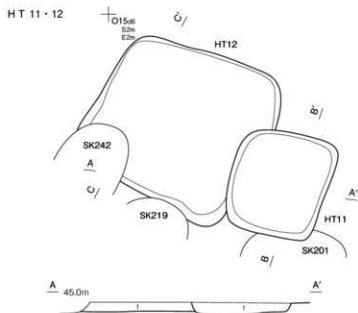


HT8 土層解説

1 10YK3/3 暗期 ローム中D・小B・粘土/粘土、礫石



HT21 土層解説

1 10YK3/2 黒期 ローム小C・粘土、炭化穀、白色粘土小D/粘土、礫石
2 10YK3/3 暗期 ローム中C・小B・粘土、白色粘土中C・小C/粘土、礫石

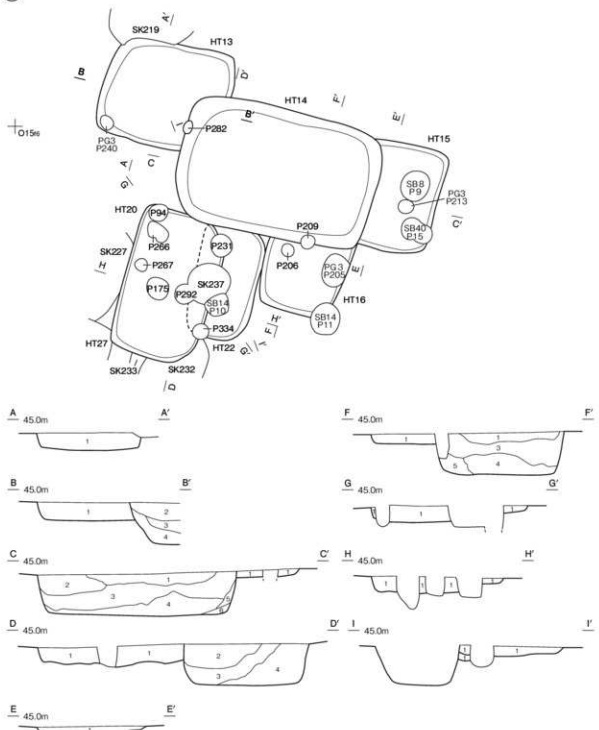
HT11 土層解説

1 10YK3/4 暗期 ローム中C・小B・粘土/粘土、礫石

HT12 土層解説

1 10YK3/3 暗期 ローム中C・小C・粘土/粘土、礫石

第136図 その他の方形堅穴遺構実測図(2)



HT13 土層解説

- 1 10YR3/3 砂層 ローム中C・小B・粒B/粘B、雜B

HT14 土層解説

- 1 10YR3/2 赤層 ローム中C・小B・粒C、炭化粒C/粘B、雜B
 2 10YR3/2 赤層 ローム中C・小A・粒B/粘B、雜B
 3 10YR3/2 赤層 ローム中B・小B、炭化粒C、炭屑/ビス小D/粘B、雜B
 4 10YR3/3 砂層 ローム中A・小A、炭屑/ビス中D/粘B、雜A
 5 10YR3/3 砂層 ローム小B/粘B、雜B
 6 10YR2/2 赤層 ローム小C/粘B、雜C

HT15 土層解説

- 1 10YR2/2 赤層 ローム小C、炭化粒C/粘B、雜B

HT16 土層解説

- 1 10YR3/2 赤層 ローム中D・小C・粒B/粘B、雜B

HT20 土層解説

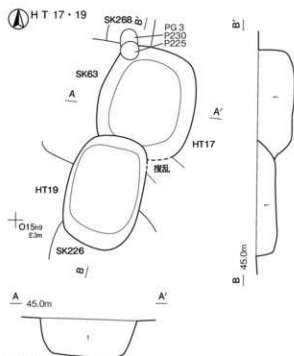
- 1 10YR3/3 砂層 ローム小C/粘B、雜B

HT22 土層解説

- 1 10YR3/3 砂層 ローム中C・粒B/粘B、雜B

0 (1:60) 2m

第 137 図 その他の方形竈穴遺構実測図 (3)



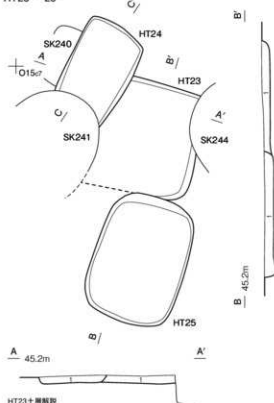
HT17 土層解説

I 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・小B・粒B、黄泥パリス粒D/粘B、礫B

HT19 土層解説

I 10YR3-2 黒褐色 ローム中D・小C・粒B/粘B、礫B

HT23 ~ 25



HT23土層解説

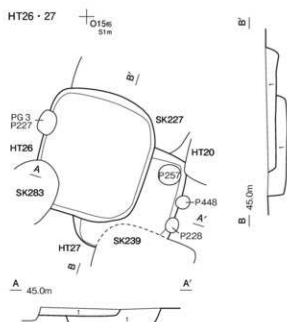
I 10YR3-4 暗褐色 ローム粒B/粘B、礫B

HT24土層解説

I 10YR3-3 暗褐色 ローム小D・粒C、炭化粒D/粘B、礫B

HT25土層解説

I 10YR3-2 黒褐色 ローム小B、炭化粒C、白色粘土小D/粘B、礫B

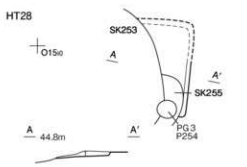


HT26 土層解説

I 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・粒B/粘B、礫B

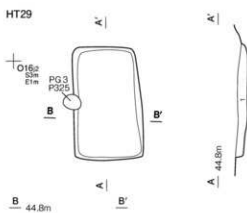
HT27 土層解説

I 10YR3-2 黒褐色 ローム小B、炭化粒C、白色粘土小D/粘B、礫B



HT28 土層解説

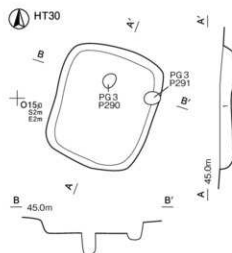
I 10YR3-2 黒褐色 ローム中C・小B・粒B、黄泥パリス中D/粘B、礫B



HT29 土層解説

I 10YR3-4 暗褐色 ローム大C・中B・小A・粒A、黄泥パリス中D/粘B、礫B

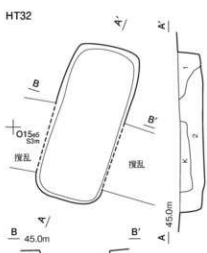
第138図 その他の方形堅穴遺構実測図(4)



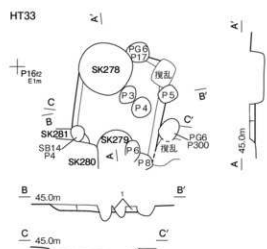
HT30 土層解説
 1 10YR3/2 黒褐 ローム大D-中C-粘B、炭化粒C、炭屑C/粘B、粘B



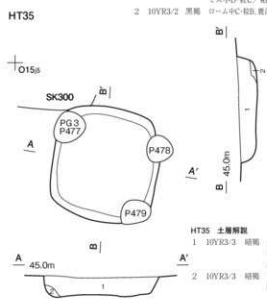
HT31 土層解説
 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C-粘C/粘B、粘B
 2 10YR4/4 暗褐 ローム中C-小C-粘B/粘B、粘B



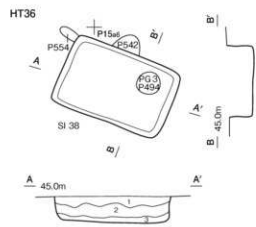
HT32 土層解説
 1 10YR3/3 暗褐 ローム中C-小B-粘C、炭化粒C、炭屑C/ミス小D-粘C/粘B、粘A
 2 10YR3/2 黒褐 ローム中C-粘B、炭屑C/ミス小D/粘B、粘B



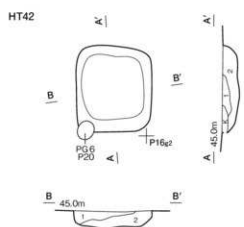
HT33 土層解説
 1 10YR3/3 暗褐 ローム中C-小C-粘B、炭化粒D、粘B、粘B



HT35 土層解説
 1 10YR3/3 暗褐 ローム中C-小B-粘A、炭化粒C、炭屑C/ミス小C/粘B、粘B
 2 10YR3/3 暗褐 ローム中C-粘B、粘B




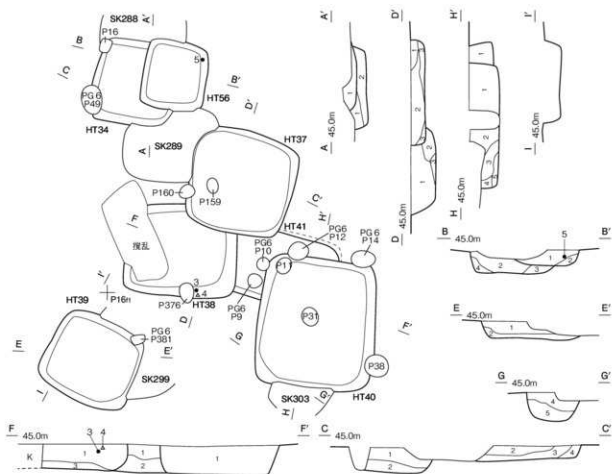
HT36 土層解説
 1 10YR3/2 黒褐 ローム中C-小B-粘B、炭屑C/ミス中D/粘B、粘B
 2 10YR2/2 黒褐 ローム中D-小C、粘B、粘B
 3 10YR2/2 黒褐 ローム中B-小C、粘B、粘B



HT42 土層解説
 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C-粘C/粘B、粘B
 2 10YR4/3 赤褐 ローム大D-中C-小B-粘A/粘B、粘B

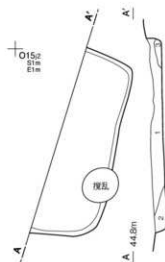


第 139 図 その他の方形竈穴遺構実測図 (5)

 HT34・37～41・56


- HT34 土層解説**
- 1 10YK3-3 埋藏 ローム中D-小C-粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘土、雜B
 - 2 10YK3-4 埋藏 ローム中C-小粒-粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘土、雜B
 - 3 10YK4-6 埋藏 ローム大B-中B-小A-粒A、焼土粒C/粘土、雜A
 - 4 10YK3-2 埋藏 ローム中D-小C-粒C/粘土、雜C
- HT37 土層解説**
- 1 10YK3-3 埋藏 ローム中B-中B-粒B、炭化粒D/粘土、雜B
 - 2 10YK3-4 埋藏 ローム大D-中C-小粒B、炭化粒D/粘土、雜C
 - 3 10YK4-3 埋藏 ローム中B-中B-粒A、焼土粒D、炭化粒D、炭化粒D/粘土、雜C
 - 4 10YK4-4 埋藏 ローム小C-粒A/粘土、雜C
- HT38 土層解説**
- 1 10YK4-4 埋藏 ローム大B-中B-小A-粒A/粘土、雜C
 - 2 10YK4-3 埋藏 ローム中C-小粒-粒A、焼土粒C/粘土、雜B
 - 3 10YK3-4 埋藏 ローム中C-小C-粒B/粘土、雜B
- HT39 土層解説**
- 1 10YK3-3 埋藏 ローム中C-粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘土、雜B
 - 2 10YK3-2 埋藏 ローム中D-小C-粒C、炭化粒D/粘土、雜B
- HT40 土層解説**
- 1 10YK3-3 埋藏 ローム大C-中B-小B-粒A、焼土粒D、炭化粒D/粘土、雜C
 - 2 10YK4-4 埋藏 ローム大B-中B-小A-粒A/粘土、雜B
 - 3 10YK4-6 埋藏 ローム中D、炭化粒D/粘土、雜C
 - 4 10YK4-3 埋藏 ローム中C-小粒-粒A/粘土、雜B
 - 5 10YK4-4 埋藏 ローム大B-中B-小A-粒A、炭化粒D/粘土、雜A
- HT41 土層解説**
- 1 10YK5-6 埋藏 ローム中B-小A-粒A、焼土粒D/粘土、雜B
 - 2 10YK5-6 埋藏 ローム大B-中B-小A-粒A/粘土、雜B
- HT56 土層解説**
- 1 10YK3-3 埋藏 ローム中C-小C-粒B、炭化粒D/粒D/粘土、雜B
 - 2 10YK3-2 埋藏 ローム中D-小C-粒C、炭化粒D/粘土、雜B

HT43

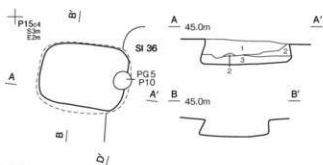


- HT43 土層解説**
- 1 10YK3-3 埋藏 ローム中C-小C-粒C/粘土、雜A
 - 2 10YK3-4 埋藏 ローム中D-小C-粒B、焼土粒D/粘土、雜A
 - 3 10YK4-6 埋藏 ローム中B-小B-粒A、焼土粒D/粘土、雜A

0 (1:60) 2m

第140図 その他の方形竅穴遺構実測図(6)

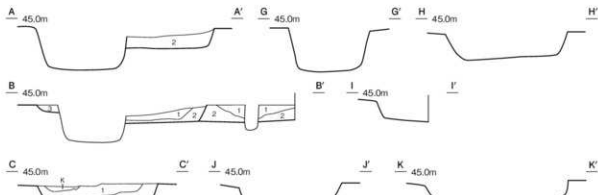
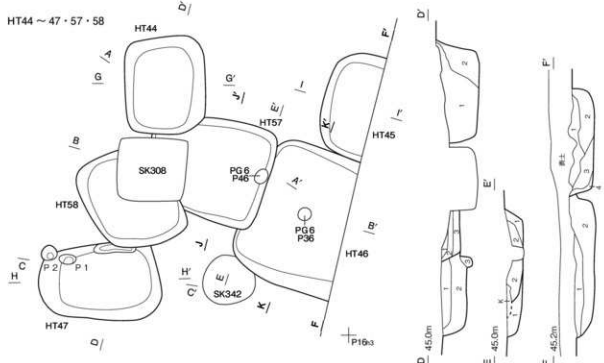
HT48



HT48 土層解説

- 1 10YR2-3 赤褐色 ローム小C・粒A/ 粘土、礫B
- 2 10YR3-2 赤褐色 ローム小B・粒B/ 粘土、礫B
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・小B/ 粘土、礫B

HT44 ~ 47・57・58



HT44 土層解説

- 1 10YR4-3 赤褐色 ローム中B・小A・粒A/ 粘土、礫C
- 2 10YR3-4 暗褐色 ローム小B・粒A/ 粘土、礫C

HT45 土層解説

- 1 10YR4-3 赤褐色 ローム小C・粒B/ 粘土、礫B
- 2 10YR3-4 暗褐色 ローム大D・中C・小C・粒C/ 粘土、礫B
- 3 10YR2-2 赤褐色 ローム中D・小C・粒C/ 粘土、礫B
- 4 10YR3-4 暗褐色 ローム小B・粒B/ 粘土、礫B

HT46 土層解説

- 1 10YR3-2 赤褐色 ローム小C・粒C/ 粘土、礫B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中D・小C・粒B/ 粘土、礫B

HT47 土層解説

- 1 10YR4-3 赤褐色 ローム中C・小B・粒B/ 粘土、礫C
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム大D・中C・小C・粒B/ 粘土、礫C
- 3 10YR3-2 赤褐色 ローム粒C/ 粘土、礫C

HT57 土層解説

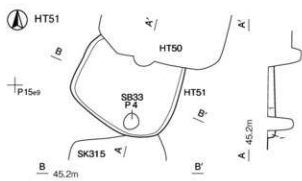
- 1 10YR4-3 赤褐色 ローム中C・小B・粒A/ 粘土、礫A
- 2 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒C/ 粘土、礫B

HT58 土層解説

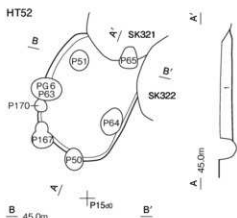
- 1 10YR3-2 赤褐色 ローム粒C/ 粘土、礫C
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム小D・粒C/ 粘土、礫C
- 3 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒B/ 粘土、礫C

0 (1:60) 2m

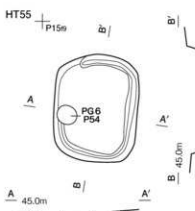
第 141 図 その他の方形竪穴遺構実測図 (7)



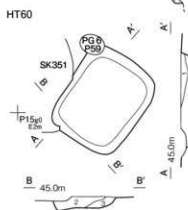
HT51 土層解説
1 10YR3/4 暗黒 ローム中D-小D-粒B/粘B、礫B



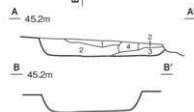
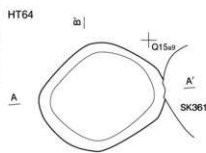
HT52 土層解説
1 10YR3/3 暗黒 ローム中D-小D-粒B、炭化粒D/粘B、礫B



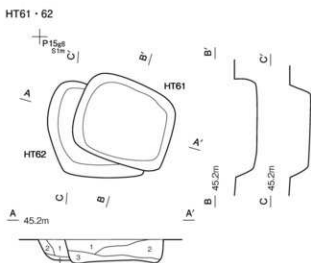
HT55 土層解説
1 10YR3/3 暗黒 ローム小D-粒A/粘B、礫B



HT60 土層解説
1 10YR4/4 黒 ローム粒C/粘B、礫B
2 10YR2/3 暗黒 ローム中D-小D-粒C/粘B、礫B
3 10YR2/3 暗黒 ローム中D-小D-粒B/粘B、礫B

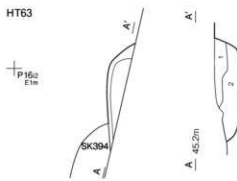


HT64 土層解説
1 10YR4/6 黒 ローム中D-小D-粒B/粘B、礫B
2 10YR5/8 黄黒 ローム中D-小D-粒B/粘B、礫B
3 10YR4/4 黒 ローム中D-粒B/粘B、礫B
4 10YR3/4 暗黒 ローム粒C/粘B、礫B



HT61 土層解説
1 10YR3/3 暗黒 ローム中D-粒C/粘B、礫B
2 10YR4/3 黒ロ 暗黒 ローム中D-粒B/粘B、礫B
3 10YR4/4 黒 ローム中D-粒A、炭化粒D、炭化粒D/粘B、礫B

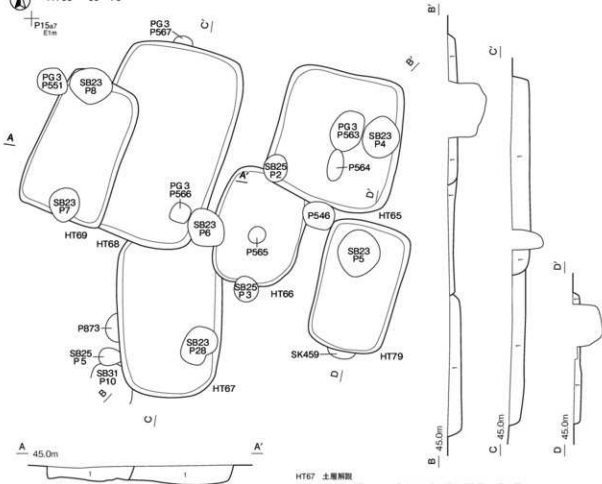
HT62 土層解説
1 10YR3/4 暗黒 ローム中D-粒B/粘B、礫B
2 10YR3/4 暗黒 ローム中D-粒B/粘B、礫B
3 10YR4/4 黒 ローム小D-粒A/粘B、礫C



HT63 土層解説
1 10YR3/2 黒ロ 暗黒 ローム中D-粒D/粘B、礫B
2 10YR3/2 黒ロ 暗黒 ローム中D-小D-粒C/粘B、礫C

0 (1:60) 2m

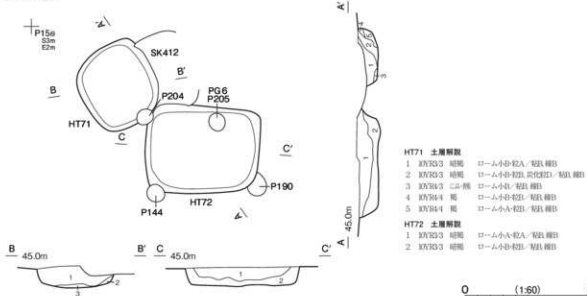
HT65 ~ 69・79



- HT65 土層解説**
1 10YK3/4 礎礎 ローム小C・柱B/ 柱B、礎B
- HT66 土層解説**
1 10YK4/4 礎 礎 ローム中C・小C、炭化物D、産渣パリス小C/ 柱B、礎B

- HT67 土層解説**
1 10YK3/3 礎礎 ローム大D・中B・小B・柱C、炭化物D/ 柱B、礎B
- HT68 土層解説**
1 10YK3/2 礎礎 ローム中D・小C・柱B、産渣パリス小D/ 柱B、礎B
- HT69 土層解説**
1 10YK3/3 礎礎 ローム中B・小B・柱C/ 柱B、礎B
- HT79 土層解説**
1 10YK3/3 礎礎 ローム小B・柱A/ 柱B、礎B

HT71・72

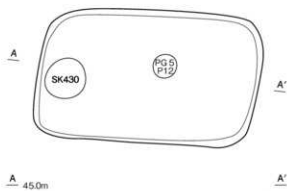


- HT71 土層解説**
1 10YK3/3 礎礎 ローム小B・柱A、礎B、礎B
2 10YK3/3 礎礎 ローム小B・柱B、炭化物D/ 柱B、礎B
3 10YK3/3 礎礎 ローム小B・柱B、礎B
4 10YK4/4 礎 礎 ローム小B・柱B、礎B、礎B
5 10YK4/4 礎 礎 ローム小A・柱B、礎B、礎B
- HT72 土層解説**
1 10YK3/3 礎礎 ローム小A・柱A、礎B、礎B
2 10YK3/3 礎礎 ローム小B・柱B、礎B、礎B

0 (1:50) 2m

第143図 その他の方形堅穴遺構実測図(9)

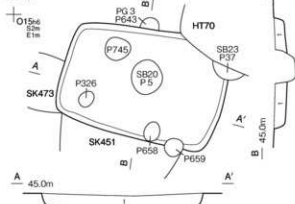
HT74



HT74 土層解説

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム大D-中C-小B-粒B/粘B、細B
- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム中C-小C-粒B/粘B、細B

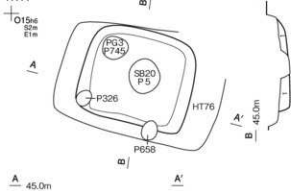
HT76



HT76 土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム小C-粒B、炭化物D-粒D、炭渣/バミス中C-粒B/粘B、細B

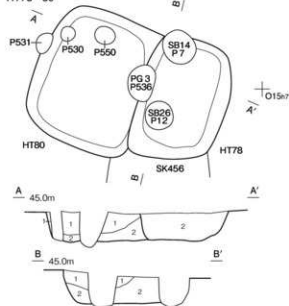
HT77



HT77 土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム小B-粒C、炭化物D、炭渣/バミス小B/粘B、細B

HT78・80



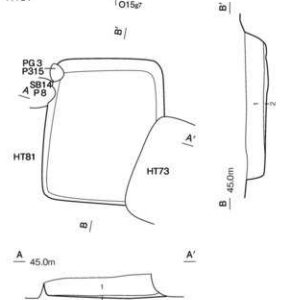
HT78 土層解説

- 1 10YR2-3 赤褐色 ローム小B-粒C、炭渣/バミス中D-小B/粘B、細B
- 2 10YR2-2 黒褐色 ローム小C-粒C、炭渣/バミス中D-小C-粒C/粘B、細B

HT80 土層解説

- 1 10YR2-2 赤褐色 ローム小C-粒B、炭渣/バミス中C-粒B/粘B、細B
- 2 10YR3-2 黒褐色 ローム中C-小B-粒B、炭渣/バミス中D-小C-粒D/粘B、細B

HT81



HT81 土層解説

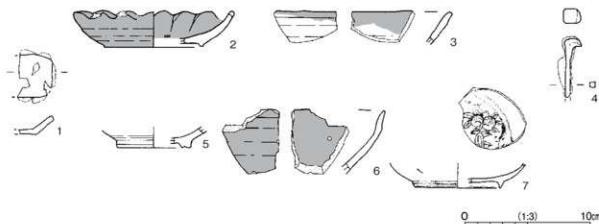
- 1 10YR3-2 赤褐色 ローム小B、炭化物D、炭渣/バミス粒B/粘B、細B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中C-小C、炭渣/バミス小D/粘B、細B

0 (1:50) 2m

第 72 表 中世～近世方型竪穴遺構一覽

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		階高	後面	内部施設		覆土	主な出土遺物	備考
				長×短(㎡)	(m)			塹溝	土			
1	Q156	N-25°-W	長方形	(1.79×1.35)	75	平阻	-	-	-	人高		SF1 → 本跡
2	N159	N-65°-W	長方形	[2.40]×1.95	42-49	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器、陶器	本跡→SB2
3	O16a1	N-59°-W	隅丸方形	2.27×1.73	44-48	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器、陶器、金属製品	SK195 → 本跡→SK155・157、PG3 SB2 新旧不明
4	O16a1	N-25°-E	[長方形]	(1.88×0.67)	68	平阻	-	-	-	人高		SK195 → 本跡→SB2、SK155
7	O1369	N-17°-E	長方形	1.60×1.23	8-17	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器、石器、金属製品	
8	O15e9	N-23°-E	長方形	1.99×1.59	25-28	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器	本跡→PG3
9	O15e8	N-16°-E	長方形	2.12×(1.84)	21-25	平阻	-	-	-	人高	須恵器	SK189・196 → 本跡→SK175・188
11	O15e7	N-20°-E	方形	1.67×1.53	11-20	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器	HT12、SK201 → 本跡
12	O156b	N-62°-W	方形	(2.68×2.52)	13-25	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器、鉄洋、礎	本跡→HT11、SK219・242
13	O156c	N-75°-W	長方形	(2.24)×1.71	20-30	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器	本跡→HT14、SK219、PG3
14	O156c	N-78°-W	長方形	3.22×2.07	59-69	平阻	-	-	-	人高	土師器	HT13・15・16・20・22 → 本跡 → PG3
15	O157	N-15°-E	[方形・ 長方形]	1.81×(1.12)	5-9	平阻	-	-	-	人高	土師器、陶器	本跡→SB8・40、HT14、PG3
16	O157	N-20°-E	[方形・ 長方形]	(1.28)×(1.35)	15	平阻	-	-	-	人高	土師器、陶器、金属製品、礎石	本跡→SB14、HT14、PG3 HT22 新旧不明
17	O15g0	N-15°-E	方形	1.74×1.63	50-60	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器、石器	SK63・268 → 本跡→HT19、 PG3
19	O15g0	N-13°-E	長方形	1.82×1.20	28-33	平阻	-	-	-	人高		HT17、SK63・236 → 本跡
20	O156c	N-15°-E	長方形	2.59×1.48	25-28	凹凸	-	-	-	人高	土師器、須恵器	R12、SK227・22・33 → 本跡 →SB14、HT14・22、SK232、PG3
21	O150	N-81°-W	[長方形]	(1.51)×(1.16)	26	平阻	-	-	-	人高		SK190 → 本跡→SB6・39、 SK191、PG3
22	O156c	N-15°-E	[長方形]	(1.72)×(1.05)	7-10	平阻	-	-	-	人高		HT20 → 本跡→SB14、HT14、 SK227、PG3、HT16 新旧不明
23	O15c7	N-14°-E	[方形・ 長方形]	(1.76)×(1.60)	9-13	平阻	-	-	-	人高	弥生土器、土師器、須恵器	本跡→HT21・25、SK241・244 SK240 新旧不明
24	O1567	N-27°-E	長方形	(1.46)×1.03	10-14	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器	HT23、SK240 → 本跡→SK241
25	O15c7	N-19°-E	長方形	2.05×1.47	14	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器、陶器、石器、鉄洋	HT23 → 本跡
26	O154c	N-18°-E	長方形	2.03×1.60	8-18	平阻	-	-	-	人高		HT27、SK227 → 本跡→SK283、 PG3
27	O156c	N-17°-E	方形	(1.70)×(1.62)	22-28	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器	SK227 → 本跡→HT20・26、PG3 SK229 新旧不明
28	O150	N-5°-E	[長方形]	(1.49)×(0.77)	17-19	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器	本跡→SK253・255、PG3
29	O162	N-1°-W	長方形	1.79×1.18	17	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器	本跡→PG3
30	O150	N-18°-E	長方形	1.95×1.59	17-21	平阻	-	-	-	人高	土師器	本跡→PG3
31	O1369	N-21°-E	[長方形]	2.20×1.26	23-34	平阻	-	-	-	人高	土師器	本跡→SK263・266
32	O15e5	N-18°-E	長方形	2.56×1.13	39	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器、金属製品	
33	P162	N-9°-E	[長方形]	(1.67)×1.37	8-12	平阻	-	-	-	人高		本跡→SK278・281、PG6
34	P16e1	N-13°-E	[方形]	(1.34)×(1.08)	35-40	平阻	-	-	-	人高	弥生土器、土師器、須恵器	本跡→HT56、SK288・289、 PG6
35	O155	N-0°-方	方形	1.82×1.68	26-33	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器、陶器	SK300 → 本跡→PG3
36	P136f	N-69°-W	長方形	1.83×1.15	36-42	平阻	-	-	-	人高	弥生土器、土師器、須恵器	SB8 → 本跡 PG3 新旧不明
37	P16e1	N-13°-E	方形	1.71×(1.61)	19-25	平阻	-	-	-	人高		HT38・41 → 本跡→SK289、 PG6
38	P16e1	N-85°-W	長方形	1.78×1.48	37-41	平阻	-	-	-	人高	陶器、金属製品	HT41 → 本跡→HT37、PG6
39	P150	N-65°-W	方形	(1.50)×(1.46)	25-28	平阻	-	-	-	人高	土師器	本跡→SK299、PG6
40	P16e1	N-7°-E	長方形	(2.05)×1.90	43-47	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器、土師質土器	HT41 → 本跡→SK303、PG6
41	P16e1	N-77°-W	[長方形]	(1.67)×(1.11)	37-45	平阻	-	-	-	人高		本跡→HT37・38・40、PG6
42	P160	N-2°-W	長方形	1.40×1.22	22-28	凹凸	-	-	-	人高	土師器、須恵器	本跡→PG6
43	O152	N-13°-E	[方形・ 長方形]	3.04×(1.02)	19	平阻	-	-	-	人高	弥生土器、土師器、須恵	
44	P162	N-2°-E	長方形	1.54×1.09	65	平阻	-	-	-	人高		HT57 → 本跡
45	P16g3	N-14°-E	[方形・ 長方形]	1.70×(0.81)	43	平阻	-	-	-	人高		HT46 → 本跡
46	P16g2	N-18°-E	[方形・ 長方形]	2.35×(1.68)	28-43	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器、鉄洋	SK342 → 本跡→HT45・57、 PG6
47	P16g2	N-88°-W	隅丸形	1.94×1.25	37-42	平阻	-	2	-	人高		本跡→HT38
48	P15c4	N-78°-W	長方形	1.46×1.08	26	平阻	-	-	-	人高	土師器、須恵器、礎	SB3 → 本跡→PG5
49	P15e9	N-82°-W	隅丸形 方形	2.70×1.94	25-29	平阻	-	-	-	人高	土師質土器、瓦質土器、陶器	SK315 → 本跡→PG6

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	内部施設 壁溝(ピ)	掘土 人	主な出土遺物	備考
				長軸×短軸(m)	(cm)						
50	P1569	N - 78° - W	隅丸方形	201 × 185	38 ~ 42	平坦	-	1	人	土師質土器、金属製品	HT51 → 本跡
51	P1569	N - 67° - W	[長方形]	1.65 × (1.35)	6	平坦	-	-	人		SK315 → 本跡 → SK333、HT50
52	P1560	N - 23° - E	[長方形]	(1.84) × 1.48	16 ~ 20	平坦	-	-	人	土師器、須恵器、鏝	本跡 → SK321、322、PG6
53	P16c1	N - 64° - W	隅丸方形	1.66 × 1.54	8 ~ 25	平坦	全面	2	人		SK335、HT54、SK324 → 本跡 → SK325
54	P16c1	N - 21° - E	隅丸方形	1.79 × (1.75)	15 ~ 20	平坦	全面	-	人	土師器、須恵器	SK335 → 本跡 → HT53、SK325
55	P1569	N - 6° - E	長方形	1.71 × 1.34	12 ~ 19	平坦	ほぼ全面	-	人		本跡 → PG6
56	P16e1	N - 10° - E	[長方形]	(1.11) × (1.00)	18 ~ 25	平坦	-	-	人	陶器	HT34 → 本跡 → SK288、289
57	P16g2	N - 72° - W	長方形	1.93 × 1.62	21 ~ 27	平坦	-	-	人	土師器	HT46 → 本跡 → HT44、58、SK308、PG6
58	P16g2	N - 26° - W	長方形	1.76 × (1.40)	29	平坦	-	-	人	須恵器	HT47、57 → 本跡 → SK308
60	P1560	N - 33° - E	長方形	1.95 × 1.36	17 ~ 20	平坦	-	-	人	土師器、須恵器	本跡 → SK351、PG6
61	P15g8	N - 70° - W	長方形	1.54 × 1.30	35 ~ 38	平坦	-	-	人	土師器、須恵器、陶器	HT62 → 本跡
62	P15g8	N - 85° - W	長方形	(1.09) × (1.45)	30 ~ 34	平坦	-	-	人		本跡 → HT61
63	P16d2	-	[方形・長方形]	(1.15) × (0.40)	38	平坦	-	-	人		本跡 → SK304
64	Q15a8	N - 47° - E	長方形	1.84 × 1.00	18 ~ 28	平坦	-	-	人	土師器、須恵器	SK136 → 本跡 → SK361
65	P15a8	N - 15° - E	長方形	2.38 × 2.01	12 ~ 16	平坦	-	-	人	土師器、鏝	HT66 → 本跡 → SE23、PG3
66	P15a8	N - 13° - E	長方形	1.85 × 1.41	6 ~ 14	平坦	-	-	人	鉄貨	HT62、PG3 → 本跡 → HT65、SK325、PG3
67	P15b7	N - 0°	長方形	(2.38) × 1.68	15 ~ 22	平坦	-	-	人	弥生土器	SK325、31、PG3 → 本跡 → SK323、HT66、68
68	P15a7	N - 15° - E	長方形	3.24 × 2.02	21 ~ 28	平坦	-	-	人	土師器、須恵器、陶器、金属製品	HT67 → 本跡 → HT69、PG3
69	P15a7	N - 20° - E	長方形	2.24 × 1.43	20	平坦	-	-	人	弥生土器、土師器、須恵器	HT68 → 本跡 → SB15、23、PG3
70	O15b7	N - 70° - W	長方形	1.91 × 1.40	75 ~ 83	平坦	-	-	人	土師器、土師質土器、陶器、磁器、土製品、金属製品、鉄貨	SK323、HT76 → 本跡 → PG3
71	P1569	N - 30° - W	長方形	1.33 × 1.20	28 ~ 35	平坦	-	-	人		本跡 → SK412、PG6
72	P15j0	N - 87° - W	長方形	1.82 × 1.39	29 ~ 37	平坦	-	-	人	須恵器	本跡 → SK412、PG6
73	O15g7	N - 21° - E	長方形	1.67 × 1.45	40 ~ 46	平坦	-	-	人	土師質土器、磁器、金属製品	HT81 → 本跡 → SB9、40、PG3
74	P15g0	N - 85° - W	長方形	3.48 × 2.10	9 ~ 23	平坦	-	-	人	土師器、須恵器	本跡 → SK430、PG5
76	O15b6	N - 75° - W	長方形	2.60 × (1.82)	17 ~ 21	平坦	-	-	人	土師器、須恵器、磁器、紙石	HT77、SK451、473、PG3 → 本跡 → HT70、SB30、23、PG3
77	O15b6	N - 75° - W	長方形	(1.77) × (1.48)	25 ~ 35	平坦	-	-	人	土師質土器、金属製品	本跡 → HT76、SR20、PG3
78	O15g6	N - 17° - E	長方形	1.95 × 1.36	41 ~ 49	平坦	-	-	人		HT80、SK456 → 本跡 → SB14、26、PG3
79	P15b7	N - 12° - E	長方形	2.06 × 1.36	10	平坦	-	-	人	土師器、須恵器	SK459 → 本跡 → SK323、PG3 遺出不明
80	O15g6	N - 20° - E	長方形	2.18 × (1.83)	43 ~ 47	平坦	-	-	人		SK456 → 本跡 → SB14、HT78、PG3
81	O15g6	N - 3° - E	長方形	2.30 × 1.87	28 ~ 37	平坦	-	-	人	土師器	本跡 → HT73、SB14、PG3
82	O15b5	N - 71° - W	長方形	2.61 × 2.12	45 ~ 65	平坦	-	2	人	弥生土器、土師器、須恵器、陶器	SK464 → 本跡 → SK471



第 145 図 中世～近世方形竅穴遺構出土遺物実測図

第73表 中世～近世方形竪穴遺構出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土遺構	備考		
1	不明	3.4	(28)	(15)	(25.4)	鉄	先端部欠損 断面くの字状に屈曲	HT7	PL34		
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土遺構	備考
2	陶器	志野焼	[128]	28	[79]	靑紫・浅黄	ロクロ成形 口縁部へつ加み 内面へつ加みにより花弁状に調整	長石軸	瀬戸・美濃系	HT15	大塚4期 17世紀別荘
3	陶器	瀬戸小皿	—	(26)	—	靑紫・にぶい黄褐色	ロクロ成形 口縁部に施軸	鉄軸	古瀬戸	HT38	長瀬原 PL27
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土遺構	備考		
4	釘	(4.3)	1.4	1.2	(105)	鉄	断面形方形 頭部L字状に折り曲げ	先端部欠損	HT38	PL34	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土遺構	備考
5	陶器	磁瓶	—	(3.7)	[58]	靑紫・灰黄	ロクロ成形 内面施軸	灰軸	瀬戸・美濃系	HT56	大塚期
6	陶器	瓦片等類	—	(5.0)	—	靑紫・浅黄	ロクロ成形 外・内面施軸 内面トナリ重	鉄軸	瀬戸・美濃系	HT69	大塚3期
7	磁器	皿	—	(20)	[6.8]	靑紫・白	ロクロ成形 内面外側染付(桃図)	透明軸	景徳鎮陶器系	HT76	PL26

(3) 地下式坑

第1号地下式坑 (第146・147図 PL14)

位置 調査2区北西部のN15f1区、標高44mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第1号炭窯に掘り込まれている。

軸長・軸方向 軸長4.18mで、軸方向はN-71°-Wである。

竪坑 主室の西壁に位置し、奥行き1.33m、幅1.05m、深さ1.12mの長方形で、西壁の一部が突出している。底面はほぼ平坦で、主室より30cmほど高い。南北壁は直立しており、西壁は外傾して立ち上がっている。

主室 長軸3.15m、短軸2.49m、深さ1.96mの南北に長い楕円形である。床面はほぼ平坦で、西部の竪坑との接続部はスロープ状に緩やかに傾斜している。壁はほぼ直立しており、南北壁の一部が内傾している。

ピット 1か所。底面から径55cm、深さ14cmのP1が確認されたが、性格は不明である。

覆土 37層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。覆土の第1～16層が、第17～22層を掘り込んでいることから、埋め戻し後、再度掘り返されたと考えられる。

遺物出土状況 弥生土器片24点、土師器片290点、須恵器片66点、土師質土器5点(小皿4、内耳鍋1)、石器2点(剥片)が出土している。遺物の大半は平安時代のものであったが埋め戻しの際に埋土に混入した遺物と考えられる。1・2は覆土中層から散在して出土している。

所見 時期は、出土土器から、15世紀中葉～16世紀中葉に比定できる。覆土に、天井部の崩落土とみられる堆積が確認できなかったことから、地山を天井としない半地下式構造であったと考えられる。

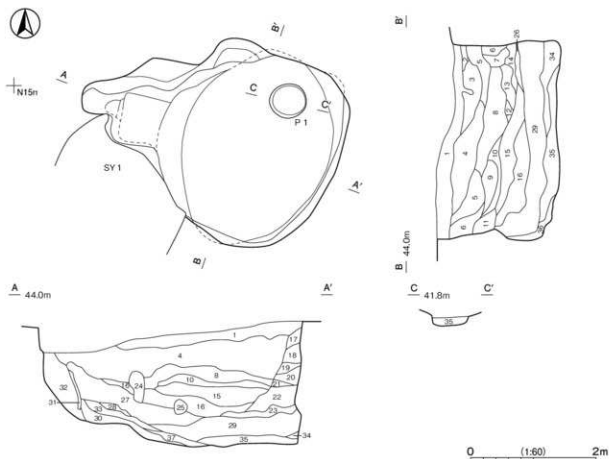


0 (1:3) 10cm

第146図 第1号地下式坑出土遺物実測図

第74表 第1号地下式坑出土物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	-	(1.2)	[6.4]	石灰・長石・雲母	浅黄橙	普通	ロタロ成形 底部回転糸切り	覆土中層	20%
2	土師質土器	内耳鍋	-	(4.8)	-	石灰・長石・雲母	濃い黄橙	普通	口縁部外・内面機ナデ 内面耳部貼り付け	覆土中層	10%



土層解説

- | | | | | | | | |
|----|---------|-----|----------------------------|----|---------|-----|-------------------------------|
| 1 | 10YR4/4 | 黄 | ローム粒A、焼土粒D、炭屑/粘土粒D/粘B、雜B | 20 | 10YR5/8 | 黄褐色 | ローム中D・小C・粒A' /粘B、雜C |
| 2 | 10YR3/4 | 暗黄 | ローム中B・小B・粒B /粘B、雜B | 21 | 10YR4/3 | 二色黄 | ローム粒C /粘B、雜B |
| 3 | 10YR2/3 | 黄褐色 | ローム小D・粒C /粘B、雜B | 22 | 10YR4/6 | 黄 | ローム大C・中B・小B・粒A、炭屑/粘土小D /粘B、雜C |
| 4 | 10YR2/3 | 黄褐色 | ローム小C・粒C /粘B、雜B | 23 | 10YR4/4 | 黄 | ローム粒A' /粘B、雜C |
| 5 | 10YR2/2 | 黄褐色 | ローム粒D /粘B、雜B | 24 | 10YR2/2 | 黄褐色 | ローム粒D /粘C、雜C |
| 6 | 10YR4/6 | 黄 | ローム大C・中C・小B・粒A /粘B、雜C | 25 | 10YR4/4 | 黄 | ローム小C、粒B /粘B、雜C |
| 7 | 10YR3/3 | 暗黄 | ローム小B・粒B /粘B、雜C | 26 | 10YR3/2 | 黄褐色 | ローム中C・小C・粒B、炭化物B /粘B /粘C、雜C |
| 8 | 10YR4/4 | 黄 | ローム粒A、小礫C /粘B、雜C | 27 | 10YR4/4 | 黄 | ローム中C・小C・粒B、焼土粒D /粘B、雜C |
| 9 | 10YR3/3 | 暗黄 | ローム小C・粒B /粘B、雜C | 28 | 10YR3/2 | 黄褐色 | ローム小D・粒B /粘B、雜C |
| 10 | 10YR4/4 | 黄 | ローム中B・小B・粒A /粘B、雜B | 29 | 10YR4/6 | 黄 | ロームA、砂粒C /粘B、雜B |
| 11 | 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム小B・粒A /粘B、雜C | 30 | 10YR4/3 | 二色黄 | ローム粒A、砂粒B /粘C、雜C |
| 12 | 10YR4/4 | 黄 | ローム小C・粒B /粘B、雜C | 31 | 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム大A /粘A、雜A |
| 13 | 10YR3/3 | 暗黄 | ローム中D・小C・粒C /粘B、雜C | 32 | 10YR4/6 | 黄 | ローム粒A /粘B、雜C |
| 14 | 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム大B・中B・小B・粒A /粘B、雜B | 33 | 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム大B・中B・小B・粒A、炭屑/粘土中C /粘B、雜C |
| 15 | 10YR3/2 | 黄褐色 | ローム大D・中C・小B・粒B /粘B、雜C | 34 | 10YR4/4 | 黄 | ローム粒A /粘B、雜C |
| 16 | 10YR4/6 | 黄 | ローム大D・中B・小A・粒A /粘B、雜C | 35 | 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム粒A'、炭屑/粘土粒C /粘B、雜C |
| 17 | 10YR4/3 | 二色黄 | ローム小C・粒B /粘B、雜C | 36 | 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム粒A'、砂粒B /粘C、雜C |
| 18 | 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム中B・小B・粒A、炭屑/粘土粒C /粘B、雜B | 37 | 10YR6/3 | 二色黄 | 砂粒A' /粘C、雜C |
| 19 | 10YR3/3 | 暗黄 | ローム粒C /粘C、雜C | | | | |

第147図 第1号地下式坑実測図

(4) 土坑墓

第1号土坑墓 (SK148) (第148図 PL14)

位置 調査2区西部のO15e1区、標高45mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第31号竪穴建物跡を掘り込み、第6号溝に掘り込まれている。

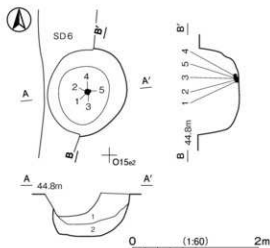
規模と構造 長軸1.40m、短軸1.23mの円形で、深さは68cmである。底面は皿状で、壁はほぼ直立している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含むことから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片4点、銭貨5点(熙寧元寶1・天禧通寶1・祥符元寶2・永樂通寶1)が出土している。土師器片は埋土に混入したものであるが、銭貨は底面のほぼ中央部からまとまった状態で出土しており、意図

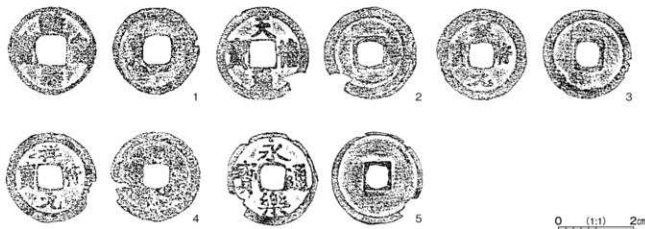
して埋納されたものと考えられる。出土した銭貨は、全て渡来銭である。

所見 本跡は、底面から銭貨が5点出土しており、埋葬の際に副葬された六文銭と考えられる。時期は出土した銭貨が全て渡来銭であり、明銭が含まれていることから、15世紀～17世紀初頭と考えられる。本調査において、銭貨を伴う土坑墓は本跡のみである。中世から近世にかけての遺構が集中するエリアの西側に当たる。本跡周辺に当該期の遺構は少なく、本跡のみが単独で存在している。



土師器取

- 1 10YR3-4 磁胎 ローム粒瓦 底面・1.5×大C・粒C/粒B、粒C
2 10YR4-4 磁胎 ローム大C・中C・小B・粒A、底面・1.5×中C・粒C/粒B、粒B



第148図 第1号土坑墓・出土遺物実測図

第75表 第1号土坑墓出土遺物一覧

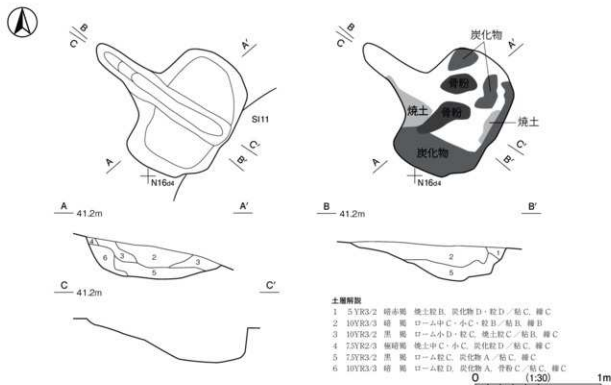
番号	銭種	径	孔径	厚さ	重量	材質	初铸年	特徴	出土位置	備考
1	熙寧元寶	2.35	0.73	0.13	(2.24)	銅	1068年	北宋銭 篆書体	底面	PL35
2	天禧通寶	2.52	0.66	0.14	(2.92)	銅	1017年	北宋銭	底面	PL35
3	祥符元寶	2.42	0.60	0.17	(3.02)	銅	1008年	北宋銭	底面	PL35
4	祥符元寶	2.41	0.60	0.11	(2.38)	銅	1008年	北宋銭	底面	PL35
5	永樂通寶	2.48	0.84	0.18	(3.09)	銅	1411年	明銭	底面	PL35

(5) 火葬施設

第1号火葬施設 (第149図 PL14)

位置 調査2区北部のN16c4区、標高41mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第11号竪穴建物跡を掘り込んでいる。



第149図 第1号火葬施設実測図

規模と構造 全長128mの丁字状で、主軸方向はN-55°-Wである。燃焼部は奥行き1.16m、幅0.68m、深さ28cmで、底面は皿状である。通気溝は、上幅0.21m、下幅0.11m、深さ5~16cmのU字状である。通気溝は、先端部から緩やかに傾斜して燃焼部を横断するように掘られている。

覆土 6層に分層できる。第5・6層は炭化物主体の層で火葬時に堆積したもの、第1~4層はロームブロックや焼土、炭化物を含む土がブロック状に堆積していることから、火葬後の埋め戻しの埋土と考えられる。

遺物出土状況 土器類は出土しておらず、炭化物と少量の骨片が出土している。炭化物は、底面から出土しており、火葬を行う際に使用された燃料の残滓とみられる。骨片は被熱し白化しており、出土量が少ないことから、取骨されたと考えられる。

所見 時期は、燃焼材として使用された炭化材の自然科学分析の結果、13世紀末~14世紀初頭あるいは14世紀後葉に比定される。中世の遺構群の中でも最初期の遺構に位置付けることができる。

第1号火葬施設出土炭化材の自然科学分析

1. はじめに

本分析調査では、中世の火葬施設とされる遺構から出土した炭化物を対象に加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と測定方法

表1に試料情報を示す。測定試料は、元素分析計、質量分析計、ガラス真空ラインにより構成されるグラフィイト調整システムにてグラフィイト化を行った。その後加速器質量分析装置 (NEC 製 15SDH) を用いて放射性炭素濃度を測定した。

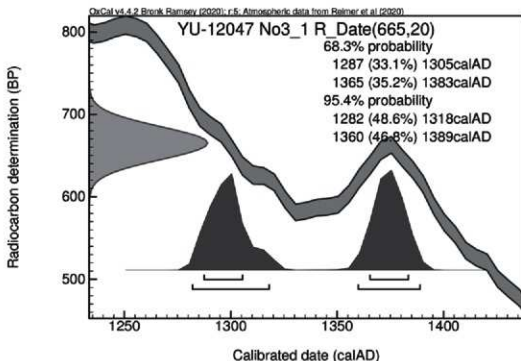
3. 結果

表2に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行った放射性炭素年代、校正曲線データを使用して放射性炭素年代を暦年代に校正した年代範囲を示す。

ラボコード	測定試料名	試料情報	試料状態	処理
表1. 試料情報 YU-12047	No3_SX1	遺構番号：第1号火葬施設 炭化物試料 No3_1*	前処理後の試料 61.613mg から 2.357mg 使用	*AAA 処理 1M HCl 80 度 1 時間 1M NaOH 80 度 1 時間 (7 回) 1M HCl 80 度 1 時間*

表2. 放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果

測定番号	試料名	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	放射性炭素年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	放射性炭素年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
YU-12047	No3_1	-26.77 \pm 0.31	665 \pm 20	1287AD (33.1%) 1305AD 1365AD (35.2%) 1383AD	1282AD (48.6%) 1318AD 1360AD (46.8%) 1389AD



(6) 道路跡

第1号道路跡 (第150・151図 PL14・15)

位置 調査2区南部のQ13h0～Q15e7区、標高45mほどの台地斜面部に位置している。

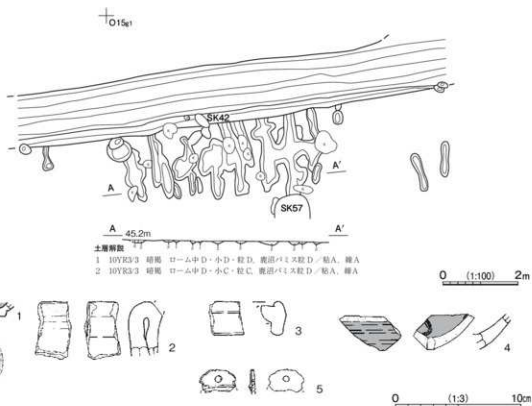
重複関係 第1号方形竪穴遺構、第19・26・57号土坑に掘り込まれている。

軸長・軸方向 軸長68.2mで、軸方向はN-82°-Eである。

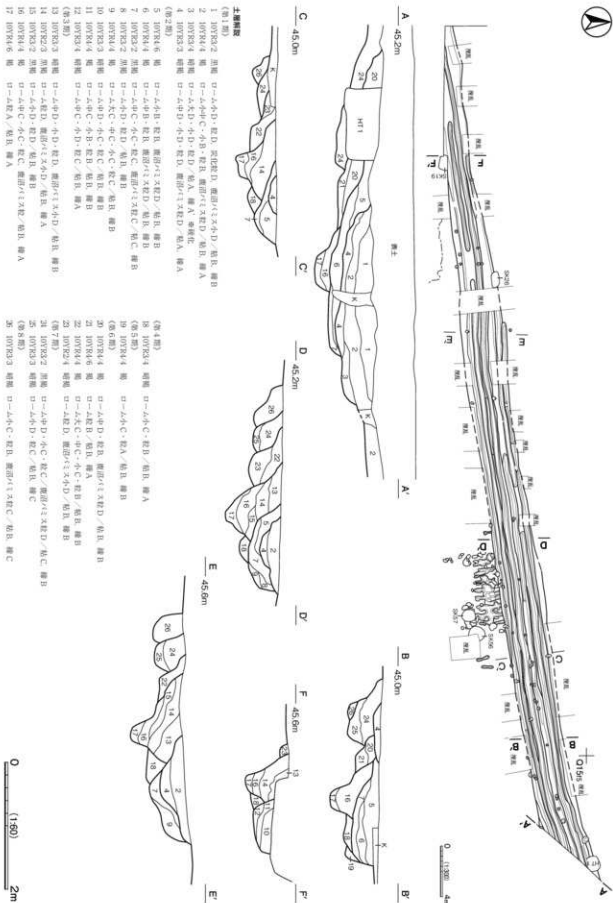
側溝 堆積状況から8期に分けることができる。重複が激しいため確認できた規模は、第1期は幅0.59～1.71m、深さ12～38cm、断面形はU字状である。第2期は幅0.85～1.71m、深さ43～55cm、断面形はU字状である。第3期は幅0.74～1.42m、深さ67～88cm、断面形はV字状である。第4期は幅0.25～0.55m、深さ55～60cm、断面形はU字状である。第5期は幅0.24m、深さ51cm、断面形はV字状である。第6期は幅0.22～0.93m、深さ14～53cm、断面形はV字状である。第7期は幅0.61～1.05m、深さ39～53cm、断面形はV字状である。第8期は幅28～67cm、深さ45～52cm、断面形はU字状である。第5期は土層断面Bラインの周辺でしか確認できなかった。第8期は土層断面Eラインの西側で終わっている。側溝の南側には波板状凹凸面と硬化範囲が確認できた。

覆土 側溝は26層に分層でき、8期に分けられる。第1期は、第1～4層で、レンズ状の堆積状況であることから自然堆積と考えられる。第3層が硬化しており、第2・4層も締まりが強い。第2期は、第5～12層、第3期は第13～17層、第4期は第18層、第5期は第19層、第6期は第20～23層、第7期は第24・25層、第8期は第26層である。第2期から第8期にかけての溝は、ロームブロックが多く含まれることから埋め戻されている。波板状凹凸面は単一層で、白色粘土を含む粘質土が埋土され、硬化している。

遺物出土状況 土師器片14点、須恵器片22点、陶器片5点(小皿2、壺3)、青磁1点(碗)、金属製品1点(把手)が出土している。いずれも細片で、流れ込んだ遺物と考えられる。



第150図 第1号道路跡波板状凹凸面実測図・第1号道路跡出土遺物実測図



第151圖 第1号道路跡实测圖

所見 堆積状況や底面の形状から、溝は少なくとも8期に分化でき、埋め戻しと掘削を繰り返し、長期間利用されていたとみられる。波板状凹凸面は第2期の溝に掘り込まれており、第2期以前の溝に伴うものと想定されるが、重複から詳細は不明である。溝の南側に、波板状凹凸面と硬化範囲が確認できたことから、路面は溝の南側であったと考えられる。溝は本来道路の側溝として掘られたものであるが、最終期である第1期の覆土の下層に、締まりの強い層が確認できることから、道路の最終期には、側溝の窪地を道として利用されていたと考えられる。時期を特定できる遺物が少なく、詳細は不明であるが、中世～近世にかけてのものと考えられる。

第76表 第1号道路跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	平碗	-	(1.1)	4.5	緻密・灰白	ロクロ成形 底部回転系切り抜高台部削り出し	灰軸	古瀬戸	覆土中	Ⅷ期1-5 40%
2	陶器	甕	-	(4.3)	-	粗い・黒灰	口縁部折り返し後回転台による横ナデ	焼締め	常滑	覆土中	6b 型式
3	陶器	甕	-	(2.7)	-	粗い・黒灰	口縁部回転台による横位のナデ	焼締め	常滑	覆土中	6b 型式
4	組物	蒔絵文様	-	(2.8)	-	緻密・オリーブ灰	内面3巻1単位の蒔絵文	青磁軸	鹿島窯系	覆土中	PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	把手	(28)	(1.3)	0.5	(5.24)	銅	竜頭状の意匠 中央部穿孔 下部欠損	覆土中	PL35

(7) 溝跡

第2号溝跡 (第152・153図 PL15)

位置 調査2区北部のN15e0～O15a7区、標高45mほどの台地縁辺部から斜面部に位置している。

重複関係 第15号堅穴建物跡、第149号土坑を掘り込み、第77・153・158号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長さ27.35m、上幅0.38～1.02m、下幅0.14～0.74m、深さ18～26cmで、軸方向はN-20°-Eである。断面形は逆台形またはU字状である。

柱穴 溝の覆土を掘り込む柱穴列を3条確認した。第1号柱穴列は15か所、第2号柱穴列は8か所、第3号柱穴列は7か所で、柱筋はばらつきがあるものの、溝と同一方向に並んでいる。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

遺物出土状況 弥生土器片15点、土師器片101点、須恵器片42点、陶器片1点(鉢)、石器2点(銅片)、金属製品1点(不明)が出土している。

所見 本跡の性格は区画溝と考えられる。溝の覆土を掘り込む形で柱穴列が3条確認できたことから、溝による区画から横状の施設による区画に変化したことが想定される。年代が特定できる遺物は出土していないが、掘立柱建物群の主軸方向と本跡の方向に共通性がみられることから、中世の遺構と考えられる。



第152図 第2号溝跡出土遺物実測図

第77表 第2号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	深鉢	-	(2.8)	-	緻密・にじり・黄緑	ロクロ成形 外・内面輪軸	灰軸	瀬戸・美濃	覆土中	大瀬4期

第78表 第2号溝付属柱穴列ビットー覧

遺構名	形状	規模	深さ (cm)
		長軸×短軸(cm)	
P 1	円形	38 × 35	48
P 2	円形	31 × 27	41
P 3	楕円形	33 × 22	32
P 4	円形	23 × 20	13
P 5	不整形円形	43 × 40	45
P 6	不整形円形	32 × 25	34
P 7	楕円形	50 × 35	49
P 8	楕円形	42 × 36	43
P 9	楕円形	48 × 31	53
P 10	円形	29 × 26	94
P 11	円形	28 × 28	59
P 12	楕円形	43 × 35	45
P 13	円形	31 × 29	32
P 14	楕円形	35 × 28	38
P 15	楕円形	34 × 27	39

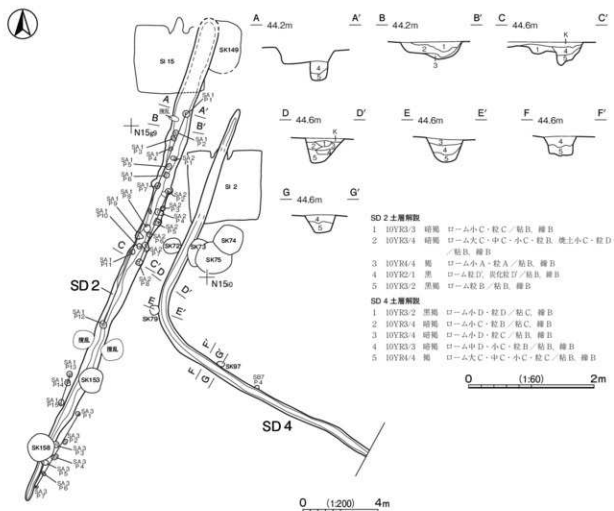
遺構名	形状	規模	深さ (cm)
		長軸×短軸(cm)	
P 1	楕円形	37 × 19	47
P 2	楕円形	49 × 35	37
P 3	円形	23 × 21	32
P 4	楕円形	47 × 32	45
P 5	不整形円形	46 × 45	52
P 6	不整形円形	30 × 26	33
P 7	楕円形	50 × 31	71
P 8	円形	31 × 30	36

遺構名	形状	規模	深さ (cm)
		長軸×短軸(cm)	
P 1	楕円形	25 × 21	29
P 2	楕円形	30 × 22	21
P 3	楕円形	35 × 31	9
P 4	楕円形	37 × 26	48
P 5	楕円形	41 × 27	12
P 6	楕円形	26 × 18	12
P 7	楕円形	20 × 13	10

第4号溝跡 (第153図)

位置 調査2区南部のN150～O16a2区、標高45mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2号竪穴建物跡、第7号掘立柱建物跡を掘り込み、第72・73・79・97号土坑に掘り込まれている。



第153図 第2・4号溝跡実測図

規模と形状 南東部が調査区外に延びており、全長25.15mしか確認できなかった。上幅0.60～0.65m、下幅0.37～0.42m、深さ30～39cmである。N150区から南西方向(N-20°-E)に直線状に延び、N159区で彎曲して、南東方向(N-61°-W)にL字状に延びている。断面形は逆台形もしくはU字状である。

覆土 5層に分層できる。第1～3層は不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。第4・5層は、レンズ状堆積で、溝の広範囲で確認できることから自然堆積と考えられる。

所見 遺物は出土していないが、掘立柱建物群の軸方向と本跡の方向に共通性がみられることから、中世の遺構と考えられる。また、第2号溝跡と並走していることから、同時期に機能していた区画溝と考えられる。区画内と想定される範囲内の中世の主な遺構は、第1号掘立柱建物跡と第1号火葬施設が挙げられるが関係性は不明である。

第79表 中世～近世溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
2	N150～ O15a7	N-20°-E	直線状	27.35	0.38～ 1.02	0.14～ 0.74	18～36	逆台形・ U字状	外積	人為	弥生土器、土師器、須恵器、 石器、金属製品	S163K10 → 本跡 → SK77-151-158
4	N150～ O16a2	N-20°-E N-61°-W	L状	25.15	0.60～ 0.65	0.37～ 0.42	30～39	逆台形・ U字状	外積	自然		S17-519 → 本跡 → SK72-79-97

(8) 土坑

第136号土坑(第154・155図 PL15)

位置 調査2区南部のQ15a8区、標高45mほどの台地縁辺部に位置している。

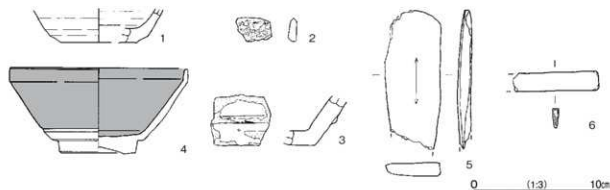
重複関係 第64号方形竅穴遺構、第361・375～377・395・402・403号土坑、第6号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径7.54m、短径7.50mの不整形円形である。深さは27cm、底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。水平堆積であることから自然堆積と考えられる。第4層の締まりがやや強く踏み締まっている。第3層は第4層上面が被熱した層である。

遺物出土状況 土師器片23点、須恵器片5点、土師質土器片3点(小皿、鉢、香炉)、瓦質土器片3点(火舎)、陶器片4点(碗)、石器2点(剥片、砥石)、金属製品4点(煙管3、小柄1)が出土している。埋没過程で投棄されたと考えられる。

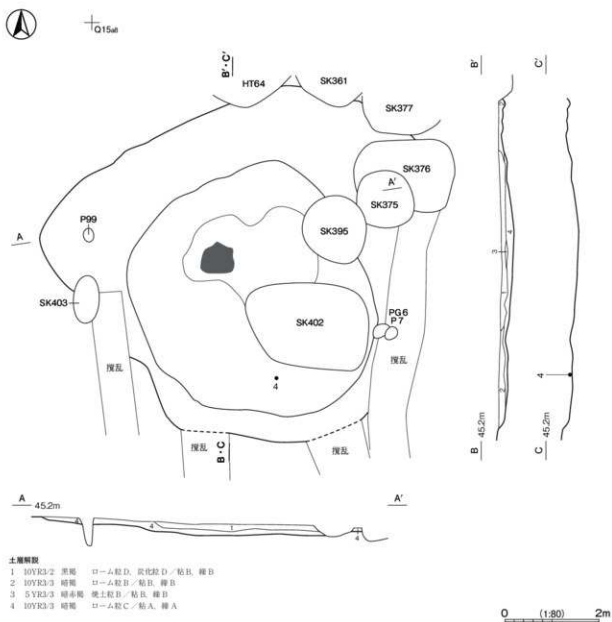
所見 埋没過程で火が焚かれた痕跡が確認できたが被熱範囲は狭く、長期の使用は感じられなかった。時期は、出土土器から、16世紀後半～17世紀に比定できる。大型土坑で、用途は不明である。



第154図 第136号土坑出土遺物実測図

第 80 表 第 136 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	-	(27)	[60]	石灰・長石・雲母	に高い黄褐色	普通	ロクロ成形	覆土中	30%
番号	種別	器種	胎土			色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考
2	土師質土器	香炉	石灰・長石・赤色粒子			橙	外面スタンプ文			覆土中	
3	瓦質土器	火舎	石灰・長石・雲母・黒色粒子			灰黄	外面下部裝飾帯貼り付け			覆土中	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土遺構	備考
4	陶器	天目茶碗	[142]	60	60	石灰・長石・雲母	ロクロ成形 底部高台削り出し	鉄釉	瀬戸・美濃系	覆土下層	大塚3期 10% PL26
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
5	磁石	(11.1)	4.5	1.1	(96.68)	千枚岩	紙面1面 先端部欠損			覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
6	小柄	(6.8)	1.5	0.4	(7.80)	銅	断面形三角形 無文			覆土中	PL33



第 155 図 第 136 号土坑実測図

第152号土坑 (第156図 PL15)

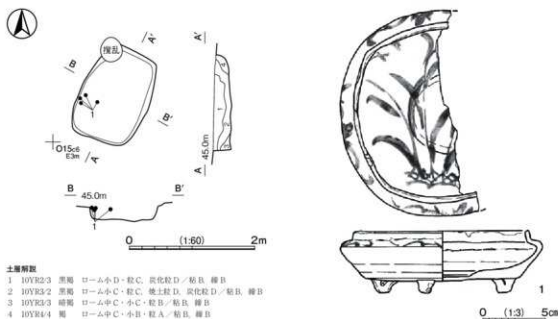
位置 調査2区南部のO15b6区、標高45mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.53m、短軸1.11mの長方形で、軸方向はN-24°-Eである。深さは27cmで、底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片1点、須恵器片1点、陶器片1点(向付)が出土している。1は、覆土上層から破片の状態でもとまって出土している。

所見 時期は、出土土器から17世紀前葉に比定できる。1と同一個体の可能性がある破片が第70号方形竪穴遺構からも出土している。



土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 10YR2/3 黒褐色 ローム小・D・粒C、炭化粒D/粘B、輝B
- 2 10YR3/2 黒褐色 10YR3/2 黒褐色 ローム小・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、輝B
- 3 10YR3/3 暗褐色 10YR3/3 暗褐色 ローム中・小C・粒C、粘B/粘B、輝B
- 4 10YR4/4 黒褐色 10YR4/4 黒褐色 ローム中・小B・粒A、粘B、輝B

第156図 第152号土坑・出土遺物実測図

第81表 第152号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸率	産地	出土位置	備考
1	陶器	志野鉄胎向付	140	50	122	緻密・にじみ黄褐色	ロケロ成形、口縁部を方彫に磨削、底部向付へラ削り後器部取り付け、見込木・肩部鉄胎による補装	長石軸	瀬戸・美濃系	覆土上層	50%、PL27(遺物1期)

第175号土坑 (第157図 PL16)

位置 調査2区南部のO15c8区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第9号方形竪穴遺構を掘り込み、第188号土坑に掘り込まれている。

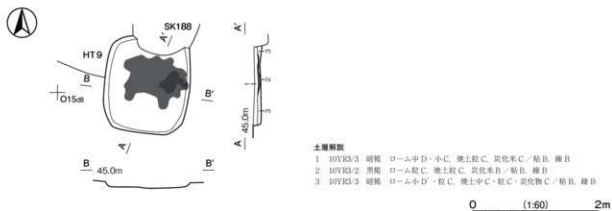
規模と形状 長軸1.50m、短軸1.34mの隅丸長方形で、軸方向はN-3°-Eである。深さは12cmで、底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれることから埋め戻されている。

遺物出土状況 炭化種実は、第1層中(1x)から35.7g、第2層中(2x)から35.6gの計71.3gが出土している。

土坑内に被熱痕跡がみられないことから、炭化した後に土坑内に廃棄されたと考えられる。

所見 炭化種実の科学分析の結果、イネの他、ムギ、ヒエ、小豆といった穀物が検出された。時期は、15世紀中葉から16世紀前葉に収穫された可能性が高い。



第157図 第175号土坑実測図

第175号土坑及び第20号竪穴建物跡出土炭化種実の自然科学分析結果

炭化種実の同定及び、年代測定の結果を下記に掲載する。種の同定については、前述した第20号竪穴建物跡（古墳時代前期）と合わせて分析結果を掲載する。年代測定の考え方については、第23号掘立柱建物跡（130頁）を参照されたい。

①第175号土坑及び第20号竪穴建物跡出土炭化種実同定

1. 試料

炭化種実同定試料は、中世のSK175より2点(1x, 2x)、古墳時代のSi20貯蔵穴床直室内(No.11 Hカメ内米)より1点の、2遺構3点である。試料は全て乾燥した状態で、SK175の2点(1x, 2x)はイネ(炭化米)が多量密閉容器に入っている。本分析調査では、イネ(炭化米)の粗残存の確認、100個の計測の他、イネ以外の種類把握を目的とし、抽出1式分、同定1式分の分析を実施する。

2. 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定可能な炭化種実を抽出する。多量のイネが確認されるSK175の2試料(1x, 2x)は、粒径2mm、1mmの篩を通した後、状態が良好なイネの籾・玄米100個、玄米100個を上限に抽出する。次に、イネ主体試料を対象として、籾(主に基部が残る2mm以上)と、イネ以外の炭化種実の精査抽出を実施する。

炭化種実の同定は、現生標本や橋坂(1993)、石川(1994)、小畑(2008:2011)、中山ほか(2010)、鈴木ほか(2018)等を参考に実施する。結果は、部位・状態別の個数と重量を一覧表で示し、各分類群の写真を添付する。また、保存状態が良好な栽培種等を対象として、デジタルノギスを用いて長さ、幅、厚さ等を計測し、炭化米の「粒大(長さ×幅)、粒形(長さ/幅)」(佐藤,1988)、ヒエ属の「穎果のサイズ(長さ×幅)」(那須2018)、アズキ亜属の「簡易楕円体積(長さ/2×幅/2×厚さ/2×4/3×π)」(那須ほか2015)などを求める。結果は一覧表で示す。種実以外の分析残渣は、一覧表の下部に重量または定性的な量比をプラス「+」で示す。

3. 結果

炭化種実同定結果を表3、主な炭化種実の計測値を付表、表4、炭化米の粒大・粒形を表5に示す。また、炭化種実各分類群の写真を図版に示す。2遺構3試料を通じて、草本8分類群(イネ、ヒエ属、アワ、オオムギ、コムギ、タデ属、アズキ亜属、マメ科)790個超1.1388gが同定された。1個は状態不良で同定ができなかったが、穀類と考えられる。炭化種実以外は、炭化材、岩片が少量と、炭化していない種実(イヌタデ近似種果実)が2個確認された。

炭化種実の保存状態は概ね良好であり、表面に果皮(粉)が残る穀類が確認された。栽培種は、穀類のイネ、アワ、オオムギ、コムギと、栽培の可能性が高いヒエ属、豆類のアズキ亜属が確認された。

以下、試料別に記す。

・SK175

1xは、試料350.8gよりイネ主体341.8gが確認され、この中から粉6個0.004g、粉・玄米103個0.94g、玄米200個1.46gを抽出同定した。イネ100個の計測値は、長さが最小4.08～最大5.37(平均4.87±標準偏差0.27)mm、幅が2.31～3.36(平均2.81±0.22)mm、厚さが1.49～2.27(平均1.95±0.15)mmであり、13個が短粒極小型、78個が短粒小型、5個が短粒中型、4個が長粒小型に該当する。

イネ以外は、ヒエ属果実5個0.007g、穎果18個0.031g、オオムギ4個0.039g、アズキ亜属1個0.017g、不明(穀類?)1個0.001g未満、草本のタデ属1個0.001g、マメ科1個0.002gが確認された。炭化種実以外は、炭化材少量と、炭化していない草本のイヌタデ近似種2個0.003gが確認された。

ヒエ属13個の計測値は、長さが2.04～2.80(平均2.37±0.23)mm、幅が1.57～2.01(平均1.80±0.15)mm、厚さが1.28～1.67(平均1.43±0.13)mm、胚の長さが1.24～1.54(平均1.40±0.10)mmであり、長さ×幅は3.20～5.57(平均4.29±0.69)mm²となる。アズキ亜属は臍を欠損しており、長さ5.05mm、幅3.16mm、厚さ3.17mmを測る。簡易楕円体積は26.47mm³となり、野生型(那須ほか2015)に該当する。

2xは、試料800.1gよりイネ主体796.7gが確認され、この中から粉47個0.03g、粉・玄米109個0.96g、玄米200個1.45gを抽出同定した。イネ100個の計測値は、長さが最小4.31～最大5.58(平均4.86±0.24)mm、幅が2.21～3.39(平均2.78±0.22)mm、厚さが1.60～2.36(平均1.92±0.14)mmであり、11個が短粒極小型、78個が短粒小型、3個が短粒中型、3個が長粒極小型、5個が長粒小型に該当する。

イネ以外は、ヒエ属果実43個0.075g、穎果37個0.071g、アワ1個0.001g未満、コムギ1個0.002g、野生型のアズキ亜属1個0.006gが確認された。炭化種実以外は、炭化材が少量確認された。

ヒエ属24個の計測値は、長さが1.88～2.58(平均2.23±0.16)mm、幅が1.39～1.86(平均1.66±0.12)mm、厚さが1.06～1.76(平均1.40±0.13)mm、胚の長さが0.81～1.84(平均1.48±0.24)mmであり、長さ×幅は2.82～4.70(平均3.71±0.50)mm²となる。アズキ亜属は子葉の合わせ目に沿って割れた半分であり、長さ3.81mm、幅2.44mm、半分厚1.31mmを測る。簡易楕円体積は12.75mm³となり、野生型(那須ほか2015)に該当する。

・SI20(貯蔵穴No.11Hカメ内米)

試料0.11gより、イネ12個0.04gが同定され、2個の計測値は短粒小型に該当する。炭化種実以外は、炭化材0.02g、岩片0.04gが確認された。

4. 考察

大高台遺跡の中世とされる SK175、古墳時代とされる SI20 貯蔵穴直直室内から得られた炭化種実群は、ほぼ栽培種から成り、短粒小型のイネ(炭化米)を主体とする組成が確認された。最も多く確認された穀類のイネ、SK175より確認されたアワ、オオムギ、コムギ、栽培の可能性が高いヒエ属、豆類のアズキ亜属は、近辺で栽培されたか持ち込まれたかは不明であるが、各時期に利用された植物質食料と考えられる。

また、穀類は果皮(初)がついた状態が多く確認されたことから、脱粒(だっぶ: 初穀を取り去る)前の段階で貯蔵されていた植物質食料が火災などの被熱によって炭化した可能性が考えられる。

ヒエ属は、穎果のサイズ(長さ×幅: 那須, 2018)の平均値は、現在の野生種の上限值(26mm²)よりも大きいことから、大型化したヒエの利用が示唆される。一方、アズキ亜属は現生のヤブツルアズキに類似するサイズの「野生型」に該当する(那須ほか, 2015)が、供伴する多くの穀類とともに栽培・利用された可能性が高い。

その他、SK175より少量確認された草本のタデ属、つる性草本または木本のマメ科は、遺跡周辺に生育していたと考えられ、上記穀類・豆類とともに火を受けたとみなされる。

表1 第175号土坑・第20号堅穴建物跡出土炭化種実同定結果

分類群	部位	状態	SK175				SI20		備考
			中世		古墳時代		個	備考	
			1x	2x	貯蔵穴 No.11 土師器室内出土炭化米*				
(個)	g	個	g	個	g				
炭化種実									
栽培種									
イネ	穎(基部)	破片(>2mm)	6	0.004	39	0.022	-	-	
	穎	破片(>2mm)	-	-	8	0.003	-	-	
	穎・玄米	完形(>2mm)	100	0.93	100	0.92	-	-	
		完形(2-1mm)	3	0.01	9	0.04	-	-	
	玄米	完形(>2mm)	100	0.97	100	0.93	5	0.04	
		完形(2-1mm)	100	0.49	100	0.52	-	0.04	
		破片	+	+	+	+	7	0.006	
イネ主体		>2mm	-	298.9	-	634.5	-	-	
		2-1mm	-	40.2	-	159.4	-	-	
		<1mm	-	0.3	-	0.4	-	-	
アワ	穎果	完形	-	-	1	<0.001	-	-	
オオムギ	穎果	完形	4	0.039	-	-	-	-	
コムギ	穎果	破片	-	-	1	0.002	-	-	
栽培の可能性									
ヒエ属	果実	完形	5	0.007	43	0.075	-	-	
	穎果	完形	18	0.031	37	0.071	-	-	
アズキ亜属	種子	完形	1	0.017	-	-	-	-	
		破片	-	-	1	0.006	-	-	
不明(穀類?)		破片	1	<0.001	-	-	-	-	
その他の草本									
タデ属	果実	完形	1	0.001	-	-	-	-	
マメ科	種子	完形	1	0.002	-	-	-	-	
炭化種実合計			>340	341.93	>439	796.84	12	0.04	
炭化材			+	+	+	+	+	0.02	
岩片			-	-	-	-	-	0.04	
炭化していない種実									
イヌタデ近縁種	果実	完形	2	0.003	-	-	-	-	
分析量		>2mm	+	310.8	+	638.0	+	0.11	
		2-1mm	-	39.7	-	161.7	-	-	
		<1mm	-	0.3	-	0.4	-	-	
試料の状態			乾燥		乾燥		乾燥		

引用文献

- 石川茂雄.1994,原色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2010,日本植物種子図鑑(2010年改訂版),東北大学出版会,678p.
- 那須浩郎・会田 進・佐々木由香・中沢道彦・山田武文・奥石 甫.2015,炭化種実資料からみた長野県諏訪地域における縄文時代中期のママの利用,資源環境と人類,第5号,明治大学黒曜石研究センター,37-52
- 那須浩郎.2018,縄文時代の植物のドメスティケーション,第四紀研究,57(4),109-126.
- 小畑弘己.2008,ママ科種子同定法,「極東先史古代の雑穀3」,日本学術振興会平成16~19年度科学研究費補助金(基盤B-2)(課題番号16320110)「雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書,小畑弘己編,熊本大学埋蔵文化財調査室,225-252
- 小畑弘己.2011,東北アジア古民族植物学と縄文農耕,同成社,309p.佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫.1982,日本の野生植物 草本I 単子葉類,平凡社,305p.
- 佐藤敏也.1988,弥生のイネ,弥生文化の研究2生業,金岡 怨・佐原 真編,雄山閣,97-111.
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文,2018,草木の種子と果実-形態や大きさが一目でわかる734種 増補改訂-ネイチャーウォッチングガイドブック,誠文堂新光社,303p.
- 椿坂恭代.1993,アワ・ヒエ・キビの同定,吉崎昌一先生還暦記念論集「先史学と関連科学」,261-281.

表2 主な炭化種実の計測値

分類群	部位	出土遺構	No.	計測値(mm)				長さ×幅 (mm ²)	高さ/幅 (mm)	簡易容積 (mm ³)	取 番 号	取 番 号	備 考
				長さ	幅	厚さ	胚長						
イネ	玄米	SK175	1x	-	4.08	2.31	1.49	-	9.59	1.51	-	-	最小
				-	5.37	3.36	2.27	-	17.72	2.22	-	-	最大
				-	4.87	2.81	1.95	-	13.68	1.74	-	-	平均
				-	0.27	0.22	0.15	-	1.57	0.13	-	-	標準偏差
				-	100	100	100	-	100	100	-	-	標本数
イネ	玄米	SK175	2x	-	4.31	2.21	1.60	-	10.49	1.46	-	-	最小
				-	5.58	3.39	2.36	-	18.24	2.41	-	-	最大
				-	4.86	2.78	1.92	-	13.51	1.76	-	-	平均
				-	0.24	0.22	0.14	-	1.32	0.17	-	-	標準偏差
				-	100	100	100	-	100	100	-	-	標本数
イネ	玄米	SI20	No.11	1	5.05	2.84	1.98	-	14.34	1.78	-	5	
イネ	玄米	SI20	No.11	2	4.81	2.73	2.13	-	13.13	1.76	-	6	
ヒエ属	穎果	SK175	1x	-	2.04	1.57	1.28	1.24	3.20	1.13	-	-	最小
				-	2.80	2.01	1.67	1.54	5.57	1.55	-	-	最大
				-	2.37	1.80	1.43	1.40	4.29	1.32	-	-	平均
				-	0.23	0.15	0.13	0.10	0.69	0.11	-	-	標準偏差
				-	13	13	13	13	13	13	-	-	標本数
ヒエ属	穎果	SK175	2x	-	1.88	1.39	1.06	0.81	2.82	1.24	-	-	最小
				-	2.58	1.86	1.76	1.84	4.70	1.55	-	-	最大
				-	2.23	1.66	1.40	1.48	3.71	1.35	-	-	平均
				-	0.16	0.12	0.13	0.24	0.50	0.08	-	-	標準偏差
				-	24	24	24	24	24	24	-	-	標本数
アワ	穎果	SK175	2x	-	1.49	1.36	1.22	0.55	2.03	1.10	-	9	
オオムギ	穎果	SK175	1x	1	6.67	3.49	2.76	-	23.28	1.91	-	10	
オオムギ	穎果	SK175	1x	2	4.81	2.63	1.91	-	12.65	1.83	-	-	
オオムギ	穎果	SK175	1x	3	4.58	2.53	1.78	-	11.59	1.81	-	-	
オオムギ	穎果	SK175	1x	4	5.38	2.78	2.31	-	14.96	1.94	-	-	
アズキ並属	種子	SK175	1x	-	5.05	3.16	3.17	-	15.96	1.60	26.47	13	欠欠,野生型
アズキ並属	種子	SK175	2x	-	3.81	2.44	1.31+	-	9.30	1.56	12.75	14	半分,野生型

注)計測はデジタルノギスを使用,全計測値は付表に示す。

表3 炭化米の粒大・粒形

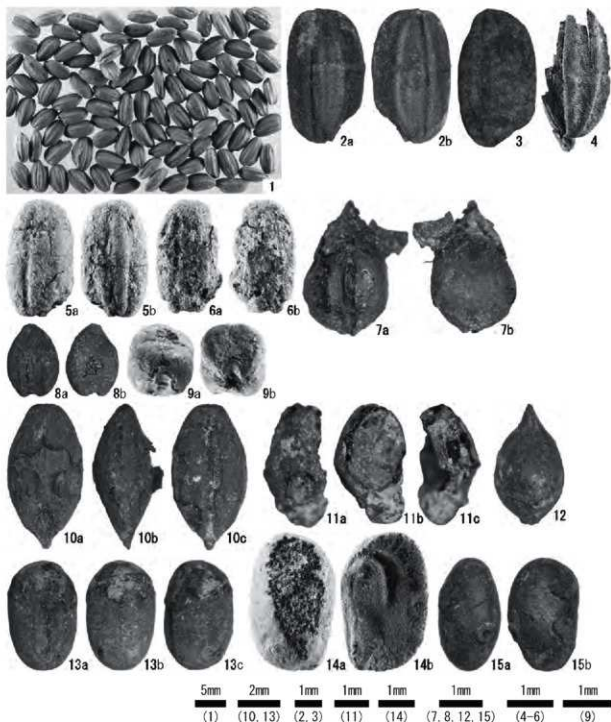
出土遺構	標本数 (個)	円粒					短粒					長粒				
		極々小	極小	小型	中型	大型	極々小	極小	小型	中型	大型	極々小	極小	小型	中型	大型
SK175 1x	100	-	-	-	-	-	-	13	78	5	-	-	-	4	-	-
SK175 2x	100	-	-	-	-	-	-	11	78	3	-	-	3	5	-	-
SK175合計	200	-	-	-	-	-	-	24	156	8	-	-	3	9	-	-
割合 (%)	100.0%	0.0%					94.0%					6.0%				
S120	No.11	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-

注) 粒大(長さ×幅)、粒形(長さ/幅)は、佐藤(1988)の定義に従う。

表4 炭化米の粒大・粒形

分類群	部位	出土遺構	%	計測値(mm)			長さ 幅 (mm)	長さ/幅	四角 率	備考	分類群	部位	出土遺構	%	計測値(mm)			長さ 幅 (mm)	長さ/幅	四角 率	備考
				長さ	幅	径長									長さ	幅	径長				
イネ 炭米 SK175 1x		1	4.97	2.90	1.93	-	14.41	1.71	-	2		イネ 炭米 SK175 1x	59	6.61	2.70	1.74	12.65	1.71	-	-	
イネ 炭米 SK175 1x		2	4.89	2.95	1.93	-	13.94	1.72	-		イネ 炭米 SK175 1x	60	4.83	3.04	2.11	16.48	1.59	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		3	5.30	2.77	1.99	-	14.42	1.90	-		イネ 炭米 SK175 1x	61	4.57	2.31	1.49	10.56	1.96	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		4	5.08	2.96	2.07	-	14.53	1.78	-		イネ 炭米 SK175 1x	62	5.11	2.74	1.79	14.00	1.86	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		5	5.37	2.47	1.81	-	13.06	2.17	-		イネ 炭米 SK175 1x	63	5.22	2.63	1.79	13.73	1.96	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		6	5.29	2.91	1.97	-	15.39	1.82	-		イネ 炭米 SK175 1x	64	5.19	3.30	1.92	17.41	1.54	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		7	4.96	3.11	2.17	-	15.43	1.50	-		イネ 炭米 SK175 1x	65	4.82	2.34	1.75	10.11	1.85	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		8	4.80	3.17	2.04	-	15.22	1.51	-		イネ 炭米 SK175 1x	66	4.83	2.84	1.85	13.72	1.20	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		9	4.87	3.05	2.12	-	14.85	1.60	-		イネ 炭米 SK175 1x	67	5.17	2.72	2.01	14.06	1.90	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		10	4.79	3.04	2.11	-	14.36	1.58	-		イネ 炭米 SK175 1x	68	5.05	3.01	1.90	15.20	1.66	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		11	5.11	3.10	1.82	-	15.84	1.65	-		イネ 炭米 SK175 1x	69	4.79	2.72	1.97	13.03	1.76	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		12	4.78	2.39	1.88	-	12.38	1.85	-		イネ 炭米 SK175 1x	70	5.29	3.35	2.18	17.72	1.58	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		13	4.74	2.82	1.98	-	13.37	1.68	-		イネ 炭米 SK175 1x	71	5.12	2.68	1.87	13.72	1.91	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		14	4.98	2.83	1.87	-	14.01	1.75	-		イネ 炭米 SK175 1x	72	5.08	2.53	1.99	9.59	1.74	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		15	4.62	2.91	2.01	-	13.53	1.60	-		イネ 炭米 SK175 1x	73	4.47	2.96	2.01	11.89	1.68	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		16	5.06	2.92	1.96	-	14.78	1.73	-		イネ 炭米 SK175 1x	74	5.06	2.89	2.06	14.62	1.73	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		17	5.11	2.84	1.81	-	14.51	1.80	-		イネ 炭米 SK175 1x	75	5.04	2.92	1.89	14.72	1.75	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		18	4.13	2.46	1.88	-	10.16	1.68	-		イネ 炭米 SK175 1x	76	5.04	2.86	2.03	14.41	1.76	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		19	4.59	2.46	1.63	-	11.29	1.87	-		イネ 炭米 SK175 1x	77	4.92	3.06	2.15	15.06	1.61	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		20	5.06	3.08	2.01	-	15.58	1.64	-		イネ 炭米 SK175 1x	78	4.62	2.90	2.00	13.00	1.59	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		21	4.78	2.80	1.86	-	13.38	1.71	-		イネ 炭米 SK175 1x	79	4.87	2.88	2.26	14.03	1.69	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		22	4.68	2.60	2.21	-	12.17	1.80	-		イネ 炭米 SK175 1x	80	4.87	2.74	1.96	13.34	1.78	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		23	4.27	2.49	1.54	-	10.63	1.71	-		イネ 炭米 SK175 1x	81	5.31	2.39	1.96	12.69	2.22	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		24	4.42	2.50	1.74	-	11.05	1.77	-		イネ 炭米 SK175 1x	82	4.80	2.87	1.99	13.78	1.67	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		25	4.44	2.64	1.88	-	11.72	1.68	-		イネ 炭米 SK175 1x	83	4.74	2.65	2.09	12.56	1.79	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		26	4.44	2.72	1.88	-	12.08	1.63	-		イネ 炭米 SK175 1x	84	4.76	2.94	1.99	13.99	1.62	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		27	4.90	3.23	2.27	-	15.96	1.53	-		イネ 炭米 SK175 1x	85	4.76	2.79	1.94	13.28	1.71	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		28	4.38	2.52	1.80	-	11.04	1.74	-		イネ 炭米 SK175 1x	86	4.77	3.07	2.18	14.64	1.55	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		29	4.83	2.66	2.10	-	13.81	1.69	-		イネ 炭米 SK175 1x	87	4.99	2.63	1.83	12.23	2.04	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		30	4.92	2.57	1.96	-	12.64	1.91	-		イネ 炭米 SK175 1x	88	4.65	2.78	1.91	12.93	1.67	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		31	5.39	2.88	2.01	-	14.98	1.81	-		イネ 炭米 SK175 1x	89	4.83	2.97	1.94	14.33	1.63	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		32	5.25	2.91	1.67	-	15.28	1.80	-		イネ 炭米 SK175 1x	90	4.78	2.80	1.90	13.38	1.71	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		33	4.78	2.90	1.94	-	13.38	1.71	-		イネ 炭米 SK175 1x	91	4.80	2.91	1.93	13.97	1.65	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		34	4.93	2.61	1.78	-	12.87	1.89	-		イネ 炭米 SK175 1x	92	4.51	2.81	1.84	12.62	1.60	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		35	5.03	2.79	1.83	-	14.03	1.80	-		イネ 炭米 SK175 1x	93	4.40	2.89	2.08	11.84	1.64	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		36	4.64	2.59	1.93	-	12.02	1.79	-		イネ 炭米 SK175 1x	94	4.87	2.89	1.88	14.07	1.69	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		37	4.88	2.68	2.07	-	13.96	1.71	-		イネ 炭米 SK175 1x	95	4.62	2.68	2.21	12.38	1.72	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		38	4.96	3.01	1.88	-	14.93	1.60	-		イネ 炭米 SK175 1x	96	5.26	3.25	2.10	17.10	1.82	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		39	4.85	2.61	1.73	-	12.66	1.86	-		イネ 炭米 SK175 1x	97	4.96	2.57	1.80	12.75	1.93	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		40	5.13	2.85	2.25	-	14.62	1.80	-		イネ 炭米 SK175 1x	98	4.81	3.15	2.15	13.51	1.53	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		41	4.87	2.69	1.90	-	13.10	1.81	-		イネ 炭米 SK175 1x	99	4.79	2.95	2.12	14.13	1.62	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		42	4.96	2.80	2.32	-	13.72	1.75	-		イネ 炭米 SK175 1x	100	4.62	2.73	1.83	12.61	1.69	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		43	5.30	3.20	2.38	-	16.21	1.59	-		イネ 炭米 SK175 1x		4.88	2.31	1.49	9.59	1.51	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		44	5.20	2.93	1.91	-	15.25	1.60	-				5.37	3.36	2.27	17.72	2.22	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		45	4.87	2.88	1.97	-	14.03	1.69	-				4.87	2.81	1.56	13.68	1.74	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		46	5.15	2.88	2.06	-	14.83	2.19	-				0.27	0.22	0.15	1.57	0.13	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		47	5.31	2.62	1.82	-	13.93	2.03	-				100	100	100	100	100	-	-		
イネ 炭米 SK175 1x		48	5.03	2.74	1.90	-	13.78	1.84	-		イネ 炭米 SK175 2x	1	4.88	2.86	1.81	13.36	1.71	-	1		
イネ 炭米 SK175 1x		49	4.93	2.95	2.01	-	14.54	1.67	-		イネ 炭米 SK175 2x	2	4.83	2.76	1.83	13.05	1.75	-	1		
イネ 炭米 SK175 1x		50	4.99	3.03	1.83	-	15.22	1.64	-		イネ 炭米 SK175 2x	3	4.75	2.86	2.10	13.99	1.66	-	1		
イネ 炭米 SK175 1x		51	4.58	3.23	1.84	-	10.76	1.90	-		イネ 炭米 SK175 2x	4	4.96	2.89	2.08	14.33	1.72	-	1		
イネ 炭米 SK175 1x		52	4.47	2.51	1.97	-	11.22	1.78	-		イネ 炭米 SK175 2x	5	4.92	2.83	1.83	13.92	1.74	-	1		
イネ 炭米 SK175 1x		53	5.22	3.15	1.88	-	16.44	1.66	-		イネ 炭米 SK175 2x	6	4.65	2.89	1.84	13.44	1.61	-	1		
イネ 炭米 SK175 1x		54	5.04	2.79	1.96	-	14.06	1.81	-		イネ 炭米 SK175 2x	7	4.79	2.99	1.96	14.32	1.60	-	1		
イネ 炭米 SK175 1x		55	4.84	2.77	1.92	-	13.41	1.75	-		イネ 炭米 SK175 2x	8	5.11	3.02	1.86	14.50	1.69	-	1		
イネ 炭米 SK175 1x		56	4.85	2.80	2.14	-	13.56	1.73	-		イネ 炭米 SK175 2x	9	5.09	2.79	1.82	14.02	1.82	-	1		
イネ 炭米 SK175 1x		57	5.27	3.23	2.08	-	14.81	1.88	-		イネ 炭米 SK175 2x	10	5.14	3.03	2.09	15.31	1.70	-	1		
イネ 炭米 SK175 1x		58	4.98	2.68	2.03	-	12.54	1.75	-		イネ 炭米 SK175 2x	11	5.28	3.20	2.01	18.24	1.59	-	1		

分類群	部位	出土遺構	計測値 (mm)				長さ × 幅 (m)	面積 の面積 (㎡)	階別	備考	分類群	部位	出土遺構	計測値 (mm)				長さ × 幅 (m)	面積 の面積 (㎡)	階別	備考												
			長さ	幅	厚さ	基底								長さ	幅	厚さ	基底																
イ	土	SK175	2a	12	514	258	180	-	1336	199	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2a	87	499	281	180	-	1402	178	-	-	
イ	土	SK175	2b	13	475	268	197	-	1273	177	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2b	88	471	262	186	-	1234	180	-	-
イ	土	SK175	2c	14	488	262	190	-	1279	186	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2c	89	463	266	192	-	1232	174	-	-
イ	土	SK175	2d	15	504	269	175	-	1356	167	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2d	90	510	299	215	-	1525	171	-	-
イ	土	SK175	2e	16	475	269	181	-	1278	177	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2e	91	483	291	201	-	1406	166	-	-
イ	土	SK175	2f	17	504	311	223	-	1567	162	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2f	92	489	290	179	-	1404	167	-	-
イ	土	SK175	2g	18	504	262	182	-	1320	192	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2g	93	475	269	187	-	1278	177	-	-
イ	土	SK175	2h	19	460	298	207	-	1389	156	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2h	94	494	298	180	-	1275	191	-	-
イ	土	SK175	2i	20	438	270	204	-	1237	170	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2i	95	504	285	186	-	1436	177	-	-
イ	土	SK175	2j	21	525	250	191	-	1313	210	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2j	96	498	337	191	-	1678	148	-	-
イ	土	SK175	2k	22	603	278	185	-	1287	167	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2k	97	478	301	208	-	1439	159	-	-
イ	土	SK175	2l	23	456	294	195	-	1455	168	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2l	98	473	301	202	-	1428	157	-	-
イ	土	SK175	2m	24	482	268	197	-	1292	180	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2m	99	517	284	182	-	1468	182	-	-
イ	土	SK175	2n	25	483	318	215	-	1530	152	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2n	100	492	322	162	-	1338	181	-	-
イ	土	SK175	2o	26	467	262	197	-	1254	176	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2o	431	231	160	-	-	1049	166	-	-
イ	土	SK175	2p	27	504	297	200	-	1446	176	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2p	558	339	236	-	-	1824	241	-	-
イ	土	SK175	2q	28	471	242	181	-	1140	195	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2q	486	278	192	-	-	1353	176	-	-
イ	土	SK175	2r	29	463	273	188	-	1264	170	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2r	624	622	614	-	-	132	617	-	-
イ	土	SK175	2s	30	459	264	207	-	1212	174	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2s	100	100	100	-	-	100	100	-	-
イ	土	SK175	2t	31	476	287	186	-	1366	166	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2t	505	284	198	-	-	1434	178	-	-
イ	土	SK175	2u	32	478	265	182	-	1267	180	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2u	481	273	213	-	-	1313	176	-	-
イ	土	SK175	2v	33	508	232	166	-	1295	241	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2v	1280	399	136	-	-	144	557	141	-
イ	土	SK175	2w	34	522	291	185	-	1519	179	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2w	2231	191	154	-	-	140	441	121	-
イ	土	SK175	2x	35	496	263	192	-	1304	189	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2x	3206	182	151	-	-	132	375	113	-
イ	土	SK175	2y	36	532	221	174	-	1132	232	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2y	424	201	167	-	-	134	488	121	-
イ	土	SK175	2z	37	477	244	170	-	1164	195	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2z	525	180	131	-	-	131	459	142	-
イ	土	SK175	2aa	38	498	270	175	-	1343	184	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2aa	61	623	183	-	-	131	329	127	-
イ	土	SK175	2ab	39	509	247	182	-	1257	206	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ab	7232	193	154	-	-	127	486	131	-
イ	土	SK175	2ac	40	452	232	168	-	1049	195	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ac	8263	193	161	-	-	154	306	136	-
イ	土	SK175	2ad	41	475	263	179	-	1249	181	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ad	9230	164	140	-	-	168	361	134	-
イ	土	SK175	2ae	42	461	257	191	-	1185	179	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ae	10255	164	129	-	-	141	318	155	-
イ	土	SK175	2af	43	479	243	182	-	1164	197	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2af	1204	157	132	-	-	131	420	130	-
イ	土	SK175	2ag	44	436	272	236	-	1186	160	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ag	2225	170	141	-	-	136	383	132	-
イ	土	SK175	2ah	45	514	231	181	-	1187	223	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ah	3221	164	141	-	-	131	362	133	-
イ	土	SK175	2ai	46	430	250	208	-	1078	172	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ai	204	157	128	-	-	131	320	113	-
イ	土	SK175	2aj	47	485	290	197	-	1407	167	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2aj	280	201	168	-	-	154	557	155	-
イ	土	SK175	2ak	48	502	247	172	-	1140	223	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ak	237	180	143	-	-	140	429	132	-
イ	土	SK175	2al	49	444	267	190	-	1165	166	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2al	623	613	613	-	-	610	669	611	-
イ	土	SK175	2am	50	473	297	179	-	1405	159	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2am	13	13	13	-	-	13	13	-	-
イ	土	SK175	2an	51	471	290	181	-	1396	162	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2an	223	174	134	-	-	162	385	127	-
イ	土	SK175	2ao	52	465	267	190	-	1143	163	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ao	623	152	133	-	-	143	343	135	-
イ	土	SK175	2ap	53	478	237	181	-	1238	186	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ap	2238	154	129	-	-	137	467	155	-
イ	土	SK175	2aq	54	503	203	219	-	1524	166	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2aq	428	278	149	-	-	156	417	136	-
イ	土	SK175	2ar	55	500	282	192	-	1410	177	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ar	5206	158	140	-	-	152	325	130	-
イ	土	SK175	2as	56	469	279	202	-	1309	168	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2as	6219	175	136	-	-	146	383	125	-
イ	土	SK175	2at	57	477	284	198	-	1355	168	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2at	7249	180	134	-	-	168	461	135	-
イ	土	SK175	2au	58	473	249	176	-	1246	169	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2au	8205	165	135	-	-	155	338	124	-
イ	土	SK175	2av	59	454	311	206	-	1412	146	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2av	9217	161	133	-	-	129	449	135	-
イ	土	SK175	2aw	60	504	287	199	-	1438	175	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2aw	10240	172	153	-	-	143	413	140	-
イ	土	SK175	2ax	61	462	310	219	-	1432	149	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ax	1258	182	157	-	-	161	470	142	-
イ	土	SK175	2ay	62	473	281	181	-	1329	168	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ay	2230	165	135	-	-	174	363	133	-
イ	土	SK175	2az	63	515	287	192	-	1478	179	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2az	2235	162	141	-	-	161	361	138	-
イ	土	SK175	2ba	64	528	242	194	-	1268	217	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イ	土	SK175	2ba	4216	139	137	-	-	184	343	136	-



- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1. イネ 玄米(SK175;2x) | 2. イネ 玄米(SK175;1x) |
| 3. イネ 粳・玄米(SK175;1x) | 4. イネ 粳(基部)(SK175;2x) |
| 5. イネ 玄米(SI20;貯蔵穴 No.11 Hカメ内米) | 6. イネ 玄米(SI20;貯蔵穴 No.11 Hカメ内米) |
| 7. ヒエ属 果実(SK175;1x) | 8. ヒエ属 穎果(SK175;2x) |
| 9. アワ 穎果(SK175;2x) | 10. オオムギ 穎果(SK175;1x) |
| 11. コムギ 穎果(SK175;2x) | 12. タデ属 果実(SK175;1x) |
| 13. アズキ亜属 種子(SK175;1x) | 14. アズキ亜属 種子(SK175;2x) |
| 15. マメ科 種子(SK175;1x) | |

②第175号土坑出土炭化種実の年代測定

1. はじめに

SK175 出土炭化米試料に対して、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と測定方法

表1に試料情報を示す。測定試料は、元素分析計、質量分析計、ガラス真空ラインより構成されるグラファイト調整システムにてグラファイト化を行った。その後、加速器質量分析装置（NEC 製 1.5SDH）を用いて放射性炭素濃度を測定した。

3. 結果

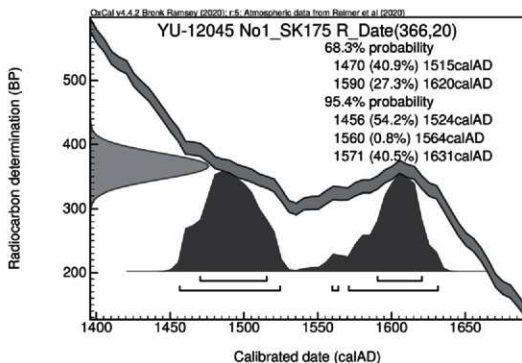
表2に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}C$ ）、同位体分別効果の補正を行った放射性炭素年代、較正曲線データを使用して放射性炭素年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。試料の暦年較正結果については、本報告書に添付した。

表1. 試料情報

ラゴコード	測定試料名	試料情報	試料状態	処理
YU-12045	No1_SK175	遺構番号：SK175 炭化物試料 No1_SK175	前処理後の試料 58.210mg から 2.356mg 使用	AAA 処理 1M HCl 80 度 1 時間 1M NaOH 80 度 1 時間 (3 回) 1M HCl 80 度 1 時間

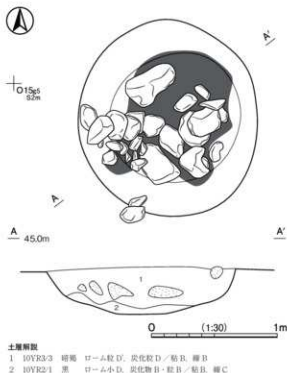
表2. 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	試料名	$\delta^{13}C$ (‰)	放射性炭素年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	放射性炭素年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
YU-12045	No1_SK175	-26.65 \pm 0.39	366 \pm 20	1470AD (40.9%) 1515AD 1590AD (27.3%) 1620AD	1456AD (64.2%) 1524AD 1560AD (0.8%) 1564AD 1571AD (40.5%) 1631AD



第273号土坑 (第158図 PL16)

位置 調査2区中央部のO15g5区、標高45mほどの台地上に位置している。



第158図 第273号土坑実測図

規模と形状 長径1.58m、短径1.43mの円形で、深さは37cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

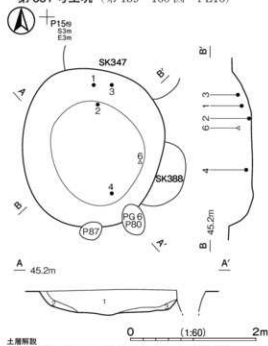
覆土 2層に分層できる。ロームブロックや礫が含まれることから埋め戻されている。第2層中に炭化物が多く含まれているが、土坑内に被熱痕は見られず、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

遺物出土状況 土師器片1点、須恵器片2点、陶器片6点(碗カ3、甕3)、金属製品2点(釘、煙管)と焼礫が多数出土している。遺物はすべて細片で図化することが出来なかった。礫は、火熱を受けて煤が付着しているものが多くみられるが、加工痕は認められなかった。

所見 本跡は、掘立柱建物が密集するエリアの西側に位置しており、建物群の裏側と想定しているエリアに当たる。多数の礫が投棄された状態で出土していることから廃棄土坑の可能性が高い。時期は、出土土器から、17世紀代に比定できる。

第331号土坑 (第159・160図 PL16)

位置 調査2区中央部のP15g9区、標高45mほどの台地上に位置している。



第159図 第331号土坑実測図

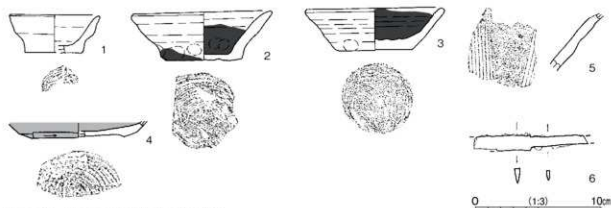
重複関係 第347・388号土坑を掘り込み、第6号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.47m、短径2.24mの楕円形で、深さは33~40cmで、長径の方向はN-12°-Eである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む土が一括して埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片1点、須恵器片6点、土師質土器片15点(小皿)、瓦質土器片7点(掃鉢)、陶器片2点(小皿、天目茶碗)、金属製品3点(刀子1、釘カ2)が出土している。出土土器はすべて破片で、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から、17世紀前葉に比定できる。



第160図 第331号土坑出土遺物実測図

第82表 第331号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	[7.0]	3.0	[4.6]	石英・長石・雲母	橙	普通	ロタロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	40% PL ₃₅
2	土師質土器	小皿	[11.2]	3.9	6.0	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	ロタロ成形 底部回転糸切り 体部下層外・内面筋線付 外・内面塗付	覆土下層	60% PL ₃₅
3	土師質土器	小皿	[10.8]	3.3	5.9	石英・長石・雲母・粘土質物・赤鉄粉	にぶい黄褐色	普通	ロタロ成形 底部回転糸切り 体部下層筋線付 底部内面渦巻状のロタロ目跡	覆土下層	60% PL ₃₅
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
4	陶器	小皿	-	(1.2)	[7.4]	緻密・にぶい黄褐色	ロタロ成形 底部回転糸切り 体部下層へろすり 外・内面筋線		美濃(志賀地)	覆土下層	20% PL ₂₇
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考				
5	瓦質土器	襷鉢	黒色砂子	にぶい黄褐色	ロタロ成形 襷り目跡不明	覆土中	10% PL ₂₇				
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
6	刀子	(9.2)	1.2	0.4	(11.88)	鉄	両端 断面形三角形 両端部欠損	覆土中層	60% PL ₃₅		

第377号土坑 (第161・162図 PL16)

位置 調査2区東部のQ15a9区、標高45mほどの台地上に位置している。

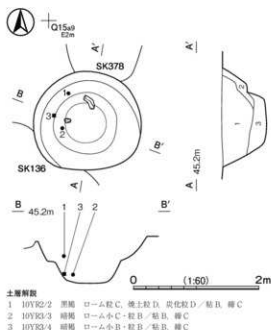
重複関係 第136・378号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.72m、短径1.57mの円形で、深さは72cmである。底面は平坦で、壁は南東部を除いて段が付き、外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれることから埋め戻されている。

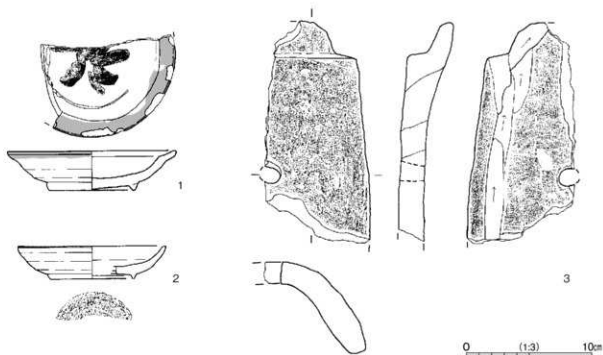
遺物出土状況 須恵器片2点、土師質土器片3点(小皿)、陶器片2点(皿、丸皿)、石器1点(砥石)、瓦片1点(丸瓦)が出土している。出土遺物はすべて破片で、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から17世紀前葉に比定できる。被熱して煤が付着した遺物がみられることから、廃棄土坑の可能性がある。



第161図 第377号土坑実測図

- 土層解説
 1 10YK2-2 黒層 ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、腐C
 2 10YK3-3 暗層 ローム小C・粒B/粘B、腐C
 3 10YK3-4 暗層 ローム小B・粒B/粘B、腐C



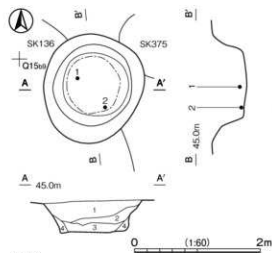
第 162 図 第 377 号土坑出土遺物実測図

第 83 表 第 377 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	皿	[135]	3.1	[69]	緻密・淡黄	口縁部輪軸 見込み鉄絵磨片文 重ね焼きに伴う滑着痕 露付着	灰輪	瀬戸・美濃系	覆土中層	全案 2 期 49% PL.27 鉄熱痕
2	陶器	志野丸皿	[117]	2.6	[68]	緻密・にぶい黄褐色	ロケロ成形 外・内面輪軸	長石輪	瀬戸・美濃系	覆土下層	全案 1 期 49% PL.26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考	
3	丸瓦	(175)	(86)	7.2	(557.60)	白灰・長石・雲母・針状鉱物	右設式 頂部に釘穴 裏面布目圧痕 ヘラナデ 裏面ヘラ削り	輪積み痕 外面繩目字様	覆土下層	鉄熱痕 PL.25

第 395 号土坑 (第 163・164 図 PL16)



土層解説

- 1 10YK2-2 黒焼 ローム小C・粒C/粘B, 粘C
 2 10YK2-3 黒焼 ローム粒C, 炭化粒D/粘B, 粘C
 3 10YK3-3 暗焼 ローム小C・粒B, 炭化粒D/粘B, 粘C
 4 10YK3-4 暗焼 ローム小B・粒B/粘B, 粘C

第 163 図 第 395 号土坑実測図

位置 調査 2 区中央部の Q15b9 区、標高 45 m ほどの台地上に位置している。

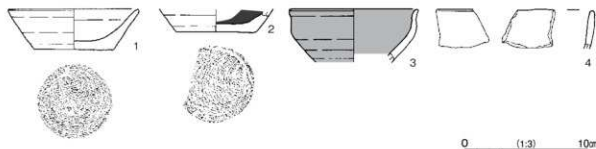
重複関係 第 136・375 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.45m、短径 1.35 m の円形で、深さは 40 cm である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックが含まれることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片 5 点 (小皿)、陶器片 3 点 (碗 2、甕 1)、鉄滓 1 点が出土している。出土土器はすべて破片で、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 17 世紀前葉に比定できる。



第164図 第395号土坑出土遺物実測図

第84表 第395号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	106	3.4	6.5	石英・長石・雲母・針状鉱物	にぶい肌	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	覆土下層	100% PL28 二次焼成
2	土師質土器	小皿	-	(1.9)	(6.4)	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい肌	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 内面保付着	覆土下層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
3	陶器	大目茶碗 [105]	(4.3)	-	-	緻密・灰黄	ロクロ成形 外・内面輪軸	鉄軸	瀬戸・美濃系	覆土中	大塚3期 10% PL28
4	陶器	碗	(3.1)	-	-	緻密・灰黄肌	ロクロ成形 外・内面輪軸	風志野	長石軸 瀬戸・美濃系	覆土中	登壇1期

第85表 中世～近世土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
136	Q15a8	-	不整形円形	7.54 × 7.50	27	縦横	皿状	自然	土師器、須恵器、土師質土器、瓦 質土器、陶器、石器、金属製品	本跡→H164、 SK361・375 - 377・385・402・ 403・1326
152	O15b6	N-24°-E	長方形	1.53 × 1.11	27	直立	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器	HT9→本跡 →SK388
175	O15c8	N-3°-E	隅丸長方形	1.50 × 1.34	12	直立	平坦	人為	炭化米	
273	O15g5	-	円形	1.58 × 1.43	37	外傾	皿状	人為	土師器、須恵器、陶器、金属製品	
331	PL5g9	N-12°-E	楕円形	2.47 × 2.24	33~40	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、土師質土器、 瓦質土器、陶器、金属製品	SK347・388→本 跡→PG6
377	Q15a9	-	円形	1.72 × 1.57	72	垂直・外傾	平坦	人為	土師質土器、陶器、瓦、石器	SK136・378→本跡
386	O15b9	-	円形	1.45 × 1.35	40	外傾	平坦	人為	土師質土器、陶器、鉄滓	SK136・375→本跡

(9) 粘土貼土坑

第230号土坑 (第165図 PL16)

位置 調査2区中央部のO15g9区、標高45mほどの台地上に位置している。

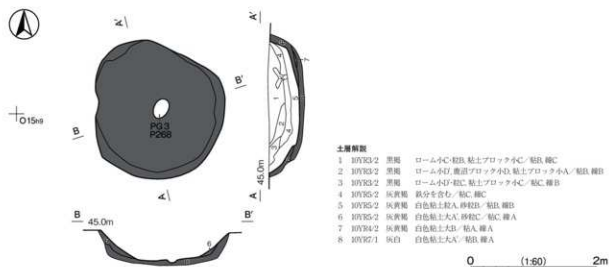
重複関係 第3号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.25m、短軸2.13mの円形で、深さは58cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層に分層できる。第1～3層はロームや粘土ブロックが含まれ、締まりが弱いことから、埋め戻されている。第4・5層は粒子が均一な自然堆積層である。第6～8層は白色粘土層で、内面に貼られたものである。自然堆積層である第5層中には砂粒が多く含まれており、第4層には鉄分の酸化による変色がみられたことから、水中での沈積によるものとみられる。

遺物出土状況 土師器片7点、竈2点が出土しているが、埋め戻しの埋土に混入したものである。

所見 本跡は、堆積状況から水が溜まっていたと考えられ、貯水槽的な用途であった可能性がある。時期は、伴う遺物はないが、中世後半～近世初頭にかけての遺構が密集するエリアに位置しており、それらの遺構と同じ時期に構築されたと考えられる。



第165図 第230号土坑実測図

第262号土坑 (第166図 PL17)

位置 調査2区中央部のO15h9区、標高45mほどの台地上に位置している。

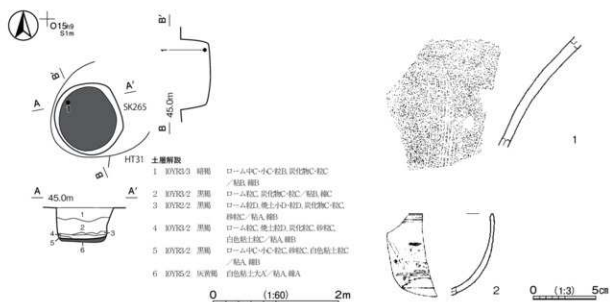
重複関係 第31号方形竪穴遺構、第265号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.15m、短軸1.10mの円形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 6層に分層できる。第1～5層はロームブロックを含み、締まりが弱いことから、埋め戻されている。第6層は白色粘土層で、底面に貼られた粘土である。

遺物出土状況 土師器片17点、陶器片6点(碗5、播鉢1)が出土している。遺物はすべて破片で、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から17世紀中葉に比定できる。



第166図 第262号土坑・出土遺物実測図

第86表 第262号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	掻鉢	-	(8.7)	-	緻密・浅黄褐色	ロタロ成形 1単位10条の擡り目	筒軸	瀬戸・美濃系	覆土下層	大塚4期 30% PL27
2	陶器	甕	-	(6.6)	-	緻密・白・黄褐色	赤・黒・緑の顔料による染付	透明軸	肥前系	覆土中	松右衛門様式 PL27

第382号土坑 (第167図 PL17)

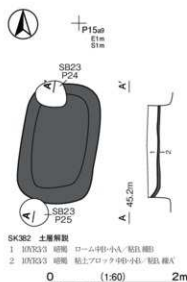
位置 調査2区中央部のP15a9区、標高45mほどの台地上に位置している。

重複関係 第23号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.90m、短径1.19mの楕円形で、深さは16cmである。長軸方向は、N-10°-Eである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。第1層はロームや粘土ブロックが含まれることから埋め戻しの埋土である。第2層は締まりの強い粘土層で、内面に貼られた粘土である。

所見 本跡は、遺物が出土していないが、第23号掘立柱建物との重複から中世後半以前に比定できる。粘土貼土坑が密集するエリアからは外れた位置にあり、形状も円形が主であるのに対し楕円形であり、他の粘土貼土坑とは様相が異なり、時期や用途が異なる可能性がある。

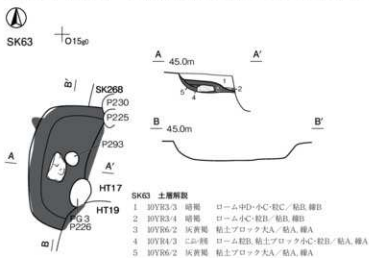


SK382 土層解説
1 10YR3/3 埴輪 ローム中D-小C/粘土層D
2 10YR3/3 埴輪 粘土ブロック中D-小C/埴輪様式

第167図 第382号土坑実測図

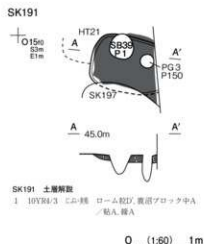
その他の粘土貼土坑 (第168～171図)

粘土貼土坑は総数19基確認されており、前述した円形で壁面全面に粘土を貼ったもの16基、楕円形で壁面全面に粘土を貼ったもの2基、円形で底面のみに粘土を貼ったもの1基の3種類を確認した。いずれの粘土貼土坑からも遺物はほとんど出土しておらず、明確な時期は不明であるが、他の遺構との重複関係や周辺の遺構分布から、中世後半～近世初頭に構築されたと考えられる。以下の粘土貼土坑は実測図と一覧にて掲載する。

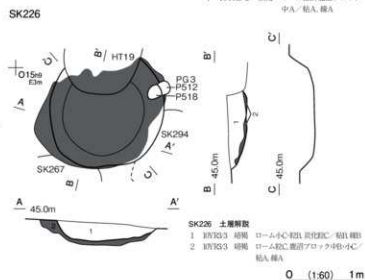
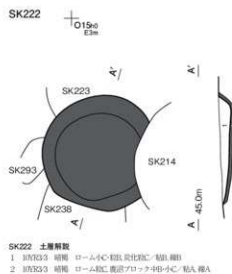
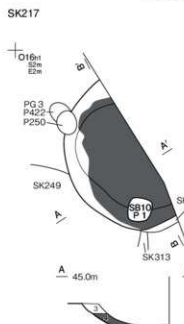
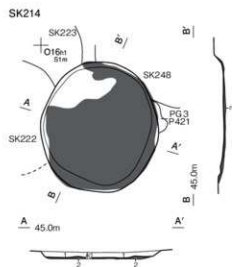
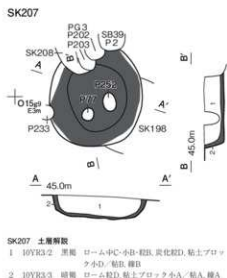


SK63 土層解説
1 10YR3/3 埴輪 ローム中D-小C-粒C/粘土層D
2 10YR6/2 埴輪 ローム小C-粒D/粘土層D
3 10YR6/2 灰青陶 粘土ブロック大A/粘土層A
4 10YR4/3 土赤陶 ローム粒D、粘土ブロック小C-粒D/粘土層A
5 10YR6/2 灰青陶 粘土ブロック大A/粘土層A

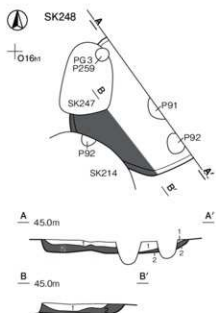
第168図 その他の粘土貼土坑実測図 (1)



SK191 土層解説
1 10YR4/3 土赤陶 ローム粒D、黄泥ブロック中A/粘土層A

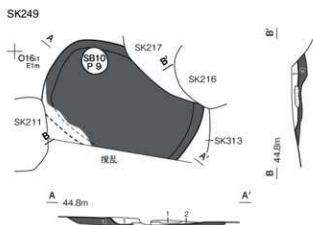


第 169 図 その他の粘土土坑実測図 (2)



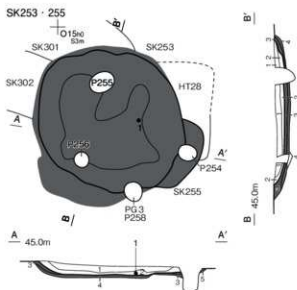
SK248 土層解説

- 1 跡763 土層 ローム中に粘土ブロック小・粘土層
- 2 跡762 灰層 粘土ブロック中・粘土層



SK249 土層解説

- 1 跡763 土層 ローム中に粘土ブロック小・粘土層
- 2 跡762 灰層 粘土ブロック中・粘土層
- 3 跡762 灰層 粘土ブロック中・粘土層

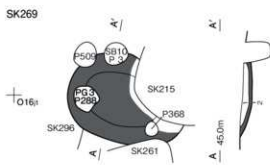


SK253 土層解説

- 1 跡762 灰層 ローム小・粘土、灰色砂、白色粘土ブロック大・黄色粘土大・粘土層
- 2 跡761 灰層 褐色粘土土層・粘土層
- 3 跡762 土層 白色粘土土層・粘土層
- 4 跡762 灰層 ローム大・灰分を含む・粘土層

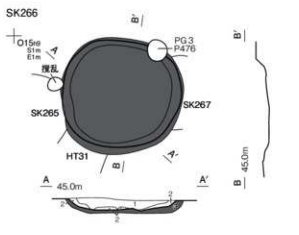
SK255 土層解説

- 1 跡763 土層 白色粘土土層・粘土層



SK269 土層解説

- 1 跡702 灰層 ローム中に黄褐色白色粘土大・粘土層
- 2 跡762 灰層 白色粘土大・粘土層

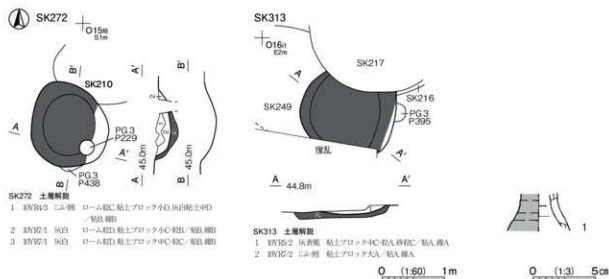


SK266 土層解説

- 1 跡702 灰層 白色粘土大・粘土層
- 2 跡742 灰層 白色粘土大・粘土層
- 3 跡741 灰層 白色粘土大・粘土層

第170図 その他の粘土土坑実測図(3)

0 (1:60) 1m



SK272 土層解説
 1 磁瓦3 ニム割 ローム状粘土ブロック小C・磁瓦付粘土D / 磁瓦割
 2 磁瓦1 瓦白 ローム状粘土ブロック小C・磁瓦割
 3 磁瓦1 瓦白 ローム状粘土ブロック小C・磁瓦割

SK313 土層解説
 1 磁瓦2 灰黄帯 粘土ブロックPC・磁瓦・磁瓦A
 2 磁瓦2 ニム割 粘土ブロック大A・磁瓦A

第171図 その他の粘土土坑・出土遺物実測図

第87表 中世～近世粘土土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土遺構	備考
1	陶器	花瓶	-	(3.9)	-	緻密・灰黄帯	ロクロ成形 外面施釉	鉄軸	古瀬戸	SK253	中期 P1.28

第88表 中世～近世粘土土坑一覧

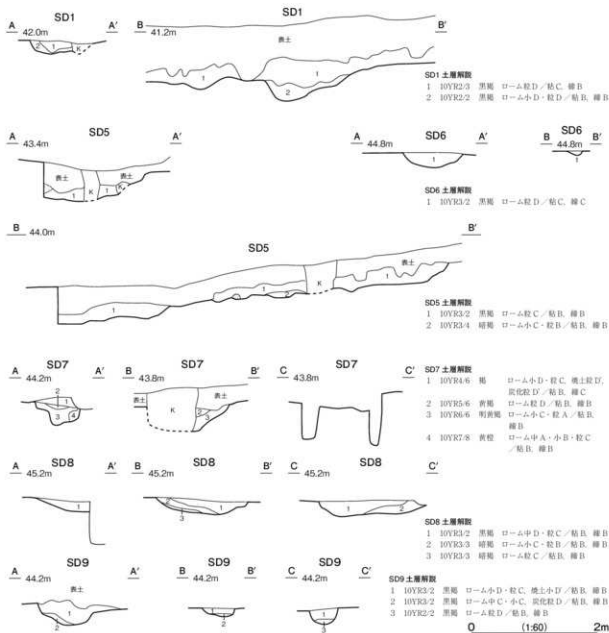
番号	位置	長径方向	平面形	規 格		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
63	O15g0	-	[円形・楕円形]	(2.00) × (1.12)	31	外傾	平坦	人為		H17-19, SK308 → 本跡→PG3
183	O15e0	-	[円形・楕円形]	(1.78) × (0.86)	30	外傾・直立	平坦	人為		H121 → 本跡 → SK295, SK297, PG2
191	O1500	N・7.7°・W	[楕円形]	(1.26) × (0.76)	10	外傾	平坦	人為	土師器, 陶器	SK308 → 本跡 → SK28, SK308, PG3
207	O1509	N・2.2°・E	[楕円形]	(1.64) × 1.49	34	外傾	平坦	人為	土師器, 鏡貨	SK222・223・248・PG3 → 本跡
214	O16h1	N・7°・E	楕円形	2.06 × 1.84	8	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 鏡貨	SK239・313 → 本跡 → SK16, SK10, PG1
217	O16h1	N・2.7°・W	[円形・楕円形]	(2.48) × (1.45)	44	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	SK221・228・250 → 本跡 → SK214, PG3
222	O15h0	-	円形	1.80 × 1.80	17	外傾	平坦	人為		SK267・298・250 → 本跡 → H19, PG2
226	O15h9	N・4.7°・E	[楕円形]	2.12 × 1.83	37	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 陶器	本跡 → PG3
248	O16h1	N・3.4°・E	[円形・楕円形]	(2.32) × (1.33)	15	外傾	平坦	人為		PG3 → 本跡 → SK214・247
249	O16l	N・6.3°・W	[楕円形]	2.50 × (1.65)	11	外傾	平坦	人為	赤生土器	SK313 → 本跡 → SK211・215・217, SK219
253	O15h0	-	円形	2.53 × 2.49	10-18	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質土器, 陶器	H128, SK255・301・313 → 本跡 → PG3
255	O15h0	-	[円形・楕円形]	(1.15) × (0.47)	10-13	外傾	-	人為		H128 → 本跡 → SK253, PG2
262	O15h9	-	円形	1.15 × 1.10	48	外傾	平坦	人為	土師器, 陶器, 磁器, 石器	H131, SK265 → 本跡
266	O15h9	-	[円形]	(1.90) × 1.75	12	外傾	平坦	人為		H131, SK265・307 → 本跡 → PG3
269	O16j	N・7.3°・W	[楕円形]	(1.88) × 1.42	11	外傾	平坦	人為		SK296 → 本跡 → SK293, SK295・26, PG3
272	O15h8	N・2.0°・W	楕円形	1.40 × 1.22	23	外傾	皿状	人為		SK210, PG3 → 本跡 → PG2
313	O16l	N・7.0°・E	[円形・楕円形]	1.50 × (1.03)	15	外傾	平坦	人為		PG3 → 本跡 → SK216・217・289
382	P15a9	N・10°・E	楕円形	1.90 × 1.19	16	外傾	平坦	人為		SK253 → 本跡

5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明確でない溝跡6条、柱穴列2条、土坑421基、炭窯跡1基、ピット群6か所を確認した。以下、それらの遺構について記す。

(1) 溝跡

溝跡については、実測図（第172図・付図）、及び一覧にて掲載する。



第172図 第1・5～9号溝跡実測図

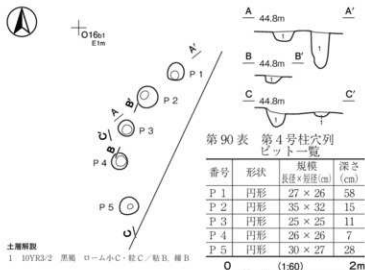
第89表 その他の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						
1	M156 ~ N156	N - 5° - W	蛇行状	(9.89)	0.46 ~ 2.45	0.51 ~ 0.25	17 ~ 45	溝状	縦割・外堀	自然	弥生土器、土師器、須恵器	
3	O146 ~ O148	N - 78° - W	直線状	(5.65)	(1.53)	0.28 ~ 0.51	18 ~ 24	溝状	縦割	自然		
6	O152 ~ O150	N - 18° - E	直線状	(12.72)	0.26 ~ 0.92	0.12 ~ 0.15	8 ~ 24	溝状	縦割	自然		SD1 第1号土坑墓 → 本跡
7	O147 ~ O149	N - 36° - W	直線状	(13.32)	0.44 ~ 0.93	0.16 ~ 0.34	24 ~ 44	U字状	外堀	人為	土師器、須恵器、陶器、瓦葺土器、鉄片	SI21 → 本跡
8	P156 ~ P162	N - 82° - W	直線状	(8.52)	0.93 ~ 1.78	0.36 ~ 0.98	15 ~ 23	溝状	縦割	人為	土師器、陶器、鉄貨	Sh-37・389・副 → 本跡 → Sh-355、PG6 Sh-356(掘削不可)
9	P147 ~ P148	N - 26° - E N - 69° - W	L字状	6.41	0.30 ~ 0.59	0.10 ~ 0.36	12 ~ 38	U字状	外堀	自然		

(2) 柱穴列

第4号柱穴列 (第173図 PL17)

位置 調査2区東部のO16b1区、標高45mほどの台地上に位置している。



第173図 第4号柱穴列実測図

規模と形状 東部が調査区外に延びており一部しか確認できなかったが、直径3mほどの円形または楕円形に配列された柱穴であると推定できる。

柱穴 5か所。平面形は円形で、長径25～35cm、短径25～32cmである。深さは7～58cmで、掘方の壁は直立している。

所見 遺物が出土しておらず、時期、性格ともに不明である。第5号柱穴列の約3m北側に位置し、形状も類似していることから、同時代の遺構の可能性が高い。

第5号柱穴列 (第174図 PL17)

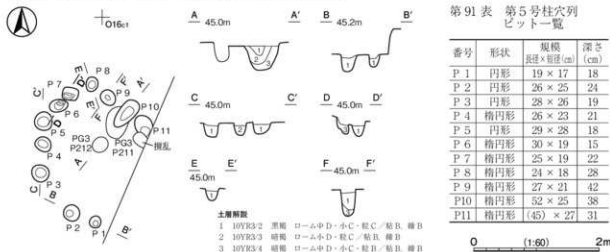
位置 調査2区南部のO16c1区、標高45mほどの台地上に位置している。

規模と形状 東部が調査区外に延びており一部しか確認できなかったが、楕円形に配列された柱穴であると推定できる。

柱穴 11か所。平面形は円形または楕円形で、長径19～52cm、短径17～28cmである。深さは15～42cmで、掘方の壁は直立している。

遺物出土状況 土師器片4点、須恵器片1点がP7・P11の覆土中から出土しているが、細片で埋め戻しの際の覆土に混入したものと考えられる。

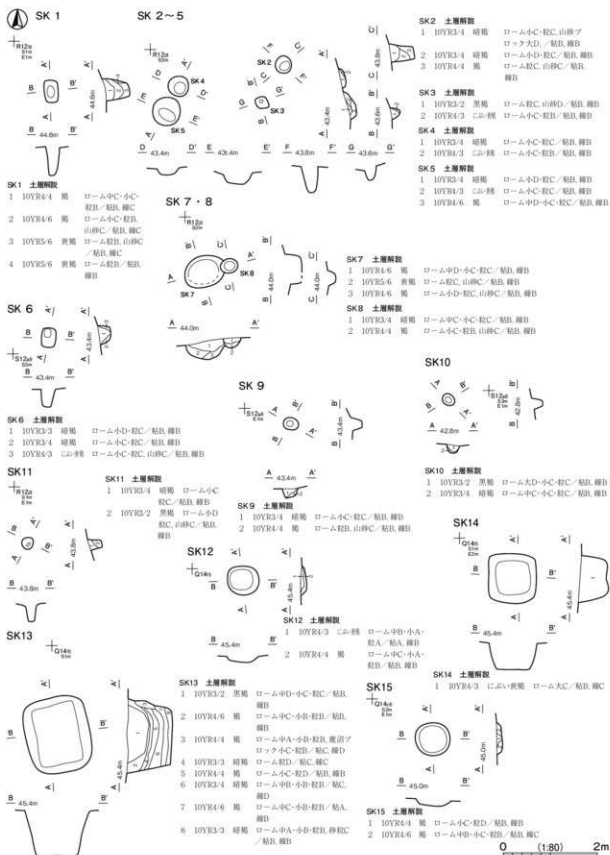
所見 本跡に伴う遺物が出土しておらず、時期、性格ともに不明である。第4号柱穴列の3m南側に位置し、形状も類似していることから、同時代の遺構の可能性が高い。



第174図 第5号柱穴列実測図

(3) 土坑

その他の土坑及び出土土物については、実測図(第175～206図)、及び一覧(第92-93表)にて掲載する。



第175図 その他の土坑実測図(1)

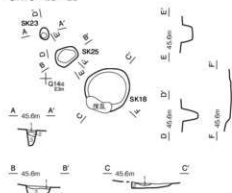
SK16



SK16 土層解説

- 1 10YR4/4 層 ローム小D-粒A/粘B、礫B
- 2 10YR4/6 層 ローム小D-粒B/粘B、礫B
- 3 10YR5/6 表層 ローム粒C、鹿沼ブロックC/粘B、礫A
- 4 10YR4/4 層 ローム中C-小A-粒A/粘A、礫B
- 5 10YR4/6 層 ローム中C-小B-粒A/粘B、礫B
- 6 10YR3/3 暗層 ローム小D-粒C/粘B、礫C
- 7 10YR2/3 基層 ローム小D-粒D/粘B、礫C

SK18・23・25



SK18 土層解説

- 1 10YR3/3 暗層 ローム小C/粘B、礫B
- 2 10YR3/2 基層 ローム中C、鹿沼ブロック小D/粘B、礫C

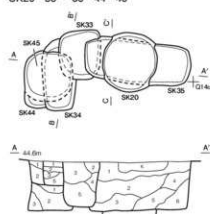
SK23 土層解説

- 1 10YR3/3 暗層 ローム粒C/粘B、礫B
- 2 10YR3/3 暗層 ローム小B、鹿沼ブロック小C/粘B、礫C
- 3 10YR3/3 暗層 ローム粒B/粘B、礫C

SK25 土層解説

- 1 10YR3/2 基層 ローム小C/粘B、礫B
- 2 10YR3/3 暗層 ローム小B/粘B、礫C

SK20・33～35・44・45



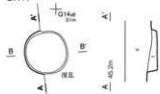
SK20 土層解説

- 1 10YR2/2 基層 ローム中D-小D-粒D/粘B、礫A

SK33 土層解説

- 1 10YR3/4 暗層 ローム中C-小C-粒C/粘B、礫B
- 2 10YR3/4 暗層 ローム中D-小C-粒C/粘B、礫B
- 3 10YR4/3 Ⅱa層 ローム中C-小C-粒B、鹿沼ブロック中C/粘B、礫B
- 4 10YR4/4 層 ローム中B-小C-粒B/粘B、礫B
- 5 10YR3/4 暗層 ローム大C-中C-小C-粒C/粘B、礫B

SK17



SK17 土層解説

- 1 10YR3/4 暗層 ローム小D-粒C、鹿沼ブロック小C/粘B、礫B

SK19



SK19 土層解説

- 1 10YR2/2 基層 ローム小D-粒D/粘B、礫C
- 2 10YR3/4 暗層 ローム中D-小C-粒D/粘B、礫B

SK21



SK21 土層解説

- 1 10YR3/3 暗層 ローム小C-粒D/粘B、礫C
- 2 10YR4/4 層 ローム小B-粒B/粘B、礫B

SK22



SK22 土層解説

- 1 10YR3/3 暗層 ローム小C、炭化粒C-粒C/粘B、礫B
- 2 10YR4/4 層 ローム小B-粒C/粘B、礫B

SK34 土層解説

- 1 10YR3/4 暗層 ローム中C、炭化物C-小C-粒C/粘B、礫B
- 2 10YR3/3 暗層 ローム中D-小C-粒C、鹿沼ブロック中C/粘B、礫B
- 3 10YR4/3 Ⅱa層 ローム小C-粒B/粘B、礫A
- 4 10YR3/4 暗層 ローム大C-中C-小C-粒C/粘B、礫B
- 5 10YR4/4 層 ローム中C-小B-粒B/粘B、礫B
- 6 10YR4/3 Ⅱa層 ローム大D-中C-小C-粒B/粘B、礫B

SK35 土層解説

- 1 10YR3/3 暗層 ローム小D-粒C/粘B、礫B
- 2 10YR3/4 暗層 ローム大D、炭化物D-中D-小C-粒C/粘B、礫B
- 3 10YR3/3 暗層 ローム小C-粒C/粘B、礫A
- 4 10YR3/4 暗層 ローム中D-小C-粒C/粘B、礫B
- 5 10YR3/3 暗層 ローム大D-中D-小C-粒B、礫B
- 6 10YR3/3 暗層 ローム中D-小C-粒C/粘B、礫B

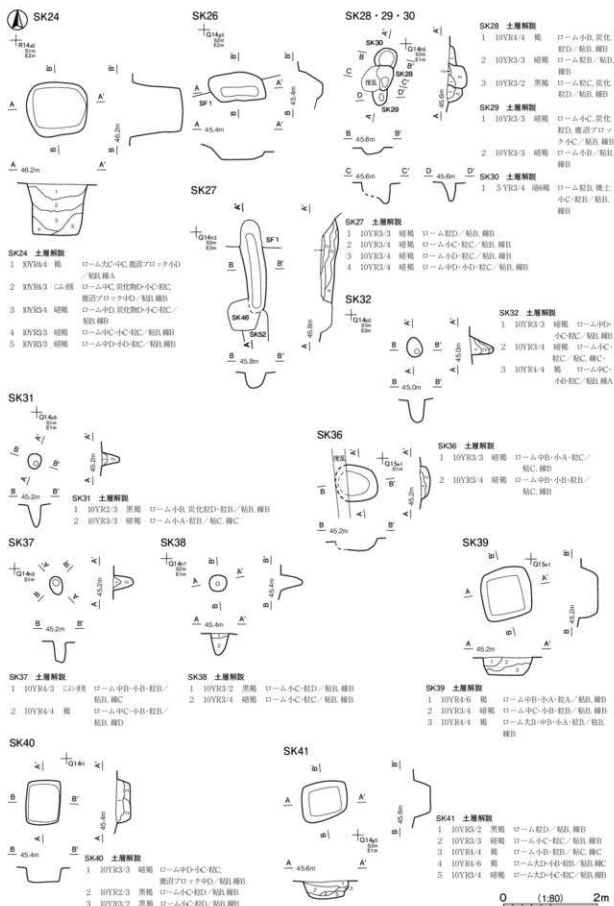
SK44 土層解説

- 1 10YR4/3 Ⅱa層 ローム小C-粒B/粘B、礫B
- 2 10YR3/4 暗層 ローム大D-中C-小C-粒C/粘B、礫B

SK45 土層解説

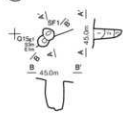
- 1 10YR4/3 Ⅱa層 ローム大D-中C-小C-粒B/粘B、礫B
- 2 10YR4/4 層 ローム大C-中B-小B-粒B/粘B、礫B
- 3 10YR4/3 Ⅱa層 ローム中D-小C-粒B/粘B、礫B

0 (1:30) 2m



第 177 図 その他の土坑実測図 (3)

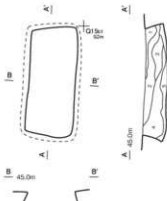
SK42



SK42 土層解説

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム小D-粒D、重沼パミス粒D、粘B、粘C
- 2 10YR3-4 暗褐色 ローム小D-粒D、重沼パミス粒D、粘B、粘C
- 3 10YR4-4 黒 ローム粒B、粘B、粘C

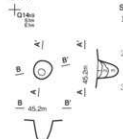
SK43



SK43 土層解説

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム中D-小D-粒C、重沼ブロック小D、粘B、粘C
- 2 10YR3-4 暗褐色 ローム中D-小C-粒C、粘B、粘C
- 3 10YR4-4 黒 ローム中D-小C-粒A、粘B、粘C
- 4 10YR3-2 黒褐色 ローム大D-中D-小D-粒D、重沼ブロック小D、粘B、粘C
- 5 10YR4-6 黒 ローム中D-粒A、粘B、粘C

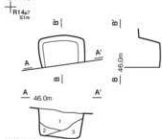
SK47



SK47 土層解説

- 1 10YR4-4 黒 ローム小B-粒C、砂粒D、粘B、粘C
- 2 10YR3-4 暗褐色 ローム小B-粒B、砂粒D、粘B、粘C
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム小C-粒C、粘C、粘C

SK48



SK48 土層解説

- 1 10YR4-3 黒褐色 ロームA-C-中C-小C-粒B、重沼パミス中C、粘B、粘B
- 2 10YR3-4 暗褐色 ローム中D-小D-粒C、粘B、粘C
- 3 10YR3-4 暗褐色 ローム中C-小C-粒C、重沼パミス中C、粘B、粘B

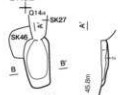
SK50



SK50 土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム大D-中D-小C-粒C、重沼ブロック中D、粘B、粘B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中D-粒D、重沼ブロック中D、粘B、粘B

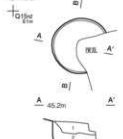
SK52



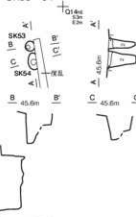
SK52 土層解説

- 1 10YR4-4 黒 ローム小D-粒D、粘B、粘C
- 2 10YR4-6 黒 ローム中D-小D-粒C、粘B、粘B

SK56



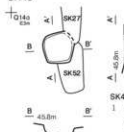
SK53・54



SK56 土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム小C-粒B、重沼ブロック小D、粘B、粘B
- 2 10YR2-3 黒褐色 ローム中C-小B、重沼ブロック中C、粘B、粘C

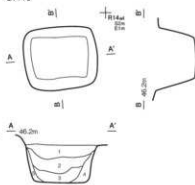
SK46



SK46 土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム大D-中D-小C-粒C、重沼ブロック中D、粘B、粘B

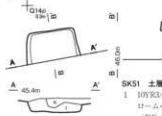
SK49



SK49 土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム中D-小C-粒B、粘B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム大D-中C-粒C、重沼ブロック中D、粘B
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム大D-中C-粒C、重沼ブロック中D、粘B
- 4 10YR3-3 暗褐色 ローム中D-小C-粒C、粘B、粘C
- 5 10YR3-3 暗褐色 ローム大D-中C-小C-粒B、粘B

SK51



SK51 土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム小C-粒B、粘B、粘B

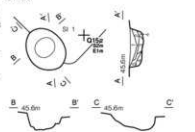
SK53 土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム小D-粒D、粘B、粘B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中D-小D-粒D、粘B、粘B

SK54 土層解説

- 1 10YR2-4 暗褐色 ローム粒D、粘B、粘B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中D-小D、粘B、粘B

SK55

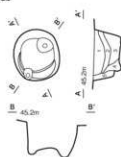


SK55 土層解説

- 1 10YR2-2 黒褐色 ローム粒C、炭化粒D、粘B、粘B
- 2 10YR3-2 黒褐色 ローム小C、粘B、粘B
- 3 10YR3-2 黒褐色 ローム小D、粘B、粘B
- 4 10YR2-3 黒褐色 ローム中C、粘B、粘B
- 5 10YR3-3 暗褐色 ローム中D、粘B、粘B

0 (1:90) 2m

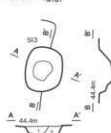
SK57



SK57 土層解説

- 1 10YR3/3 黒炭 ローム中D、焼土粒D、炭化粒D、粘土、礫B
- 2 10YR3/2 黒炭 ロームA粒D、粘土、礫B
- 3 10YR3/2 暗褐色 ローム中D、粘土、礫B
- 4 10YR3/2 黒炭 ロームA粒D、粘土、礫B
- 5 10YR3/3 暗褐色 ローム中D、粘土、礫B

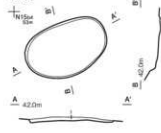
SK58



SK58 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中D、焼土粒D、炭化粒D、粘土、礫B
- 2 10YR4/4 黒炭 ローム小粒、粘土、礫B

SK60



SK60 土層解説

- 1 10YR4/4 黒炭 ローム小粒、粘土、礫B

SK59



SK59 土層解説

- 1 10YR3/2 黒炭 ロームA粒D、焼土粒D、炭化粒D、粘土、礫B
- 2 10YR3/2 黒炭 炭化粒D、粘土、礫B
- 3 25YR6/6 赤褐色 焼土粒A、粘土、礫A

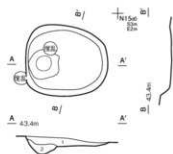
SK61



SK61 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒、粘土、礫B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ロームA粒D、粘土、礫B

SK62



SK62 土層解説

- 1 10YR2/2 黒炭 ローム小粒、粘土、礫B
- 2 10YR2/2 黒炭 ローム中D、粘土、礫B

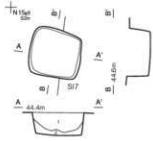
SK65・66



SK65 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒、粘土、礫B
- 2 10YR4/4 黒炭 ローム中D、粘土、礫B

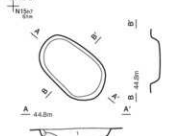
SK67



SK67 土層解説

- 1 10YR3/2 黒炭 ローム中C、焼土粒D、粘土、礫B
- 2 10YR3/2 黒炭 ローム小粒、粘土、礫B

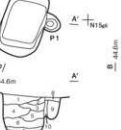
SK68



SK68 土層解説

- 1 10YR4/4 暗褐色 ローム中D、粘土、礫B
- 2 10YR4/4 黒炭 ローム小粒、粘土、礫B

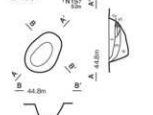
SK71



SK71 土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小粒、粘土、礫B
- 2 10YR4/4 黒炭 ローム中D、粘土、礫B
- 3 10YR3/2 黒炭 ローム小粒、粘土、礫B
- 4 10YR4/4 黒炭 ローム中D、粘土、礫B
- 5 10YR3/3 暗褐色 ローム中D、粘土、礫B
- 6 10YR3/3 暗褐色 ローム中D、粘土、礫B
- 7 10YR4/6 黒炭 ローム中粒A、粘土、礫B
- 8 10YR4/4 黒炭 ローム粒B、粘土、礫B
- 9 10YR3/2 黒炭 ローム中D、粘土、礫B
- 10 10YR3/4 暗褐色 ローム粒B、粘土、礫B

SK69



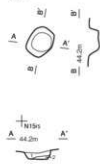
SK69 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒、粘土、礫B
- 2 10YR4/6 黒炭 焼土粒A、炭化粒D、粘土、礫B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム粒B、焼土粒D、炭化粒D、粘土、礫B
- 4 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒、粘土、礫B
- 5 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒、粘土、礫B

第179図 その他の土坑実測図(5)

0 (1:80) 2m

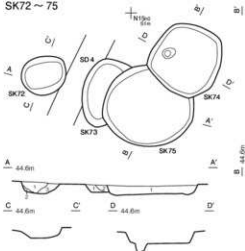
SK70



SK70 土層解説

- 10YR2/2 黒層 ローム小D-粒C、炭酸化粒C、粘B、礫B
- 10YR3/2 黒層 ローム中C-小C、粘B、礫B

SK72 ~ 75



SK72 土層解説

- 10YR3/3 暗褐色 ローム小C、粘B、礫B
- 10YR3/3 暗褐色 ローム小B、粘B、礫B
- 10YR3/3 暗褐色 ローム小C、炭渣アロック粒C、粘B、礫B

SK73 土層解説

- 10YR3/3 暗褐色 ローム小C、粘B、礫B
- 10YR3/2 黒層 ローム小C-粒C、焼土粒D、粘B、礫B

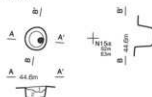
SK74 土層解説

- 10YR3/2 黒層 ローム小C-粒B、粘B、礫B
- 10YR2/3 暗褐色 ローム小C-粒C、粘B、礫B
- 10YR3/2 暗褐色 ローム小B-粒B、粘B、礫B
- 10YR3/2 暗褐色 ローム中C-小C、粘B、礫B
- 10YR2/3 暗褐色 ローム小C-粒D、焼土粒D、粘B、礫B

SK75 土層解説

- 10YR3/1 黒層 ローム中C-小C、粒B、粘B、礫B

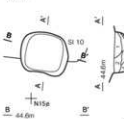
SK76



SK76 土層解説

- 10YR3/3 暗褐色 ローム小C-粒B、粘B、礫B
- 10YR3/4 暗褐色 ローム中B-小A-粒A、粘B、礫B
- 10YR4/4 暗褐色 ローム中A-小A-粒A、粘B、礫B

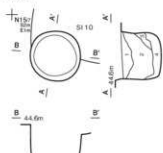
SK77



SK77 土層解説

- 10YR3/4 暗褐色 ローム中D-小C-粒B、粘B、礫B
- 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小C-粒B、粘B、礫B
- 10YR3/3 暗褐色 ローム小A、炭酸化粒B、粘B、礫B
- 10YR3/4 暗褐色 ローム小D-小B-粒B、粘B、礫B

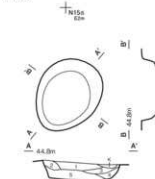
SK78



SK78 土層解説

- 10YR3/2 暗褐色 ローム小C-粘B、礫B
- 10YR3/2 暗褐色 ローム小A、粘B、礫B
- 10YR3/3 暗褐色 ローム中D-小C、粘B、礫B
- 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小C、粘B、礫B

SK80



SK80 土層解説

- 10YR3/2 暗褐色 ローム小C-粒C、粘B、礫B
- 10YR3/2 暗褐色 ローム小C-粒B、炭酸化粒D、粘B、礫B
- 10YR2/3 暗褐色 ローム中D-小C、粘B、礫B
- 10YR3/2 暗褐色 ローム小C、炭酸化粒D、粘B、礫B
- 10YR3/2 暗褐色 ローム小C-粒C、炭酸化粒D、粘B、礫B

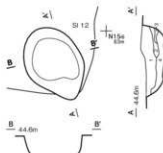
SK81



SK81 土層解説

- 10YR3/3 暗褐色 ローム小A、炭酸化粒D、粘B、礫B
- 10YR3/3 暗褐色 ローム小C、粘B、礫B
- 10YR3/3 暗褐色 ローム小A、粘B、礫B
- 10YR3/4 暗褐色 ローム小A、粘B、礫B

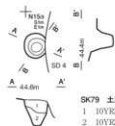
SK82



SK82 土層解説

- 10YR2/3 暗褐色 ローム粒B、炭酸化粒D、粘B、礫B
- 10YR2/3 暗褐色 ローム小C、粘B、礫B
- 10YR3/2 暗褐色 ローム粒C、粘B、礫B
- 10YR3/2 暗褐色 ローム小A、炭渣アロック小D、粘B、礫B

SK79

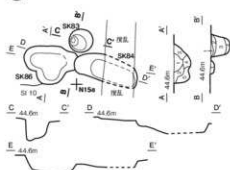


SK79 土層解説

- 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小C-粒B、粘B、礫B
- 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小C-粒C、粘B、礫B

0 (1:80) 2m

SK83・84・86



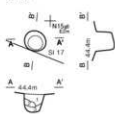
SK83 土層解説

- 1 10Y32 2 黒炭 ローム小C・粒C、炭化粒D、粘丸、雑A
- 2 10Y34 4 暗炭 ローム小B、粘丸、雑B
- 3 10Y33 4 暗炭 ローム小C粒B、炭化粒C、粘丸、雑B
- 4 10Y34 4 暗炭 ローム小C粒B、粘丸、雑B

SK84 土層解説

- 1 10Y33 3 暗炭 ローム小C、粘丸、雑B

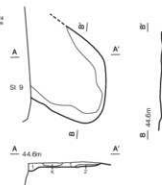
SK85



SK85 土層解説

- 1 10Y32 2 黒炭 ローム小C・粒C、炭化粒D、粘丸、雑B
- 2 10Y32 2 黒炭 ローム小C、粘丸、雑B
- 3 10Y32 2 黒炭 ローム小B、粘丸、雑B

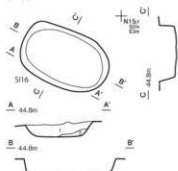
SK88



SK88 土層解説

- 1 10YB4 4 暗炭 ローム小C・粒A、炭化粒D、粘丸、雑B
- 2 10YB4 6 暗炭 ローム小B・粒A、炭化粒D、粘丸、雑B

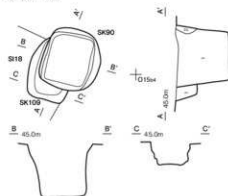
SK89



SK89 土層解説

- 1 10YB2 2 黒炭 ローム小D・粒C、炭化粒C、粘丸、雑B
- 2 10YB3 2 黒炭 ローム中C・小C、粘丸、雑B

SK90・109



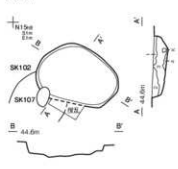
SK90 土層解説

- 1 10Y32 2 黒炭 ロームB、粘丸、雑C
- 2 10Y32 3 暗炭 ローム小C・粒C、粘丸、雑C

SK109 土層解説

- 1 10Y34 4 暗炭 ローム小C・粒C、粘丸、雑C

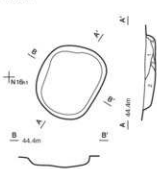
SK91



SK91 土層解説

- 1 10Y33 3 暗炭 ローム粒C、粘丸、雑B
- 2 10Y33 3 暗炭 ローム小C・粒C、炭化粒D、粘丸、雑B
- 3 10Y32 2 黒炭 ローム小C・粒C、粘丸、雑B
- 4 10Y32 2 黒炭 ローム小C、炭化粒D、粘丸、雑B

SK93



SK93 土層解説

- 1 10YB3 2 黒炭 ローム小C・粒B、炭化粒C、粘丸、雑B
- 2 10YB3 2 黒炭 ローム小C・粒C、炭化粒D、粘丸、雑B
- 3 10YB3 2 黒炭 ローム小B、粘丸、雑B
- 4 10YB4 4 暗炭 ローム小A、粘丸、雑B

SK94・117



SK94 土層解説

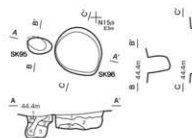
- 1 10Y33 3 暗炭 ローム粒C、炭化粒D、粘丸、雑B
- 2 10Y34 4 暗炭 ローム小C、炭化粒D、粘丸、雑B
- 3 10Y32 2 黒炭 ローム小C、粘丸、雑B
- 4 10Y34 4 暗炭 ローム小C・粒B、粘丸、雑B
- 5 10Y33 3 暗炭 ローム粒C、粘丸、雑B

SK117 土層解説

- 1 10Y32 2 黒炭 ローム中C・小C、粘丸、雑C

0 (1:80) 2m

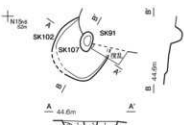
SK95 - 96



- SK95 土層解説**
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C/粘土、緑A
 - 2 10YR4/4 黒 ローム小B/粘土、緑B
 - 3 10YR4/4 黒 ローム中C/小B/粘土、緑B

- SK96 土層解説**
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小C/粘土、緑B
 - 2 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘土、緑B
 - 3 10YR3/2 黒褐 ローム中C/小B/粘土、緑C

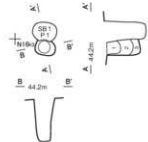
SK102・107



- SK102 土層解説**
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C-粒B/粘土、緑A
 - 2 10YR3/2 黒褐 ローム小C-粒B/黒活アロックス小D/粘土、緑B
 - 3 10YR3/3 暗褐 ローム小B-粒B/粘土、緑B
 - 4 10YR4/4 暗褐 ローム中C-小B/粘土、緑B

- SK107 土層解説**
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小D-粒C/粘土、緑B
 - 2 10YR3/4 黒褐 ローム小D-粒B/粘土、緑B
 - 3 10YR3/2 黒褐 ローム中C-粒C/粘土、緑B

SK104

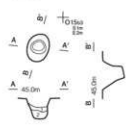


- SK104 土層解説**
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒D/粘土、緑B
 - 2 10YR3/2 黒褐 ローム小C/粘土、緑C
 - 3 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘土、緑B

SK107 土層解説

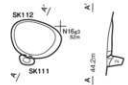
- SK107 土層解説**
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒D/粘土、緑B
 - 2 10YR3/2 黒褐 ローム小C/粘土、緑C
 - 3 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘土、緑B

SK108



- SK108 土層解説**
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘土、緑B
 - 2 10YR3/3 暗褐 ローム小C/粘土、緑B

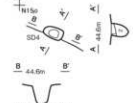
SK111・112



- SK111 土層解説**
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム粒C/粘土、緑B
 - 2 10YR3/3 暗褐 ローム粒D/炭化粒D/粘土、緑B

- SK112 土層解説**
- 1 10YR3/2 黒褐 炭化粒C/粘土小A/緑A、緑A

SK97



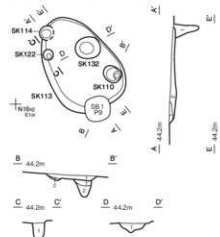
- SK97 土層解説**
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小B-粒C/炭化粒D、黒活アロックス小C/粘土、緑B、緑B
 - 2 10YR3/3 暗褐 ローム小B-粒B、黒活アロックス小B/粘土、緑B

SK100



- SK100 土層解説**
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小C-粒C/粘土、緑B

SK110・113・114・122・132



- SK110 土層解説**
- 1 10YR3/4 暗褐 ローム粒D/粘土、緑B
 - 2 10YR3/4 暗褐 ローム粒B/粘土、緑B

- SK113 土層解説**
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小D-粒C/粘土、緑A
 - 2 10YR3/3 暗褐 ローム小C-粒C/粘土、緑A

- SK114 土層解説**
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小C-粒C/粘土、緑C

- SK122 土層解説**
- 1 10YR3/4 暗褐 ローム粒C/粘土、緑C

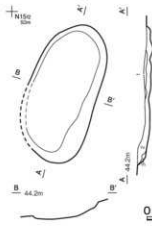
- SK132 土層解説**
- 1 10YR3/4 暗褐 ローム粒C/粘土、緑B

SK115



- SK115 土層解説**
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒B、黒活アロックス粒D/粘土、緑C

SK119



- SK119 土層解説**
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム粒B、炭化粒D、粘土、緑B
 - 2 10YR4/4 黒 ローム中C-小粒A、黒活アロックス小C-粒C/粘土、緑B
 - 3 10YR4/4 黒 ローム中B-小粒A、粘土、緑B

第 182 図 その他の土坑実測図 (8)

SK120・121



SK120 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 3 10YR3/4 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層

SK121

SK121 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層

SK125

SK125 土層解説

- 1 10YR4/4 黒色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層



SK125 土層解説

- 1 10YR4/4 黒色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層

SK129

SK129 土層解説

- 1 10YR6/6 黒色 ローム粒・黄土粒・粘土・腐植層
- 2 10YR6/6 黒色 ローム粒・黄土粒・粘土・腐植層
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・黄土粒・砂・粘土・腐植層
- 4 10YR3/4 暗褐色 ローム小粒・黄土粒・砂・粘土・腐植層



SK133

SK133 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR4/6 黒色 ローム粒・砂・粘土・腐植層

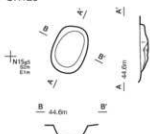


SK133 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR4/6 黒色 ローム粒・砂・粘土・腐植層

第 183 図 その他の土坑実測図 (9)

SK123



SK123 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層

SK125

SK125 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層



SK125 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒・黄土粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR6/6 黒色 ローム小粒・黄土粒・砂・粘土・腐植層
- 3 10YR3/4 暗褐色 ローム小粒・黄土粒・砂・粘土・腐植層

SK130・131

SK130 土層解説

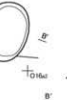
- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層



SK134

SK134 土層解説

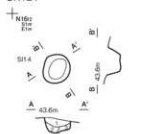
- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 3 10YR3/4 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 4 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 5 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層



SK134 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 3 10YR3/4 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 4 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 5 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層

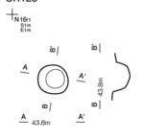
SK124



SK124 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層

SK128



SK128 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒・砂・粘土・腐植層

SK130

SK130 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層



SK135

SK135 土層解説

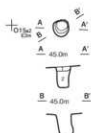
- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム粒・黄土粒・砂・粘土・腐植層
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム粒・黄土粒・砂・粘土・腐植層



SK135 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小粒・砂・粘土・腐植層
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム粒・黄土粒・砂・粘土・腐植層
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム粒・黄土粒・砂・粘土・腐植層

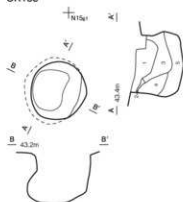
SK137



SK137 土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム小C/粘土、礫B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム小D-粒C、産渣アロクック小C/粘土、礫B

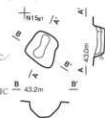
SK138



SK138 土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム粒C、炭化粒C/粘土、礫C
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム粒B、炭化物B-粒A/粘土、礫C
- 3 10YR3-2 黒褐色 ローム小C-粒C/粘土、礫C
- 4 10YR4-4 黒褐色 ローム粒A/粘土、礫C
- 5 10YR4-6 黒褐色 ローム中C-小C-粒A/粘土、礫C

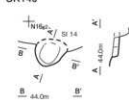
SK139



SK139 土層解説

- 1 7.5YR3-3 暗褐色 焼土粒B、炭化粒C/粘土、礫C
- 2 7.5YR3-4 暗褐色 ローム小C-粒B、炭化粒D/粘土、礫C

SK140



SK140 土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム中C-小C-粒C/粘土、礫B、礫B

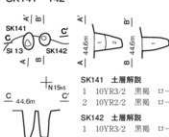
SK143



SK143 土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム小C-粒C/粘土、礫B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中C-小B/粘土、礫B

SK141・142



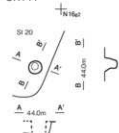
SK141 土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム粒C/粘土、礫B
- 2 10YR3-2 黒褐色 ローム小C、産渣アロクック小C/粘土、礫B、礫C

SK142 土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム小D/粘土、礫C

SK144



SK144 土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム粒C/粘土、礫B

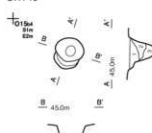
SK145



SK145 土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム小D-粒C/粘土、礫B
- 2 10YR3-4 暗褐色 ローム中C-小B-粒B/粘土、礫B
- 3 10YR3-2 黒褐色 ローム中D-小C-粒C/粘土、礫B
- 4 10YR3-3 暗褐色 ローム小C-粒B/粘土、礫B

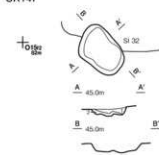
SK146



SK146 土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム粒C/粘土、礫B
- 2 10YR3-4 暗褐色 ローム中C-小B-粒B/粘土、礫C
- 3 10YR4-4 黒褐色 ローム大C-中B-小B-粒A/粘土、礫C

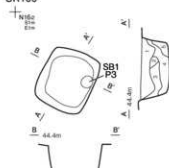
SK147



SK147 土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム粒C、焼土粒D/粘土、礫C
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム小C-粒B、焼土小C-粒C/粘土、礫B

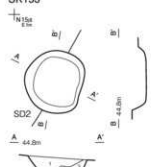
SK150



SK150 土層解説

- 1 7.5YR5-2 灰褐色 ローム中C-小D-粒B、産渣アロクック小D-産渣アロクック小D/粘土、礫B
- 2 7.5YR6-4 暗褐色 ローム中A、産渣アロクック中D/粘土、礫B
- 3 7.5YR4-4 黒褐色 ローム中C-小B、産渣アロクック小D/粘土、礫C
- 4 7.5YR4-3 暗褐色 産渣アロクック小D/粘土、礫B
- 5 7.5YR4-3 暗褐色 ローム中D-小C/粘土、礫C

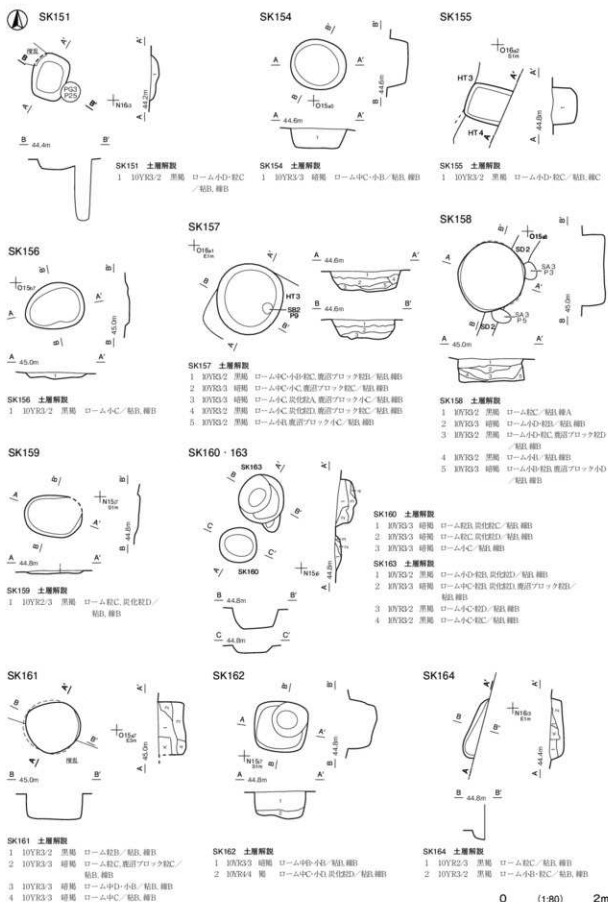
SK153



SK153 土層解説

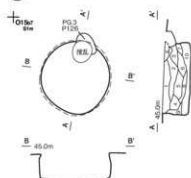
- 1 10YR3-2 暗褐色 ローム中C-小B、産渣アロクック小C-粒C/粘土、礫B
- 2 10YR3-2 暗褐色 ローム小C-粒C/粘土、礫B

0 (1:90) 2m



第185図 その他の土坑実測図(11)

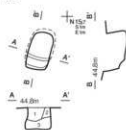
SK165



SK165 土層解説

- 1 10YR4 Ⅲ 掘 ローム中D・小C・粘土状粒D / 粘B, 粘C
- 2 10YR2 Ⅲ 掘 ローム中D・小C・粘C / 粘B, 粘C
- 3 10YR6 Ⅲ 掘 ローム小砂粒D / 粘B, 粘C
- 4 10YR5 Ⅲ 掘 ローム小砂粒A / 粘B, 粘C
- 5 10YR4 Ⅲ 掘 ローム中C・粘C / 粘B, 粘C
- 6 10YR2 Ⅲ 掘 ローム中C・小C・粘C / 粘B, 粘C
- 7 10YR4 Ⅲ 掘 ローム粘B / 粘B, 粘C
- 8 10YR3 Ⅲ 掘 ローム小C・粘B / 粘B, 粘C
- 9 10YR6 Ⅲ 掘 ローム中D・小C・粘B / 粘B, 粘C
- 10 10YR2 Ⅲ 掘 ローム中C・小C・粘B / 粘B, 粘C

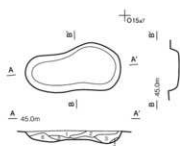
SK166



SK166 土層解説

- 1 10YR2 Ⅲ 掘 ローム中C・小D・粘B / 粘B, 粘C
- 2 10YR2 Ⅲ 掘 ローム小砂粒D / 粘B, 粘C
- 3 10YR2 Ⅲ 掘 ローム中C・小D・粘B / 粘B, 粘C

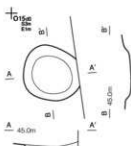
SK167



SK167 土層解説

- 1 10YR4 Ⅲ 掘 ローム中D・小C・粘A / 粘B, 粘C
- 2 10YR3 Ⅲ 掘 ローム中D・小C・粘A / 粘B, 粘C
- 3 10YR3 Ⅲ 掘 ローム中C・粘B / 粘B, 粘C
- 4 10YR2 Ⅲ 掘 ローム中C・粘B / 粘B, 粘C
- 5 10YR4 Ⅲ 掘 ローム中D・小C・粘A / 粘B, 粘C
- 6 10YR3 Ⅲ 掘 ローム中D・小C・粘A / 粘B, 粘C

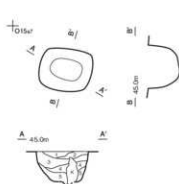
SK169



SK169 土層解説

- 1 10YR3 Ⅲ 掘 ローム中C・小C・粘B / 粘B, 粘C

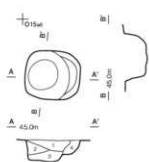
SK170



SK170 土層解説

- 1 10YR3 Ⅲ 掘 ローム小D・粘C / 粘B, 粘C
- 2 10YR4 Ⅲ 掘 ローム小D・粘B / 粘B, 粘C
- 3 10YR3 Ⅲ 掘 ローム中D・小C・粘B / 粘B, 粘C
- 4 10YR2 Ⅲ 掘 ローム小C・粘C / 粘B, 粘C
- 5 10YR3 Ⅲ 掘 ローム中B / 粘B, 粘C

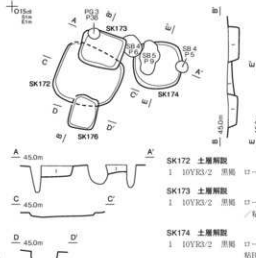
SK171



SK171 土層解説

- 1 10YR4 Ⅲ 掘 ローム中C・小C・粘B / 粘B, 粘C
- 2 10YR3 Ⅲ 掘 ローム中D・小砂粒A / 粘B, 粘C
- 3 10YR4 Ⅲ 掘 ローム中B・粘A / 粘B, 粘C
- 4 10YR4 Ⅲ 掘 ローム中B・小A・粘A / 粘B, 粘C

SK172 ~ 174・176



SK172 土層解説

- 1 10YR3 Ⅲ 掘 ローム中C・粘C / 粘B, 粘C

SK173 土層解説

- 1 10YR3 Ⅲ 掘 ローム中D・小C・粘B / 粘B, 粘C

SK174 土層解説

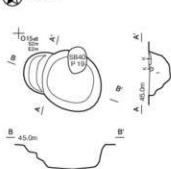
- 1 10YR3 Ⅲ 掘 ローム小D・粘C / 粘B, 粘C

SK176 土層解説

- 1 10YR3 Ⅲ 掘 ローム中C・小C・粘B / 粘B, 粘C

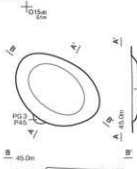
0 (1:90) 2m

SK177



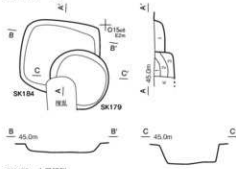
SK177 土層解説
1 10Y3/3 暗黒 ローム中C-小B/粘土、礫B

SK178



SK178 土層解説
1 10Y3/2 黒黒 ローム小C-粒C/粘土、礫B

SK179・184



SK179 土層解説
1 10Y3/2 黒黒 ローム粒C、粘土ブロック小C/粘土、礫B
2 10Y3/2 黒黒 ローム中D-小C-粒C/粘土、礫B
3 10Y3/3 暗黒 ローム中C-小B-粒B/粘土、礫B

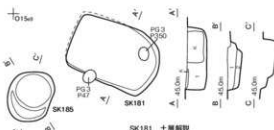
SK184 土層解説
1 10Y3/4 暗黒 ローム大D+中C-小C-粒B/粘土、礫B

SK180



SK180 土層解説
1 10Y3/3 暗黒 ローム小B-粒A、炭化粒D/粘土、礫B
2 10Y3/3 暗黒 ローム中C-小C/粘土、礫B

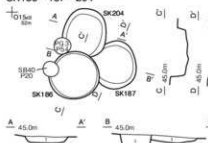
SK181・185



SK181 土層解説
1 10Y3/4 暗黒 ローム小A-粒B、炭化粒D/粘土、礫B

SK185 土層解説
1 10Y3/3 暗黒 ローム大D+中C-小C-粒B/粘土、礫B
2 10Y3/3 暗黒 ローム中C-小C-粒B、焼土小D/粘土、礫B

SK186・187・204

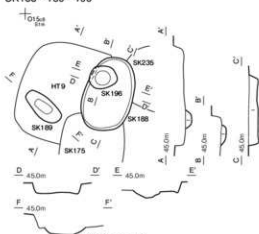


SK186 土層解説
1 10Y3/3 暗黒 ローム小B-粒B、炭化粒C/粘土、礫B

SK187 土層解説
1 10Y3/3 暗黒 ローム大D+中C-小C-粒B/粘土、礫B

SK204 土層解説
1 10Y3/2 黒黒 ローム中C-小C-粒B、炭化粒C、焼土質炭粒小C/粘土、礫B

SK188・189・196



SK188 土層解説
1 10Y3/3 暗黒 ローム中C-小D+粒C、焼土粒C、炭化粒D/粘土、礫B

SK189 土層解説
1 10Y3/3 暗黒 ローム中C-小C/粘土、礫B

SK196 土層解説
1 10Y3/3 暗黒 ローム大D+中C-小C-粒B/粘土、礫B

SK190



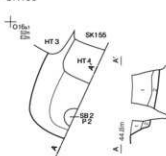
SK190 土層解説
1 10Y3/3 暗黒 ローム小C-粒C、炭化粒D/粘土、礫B

SK193



SK193 土層解説
1 10Y3/3 暗黒 ローム小B-粒B/粘土、礫B

SK195



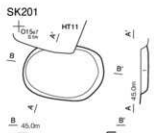
SK195 土層解説
1 10Y3/3 暗黒 ローム小C-粒D/粘土、礫B
2 10Y3/3 暗黒 ローム中C-小C/粘土、礫B

0 (1:80) 2m

第187図 その他の土坑実測図(13)



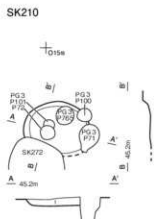
SK197 土層解説
1 10YR4/3 に近い赤褐色 ローム粒C/粘土、雑A



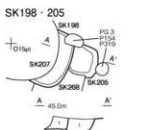
SK201 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・小D・粒C、炭化粒C、
炭質アロクタイト・粘土、雑B



SK206 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・小D・粒D/
粘土、雑B

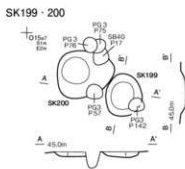
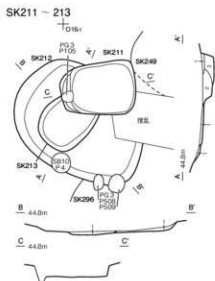
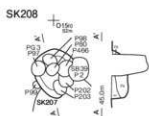
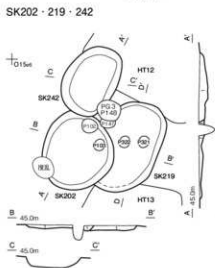


SK210 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C/粘土、雑B



SK198 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム小D・粒D、粘土、
アロクタイトC/粘土、雑C

SK205 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小D・粒A/
粘土、雑C



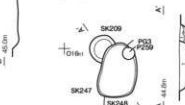
SK199 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・小D、炭質アロクタイトD/
粘土、雑B

SK200 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム小C・粒D/粘土、雑B

SK202 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粒B、炭化粒B/
粘土、雑B

SK219 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C/粘土、雑B

SK242 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・粒B、炭化粒C/
粘土、雑B



SK209 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム粒D、粘土アロクタイトD/
粒D/粘土、雑B
2 10YR4/3 赤褐色 ローム中D、粘土アロクタイト小D/
粒D/粘土、雑B

SK247 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C、粘土アロクタイトC/
粘土、雑B

SK208 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・粒C、炭化粒D、粘土、雑B
2 10YR4/2 黒褐色 粘土アロクタイトD/粘土、雑B

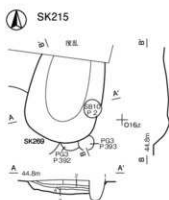


SK211 土層解説
1 10YR3/2 赤褐色 ローム中C・小C/粘土、雑A
2 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・小D、炭化粒C/粘土、雑A
3 10YR3/3 暗褐色 ローム中A・小B/粘土、雑A

SK212 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・粒C/粘土、雑C

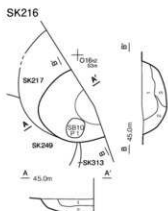
SK213 土層解説
1 10YR4/4 暗褐色 ローム小C・粒C/粘土、雑C

0 (1:80) 2m



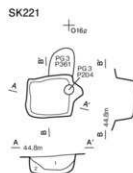
SK215 土層解説

- 1 10YR4/3 ㊦土層 ローム粒B、凝灰質泥岩中D' / 粘土ブロック中D'中C / 粘A、粘D
- 2 10YR7/1 灰白 粘土ブロック中A / 粘A、粘A
- 3 10YR4/3 ㊦土層 粘土ブロック中C / 粘A、粘B
- 4 10YR7/1 灰白 粘土ブロック中A / 粘A、粘A



SK216 土層解説

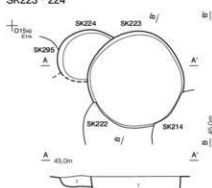
- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小D-粒C、粘土ブロック粒D / 粘B、粘B
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム小D-粒C、粘土ブロック中C-粒B / 粘B、粘B
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム小D-粒C、粘土ブロック粒C / 粘B、粘B



SK221 土層解説

- 1 10YR2/1 黒 ローム中D-小D-粒B / 粘B、粘B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小D-粒B / 粘B、粘B

SK223 - 224



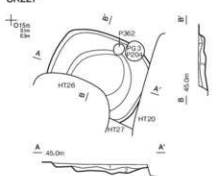
SK223 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小C-粒C / 粘B、粘B

SK224 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C-小B-粒B / 粘B、粘B

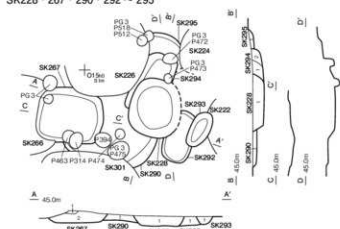
SK227



SK227 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒C / 粘B、粘B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒、凝灰質ブロック小B / 粘B、粘A

SK228 - 267 - 290 - 292 ~ 295



SK228 土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム中C-小C-粒B、焼土粒D、炭化粒D / 粘B、粘B

SK267 土層解説

- 1 10YR7/2 ㊦土層 白色粘土ブロック大A' / 粘A、粘A
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小C-粒B / 炭化物D / 粘B、粘B

SK290 土層解説

- 1 10YR4/3 ㊦土層 ローム中D-小D-粒B、炭化物D / 粘B、粘B

SK292 土層解説

- 1 10YR4/4 黒褐色 ローム中C-小B-粒B、炭化粒D / 粘B、粘A

SK293 土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム中D-小C-粒C、焼土粒D / 粘B、粘B

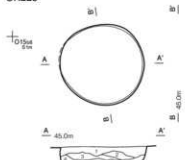
SK294 土層解説

- 1 10YR4/3 ㊦土層 ローム中C-小B-粒A、焼土粒D、炭化粒D / 粘B、粘A
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小B-粒B / 粘B、粘B

SK295 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C-小C-粒B / 粘B、粘B

SK229



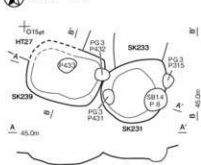
SK229 土層解説

- 1 10YR4/6 黒褐色 ローム大C-中D-小B-粒A、焼土粒D、炭化物D / 粘B、粘A
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 ローム中C-小C-粒B、炭化粒D / 粘B、粘B
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム小D-粒C、焼土粒D、炭化粒D / 粘B、粘B
- 4 10YR4/4 黒褐色 ローム中D-小C-粒B / 粘B、粘B

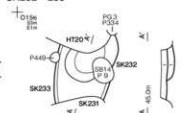
0 (1:80) 2m

第 189 図 その他の土坑実測図 (15)

SK231・239

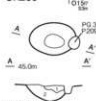


SK232・233



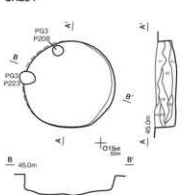
- SK232 土層解説**
1 10YK3-4 暗層 ローム中C・小C・粒B/粘土、礫B
- SK233 土層解説**
1 10YK4-6 暗 ローム大B・中B・小B/粘土、礫C

SK236



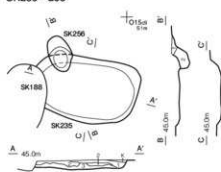
- SK236 土層解説**
1 10YK3-3 土層 ローム小C(泥状)・泥沼
フロック小C・粘土フロック
小C/粘土(細)
2 10YK4-3 土層 ローム粒B/粘土フロック
中A・小A/粘土(細)C

SK234



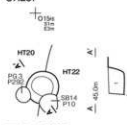
- SK234 土層解説**
1 10YK3-2 黒層 ローム中C・小C・粒C/粘土、礫A
2 10YK4-6 暗 ローム中B・小A・粒A/粘土、礫A
3 10YK4-3 土層 ローム小B・粒A/粘土、礫B
4 10YK3-4 暗層 ローム中C・小B・粒B/粘土、礫B
5 10YK3-2 黒層 ローム小D・粒C/粘土、礫B
6 10YK2-2 黒層 ローム粒C/粘土、礫B
7 10YK3-2 黒層 ローム中D・小D・粒B/粘土、礫B

SK235・256



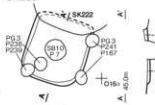
- SK235 土層解説**
1 10YK3-1 暗層 ローム小C・粒B/粘土、礫A
2 10YK4-3 土層 ローム中B・小B・粒A/粘土、礫B
3 10YK4-6 暗 ローム大B・中B・小A・粒A/粘土、礫B
- SK256 土層解説**
1 10YK4-4 黒 ローム小B/粘土、礫B
2 10YK3-3 暗層 ローム中C・小C・黄泥フロック粒D/粘土、礫C

SK237



- SK237 土層解説**
1 10YK3-3 暗層 ローム小C・黄泥フロック
小D/粘土、礫B

SK238



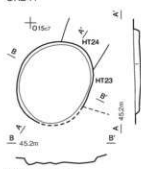
- SK238 土層解説**
1 10YK3-3 暗層 ローム中D・小C・粒B、礫B

SK240



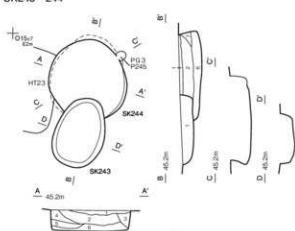
- SK240 土層解説**
1 10YK3-3 暗層 ローム
小B/粘土、礫B

SK241



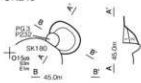
- SK241 土層解説**
1 10YK3-2 黒層 ローム粒B/粘土、礫B

SK243・244



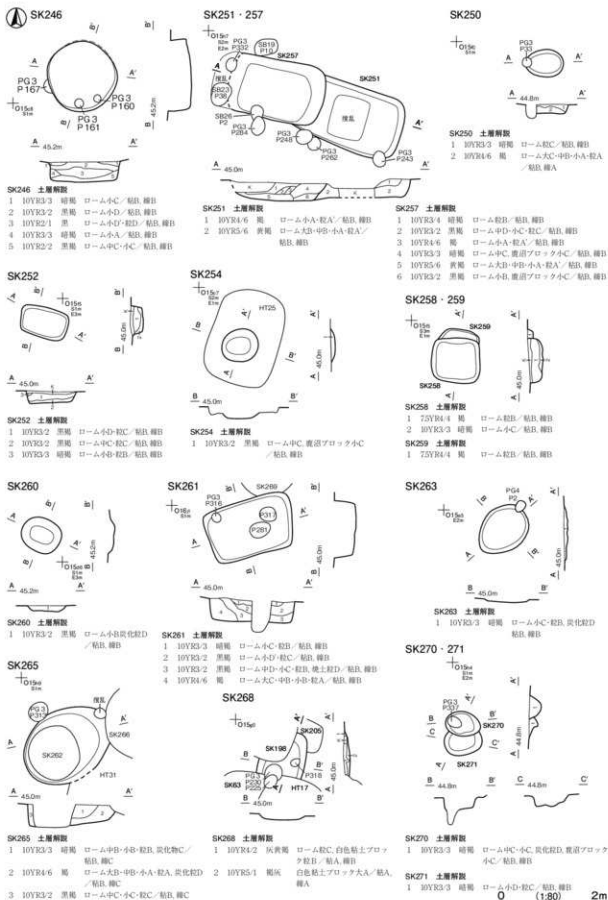
- SK243 土層解説**
1 10YK3-4 暗層 ローム中C・小B・粒B/粘土、礫B
- SK244 土層解説**
1 10YK3-3 暗層 ローム小B・粒C/粘土、礫B
2 10YK2-1 黒 ローム中C・小C/粘土、礫A
3 10YK3-3 暗層 ローム中B・小B/粘土、礫B
4 10YK3-2 黒層 ローム小B・粒B/粘土、礫B
5 10YK3-2 黒層 ローム小C・粒C/粘土、礫B
6 10YK2-1 黒 ローム小B・粒C/粘土、礫B
7 10YK3-3 暗層 ローム中C・小B/粘土、礫B

SK245

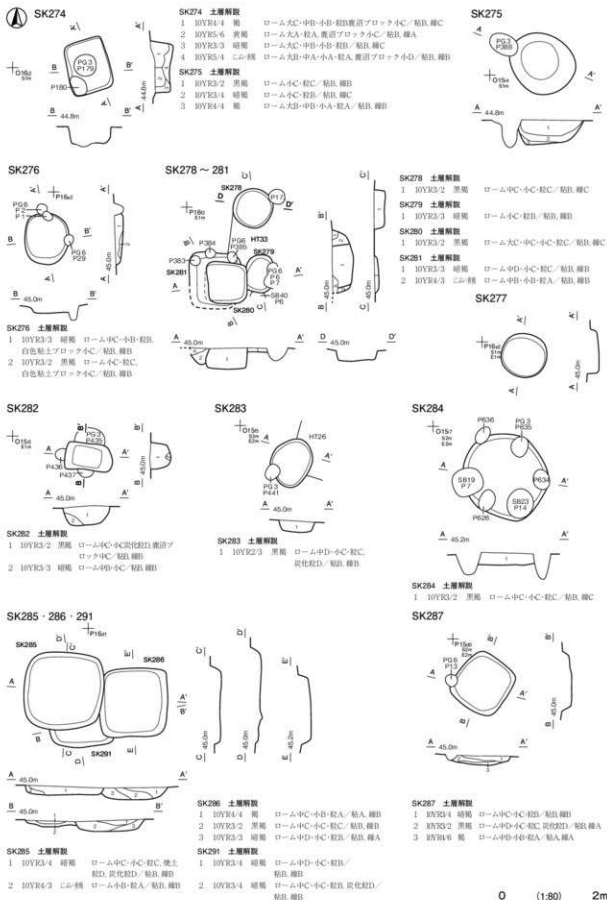


- SK245 土層解説**
1 10YK4-6 暗 ローム小A・粒A/粘土、礫B
2 10YK5-6 黄層 ローム大B・中B・小A・粒A/粘土、礫B

0 (1:80) 2m



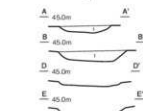
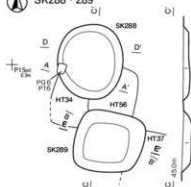
第191図 その他の土坑実測図(17)



0 (1:90) 2m

第192図 その他の土坑実測図(18)

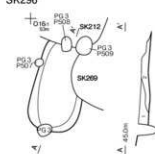
SK288・289



SK288 土層解説
1 10YR3-2 黒褐色 ローム中-C・小-C・粒-C、炭化物D/粘炭、雜土

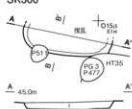
SK289 土層解説
1 10YR3-2 黒褐色 ローム中-C・小-C・粒-C、炭化物D/粘炭、雜土

SK296

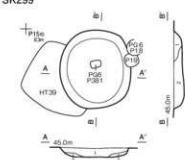


SK296 土層解説
1 10YR3-2 黒褐色 ローム中-C・小-C・粒-C、炭化物D/粘炭、雜土
2 10YR3-4 暗褐色 ローム中-C・小-C・粒-C、炭化物D/粘炭、雜土

SK300



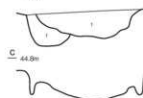
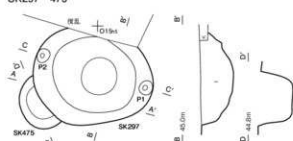
SK299



SK299 土層解説
1 10YR4-3 灰褐色 ローム中-C・小-B・粒-A、炭土粒D、炭化物C、粘土アロックス中-C/粘炭、雜土
2 10YR3-4 暗褐色 ローム中-D・中-C・小-B・粒-B、炭化物D、粘土アロックス中-C/粘炭、雜土
3 10YR3-2 黒褐色 ローム中-C・小-C・粒-C、粘炭、雜土

SK300 土層解説
1 10YR3-3 暗褐色 ローム中-D・小-B、炭化物D/粘炭、雜土

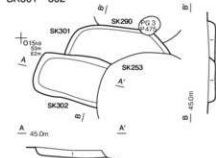
SK297・475



SK297 土層解説
1 10YR3-2 黒褐色 ローム中-D・粒-D、炭化物C/粘炭、雜土

SK475 土層解説
1 10YR3-3 暗褐色 ローム中-D・小-B/粘炭、雜土

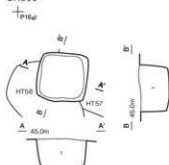
SK301・302



SK301 土層解説
1 10YR3-2 黒褐色 ローム粘炭、黄褐色アロックス中-D/粘炭、雜土

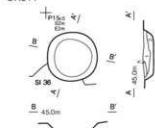
SK302 土層解説
1 10YR3-2 黒褐色 ローム中-C・小-B・粒-B、黄褐色アロックス中-C・粒-B/粘炭、雜土

SK308



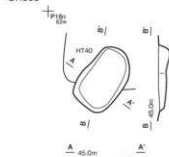
SK308 土層解説
1 10YR3-2 黒褐色 ローム中-C・小-C・粒-C、粘炭、雜土

SK311



SK311 土層解説
1 10YR3-2 黒褐色 ローム中-C・小-C・粒-C/粘炭、雜土
2 10YR3-4 暗褐色 ローム中-C・小-B・粒-B/粘炭、雜土

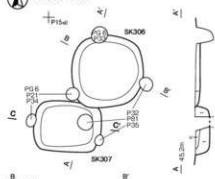
SK303



SK303 土層解説
1 10YR3-3 暗褐色 ローム中-C・小-C・粒-B/粘炭、雜土

0 (1:80) 2m

SK306 - 307



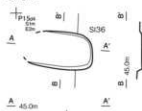
SK306 土層解説

- 1 10YR4/3 褐色 土層 土層大D・中C・小B・粒A / 粒B, 粒D

SK307 土層解説

- 1 10YR4/4 黄 土層 土層中C・小A・粒A / 粒B, 粒D
2 10YR4/3 褐色 土層 土層中D・小A・粒A / 粒B, 粒D

SK312



SK312 土層解説

- 1 10YR4/3 褐色 土層 土層小D・粒A / 粒B, 粒D

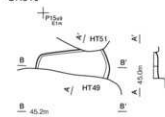
SK314



SK314 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層粒B / 粒D, 粒D
2 10YR3/2 黒黄 土層 土層小C / 粒B, 粒D
3 10YR3/3 暗黄 土層 土層小C・粒C / 粒B, 粒D

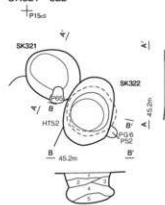
SK315



SK315 土層解説

- 1 10YR2/2 黒黄 土層 土層小C・粒C 炭化物C / 粒B, 粒D

SK321 - 322



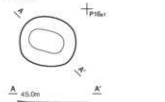
SK321 土層解説

- 1 10YR2/2 黒黄 土層 土層粒A 炭化物D / 粒B, 粒D

SK322 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層小C・粒C 炭化物C / 粒B, 粒D
2 10YR3/3 暗黄 土層 土層小D・小B・粒B / 粒B, 粒D
3 10YR3/2 黒黄 土層 土層小C・粒C / 粒B, 粒D
4 10YR2/2 黒黄 土層 土層小C・粒C 炭化物C / 粒B, 粒D
5 10YR2/2 黒黄 土層 土層小D・小C・粒C / 粒B, 粒D

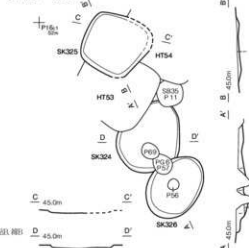
SK327



SK327 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層小C・粒C / 粒B, 粒D
2 10YR2/2 黒黄 土層 土層粒C 炭化物C / 粒B, 粒D
3 10YR3/3 暗黄 土層 土層小C / 粒B, 粒D

SK324 ~ 326



SK324 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層小D・粒C / 粒B, 粒D

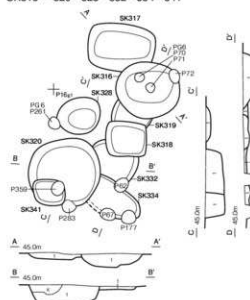
SK325 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層小D・粒C / 粒B, 粒D

SK326 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層小C・粒C 地上粒C 炭化物D / 粒B, 粒A
2 10YR4/6 黄 土層 土層中A / 粒A, 粒A

SK316 ~ 320 · 328 · 332 · 334 · 341



SK316 土層解説

- 1 10YR2/2 黒黄 土層 土層小C・粒C / 粒B, 粒D

SK317 土層解説

- 1 10YR2/2 黒黄 土層 土層小C・粒C / 粒B, 粒D

SK318 土層解説

- 1 10YR2/2 黒黄 土層 土層小C・粒C / 粒B, 粒D

SK319 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層小C・粒C / 粒B, 粒D

SK320 土層解説

- 1 10YR4/6 黄 土層 土層小D・小B・粒A / 粒B, 粒A

SK328 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層小D・小C・粒B / 粒B, 粒D

SK332 土層解説

- 1 10YR4/6 黄 土層 土層小C・粒A / 粒B, 粒D

SK334 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層小C・小C・粒B / 粒B, 粒D

SK341 土層解説

- 1 10YR2/2 黒黄 土層 土層小C・小C・粒C / 粒B, 粒D

SK324 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層小D・粒C / 粒B, 粒D

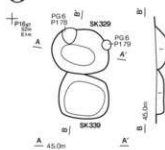
SK325 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層小D・粒C / 粒B, 粒D

SK326 土層解説

- 1 10YR3/3 暗黄 土層 土層小C・小C・粒C 地上粒C 炭化物D / 粒B, 粒A
2 10YR4/6 黄 土層 土層中A / 粒A, 粒A

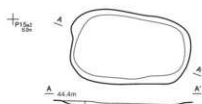
SK329・339



SK329 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム中D-粒C-粒B、細B

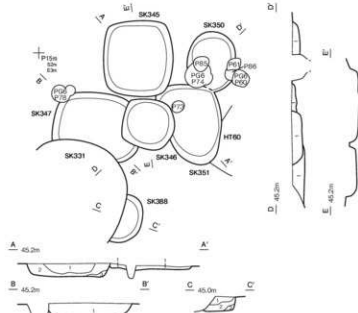
SK339 土層解説
1 10YR4/4 黄 ローム中D-小B-粒A/粒A、細B

SK335



SK335 土層解説
1 10YR2/3 黒褐色 ローム粒B/粒B、細B

SK345 ~ 347・350・351・388

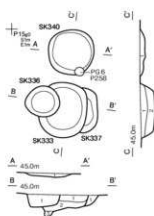


SK345 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小C-粒B、微土粒D、炭化粒D/粒B、細B
2 10YR3/4 暗褐色 ローム中C-粒B/粒B、細B
3 10YR3/2 黒褐色 ローム粒C/粒B、細B

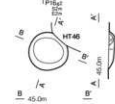
SK346 土層解説
1 10YR4/3 赤褐色 ローム中D-小B-粒D/粒B、細B

SK347 土層解説
1 10YR4/4 黄 ローム中C-小A-粒A/粒B、細B

SK333・336・337・340



SK342



SK342 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小C-粒C/粒B、細B

SK333 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-粒C/粒B、細B
- 2 10YR4/3 赤褐色 ローム粒A、炭渣ブロック粒D/粒B、細B
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム粒D/粒B、細B

SK336 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C-小C-粒C、炭渣ブロック粒D/粒B、細B

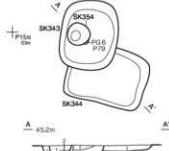
SK337 土層解説

- 1 10YR4/4 黄 ローム中C-粒A/粒B、細B

SK340 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-粒C/粒B、細B

SK343・344・354



SK343 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒B/粒B、細B
- 2 10YR4/3 赤褐色 ローム中D-小C-粒A/粒B、細B

SK344 土層解説

- 1 10YR4/4 黄 ローム中C-小A-粒A/粒B、細B

SK354 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒C/粒B、細B
- 2 10YR2/2 黒褐色 ローム中C-粒C/粒B、細A
- 3 10YR4/4 黄 ローム中C-小C-粒A/粒B、細A

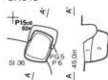
SK348



SK348 土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム粒C、炭化粒D/粒B、細B
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム粒B/粒B、細B
- 3 10YR2/2 黒褐色 ローム中C-粒B、細B
- 4 10YR3/2 黒褐色 ローム粒C/粒B、細B

SK349

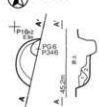


SK349 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C-小C-粒C、炭渣ブロック中D/粒B、細B
- 2 10YR4/4 黄 ローム中C-小B-粒B、炭渣ブロック中C/粒B、細B

0 (1:80) 2m

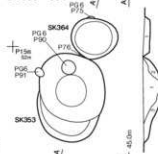
SK352



SK352 土層解説

- 1 10YK3/2 基層 ローム小-C-粒D/粘土・細C
- 2 10YK3/4 暗層 ローム中-C-小-C-粒B/粘土・細B

SK353・364



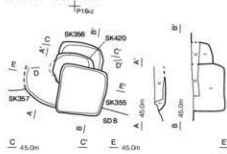
SK353 土層解説

- 1 10YK2/2 基層 ローム小-D-粒D/炭化粒D/粘土・細B
- 2 10YK4/4 暗層 ローム中-D-小-A-粒A/粘土・細B
- 3 10YK4/3 土壌層 ローム小-D-粒B/粘土・細A

SK364 土層解説

- 1 10YK4/4 暗層 ローム中-D-小-C-粒B/粘土・細A

SK355 ~ 357・420



SK355 土層解説

- 1 10YK3/2 基層 ローム中-C-小-C-粒C/炭造ブロック中D/粘土・細B

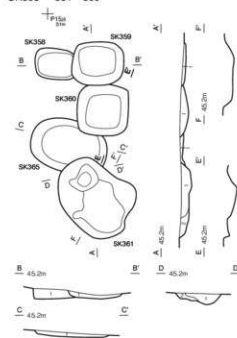
SK356 土層解説

- 1 10YK3/2 基層 ローム小-C-粒B/炭化粒D/炭造ブロック粒D/粘土・細B

SK357 土層解説

- 1 10YK4/3 土壌層 ローム小-B-粒A/粘土・細C

SK358 ~ 361・365



SK358 土層解説

- 1 10YK5-6 表層 ローム中-D-小-C-粒B/粘土・細B

SK359 土層解説

- 1 10YK4-6 暗層 ローム中-D-小-D-粒B/粘土・細B

SK360 土層解説

- 1 10YK4-6 暗層 ローム中-C-小-B-粒B/粘土・細B

SK361 土層解説

- 1 10YK3/4 暗層 ローム粒D/粘土・細B
- 2 10YK4/4 暗層 ローム小-D-粒C/粘土・細B

SK365 土層解説

- 1 10YK5-8 表層 ローム小-C-粒B/粘土・細B

SK363・396



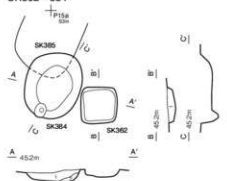
SK363 土層解説

- 1 10YK4/4 暗層 ローム小-D-粒C/炭化粒D/粘土・細B
- 2 10YK3/4 暗層 ローム小-D-粒D 粘土・細B
- 3 10YK5-6 表層 ローム中-D-小-B-粒B/粘土・細B

SK396 土層解説

- 1 10YK3/2 基層 ローム中-C-小-C-粒C/炭化粒D/粘土・細C

SK362・384



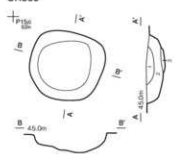
SK362 土層解説

- 1 10YK3/4 暗層 ローム小-C-粒C/炭化粒D/粘土・細B

SK384 土層解説

- 1 10YK3/2 基層 ローム小-C-粒C/粘土・細B
- 2 10YK3/3 暗層 ローム小-C-粒B/粘土・細B

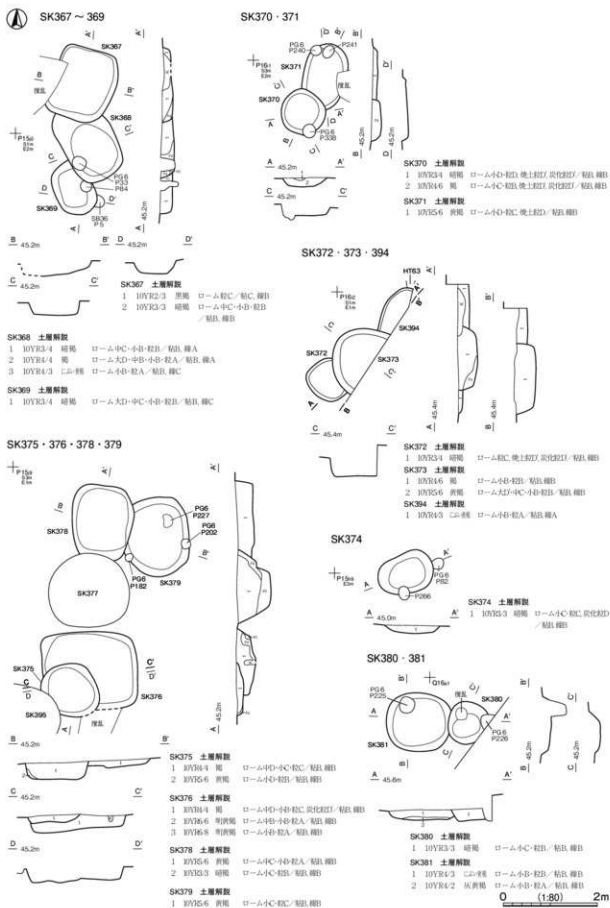
SK366



SK366 土層解説

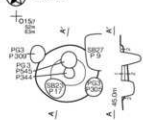
- 1 10YK3/2 基層 ローム小-D-粒C/粘土・細C
- 2 10YK4/3 土壌層 ローム中-C-小-B-粒B/粘土・細C
- 3 10YK4/4 暗層 ローム中-D-小-A-粒A/粘土・細B

0 (1:80) 2m



第197図 その他の土坑実測図(23)

SK383



SK383 土層解説

- 1 10YR4/1 黒灰 ローム粒C/粘土 層B
- 2 10YR6/1 黒灰 ローム小C-粘土 層A, 層B

SK387



SK387 土層解説

- 1 10YR4/3 黒灰 ローム中B-小粒C-粘土 層B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小C-粒C/粘土 層B

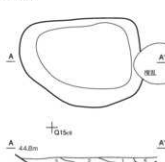
SK400



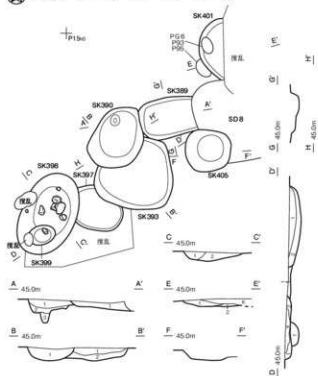
SK400 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中-C-粒化粒D/重質ブロック小C/粘土 層B

SK402



▲ SK389・390・393・397～399・401・405



SK389 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム軟土/粘土、礫土

SK390 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム粘土/粘土、礫土
2 10YR3/3 暗褐色 ローム中-小粒-粘土/粘土、礫土
3 10YR3/3 暗褐色 ローム中-小粒-粘土/粘土、礫土

SK393 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中D-小粒-粘土、炭化粒D/粘土、礫土
2 10YR3/3 暗褐色 ローム中D-小粒-粘土/粘土、礫土

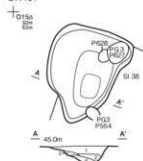
SK397 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム大-中粒-粘土、炭化粒C/粘土、礫土

SK398 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム中D-小粒-粘土/粘土、礫土
2 10YR2/3 黒褐色 ローム軟土、炭化粒D/粘土、礫土

SK399 土層解説
1 10YR3/4 暗褐色 ローム中-粘土、炭化粒D/粘土、礫土

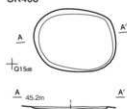
SK401 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム中-小粒-粘土/粘土、礫土
2 10YR3/2 黒褐色 ローム小粒-粘土/粘土、礫土

SK407



SK407 土層解説
1 10YR3/3 暗褐色 ローム粘土/粘土、礫土
2 10YR3/3 暗褐色 ローム中-小粒-粘土/粘土、礫土
3 10YR2/2 黒褐色 ローム中-粘土/粘土、礫土
4 10YR3/4 暗褐色 ローム中粒-粘土、礫土

SK408



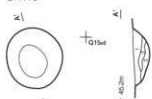
SK408 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中-小粒-粘土/粘土、礫土

SK409



SK409 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中-粘土/粘土、礫土
2 10YR2/2 黒褐色 ローム小粒-粘土、礫土

SK410



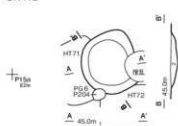
SK410 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中-粘土/粘土、礫土
2 10YR2/1 黒褐色 ローム中-粘土/粘土、礫土
3 10YR3/2 黒褐色 ローム中D-小粒-粘土、礫土

SK411



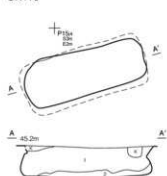
SK411 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム小粒-粘土、炭化粒D/粘土、礫土

SK412



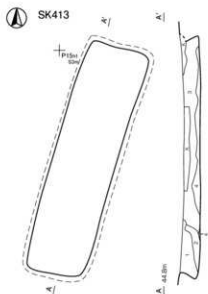
SK412 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中-粘土/粘土、礫土
2 10YR3/3 暗褐色 ローム中-粘土/粘土、礫土

SK415



SK415 土層解説
1 10YR3/2 黒褐色 ローム中-小粒-粘土/粘土、礫土
2 10YR1/6 褐色 ローム大粒-中A-小粒-粘土/粘土、礫土

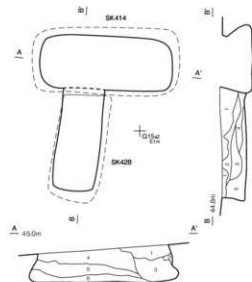
0 (1:80) 2m



SK413 土層解説

- 1 19733 暗層 ローム状中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層
- 2 19734 黒層 ローム状中粒小粒土、粘土層、底層ブロック中粒土、粘土層
- 3 19733 暗層 ローム状中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層
- 4 19734 黒層 ローム状中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層

SK414・428



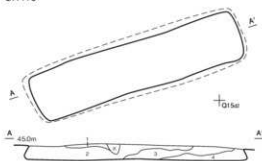
SK414 土層解説

- 1 19732 黒層 ローム中粒小粒土、粘土層
- 2 19734 黒層 ローム土、粘土層
- 3 19733 暗層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層
- 4 19734 暗層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層
- 5 19734 暗層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層
- 6 19734 黒層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層

SK428 土層解説

- 1 19732 黒層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層
- 2 19734 黒層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層
- 3 19733 粘土層 ローム小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層
- 4 19734 暗層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層
- 5 19733 粘土層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層

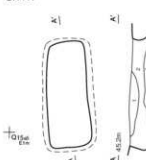
SK416



SK416 土層解説

- 1 19732 黒層 ローム中粒小粒土、粘土層
- 2 19734 暗層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層
- 3 19733 暗層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層
- 4 19734 暗層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層

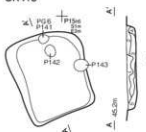
SK417



SK417 土層解説

- 1 19734 暗層 ローム中粒小粒土、粘土層
- 2 19732 黒層 ローム中粒小粒土、粘土層
- 3 19733 粘土層 ローム中粒小粒土、粘土層
- 4 19736 暗層 ローム土、粘土層

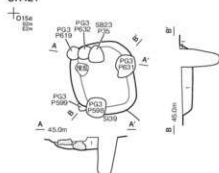
SK418



SK418 土層解説

- 1 19732 黒層 ローム中粒小粒土、粘土層
- 2 19733 粘土層 ローム中粒小粒土、粘土層
- 3 19734 黒層 ローム中粒小粒土、粘土層
- 4 19733 粘土層 ローム中粒小粒土、粘土層
- 5 19733 粘土層 ローム中粒小粒土、粘土層

SK421



SK421 土層解説

- 1 19732 黒層 ローム中粒小粒土、底層ブロック中粒土、粘土層

0 (1:80) 2m

SK422



SK422 土層解説

- 1 10YR4/3 礫層 ローム粒C、焼土小C・粒B、粘B、雜B
- 2 10YR3/3 砂層 ローム小C・粒B、焼土小D、粘B、雜B

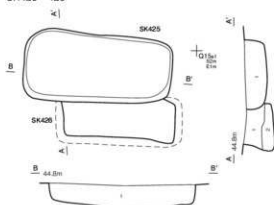
SK427



SK427 土層解説

- 1 10YR3/3 砂層 ローム小C・粒C、粘B、雜C
- 2 10YR2/2 赤層 ローム中D・小D・粒C、粘B、雜B
- 3 10YR6/6 黄層 ローム大D・中D・小A・粒A、粘A、雜A
- 4 10YR4/4 礫層 ローム中D・小A・粒A、粘A、雜A
- 5 10YR4/4 礫層 ローム小D・粒B、粘B、雜B

SK425・426



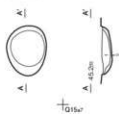
SK425 土層解説

- 1 10YR3/2 赤層 ローム中C・小B・粒B、黄泥ブロック大C、粘B、雜C

SK426 土層解説

- 1 10YR3/3 砂層 ローム大D・中C・小B・粒B、黄泥ブロック中C、粘B、雜C
- 2 10YR4/6 礫層 ローム中C・小A・粒A、黄泥ブロック粒C、粘B、雜A

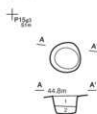
SK429



SK429 土層解説

- 1 10YR3/3 砂層 ローム小C・粒B、粘B、雜B
- 2 10YR4/6 礫層 ローム中C・小B・粒A、粘B、雜B

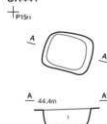
SK430



SK430 土層解説

- 1 10YR3/2 赤層 ローム中D・小D・粒C、粘B、雜B
- 2 10YR3/3 砂層 ローム中C・小C・粒B、粘B、雜B

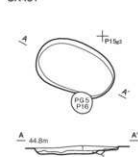
SK441



SK441 土層解説

- 1 10YR3/2 赤層 ローム小C・粒C、粘B、雜C

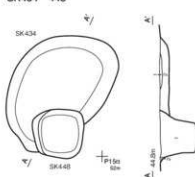
SK431



SK431 土層解説

- 1 10YR3/2 赤層 ローム小C・粒C、粘B、雜B
- 2 10YR4/4 礫層 ローム中C・小B・粒A、粘A、雜A

SK434・448



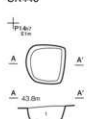
SK434 土層解説

- 1 10YR3/2 赤層 ローム小C、炭化粒D、粘B、雜A
- 2 10YR2/3 赤層 ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D、黄泥ブロック小D、粘B、雜B

SK448 土層解説

- 1 10YR3/2 赤層 ローム小D・粒C、粘B、雜B

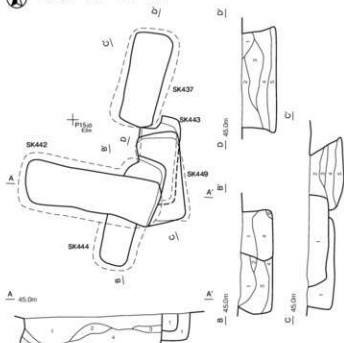
SK446



SK446 土層解説

- 1 10YR3/2 赤層 ローム中D・小C・粒C、粘B、雜C

SK437・442～444・449



SK437 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・小粒粒/粘土
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 4 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 5 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・粘土

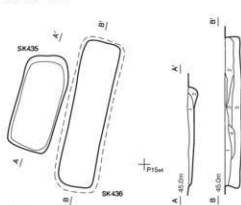
SK442 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・小粒粒/粘土
- 2 10YR2/1 黒褐色 ローム中C・粘土
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・粘土
- 4 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 5 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・粘土
- 6 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・粘土

SK443 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・小粒粒/粘土

SK435 - 436



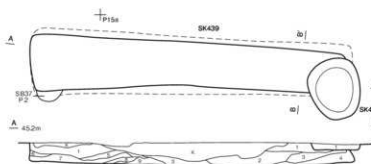
SK435 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・小粒粒/粘土
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・粘土

SK436 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・粘土
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 4 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 5 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土

SK438・439



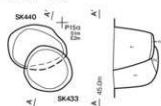
SK438 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・粘土

SK439 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・粘土
- 4 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・粘土
- 5 10YR3/6 黒褐色 ローム中D・粘土
- 6 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 7 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・粘土
- 8 10YR3/6 黒褐色 ローム中D・粘土
- 9 10YR3/4 暗褐色 ローム中D・粘土

SK433・440



SK440 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土

SK433 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・粘土
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・粘土

SK445



SK445 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・粘土
- 2 10YR3/6 黒褐色 ローム中D・粘土

0 (1:80) 2m

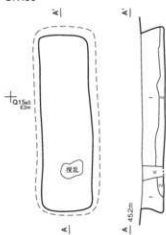
SK447



SK447 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小D-粒C/粘土層B
- 2 10YR3/1 黒褐色 ローム小A-粒C/粘土層B

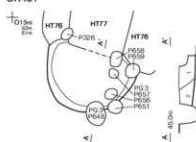
SK450



SK450 土層解説

- 1 10Y3/2 黒褐色 ローム中C-小粒B/粘土層B
- 2 10Y3/6 黒褐色 ローム中C-小A-粒A/粘土層B

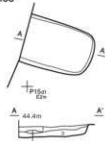
SK451



SK451 土層解説

- 1 10Y3/3 黒褐色 ローム小粒C-粒B/粘土層A
- 2 10Y3/3 黒褐色 ローム中C-小A-粒B/粘土層B

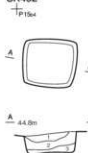
SK455



SK455 土層解説

- 1 10Y3/4 暗褐色 ローム粒B/粘土層C
- 2 10Y3/2 黒褐色 ローム粒C-粒B/粘土層B
- 3 10Y3/3 黒褐色 ローム小粒B/粘土層B

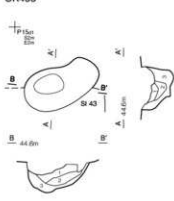
SK452



SK452 土層解説

- 1 10Y3/3 暗褐色 ローム中C-小粒B-粒B/粘土層A
- 2 10Y3/4 暗褐色 ローム中C-小粒B-粒B/粘土層B
- 3 10Y3/2 黒褐色 ローム小粒C/粘土層B

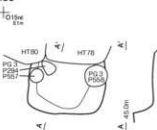
SK453



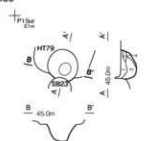
SK453 土層解説

- 1 10Y3/3 暗褐色 ローム粒C/粘土層B
- 2 10Y3/3 暗褐色 ローム中C-粒A/粘土層B
- 3 10Y3/2 黒褐色 ローム小粒C/粘土層B

SK456



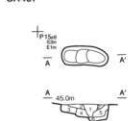
SK459



SK459 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム粒C/粘土層B
- 2 10YR4/4 暗褐色 ローム中C-小粒A/粘土層B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム粒B-粒B、炭化粒D/粘土層B
- 4 10YR4/3 暗褐色 ローム小粒C/粘土層B

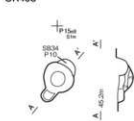
SK457



SK457 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム粒C/粘土層B
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム粒B、炭化粒D/粘土層B
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム小粒C/粘土層B
- 4 10YR3/2 黒褐色 ローム小粒C/粘土層B
- 5 10YR3/2 黒褐色 ローム小粒B-粒B/粘土層B
- 6 10YR3/3 暗褐色 ローム小A/粘土層B

SK458

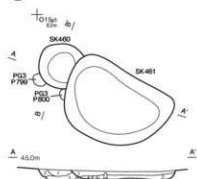


SK458 土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小C-粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘土層B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小C-粒C/粘土層B
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム小C-粒C/粘土層B

0 (1:80) 2m

SK460・461



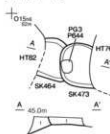
SK460 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C-粒C、炭化物D、黄濁ブロック中C-粒B / 粘土、細B
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム中D-粒C、黄濁ブロック小D-粒D / 粘土、細B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小粒炭化物D、黄濁ブロック中C-粒C / 粘土、細B

SK461 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中B-粒B、炭化物C-粒C、黄濁ブロック小D-粒B / 粘土、細A
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム中B-小B、炭化粒D / 粘土、細B

SK464・473



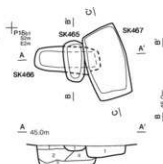
SK464 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中D-小粒-粒C、黄濁ブロック中C / 粘土、粒B

SK473 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム粒B、炭化粒C、黄濁ブロック中C / 粘土、細B

SK465～467



SK465 土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 ローム小C-粒C、炭化粒D / 粘土、細B

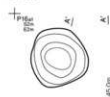
SK466 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小B-粒B / 粘土、細B
- 2 10YR2/2 黒褐色 ローム中D-小粒 / 粘土、細B
- 3 10YR2/2 黒褐色 ローム中C-粒B / 粘土、細C
- 4 10YR3/2 黒褐色 ローム中C-小粒-粒B、黄濁ブロック小D / 粘土、細B

SK467 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C-小粒-粒B、黄濁ブロック中C-粒C / 粘土、細B

SK468



SK468 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C-小粒、黄濁ブロック中D-小粒-粒B / 粘土、細B
- 2 10YR6/1 暗灰色 ローム粒D、砂質粘土小C-粒A / 粘土、細B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム中C、黄濁ブロック中C / 粘土、細B

SK469・470



SK469 土層解説

- 1 3YR3/2 赤褐色 ローム中C-粒C / 粘土、細B

SK470 土層解説

- 1 3YR3/6 赤褐色 ローム中D-小粒-粒A / 粘土、細B
- 2 3YR3/6 赤褐色 ローム中D-小粒-粒A、炭化粒D / 粘土、細B
- 3 3YR3/6 赤褐色 ローム中D-小粒-粒A、炭化粒D / 粘土、細A
- 4 3YR3/4 暗褐色 ローム小粒-粒A、炭化粒D、炭化粒D / 粘土、細B

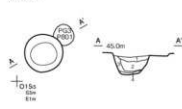
SK471



SK471 土層解説

- 1 3YR3/2 赤褐色 ローム中C-小粒-炭化粒C、黄濁ブロック粒D / 粘土、細B

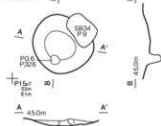
SK472



SK472 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C-小粒、黄濁ブロック中C-粒C / 粘土、細B
- 2 10YR2/3 黒褐色 ローム中B-粒B、黄濁ブロック中C-粒C / 粘土、細B
- 3 10YR2/3 黒褐色 ローム粒C、黄濁ブロック小D-粒D / 粘土、細B
- 4 10YR3/3 暗褐色 ローム中B、黄濁ブロック中C-粒D / 粘土、細B

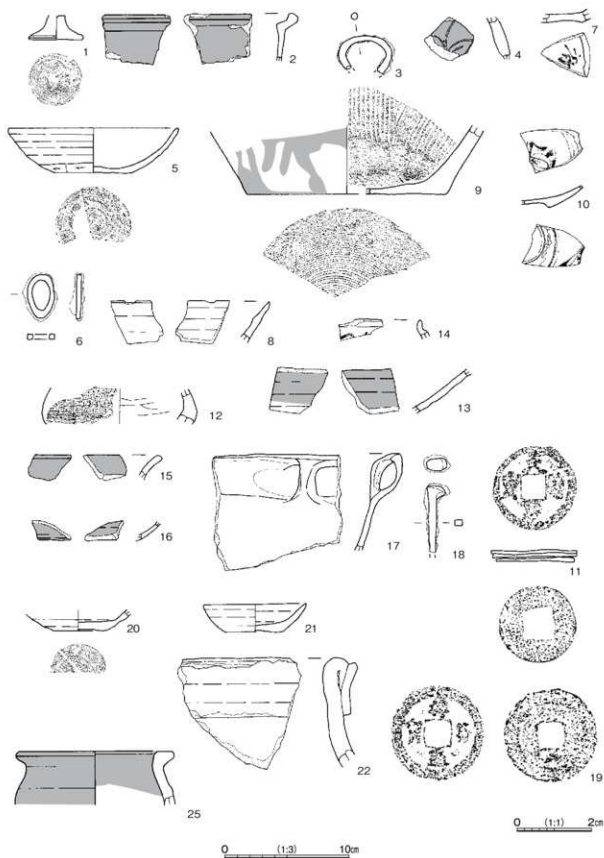
SK474



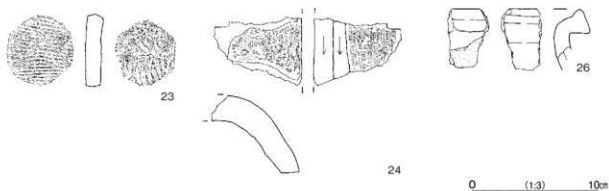
SK474 土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 ローム中D-小粒-粒A / 粘土、細B
- 2 10YR2/2 黒褐色 ローム中C-粒C / 粘土、細A

0 (1:90) 2m



第 205 図 その他の土坑出土遺物実測図 (1)



第206図 その他の土坑出土遺物実測図(2)

第92表 その他の土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土遺構	備考
1	陶器	仏眼器*	-	(20)	4.3	緻密・にぶい黄橙	ロケロ成形 底部回転糸切り	無輪	不明	SK33	50%
2	陶器	鉢	-	(39)	-	粗い・灰黄緑	ロケロ成形	海鼠輪	松岡焼	SK33	PL28
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土遺構	備考
3	不明	(31)	4.2	0.5	(7.72)	鉄	瘤状 断面円形			SK34	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土遺構	備考
4	陶器	瓶	-	(35)	-	緻密・浅黄	体部へラ掻き文	灰輪	古瀬戸	SK35	後期1期
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
5	須恵器	坏	[135]	3.6	6.1	石灰・長石・雲母 にぶい黄橙	不具	体部下端手持ちへラ削り	底部回転へラ切り	SK70	40%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
6	刀装具*	3.5	2.2	0.4	7.9	鉄	瘤状倒卵形 断面方形			SK70	PL34
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴	ほか	出土遺構	備考			
7	土師器	坏	石灰・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	内面へラ掻き 底部へラ切後ナデ		SK88	PL28 黒書「市」			
8	土師質土器	小皿	石灰・長石・雲母・黒色粒子	にぶい橙	ロケロ成形		SK174	10%			
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土遺構	備考
9	陶器	深鉢	-	(5.5)	[16.7]	緻密・にぶい黄橙	1単位10条の摺り目 底部回転糸切り	踏輪	不明	SK177	2%
10	磁器	小皿	-	(1.8)	-	緻密・明緑灰	器筒底高台 外内面付須染付	透明輪	景徳鎮産系	SK177	10% PL28
番号	種別	径	孔距	厚さ	重量	材質	初測年	特徴		出土遺構	備考
11	天橋通貫物	2.32	0.57	0.33	5.63	銅	1017年	北宋銭 裏面により3枚が密着 他2枚は銭種不明		SK177	
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴	ほか	出土遺構	備考			
12	土師質土器	香炉	石灰・長石・雲母・黒色粒子	黒褐	均整型香炉 内面指ナデ へラ掻き 黒色装璜		SK179	10% PL28			
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土遺構	備考
13	陶器	大皿	-	(3.6)	-	緻密・黄緑	ロケロ成形 内面・外面上半施輪	灰輪	古瀬戸	SK187	後期2～前期

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土遺構	備考	
14	陶器	志野柄 刺内付	-	(1.4)	-	緻密・浅黄緑	ロクロ成形 外面鉄絵染付	長石軸	瀬戸・美濃系	SK187	HTD35 SK351 と同一系統と	
15	陶器	花散々	-	(2.0)	-	緻密・灰白	ロクロ成形 外・内面施軸	灰軸	古瀬戸	SK199		
16	磁器	網	-	(1.6)	-	緻密・紺灰	ロクロ成形 外・内面施軸	青磁軸	飛鳥窯系	SK201	PL28	
番号	種別	器種	胎土			色調	文様の特徵ほか		出土遺構	備考		
17	土師質 土器	内面線	石美・灰石・雲母・針 状鉱物			暗紺	内外面指ナゲ 内面耳部貼り付け		SK242	PL28		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土遺構	備考		
18	釘	(5.4)	1.6	0.5	(14.82)	鉄	断面形方形 頭部折り曲げ 先端部欠損		SK242	PL34		
番号	器種	径	孔眼	厚さ	重量	材質	初周年	特徴		出土遺構	備考	
19	祥符通寶	2.55	0.67	0.15	2.87	銅	1009年	北宋銭		SK284		
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土遺構	備考	
20	陶器	緑釉風	-	(1.7)	[4.6]	緻密・黄灰	ロクロ成形 底部回転糸切り	-	古瀬戸	SK346	後期 20%	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土遺構	備考
21	土師質 土器	小皿	[8.4]	2.2	[4.6]	石美・長石・雲 母・赤色鉄子	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り		SK308	40%
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考	
22	陶器	壺	-	(9.0)	-	粗い・紺灰	口縁部折り返し後回転台による横ナゲ	焼締め	常滑	SK208	10型式 PL28	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考	
23	土師片 門盤	5.8	5.5	1.3	52.80	石美・長石・針 状鉱物	にぶい黄緑	知恵磨片を打ち欠き内盤状に加工 表面平行叩き 裏面同心円状の当て具痕		SK402		
24	丸瓦	(5.4)	(7.0)	(6.1)	(0472)	石美・長石・雲 母・針状鉱物	黒焼	外面ナゲ 内面春日瓦 側縁部へ凸削り		SK402		
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考	
25	陶器	壺	[12.2]	(4.3)	-	緻密・灰黄	ロクロ成形 外面・内面上半施軸	鉄軸	瀬戸・美濃	SK421	10% PL28	
26	陶器	壺	-	(4.9)	-	粗い・灰黄緑	口縁部折り返し後回転台による横ナゲ	焼締め	常滑	SK451	5型式 PL29	

第93表 その他の土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	概		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	R129	N・3°・W	長方形	0.47 × 0.29	61	直立・外傾	平坦	人為		
2	R128	-	円形	0.36 × 0.34	55	直立・外傾	平坦	人為		
3	S128	N・2.4°・W	方形	0.24 × 0.24	26	外傾	皿状	人為		
4	R128	-	円形	0.43 × 0.42	16	外傾	平坦	人為		
5	S128	-	円形	0.60 × 0.60	22	外傾	平坦	人為		
6	S1249	N・5°・E	長方形	0.41 × 0.31	38	外傾	平坦	人為		
7	R129	N・7.5°・E	楕円形	[0.89] × 0.67	29	外傾・直立	平坦	人為		本跡→SK8
8	R129	N・7.9°・E	楕円形	0.38 × 0.31	22	外傾	平坦	人為		SK7→本跡
9	S1248	N・6.9°・W	楕円形	0.22 × 0.26	24	外傾	平坦	人為		
10	S1248	N・4.4°・W	楕円形	0.29 × 0.24	22	外傾	平坦	人為		
11	R128	-	円形	0.25 × 0.24	37	外傾・直立	平坦	人為		
12	Q145	-	円形	0.66 × 0.62	12-19	外傾	平坦	人為	遺溝	
13	Q145	N・9°・W	長方形	1.60 × 1.37	96	外傾	平坦	人為		
14	Q145	N・1°・W	方形	1.05 × 1.01	57	外傾	平坦	人為		
15	Q146	-	円形	0.74 × 0.69	12	外傾	平坦	人為		
16	Q146	-	円形	1.11 × 1.04	82	外傾・直立	平坦	人為	須恵器, 陶器, 磁器	
17	Q146	-	円形	φ0.90 × φ0.92	70	直立	平坦	人為		
18	Q147	-	円形	0.95 × 0.90	12	外傾	平坦	人為		
19	Q143	N・4°・E	[長方形]	(1.90) × 1.16	35	外傾	平坦	人為		SF1→本跡
20	Q147	-	円形	1.25 × (1.16)	24	外傾	平坦	人為	磁器	本跡→SK15

番号	位置	長径方向	平面形	規模		階面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
21	Q146	N-6°・E	楕円形	0.47 × 0.37	18	直立・外傾	平坦	人為		
22	Q146	N-4.8°・W	楕円形	0.49 × 0.43	22	外傾	平坦	人為		
23	Q146	N-1.7°・W	楕円形	0.26 × 0.20	32	直立・外傾	平坦	人為		
24	Q146	N-4°・E	長方形	1.27 × 1.13	107	直立	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器、磁器	
25	Q146	N-6.5°・W	楕円形	0.50 × 0.37	22	外傾	平坦	人為		
26	Q146	N-8.2°・E	楕円形	1.18 × 0.96	63	外傾	平坦	人為		SF1 → 本跡
27	Q146	N-5°・W	楕円形	[1.95] × 0.44	35	外傾	皿状	人為		SK52 → 本跡 → SK46/SF1 SK29、SK30 → 本跡
28	Q146	N-7°・E	楕円形	0.52 × 0.37	25~41	外傾・直立	皿状	人為		本跡 → SK28 本跡 → SK28
29	Q146	N-7°・E	楕円形	[0.36] × 0.19	37	外傾・直立	皿状	人為		
30	Q146	N-7°・E	楕円形	0.46 × 0.39	13	外傾	平坦	人為		
31	Q146	N-1.7°・E	楕円形	0.32 × 0.27	47	直立	平坦	人為		
32	Q146	N-1.6°・W	楕円形	0.40 × 0.32	47	外傾・直立	皿状	人為		
33	Q147	N-3°・E	長方形	1.10 × [0.88]	94	直立	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器、磁器	SK34、35、45 → 本跡
34	Q147	N-1°・W	楕円形	1.52 × [1.22]	52	直立	平坦	人為	須恵器、磁器、金属製品	SK11、45 → 本跡 → SK33
35	Q147	N-8.3°・W	楕丸長方形	[2.25] × 0.88	101	直立	平坦	人為	土師器、陶器、磁器、石器	SK20 → 本跡 → SK35
36	Q140	N-7.9°・W	楕円形	[0.92] × 0.75	21	直立・外傾	平坦	人為		
37	Q149	N-1.3°・W	楕円形	0.39 × 0.25	42	直立	皿状	人為		
38	Q147	-	円形	0.37 × 0.36	46	外傾・直立	皿状	人為		
39	Q151	N-7°・W	方形	[1.07] × [1.06]	39	外傾	平坦	人為		
40	Q130	N-2°・E	長方形	0.95 × 0.72	29	直立	平坦	人為		
41	Q145	N-8.5°・E	[長方形]	0.97 × 0.80	35	外傾	平坦	人為		
42	Q151	N-3.8°・E	不整楕円形	0.44 × 0.22	61	直立	皿状	人為		SF1 → 本跡
43	Q140	N-3°・E	長方形	2.48 × 1.21	46	内傾	平坦	人為	土師器、陶器	
44	Q147	N-3°・E	[楕円形]	1.21 × 0.39	50	直立	平坦	人為		
45	Q147	N-5°・E	[楕円形]	1.18 × [1.04]	(51)	内傾	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器、瓦	
46	Q144	N-7.8°・E	[方形]	0.66 × 0.63	17	外傾	平坦	人為		
47	Q149	-	円形	0.29 × 0.28	47	外傾	平坦	人為		
48	R147	N-5°・W	方形・長方形	0.95 × (0.61)	46~58	直立・外傾	平坦	人為		
49	R143	N-8.6°・E	長方形	1.54 × 1.32	83	直立	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器	
50	R146	[N-8.0°・E]	[楕円形]	(0.94) × (0.17)	26	直立	平坦	人為		
51	R140	[N-7.9°・E]	方形	(1.13) × (0.61)	15	直立	平坦	人為		
52	Q144	N-7°・W	長方形	[1.06] × 0.53	19	直立・外傾	平坦	人為		本跡 → SK27, 61
53	Q146	-	円形	0.20 × 0.20	65	直立・外傾	平坦	人為		
54	Q146	N-8°・W	楕円形	0.35 × (0.18)	49	外傾	平坦	人為		
55	Q152	N-4.1°・W	楕円形	0.95 × 0.77	28	外傾	平坦	人為	赤土土師、土師器	SI1 → 本跡
56	Q152	-	円形	1.10 × 1.07	42	直立	平坦	人為	土師器	
57	Q152	N-1°・E	楕円形	1.08 × 0.95	69	直立	平坦	人為		
58	N161	N-1.2°・E	楕円形	0.95 × 0.78	29	傾斜	平坦	人為	土師器、石器	SI3 → 本跡
59	N157	-	円形	2.59 × 2.28	15~23	外傾	平坦	人為	赤土土師、土師器、須恵器、石器	
60	N154	N-6.1°・E	楕円形	1.78 × 1.13	7	外傾	傾斜	自然		
61	N150	-	円形	0.28 × 0.28	52	直立	V字状	人為		SI3 → 本跡
62	N150	N-8.5°・W	楕円形	1.74 × 1.48	6~16	傾斜	平坦	人為	赤土土師、土師器、須恵器	
63	N158	N-6°・E	楕円形	0.57 × 0.36	20	円凸	人為	人為	赤土土師、土師器	SK66 → 本跡
64	N158	-	[円形]	(0.63) × 0.58	37	外傾	平坦	人為	赤土土師、須恵器	本跡 → SK65
66	N158	N-7.7°・W	方形	1.09 × 1.03	46	直立・外傾	平坦	人為		SI7 → 本跡
68	N157	N-4.9°・W	楕円形	1.55 × 0.96	18~20	外傾	平坦	人為	土師器	
69	N156	N-4.2°・E	楕円形	0.93 × 0.65	40	外傾	皿状	人為	土師器	
70	N155	N-3.8°・E	楕円形	0.63 × 0.50	20~23	外傾	円凸	人為	土師器、須恵器、金属製品	SI8 → 本跡
71	N155	N-2.1°・E	長方形	1.43 × 0.88	71~76	外傾	平坦	人為	赤土土師、土師器、須恵器	
72	N159	N-8.0°・E	楕円形	0.96 × 0.80	20	外傾	平坦	人為	赤土土師、土師器、陶器	SI4 → 本跡
73	N159	N-1.9°・E	[楕円形]	1.48 × (0.78)	13	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	SI4 → 本跡 → SK75
74	N150	N-2.2°・E	方形	1.50 × 1.45	22~25	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	SK75 → 本跡 SK71 → 本跡 → SK74
75	N150	N-8.3°・E	楕円形	1.92 × 1.70	14~18	外傾	平坦	人為	赤土土師、土師器、須恵器	
76	N158	-	円形	0.48 × 0.45	36	直立	平坦	人為		
77	N158	N-7.4°・W	楕丸長方形	1.02 × 0.84	23	外傾	平坦	人為	赤土土師、土師器、須恵器	SI10 → 本跡
78	N157	-	円形	1.04 × 0.98	94	直立	平坦	人為	土師器、須恵器、瓦貫土師、瓦	SI10 → 本跡
79	N159	N-3.4°・W	楕円形	0.53 × (0.43)	40	外傾	U字状	人為		本跡 → SI4
80	N155	N-3.1°・E	楕円形	1.64 × 1.31	35	外傾	平坦	人為	赤土土師、土師器、須恵器	
81	N155	N-2.3°・W	楕円形	0.59 × 0.43	46	外傾・直立	皿状	人為		
82	N156	N-3.1°・W	楕円形	1.69 × 1.19	49	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	SI12 → 本跡
83	N157	-	円形	0.50 × 0.49	44	外傾	皿状	人為	土師器	SI8、SK10 → 本跡 SK107 → 本跡 → SK102
84	N158	N-7.1°・W	楕円形	1.28 × 0.54	10~17	外傾	皿状	人為	赤土土師、土師器、須恵器	SK86 → 本跡
85	N156	-	円形	0.45 × 0.44	39	直立	皿状	人為		SI17 → 本跡
86	N157	N-8.1°・W	不定形	(1.03) × 0.82	29~34	外傾	平坦	人為	土師器	SI10 → 本跡 → SK81
88	N154	N-6.2°・W	[楕円形]	[1.85] × [1.67]	7	外傾	平坦	人為	赤土土師、土師器	本跡 → SI9
89	N151	N-6.6°・W	楕円形	1.93 × 1.29	29	直立	平坦	人為	赤土土師、土師器、須恵器、鉄片	SI16 → 本跡
90	O153	-	[円形]	1.30 × [1.21]	109	円形	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器	SI8、SK10 → 本跡 SK107 → 本跡 → SK102
91	N158	N-6.6°・W	楕円形	1.76 × [1.28]	29	外傾	円凸	人為	土師器、須恵器	
93	N161	N-2.4°・E	楕円形	1.57 × 1.30	27	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	
94	N161	N-1.2°・E	長方形	1.30 × 0.98	35~40	直立	平坦	人為	土師器、須恵器	
95	N159	N-7.9°・W	楕円形	0.52 × 0.35	50	外傾・直立	平坦	人為		本跡 → SK117
96	N159	N-3.2°・W	楕円形	1.09 × 0.95	35	直立	平坦	人為	土師器、須恵器	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	高さ (cm)					
97	N150	N-6.8°-W	楕円形	0.40 × 0.24	41	外様	段-V字	人為		SD1→本跡
100	N1603	N-2.3°-E	楕円形	0.45 × 0.33	70	直立	皿状	人為		SK115→本跡 →SK91・107
102	N1508	N-4°-W	[楕円形]	1.31 × [1.22]	15	外様	平坦	人為	土師器、金属製品	本跡→SB1
104	N 1603	N-6.9°-W	[楕円形]	0.44 × (0.32)	90	直立	皿状	人為	弥生土師	SK91・102→本跡
107	N1508	N-1.5°-E	楕円形	0.43 × 0.26	41	直立	皿状	人為		SD18→本跡
108	O1503	N-1.6°-E	楕円形	0.59 × 0.45	31	外様	平坦	人為	陶器	SD18→本跡 →SK90
109	O1503	N-1.4°-E	[長方形]	(1.20) × (0.87)	40	直立	平坦	人為	土師器、須恵器	SD18→本跡 →SK90
110	N1602	-	円形	0.37 × 0.35	44	外様-直立	有段	人為	土師器	本跡→SK113
111	N1602	N-7.7°-W	楕円形	0.34 × [0.19]	40	外様	皿状	人為		本跡→SK112
112	N1602	N-7.2°-W	楕円形	1.06 × 0.8	8	外様	平坦	人為		SK111→本跡
113	N1602	N-3.5°-W	楕円形	2.13 × 1.43	14	外様	平坦	人為		SK110・111・121・130→本跡→SD1
114	N1602	-	円形	[0.32] × [0.30]	58	直立	平坦	人為		本跡→SK113
115	N1508	N-7.2°-W	長方形	0.32 × 0.20	40	直立	皿状	人為	弥生土師	本跡→SK102
117	N1601	-	円形	0.30 × 0.30	70	直立	皿状	人為	土師器、須恵器	SK94→本跡
118	N1602	-	円形	1.54 × 1.42	23	外様	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器、石器、金属製品	PG3→本跡
119	N1502	N-1.5°-E	楕円形	2.98 × 1.44	35	外様	平坦	人為	土師器、須恵器	
120	N1602	-	円形	0.47 × 0.42	58	直-外様	皿状	人為		
121	N1602	-	円形	0.30 × 0.28	24	直-外様	平坦	人為		
122	N1602	-	円形	0.22 × 0.22	47	外様	皿状	人為		本跡→SK113
123	N1505	N-2.4°-E	楕円形	1.01 × 0.70	26	外様	平坦	人為	土師器、須恵器	
124	N1602	-	円形	0.62 × 0.60	28	外様	平坦	人為		SD14 掘出不明
125	N1400	N-6.4°-E	楕円形	0.48 × 0.37	60	外様-内様	皿状	人為	土師器、須恵器	
126	N1501	-	円形	1.26 × 1.21	75	外様	皿状	人為		
128	N1601	-	円形	0.66 × 0.64	33	外様	皿状	人為	弥生土師、土師器、須恵器	
129	N1501	N-3.2°-E	楕円形	1.38 × 0.97	60	外様	平坦	人為	土師器、須恵器	
130	N1601	N-8.3°-W	楕円形	0.46 × 0.41	32	直立	平坦	人為	土師器	SD14 掘出不明
131	N1601	-	円形	0.44 × 0.43	26	直立	平坦	人為		SD14 掘出不明
132	N1602	N-7.9°-E	楕円形	0.53 × 0.45	30	外様	平坦	人為		本跡→SK113
133	O1502	N-8.4°-W	楕円形	0.97 × 0.86	16	外様	平坦	人為	弥生土師、土師器、須恵器、石器	
134	N1601	N-1.7°-E	楕円形	1.26 × 0.91	56	外様-直立	平坦	人為	弥生土師、土師器	SD23→本跡
135	O1400	N-1.5°-E	長方形	0.76 × 0.67	38	直立	平坦	人為	弥生土師、土師質土師、陶器	SD31→本跡
137	O1503	-	円形	0.35 × 0.33	43	直立	平坦	人為		
138	N1400	-	円形	1.26 × 1.16	100	直-外様	皿状	人為	土師器、須恵器	
139	N1501	N-2.7°-E	方形	0.64 × 0.59	33	外様	平坦	人為		
140	N1602	-	楕円形	0.656 × (0.41)	14	直立	平坦	人為		SD14→本跡
141	N1504	N-5°-E	楕円形	0.33 × 0.22	49	垂直	平坦	人為		SD13→本跡
142	N1504	-	円形	0.26 × 0.25	40	垂直	平坦	人為		SD13→本跡
143	N1602	-	円形	0.36 × 0.35	23	直立	平坦	人為		SD14→本跡
144	N1601	-	円形	0.27 × 0.27	26	外様-直立	平坦	人為		SD20→本跡
145	N1508	N-2.0°-W	楕円形	0.98 × 0.65	26	直立	平坦	人為	須恵器	
146	O1504	N-1.7°-E	楕円形	0.67 × 0.60	54	外様	皿状	人為	土師器	SD26→本跡
147	O1502	N-4.2°-W	楕円及長方形	1.04 × 0.73	20	外様	円凸	人為	土師器	SD2→本跡
150	N1602	N-2.7°-E	長方形	1.31 × 1.10	53	直立	平坦	人為		本跡→SB1
151	N1602	N-1.4°-E	長方形	[0.93] × 0.74	20	外様-内様	平坦	人為	土師器、須恵器	本跡→PG3 SD1 掘出不明
153	N1508	-	円形	1.33 × 1.22	28	外様	平坦	人為	弥生土師、土師器、須恵器、須口	SD2→本跡
154	N1509	N-6.5°-W	楕円形	1.18 × 1.05	45	直立	平坦	人為		
155	O1601	N-7.0°-W	[長方形]	(0.81) × 0.75	48	直立	平坦	人為	土師器、陶器	HT3・4、SD2 SK195→本跡
156	O1507	N-8.3°-E	楕円形	1.27 × 0.98	14	外様	平坦	人為	弥生土師、土師器	
157	O1601	N-2.4°-E	楕円形	1.53 × 1.41	37-45	外様	平坦	人為	弥生土師、土師器、瓦質土師、陶器	SD2、HT3、 PG3→本跡
158	O1507	-	円形	1.47 × [1.38]	46	直立	平坦	人為	弥生土師、土師器	SD2→本跡
159	N1506	N-8.5°-W	楕円形	1.22 × 0.86	5	外様	平坦	人為	土師器	
160	N1505	-	円形	0.83 × 0.77	10-16	外様	皿状	人為	弥生土師、土師器	
161	O1507	-	円形	1.21 × 1.12	52-53	直立	平坦	人為	弥生土師、土師器、須恵器	
162	N1507	N-8.4°-W	方形	1.11 × 1.08	52-59	外様-直立	皿状	人為	弥生土師、弥生土師、土師器、須恵器	
163	N1506	-	円形	1.02 × 0.96	39-44	外様	平坦	人為	土師器、須恵器	
164	N1603	-	[長方形]	1.30 × 0.31	23-28	外様	平坦	人為	土師器、陶器	
165	O1507	-	円形	1.57 × 1.50	51-55	直立	平坦	人為	弥生土師、土師器、須恵器、石器	本跡→SB40
166	N1507	N-1.3°-E	長方形	0.87 × 0.56	45	外様-内様	平坦	人為	弥生土師、土師器	
167	O1506	N-8.6°-E	楕円形	2.03 × 1.00	19-25	外様	皿状	人為	土師器	
169	O1503	N-5.4°-W	[楕円形]	1.28 × 1.15	11-13	外様	平坦	人為		
170	O1507	N-8°-E	長方形	1.09 × 0.88	64-69	外様	皿状	人為	弥生土師、土師器、須恵器	
171	O1506	N-8.9°-W	長方形	1.16 × 1.04	44-46	外様	平坦	人為	土師器、須恵器	
172	O1509	N-6.9°-W	[方形]	1.35 × (1.23)	15	外様	平坦	人為		本跡→SK173・126
173	O1509	N-6.9°-W	長方形	0.90 × 0.575	22	直立	平坦	人為	弥生土師、土師器、石器	SK172、SD4→ 本跡→PG3
174	O1509	N-9.0°-W	方形	1.04 × 0.98	19	外様	平坦	人為	弥生土師、土師質土師	本跡→SD4・5
176	O1509	N-1.5°-E	長方形	0.73 × 0.56	18	直立	平坦	人為	土師器、須恵器、石器	SK172→本跡
177	O1508	N-7.1°-W	不整形楕円形	1.71 × (1.18)	50	外様	有段	人為	土師器、須恵器、陶器、須口、金属製品、瓦質土師	本跡→SD40
178	O1500	N-5.3°-W	楕円形	1.94 × 1.40	14	外様	平坦	人為	土師器、須恵器、土師質土師、石器、金属製品	PG3→本跡
179	O1508	-	[円形]	1.25 × 1.25	37-42	外様	平坦	人為	土師器、須恵器、土師質土師、石器、金属製品	SK184→本跡
180	O1509	-	円形	1.23 × 1.07	22-26	外様	平坦	人為	土師器、須恵器	SK245PG3→本跡
181	O1509	N-6.7°-W	長方形	1.94 × 1.32	43	直-外様	平坦	人為	土師器、須恵器	本跡→PG3
184	O1508	N-8.2°-W	[長方形]	1.52 × (0.81)	17-20	外様	平坦	人為	土師器、須恵器	本跡→SK179

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
185	O159	N-3.2°-E	楕円形	1.16 × 0.92	29	外傾	右段	人	土師器、土師質土器	SK167-304→48
186	O159	-	円形	1.02 × 1.07	33	直立・外傾	凹凸	人	土師器、須恵器、土師質土器	SK167-304→48 PG1→楕→SK188 SK190
187	O159	-	[円形]	1.01 × (1.00)	13	外傾	平坦	人	土師器、陶器	H70SK175・196 →253→本跡
188	O158	N-1.6°-E	楕円形	1.58 × 1.03	22	外傾	平坦	人	須恵器	本跡→HT9
189	O158	N-4.8°-W	楕円形	0.86 × 0.41	14	外傾	平坦	人	須恵器	本跡→HT21
190	O150	N-2°-E	円形・楕円形	0.76 × (0.40)	20	外傾	平坦	人	須恵器	本跡→SK191
193	O154	-	円形	0.92 × 0.90	18	外傾	平坦	人	須恵器、軽石	本跡→SK187H3・4 SK183
195	O161	N-2.5°-E	[楕円形]	(1.45) × (1.10)	60	外傾	平坦	人	土師器、須恵器	本跡→SK188、HT9 SK191→本跡→PG3
196	O158	N-9.0°	楕円形	0.60 × 0.46	10	外傾	平坦	人	須恵器	本跡→SK198、HT9 SK191→本跡→PG3
197	O150	N-7.9°-W	[楕円形]	(1.43) × 1.31	12	外傾	平坦	人	須恵器	本跡→SK198、HT9 SK191→本跡→PG3
198	O150	N-1.9°-E	方形・長方形	1.22 × (0.34)	26	直立	平坦	人	須恵器	SK205→SK193→本跡→SK187、191 本跡→PG3
199	O157	N-0°	楕円形	0.88 × 0.76	12	外傾	平坦	人	陶器	SK205→SK193→本跡→SK187、191 SK240 新出1→PG3 本跡→SK193、PG3
200	O157	N-8.5°-E	楕円形	1.26 × 0.96	8	外傾	平坦	人	土師器、須恵器	本跡→HT11
201	O157	N-8.3°-W	楕円形	1.68 × (1.16)	16	外傾	平坦	人	土師器、須恵器、磁器	本跡→SK219、本跡→SK242、PG3 SK205→本跡→SK186、PG3
202	O156	N-7°-W	楕円形	1.68 × 1.52	8	外傾	平坦	人	土師器、須恵器	本跡→SK219、本跡→SK242、PG3 SK205→本跡→SK186、PG3
204	O159	-	円形	1.03 × 0.96	14	外傾	平坦	人	須恵器	本跡→SK198、268、PG3
205	O150	N-1.3°-E	[長方形]	0.66 × (0.54)	28	外傾	平坦	人	須恵器	SK207、PG3→本跡→SK199、PG3
206	O159	N-1.8°-E	長方形	1.24 × 0.73	15-21	直立・外傾	平坦	人	磁器	本跡→SK247 PG1→SK187、191→本跡→SK199、PG3
208	O159	N-9.0°	[楕円形]	1.03 × (0.76)	35	直立・外傾	平坦	人	土師器、須恵器	本跡→SK247 PG1→SK187、191→本跡→SK199、PG3
209	O161	N-0°	円形・楕円形	(0.58) × (0.52)	19	外傾	平坦	人	須恵器	SK212、213、249→本跡
210	O157	N-8.2°-W	[楕円形]	(1.30) × [1.14]	16	外傾	平坦	人	須生土器、須恵器、土師質土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
211	O161	N-8.5°-E	長方形	1.19 × 0.87	21	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
212	O150	N-6.0°-W	楕円形	2.95 × (2.05)	16	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
213	O150	N-3.8°-E	[長方形]	(1.07) × 1.05	22	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
215	O161	N-8°-E	[楕円形]	(1.76) × 1.54	31	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
216	O161	N-6.8°-E	[楕円形]	(1.60) × (1.15)	52	外傾	凹状	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
219	O156	N-2.5°-E	[楕円形]	2.02 × (1.22)	10	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
221	O162	N-8.9°-E	不整形	1.15 × 1.03	34-42	外傾	平坦	人	須生土器、土師器、灰汁	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
223	O150	-	円形	2.04 × 2.03	40	直立	平坦	人	土師器、須恵器、土師質土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
224	O150	N-8.2°-W	[楕円形]	(0.82) × 1.12	23	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
227	O156	N-6.8°-W	[楕円長方形]	(2.06) × (1.50)	7-20	外傾	凹凸	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
228	O150	N-1.4°-E	楕円形	1.21 × 1.03	22	外傾	平坦	人	土師器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
229	O150	-	円形	1.80 × 1.70	28-36	直立	平坦	人	須生土器、土師器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
231	O156	N-7.3°-E	楕円長方形	1.60 × (1.21)	13-18	外傾	平坦	人	土師器、須恵器、金属製品、漆器、鏡	本跡→SK144、PG3 本跡→HT20SK203 SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
232	O156	N-4.6°-E	[楕円形]	(1.25) × (0.74)	25	外傾	凹状	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
233	O156	N-1.2°-E	[楕円形]	(1.15) × (1.17)	13	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
234	O150	-	円形	1.96 × 1.86	43-39	内傾・外傾	凹状	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
235	O158	N-7.5°-W	楕円形	[2.18] × 1.32	10-16	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
236	O156	N-8.4°-W	楕円形	(0.95) × 0.68	34	外傾	凹状	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
237	O156	-	円形	0.69 × (0.66)	32	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
238	O150	N-7.2°-W	[方形・長方形]	1.30 × (1.16)	10	外傾	平坦	人	土師器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
239	O150	N-4.0°-E	楕円形	1.54 × 1.29	27-31	外傾	凹状	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
240	O150	N-3.0°-E	方形・長方形	(0.95) × (0.42)	12	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
241	O157	N-2.3°-E	楕円形	1.82 × 1.54	13	外傾	凹凸	人	土師器、石器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
242	O156	N-2.6°-E	楕円形	1.52 × 1.11	23	外傾	平坦	人	須生土器、土師質土器、金属製品	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
243	O157	N-2.0°-E	楕円形	1.50 × 1.06	29	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
244	O157	-	円形	1.66 × 1.72	48	内傾・外傾	平坦	人	須生土器、土師器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
245	O150	N-4.8°-W	楕円形	0.62 × (0.54)	27-33	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
246	O158	-	円形	1.51 × 1.48	36-47	内傾・外傾	平坦	人	須生土器、土師器、灰汁	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
247	O161	N-5°-E	楕円形	1.15 × 0.79	16	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
250	O150	N-8.9°-W	楕円形	(0.78) × 0.57	17	外傾	平坦	人	土師器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
251	O150	N-7.0°-W	長方形	(1.86) × 1.34	36	直立	平坦	人	土師質土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
252	O156	N-7.4°-W	長方形	1.00 × 0.64	21-26	外傾	平坦	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
254	O157	N-6.5°-E	楕円形	0.78 × 0.70	8	外傾	凹状	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
256	O158	N-1.5°-W	[楕円形]	(0.63) × 0.46	8-38	直立・外傾	凹状	人	土師器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
257	O150	N-8.1°-W	長方形	[2.03] × 1.28	30-36	直立・外傾	平坦	人	須生土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶器、磁器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
258	O156	N-9.0°	方形	1.03 × 0.95	23-30	直立・外傾	平坦	人	土師器、瓦質土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
259	O156	-	不整形	(0.81) × (0.16)	12	外傾	凹状	人	須生土器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3
260	O150	N-2.6°-E	楕円形	0.84 × 0.71	9-12	外傾	凹状	人	土師器	SK205→本跡→SK187、191→本跡→SK199、PG3

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	溝S (cm)					
361	O161	N-7.5°-E	長方形	1.90 × 1.19	46	直立	平坦	人為	赤土土器、土師器、須恵器	SK269 → 本跡 → PG4
363	O1565	N-5.3°-E	楕円形	1.17 × 0.94	5-6	外傾	平坦	人為		本跡 → PG4
365	O1569	N-5.1°-E	楕円形	[2.00] × 1.46	34-46	直立・外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	H131 → 本跡 → SK262、266、PG3 SK260 → 本跡 → SK276、269、PG3 SK276 → 本跡 → H171、S33、S34、PG3
367	O1569	N-7.4°-W	楕円長方形	(1.42) × 1.16	18-24	外傾	平坦	人為		SK260 → 本跡 → H171、S33、S34、PG3
368	O1560	N-1.4°-E	[楕円長方形]	0.980 × 0.98	10	外傾	平坦	人為	赤土土器、須恵器	SK271 → 本跡 → PG3
270	O1504	N-7.3°-W	楕円形	0.73 × 0.52	25	外傾	皿状	人為		
271	O1504	N-7.9°-W	円形-楕円形	0.51 × (0.28)	25	外傾	凹凸	人為		本跡 → SK270
274	O162	N-1.8°-W	長方形	1.13 × 0.89	35-48	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡 → PG3
275	O154	N-6.8°-E	楕円形	(1.40) × 1.26	46-54	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、鉄滓	本跡 → PG6
276	P161	-	円形	1.02 × 0.92	10-18	外傾	平坦	人為		本跡 → PG6
277	P161-2	-	円形	1.00 × 0.93	16-26	外傾・垂直	平坦	人為		
278	P161-2	-	円形	0.85 × 0.81	21	外傾・垂直	平坦	人為		
279	P162	N-6°-E	楕円形	0.78 × (0.46)	8	外傾	平坦	人為		H131 → 本跡 → PG6 SB40H133 → 本跡 → SK280、PG6 H133SK279、281 → 本跡
280	P162	N-0°	方形	0.86 × 0.85	45	内傾・垂直	平坦	人為		H131 → 本跡 → SK282、PG6
281	P162	N-2°-E	[長方形]	[1.16] × [1.05]	34-38	外傾	皿状	人為	石器	PG3 → 本跡 H131 → 本跡 SK282 → 本跡 → PG6
282	O155	N-8.2°-W	楕円長方形	1.03 × 0.64	42-50	外傾・垂直	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器、金属製品	PG3 → 本跡 H131 → 本跡 SK282 → 本跡 → PG6
283	O155	N-1.9°-E	楕円形	1.04 × 0.83	22	外傾	皿状	人為		本跡 → SB19、23、PG6 SK286、291 → 本跡 → SK283
284	O157	-	円形	1.82 × 1.74	26	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、石器、鉄滓	本跡 → PG6
285	P150	N-8.7°-W	方形	1.66 × 1.64	14-21	外傾	平坦	人為	土師器、金属製品	SK291 → 本跡 → SK283
286	P161	N-0°	方形	1.44 × 1.42	21-25	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	本跡 → PG6
287	P150	N-3.6°-E	方形	1.20 × 1.12	15-22	外傾	平坦	人為	土師器、金属製品	H134、36 → 本跡 → PG6
288	P150	N-7°-E	楕円形	1.58 × 1.37	10-16	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	H134、37、36 → 本跡 → PG6 本跡 → SK285、288、292、291、31、PG3 SK266 新出不明
289	P150	N-7.9°-W	方形	1.46 × 1.28	16-20	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、土師質土器	本跡 → SK286、286 本跡 → SK288、283 SK292、292 → 本跡 SK290、296 → 本跡 → SK296、298、PG3 本跡 → SK293、295、298、294、PG3
290	O1560	-	[円形-楕円形]	(1.65) × (1.45)	13	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡 → SK212、209、PG3 SK475 → 本跡 H139 → 本跡 → PG6 本跡 → HT35、PG3
291	P150	-	不整楕円形	1.37 × 0.44	7-13	外傾	皿状	人為		SK290 → 本跡 → SK253、302、PG3
292	O160	N-2.1°-E	楕円形	1.10 × 0.63	18	外傾	平坦	人為		H139 → 本跡 → PG6
293	O1560	N-3.4°-E	楕円形	0.80 × 0.42	16	外傾	皿状	人為		SK290、296 → 本跡 → SK296、298、PG3
294	O1560	N-2.3°-E	[楕円長方形]	1.35 × (0.62)	20	外傾	平坦	人為		SK290、296 → 本跡 → SK296、298、PG3
296	O150	-	[円形-楕円形]	(0.75) × (0.65)	8	外傾	平坦	人為		SK290、296 → 本跡 → SK296、298、PG3
295	O161	N-1.0°-E	[楕円形]	(1.85) × (1.09)	21	外傾	平坦	人為	赤土土器、土師器、須恵器、土師質土器、鉄滓	本跡 → SK212、209、PG3 SK475 → 本跡 H139 → 本跡 → PG6 本跡 → HT35、PG3
297	O1504	N-7.3°-W	[楕円形]	2.58 × (1.95)	58	外傾	皿状	人為		SK290 → 本跡 → SK253、302、PG3
299	P150	N-0°	楕円形	1.64 × 1.50	11-22	外傾	平坦	人為		SK290 → 本跡 → SK253、302、PG3
300	O155	N-7.9°-W	[楕円形]	1.88 × (0.45)	15	外傾	平坦	人為		SK290 → 本跡 → SK253、302、PG3
301	O1569	N-7.8°-W	不整楕円形	(2.10) × (0.80)	14	外傾	平坦	人為		S303 → 本跡 → SK315
302	O1569	N-7.8°-W	[楕円長方形]	(1.520) × 0.98	17	外傾	平坦	人為		HT40 → 本跡 → SK307 → 本跡 → PG6 本跡 → SK306、PG6
303	P161	N-3.9°-E	長方形	1.40 × 0.91	10-24	外傾	凹凸	人為		本跡 → PG6
306	P150	-	円形	1.55 × 1.50	10	外傾	平坦	人為		本跡 → SK306、PG6
307	P150	N-8.8°-W	長方形	1.42 × 1.05	28	外傾	平坦	人為		H157、56 → 本跡 → SK306、PG6
308	P162	N-8.4°-W	長方形	1.09 × 0.99	60	外傾・直立	平坦	人為		SK317、319 → 本跡 → PG6
311	P15-5	-	円形	1.05 × 1.05	20	外傾	平坦	人為		本跡 → SK316
312	P154	N-8.5°-W	[長方形]	(1.28) × 0.80	5-10	外傾	平坦	人為		SK319、322 → 本跡 → SK316、318
314	O162	N-6.9°-E	[円形-楕円形]	(0.68) × 0.66	26	直立	平坦	人為		SK332、334 → 本跡 → SK341、PG6 HT32 → 本跡 → SK322、PG6 本跡 → SK321 → 本跡 → PG6 本跡 → H153、SK326、PG6 SK335 新出不明 H153、54 → 本跡 → PG6
315	P1569	N-8.3°-E	[方形-長方形]	1.55 × 0.65	6-12	外傾	平坦	人為		SK324 → 本跡 → PG6
316	P161	N-0°	楕円形	1.35 × 1.18	30	外傾	皿状	人為		SK332、334 → 本跡 → SK341、PG6
317	P161	N-7.9°-W	楕円長方形	1.40 × 0.98	15	外傾	平坦	人為		SK332、334 → 本跡 → SK341、PG6
318	P161	N-8.1°-W	楕円長方形	0.85 × 0.70	13	外傾	皿状	人為		SK332、334 → 本跡 → SK341、PG6
319	P161	-	[円形-楕円形]	0.82 × (0.47)	10	垂直	皿状	人為		SK332、334 → 本跡 → SK341、PG6
320	P161	-	円形	1.60 × 1.49	38	外傾	平坦	人為		SK332、334 → 本跡 → SK341、PG6
321	P150	-	[円形]	(1.12) × 1.06	17	外傾	皿状	人為	土師器、須恵器	HT32 → 本跡 → SK322、PG6 本跡 → SK321 → 本跡 → PG6 本跡 → H153、SK326、PG6 SK335 新出不明 H153、54 → 本跡 → PG6
322	P150	N-1.0°-E	楕円形	1.48 × 1.02	66	内傾	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器	SK332、334 → 本跡 → SK341、PG6
324	P161	N-8°-E	楕円形	[1.52] × 1.32	10-15	外傾	平坦	人為		SK332、334 → 本跡 → SK341、PG6
325	P161	N-6.2°-W	方形	1.31 × 1.28	4-12	外傾	平坦	人為		SK332、334 → 本跡 → SK341、PG6
326	P161	N-3.1°-E	楕円形	1.45 × 1.07	8-23	外傾	皿状	人為		SK332、334 → 本跡 → SK341、PG6
327	P150	-	円形	1.18 × 1.07	7-14	外傾	平坦	人為		SK332、334 → 本跡 → SK341、PG6
328	P161	N-5.2°-E	楕円形	0.92 × 0.75	10	外傾	皿状	人為	土師器、須恵器	本跡 → PG6
329	P161	N-7.4°-W	楕円形	1.24 × 0.92	16-22	外傾	平坦	人為		SK339 → 本跡 → PG6
332	P161	-	[円形-楕円形]	1.08 × (0.78)	4-8	外傾	平坦	人為		本跡 → SK318、320、334、PG6

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
333	P1560	N-7°・E	楕円形	1.17 × 0.97	28-48	外傾・直立	平坦	人為	SK337 → 本跡 → SK339	
334	P1661	N-5.7°・E	楕円形	1.08 × [0.70]	14	外傾	平坦	人為	SK332 → 本跡 → SK320, PG6	
335	P1562	N-8.3°・W	長方形	2.49 × 1.85	2-9	外傾	平坦	人為		
336	P1560	N-8.5°・W	楕円形	0.73 × 0.66	22-26	外傾	平坦	人為	SK333 → 本跡 → PG6	
337	P1560	-	[円形・楕円形]	0.97 × (0.34)	22	外傾	平坦	人為	本跡 → SK333	
339	P1661	N-8.1°・W	長方形	0.56 × 0.41	14-16	直立・外傾	平坦	人為	本跡 → SK329	
340	P1560	-	円形	0.96 × 0.96	6-10	外傾	平坦	人為	本跡 → PG6	
341	P1661	N-8.9°・W	楕丸長方形	0.68 × 0.53	33	外傾	平坦	人為	SK320, PG6 → 本跡	
342	P1662	-	円形	0.83 × 0.78	10-12	外傾	平坦	人為	本跡 → HT-6	
343	P1569	N-1.3°・E	楕丸長方形	1.46 × 1.18	28	外傾	平坦	人為	SK344 → 本跡 → SK354, PG6	
344	P1569	N-7.5°・W	楕丸長方形	1.67 × 1.21	13	外傾	平坦	人為	柱 → SK31	
345	P1560	N-3°・W	長方形	1.08 × 0.97	26	外傾	平坦	人為	SK351 → 本跡	
346	P1560	-	円形	1.12 × 1.06	20-24	外傾	平坦	人為	SK347・351 → 本跡	
347	P1560	N-8.6°・W	[長方形]	(1.80) × (1.42)	25	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 陶器	
348	P1565	N-1.0°・E	長方形	1.70 × 0.94	9-14	外傾	平坦	人為	本跡 → SK331・346, PG6	
349	P1566	N-2.5°・E	長方形	0.64 × 0.51	53	直立	平坦	人為	SK6 → 本跡 → PG6	
350	P1560	N-9°・E	[楕円形]	(1.26) × (1.00)	16-20	外傾	平坦	人為	本跡 → SK351, PG6	
351	P1560	N-1.1°・W	[楕円形]	1.15 × (0.70)	30	外傾	平坦	人為	HT60, SK350 → 本跡 → SK345・346, PG6	
352	P1662	-	[円形・楕円形]	1.00 × (0.51)	23	外傾	平坦	人為	本跡 → PG6	
353	P1568	N-4°・E	楕円形	1.84 × 1.42	37	外傾	屈状	人為	本跡 → PG6	
354	P1569	-	円形	0.47 × 0.45	26	外傾	屈状	人為	SK343, PG6 → 本跡	
355	P1662	N-9°・E	方形	1.01 × 1.00	68	外傾・直立	平坦	人為	SK8, SK356・357・420 → 本跡	
356	P1662	N-7.7°・W	[楕丸長方形]	0.92 × (0.44)	40-44	外傾	平坦	人為	本跡 → SK355	
357	P1661	N-7.7°・W	[楕丸長方形]	0.74 × (0.74)	20-22	外傾	平坦	人為	SK360, 直井(石目) → 本跡 → SK355・420, SK38	
358	P1569	N-8.9°・W	長方形	0.78 × 0.58	17-22	外傾	平坦	人為	本跡 → SK359	
359	P1569	N-1°・W	長方形	1.08 × (0.92)	5-7	外傾	屈状	人為	SK358・360 → 本跡	
360	P1569	N-1°・W	方形	1.09 × 0.92	16-18	外傾	屈状	人為	SK365 → 本跡 → SK359	
361	Q1569	N-5.2°・W	楕円形	1.69 × 1.30	17-20	外傾	屈状	人為	SK365 → 本跡	
362	Q1568	N-0°	方形	0.76 × 0.72	14	直立	円凸	人為		
363	P1568	N-1.0°・E	楕円形	1.02 × 0.82	14	外傾	平坦	人為		
364	P1568	N-7.4°・W	楕円形	0.97 × 0.87	12	外傾	平坦	人為	PG6 → 本跡	
365	P1569	N-7.5°・W	楕円形	1.65 × [1.08]	6-10	外傾	屈状	人為	本跡 → SK360・361	
366	P1560	-	円形	1.55 × 1.44	22-40	外傾	屈状	人為	本跡 → SK36	
367	P1560	N-1.6°・E	長方形	[1.53] × 1.32	16-27	外傾	屈状	人為	SK368 → 本跡	
368	P1560	N-2.6°・W	楕円形	(1.58) × 1.12	20-30	外傾・直立	平坦	人為	SK369 → 本跡 → SK367, PG6	
369	P1560	N-1.6°・W	楕円形	(1.17) × 0.80	27	外傾	平坦	人為	SK369 → 本跡 → SK367, PG6	
370	P1661	-	円形	1.10 × 1.10	20-25	外傾	平坦	人為	SK371 → 本跡 → PG6	
371	P1661	N-1.6°・E	楕円形	(1.58) × 1.04	8-15	外傾	平坦	人為	SK369 → 本跡 → SK370, PG6	
372	P1662	N-3.9°・W	[方形・長方形]	0.89 × (0.84)	7	直立	平坦	人為	本跡 → SK373	
373	P1662	N-1.3°・E	[円形・楕円形]	(1.43) × (1.13)	38-45	外傾	平坦	人為	SK372・394 → 本跡	
374	P1569	N-6.8°・E	楕円形	1.19 × 0.82	16	外傾	平坦	人為	PG6・柱 → PG6	
375	Q1569	-	円形	1.28 × 1.17	16	外傾	平坦	人為	SK376 → 本跡 → SK365	
376	Q1569	N-8.8°・E	長方形	2.00 × 1.65	25-42	外傾	円凸	人為	本跡 → SK375	
378	Q1569	N-3°・E	[長方形]	(1.47) × 1.31	34-37	外傾	平坦	人為	SK379 → 本跡 → SK377	
379	Q1569	N-1.0°・W	長方形	1.70 × (1.48)	15	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
380	Q1661	-	円形	0.90 × (0.81)	23-27	外傾	平坦	人為	本跡 → SK378	
381	Q1560	N-8.8°・W	方形	[1.34] × 1.22	18-20	外傾	平坦	人為	SK381 → 本跡 → PG6	
383	O157	N-9.0°	楕円形	1.35 × 1.20	12	外傾	平坦	人為	本跡 → SK380, PG6	
384	Q1567	N-3.3°・E	楕円形	1.46 × 1.19	24	外傾	平坦	人為	本跡 → SK21・27, PG3	
385	P1568	N-2.2°・E	[楕円形]	(3.90) × (1.55)	12	外傾	円凸	人為	SK385 直井(不明)	
386	P1568	-	[円形]	[1.06] × 1.11	27	外傾	屈状	人為	SK386・387 → 本跡	
387	P1568	N-8.3°・W	[長方形]	[1.85] × (1.03)	20	外傾	平坦	人為	SK384 直井(石目)	
388	P1560	N-2.0°・E	[楕円形]	1.15 × (0.70)	30	直立	平坦	人為	本跡 → SK385	
389	P1560	N-8.3°・E	[長方形]	(1.14) × (0.84)	20	外傾	円凸	人為	本跡 → SK385	
390	P1560	N-4.0°・E	[楕円形]	(1.44) × 1.04	25	外傾	屈状	人為	SK390 → 本跡 → SK38	
391	Q1569	-	円形	1.10 × 1.05	9	緩斜	屈状	人為	SK393 → 本跡 → SK389	
392	Q1566	-	円形	1.68 × 1.64	22	緩斜	屈状	人為	SK392 → 本跡 → PG6	
393	P1560	N-4.9°・E	[円形・楕円形]	1.76 × (1.14)	25	外傾	屈状	人為	本跡 → SK391 → PG6	
394	P1662	-	[円形・楕円形]	(1.08) × (0.49)	22	緩斜	平坦	人為	SK397 → 本跡 → SK390	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	高さ (cm)					
396	P158	N-87°-W	[円形・楕円形]	(1.52) × (0.61)	18	外植	皿状	人為	土師器、陶器	
397	P156	N-62°-W	[楕円形]	(1.02) × (0.80)	8	外植	平皿	人為		48→SK30-38
398	P159	N-28°-E	楕円形	1.81 × 1.11	18	外植	平皿	人為	土師器、須恵器、土師質土器、陶器	SK397、399→本跡→PG6 本跡→SK38、PG6
399	P159	N-70°-E	[楕円形]	(0.50) × (0.40)	28	外植	皿状	人為		本跡→SK99、PG3
400	O157	N-7°-E	方形	1.00 × 0.94	32	外植	平皿	人為	礎石	本跡→SK136→本跡
401	P159	-	[円形・楕円形]	(1.30) × (0.50)	15	外植	皿状	人為		PG6→本跡 →SK38、PG6
402	Q159	N-90°	楕円形	2.55 × 1.88	12	縦葺	皿状	人為	須恵器、土師質土器、瓦質土器、瓦石、瓦、金銅製品、鉄片	SK136→本跡
403	Q157	N-3°-E	楕円形	1.03 × 0.50	14	外植	皿状	人為		
404	Q158	N-85°-W	隅丸方形	0.95 × 0.64	44	直立	平皿	人為		
405	P156	N-86°-E	[楕円形]	(0.98) × (0.88)	21	外植	平皿	人為		SE8 前出不明
406	P159	N-5°-W	楕円形	1.96 × 1.27	21	外植	平皿	人為		SE8→本跡 PG3 前出不明
407	P159	N-2°-W	不整形	2.68 × 1.68	38	外植	皿状	人為		
408	Q156	N-85°-W	楕円形	1.72 × 1.29	6	外植	平皿	人為		
409	Q156	-	円形	1.65 × 1.62	8	外植	平皿	人為		
410	Q157	-	円形	1.20 × 1.25	35	外植	皿状	人為		
411	Q155	N-3°-W	方形	0.73 × 0.75	10	直立	平皿	人為		
412	P159	N-18°-W	隅丸方形	1.27 × 1.16	16	外植	平皿	人為		H171、72→本跡→PG6
413	P151	N-18°-E	長方形	5.18 × 1.46	30	内植	平皿	人為		
414	P152	N-88°-W	長方形	3.10 × 1.42	75	内植	平皿	人為		
415	P154	N-76°-E	長方形	2.68 × 1.13	65	内植	平皿	人為		SK428→本跡
416	Q151	N-24°-E	長方形	4.70 × 1.28	29	内植	平皿	人為		
417	P155	N-2°-W	長方形	2.38 × 1.10	50	内植	平皿	人為		
418	P156	N-20°-W	長方形	1.80 × 1.45	30	直立	平皿	人為		本跡→PG6
420	P161	N-77°-W	[方形]	0.82 × 0.64	46~50	内植・外植	平皿	人為		SK356→本跡 →SK355
421	O156	N-8°-W	長方形	1.62 × 1.23	25	外植	平皿	人為		赤土土器、土師器、須恵器、陶器
422	O156	-	円形	0.62 × 0.62	17	外植	皿状	人為		本跡→SI231、PG3
425	Q146	N-78°-W	長方形	3.11 × 1.42	48	直立	平皿	人為		SK426→本跡
426	Q146	N-78°-W	長方形	2.66 × 1.10	56	内植	平皿	人為		本跡→SK425
427	Q157	N-80°-E	長方形	0.93 × 0.68	30	直立	平皿	人為		
428	Q151	N-6°-E	長方形	12.38 × 1.09	53	内植	平皿	人為		本跡→SK414
429	P156	N-0°	楕円形	1.04 × 0.84	12~21	外植	平皿	人為		SK440→本跡
430	P153	-	円形	0.64 × 0.64	35	外植	平皿	人為		H174→本跡
431	P152	N-70°-W	楕円形	1.65 × 1.05	16	外植	平皿	人為		本跡→PG5
433	P153	-	円形	1.03 × 0.97	89	外植・直立	平皿	人為		本跡→SK440
434	P152	N-28°-E	楕円形	2.68 × 1.93	19	外植	平皿	人為		本跡→SK448
435	P154	N-16°-E	長方形	2.08 × 0.92	13	外植	平皿	人為		
436	P154	N-15°-E	長方形	3.26 × 0.95	36	内植	平皿	人為		
437	P154	N-10°-E	長方形	2.18 × 1.08	74	内植	平皿	人為		本跡→SK443
438	P159	N-8°-W	楕円形	1.30 × 1.06	12	直立	平皿	人為		SK439→本跡 SE37→本跡→SK438
439	P158	N-86°-W	長方形	6.84 × 1.21	47	内植	平皿	人為		SK443→本跡
440	P153	N-88°-W	楕円形	1.48 × 0.95	88	直立	平皿	人為		
441	P153	N-75°-W	長方形	1.12 × 0.79	34	直立	平皿	人為		
442	P154	N-78°-W	長方形	3.06 × 1.10	72	内植	平皿	人為		SK449、433→本跡 SK437、444、449→本跡 →SK442、443、449
443	P154	N-5°-E	長方形	[1.56] × 0.88	39	直立	平皿	人為		
444	P154	N-21°-E	長方形	(2.48) × 0.93	74	内植	平皿	人為		
445	P152	N-84°-W	楕円形	0.86 × 0.77	34	直立	平皿	人為		
446	O147	N-88°-W	方形	0.84 × 0.81	31	直立	平皿	人為		
447	O147	N-12°-W	楕円形	(1.89) × (1.03)	35	縦葺	円凸	人為		
448	P152	N-2°-E	隅丸方形	1.06 × 1.01	77	直立	平皿	人為		SK434→448 SK444→本跡 →SK442、443
449	P154	N-6°-W	長方形	1.90 × 0.94	56	直立	平皿	人為		
450	Q156	N-4°-W	長方形	3.91 × 1.33	49	内植	平皿	人為		土師器、須恵器
451	O156	N-72°-W	[円形・楕円形]	(1.98) × (1.34)	84	外植	平皿	人為		土師器、土師質土器、陶器
452	P154	N-87°-W	方形	1.14 × 1.06	40	直立	平皿	人為		本跡→H176、77、PG3
453	P151	N-61°-E	楕円形	1.64 × 0.59	69	外植	皿状	人為		本跡→SI43
455	P151	N-80°-W	[長方形]	(1.46) × (1.03)	24	外植	平皿	人為		
456	O156	N-79°-W	[方形・長方形]	1.64 × (1.24)	42	外植	平皿	人為		本跡→H178、80、PG3
457	P158	N-88°-W	楕円形	0.99 × 0.41	36	直立	円凸	人為		本跡→SE34
458	P157	N-35°-E	不定形	(0.81) × (0.68)	14~30	外植	皿状	人為		本跡→SK961
459	P158	N-6°-E	[円形・楕円形]	(0.66) × 0.64	44	直立・外植	皿状	人為		本跡→H182、SK473
460	P155	-	円形	1.21 × (0.74)	29	外植	皿状	人為		SK466→本跡 →SK467
461	O156	N-72°-W	楕円形	2.24 × 1.91	16	縦葺	皿状	人為		本跡→SK965、467
464	O156	N-72°-W	[円形・楕円形]	(0.85) × (0.38)	40	外植	皿状	人為		SK466、465→本跡
465	P161	N-2°-W	楕円形	0.88 × 0.45	11	縦葺	皿状	人為		
466	P161	N-89°-W	楕円形	(1.36) × 0.55	43	直立	平皿	人為		
467	P161	N-15°-W	楕円形	1.54 × 0.86	23	直立	平皿	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
468	P16a1	-	円形	1.25 × 1.24	32	外傾	皿状	人為		
469	P157	N - 53° - E	円形・楕円形	0.79 × (0.62)	11	外傾	皿状	人為		SK470 新旧不明
470	P157	N - 23° - W	楕円形	(1.02) × 0.88	20	外傾・直立	平坦	人為		SK469 新旧不明
471	O15a5	N - 68° - E	楕円形	(0.92) × (1.60)	38	外傾・直立	皿状	人為		H782 → 本跡
472	O15b5	-	円形	0.82 × 0.80	39	外傾	皿状	人為		PC3 → 本跡
473	O15b6	N - 81° - W	円形・楕円形	(0.91) × (1.07)	14	直立	平坦	人為		SK464 → 本跡 → H176
474	P15e7	-	円形	1.30 × 1.25	10	概斜	皿状	人為		本跡 → SK34, PC3
475	O15b4	N - 0°	楕円形	(1.17) × (1.03)	74	外傾	平坦	人為		本跡 → SK297

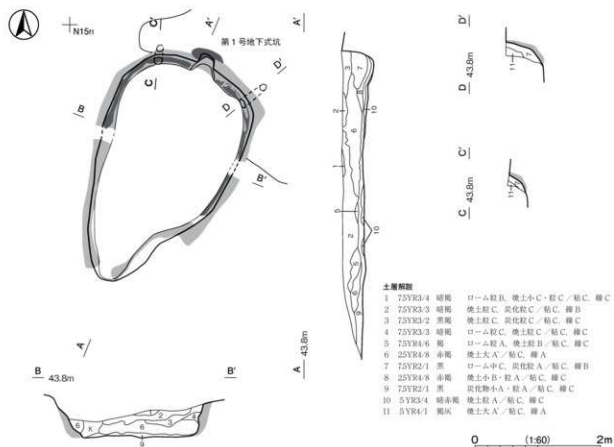
(4) 炭窯跡

第1号炭窯跡 (第207図 PL17)

位置 調査2区北部のN15f1区、標高44mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第1号地下式坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.95m、短軸2.20m、深さ51cmのイチジク形である。主軸方向は、N - 25° - Eで、南側に焚口部が設けられ、焚口幅は52cmである。底面は平坦で、壁は直立または外傾して立ち上がっている。奥壁に煙道が3か所確認でき、中央の煙道は、壁面を幅39cm、奥行き30cm掘り込み、直立している。奥壁の東西コーナー部にはそれぞれ1か所ずつ小型の煙道が設けられており、外傾して立ち上がっている。内壁は火熱により赤変硬化している。底面には炭化物及び焼土主体の第9・10層が全面に広がり、床面の被熱は弱い。



第207図 第1号炭窯跡平面図

覆土 11層に分層できる。第1～5層は締まりが非常に弱く、一括して埋め戻された埋土である。第6～8層は窯天井部の崩落土である。第9層は炭化物層で、窯採集時の堆積物である。第11層は、煙道部構築のため貼られた土である。

遺物出土状況 土師器片5点、須恵器片1点、鉄滓1点が出土しているが、埋土に混入したものである。

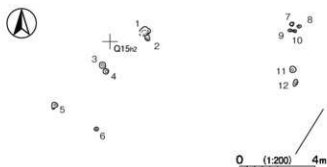
所見 遺構に伴う遺物がなく、明確な時期を特定することができなかったが、埋め戻しの埋土の締まりが弱く、現表土に近い土質であることから、近代以降の炭窯跡と考えられる。

(5) ビット群

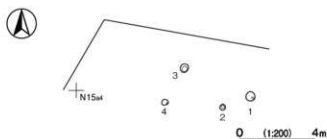
ビット群は6か所確認した。全体の配置は調査区を分割して作成し、規模は計測表にて掲載する。



第208図 ビット群位置図



第209図 第1号ビット群実測図



第210図 第2号ビット群実測図

第94表 第1号ビット群一覧

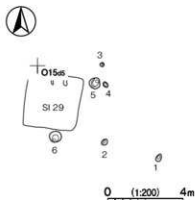
番号	位置	形状	規模		
			長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考
1	Q 15q2	不整楕円形	58 × 43	36	
2	Q 15q2	楕円形	34 × 24	30	
3	Q 15q1	隅丸方形	32 × 31	17	
4	Q 15q1	円形	28 × 28	50	
5	Q 15q1	不整楕円形	38 × 31	21	
6	Q 15q1	楕円形	22 × 20	19	
7	Q 15q1	円形	22 × 22	33	
8	Q 15q4	楕円形	20 × 17	22	
9	Q 15q4	楕円形	21 × 15	22	
10	Q 15q4	楕円形	17 × 14	30	
11	Q 15q4	円形	34 × 34	22	
12	Q 15q4	楕円形	37 × 23	22	

第95表 第2号ビット群一覧

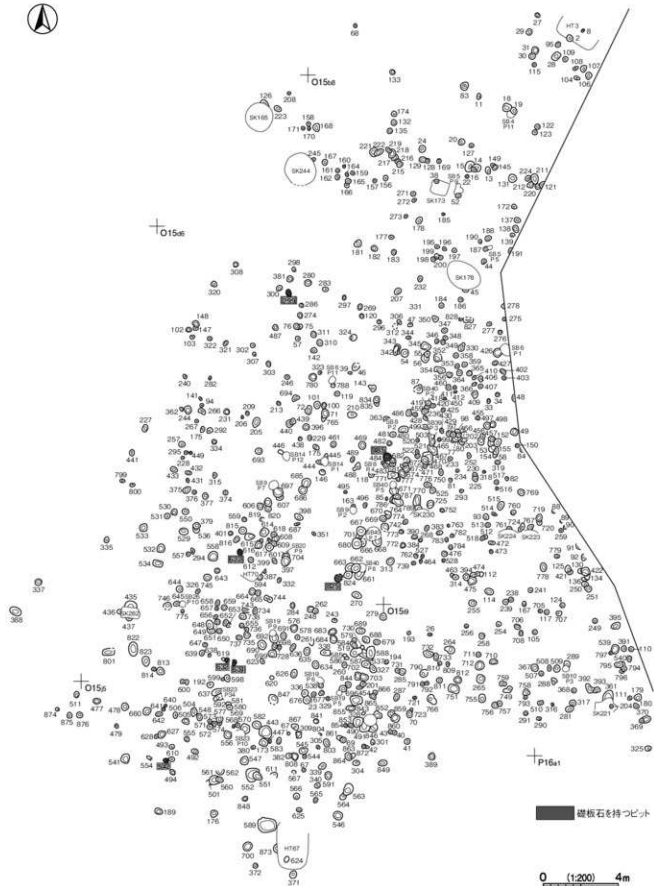
番号	位置	形状	規模		
			長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考
1	N 15e6	円形	48 × 48	47	
2	N 15e2	円形	32 × 32	36	
3	M 15q5	円形	44 × 44	32	
4	N 15a5	円形	34 × 34	51	

第97表 第4号ビット群一覧

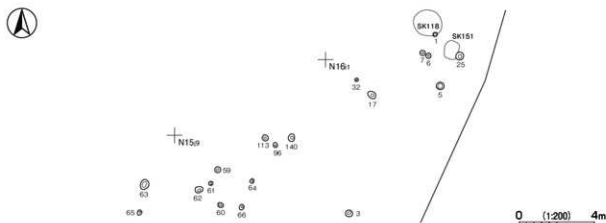
番号	位置	形状	規模		
			長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考
1	O 15q6	楕円形	39 × 26	31	
2	O 15q5	楕円形	34 × 29	15	
3	O 15c5	円形	22 × 22	20	
4	O 15q5	楕円形	32 × 22	29	
5	O 15q5	円形	58 × 57	57	
6	O 15q5	円形	61 × 57	81	



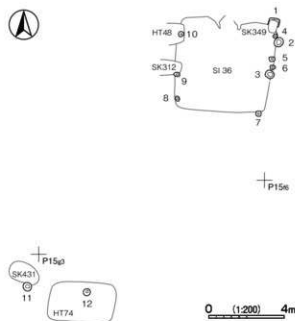
第213図 第4号ビット群実測図



第211図 第3号ピット群実測図(1)



第212図 第3号ピット群実測図(2)



第214図 第5号ピット群実測図

第98表 第5号ピット群一覧

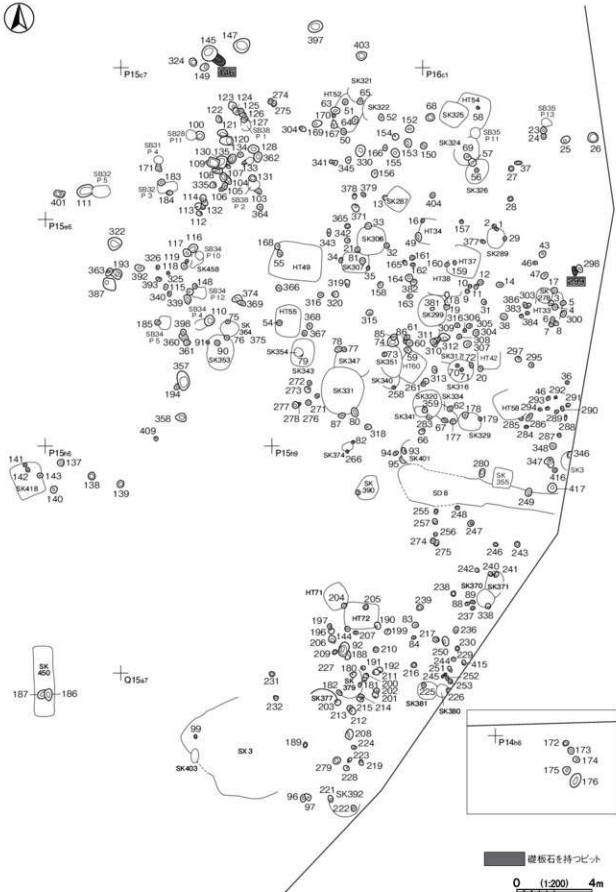
番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (cm)	深さ (cm)
1	P 1 5 c6	隅丸長方形	56 × 33	30
2	P 1 5 d6	円形	49 × 47	31
3	P 1 5 d6	楕円形	47 × 42	22
4	P 1 5 d6	円形	23 × 21	53
5	P 1 5 d6	楕円形	32 × 25	58
6	P 1 5 d6	楕円形	29 × 22	74
7	P 1 5 e5	円形	32 × 31	37
8	P 1 5 d4	円形	25 × 23	9
9	P 1 5 d4	楕円形	29 × 23	36
10	P 1 5 d4	楕円形	30 × 27	20
11	P 1 5 g2	円形	45 × 44	42
12	P 1 5 g3	円形	38 × 38	35

第96表 第3号ピット群一覧

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (cm)	深さ (cm)
1	N 1 6 b2	円形	28 × 27	47
2	O 1 6 a1	楕円形	38 × 34	32
3	O 1 6 a1	円形	36 × 35	50
5	N 1 6 c2	円形	42 × 42	65
6	N 1 6 b2	楕円形	31 × 27	60
7	N 1 6 b2	楕円形	30 × 27	42
8	O 1 6 a1	楕円形	20 × 15	(25)
11	O 1 5 b0	円形	35 × 33	61
13	O 1 5 c0	楕円形	43 × 39	33
14	O 1 5 c0	円形	48 × 46	40
15	O 1 5 c0	[楕円形]	64 × (50)	66
16	O 1 5 c0	楕円形	34 × 27	65
17	N 1 6 c1	楕円形	47 × 36	35
18	O 1 5 b0	楕円形	42 × 35	47
19	O 1 5 b0	[楕円形]	(30) × 31	34
20	O 1 5 b0	楕円形	37 × 33	34
22	O 1 5 c0	円形	55 × 52	33
23	O 1 5 b8	楕円形	40 × 36	41
24	O 1 5 b9	円形	39 × 37	66

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (cm)	深さ (cm)
25	N 1 6 b2	円形	45 × 45	128
26	O 1 5 b9	楕円形	31 × 18	43
27	O 1 5 a1	円形	28 × 26	35
28	O 1 6 a1	楕円形	47 × 35	64
29	O 1 5 a0	円形	23 × 22	13
30	O 1 5 a1	円形	35 × 35	46
31	O 1 5 a0	[円形]	(32) × 32	15
32	N 1 6 c1	円形	39 × 20	23
33	O 1 5 b0	円形	21 × 21	29
34	O 1 5 b0	円形	18 × 18	24
38	O 1 5 c9	円形	26 × 24	55
39	O 1 5 c8	楕円形	29 × 22	37
40	O 1 5 b9	楕円形	38 × 19	38
41	O 1 5 b9	円形	41 × 38	15
42	O 1 5 b8	[楕円形]	(42) × 34	36
43	O 1 5 b9	[円形・楕円形]	26 × (20)	18
44	O 1 5 d0	楕円形	32 × 26	40
45	O 1 5 d0	[楕円形]	(34) × (30)	29
46	O 1 5 e8	[楕円形]	(37) × (31)	8

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (cm)	深さ (cm)
47	O 1 5 e9	楕円形	30 × 24	66
48	O 1 5 b0	[円形・楕円形]	62 × (33)	26
49	O 1 5 b0	円形	46 × 44	(85)
52	O 1 5 e9	[楕円形]	31 × (25)	47
54	O 1 5 e9	楕円形	44 × 40	45
55	O 1 5 e9	楕円形	34 × 30	54
56	O 1 5 e9	[楕円形]	44 × (39)	25
57	O 1 5 c7	楕円形	35 × 34	32
58	O 1 5 a0	[円形・楕円形]	(25) × 23	(84)
59	N 1 5 b9	円形	33 × 32	30
60	N 1 5 b9	楕円形	26 × 25	25
61	N 1 5 b9	楕円形	25 × 21	38
62	N 1 5 b9	不整形円形	42 × 33	66
63	N 1 5 b8	楕円形	56 × 42	67
64	N 1 5 b0	円形	23 × 22	2
65	O 1 5 a8	楕円形	27 × 24	20
66	N 1 5 b9	円形	29 × 25	24
67	P 1 5 a7	楕円形	43 × 30	38
68	O 1 5 a8	楕円形	21 × 18	15



第 215 図 第 6 号ピット群実測図

番号	位置	形状	基礎		番号	位置	形状	基礎		番号	位置	形状	基礎	
			長径×短径 (cm)	高さ (cm)				長径×短径 (cm)	高さ (cm)				長径×短径 (cm)	高さ (cm)
47	0 1 5-9	楕円形	30 × 24	66	135	0 1 5-9	円形	31 × 30	15	214	0 1 5-9	円形	26 × (26)	20
48	0 1 5-9	[円形-楕円形]	62 × (33)	39	136	0 1 6-1	楕円形	32 × (18)	43	217	0 1 5-9	楕円形	29 × (19)	10
49	0 1 5-9	円形	46 × 44	(85)	137	0 1 5-9	楕円形	36 × 33	51	218	0 1 5-9	楕円形	29 × 36	20
52	0 1 5-9	[楕円形]	31 × (25)	47	138	0 1 5-9	楕円形	42 × 31	25	219	0 1 5-9	楕円形	29 × 36	35
54	0 1 5-9	楕円形	44 × 40	45	139	0 1 5-9	楕円形	24 × 20	16	220	0 1 6-1	円形	29 × 29	28
55	0 1 5-9	楕円形	34 × 30	54	140	N 1 5-9	楕円形	42 × 34	55	221	0 1 5-8	楕円形	50 × (32)	46
56	0 1 5-9	楕円形	44 × (30)	25	141	0 1 5-8	長方形	19 × 12	29	222	0 1 5-8	楕円形	54 × 32	37
57	0 1 5-7	楕円形	35 × 31	32	142	0 1 5-7	楕円形	33 × 28	45	223	0 1 5-7	楕円形	41 × 29	33
58	0 1 5-9	[円形-楕円形]	(25) × 23	(18)	143	0 1 5-8	不定形	53 × 44	57	224	0 1 5-7	楕円形	33 × 26	31
59	N 1 5-9	円形	33 × 32	30	144	0 1 5-7	楕円形	71 × 52	67	225	0 1 5-9	円形	30 × 30	45
60	N 1 5-9	楕円形	28 × 25	25	145	0 1 5-9	楕円形	33 × 27	43	226	0 1 5-9	楕円形	50 × 34	25
61	N 1 5-9	楕円形	25 × 21	26	146	0 1 5-8	[円形-楕円形]	35 × (25)	76	227	0 1 5-5	楕円形	35 × 24	80
62	N 1 5-9	不整楕円形	42 × 33	56	147	0 1 5-6	[楕円形]	29 × (21)	30	228	0 1 5-6	長方形	29 × 18	38
63	N 1 5-8	楕円形	56 × 42	67	148	0 1 5-6	楕円形	39 × 30	35	229	0 1 5-7	楕円形	27 × 22	45
64	N 1 5-9	円形	23 × 22	2	149	0 1 5-9	楕円形	39 × (17)	63	230	0 1 5-9	[楕円形]	(28) × (20)	24
65	0 1 5-8	楕円形	27 × 24	20	150	0 1 5-9	円形	23 × 22	16	231	0 1 5-8	円形	37 × 37	24
66	N 1 5-9	円形	29 × 25	24	152	0 1 5-9	楕円形	47 × 36	81	232	0 1 5-9	楕円形	32 × 36	37
67	P 1 5-7	楕円形	43 × 30	38	153	0 1 5-9	[楕円形]	(40) × 35	47	233	0 1 5-9	円形	24 × 24	32
68	0 1 5-8	楕円形	21 × 18	15	154	0 1 5-9	楕円形	(40) × 34	56	234	0 1 5-9	楕円形	18 × 16	6
69	0 1 5-8	楕円形	35 × 31	87	155	0 1 5-9	楕円形	(45) × (32)	48	238	0 1 5-9	楕円形	36 × 30	61
70	0 1 5-9	[楕円形]	(59) × 40	19	156	0 1 5-9	円形	30 × 29	45	238	0 1 5-9	円形	28 × 27	28
71	0 1 5-8	楕円形	49 × 40	70	157	0 1 5-8	楕円形	24 × 20	16	239	0 1 5-9	楕円形	28 × 26	32
72	0 1 5-7	[円形]	35 × (30)	48	158	0 1 5-8	楕円形	25 × 22	32	240	0 1 5-6	隅丸方形	20 × 20	35
73	0 1 5-7	[楕円形]	(36) × (27)	65	159	0 1 5-8	円形	25 × 23	28	241	0 1 5-9	隅丸方形	25 × 23	66
76	0 1 5-7	楕円形	34 × 29	80	160	0 1 5-8	円形	19 × 18	43	243	0 1 5-8	楕円形	33 × 27	65
77	0 1 5-9	[楕円形]	(47) × (44)	67	161	0 1 5-8	円形	23 × 22	18	244	0 1 5-8	楕円形	43 × 38	31
80	0 1 5-9	楕円形	30 × 25	74	162	0 1 5-8	楕円形	29 × 26	25	245	0 1 5-8	[円形-楕円形]	20 × (19)	36
81	0 1 5-9	円形	22 × 21	45	163	0 1 5-8	[円形-楕円形]	22 × (12)	68	246	0 1 5-7	円形	28 × 36	13
82	0 1 5-9	隅丸方形	24 × 13	64	164	0 1 5-8	楕円形	23 × 19	29	248	0 1 5-7	楕円形	37 × 33	35
83	0 1 5-9	円形	38 × 36	38	165	0 1 5-8	円形	30 × 28	-	249	0 1 6-1	円形	27 × 36	36
84	0 1 5-9	[円形-楕円形]	(25) × (19)	31	166	0 1 5-8	[円形-楕円形]	27 × (24)	-	250	0 1 6-1	[楕円形]	33 × (21)	22
85	0 1 5-9	楕円形	20 × 13	33	167	0 1 5-8	楕円形	33 × 29	-	251	0 1 6-1	楕円形	37 × 33	45
87	0 1 5-9	不定形	47 × (45)	65	168	0 1 5-8	楕円形	44 × 37	-	252	0 1 5-9	楕円形	30 × 21	69
88	0 1 6-1	[円形-楕円形]	26 × (16)	23	169	0 1 5-9	円形	26 × 25	36	254	0 1 5-9	円形	27 × 27	51
89	0 1 6-1	[円形-楕円形]	(20) × (12)	25	170	0 1 5-8	楕円形	22 × 17	26	255	0 1 5-9	楕円形	41 × 34	69
90	0 1 6-1	[円形-楕円形]	32 × (13)	26	171	0 1 5-7	円形	22 × 21	52	256	0 1 5-9	円形	35 × 32	25
91	0 1 6-1	[円形-楕円形]	(40) × (16)	40	172	0 1 5-9	楕円形	30 × 25	22	257	0 1 5-8	楕円形	36 × 28	37
92	0 1 6-1	楕円形	32 × (26)	30	174	0 1 5-9	円形	28 × 27	12	258	0 1 5-9	円形	31 × 29	42
93	0 1 5-9	楕円形	40 × 30	45	175	0 1 5-7	円形	42 × 42	58	259	0 1 6-1	楕円形	22 × 29	25
94	0 1 5-8	楕円形	22 × 20	34	175	0 1 5-5	不整楕円形	36 × 29	53	260	0 1 5-8	楕円形	23 × 20	42
95	0 1 6-2	円形	31 × 29	39	176	0 1 5-6	円形	25 × 22	32	261	0 1 5-8	[円形-楕円形]	31 × (49)	48
96	N 1 5-9	不整楕円形	31 × 29	78	177	0 1 5-9	楕円形	30 × 21	23	262	0 1 5-7	[楕円形]	33 × 25	28
97	0 1 5-9	楕円形	33 × 29	71	178	0 1 5-9	楕円形	41 × 34	50	264	0 1 5-9	不定形	66 × 51	68
98	0 1 5-9	[楕円形]	(33) × (23)	26	179	0 1 6-2	円形	48 × 46	40	265	0 1 5-9	円形	49 × 45	58
99	0 1 5-9	[楕円形]	17 × (15)	35	180	0 1 6-2	円形	29 × 29	38	266	0 1 5-8	不定形	41 × 38	37
100	0 1 5-8	楕円形	32 × 29	58	181	0 1 5-8	楕円形	28 × 27	27	267	0 1 5-8	円形	23 × 21	40
102	0 1 5-6	隅丸方形	27 × 25	35	182	0 1 5-8	楕円形	23 × 23	27	268	0 1 5-9	楕円形	32 × 22	25
103	0 1 5-6	楕円形	27 × 23	32	183	0 1 5-9	楕円形	31 × 28	30	269	0 1 5-9	楕円形	32 × 21	39
104	0 1 6-1	楕円形	32 × 20	36	184	0 1 5-9	円形	28 × 27	31	270	0 1 5-8	楕円形	55 × 43	46
105	0 1 6-1	円形	25 × 24	59	185	0 1 5-9	楕円形	18 × 16	19	271	0 1 5-9	円形	26 × 25	23
106	0 1 6-1	楕円形	37 × 32	49	186	0 1 5-9	円形	27 × 25	23	272	0 1 5-9	楕円形	27 × 21	15
107	0 1 6-1	楕円形	40 × 31	56	187	0 1 5-9	[円形-楕円形]	(28) × 35	30	273	0 1 5-9	楕円形	22 × 20	28
108	0 1 6-1	円形	31 × 29	49	188	0 1 5-9	楕円形	34 × 29	45	274	0 1 5-9	楕円形	29 × 22	36
109	0 1 6-2	円形	31 × 30	65	189	P 1 5-6	楕円形	55 × 44	48	275	0 1 5-7	楕円形	23 × 20	42
110	0 1 6-2	円形	29 × 27	36	190	0 1 5-9	不定形	29 × 25	20	276	0 1 5-6	円形	25 × 24	50
111	0 1 6-2	円形	27 × 26	25	191	0 1 5-9	[楕円形]	(31) × (18)	30	277	0 1 5-9	楕円形	28 × 21	32
112	0 1 5-9	[楕円形]	(23) × 22	42	192	0 1 5-6	楕円形	48 × 42	40	278	0 1 5-9	[方形]	(30) × (17)	42
113	N 1 5-9	円形	34 × 32	51	193	0 1 5-9	楕円形	39 × 23	37	279	0 1 5-8	楕円形	54 × 45	49
114	N 1 5-9	楕円形	47 × 30	27	194	0 1 5-9	楕円形	36 × 33	30	280	0 1 5-8	隅丸方形	30 × 28	26
115	0 1 5-9	楕円形	26 × 23	44	195	0 1 5-9	楕円形	25 × 18	19	281	0 1 6-1	[円形]	33 × 27	66
116	0 1 5-9	楕円形	30 × 25	27	196	0 1 5-9	円形	22 × 21	18	282	0 1 5-8	楕円形	22 × 18	33
117	0 1 6-1	円形	34 × 33	43	197	0 1 5-9	円形	24 × 24	29	283	0 1 5-8	円形	25 × 25	45
118	0 1 5-8	[円形-楕円形]	(33) × (19)	(72)	198	0 1 5-9	円形	26 × 25	39	284	0 1 5-8	楕円形	36 × 33	62
119	0 1 5-8	不整楕円形	37 × 27	60	199	0 1 5-9	[楕円形]	(27) × (23)	38	285	0 1 5-9	[円形]	(45) × 42	25
120	0 1 5-8	円形	27 × 25	20	200	0 1 5-9	楕円形	38 × 22	29	286	0 1 5-7	円形	21 × 20	14
121	0 1 6-1	[円形-楕円形]	41 × (20)	62	201	0 1 5-6	楕円形	50 × 41	56	287	0 1 5-9	不整楕円形	65 × 30	45
122	0 1 6-1	円形	30 × 28	14	202	0 1 5-9	[円形-楕円形]	33 × (27)	32	288	0 1 5-1	不整楕円形	37 × 37	30
123	0 1 5-9	円形	28 × 27	18	203	0 1 5-9	[楕円形]	36 × (21)	32	289	0 1 6-1	[楕円形]	(26) × 24	38
124	0 1 6-1	円形	27 × 27	23	204	0 1 6-2	楕円形	22 × 21	21	290	0 1 6-1	隅丸方形	22 × 17	57
125	0 1 6-1	不整楕円形	33 × 31	25	205	0 1 5-7	楕円形	23 × 38	25	291	0 1 5-9	隅丸方形	24 × 23	30
126	0 1 5-7	[楕円形]	(55) × (40)	30	206	0 1 5-7	楕円形	19 × 16	28	292	0 1 5-8	楕円形	35 × 28	33
127	0 1 5-9	円形	25 × 24	29	207	0 1 5-9	楕円形	41 × 30	22	293	0 1 5-9	円形	22 × 21	32
128	0 1 5-9	円形	23 × 22	35	208	0 1 5-7	楕円形	39 × 16	30	294	0 1 5-6	不整楕円形	31 × 17	46
129	0 1 5-9	[楕円形]	(38) × 36	26	209	0 1 5-7	円形	24 × 22	41	295	0 1 5-8	円形	22 × 21	31
130	0 1 6-1	[楕円形]	27 × (22)	37	210	0 1 5-8	楕円形	63 × 52	38	296	0 1 5-8	円形	24 × 24	36
131	0 1 5-9	円形	46 × 43	44	211	0 1 6-1	楕円形	50 × 39	66	297	0 1 5-8	楕円形	32 × 24	46
132	0 1 5-9	円形	33 × 33	91	212	0 1 5-9	楕円形	26 × 23	35	298	0 1 5-7	楕円形	25 × 20	9
133	0 1 5-9	楕円形	29 × 26	49	213	0 1 5-7	楕円形	21 × 17	35	299	0 1 5-7	楕円形	27 × 21	46
134	0 1 6-1	楕円形	32 × (18)	43	215	0 1 5-9	楕円形	35 × 31	53	300	0 1 5-7	楕円形	30 × 15	29

番号	位置	形状	屋根		番号	位置	形状	屋根		番号	位置	形状	屋根		
			長径×短径 (cm)	厚さ (mm)				長径×短径 (cm)	厚さ (mm)				長径×短径 (cm)	厚さ (mm)	
301	O 1.5g8	他円形	50 × 38	49	391	O 1.6g2	他円形	32 × 29	50	488	O 1.5g8	不定形	53 × 30	39	
302	O 1.5e7	他円形	27 × 24	22	392	O 1.6j1	不定形	56 × 36	35	490	O 1.5g8	他円形	31 × 20	35	
303	O 1.5e7	他円形	32 × 21	24	393	O 1.6j1	他円形	37 × 29	21	491	O 1.5g8	他円形	60 × 50	29	
304	O 1.5g8	他円形	46 × 39	43	394	O 1.5g8	他円形	39 × 35	42	491	O 1.5g8	他円形	(55) × 50	40	
305	O 1.5g8	他円形	42 × 33	40	395	O 1.6g2	他円形	53 × 36	50	492	O 1.5g6	他円形	40 × 27	24	
306	O 1.5e7	他円形	29 × 21	66	396	O 1.5g7	円形	39 × 36	57	493	O 1.5g6	他円形	27 × 17	16	
307	O 1.5e7	不定形他円形	32 × 21	19	397	O 1.5g7	円形(他円形)	50 × (45)	57	494	P 1.5g6	他円形	39 × 35	18	
308	O 1.5g7	円形	37 × 26	10	398	O 1.5g7	他円形	57 × 36	59	495	O 1.5g8	不定形円形	17 × 16	44	
309	O 1.5g7	他円形	37 × 31	69	399	O 1.5g7	不定形他円形	36 × 27	51	496	O 1.5g8	他円形	29 × 22	27	
310	O 1.5e8	他円形	35 × 31	31	402	O 1.5e0	他円形	35 × 24	56	497	O 1.5g0	円形	38 × 37	81	
311	O 1.5e8	他円形	35 × 30	7	403	O 1.5e0	他円形	22 × 20	32	498	O 1.5g0	他円形	35 × (29)	26	
312	O 1.5e9	他円形	24 × 18	29	406	O 1.5g9	不定形	32 × 24	40	499	O 1.5g9	円形	26 × 25	35	
313	O 1.5g9	他円形	43 × 37	42	407	O 1.5g9	他円形	31 × 27	44	501	O 1.5g6	他円形	(26)	29	15
314	O 1.5g9	他円形	36 × 28	60	409	O 1.5g9	不定形他円形	41 × 33	63	503	O 1.5g9	不定形	75 × 32	64	
315	O 1.5g6	他円形	28 × 25	54	410	O 1.5e0	他円形	28 × 21	42	504	O 1.5g6	隅丸正方形	40 × 31	16	
316	O 1.6j1	不定形円形	16 × 15	14	411	O 1.5g9	円形	30 × 19	48	505	O 1.5g6	他円形	43 × 27	26	
317	O 1.6j1	他円形	34 × 31	8	412	O 1.5g9	他円形	20 × 12	30	506	O 1.5g6	円形	43 × 41	7	
318	O 1.5g0	円形	17 × 17	21	418	O 1.5g9	他円形	(48) × 38	25	507	O 1.6j1	他円形	23 × 12	29	
319	O 1.5g0	円形	30 × 30	36	419	O 1.5g9	他円形	(35) × (30)	20	508	O 1.6j1	他円形	32 × 21	15	
320	O 1.5g7	他円形	28 × 25	51	420	O 1.5g9	他円形	31 × 24	33	509	O 1.6j1	他円形	40 × 36	23	
321	O 1.5e6	他円形	32 × 25	23	421	O 1.6j1	円形(他円形)	30 × (24)	38	510	O 1.6j1	隅丸正方形	31 × 22	37	
322	O 1.5e6	他円形	28 × 24	23	422	O 1.6j1	他円形	49 × 44	85	511	O 1.5g4	他円形	32 × 28	18	
323	O 1.5e8	他円形	21 × 18	22	425	O 1.5g9	円形	25 × 24	39	512	O 1.5g0	他円形	28 × (23)	55	
324	O 1.5e8	他円形	36 × 32	77	426	O 1.5e0	円形	48 × 47	103	513	O 1.5g0	他円形	28 × 25	68	
325	O 1.5g2	他円形	34 × 30	30	427	O 1.5e0	他円形	32 × (23)	63	514	O 1.5g0	他円形	21 × 18	17	
326	O 1.5g6	他円形	38 × 32	42	428	O 1.5g9	他円形	32 × 29	14	515	O 1.5g0	他円形	47 × 35	31	
327	O 1.5g6	他円形	36 × 40	45	429	O 1.5g9	他円形	39 × (27)	27	516	O 1.5g0	他円形	19 × 17	41	
328	O 1.5g8	他円形	50 × 42	45	430	O 1.5g9	他円形	34 × 27	54	517	O 1.5g0	円形	36 × 24	22	
329	O 1.5g8	円形	30 × 30	19	431	O 1.5g6	他円形	32 × 22	26	518	O 1.5g0	円形	23 × 23	52	
330	O 1.5e0	不定形	48 × 34	25	432	O 1.5g6	他円形	35 × 23	43	519	O 1.5g8	他円形	70 × 44	47	
331	O 1.5e9	他円形	34 × 27	40	433	O 1.5g6	他円形	40 × 28	93	520	O 1.5g9	円形	30 × 20	3	
332	O 1.5g6	他円形	27 × 21	36	434	O 1.5g7	他円形	24 × (16)	45	521	O 1.5g9	他円形	23 × 20	14	
334	O 1.5g6	円形	26 × 24	50	435	O 1.5g5	円形	(64) × (36)	33	522	O 1.5g9	他円形	(26) × 22	8	
335	O 1.5g5	他円形	34 × 26	(15)	436	O 1.5g5	円形	26 × (20)	14	525	O 1.5g9	円形	35 × 33	35	
336	O 1.5g7	円形	42 × 40	36	437	O 1.5g5	円形	(34) × (16)	27	527	O 1.5g9	他円形	25 × 19	67	
337	O 1.5g4	他円形	32 × 23	57	438	O 1.5g7	他円形	33 × 29	60	528	O 1.5g9	他円形	21 × 17	47	
338	O 1.5g8	不定形他円形	96 × 58	30	439	O 1.5g7	円形	34 × 32	30	529	O 1.5g6	円形	49 × 45	48	
339	O 1.5g8	他円形	52 × 32	66	440	O 1.5g7	他円形	(37) × 36	27	530	O 1.5g6	円形	35 × 33	46	
340	O 1.5e8	円形	39 × 37	63	441	O 1.5g5	他円形	34 × 25	85	531	O 1.5g6	他円形	32 × 28	34	
342	O 1.5e9	不定形	50 × 20	37	443	O 1.5g7	他円形	73 × 64	64	532	O 1.5g6	他円形	47 × 35	31	
343	O 1.5e9	不定形	57 × 36	38	444	O 1.5g7	他円形	(35) × 31	66	533	O 1.5g5	円形	46 × 45	53	
344	O 1.5e9	他円形	35 × 17	9	445	O 1.5g8	他円形	24 × (17)	39	534	O 1.5g6	隅丸正方形	55 × 35	14	
345	O 1.5e9	他円形	50 × 38	53	446	O 1.5g7	他円形	31 × 24	60	536	O 1.5g6	他円形	(30) × 27	55	
346	O 1.5e9	円形	28 × 26	27	447	O 1.5g7	他円形	(24) × (18)	27	537	O 1.5g8	他円形	(45) × 37	40	
347	O 1.5e9	他円形	(30) × (22)	22	448	O 1.5g6	円形	20 × 20	23	538	O 1.5g8	他円形	29 × (21)	17	
348	O 1.5e9	円形	26 × 24	38	449	O 1.5g6	隅丸正方形	19 × 17	30	539	O 1.6j2	他円形	48 × 39	35	
349	O 1.5e9	不定形	37 × 25	26	450	O 1.5g9	隅丸正方形	(20) × 20	21	540	O 1.6j2	他円形	30 × 25	70	
350	O 1.5e9	不定形他円形	35 × 33	38	454	O 1.5g8	他円形	44 × (22)	48	541	P 1.5g5	円形	50 × 46	25	
351	O 1.5g8	他円形	26 × (20)	47	455	O 1.5g0	他円形	26 × 20	19	542	P 1.5g6	円形(他円形)	(41) × (28)	21	
352	O 1.5e9	隅丸正方形	46 × (46)	75	456	O 1.5g0	他円形	61 × 32	72	544	O 1.5g8	円形	24 × 23	25	
353	O 1.5e9	不定形他円形	41 × 35	55	457	O 1.5g9	他円形	36 × 27	67	545	O 1.5g8	円形(他円形)	(35) × (26)	48	
354	O 1.5e9	隅丸正方形	(27) × 27	54	459	O 1.5g9	他円形	28 × 23	39	546	P 1.5g8	他円形	31 × 43	32	
356	O 1.5e9	不定形他円形	33 × 30	30	460	O 1.5g9	他円形	30 × 25	29	547	P 1.5g7	他円形	47 × 42	31	
358	O 1.5e9	円形	25 × 23	31	465	O 1.5g8	円形	27 × 27	61	548	O 1.5g6	他円形	46 × 34	36	
359	O 1.5e9	他円形	32 × 26	42	463	O 1.5g9	円形(他円形)	38 × (18)	63	550	O 1.5g5	円形	47 × 45	34	
361	O 1.6j1	隅丸正方形	(35) × 51	42	464	O 1.5g9	他円形	21 × 18	91	551	P 1.5g7	他円形	55 × 49	49	
362	O 1.5g8	他円形	22 × 18	28	465	O 1.5g9	円形	25 × 21	50	552	P 1.5g7	不定形	40 × (65)	38	
363	O 1.5e9	他円形	25 × (34)	52	466	O 1.5g0	他円形	47 × (20)	58	554	P 1.5g5	他円形	(30) × 13	37	
364	O 1.5e9	他円形	33 × 29	65	467	O 1.5g9	不定形	(65) × 40	48	555	O 1.5g6	他円形	29 × 25	44	
365	O 1.5g0	円形	30 × 29	71	468	O 1.5g9	他円形	50 × 37	31	556	O 1.5g6	不定形円形	47 × 45	48	
366	O 1.5g0	他円形	32 × 17	61	469	O 1.5g8	隅丸正方形	40 × 35	64	557	O 1.5g6	円形	36 × 25	44	
367	O 1.5g0	他円形	44 × 37	34	470	O 1.5g9	他円形	(69) × (59)	21	558	O 1.5g6	円形	55 × 51	49	
368	O 1.6j1	他円形	24 × 20	49	471	O 1.5g9	他円形	(23) × 23	26	559	O 1.5g7	他円形	27 × 24	46	
369	O 1.6j2	円形	29 × 20	49	472	O 1.5g0	他円形	30 × 23	24	560	P 1.5g6	他円形	40 × 27	26	
370	O 1.6j2	他円形	28 × (23)	37	473	O 1.5g0	他円形	20 × 16	12	561	P 1.5g6	円形	47 × 46	45	
370	P 1.5g7	他円形	52 × 45	35	474	O 1.5g0	他円形	30 × (25)	47	562	P 1.5g6	円形(他円形)	41 × (24)	38	
372	P 1.5g7	円形	27 × 26	22	475	O 1.5g0	他円形	49 × (44)	38	563	P 1.5g8	他円形	66 × 51	36	
373	O 1.5g6	他円形	56 × 46	36	476	O 1.5g9	隅丸正方形	31 × 30	78	564	P 1.5g8	他円形	(47) × 25	60	
374	O 1.5g6	長方形	24 × 20	37	477	O 1.5g7	他円形	43 × 32	46	565	P 1.5g8	円形(他円形)	(26) × (13)	25	
375	O 1.5g6	他円形	49 × 33	70	478	O 1.5g7	他円形	39 × 36	29	566	P 1.5g7	他円形	(30) × (21)	45	
376	O 1.5g6	円形	35 × 24	45	479	O 1.5g6	隅丸正方形	21 × 19	51	567	P 1.5g7	円形(他円形)	25 × (14)	33	
377	O 1.5g6	他円形	33 × 30	66	480	O 1.5g9	他円形	50 × 32	34	568	O 1.5g6	円形	29 × 28	51	
381	O 1.5g7	他円形	(26) × 23	29	481	O 1.5g9	他円形	33 × 28	22	569	O 1.5j7	円形	37 × 35	54	
383	O 1.5e9	他円形	32 × 25	62	482	O 1.5g9	円形	27 × 27	14	570	O 1.5j7	他円形	(55) × 49	23	
384	O 1.5g9	円形	23 × 21	14	483	O 1.5g9	他円形	29 × 26	43	571	O 1.5g6	他円形	25 × 22	18	
387	O 1.5g7	円形(他円形)	27 × (14)	66	484	O 1.5g9	円形	(25) × 24	38	572	O 1.5g6	他円形	30 × 26	23	
388	O 1.5j4	他円形	63 × 42	59	485	O 1.5g9	円形	48 × 48	55	573	O 1.5g6	円形	27 × 26	16	
389	P 1.5g9	円形	43 × 41	29	486	O 1.5g9	他円形	36 × 32	30	574	O 1.5g6	他円形	(23) × (15)	33	
390	O 1.5g9	他円形	30 × 33	51	487	O 1.5e7	隅丸正方形	18 × 18	11	576	O 1.5g7	円形	66 × 65	46	

番号	設置	形状	基礎	
			長径×短径 (cm)	高さ (cm)
577	O 1.5.6	円形-楕円形	39 × 27	46
578	O 1.5.7	楕円形	45 × 37	27
579	O 1.5.8	楕円形	23 × 23	73
580	O 1.5.6	不定形	155 × 40	24
581	O 1.5.6	楕円形	36 × 25	63
582	O 1.5.7	楕円形	60 × 34	36
583	O 1.5.7	楕円形	170 × 125	31
584	O 1.5.8	楕円形	65 × 45	18
585	O 1.5.8	円形	32 × 33	56
586	O 1.5.8	円形	30 × 28	16
587	O 1.5.8	楕円形	184 × 49	21
588	O 1.5.8	楕円形	65 × 46	45
589	P 1.5.7	楕円形	98 × 80	56
590	P 1.5.a8	不定形	44 × (29)	26
592	O 1.5.6	不整楕円形	145 × 24	31
594	O 1.5.17	円形	31 × 31	41
598	O 1.5.6	円形	45 × 43	25
599	O 1.5.6	正方形	17 × 15	21
600	O 1.5.6	楕円形	43 × 28	51
601	P 1.5.6a	楕円形	31 × 25	45
603	O 1.5.67	円形	39 × 38	45
607	O 1.5.67	楕円形	46 × 37	71
608	O 1.5.17	円形-楕円形	36 × (33)	74
609	O 1.5.17	楕円形	39 × (27)	52
610	O 1.5.17	円形	45 × (42)	30
612	P 1.5.67	円形-楕円形	36 × (12)	25
621	O 1.5.67	楕円形	36 × 32	52
624	O 1.5.17	円形	49 × 46	49
625	O 1.5.17	楕円形	120 × 19	35
626	P 1.5.17	楕円形	41 × 35	52
627	O 1.5.17	楕円形	118 × 16	32
618	O 1.5.17	楕円形	34 × 30	58
619	O 1.5.6	楕円形	36 × 29	28
620	O 1.5.7	円形	26 × (25)	37
622	O 1.5.17	円形	28 × 27	29
623	O 1.5.7	楕円形	39 × 32	48
624	O 1.5.17	円形	23 × 23	17
625	O 1.5.67	円形	38 × 27	33
626	O 1.5.7	楕円形	47 × 32	57
627	O 1.5.6	楕円形	47 × 36	48
628	O 1.5.6	楕円形	122 × 21	37
629	P 1.5.17	楕円形	45 × 33	40
631	O 1.5.6	楕円形	51 × 46	54
632	O 1.5.6	楕円形	140 × 33	40
634	O 1.5.8	楕円形	44 × 35	54
635	O 1.5.7	楕円形	43 × 36	70
636	O 1.5.7	楕円形	41 × 28	75
637	O 1.5.6	楕円形	155 × 28	15
638	O 1.5.6	円形	26 × 26	29
639	O 1.5.6	楕円形	40 × 32	32
640	O 1.5.6	楕円形	23 × 16	7
641	O 1.5.6	楕円形	24 × 20	6
642	O 1.5.6	楕円形	37 × 26	24
643	O 1.5.16	円形	28 × 28	71
644	O 1.5.16	楕円形	37 × 32	34
645	O 1.5.16	楕円形	32 × 24	49
647	O 1.5.6	楕円形	28 × 25	38
648	O 1.5.6	楕円形	31 × 28	40
649	O 1.5.6	楕円形	145 × 33	34
650	O 1.5.6	楕円形	30 × 27	50
651	O 1.5.6	円形	31 × 30	34
652	O 1.5.6	楕円形	33 × (21)	31
653	O 1.5.6	楕円形	30 × 25	32
655	O 1.5.7	楕円形	137 × 28	20
656	O 1.5.6	楕円形	27 × 20	35
657	O 1.5.6	隅丸長方形	20 × 18	58
658	O 1.5.16	楕円形	33 × 23	64
659	O 1.5.6	楕円形	32 × 29	55
660	O 1.5.6	楕円形	46 × 40	64
661	O 1.5.18	楕円形	155 × 36	42
662	O 1.5.18	円形	50 × 49	53
663	O 1.5.18	楕円形	50 × (26)	36
664	O 1.5.17	円形	38 × 35	36
665	O 1.5.17	楕円形	32 × 26	62
666	O 1.5.18	楕円形	149 × 31	62
667	O 1.5.18	円形	30 × 49	50

番号	設置	形状	基礎	
			長径×短径 (cm)	高さ (cm)
668	O 1.5.18	楕円形	150 × 135	47
669	O 1.5.g9	正方形-長方形	130 × 120	27
670	O 1.5.g9	楕円形	55 × 138	44
671	O 1.5.g9	楕円形	144 × 42	24
672	O 1.5.g9	楕円形	65 × 142	31
673	O 1.5.g9	楕円形	27 × 23	57
674	O 1.5.g9	楕円形	146 × 37	46
676	O 1.5.7	円形	43 × 138	32
677	O 1.5.8	楕円形	35 × 30	35
679	O 1.5.8	楕円形	33 × 30	46
680	O 1.5.18	楕円形	59 × 51	32
681	O 1.5.g9	楕円形	33 × (27)	41
682	O 1.5.g9	楕円形	132 × 30	17
683	O 1.5.8	楕円形	47 × 33	45
684	O 1.5.8	楕円形	45 × 38	55
685	O 1.5.g7	円形	50 × 46	49
686	O 1.5.g7	円形	45 × 144	59
687	O 1.5.g7	楕円形	31 × 24	49
688	O 1.5.18	隅丸長方形	36 × 32	58
689	O 1.5.18	楕円形	49 × 32	29
690	O 1.5.7	楕円形	50 × 45	33
691	O 1.5.7	円形-楕円形	31 × (23)	25
692	O 1.5.7	楕円形	45 × 140	46
693	O 1.5.7	円形	37 × 34	77
694	O 1.5.7	不定形	43 × 25	17
695	O 1.5.8	楕円形	45 × (27)	16
696	O 1.5.g7	楕円形	157 × 52	74
698	O 1.5.7	楕円形	26 × 25	48
699	O 1.5.7	不定形	44 × 38	86
700	P 1.5.17	楕円形	58 × 54	51
701	O 1.5.18	円形	141 × 40	55
702	O 1.5.18	隅丸長方形	40 × 32	23
703	O 1.5.18	楕円形	147 × 37	42
704	O 1.5.17	楕円形	43 × 30	45
705	O 1.6.11	円形	23 × 21	40
706	O 1.5.6	楕円形	36 × 32	61
707	O 1.6.11	不定形	45 × 37	61
708	O 1.5.18	楕円形	20 × 28	42
709	O 1.5.18	不定形	41 × 30	11
711	O 1.5.18	円形	28 × 26	24
712	O 1.5.18	円形	50 × 49	2
719	O 1.6.g1	楕円形	40 × 31	45
720	O 1.6.g1	楕円形	138 × (25)	24
721	O 1.5.9	楕円形	33 × 23	18
722	O 1.5.18	楕円形	27 × 21	23
724	O 1.5.g9	不整楕円形	47 × 30	35
725	O 1.5.g9	楕円形	45 × 36	49
728	O 1.5.7	楕円形	38 × 28	25
730	O 1.5.18	楕円形	127 × 26	18
731	O 1.5.9	隅丸長方形	34 × 28	30
732	O 1.5.9	不整楕円形	34 × 35	46
733	O 1.5.9	楕円形	40 × 36	64
734	O 1.5.7	楕円形	33 × 19	35
735	O 1.5.7	楕円形	37 × 32	26
736	O 1.5.7	円形	25 × 23	46
737	O 1.5.7	楕円形	34 × 26	38
738	O 1.5.7	楕円形	28 × 34	61
739	O 1.5.18	円形	21 × 23	50
742	O 1.5.g9	楕円形	146 × 41	11
743	O 1.5.7	楕円形	39 × 24	39
744	O 1.5.17	不定形	49 × 28	47
745	O 1.5.16	楕円形	32 × 28	71
746	O 1.5.6	楕円形	45 × (29)	28
749	O 1.5.10	不定形	52 × 31	18
750	O 1.5.g9	楕円形	35 × 36	46
751	O 1.5.9	不整楕円形	64 × 48	74
752	O 1.5.g9	不整楕円形	25 × 21	42
755	O 1.5.9	楕円形	45 × 35	5
756	O 1.5.9	円形	36 × 35	14
757	O 1.5.10	円形	30 × 29	23
758	O 1.5.10	不整楕円形	39 × 33	15
759	O 1.5.9	楕円形	38 × 25	17
760	O 1.5.g9	楕円形	29 × 26	5
761	O 1.5.g9	円形-楕円形	133 × (20)	19
762	O 1.5.16	楕円形	27 × 22	42
763	O 1.5.g9	楕円形	20 × 16	35

番号	設置	形状	基礎	
			長径×短径 (cm)	高さ (cm)
764	O 1.5.g9	楕円形	45 × (40)	29
765	O 1.5.8	楕円形	40 × 35	25
766	O 1.5.9	不整楕円形	58 × 42	48
767	O 1.5.g9	楕円形	137 × 27	24
769	O 1.5.16	楕円形	37 × 33	56
770	O 1.5.g9	隅丸長方形	157 × 35	36
771	O 1.5.g9	不定形	74 × 40	50
772	O 1.5.19	不整円形	29 × 27	32
773	O 1.5.19	円形	28 × 23	29
774	O 1.5.g9	楕円形	28 × 24	42
775	O 1.5.16	円形-楕円形	29 × (23)	19
776	O 1.5.g9	楕円形	41 × 31	30
777	O 1.5.g9	楕円形	43 × 30	73
778	O 1.6.11	楕円形	47 × 36	66
779	O 1.6.11	円形	24 × 22	47
780	O 1.5.18	円形	43 × 41	57
782	O 1.5.19	隅丸長方形	23 × 18	44
783	O 1.5.19	楕円形	25 × 21	18
784	O 1.5.19	円形	127 × (25)	21
785	O 1.5.19	不定形	16 × 15	18
786	O 1.5.g9	円形-楕円形	135 × (22)	14
787	O 1.5.19	不整楕円形	38 × 31	24
788	O 1.5.18	楕円形	125 × 21	42
789	O 1.5.g9	円形-楕円形	36 × (30)	19
790	O 1.5.19	楕円形	144 × 40	37
791	O 1.5.19	円形	25 × 25	46
792	O 1.5.19	円形	22 × 21	30
793	O 1.5.19	隅丸長方形	20 × 19	59
794	O 1.6.12	楕円形	135 × 28	58
795	O 1.6.12	楕円形	43 × 33	83
796	O 1.6.12	楕円形	44 × 24	20
797	O 1.6.12	楕円形	20 × 18	39
798	O 1.6.15	楕円形	30 × 22	97
800	O 1.5.15	楕円形	29 × 20	60
801	O 1.5.15	隅丸長方形	63 × 35	12
803	O 1.5.18	不整楕円形	47 × 35	37
804	O 1.5.18	隅丸長方形	36 × 27	53
805	O 1.5.18	楕円形	24 × (19)	48
809	O 1.5.19	隅丸長方形	24 × 19	48
810	O 1.5.19	円形	25 × 24	44
811	O 1.5.19	円形	32 × 31	20
812	O 1.5.19	円形	41 × 38	38
813	O 1.5.19	円形	43 × 40	31
814	O 1.5.15	楕円形	27 × 22	12
815	O 1.5.17	楕円形	40 × 39	52
816	O 1.5.17	楕円形	35 × 26	41
820	O 1.5.g7	円形-楕円形	136 × 34	43
822	O 1.5.6	楕円形	75 × 69	49
823	O 1.5.6	楕円形	55 × 39	25
824	O 1.5.18	楕円形	45 × 41	32
825	O 1.5.18	楕円形	146 × (41)	72
827	O 1.5.g9	不定形	155 × 122	96
828	O 1.5.18	楕円形	123 × (20)	38
834	O 1.5.16	楕円形	39 × 33	52
835	O 1.5.18	楕円形	125 × (19)	36
841	O 1.5.8	楕円形	32 × 29	54
843	O 1.5.8	不定形	66 × 52	39
844	O 1.5.8	円形	32 × 31	54
846	O 1.5.18	円形-楕円形	41 × (40)	41
847	O 1.5.17	円形	152 × (51)	28
848	P 1.5.g7	楕円形	31 × 27	36
849	P 1.5.18	円形	38 × 36	16
852	O 1.5.18	不定形	56 × 37	39
853	O 1.5.18	円形	135 × 32	41
854	O 1.5.8	楕円形	38 × 32	48
855	O 1.5.8	隅丸長方形	48 × 37	58
859	O 1.5.9	楕円形	42 × (23)	26
860	O 1.5.9	円形	47 × 45	39
861	O 1.5.18	楕円形	41 × (27)	66
863	O 1.5.18	楕円形	141 × 38	65
864	P 1.5.18	楕円形	46 × 40	62
865	O 1.5.18	楕円形	35 × (24)	32
866	O 1.5.18	楕円形	27 × (22)	22
867	O 1.5.7	楕円形	41 × 34	36
872	O 1.5.18	楕円形	37 × 32	23
873	P 1.5.17	円形-楕円形	45 × (11)	20

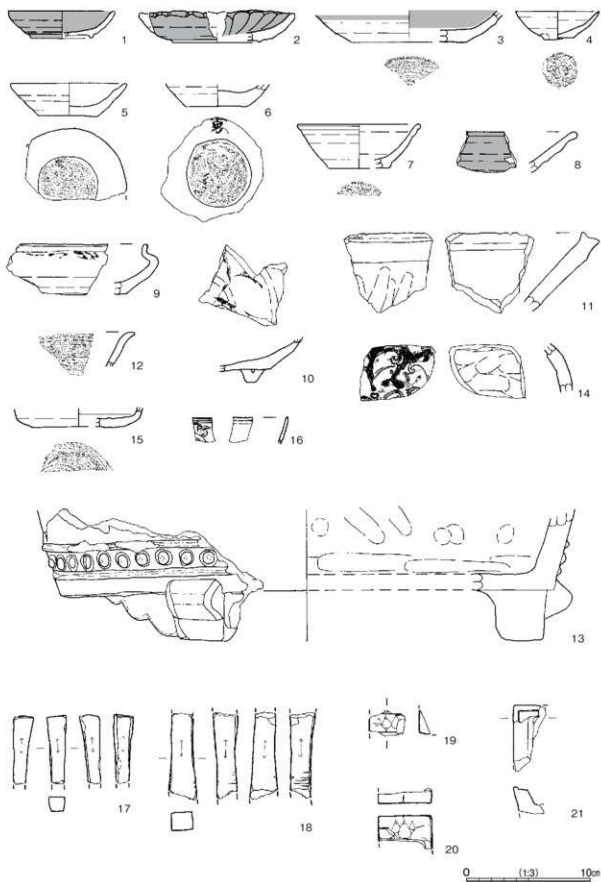
第99表 第6号ビット群一覧

番号	位置	形状	規格		番号	位置	形状	規格		番号	位置	形状	規格	
			長径×短径 (mm)	高さ (mm)				長径×短径 (mm)	高さ (mm)				長径×短径 (mm)	高さ (mm)
1	R 1.6e1	他円形	23 × 17	20	87	P 1.5g9	他円形	36 × 29	39	169	P 1.5r9	他円形	46 × 39	53
2	P 1.6e1	他円形	25 × 22	58	88	P 1.6j1	円形	23 × 22	35	170	P 1.5r9	他円形	21 × 19	32
3	P 1.6e2	他円形	32 × 26	24	89	P 1.6j1	他円形	29 × 26	35	171	P 1.5d7	他円形	51 × 35	16
4	P 1.6e2	他円形	34 × 29	18	90	P 1.5r8	他円形	30 × 27	50	172	P 1.4b6	他円形	20 × 17	7
5	P 1.6e2	他円形	29 × 25	14	91	P 1.5r8	他円形	30 × 21	32	173	P 1.4b7	他円形	23 × 19	22
6	P 1.6e2	他円形	34 × 21	26	92	P 1.5r9	不整形他円形	92 × 70	69	174	P 1.4b7	不整形円	18 × 18	30
7	P 1.6e2	他円形	300 × 24	25	93	P 1.5b0	他円形	34 × 23	25	175	P 1.4b7	他円形	29 × 26	34
8	P 1.6e2	他円形	37 × 229	23	94	P 1.5b0	他円形	26 × 20	32	176	P 1.4b7	他円形	60 × 48	29
9	P 1.6e1	円形	24 × 23	26	95	P 1.5b0	他円形	39 × 31	31	177	P 1.6e1	円形	30 × 20	31
10	P 1.6e1	円形	21 × 21	24	96	Q 1.5b0	他円形	49 × 28	49	178	P 1.6e1	他円形	35 × 31	30
11	P 1.6e1	他円形	26 × 23	30	97	Q 1.5b0	他円形	41 × 29	46	179	P 1.6e1	円形	22 × 20	23
12	P 1.6e1	他円形	32 × 29	43	99	Q 1.5b7	他円形	26 × 22	51	182	Q 1.5e9	他円形	35 × 26	28
13	P 1.5d0	他円形	127 × 21	10	100	P 1.5r8	円形	49 × 46	18	183	P 1.5d7	円形	33 × 31	29
14	P 1.6e2	他円形	38 × 27	34	103	P 1.5r8	他円形	37 × 25	60	184	P 1.5d7	他円形	33 × 24	47
16	P 1.6e1	長方形	21 × 16	73	104	P 1.5r8	他円形	40 × 36	27	185	P 1.5r7	他円形	46 × 23	42
17	P 1.6e2	他円形	36 × 32	43	105	P 1.5r8	他円形	36 × 28	45	186	Q 1.5e6	他円形	33 × 25	15
18	P 1.6j1	円形	34 × 31	39	106	P 1.5r8	他円形	46 × 35	34	187	Q 1.5e6	他円形	136 × 33	56
19	P 1.6j1	円形	29 × 29	16	107	P 1.5r8	他円形	650 × 32	35	188	P 1.5j0	他円形	44 × 31	27
20	P 1.5d0	他円形	38 × 27	15	108	P 1.5r8	他円形	26 × 22	22	189	Q 1.5e9	他円形	27 × 20	50
21	P 1.6j1	円形	27 × 25	32	109	P 1.5r8	不整形長方形	72 × 51	50	190	P 1.5j0	他円形	37 × 32	54
23	P 1.6e2	他円形	31 × 27	16	110	P 1.5r8	他円形	56 × 50	50	191	P 1.5j0	円形	34 × 31	33
24	P 1.6e2	他円形	32 × 29	17	111	P 1.5r8	他円形	97 × 58	66	192	P 1.5j0	円形	30 × 29	31
25	P 1.6e2	他円形	43 × 38	21	112	P 1.5r8	他円形	30 × 26	41	193	P 1.5e6	他円形	42 × 30	56
26	P 1.6e3	他円形	48 × 42	24	113	P 1.5r8	不整形他円形	69 × 31	23	194	P 1.5e7	他円形	125 × 21	30
27	P 1.6e2	円形	25 × 23	9	114	P 1.5r8	他円形	40 × 32	53	196	P 1.5r9	円形	32 × 31	25
28	P 1.6e2	円形	30 × 19	19	115	P 1.5e7	円形	36 × 35	45	197	P 1.5r9	他円形	29 × 24	26
29	P 1.6e2	他円形	22 × 19	27	116	P 1.5e7	他円形	53 × 43	44	199	P 1.5j0	他円形	34 × 30	17
30	P 1.6e2	不整形円形	62 × 53	28	117	P 1.5e7	他円形	44 × 38	31	200	Q 1.5d0	他円形	34 × 29	32
31	P 1.6j1	他円形	30 × 26	48	118	P 1.5e7	他円形	36 × 33	43	201	Q 1.5d0	円形	29 × 27	33
32	P 1.5d0	円形	29 × 29	36	119	P 1.5e7	他円形	20 × 18	16	202	Q 1.5d0	他円形	26 × 18	29
33	P 1.5d0	円形	33 × 33	35	120	P 1.5r8	他円形	70 × 48	21	203	Q 1.5d9	円形	33 × 31	55
34	P 1.5e9	他円形	26 × 22	28	121	P 1.5r8	他円形	54 × 32	30	204	P 1.5r9	他円形	29 × 25	51
35	P 1.5d0	他円形	25 × 17	30	122	P 1.5r8	他円形	42 × 29	68	205	P 1.5j0	円形	29 × 27	60
36	P 1.6e2	円形	23 × 21	21	123	P 1.5r8	不整形円	40 × 41	27	206	P 1.5r9	他円形	44 × 36	39
37	P 1.6e2	他円形	40 × 25	15	124	P 1.5r8	他円形	41 × 31	44	207	P 1.5j0	他円形	28 × 18	39
38	P 1.6e2	円形	36 × 35	24	125	P 1.5r8	円形	38 × 36	25	208	Q 1.5d0	他円形	31 × 28	40
39	P 1.6e2	他円形	30 × 26	22	126	P 1.5r8	他円形	62 × 62	41	209	P 1.5r9	他円形	36 × 21	34
43	P 1.6e2	円形	25 × 22	8	127	P 1.5r8	他円形	620 × 27	41	210	P 1.5r9	他円形	32 × 23	32
46	P 1.6e2	他円形	25 × 21	28	128	P 1.5r8	他円形	55 × 41	68	211	Q 1.5d0	他円形	29 × 19	32
47	P 1.6e2	他円形	47 × 40	35	130	P 1.5r8	他円形	624 × 18	30	212	Q 1.5d0	他円形	33 × 32	44
49	P 1.5d0	他円形	46 × 36	38	131	P 1.5r8	円形	26 × 25	46	213	Q 1.5d0	他円形	31 × 24	48
50	P 1.5e9	他円形	35 × 29	24	132	P 1.5r8	不整形円形	47 × 31	14	214	Q 1.5d0	他円形	31 × 21	34
51	P 1.5r9	他円形	32 × 29	45	133	P 1.5r8	他円形	33 × 24	13	215	Q 1.5d0	他円形	38 × 22	37
52	P 1.5d0	他円形	27 × 22	32	134	P 1.5r8	他円形	36 × 27	15	216	P 1.5j0	円形	30 × 28	12
54	P 1.5r9	円形	30 × 30	34	135	P 1.5r8	他円形	53 × 42	37	217	P 1.6j1	他円形	34 × 29	26
55	P 1.5e9	他円形	37 × 31	37	137	P 1.5b6	円形	36 × 36	38	219	Q 1.5b0	他円形	31 × 23	36
56	P 1.6e1	他円形	21 × 209	34	138	P 1.5b6	円形	41 × 41	48	221	Q 1.5b9	他円形	39 × 35	66
57	P 1.6e1	円形	41 × 40	27	139	P 1.5b7	円形	34 × 34	25	222	Q 1.5b0	円形	31 × 31	37
58	P 1.6e1	他円形	18 × 16	32	140	P 1.5b6	円形	56 × 56	26	223	Q 1.5d0	他円形	27 × 21	39
59	P 1.5j0	他円形	33 × 25	44	141	P 1.5b5	他円形	21 × 19	-	224	Q 1.5d0	他円形	30 × 41	36
60	P 1.5j0	他円形	332 × 21	62	142	P 1.5b5	他円形	24 × 21	-	225	Q 1.5d0	円形	36 × 32	49
61	P 1.5j0	円形	130 × 28	36	143	P 1.5b5	他円形	33 × 26	-	226	Q 1.6e1	他円形	32 × 23	32
62	P 1.6e1	他円形	34 × 27	40	144	P 1.5r9	円形	29 × 27	-	227	Q 1.5d0	不整形円形	34 × 31	55
63	P 1.5r9	他円形	49 × 34	71	145	P 1.5b8	円形	80 × 80	31	228	Q 1.5b0	他円形	29 × 19	37
64	P 1.5e0	他円形	45 × 32	31	146	P 1.5b8	他円形	40 × 40	16	229	P 1.6j1	円形	28 × 26	63
65	P 1.5e0	不整形円形	34 × 29	52	147	P 1.5b8	他円形	85 × 71	29	230	P 1.6j1	円形	24 × 22	5
66	P 1.5e0	他円形	42 × 33	24	148	P 1.5e7	他円形	30 × 25	30	231	Q 1.5e9	他円形	25 × 22	46
67	P 1.6e1	他円形	33 × 28	30	149	P 1.5b8	他円形	39 × 26	50	232	Q 1.5e9	円形	27 × 25	54
68	P 1.6j1	円形	38 × 35	36	150	P 1.6e1	円形	38 × 37	16	236	P 1.6j1	他円形	36 × 24	12
69	P 1.6e1	他円形	39 × 31	26	151	P 1.5d0	他円形	30 × 27	16	237	P 1.6j1	他円形	25 × 22	66
70	P 1.6j1	方形	18 × 17	58	152	P 1.5e0	円形	30 × 28	25	238	P 1.6e1	円形	27 × 25	36
71	P 1.6j1	円形	20 × 19	49	153	P 1.5e0	他円形	34 × 25	36	239	P 1.5j0	他円形	34 × 30	43
72	P 1.6j1	長方形	28 × 19	37	154	P 1.5e0	円形	25 × 23	40	240	P 1.6e1	他円形	28 × 23	48
73	P 1.5j0	他円形	27 × 24	26	155	P 1.5e0	円形	37 × 35	41	241	P 1.6e1	他円形	28 × 23	19
74	P 1.5j0	他円形	29 × 22	40	156	P 1.5e0	他円形	36 × 31	35	242	P 1.6e1	他円形	24 × 21	41
75	P 1.5r8	他円形	29 × 24	26	157	P 1.5e1	他円形	27 × 27	15	243	P 1.6e2	円形	26 × 26	36
76	P 1.5r8	他円形	26 × 20	29	158	P 1.6e1	円形	19 × 19	21	244	P 1.6e1	他円形	34 × 30	34
77	P 1.5e9	他円形	23 × 19	39	159	P 1.6e1	他円形	25 × 19	43	245	Q 1.6e1	不整形円形	16 × 15	14
78	P 1.5r9	他円形	37 × 37	42	160	P 1.6e1	円形	23 × 21	38	246	P 1.6e1	他円形	24 × 20	30
79	P 1.5r9	他円形	18 × 13	35	161	P 1.5e0	方形	21 × 20	55	247	P 1.6e1	円形	32 × 30	53
80	P 1.5e0	他円形	50 × 36	54	162	P 1.5e0	円形	22 × 20	16	248	P 1.6e1	円形	23 × 22	41
81	P 1.5e0	円形	32 × 32	18	163	P 1.5e0	他円形	25 × 22	87	249	P 1.6e2	他円形	43 × 33	16
82	P 1.5e0	円形	26 × 24	42	164	P 1.6e0	円形	41 × 39	52	250	P 1.6j1	他円形	46 × 34	68
83	P 1.5j0	円形	29 × 27	31	165	P 1.5e0	他円形	31 × 24	37	251	Q 1.6e1	他円形	16 × 14	15
84	P 1.5j0	円形	23 × 22	38	166	P 1.5e0	他円形	32 × 26	114	252	Q 1.6e1	他円形	26 × 13	39
85	P 1.5j0	他円形	32 × 29	39	167	P 1.5e9	不整形円形	39 × 33	31	253	Q 1.6e1	不整形円形	26 × 25	7
86	P 1.5j0	他円形	119 × 117	37	168	P 1.5e9	他円形	34 × 26	39	255	P 1.6e1	他円形	27 × 22	32

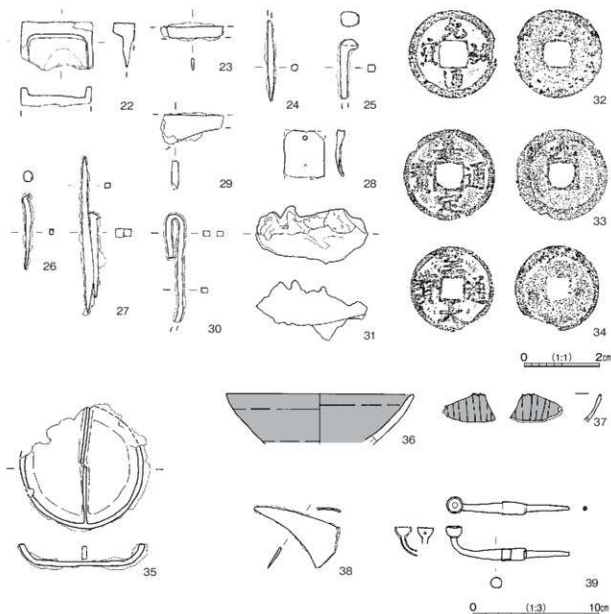
番号	位置	形状	焼痕		番号	位置	形状	焼痕		番号	位置	形状	焼痕	
			長径×短径 (cm)	厚さ (mm)				長径×短径 (cm)	厚さ (mm)				長径×短径 (cm)	厚さ (mm)
256	P 1.6.11	楕円形	22 × 19	19	305	P 1.6.11	楕円形	21 × 18	15	362	P 1.5.68	楕円形	53 × 46	52
257	P 1.6.11	楕円形	32 × 29	59	306	P 1.6.11	楕円形	19 × 14	23	363	P 1.5.66	楕円形	36 × 29	53
258	P 1.5.60	円形	23 × 22	25	307	P 1.6.11	円形	32 × 31	21	364	P 1.5.66	円形	32 × 30	29
259	P 1.6.g1	円形	29 × 28	14	308	P 1.6.11	楕円形	29 × 26	30	365	P 1.5.60	円形	27 × 25	27
261	P 1.6.g1	楕円形	51 × 31	26	309	P 1.6.11	(楕円形)	33 × (29)	41	366	P 1.5.69	円形	33 × 32	62
266	P 1.5.10	楕円形	28 × 23	-	310	P 1.6.11	(楕円形)	28 × (21)	27	367	P 1.5.59	楕円形	27 × 21	8
271	P 1.5.69	楕円形	20 × 14	32	311	P 1.6.11	不整形円形	35 × 28	33	368	P 1.5.19	円形	31 × 30	25
272	P 1.5.69	楕円形	21 × 18	-	312	P 1.6.11	(楕円形)	(38) × 37	39	369	P 1.5.58	楕円形	45 × 35	29
273	P 1.5.69	楕円形	26 × 21	29	313	P 1.6.11	楕円形	34 × 27	32	371	P 1.5.60	楕円形	53 × 39	31
274	P 1.6.11	楕円形	30 × 27	42	315	P 1.5.53	楕円形	24 × 20	28	373	P 1.5.59	長方形	29 × 23	35
275	P 1.6.11	(楕円形)	32 × (23)	28	316	P 1.6.11	円形	26 × 25	21	374	P 1.5.58	楕円形	51 × 41	5
276	P 1.5.69	楕円形	24 × 20	23	318	P 1.5.60	円形	25 × 23	12	375	P 1.5.58	楕円形	28 × 25	11
277	P 1.5.69	楕円形	28 × 24	9	319	P 1.5.69	不整形楕円形	23 × 23	28	376	P 1.6.11	楕円形	31 × 23	51
278	P 1.5.69	(楕円形)	25 × (15)	14	320	P 1.5.69	楕円形	41 × 31	20	377	P 1.6.11	楕円形	37 × 26	28
279	Q 1.5.19	楕円形	41 × 37	60	322	P 1.5.66	楕円形	52 × 47	20	378	P 1.5.60	円形	25 × 26	36
280	P 1.6.11	楕円形	45 × 29	90	324	P 1.5.67	円形	26 × 24	18	379	P 1.5.60	楕円形	29 × 26	15
283	P 1.6.g1	楕円形	29 × 28	29	325	P 1.5.67	円形	18 × 17	26	381	P 1.6.11	楕円形	19 × 16	37
284	P 1.6.g2	楕円形	22 × 19	20	326	P 1.5.67	楕円形	24 × 20	42	382	P 1.5.60	楕円形	38 × 34	38
285	P 1.6.g2	(楕円形)	21 × (18)	9	330	P 1.5.60	楕円形	38 × 31	36	383	P 1.6.12	円形	23 × 21	30
286	P 1.6.g2	楕円形	49 × 27	21	335	P 1.5.68	円形	35 × 32	59	384	P 1.6.12	円形	29 × 20	10
287	P 1.6.g2	楕円形	24 × 21	7	338	P 1.6.11	円形	34 × 31	32	386	P 1.6.12	楕円形	29 × 18	41
288	P 1.6.g2	楕円形	31 × 15	29	339	P 1.5.67	楕円形	29 × 21	49	387	P 1.5.66	楕円形	46 × 29	23
289	P 1.6.g2	円形	21 × 21	13	340	P 1.5.67	楕円形	31 × 22	33	388	P 1.5.67	楕円形	52 × 35	39
290	P 1.6.g2	楕円形	24 × 18	16	341	P 1.5.69	不整形楕円形	43 × 28	-	390	P 1.5.67	楕円形	30 × 21	18
291	P 1.6.g2	円形	23 × 21	19	342	P 1.5.60	楕円形	37 × 29	33	397	P 1.5.69	不整形楕円形	39 × 29	37
292	P 1.6.g2	楕円形	17 × 16	16	343	P 1.5.69	楕円形	35 × 27	38	398	P 1.5.77	楕円形	25 × 17	48
293	P 1.6.g2	楕円形	21 × 18	7	345	P 1.5.60	楕円形	29 × 26	-	399	P 1.5.77	楕円形	49 × 34	34
294	P 1.6.g2	楕円形	22 × 18	29	346	P 1.6.12	(楕円形)	(36) × (16)	32	405	P 1.5.66	楕円形	50 × 30	39
295	P 1.6.12	円形	37 × 36	20	347	P 1.6.12	不整形円形	52 × 49	60	403	P 1.5.60	楕円形	51 × 44	18
297	P 1.6.12	円形	37 × 35	30	348	P 1.6.12	円形	31 × 31	23	404	P 1.6.11	円形	29 × 29	20
298	P 1.6.63	(楕円形)	32 × (27)	31	357	P 1.5.g7	不整形円形	84 × 76	35	409	P 1.5.67	楕円形	65 × 49	36
299	P 1.6.63	(楕円形)	48 × (44)	38	358	P 1.5.67	円形	34 × 34	19	415	P 1.6.11	楕円形	35 × 24	25
300	P 1.6.12	楕円形	36 × 31	40	359	P 1.6.g1	円形	31 × 31	-	416	P 1.6.12	円形	26 × 26	24
303	P 1.6.12	(楕円形)	25 × (19)	37	360	P 1.5.77	(楕円形)	38 × 30	51	417	P 1.6.12	円形	50 × 49	58
304	P 1.6.11	楕円形	23 × 21	37	361	P 1.5.77	楕円形	31 × 28	28					

第100表 ビット群出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	丸皿	[8.6]	2.2	[5.0]	細密・灰白	外・内面施釉	戻軸	瀬戸・美濃系	PG3 - P118	40%二次焼成 大塚2-3期
2	陶器	菊皿	(12.2)	2.4	[7.0]	細密・灰黄緑	内面花弁状のヘタ筋り 口唇部ヘタ筋み	長石軸	瀬戸・美濃系	PG3 - P409	30% P129 大塚4期
3	陶器	大皿	-	(2.5)	[9.4]	細密・灰白	ロクロ成形 底部回転糸切り 外・内面施釉	戻軸	吉野川	PG3 - P509	20% 後期Ⅱ期
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	土師質土器	小皿	6.8	2.3	2.8	石英・長石・雲母	黒黒	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 外面下端に指痕	PG3 - P867	90% P128
5	土師質土器	小皿	[9.4]	2.7	4.8	石英・長石・雲母 緑・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	PG3 - P937	60% P128
6	土師質土器	小皿	-	(1.8)	5.1	石英・長石・雲母 赤褐色・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	PG3 - P942	50% 赤褐色 [口]
7	土師質土器	小皿	[10.0]	3.5	[5.0]	石英・長石・雲母 緑・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	PG3 - P900	20%
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
8	陶器	大皿	-	(3.3)	-	細密・にぶい黄	ロクロ成形 外・内面施釉	戻軸	吉野川	PG3 - P796	P129 後期Ⅱ期Ⅱ期
9	陶器	志野鉄線向	-	(4.1)	-	細密・浅黄	ロクロ成形 外面施釉 体部外面鉄線染付 外・内面施釉	長石軸	瀬戸・美濃系	PG3 - P900	10% 全変期
10	陶器	志野鉄線向	-	(3.6)	-	細密・浅黄	ロクロ成形 底部回転ヘタ筋り後唇部筋り付け 内面鉄線染付 外・内面施釉	長石軸	瀬戸・美濃系	PG3 - P608	10% 全変期
11	陶器	細鉢	-	(6.3)	-	粗い・細灰	口縁部外・内面緑ナデ 体部外面ナデ	焼締め	常滑	PG3 - P551	P129 10期式
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	土師質土器	香印 [※]	-	(2.8)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄	普通	ロクロ成形 外面スタンプ文 (染文)	PG3 - P961	
13	瓦質土器	火舎	-	(10.6)	[4.0]	石英・長石・雲母	黄灰	普通	体部下部二重の縁部区画内に縁文筋り付け 底部脚部筋り付け 内面緑ナデ 指痕	PG3 - P23	10% P128
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
14	陶器	瓶 [※]	-	(4.4)	-	粗い・にぶい黄	内面緑ナデ 輪軸成形 外面可部筋り 縁文・体部筋り付の印花 外面施釉	戻軸	吉野川	PG3 - P456	P129 中期Ⅱ期
15	陶器	瓶 [※]	-	(1.5)	[7.4]	粗い・灰黒	ロクロ成形 回転糸切り	焼締め	唐津 [※]	PG3 - P684	20%
16	磁器	瓶	-	(2.0)	-	細密・灰白	口縁部外内面二重染成 外面書文 [※] の胎部染付	透明軸	徳田造系	PG3 - P668	



第216図 ビット群出土遺物実測図(1)



第 217 図 ピット群出土物実測図 (2)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
17	砥石	(5.5)	1.7	1.2	(1802)	粘板岩	砥面 4 面	PG3 - P239	
18	砥石	(6.9)	(2.2)	(2.0)	(3894)	粘板岩	砥面 4 面 筋状の磨痕 2 か所	PG3 - P239	
19	硯	(21)	(2.9)	(0.9)	(4.56)	ホルンフェルス	表面に擦り切り溝 縦割による宝珠文	PG3 - P537	
20	硯	(27)	(4.4)	(1.3)	(16.17)	ホルンフェルス	表面・側面に擦り切り溝 表面に縦割による宝珠文	PG3 - P519	PL.31
21	硯	(5.3)	(2.6)	(2.2)	(28.78)	粘板岩	表面縦割の削り出しによる裝飾	PG3 - P766	PL.31
22	硯	(3.9)	(5.7)	(1.8)	(31.92)	粘板岩	海部磨痕によるくぼみ	PG3 - P236	PL.31
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
23	刀子	(5.0)	(1.0)	(0.2)	(8.32)	鉄	断面形三角形 両端部欠損	PG3 - P469	
24	釘	(6.4)	(0.6)	(0.5)	(5.09)	鉄	断面形円形 頭部欠損	PG3 - P840	
25	釘	(4.7)	1.4	0.6	(12.23)	鉄	断面形方形 頭部 L 字状 先端部欠損	PG3 - P194	
26	釘	6.0	0.7	0.4	(6.89)	鉄	断面形方形 頭部 L 字状	PG3 - P536	
27	釘	(12.4) 6.7	0.7 0.6	0.7 0.6	(24.92)	鉄	2 個体が榫食により接着 断面形方形	PG3 - P461	

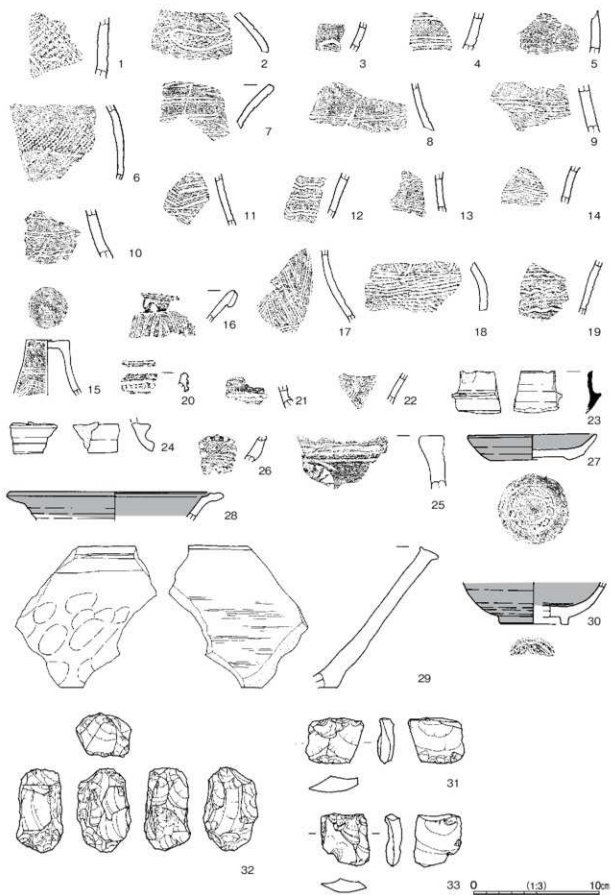
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴		出土位置	備 考		
28	鍍金具ナ	3.8	3.3	0.6	7.57	銅	中心線上に穿孔2か所		PG3 - P442			
29	不明	(5.0)	(2.3)	(0.5)	(16.14)	鉄	断面形長方形 両端部欠損		PG3 - P67			
30	不明	(8.6)	1.5	0.4	(14.28)	鉄	断面形方形 先端部折り返し		PG3 - P833	PL35		
31	板状洋	(9.0)	(6.9)	(4.6)	(174.3)	鉄	多孔孔 底部に9埋付着		PG3 - P680			
番号	器種	径	孔距	厚さ	重量	材質	初測年	特 徴	出土位置	備 考		
32	元庵通貫	2.39	0.65	0.15	2.59	銅	1086年	北宋銭	PG3 - P329			
33	嘉定通貫	2.47	0.65	0.16	2.71	銅	1208年	南宋銭	PG3 - P697			
34	至大通貫	2.28	0.43	0.23	3.96	銅	1310年	元銭	PG3 - P868			
番号	器種	径	高さ	厚さ	重量	材質	特 徴		出土位置	備 考		
35	不明	10.0	1.8	0.4	(122.6)	鉄	皿状で中心に仕切り板 一部欠損		PG5 - P 4	PL35		
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・特 徴		輪業	産 地	出土位置	備 考
36	陶器	平碗	[15.0]	(4.0)	-	観音・灰白	ロウロ成形 回転赤切り		灰輪	古瀬戸	PG6 - P105	10% 後期1-1頁
37	青磁	蓮弁文碗	-	(2.2)	-	観音・灰白	体部蓮弁文削り出し		青磁輪	龍泉窯系	PG6 - P143	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴		出土位置	備 考		
38	鎌	(6.9)	(3.7)	0.2	(12.52)	鉄	基部折り曲げ 研ぎ減りによる変形 基部先端部欠損		PG6 - P298	PL33		
39	腰管	9.9	1.3	0.9	9.17	銅	腰首と喉口を差し込み結合 大断面側面に穿孔		PG6 - P110	PL34		

(6) 遺構外出土遺物

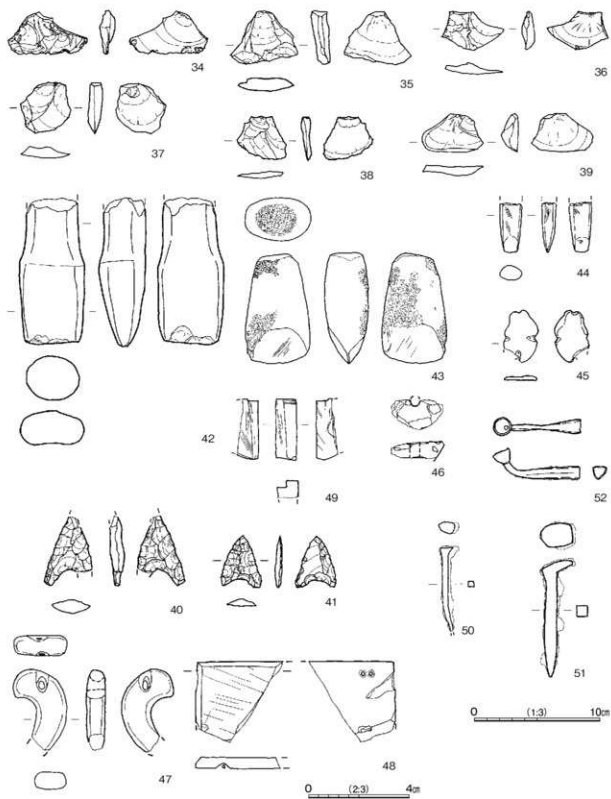
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と第101表で掲載する。

第101表 遺構外出土遺物一覧

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	文 様 の 特 徴 ほ か		出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	緑褐色・石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	LR・RLの羽状縄文		SI24	縄文前期中葉
2	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	単筋縄文LR 後沈泥区両後部折消し縄文		SI16	弥生中期後半 P1,29
3	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	単筋縄文LR 後沈泥区両 部折消し縄文		SI31	弥生中期前半
4	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にぶい黄褐色	単筋縄文LR 後半平行沈泥区両 部折消し縄文		第1号室下穴 P1,29	弥生中期 P1,29
5	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	沈泥連弧文 柳葉状工具による連弧文		SI16	弥生中期後半 P1,29
6	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい橙	上半部柳葉状工具(4本)による沈泥文 下半部横方向の単筋LR		SI31	弥生中期後半 P1,29
7	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	口唇部無筋縄文しの器系文 口縁部二重沈泥文		SI31	弥生中期後半 P1,29
8	弥生土器	壺	石英・長石・針状鉱物	にぶい黄褐色	二重沈泥の横走文		SI30	弥生中期 P1,29
9	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にぶい黄褐色	二重沈泥の横走文		SI13	弥生中期 P1,29
10	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	灰黄褐色	二重沈泥による連弧文		SI4	弥生中期 P1,29
11	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	二重沈泥による山形文		SI28	弥生中期後半 P1,29
12	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	二重沈泥による横走直状文		SI31	弥生中期 P1,29
13	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にぶい橙	上半部半截竹管による波状文 下半部単筋縄文LR		SI31	弥生中期 P1,30
14	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・針状鉱物	にぶい黄褐色	柳葉状工具(3本)による連弧文		SI1	弥生中期 P1,29
15	弥生土器	蓋	石英・長石・雲母・針状鉱物	橙	天井部布目瓦痕 三重沈泥の山形文		SI30	弥生中期 P1,28
16	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	橙	折り返し口縁垂下部指環による刺突 二重沈泥の山形文		SI31	弥生後期前半 P1,30
17	弥生土器	壺	石英・長石・針状鉱物	橙	胴部二重沈泥による山形文		SI21・SI31	弥生後期前半 P1,30
18	弥生土器	壺	長石・雲母・針状鉱物・赤色粒子	灰黄褐色	胴部二重沈泥による山形文 体部口段の器系文		SI88	弥生後期前半 P1,30



第 218 図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第 219 图 遗物出土实物实图 (2)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
19	養生土器	壺	石美・長石・雲母	灰地	二重沈線内を連続交互刺突 華蓋縁文 LR 後連區文沈線区裏後縁より出し縄文	SI31	養生(後期 PL3)
20	養生土器	壺	石美・長石・雲母・針状炭素物	にぶい・黄橙	口縁部二重沈線内を連続交互刺突	SI31	養生(後期 PL3)
21	養生土器	壺	石美・長石・雲母・針状炭素物	明赤褐色	二重沈線内を連続交互刺突	S1	養生(後期 PL3)
22	養生土器	壺	石美・長石・雲母	にぶい・黄橙	二重沈線文 竹管刺突文	S4	養生(後期 PL3)
23	須恵器	坏	石美・長石	灰	底部回転へう削り	HT16	
24	須恵器	内面鏡	石美・長石	暗灰	ロクロ成形 脚部へう状工具により透かし切り出し	HD	
25	土師質土器	火舎	石美・長石・赤色粘土	にぶい・黄橙	口縁部隆帯割がれ 菊花型の印花文	HD	PL30
26	土師質土器	香炉	石美・長石・赤色粘土	橙	縁射・菊花の印花文	SI23	PL30

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考	
27	陶器	丸瓶	[102]	2.0	6.4	緻密・にぶい黄橙	底部削り出し 唇部底高台 見込み輪溝 底部輪状のトオン痕	灰輪	瀬戸・美濃	HD	大塚4期 二次区 30%	
28	陶器	形鉢皿	[168]	(2.3)	-	緻密・黄灰	ロクロ成形 外・内面輪軸	灰輪	古瀬戸	SI37	形鉢皿 10% PL30	
29	陶器	楕鉢	-	11.3	-	粗い・にぶい赤黄	口縁部内外面横ナデ 体部外面出張裏内面削形		焼締め	常滑	HD	11型式 20% PL30
30	磁器	碗	-	(3.4)	(5.3)	緻密・灰白	ロクロ成形 高台削り出し 外・内面輪軸	青磁輪	鹿島泉系	HD	30% PL28	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
31	掻器	4.7	3.2	1.4	23.13	石美	自然面打点 押圧調整による方部調整	HD	PL32
32	石核	6.7	4.3	3.6	128.02	アイサイト	多方向からの剥離	HD	PL32
33	剥片	3.7	3.4	1.4	18.55	メノウ	自然面打点 背面に自然面残る 側縁押圧による微細調整	SF1	PL32
34	剥片	6.2	3.3	1.3	15.95	柱状頁岩	微細調整	PG3 - P44	PL32
35	剥片	4.2	5.4	1.4	23.42	流紋岩	自然面打点	HT73	PL32
36	剥片	3.0	5.0	1.0	11.26	凝灰質泥岩	横長剥片	SI11	PL32
37	剥片	4.1	4.0	1.2	15.59	アイサイト	自然面打点	S19	PL32
38	剥片	3.4	3.9	0.8	5.83	アイサイト	表面風化	SI12	
39	剥片	3.0	4.9	1.4	13.32	チャート	母岩円隆 同様に自然面残る	PG3 - P62	
40	石鏃	(28)	(1.9)	0.6	(1.53)	流紋岩	押圧による微細調整 先端部・脚部欠損	HT68	PL31
41	石鏃	2.0	1.7	0.3	0.89	チャート	押圧による微細調整	SK461	PL31
42	磨製石斧	(11.7)	5.2	3.9	(41.76)	角閃岩	挟入柱状片刃石斧 全面研磨 基部欠損 刃部使用による剥離	SK133	PL31
43	磨製石斧	8.8	5.2	3.5	206.53	蛇紋岩	大型粘片刃石斧 側面最終調整 刃部研磨 基部破折に転用	SI5	PL31
44	磨製石斧	(4.0)	(1.8)	(1.1)	(12.20)	角閃岩	全面研磨 基部欠損	HD	PL31
45	石鏃	4.2	2.7	0.4	(6.07)	粘板岩	擦り切り溝4か所 一部欠損	HD	

番号	器種	直径	口径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
46	紡錘車	(4.2)	0.8	(1.4)	(14.66)	粘板岩	片側穿孔 表面研磨調整	HG1	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
47	勾玉	(3.2)	2.1	0.8	(6.40)	滑石	孔部吊り下げの部の擦痕 先端部欠損	HD	PL33
48	繫帯具(地方)	(3.5)	(3.2)	0.5	(8.51)	粘板岩	器方・表面丁寧な研磨 裏面粗い研磨後斜方向の穿孔による磨り欠けの痕 半分が欠損	HD	PL33
49	腕	(4.9)	(1.7)	(1.4)	(24.13)	粘板岩	腕を柱状に切断し切斷面を研磨調整 表面に縦状工具による磨り切り痕	HD	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
50	針	(6.8)	1.2	0.5	(14.01)	鉄	断面方形形 先端部欠損	HD	
51	鏃	9.3	2.6	0.9	70.70	鉄	断面方形形 先端部断面方形形 側部扁平	HD	PL34
52	磨管(磨石)	7.0	2.4	1.4	5.70	銅	側面に接合面	HD	PL34

第4節 小 結

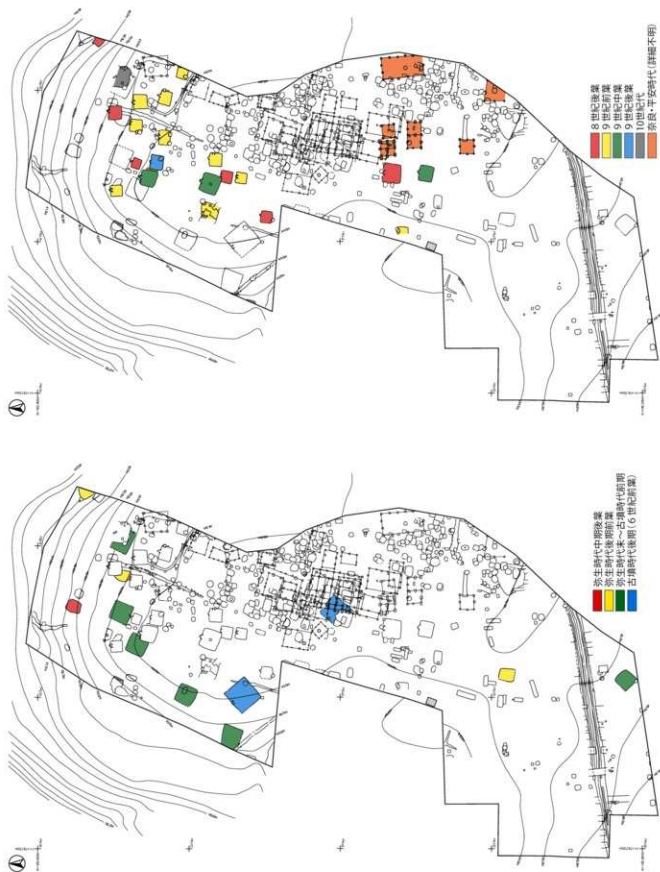
大高台遺跡の推定範囲は台地上の、東西約300m、南北約1,000mを占めている。今回の調査区はその推定範囲のほぼ中央部に位置する8,640㎡を対象に調査を行った。ここでは、本調査で得られた弥生時代中期～近世前葉までの調査結果を各時代ごとに考察していきたい。

1 弥生時代の遺構と遺物（第220図）

今回の調査において確認された遺構の中で、弥生時代中期後葉の足洗式期のものが最も古く位置付けられる。当該期の遺構は第6号堅穴建物跡の1棟が該当する。4.03m×3.08mの不整長方形を呈し、炉は無く、柱穴は北部に1か所あるのみである。出土した土器は壺と甕で、壺は渦巻き文が施されている胴部片で、施文具が1条のものと3条のものに分けられる。壺片は合計で97点出土しているもの、1条の沈線による施文の土器は1点のみであった。足洗式土器の編年は、文様構成と施文具の変化によって3期に分けられている。今回の出土資料は小破片であることから文様構成を確認することはできなかったが、施文具の変化によると、1式は1本の施文具による単沈線、2式は2本同時施文具、3式は3本同時の施文具が現れる¹⁾。この特徴から本跡は、足洗3式期の遺物を主体とするとみられる。1点のみ確認された単沈線による渦巻き文の土器は足洗1式とみられ、本跡に伴わない遺物の可能性がある。

茨城県内における弥生時代中期の遺跡は、再葬墓は広く知られているものの、堅穴建物跡の確認例は極めて少なく、集落の形態や建物跡の構造についての詳細は不明である。当跡と同じ台地上に位置する高萩市赤浜遺跡では、堅穴建物跡の可能性のある遺構として6棟が報告されている。赤浜遺跡の例は足洗1式期の土器を伴い、平面形が円形または楕円形を呈する。炉は確認されておらず、柱穴の有無と配列は各遺構ごとに規格性がない²⁾。また、鹿嶋市の小林遺跡においては、足洗3式期の土器を伴う建物跡1棟が確認されており、調査区外に延びているため全体像は不明であるが、平面形は隅丸方形と推定され、中央部に炉が設けられているが柱穴は確認されていない³⁾。近隣の福島県においては、弥生時代中期に属する堅穴建物跡は56棟確認されており、稲村圭一氏によって分類が行われている。それによると、建物の平面形は「基本的に隅丸方形（長方形）状、又は楕円形状の範疇で理解することが可能で、どちらかに大別できる。」とした上で、柱穴については「大半は不明瞭で全く柱穴のみられないものも多く認められ、上屋構造の復元困難なものが多い。配置には様々なパターンがみられ、一概にその傾向を掴むことはできない。」としている。また、建物内に炉を有するものが少なく、屋内炉の保有率は3割程度であり、床面の締まりが弱いものがほとんどで堅穴建物跡として認定されていない遺構も多く存在するようである⁴⁾。今回確認された第6号堅穴建物跡も、福島県に共通する要素が多く見だせることから堅穴建物跡として認定した。

つづき弥生時代後期の堅穴建物跡は、第11・24・40号堅穴建物跡の3棟が該当する。「県北部においての中期と後期の区分は、足洗式（3式）と伊勢林前式並行期の間に置かれる」⁵⁾。第11号堅穴建物跡の出土遺物は、前述した足洗式の甕の他、伊勢林前式とみられる連弧文と格子文の施文された土器が出土しており、第6号堅穴建物跡に後続する弥生時代中期末葉から後期初頭にかけてのものと考えられる。第24・40号堅穴建物跡からは、東中根式土器に伴って天王山式土器が確認された。建物の形態は、第11・40号堅穴建物跡が隅丸長方形、第24号堅穴建物跡が楕円形を呈しており、同じ集落内にあっても形態にはばらつきがあるようである。いずれからも炉は確認できず、中期段階の堅穴建物と同じく床の締まりも弱い。



第 220 図 大高台遺跡集落変遷図

この他、遺構は確認できなかったが、ヒトデ形の捺消縄文を持つ龍門寺式土器（遺構外-2）が出土しており、弥生時代中期前葉まで遡る集落が存在する可能性を示唆している。また、挟入柱状片刃石斧（遺構外-42）や大型蛤刃石斧（遺構外-43）といった大陸系磨製石器も出土しており、当地域における水田農耕技術の伝播を示すものと考えられる。

2 古墳時代の遺構と遺物（第220図）

弥生時代後期前葉以降集落の痕跡は一旦途絶え、再び生活の痕跡が現れるのが、弥生時代最終末から古墳時代前期にかけてである。弥生時代終末期に位置付けた第17号堅穴建物跡は、削平され南壁の一部が残るのみで、出土した遺物は極めて少ないが、土師器が出土していないことと、建物コーナー部の床面直上から竹管の刺突により装飾された紡錘車が出土していることから、弥生時代と捉えた。しかし、次に続く古墳時代前期の堅穴建物跡との形状や、主軸方向等に共通性を見いだせることから、連続した集落であったと考えられる。また、第16号堅穴建物跡の床面直上から、土師器とともに十王台2b式の広口壺の大型破片が出土しており、弥生土器と土師器が共存している可能性が高い。出土遺物の構成は、弥生土器片が161点（909.2g）、土師器片が752点（6368.9g）で、弥生土器の出土比率は客体的である。土師器の器種構成をみると、高坏、鉢、壺、甕類が出土しているが、埴は確認できないことから、古墳時代前期の中でも古い段階に位置付けることができる。第20号堅穴建物跡の貯蔵穴内から出土した壺内の土壌を精査したところ、炭化種実が確認された。分析の結果、栽培種のイネであることが判明し、脱粒された玄米の状態出土している。なお、本遺構からは、石皿片1点と磨石1点が出土している他に、磨石が第16号堅穴建物跡から2点、第17号堅穴建物跡から1点出土している。これらの遺物の存在から、当時、粉食が盛んにおこなわれていたと考えられ、イネのみでなく堅果類の利用も多かったことが想定できる。このことは、関東北部において、弥生時代から古墳時代前期に至る水田等の生産遺跡の確認数や、石廩のような農具の確認数が他地域に比べ圧倒的に少ないことから想像できるように、古墳時代前期までは生業に占める採集の割合が高かったことが想定される。

この時期の堅穴建物跡は、弥生時代後期末とした第17号堅穴建物跡を含めて7棟確認されており、台地の北側縁辺に沿うように5棟が確認でき、台地上の平坦面である調査2区の際で1棟確認された。年代差はほとんど見られないことから、同時期に2グループの集団が集落を形成していた可能性が考えられる。

続く古墳時代中期になると、集落は確認されず、後期に再び堅穴建物が見える。当該期の遺構は、第31・39号堅穴建物跡の2棟のみで、周辺から出土している当該期の遺物も極めて少ないことから、集落は短期間で、かつ小規模なものであったと考えられる。第31号堅穴建物の竈の焚口部は、凝灰質泥岩の切石で補強がなされており、県北地域に多くみられる「切石組み竈」である⁶⁾。6世紀前葉以降再び集落は断絶し、奈良時代に至るまで、遺構及び遺物は確認できない。

3 奈良・平安時代の遺構と遺物（第220図）

8世紀後葉から10世紀中葉に至る堅穴建物跡を確認した。時期別の変遷をみると、8世紀後葉の集落は、第4・5・15・27・32・36・38号堅穴建物跡の7棟が該当し、西側に位置する谷の縁辺に沿うように展開している。建物の主軸方向は若干東に振れているものの、北方向を意識して構築されている。今回の調査において確認された古代集落の中で最も古い時期にあたる一群である。しかし、6世紀前葉の第31号堅穴建物跡の上層、自然堆積層中から出土した土器類は8世紀中葉まで遡れることから、当調査区内における集落が、8世紀中葉頃に開始したものと考えられる。当該期の特筆すべき出土遺物として、第15号堅穴建物跡からは鉄製

紡錘車が出土している。鉄製紡錘車について、古庄浩明氏の研究によると、6世紀から7世紀初頭に西日本に出現し、8世紀に中部・関東地方に普及、8世紀後半以降には東北地方に伝播している。そして、中部・関東地方への伝播を、「8世紀代段階に起こった生産力の急激な増大を導く政治的・社会的画期の現れであると考え当該期が国分寺、国分尼寺の建立期にあたることから、鉄製紡錘車がこれらの事業に伴う新技術の一つとして導入された。」⁷⁾と指摘している。鉄製紡錘車の普及が官衙周辺集落から開始されることから、当集落の性格を示す資料と捉えることができる。

9世紀前葉の集落は、第2・3・7・10・18・22・23・28・29・43号竪穴建物跡の10棟が該当し、最も集落の規模が拡大する時期に当たる。調査区中央部に所在する第43号竪穴建物跡を除き、調査区北部の台地の突端部に集中して集落が営まれている。建物の主軸方向は8世紀後葉と同じく、若干東に振れているものの、北方向を意識して構築されている。

奈良・平安時代の掘立柱建物跡は、調査区中央部において第32・34～38号掘立柱建物跡の6棟が確認された。遺構に伴う遺物が出土しておらず、時期を特定することはできなかったが、建物の傾きが真北、もしくはやや西に振れる傾向がみられる。竪穴建物の主軸の傾きを見ると、9世紀中葉以降は全て東側に振れるのに対し、9世紀前葉以前の建物は、真北に近いものや西側に振れるものがみられる点において、掘立柱建物との共通性を見いだせることから、古代における掘立柱建物群が8世紀後葉～9世紀前葉にかけての時期に構築された可能性がある。総柱建物は第32号掘立柱建物跡の1棟のみで、第34～38号掘立柱建物跡は側柱建物である。竪穴建物跡が密集する台地北部から少し離れた台地の頂部に近い位置に密集して確認できることから、集落内で共同管理された倉庫などの公的な施設と考えられる。

9世紀中葉の集落は、第13・19・26・37号竪穴建物跡の4棟が該当し、集落の規模が縮小していく時期である。竪穴建物の配置はまばらで、台地上の平坦部に3棟、調査区西部の斜面部に1棟所在している。主軸方向は、それまでの集落のものより東への振れが大きくなっている。

9世紀後葉以降、集落は一且途絶え、10世紀中葉になり北部の台地突端部に第14号竪穴建物跡1棟出現する。東壁に竈が構築されている点で、これまでの集落とは異なる様相を示している。10世紀中葉以降集落が営まれた痕跡はみられない。

この他、当該期の特筆すべき遺物として表土中からの出土ではあるが、腰帯具と円面硯が出土している。腰帯具は粘板岩製の逡方で、平安時代のもと考えられる。円面硯は脚部の一部のみで時期や産地は不明であるが、これらの遺物は集落の性格を考えるうえで、欠くことのできない資料である。また、「府」の墨書が見られる土師器片(SK88)が出土しており、公的な施設の存在を示唆している。

奈良・平安時代の大高台遺跡は、古代常陸国多賀郡の郡家の推定地として著名な遺跡である。今回の調査では、前述したように、鉄製紡錘車や灰胎陶器、腰帯具、円面硯といった官衙の様相を示す遺物を確認することができたが、いずれの出土量も極少量で官衙と決定づけるには至らなかった。しかしながら、腰帯具や文房具の出土は、集落内に官人が存在していたことを示唆しており、官衙周辺集落としての様相を示している。今回の調査は、大高台遺跡の推定範囲の中央部ではあるが、推定範囲の北部から西部にかけては最も標高が高く、また、かつては遺物の散布状況も濃密であったと伝わることから、集落の中心が台地の頂部付近にあることが推定でき、官衙関連施設があるとするならば、本調査区より西側に存在する可能性があるが現状においては確認することはできないため、今後のさらなる資料の蓄積に期待したい。

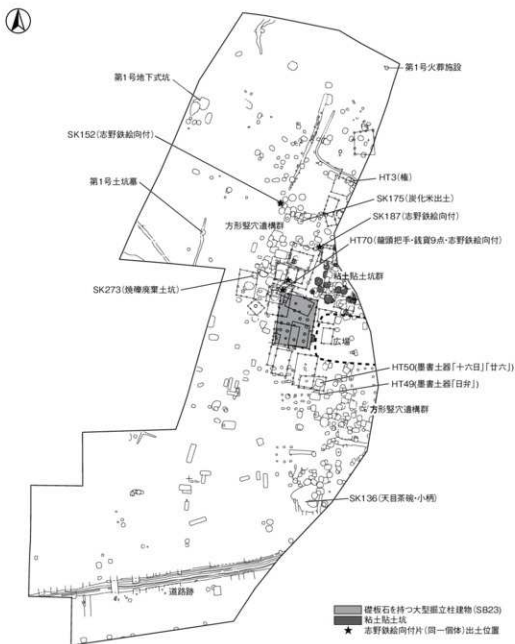
台地上の古墳時代から平安時代の遺構は、竪穴建物跡は遺構確認面において床面が露出しているものがみられ、掘立柱建物跡も深さ30cm未満の掘り込みを残すなど、概して遺存状態が良くない。これらの遺構が位置

する台地上の頂部は、後述する中世～近世の遺構が密集するエリアと重なることから、後世に大規模な土地の改変が行われた可能性が考えられ、平安時代以前の遺構は、中世段階の造成により削平されたと考えられる。

4 中世～近世の遺構と遺物（第221図）

中世の遺構と遺物をみていく前に、当地に残る日弁聖人の伝承について押さえておきたい。大高台遺跡の所在する赤浜の地には、かつて妙法寺と呼ばれる寺院があったと伝承されている。現在は寺院の正確な位置は定かではないが、「法華堂前」という小字名が残されており、本調査区周辺に位置していたと推定されている。鎌倉時代末期の嘉元元年（1303年）、日蓮宗の僧である日弁によって下総国茂原の鷲山寺の末寺として赤浜の地に妙法寺と願成寺が開かれたと伝えられている。開基者の日弁は、日蓮の高弟第十八中老僧の一人で、聖人の号をもって称された高僧で、妙法寺、願成寺を開山した後は、この二寺を拠点として布教活動を行ったとされている。応貞元年（1311年）6月26日、陸奥国伊具郡（現宮城県角田市付近）に赴き、布教の途中で異宗の凶徒に殺害された。遺体は、弟子の手で鷲山寺を目指して運ばれたが、常陸国赤浜まで来たところ棺が動かなくなり、妙法寺で茶毘に付したと伝えられている。日弁の墓は、今回の調査区の東側に隣接しており、現在まで檀徒によって手厚く整備が続けられている⁸⁻⁹⁾。願成寺は、現在も赤浜の地に残されているが、妙法寺は徳川光圀の「一村一寺一鎮守」の政策により、元禄9年（1696年）に妙法寺から大高山宝塔寺と名を改め、成沢村（現日立市成沢）に移されたと伝えられている。妙法寺に関連した文書として、『妙法寺過去帳』¹⁰⁾が伝えられており、歴代住職や、妙法寺において供養された檀徒の戒名や没年月日が記されている。

今回の調査によって確認された遺構の中で実年代が与えられるものとして最も古いものは、第1号火葬施設である。出土した遺物は燃料として用いられた炭化材と少量の焼骨のみであったが、炭化材の年代測定を行った結果、燃料が13世紀後葉から14世紀前葉頃に伐採された可能性が高い。この時期は伝承される妙法寺開山の時期と重なり本遺跡内における中世遺構群の中でも初期のものに位置付けられる。また、中世に比定される掘立柱建物跡は26棟確認されている。調査区中央部にはおびただしい数のピットが確認でき、長期にわたる建物の建て替えが想定される。確認された掘立柱建物の軸方向は東西棟と南北棟の違いはあるものの概ね一致しており、同じ区画意識の中で継続して建物を建てていたことが想定できる。この掘立柱建物跡群の中でも中心的建物として挙げられるのが第23号掘立柱建物跡である。この建物は、礎板石を用いた大型の建物で、桁行約13.5m、梁行約9.5m、面積129.62㎡で、今回の調査において確認された建物の中では最大級の規模である。柱穴や礎板の規模から四面に庇を巡らせた構造であったことが想定され、礎板石を用いた工法による点においても、他の建物とは異なる様相を示す。本調査で確認された礎板石をもつ掘立柱建物跡は、第14号掘立柱建物跡（12か所中1か所）、第19号掘立柱建物跡（11か所中1か所）、第23号掘立柱建物跡（40か所中32か所）、第28号掘立柱建物跡（14か所中4か所）、第31号掘立柱建物跡（17か所中6か所）の5棟である。1棟の柱の総数からみると、礎板石の使用割合は客体的で、主要な部分のみに礎板石を用いていたようであるが、第23号掘立柱建物跡からは40か所の内32か所という高い割合で礎板石が確認されている。他の遺構との重複や削平の影響を考慮すると、実際にはもっと多くの礎板石が使用されていたと考えられる。使用された礎板石の中には被熱したものが多くみられ、特に半面のみが火熱を受け煤が付着したものや表面が荒れたものが見られることから、礎石を礎板石に転用したと考えられ、被熱の痕跡から第23号掘立柱建物以前の礎石建物には、径12～18cmの円柱が掘えられていたと推定できる。妙法寺について、火災や建て替えの記述を文献から確認することはできなかったが火熱を受けた礎石の存在から、掘立柱建物以前に礎石建物が存在したと考えられる。また、礎石の中には側面は被熱しておらず、表表面のみ被熱しているものも確認できることから、建物焼失の



第 221 図 主な中世・近世の遺構位置図

たびに同じ礎石が使用されていた可能性がある。礎板に用いられた石材は、多賀山地で産出する花崗岩、ペグマタイト、アブライト、雲母片岩等の亜円礫が用いられており、関根川や里根川といった近隣の河川で採取したと考えられる¹¹⁾。第 23 号掘立柱建物跡は、東側中央部の庇と考えられる P23 から炭化した柱材が出土しており、年代測定を行った結果、14 世紀末～15 世紀前半に伐採された木材を使用していることが判明した。しかし、柱抜き取り後の埋土中より美濃登窯期の肩衝茶入が出土しており、廃絶時期は 17 世紀中葉に比定される。柱が直接地面に接する掘立柱工法において、200 年以上もの長期間建物が存続できるとは考えにくく、建て替えに伴い他の建物の古材が流用された可能性を踏まえた上で帰属時期を捉えたい。第 23 号掘立柱建物跡は、礎石建物の焼失後に再建された建物の可能性が考えられる。火災の可能性を示す資料としては、他の遺構から出土した陶磁器類や瓦、礫などの遺物の中にも被熱痕がみられるものが多数確認でき、年代のわかる資料

としては、大窯期の瀬戸美濃系陶器に被熱が認められるものが多いことから、16世紀後葉頃に火災があった可能性がある。また、第175号土坑からは炭化米と焼土が投棄された状態で出土しており、年代測定の結果、15世紀中葉もしくは16世紀後葉～17世紀前葉にかけての数値が高く検出された。大半は籾の状態のイネで、貯蔵していたものが焼失したと考えられる。第23号掘立柱建物跡の背後に位置する第273号土坑からは、焼礫と炭化物が多く出土しており、火災による瓦礫を廃棄したものと考えられる。ここからは、細片であるが煙管の一部と考えられる金属片が出土していることから、17世紀以降に投棄されたことが推測できる。建物の様相を示す遺物として、被熱し煤が付着した丸瓦片が2点出土しているが、出土数から見ても総瓦葺の建物があったとは考え難い。茅葺きや柿葺きなどの植物性の屋根材が主として葺かれていたと考えられ、瓦の使用は、棟などの限られた位置にのみ葺かれていた可能性が高い。

当該期の遺構の配置は第23号掘立柱建物跡を中心に展開している様子が確認できる。建物の東側は遺構の密度が低く、広場として利用されていたことが窺え、建物の正面が東向きであったと考えられる。この広場を挟み、北側に粘土貼土坑が、南側に方形竪穴遺構が群をなして位置している。粘土貼土坑は、底面に酸化鉄が付着しており、堆積土壌の下層に砂粒や腐植土を含む層が確認できることから、貯水施設として使用されていた可能性がある。方形竪穴遺構は1.5m×2mほどの長方形のものが多く、内部施設を持たないものがほとんどであるが、底面の壁際に壁溝を持つもの3基（HT53～55）、長軸線上に对てビットを持つもの1基（HT82）が確認できた。遺物が出土しておらず時期を特定できないものが多いが、高萩市鳥名城跡の調査において、類似する遺構が多数確認されており、遺構の形態の分類がなされている。これによると、「方形ないし方形に近いもの」（15世紀後半から16世紀後半）、「長方形」（16世紀前半）、「長方形周溝」（17世紀）の3形態に分けられている。15世紀後半から17世紀中葉にかけての送葬の地として報告がなされている¹²⁰。大高台遺跡の方形竪穴遺構群については、遺構の性格を特定できる遺物を認めることができなかったが、寺院の存在や鳥名城跡の事例から、本遺構群が墓域である可能性がある。今回の調査で墓坑と認定できた遺構は、銭貨5点が底面から出土した第1号土坑のみである。円形で周辺に伴う時期の遺構が確認できておらず、単独で存在している。

調査2区の南部には、溝跡が8条重複して確認でき、側溝と波板状凹凸面が確認できたことから、道路跡と考えられる。側溝の側溝が路面と考えられるが、側溝は片側のみしか確認できず、調査区南壁際に試掘トレンチを掘削したが側溝は確認できなかった。明確な時期は不明であるが、微細な陶磁器片が出土していることから、中世の段階には存在していたと考えられ、近世まで使用されていたとみられる。

当該期の出土遺物として、特に注目すべき遺物は「日弁」（HT49）、「十六日」・「廿六」（HT50）と墨書された土師質土器の小皿である。「日弁」は、妙法寺開基者の名前と考えられ、「十六日」・「廿六」は、儀式を行った日付を表す可能性がある。仏教において様々な仏の縁日が存在し、16日は歡喜天（聖天）、26日は愛染明王などが挙げられる。また、縁日は神仏のみに限らず、人の命日にも法要が行われることから、妙法寺の僧や、檀徒の葬儀や法要に際して用いられた可能性も考えられる。前述したように、日弁の命日が26日であることと、隣り合う遺構中から「日弁」の墨書土器が出土していることから、この土器が日弁の供養に用いられた土器の可能性も考えたが、日弁の死去する時期が14世紀前葉であるのに対し、出土した遺物の年代は16世紀後葉から17世紀とみられることから、死後の追善供養に使用されたと考えられ、開基者である日弁が信仰の対象とし長く祭られていたことを示している。「十六日」については歴代住職の中でこの日が命日と伝えられている人物は、6世日蓮 延徳三年（1491年）三月十六日、8世日泰 弘治二年（1556年）十一月十六日の2名であるが^{8・91}、この二人との関係性は不明である。他にも、本遺跡の性格が窺える文字資料として「蓮

上」(SB40)、「妙」(SB23)、「法」(HT73)などが出土しており、仏教的な様相がうかがい知れる。

中世から近世にかけての陶磁器類(第91表)は、主に13世紀～17世紀にかけての遺物が出土している。確認できた中で最も古く位置付けられる資料は、第451号土坑出土の常滑薬片で、13世紀前半まで遡ると考えられる。しかし、当該期の遺構は確認されておらず、伝世したものの可能性がある。第3号ピット群から出土した古瀬戸瓶子片は肩部とみられ、頭部方向から下部に向かい剣頭文、体部には蕨手状の唐草文が印花文によって施されている。古瀬戸中期様式Ⅱ期とみられることから、14世紀前半に比定できる。当該期の遺構としては、前述した第1号火葬施設が挙げられる。14世紀代の遺物は、古瀬戸中期様式Ⅱ期～後期様式Ⅳ期の瓶子・折縁皿等が出土しており、数は少ないながらも遺物が確認されはじめる時期であり、当地における中世の土地利用が14世紀段階に開始したと考えられる。15世紀代は古瀬戸後期様式Ⅲ期の平碗・皿、常滑薬等が出土している。16世紀代は常滑11型式の鉢や大窯2期の灰軸丸皿、大窯3期の天目茶碗等が出土している。

17世紀代は、大窯4期の丸皿や登窯期の志野鉄絵向付、肩衝茶入、肥前系柿右衛門様式の磁器碗等が出土している。志野鉄絵向付は、第70号方形堅穴遺構、第152・187号土坑、第3号ピット群P400・P608から出土しており、接合はできなかったが同一個体と考えられ、埋没が同時期の可能性がある。また、16世紀後葉に比定される遺物の中に、被熱したものがみられることから16世紀後葉に火災があった可能性がある。17世

第102表 中世陶器分類一覧

遺構名・採取番号	遺物	様式・形式	13世紀		14世紀		15世紀		16世紀		17世紀		備考
			前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	
SB 1-1	古瀬戸灰軸平碗	後期					●	●					
SB 8-1	灰軸内丸皿	大窯3								●			被熱痕
SB 9-1	灰軸内丸皿	大窯3								●			被熱痕
SB14-1	灰軸丸皿	大窯3								●			
SE23-3	肩衝茶入	登窯2									●		
SE23-4	古瀬戸灰軸筒型香炉	後期Ⅲ～Ⅳ					●	●					
SK31-1	古瀬戸緑軸小皿	後期											
SB40-2	天目茶碗	大窯3								●			被熱痕
SB40-3	古瀬戸瓶子	後期								●			
HT15-2	志野野皿	大窯4								●			
HT38-3	古瀬戸鉄軸緑軸小皿	後期Ⅲ					●						
HT69-6	天目茶碗	大窯3								●			
HT70-4	古瀬戸灰軸瓶子	—											
SF 1-1	古瀬戸灰軸平碗	後期Ⅰ～Ⅱ		●			●	●					
SF 1-2	常滑薬	6b型式											
SF 1-3	常滑薬	6b型式		●									
SD 2-1	瀬戸美濃鉢鉢	大窯4								●			
SK35-4	古瀬戸灰軸瓶子	後期Ⅰ					●						
SK136-4	瀬戸美濃天目茶碗	大窯3								●			
SK152-1	志野鉄絵向付	登窯1									●		
SK187-13	古瀬戸灰軸大皿	後期Ⅱ～Ⅲ					●						
SK253-1	古瀬戸鉄軸花瓶	中期											
SK346-22	古瀬戸鉄軸小皿	後期											
SK377-1	瀬戸美濃緑軸折縁皿	登窯2									●		被熱痕
SK377-2	志野丸皿	登窯1									●		
SK395-3	瀬戸美濃天目茶碗	大窯3									●		
SK395-4	志野碗	登窯1									●		
SK398-24	常滑薬	10型式						●					
SK262-1	瀬戸美濃鉢鉢	大窯4									●		
SK262-2	肥前系磁器鉢	柿右衛門様式										●	
SK451-28	常滑薬	5型式	●										
PG 3-1	瀬戸美濃灰軸丸皿	大窯2～3								●			
PG 3-2	志野野皿	大窯4									●		
PG 3-3	古瀬戸灰軸大皿	後期Ⅱ					●						
PG 3-8	古瀬戸直縁大皿	後期Ⅲ～Ⅳ						●					
PG 3-11	常滑鉢鉢	10型式									●		
PG 3-14	古瀬戸灰軸瓶子	中期Ⅱ											
PG 6-36	古瀬戸灰軸平碗	後期Ⅰ～Ⅱ			●	●	●						
遺構外-27	瀬戸美濃灰軸丸皿	大窯4									●		被熱痕
遺構外-28	古瀬戸折縁皿	後期Ⅲ						●					
遺構外-29	常滑鉢鉢	11型式								●			

紀中葉以降の遺物はほとんど確認できないことから、この時期を境に土地利用が畑地へと移り変わったと考えられる。

遺物の中には、輸入陶磁器である景徳鎮窯系青花4点(皿、茶筒底皿、碗)、龍泉窯系青磁6点(稜花皿、連弁文碗、画花文碗)が確認でき、希少価値の高い輸入陶磁器や茶道具等の保有が一定数確認出来ることから、在地の有力者層との結びつきを示す資料とみられる。また、梓桿の錘である榿の出土も注目される。県内における中世の榿の出土は、桜川市犬田神社前遺跡、東海村松白根遺跡、水戸市長者山城跡などで確認されているが、発見例は少なく、しかも、大規模集落や、城跡などに集中して出土している。榿の出土している遺跡は「いずれも室町期を中心とした城館や町屋集落のような流通の拠点」¹³⁾において多く確認されており、本遺跡は寺院と、流通の拠点としての役割も果たして来ていた可能性がある。

希少性の高い陶磁器類を保有しており、長期にわたり継続して信仰されてきた妙法寺は、中世における当地域の中でも有力な寺院であったと考えられ、在地領主との結びつきの強さが窺い知れる。

註

- 1) 玉里村立史料館『霞ヶ浦の弥生土器』玉里村立史料館 2004年10月
- 2) 川崎純徳ほか『赤浜遺跡発掘調査報告書』高萩市教育委員会 1972年3月
- 3) 石橋美和子 新垣清貴『鹿嶋市の文化財第133集 小林遺跡』鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 2009年3月
- 4) 稲村圭一『福島県内の弥生時代中期の住居跡について—まほろん取蔵資料からの検討—』『福島県文化財センター白河館 研究紀要』福島県文化財センター白河館 研究紀要 2013
- 5) 海老澤松『志瀬川流域における弥生後期の土器変遷について』『茨城県史研究 62』茨城県立歴史館 1889年3月
- 6) 櫻村宣行『那珂川以北を中心とする「切石組み籠」の一考察』『領域の研究—阿久津久先生選群記念論集—』2003年4月
- 7) 古庄清明『鉄製紡錘の研究—東日本への伝播について—』『國學院大學考古学資料館紀要 第8輯』1972年3月 國學院大學考古学資料館 1992年3月
- 8) 高萩市史編さん委員会『高萩市史・下』高萩市 1988年6月
- 9) 志田淳一『中世常陸の村落社会—多珂郡赤浜妙法寺過去帳を説く—』筑波書林 1984年5月
- 10) 『妙法寺過去帳』願成寺蔵
- 11) 石材の鑑定は田切美智雄氏のご指導を受けた
- 12) 豊田智美・河野一也ほか『島名城跡・関東第五淨光会館建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高萩市教育委員会 2010年7月
- 13) 越田真太郎『鍾小考』『婆良岐考古 第26集』婆良岐考古同人会 2004年5月

参考文献

- 井上喜久男『戦国桃山の茶人』多治見市美遺焼ミュージアム 2019年1月
- 茨城県考古学協会中世シンポジウム実行委員会『茨城県考古学協会シンポジウム 茨城中世考古学の最新編—編年と基準資料—』茨城県考古学協会 2011年1月
- 小野正敏 編『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会 2001年3月
- 鎌倉市教育委員会・鎌倉考古学研究所『集成 鎌倉の発掘 第7～10巻 永福寺他編(1)～(4)』1996年
- 瓦次郎 編『高萩市の文化財』高萩市教育委員会 2015年3月
- 諸原政博ほか『赤浜古墳群(発掘調査の概要)』高萩市教育委員会 1972年3月
- 藤澤良祐『中世瀬戸窯の研究』高志書院 2008年3月
- 松田政基ほか『松岡城跡 E 地点-高萩市立松岡小学校校舎改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高萩市教育委員会 2013年3月
- 宮田和男『松岡城跡 D 地点-高萩市立松岡小学校校舎改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高萩市教育委員会 2011年3月

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

北久保B遺跡は、高萩市の北東部に位置し、関根川左岸の標高約21mの台地上に立地している。遺跡の所在する台地は、北から南へ、東から西へ傾斜している。また、台地北端部では低地との高低差が8mある。調査区北側には、南西から北東方向に延びる大きな谷津があり、調査区東・西側には南北に延びる小さな谷津が入り組む下位侵蝕段丘である。調査区南側には浅い谷津が入っており、滞水期の影響を受け調査区南側は砂質層となっている。調査面積は1593㎡で、調査前の現況は畑地である。

調査の結果、竪穴建物跡13棟（古墳時代11・奈良時代2）、方形竪穴遺構14棟（室町時代）、土坑58基（時期不明）、溝跡2条（時期不明）、遺物包含層1か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に20箱出土している。主な遺物は、縄文土器片（深鉢）、弥生土器片（壺）、土師器片（坏・高坏・甕）、須恵器片（坏・高台付坏・蓋・盤・高盤・短頸壺・甕）、石器・石製品（石核・剥片・石錐・磨石・敲石・砥石）、金属製品（刀子・鉄鏃）、銭貨（洪武通寶）などである。

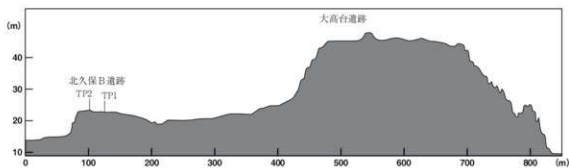
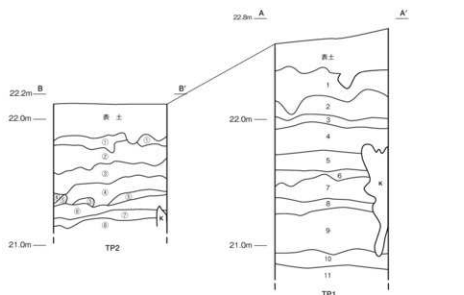
第2節 基本層序

調査区が南から北へと緩やかに傾斜しており、南北で違いがみられたため、台地上の南部（B2h5区）にT P 1、中央部（B2a8区）にT P 2を設定し、基本土層（第222図）の観察を行った。

T P 1の第1層は、にぶい黄褐色（10YR5/6）を呈する砂質層である。ローム粒子・白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は20～40cmである。第2層は、にぶい黄褐色（10YR5/4）を呈する砂質層である。鉄分を少量、白色粒子を極微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は10～20cmである。第3層は、褐色（10YR5/4）を呈する砂質層である。鉄分を中量、白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は5～10cmである。第4層は、にぶい黄褐色（10YR4/6）を呈する粘土混じりの砂質層である。炭化物を少量、鉄分を極微量、白色粒子を少量含み、粘性は強く締まりは普通で、層厚は10～24cmである。第5層は、にぶい黄褐色（10YR5/4）を呈する粘土混じりの砂質層である。炭化粒子を中量、鉄分・白色粒子を微量含み、粘性は強く締まりは普通で、層厚は5～15cmである。第6層は、にぶい黄褐色（10YR5/4）を呈する粘土混じりの砂質層である。炭化粒子・鉄分を少量、白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は3～10cmである。第7層は、にぶい黄褐色（10YR5/4）を呈する粘土層で4～6層よりも硬い。炭化粒子・鉄分・白色粒子を少量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は6～25cmである。第8層は、にぶい黄褐色（10YR6/4）を呈する粘土層である。炭化物を少量、鉄分を中量、白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は6～16cmである。第9層は、にぶい黄褐色（10YR6/4）を呈する粘土層である。炭化物・鉄分を中量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は18～35cmである。第10層は、にぶい黄褐色（10YR6/4）を呈する粘土層である。鉄分・中礫を中量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は8～13cmである。第11層は、黄褐色（10YR6/4）を呈する砂層である。灰白色（10YR7/1）の粘土層が縮状に薄く入る。粘性・締まりともに普通で、層厚は1下層が未掘のため不明である。遺構は、第2層の上面で確認した。

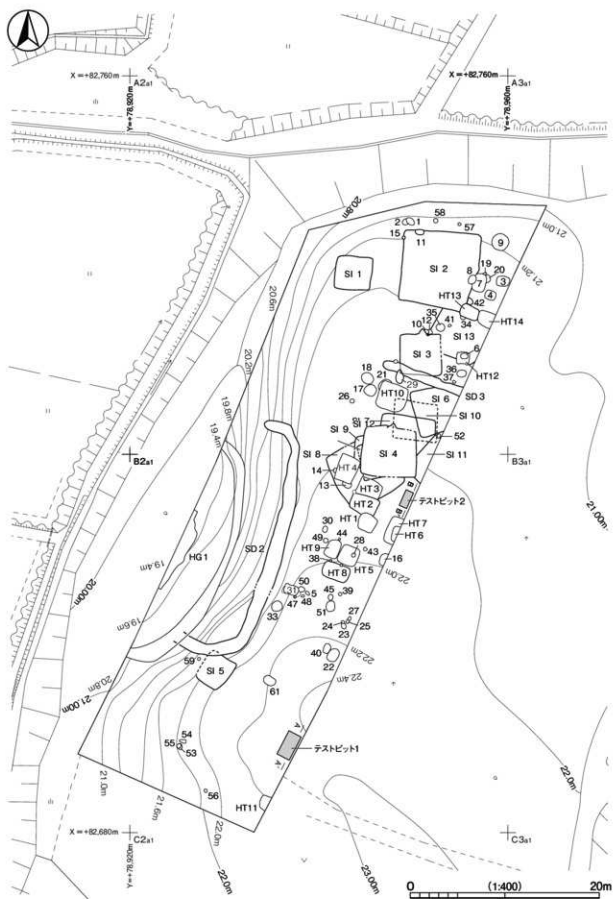
TP2の第①層は、褐色(10YR4/6)を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は3~9cmである。第②層は、褐色(10YR4/4)を呈するソフトローム層である。白色粒子を少量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は10~20cmである。第③層は、褐色(10YR4/4)を呈するソフトローム層である。白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は8~17cmである。第④層は、にぶい黄褐色(10YR4/3)を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は3~18cmである。第⑤層は、にぶい黄褐色(10YR5/4)を呈するソフトローム層である。白色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強く、層厚は5cmである。第⑥層は、褐灰色(10YR5/1)を呈する水性堆積層である。赤城鹿沼テフラを少量含み、粘性は普通で締まりは非常に強く、層厚は6~12cmである。第⑦層は、黄橙色(10YR8/8)を呈する赤城鹿沼テフラ層である。粘性は普通で締まりは強く、層厚は4~8cmである。第⑧層は、にぶい黄褐(10YR4/3)を呈する粘土層である。粘性は強く締まりは普通で、層厚は下層が未掘のため不明である。遺構は第3層上面で確認した。

調査区南側のTP1は、南側に広がる浅い谷津の滞水期の影響を受け砂質層となっており、北側のTP2はローム層の残りが良くなっており、狭い範囲の調査区ではあるが南北で全く違う基本層序を確認した。



北久保道路-大高台道路周辺地形横断面図(距離1/6000,標高1/1200 国土地理院地図電子国土Web)

第222図 基本土層図



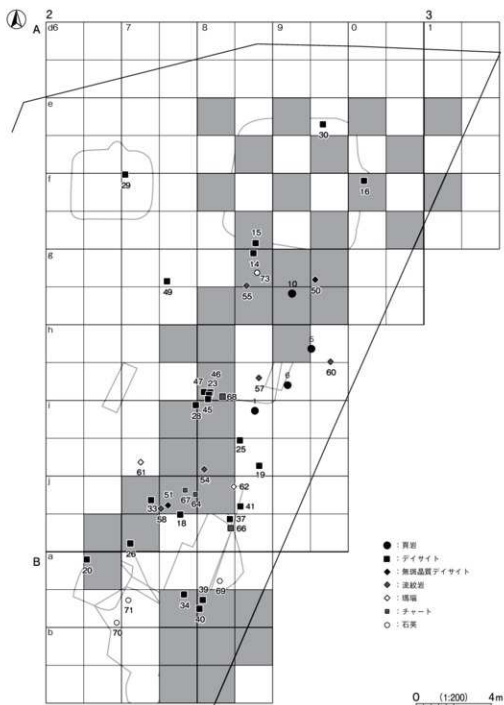
第 223 図 北久保B遺跡遺構全体図

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の遺物

(1) 調査の方法 (第224図)

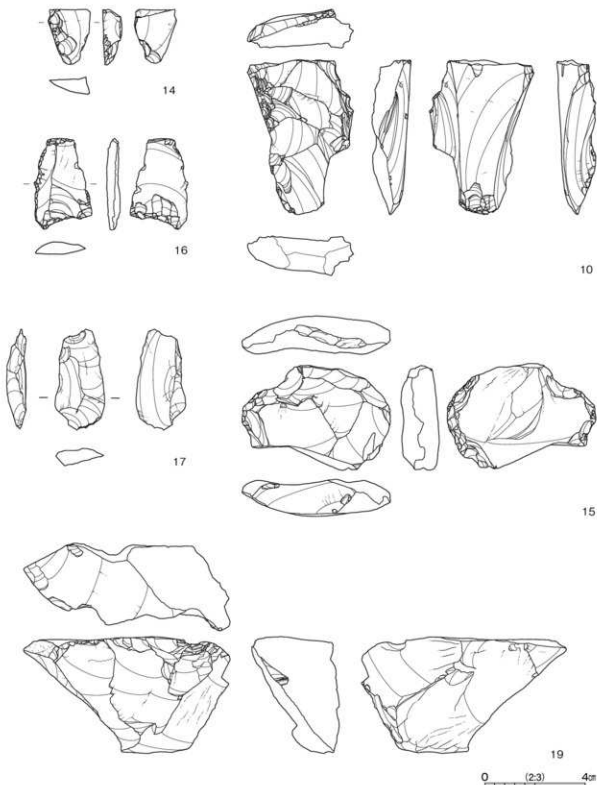
調査区北部A 2e6～B 2c8区の他時代遺構覆土中から、当時代の石器が出土した。出土した遺構を中心に、グリッド法で(第224図中のグレーの範囲)調査を行ったが、表土下層から赤城鹿沼テフラ層までの層厚が薄く、石器集中地点を確認することはできなかった。



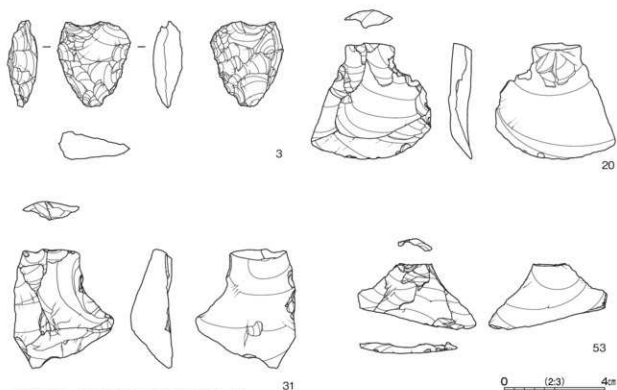
第224図 旧石器時代調査範囲グリッド図

(2) 出土石器 (第225・226図 第103表 PL38・46・47)

石器の出土総点数は73点で、材質・母岩別一覧に示し、うち10点を図示した。削器1点、尖頭器1点、石核2点、盤状剥片石核1点、翼状剥片1点、剥片67点が出土している。



第225図 旧石器時代出土遺物実測図(1)



第 226 図 旧石器時代出土遺物実測図 (2)

第 103 表 旧石器時代出土遺物一覧

番号	部類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	出 土 層	特 徴	出土遺物 データベース	区・層位	備考	
1	刮片	16.34	13.15	1.64	0.38	硬質頁岩	1	打点頸縁部折れ	SS 1		観察表のみ	
2	刮片	22.77	16.61	2.47	0.96		調整刮片	SI 4	3区3 X		観察表のみ	
3	刮片	33.45	27.39	10.34	8.99		両頸縁部押圧調整	SI 6	3区1 X		PL46	
4	刮片	23.67	22.88	14.13	8.27	硬質頁岩	2	被熱破砕の可能性有り	SI 4	3区1 X		観察表のみ
5	刮片	16.70	11.90	2.15	0.32		調整刮片	SI3			観察表のみ	
6	刮片	18.32	15.12	5.06	0.94			SI 3			観察表のみ	
7	刮片	15.45	8.33	5.00	0.39	硬質頁岩	3		SI 5	1区1 X		観察表のみ
8	刮片	15.87	10.77	5.14	0.69			SI 7	3区 X		観察表のみ	
9	刮片	22.61	15.76	4.27	1.27			SI 7	3区 X		観察表のみ	
10	撥状刮片石核	89.89	34.89	12.21	31.37			両頸縁部微細調整痕 両端部調整調整 右頸縁部折れ 左頸縁部微細調整痕	SK35		PL46	
11	刮器	80.54	52.68	16.35	91.11	アイサイト		風化著しい	SI 4	4区1 X	PL46	
12	刮片	33.67	29.01	10.19	8.59	アイサイト	4	風化著しい	SI 4	1 X	PL46	
13	刮片	47.94	42.70	10.06	9.34			SI10	1 X		PL46	
14	刮片	21.86	16.91	6.67	2.61	アイサイト	5	両頸縁部微細調整痕	SS 1		PL46	
15	刮片	57.44	36.34	13.54	33.21			SI 2			PL46	
16	刮片	33.16	22.41	4.97	3.78			SI 2			PL46	
17	刮片	38.84	19.89	4.21	3.72		SI 3	3区1 X		PL46		
18	刮片	43.92	28.80	11.35	11.07		SI 4			PL46		
19	石核	76.84	60.49	18.32	80.92			上部に連続する打点	SI 6		PL38・47	
20	刮片	49.29	46.64	8.09	16.01			両頸縁部微細調整痕	SI 8		PL46	
21	刮片	37.62	19.00	6.66	4.30	アイサイト	6		SK 7	X	観察表のみ	
22	刮片	32.42	11.22	6.74	1.89			SK 9	X		観察表のみ	
23	刮片	15.51	6.58	4.38	0.41			SK29			観察表のみ	
24	刮片	30.03	25.25	5.60	3.08			唯部調整痕	SI 4	3区2 X	観察表のみ	
25	刮片	49.26	30.84	12.89	17.59				SI 6		PL46	

番号	形状	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	第一 番号	特 徴	出土遺物 アタッシュ	区・層位	備考
26	銅片	2677	10.59	4.91	1.23	アイサイト	6	垂直折れ	SS 9		観察表のみ
27	銅片	3549	31.63	7.28	9.85			SD 2	2区 X	PL47	
28	銅片	2434	20.21	11.46	5.10			HD		観察表のみ	
29	銅片	5510	26.96	10.28	10.52			SS 1		観察表のみ	
30	銅片	3875	26.08	7.30	8.30			SS 2		PL47	
31	銅片	4684	40.13	16.27	19.46						
32	銅片	2579	16.70	5.24	1.89						
33	銅片	2753	20.76	4.78	2.00						
34	銅片	5205	40.34	10.71	19.07						
35	銅片	2662	17.66	5.24	2.50						
36	銅片	2765	17.71	9.30	4.23						
37	銅片	3099	23.61	5.94	5.27						
38	銅片	1298	11.08	1.73	0.28						
39	石鏃	4485	37.64	17.81	24.78						
40	銅片	4659	37.17	21.62	20.48	アイサイト	7		SS 2	4区 2 X	PL47
41	銅片	2057	14.78	3.89	0.82						
42	銅片	2906	21.40	4.02	2.82						
43	銅片	3826	18.54	6.30	3.94						
44	銅片	2517	15.71	4.83	2.38						
45	銅片	1810	10.50	5.14	4.39						
46	銅片	2988	14.30	5.33	2.33						
47	銅片	932	3.80	1.12	0.03						
48	銅片	2853	15.49	8.58	3.42						
49	銅片	3556	21.35	7.21	4.50						
50	銅片	1719	11.45	2.61	0.43			無炭素質 アイサイト			
51	銅片	5308	36.36	9.46	19.51			無炭素質 アイサイト	端部折れ有り		
52	銅片	1578	9.25	4.41	0.40			無炭素質 アイサイト			
53	銅片	4731	22.62	5.45	4.84			無炭素質 アイサイト	端部折れ有り		
54	銅片	1672	6.40	1.09	0.08						
55	銅片	2058	14.47	3.74	1.28						
56	銅片	3651	33.37	8.08	8.61		無緑部洞離れ 自然面残る				
57	矢鏃部	2597	23.24	6.51	3.52	流紋岩	8	両無緑部洞離れ 両端部折れ	SS 3		PL47
58	銅片	2924	23.36	8.01	4.22				自然面残る		
59	銅片	2937	36.94	7.68	5.35						
60	銅片	3490	19.97	8.73	4.71				無緑部洞離れ 自然面残る		
61	銅片	3027	23.28	6.56	5.02			馬籠	両面自然面残る		
62	銅片	1910	7.22	2.03	0.30			馬籠			
63	銅片	3514	25.65	6.22	5.67	馬籠	左無緑部洞離れ 自然面残る				
64	銅片	2135	12.73	3.74	1.04	チャート	風化が著しい 薄。				
65	銅片	2407	14.74	7.11	2.74	チャート					
66	銅片	2214	15.09	8.79	2.60	チャート					
67	銅片	2446	13.39	4.27	1.16	チャート	断面有り				
68	銅片	2699	19.39	3.58	1.95	チャート					
69	銅片	2716	12.94	8.02	3.62	石英					
70	銅片	2245	9.12	8.62	1.83	石英					
71	銅片	3298	23.21	7.39	4.01	石英					
72	銅片	1991	10.25	5.29	0.80	石英					
73	銅片	2217	14.59	2.91	0.65	石英					

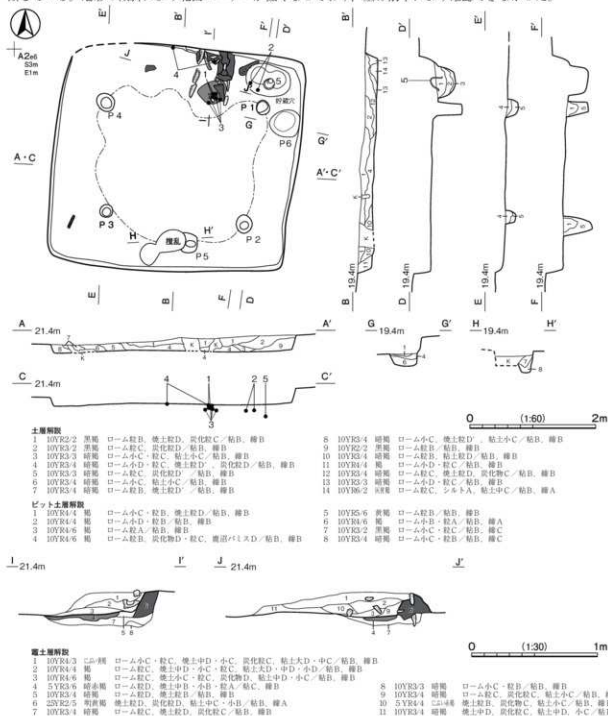
2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡11棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

堅穴建物跡

第1号堅穴建物跡 (第227・228図 第104表 PL38・48)

位置 調査区北部のA2e6区、標高21.2mほどの台地縁辺の南東から北西へと傾斜する斜面部に位置している。
規模と形状 長軸3.90m、短軸3.60mの方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ10~24cmで、外傾している。地形の傾斜により北西コーナーが低くなっており、壁は削平により確認できなかった。



第227図 第1号堅穴建物跡実測図

床 平坦で、鹿沼バミス層を床面としており硬化が認められる。

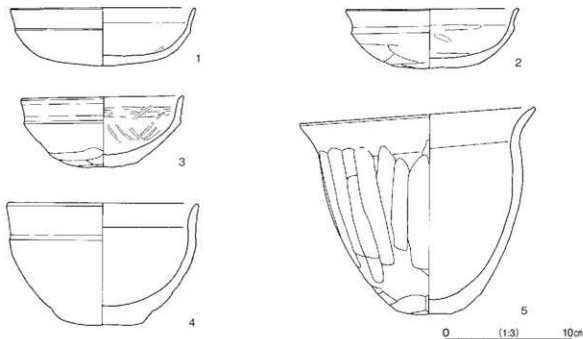
竈 北壁東寄りに付設されている。上部はかなり削平されており、遺存状況は不良である。規模は、焚き口から煙道部奥壁まで70cmで、燃焼部幅は50cmである。右袖部は、凝灰質泥岩を基部とし砂質粘土ブロックを含む第6層を積み上げて構築している。左袖部は、構築材の凝灰質泥岩のみを確認した。袖部構築材は焚き口側をやや広くして方形に組まれている。火床面は、床面から10cmほど掘り込み第4・5層を埋土して整地しており、楕円形状に厚さ3cmほどが焼土化している。残存する煙道部は、北壁内面に第6層を充填して構築されており、火床面から外傾して立ち上がる。配置や構造から煙出しが壁外に出ない初期竈である。

ピット 6か所。P1～P4は、径20～30cmの円形で、深さ15～50cmである。配置から支柱柱と推定される。P5は、西側の3分の1が攪乱を受けているが、およそ径30cmの円形で、深さ35cmである。南壁際の竈に正対する配置から、出入口施設に伴うピットと推定される。P6は、径50cmの円形で、深さ10cmである。貯蔵穴 北東コーナーに位置し、長径72cm、短径50cmの楕円形で、深さ32cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 14層に分層できる。ロームブロックを含む層が、不規則に堆積していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片222点(坏118, 碗1, 甕102, 手捏1), 須恵器片1点(坏), 縄文土器片12点(深鉢), 弥生土器片25点(壺), 石器3点(剥片, 磨石, 石錘)が出土している。1・3・4は竈内から、2・5は貯蔵穴の上層から出土している。

所見 時期は、竈の形状や出土遺物から、5世紀末と推定される。



第228図 第1号竈穴建物跡出土遺物実測図

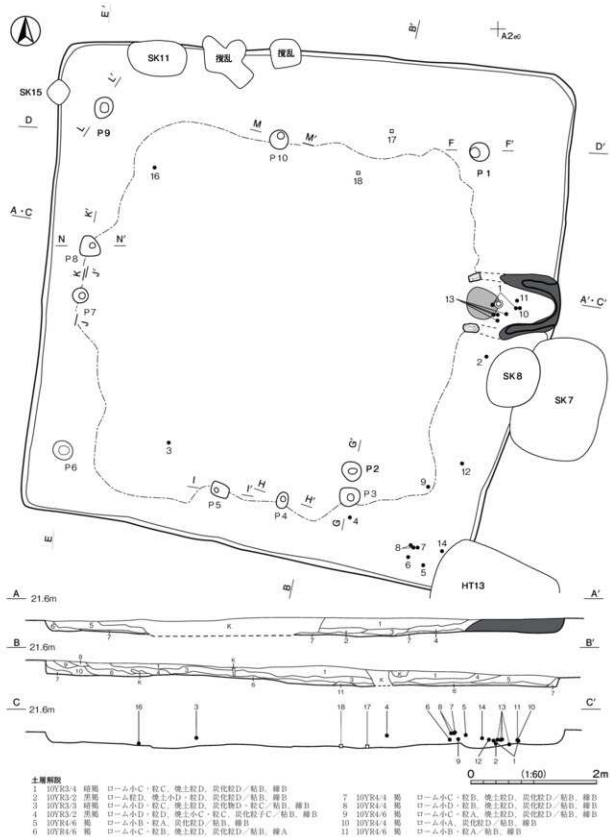
第104表 第1号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	図種	口径	器高	底径	出土	色澤	地底	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	145	4.6	—	長石・石英・雲母 赤色粒子・針状鉱物	T5V82/4 に多い型	普通	口縁部・体部外面ナデ 内面ヘラ磨き 底部ヘラ削り	竈内	80%
2	土師器	坏	138	4.9	—	長石・石英・赤色粒子 針状鉱物	3V107/6 型	普通	口縁部ナデ 内面ヘラ磨き 底部多方向へのヘラ削り	貯蔵穴上層	70% PL48
3	土師器	坏	128	5.7	—	長石・石英・針状鉱物	T5V106/4 に多い型	普通	口縁部・体部外面ナデ 内面ヘラ磨き 底部無調整	竈内	60% PL48
4	土師器	碗	115/101	9.7	6.7	長石・石英・赤色粒子	3V106/4 に多い型	普通	全体的に磨減が著しい	竈内	80%
5	土師器	甕	186	16.5	5.4	長石・石英・赤色粒子 針状鉱物	T5V82/6 に多い型	普通	口縁部・内面ナデ 体部外面ヘラ削り 底部無調整 内面・底部の磨減が著しい	貯蔵穴上層	100% PL48

第2号竪穴建物跡 (第229～232図 第105表 PL38・39・48・50)

位置 調査区北部のA 2e8区、標高21.2mほどの台地縁辺の南から北へと傾斜する斜面部に位置している。

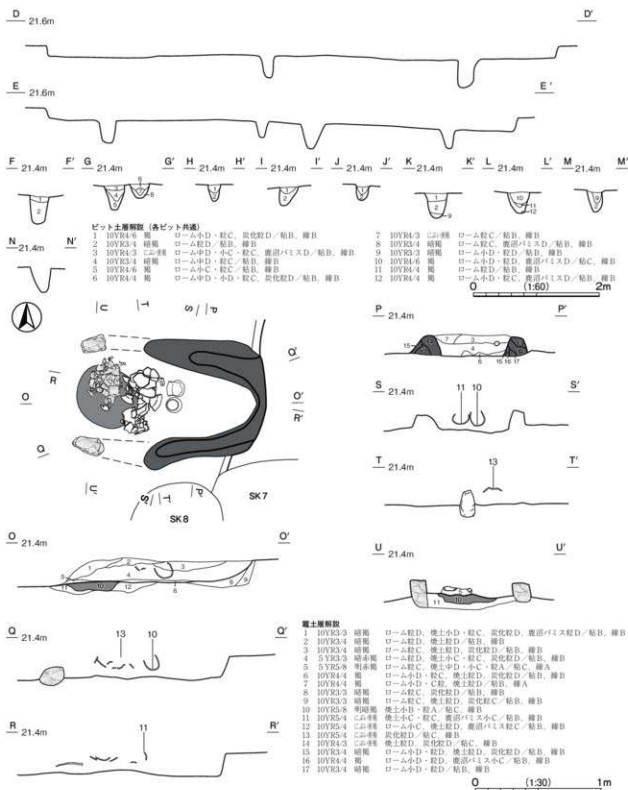
重複関係 第42号土坑を掘り込み、第13号方形竪穴遺構、第7・8・11・15号土坑に掘り込まれている。



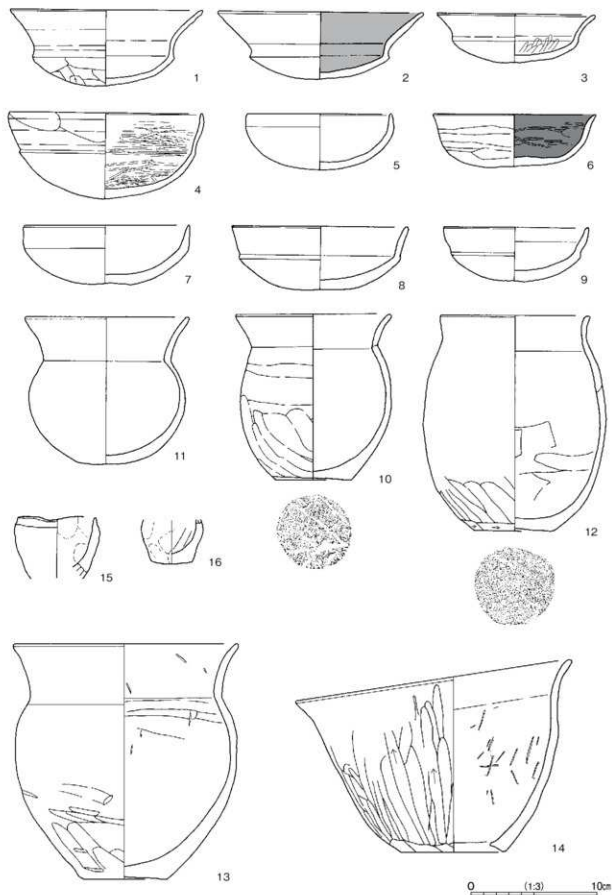
第229図 第2号竪穴建物跡実測図(1)

規模と形状 長軸8.17 m、短軸8.05 mの方形で、主軸方向はN-94°-Eである。壁は高さ14~22 cmで、外傾している。

床 平坦で、鹿沼層を床面としており硬化が認められる。床面直上で炭化材が確認できたことから、焼失家屋と推定される。



第230図 第2号堅穴建物跡実測図(2)



第 231 图 第 2 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)

竈 東壁中央部に付設されている。上部は削平されており、遺存状況は不良である。規模は、焚き口から煙道部奥壁まで140cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は床面に粘土ブロックを含む第13～17層を積み上げて構築している。両袖の先端部は5cmほど掘り込まれ凝灰質泥岩を心材として設置している。心材からは直接被熱した痕跡はみられず、周囲に袖部構築土が積み上げられていたと推定されるが確認できない。また、火床面上から横架材と思われる凝灰質泥岩が確認できたことから切り石組竈と推定される。火床面は、床面から5cmほど掘り込み第10～12層を埋土して整地しており、楕円形状に厚さ4cmほどが焼土化している。残存する煙道部は壁外へわずかに掘り込まれていることが確認できる。東壁面に第8・9層を充填して構築されており、火床面から外傾して立ち上がる。配置や構造から煙出しが壁外に出ない初期竈である。

ピット 10か所。P1・P2・P6・P9・P10は長径30～40cm、短径20～30cmの楕円形で、深さ32～45cmである。P5は長径30cm、短径20cmの方形で、深さ30cmである。配置から6本構成の主柱穴と推定される。P7・P8は径25～40cmの円形で、深さ25～40cmである。竈に正対し、西壁際に配置することから出入口施設に伴うピットと推定される。

覆土 11層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片498点(坏137,器台1,高坏1,手捏4,甕346,小形甕8,瓶1),縄文土器片24点(深鉢),弥生土器片31点(壺),石器10点(石核1,剥片5,磨石2,敲石2),が出土している。5～8・14は南東角から、1・10・11・13は竈火床部奥側から、10・11は並んだ状態で出土している。竈から出土している遺物は第4層からで流れ込んだものと想定される。

所見 時期は、竈の形状や出土遺物から、5世紀末と推定される。



第232図 第2号竈穴建物跡出土遺物実測図(2)

第105表 第2号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	坏	15.2	61	—	長石・石英・雲母・針状鉱物	7.5Y R2/6 黄	普通	1.1層部・体部外面ナデ 底面へウ割り 内面は磨減が著しい	竈奥土下層	70% PL-48
2	土師器	坏	16.41	53	—	長石・石英・針状鉱物	10Y R2/3 赤い	普通	1.1層部・体部外・内面・底面ナデ 内面本彩 体部外面一部本彩	竈土下層	60% PL-48
3	土師器	坏	12.41	38	—	長石・石英・針状鉱物	7.5Y R6/6 黄	普通	1.1層部ナデ 体部内面へウ割り 体部外面・底面ナデが体部外面・底面は磨減が著しい	竈土中層	60%
4	土師器	坏	13.1	68	—	長石・石英・雲母・針状鉱物	2.5Y R6/6 橙	普通	1.1層部・体部外面・底面ナデ 内面へウ割り	竈土上層	100% PL-48
5	土師器	坏	11.4	44	—	長石・石英・針状鉱物	7.5Y R6/6 黄	普通	1.1層部・体部外・内面ナデ 全体的に磨減が著しい	竈土中層	80% PL-48
6	土師器	坏	12.7	42	—	長石・石英・雲母・針状鉱物	5Y R6/6 橙	普通	1.1層部・体部外面ナデ 内面へウ割り 底面へウ割り 内面黒色気理	竈土下層	70% PL-48
7	土師器	坏	13.0	47	4.0	長石・石英・針状鉱物	7.5Y R6/4 赤い	普通	1.1層部・体部外・内面ナデ 底面へウ割り	竈土上層	50%
8	土師器	坏	13.8	50	4.5	長石・石英・雲母・針状鉱物	7.5Y R7/4 赤い	普通	1.1層部・体部外・内面ナデ 底面へウ割り	竈土上層	50%
9	土師器	坏	11.31	44	3.4	長石・石英・針状鉱物	5Y R6/6 黄	普通	全体的に磨減が著しい	竈土下層	50%

10	土師器	小形甕	[121]	13.2	6.0	長石・石英	75YR6/4 に濃い橙	普通	体部外面上部へウナダ 中・下部斜めへウナダ 底部木炭痕 体部外面斜傾削り磨削 全体的に磨滅が著しい	縄文中層 PI.48	70%
11	土師器	小形甕	[127]	11.7	3.5	長石・石英・雲母	7.5YR7/4 に濃い橙	普通	全体的に磨滅が著しい	縄文中層 PI.48	60%
12	土師器	小形甕	[116]	17.1	6.4	長石・石英	10YR5/3 に濃い黄緑	普通	口縁部ナダ 体部外面下部へウナダ 内面ナダ 底部へウ ナダ 口縁部 体部外面中部は磨滅が著しい	縄土下層 PI.48	40%
13	土師器	甕	17.5	18.6	7.0	長石・石英	7.5YR6/4 に濃い橙	普通	口縁部 体部外面中部ナダ 中部隆 下部へウナダ 内面 ナダ・土片散在 表面は磨滅が著しい	縄文中層 PI.48	60%
14	土師器	甕	22.1	15.2	8.3	長石・石英・赤色鉄子 雲母	7.5YR7/4 に濃い橙	普通	口縁部・体部内面ナダ 外面へウナダ 内面工具痕有	縄土下層 PI.48	80%
15	土師器	手取土器	[60]	5.00	—	長石・石英	5YR6/4 に濃い橙	普通	口縁部つまみ 内面磨削痕 外面一部に布目跡有	縄土中 PI.50	30%
16	土師器	手取土器	—	3.5	3.3	長石・石英	10YR7/4 に濃い黄緑	普通	体部外面磨削痕 内面ナダ・黒色炭痕	灰土 PI.20	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
17	磁石	7.4	6.0	4.2	289.95	花崗岩	側面・頂点部削打痕	灰土	
18	磁石	7.7	6.5	5.1	405.85	花崗岩	2面・側面削打痕 1面磨り痕	灰土	

第5号竪穴建物跡（第233・234図 第106表 PL39）

位置 調査区南部のB233区、標高219mほどの台地縁辺の南東から北西へ傾斜する斜面部に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 斜面部に位置しているため北西部は削平されており、長軸3.52m、短軸3.05mのみ確認できた。

平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-35°-Eと推定される。壁は高さ6〜38cmで、外傾している。

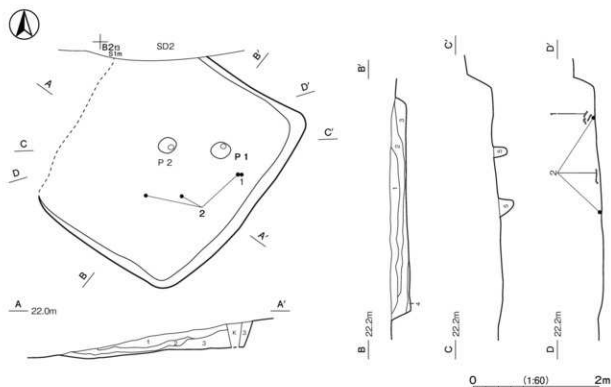
床 平坦で、硬化面は確認できない。北西側は削平されており、西側へ広がる可能性がある。

ピット 2か所。P1・P2共に長径30cm、短径25cmの楕円形で、深さ24cmである。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片101点（甕100、甕1）、縄文土器片1点（深鉢）、石器1点（剥片）が出土している。

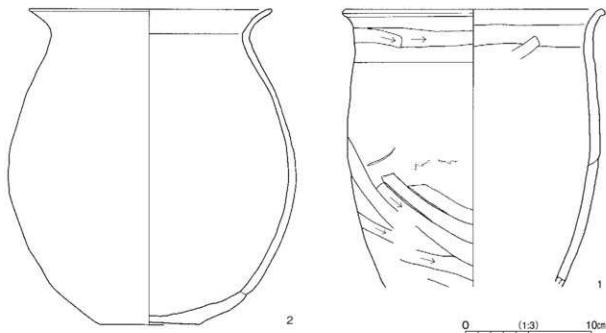
所見 時期は、出土遺物から7世紀前半と推定される。



土層解説・ピット土層解説

- 10YR3/4 粘質 ローム中D・小D・粒C、焼土粒D、炭化物D・粒D/粘B、雜B
- 10YR3/3 硬質 ローム小D・粒D、焼土粒D/粘B、雜B
- 10YR4/6 粘質 ローム小C・粒A、炭屑/土片B/粘B、雜B
- 10YR4/6 粘質 ローム小B・粒A、粘B、雜B
- 10YR4/4 粘質 ローム中D・小C・粒B/粘B、雜B

第233図 第5号竪穴建物跡実測図



第234図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図

第106表 第5号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	204	220	—	長石・石英・雲母	5Y8S-6 橙	普通	体部外面下部斜め方向へのヘリ張り	床面	60%
2	土師器	甕	192	250	80	長石・石英・片状鉱物	5Y8S-6 橙	普通	磨減が著しい	床面	40%

第6号竪穴建物跡 (第235図 PL.39)

位置 調査区北部のA218区、標高21.6mほどの台地上に位置している。

重複関係 第7・10号竪穴建物跡を掘り込み、第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 重複状況及び、南東部が調査区域外へと延びているため、長軸5.18m、短軸4.75mのみ確認できた。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-13°-Wである。壁は高さ18cmで、外傾している。

床 平坦で、硬化面は確認できない。

ピット 3か所。P1～P3は、長径35～77cm、短径35～55cmの楕円形で、深さ22～33cmである。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片110点(坏7、高坏1、甕102)、縄文土器片6点(深鉢)、弥生土器片17点(壺)、石器3点(石核1、剥片2)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、重複関係から、第10号竪穴建物跡を掘り込んでいることから古墳時代中期以降と推定される。

第7号竪穴建物跡 (第236・237図 第107表 PL.39・48)

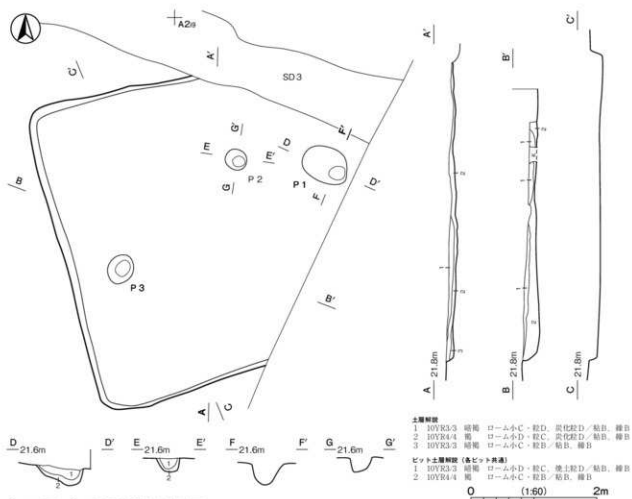
位置 調査区北部のA217区、標高21.7mほどの台地上に位置している。

重複関係 第4・6・10・11号竪穴建物に掘り込まれている。

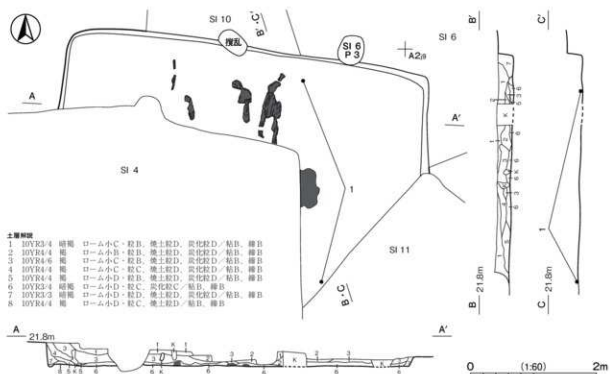
規模と形状 重複状況から、東西軸5.84m、南北軸は4.00mのみ確認できた。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-3°-Eと推定される。壁は高さ12～26cmで、外傾している。

床 平坦で、硬化面は確認できない。炭化物や焼土が床面から出土していることから焼失家屋と推定される。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含む層が、不規則に堆積していることから、人為堆積である。



第 235 図 第 6 号竪穴建物跡実測図



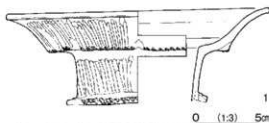
第 236 図 第 7 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 136点 (坏7, 埴1, 壺2, 甕125, 手捏1), 縄文土器片4点 (深鉢), 弥生土器片83点 (壺), 石器4点 (剥片) が出土している。弥生土器片は床面近くから出土しているものが多くみられ共伴の可能性がある。

所見 時期は, 出土遺物から4世紀前葉と推定される。

第107表 第7号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	図録	1冊	冊数	素材	出土	数量	形状	用途	出土位置	備考
1	土師器	壺	337	(7点)	—	板石・板瓦・雲母 片状破片	75YR6/4 に近い緑	普通	内面磨き・内面ナデ くびれ部・胴部付け根にキザミ目	床面	30% PL48



第237図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図

第8号竪穴建物跡 (第238～240図 第108表 PL40・48)

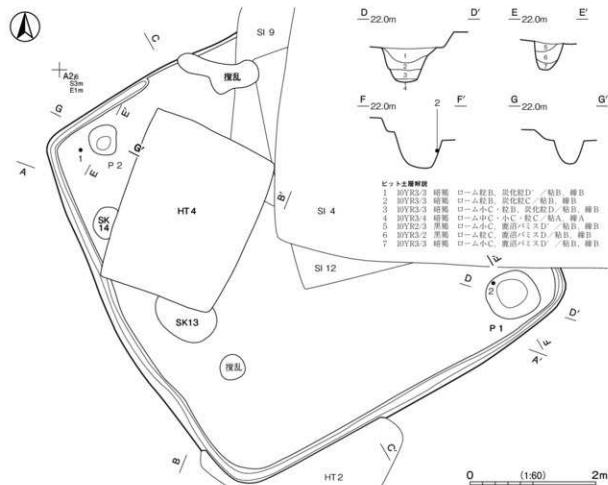
位置 調査区北部のA2j6区, 標高21.6mほどの台地上に位置している。

重複関係 第4・9・12号竪穴建物, 第2～4号方形竪穴遺構, 第13・14号土坑に掘り込まれている。

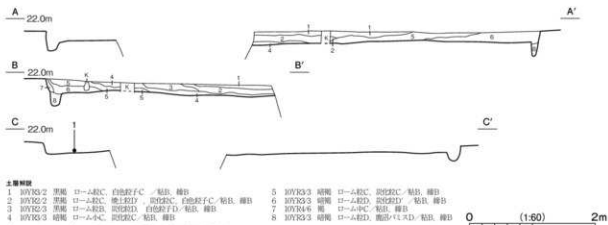
規模と形状 重複状況から, 長軸6.60m, 短軸6.35mの方形と想定され, 主軸方向はN-28°-Wと推定される。壁は高さ12～18cmで, 外傾している。

床 平坦で, 硬化面は確認できない。溝がほぼ全周する。

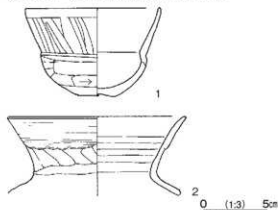
ピット 2か所。P1・P2は, 長径50～87cm, 短径45～74cmの楕円形で, 深さ40～60cmである。P1



第238図 第8号竪穴建物跡実測図(1)



第239図 第8号竪穴建物跡実測図(2)



第240図 第8号竪穴建物跡出土遺物実測図

第108表 第8号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	形状	口径	高さ	径寸	出土位置	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	埴	106	(69)	25	長石・石英・珪藻土	2.5YR7/4 に高い埋 2.5YR6/6 層	普通	体部外面下部斜め方向へのへう張り	床面	95% 1% 4%
2	土師器	壺	138	(53)	-	長石・石英		普通	壁が美しい	P1中層	30%

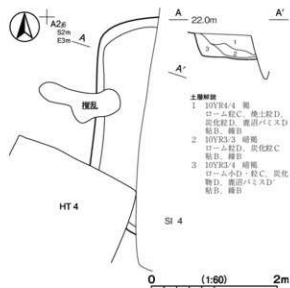
は形状や配置から貯蔵穴と推定される。

覆土 8層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片145点(埴1. 壺143. 瓶1). 縄文土器片1点(深鉢), 弥生土器片38点(壺), 石器10点(石核1, 剥片6, 磨石1, 軽石2)が出土している。1は床面から逆位で出土した。弥生土器片は覆土上層から出土しており流れ込みと想定される。

所見 時期は, 出土遺物から4世紀中葉と推定される。

第9号竪穴建物跡 (第241図)



第241図 第9号竪穴建物跡実測図

位置 調査区北部のA2j6区, 標高21.7mほどの台地上に位置している。

重複関係 第8・12号竪穴建物跡を掘り込み, 第4号竪穴建物, 第4号方形竪穴遺構に掘り込まれている。
規模と形状 南北軸3.42m, 東西軸は0.75mのみ確認できた。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で, 主軸方向はN-7°-Eと推定される。壁は高さ36cmで, 外傾している。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片13点(壺), 石器1点(剥片)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は, 重複関係から4世紀中葉~9世紀前葉と推定される。

第10号竪穴建物跡 (第242図)

位置 調査区北部のA2j7区、標高21.5mほどの台地上に位置している。

重複関係 第7・11号竪穴建物跡を掘り込み、第4・6号竪穴建物、第10号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

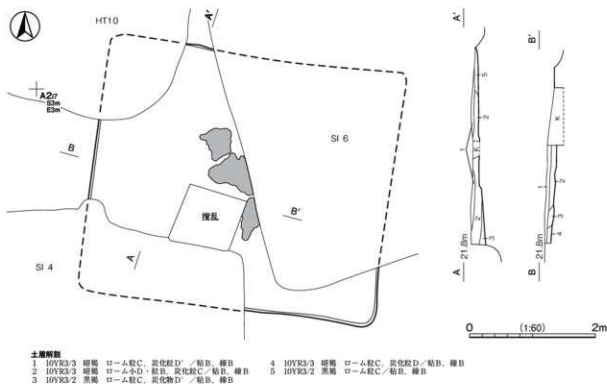
規模と形状 重複状況から、わずかな範囲のみ確認できた。残存部から、長軸4.70m、短軸4.00mほどの長方形で、主軸方向はN-5°-Eと推定される。壁は高さ3cmである。

床 平坦で、硬化面は確認できない。建物中央部で、焼土範囲を確認した。

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片124点(坏5, 甕119), 須恵器片1点(坏), 縄文土器片2点(深鉢), 弥生土器片7点(壺), 旧石器5点(剥片)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、重複関係から、5世紀中葉の第11号竪穴建物跡より新しく、7世紀前葉の第6号竪穴建物跡より古い遺構と推定される。



第242図 第10号竪穴建物跡実測図

第11号竪穴建物跡 (第243図 第109表 PL40)

位置 調査区北部のA2j8区、標高21.7mほどの台地上に位置している。

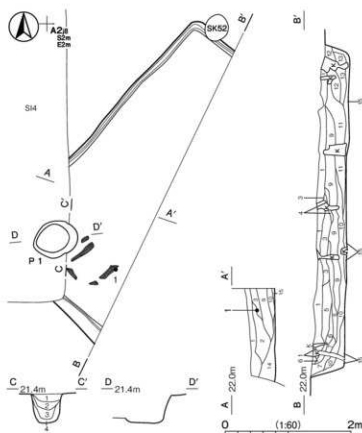
重複関係 第7・10号竪穴建物跡を掘り込み、第4号竪穴建物、第52号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複状況から、南北軸3.80m、東西軸1.70mのみ確認できた。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-35°-Eと推定できる。壁は高さ35~50cmである。

床 平坦で、硬化面は確認できない。南西部で炭化材がまとめて出土しているため、焼失家屋の可能性はある。残存部では壁溝が確認できる。

ピット 1か所。P1は長径70cm、短径55cmの楕円形で、深さ47cmである。

覆土 15層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。



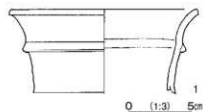
第243図 第11号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第109表 第11号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	品名	寸法	高さ	底径	出土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	壺	(14.6)	(6.6)	—	長石・石英・針状物	7.5YR7/6	普通	口縁部上部ハケ目 隆帯貼付け 隆帯貼付け内面に磨痕	甕土上層	5%

遺物出土状況 土師器片25点(壺), 弥生土器片6点(壺), 土製品1点(不明), 石器1点(磨石)が出土している。

所見 時期は, 出土遺物から5世紀中葉と推定される。

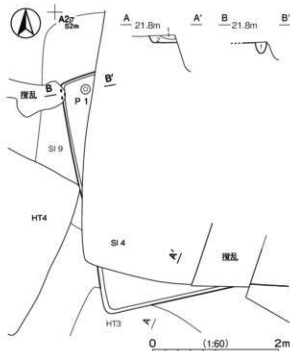


土層解説

- 10YR4/6 層 ローム中D・小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR3/3 層 ロームC・灰土・粘土・雑土
- 10YR4/4 層 ローム小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR4/4 層 ローム小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR4/4 層 ローム小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR4/6 層 ローム中B・小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR3/4 層 ローム中C・小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR3/4 層 ローム小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR3/4 層 ローム小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR4/6 層 ローム中D・小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR4/6 層 ローム中D・小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR4/4 層 ローム小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR4/4 層 ローム小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR3/2 層 ローム小C・粘土・粘土・雑土
- 10YR3/3 層 ローム中C・灰土・粘土・雑土

ピット土層解説

- 10YR3/3 層 ローム中C・灰土・粘土・雑土
- 10YR3/3 層 ローム中C・灰土・粘土・雑土
- 10YR3/3 層 ローム小C・灰土・粘土・雑土
- 10YR3/3 層 ローム小C・粘土・雑土



第244図 第12号竪穴建物跡実測図

第12号竪穴建物跡 (第244図)

位置 調査区北部のA27区, 標高21.7mほどの台地上に位置している。

重複関係 第8号竪穴建物跡を掘り込み, 第4・9号竪穴建物, 第3・4号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 重複状況から, 南北軸3.78m, 東西軸2.00mのみ確認できた。方形と想定され, 主軸方向はN-12°-Wと推定される。壁は高さ8cmで外傾する。

床 平坦で, 硬化面は確認できない。

ピット 1か所。径15cmの円形で, 深さ18cmである。

土層解説

- 10YR3/2 層 ローム小D・粘土・粘土・雑土
- 10YR3/4 層 ローム中C・灰土・粘土・雑土

ピット土層解説

- 10YR3/3 層 ローム中C・灰土・粘土・雑土

覆土 2層に分層できるが、覆土は薄く、堆積状況は不明である。

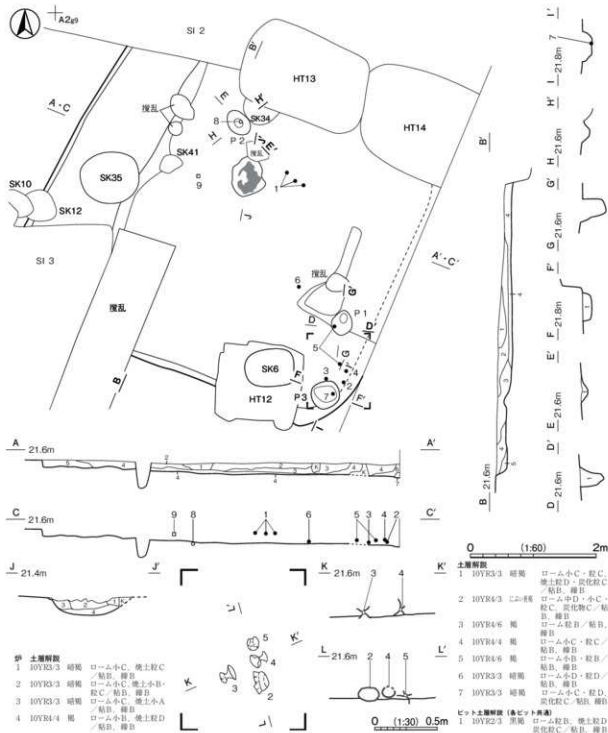
遺物出土状況 土師器片4点(2)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、4世紀中葉の第8号竪穴建物跡に掘り込まれていることから、それ以前の遺構と推定される。

第13号竪穴建物跡 (第245・246図 第110表 PL40・41・48～50)

位置 調査区北部のA2g9区、標高21.4mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2・3号竪穴建物、第12～14号方形竪穴遺構、第6・12・34・35・41号土坑に掘り込まれている。



規模と形状 重複状況から、南北軸 5.58 m、東西軸 5.67 mのみ確認できた。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で、主軸方向はN-25°-Eと推定される。壁は高さ 12～20 cmで外傾している。

床 西壁から 13 mほどの範囲で南北に広がる 10 cm程度の段差が確認でき、ベット状遺構と想定される。

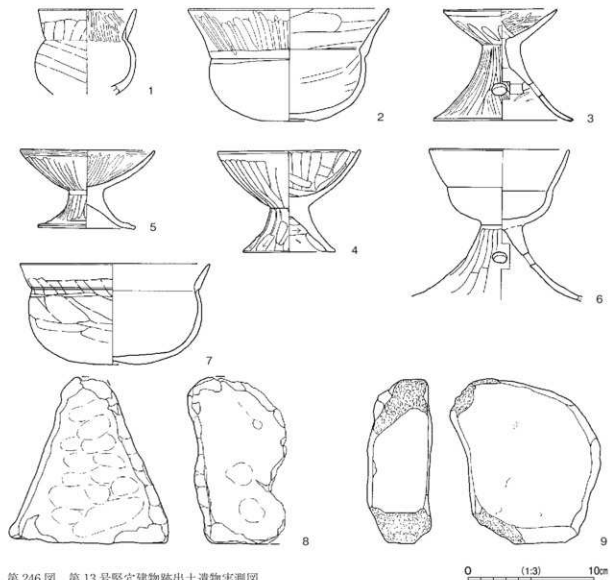
炉 長径 60 cm、短径 48 cmで不定形の地床炉である。中心が盛り上がり、周囲は床面から 3 cm程度掘り下がる。

ピット 3か所。P 1～P 3は長径 40 cm、短径 30 cmの楕円形で、深さは P 1が 38 cm、P 2が 8 cm、P 3が 15 cmである。

覆土 7層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 113点(埴2、器台1、高坏5、脚付埴1、鉢1、甕103)、須恵器片2点(坏)、縄文土器片6点(深鉢)、弥生土器片14点(壺)、土製品1点(炉器台)、石器4点(剥片、石鎌、磨石、砥石)、が出土している。

所見 時期は、出土遺物から古墳時代前期と推定される。



第 246 図 第 13 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 110 表 第 13 号堅穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	形状	口径	器高	底径	出土	数量	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	7.6	680	—	灰石・石莖・赤色粘土 片状瓦物	253/85/6 片	普通	①埴部ナデ ②埴部外面斜めのヘラナデ ③内面ヘラナデ ④内面ヘラナデ	埴土中層	60% P1.68
2	土師器	埴	15.8	89	44	灰石・石莖・赤色粘土 片状瓦物	233/82/4 にひい型	普通	①埴部外面ヘラナデ ②内面ナデ ③埴部外面ナデ ④内面ナデ	床面	90% P1.68

番号	部 種	形状	1階	2階	3階	材 質	地 質	地 況	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
3	土師器	器台	8.9	9.0	11.0	長石・石英・雲母 針状鉱物	75YR6/4 に濃い黄	普通	上部外面ナテ 内面ヘラ磨き 側面外面磨き 内面ナテ	床面	86% PL49
4	土師器	高杯	11.3	8.1	7.3	長石・石英・針状鉱物	5YR6/4 に濃い黄	普通	口縁部係ナテ 上部外面東方向のヘラナテ 内面ナテ 磨	床面	80% PL49
5	土師器	高杯	10.6	6.3	7.6	長石・石英・針状鉱物	25YR5/6 明赤黄	普通	口縁部係ナテ 上部外・内面ヘラ磨き 側面外面磨き	床面	86% PL49
6	土師器	胴付埴	[11.0]	[12.0]	—	長石・石英・雲母 針状鉱物	75YR6/6 黄	普通	側面ヘラ磨り 全体に華威が著しい	床面	86% PL49
7	土師器	鉢	[14.8]	7.9	4.6	長石・石英・雲母 針状鉱物	5YR6/4 に濃い黄	普通	口縁部ナテ 外面ヘラナテ 内面華威が著しい	P.3底面	70% PL48

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	地 質	特 徴	出土位置	備 考
8	埴輪台	131	128	(8.1)	(740)	長石・石英・針状鉱物	75YR6/4 に濃い黄	上面・側面に指押痕 線状痕	P2 覆土上層	86% PL50

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
9	磨石	130	121	5.2	1130	花崗岩	片面磨り痕 側面磨り痕	出土位置	覆土中層

第111表 古墳時代堅穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形状	壁 幅		厚 さ (cm)	床面構造	内 部 施 設			覆土 土質	出土位置	備 考					
				長 (m)	幅 (m)			柱	土	敷								
1	A266	N-5°-E	方形	3.90	×	3.60	10~24	平	-	4	1	1	北壁 1	人込	土師器	5世紀末		
2	A268	N-94°-E	方形	8.17	×	8.05	14~22	平	-	5	2	3	東壁	-	自然	土師器	5世紀末	SK12→*N跡→HT13 SK7-8・11・15
5	R23	N-35°-E	方形 五角形	3.52	×	3.65	6~28	平	-	-	2	-	-	-	自然	土師器	7世紀前半	*N跡→SD 2
6	A28	N-13°-W	方形 五角形	[5.18]	×	4.75	18	平	-	-	3	-	-	-	自然	土師器	7世紀前半	SK7・10→*N跡→SD 3
7	A27	N-3°-E	方形 五角形	5.84	×	[4.00]	12~26	平	-	-	-	-	-	-	人込	土師器	4世紀前半	*N跡→S 4・6・10・11
8	A246	N-28°-W	[方形]	6.60	×	[6.35]	12~18	平	全周	-	2	-	-	-	自然	土師器	4世紀中葉	*N跡→S 4・9・12・HT 2~4・SK13・14
9	A26	N-7°-E	竪長形 竪長形	[3.42]	×	[0.75]	36	平	-	-	-	-	-	-	自然	土師器	4世紀前半 5世紀前半	SK8・12→*N跡→S 4・HT 4
10	A27	N-5°-E	方形 五角形	[4.70]	×	[4.00]	3	平	-	-	-	-	-	-	自然	土師器	平層 *N跡	SK7・11→*N跡→S 4・6・HT10
11	A28	N-35°-E	方形 五角形	[3.80]	×	[1.70]	35~30	平	全周	-	1	-	-	-	自然	土師器	5世紀中葉	SK7・10→*N跡→S 4・SK52
12	A27	N-12°-W	[方形]	[3.78]	×	[2.00]	8	平	-	-	1	-	-	-	土師器	4世紀中葉 貝類	SK8→*N跡→S 4・9・HT 3・4	
13	A269	N-25°-E	方形 五角形	[5.98]	×	[5.67]	12~20	平	-	-	3	砂	-	-	自然	土師器・埴輪器 土師器	前期	*N跡→S 2・3・HT12・14 SK 6・12・34・35・41

3 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

堅穴建物跡

第3号堅穴建物跡 (第247・248図 第112表 PL41)

位置 調査区北部のA2g8区、標高21.5mほどの台地上に位置している。

重複関係 第13号堅穴建物跡、第10号土坑を掘り込み、第3号溝に掘り込まれている。北東コーナーから南東コーナーにかけて攪乱により、南側は貼床下まで削平されている。

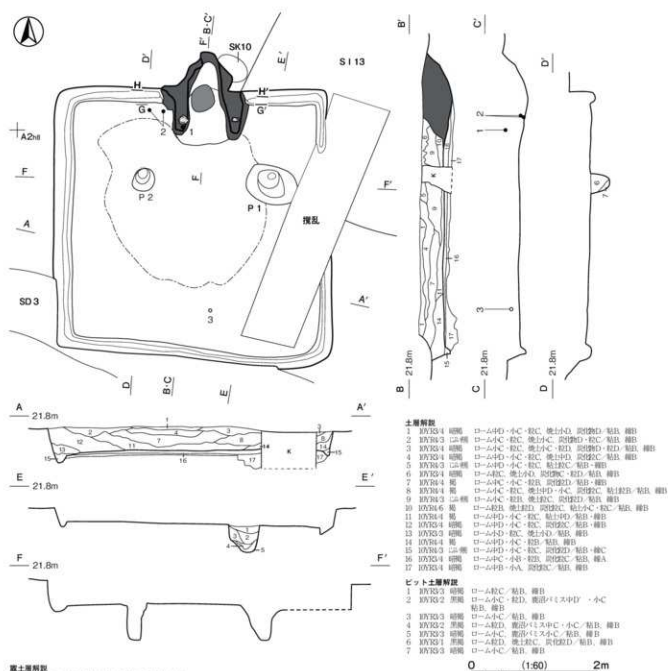
規模と形状 一辺4.38mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁は高さ22~40cmで、外傾している。

床 平坦で、貼床を第16・17層で構築している。硬化範囲は竈焚き口から中心部へ広がっている。

竈 北壁中央部に付設され、遺存状況は良好である。規模は、焚き口から燃焼部奥壁まで130cmで、火床部幅は44cmである。火床面の第20層は床面とほぼ同じ高さであり、焼土は厚さ3cmである。煙道部は壁外へ60cmほど掘り込まれ、奥壁は外傾し立ち上がっている。袖部は23cmほど掘りくぼめ、凝灰質泥岩を構築材として据え、第23~28層で固定し、シルトを含む第13~19層を積み上げて構築している。その後、第20・21層を埋土し整地している。

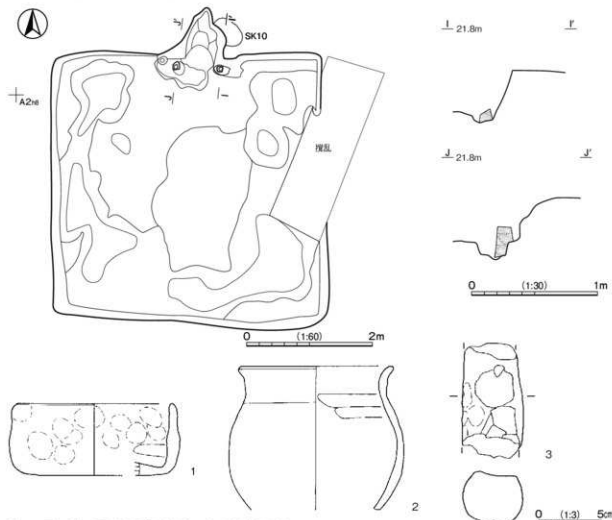
ピット 2か所。P1は長さ80cm、短径60cmの楕円形で、深さ40cmである。P2は径35cmの円形で、深さ30cmである。ともに主柱穴である。主柱穴は4本と想定し精査したが確認できなかった。また、出入口施設に伴うピットについても精査したが確認できなかった。

覆土 17層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。



第247図 第3号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 681点 (坏143, 高台付坏1, 鉢1, 甕536), 須恵器片8点 (坏1, 蓋6, 甕1), 縄文土器片18点 (深鉢), 弥生土器片16点 (甕), 土製品4点 (支脚1, 粘土塊2, 不明1), 石器6点 (尖頭器1, 剥片3, 石鏃2) が出土している。3は, 南壁から60cm床から20cmの覆土中層から出土している。
所見 時期は, 出土遺物から, 8世紀後葉と推定される。



第248図 第3号竪穴建物跡掘方・出土遺物実測図

第112表 第3号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	上径	器高	底径	胎土	色調	地味	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	鉢	[124]	5.7	[11.4]	長石・石英	75YR6/4 に濃い黄	普通	手びねり 体部外・内面磨削	覆土中層	20%
2	土師器	甕	[120]	[115]	—	長石・石英・雲母	7.5YR5/2 黒黒	普通	内面ヘラナデ 全体的に磨減が著しい	覆土中層	20%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
3	支脚	(9.2)	(3.0)	4.0	(190.47)	長石・雲母・燧石粒子	10YR7/4 に濃い黄	全面に磨削 両端部割れ	覆土中層		

第4号竪穴建物跡 (第249～255図 第113表 PL41・42・43・49・50)

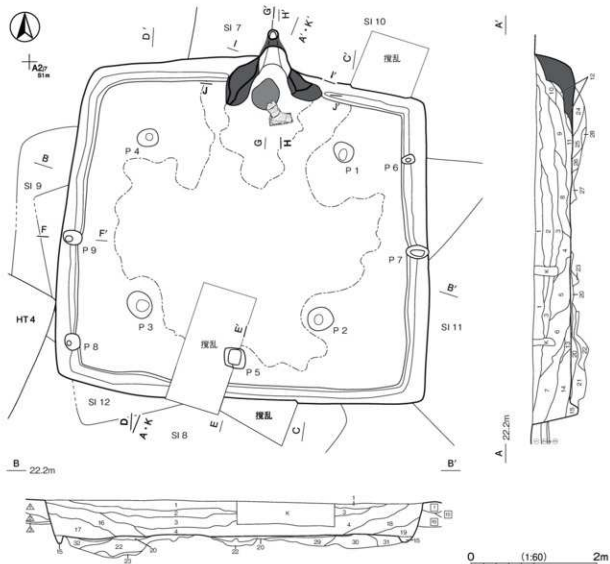
位置 調査区北部のA2j7区, 標高21.7mほどの台地上に位置している。

重複関係 第7～12号竪穴建物跡を掘り込んでいる。最近の掘込みが2本, 北東コーナーから南西コーナーにかけて入っており, 南部は貼床下まで削平されている。

規模と形状 長軸5.76m, 短軸5.32mの方形で, 主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ50～62cmで, 外傾している。

床 平坦な貼床で、厚さは10～30cmで中心は浅く、壁に近づくほど深い。出入口施設に伴うピットから支柱穴の内側、竈焚き口にかけて硬化している。ピット周りでの硬化は確認できなかった。壁溝が、幅15～25cm、深さ8～10cmで全周しており、壁柱穴が4か所確認できる。

竈 北壁中央部に付設されている。遺存状況は良好である。規模は、焚き口から煙道部奥まで75cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は第13～16層を積み上げて構築されている。また、袖部構築材が抜き取られた痕が確認できたが、石材は確認できなかった。焚き口付近からは掛架材と思われる凝灰質泥岩が出土している。竈中央部を20cmほど掘りくぼめ、第17～24層を埋土し整地している。火床面は床面とほぼ同じ高さであり、



土層構成

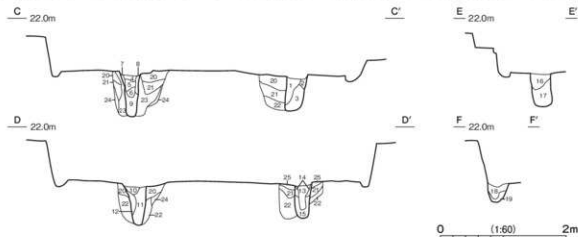
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--------|----|---------|-------|-------|-----|----|--------|--------|--------|---------|--------|-------|-------|-------|-----|----|
| 1 | IVY321 | 茅葺 | ロ-A-粒D' | 焼土粒D' | 粘B | 雜B | 17 | IVY322 | 茅葺 | ロ-A-小C | 炭化物C' | 粒D | 粘B | 雜B | | | |
| 2 | IVY323 | 埴輪 | ロ-A-粒D | 焼土粒C | 炭化物C' | 粘B | 雜B | 18 | IVY323 | 埴輪 | ロ-A-粒C | 炭化物D' | 粘B | 雜B | | | |
| 3 | IVY323 | 埴輪 | ロ-A-粒C | 焼土粒D | 炭化物C' | 粘B | 雜B | 19 | IVY323 | 埴輪 | ロ-A-粒B | 炭化物D' | 粘B | 雜B | | | |
| 4 | IVY323 | 埴輪 | ロ-A-小C | 粒B | 炭化物D' | 粘B | 雜B | 20 | IVY323 | 埴輪 | ロ-A-小C | 小D' | 粒B | 炭化物D' | 粘B | 雜A' | |
| 5 | IVY323 | 埴輪 | ロ-A-小C | 粒B | 炭化物D' | 粘B | 雜B | 21 | IVY322 | 茅葺 | ロ-A-小B | 粒A | 炭化物D' | 粘B | 雜A | | |
| 6 | IVY323 | 埴輪 | ロ-A-粒D | 焼土粒D' | 炭化物D | 粒C | 粘B | 雜B | 22 | IVY322 | 茅葺 | ロ-A-小B | 粒B | 炭化物C' | 粘B | 雜C | |
| 7 | IVY323 | 茅葺 | ロ-A-粒B | 焼土粒C | 炭化物D' | 粘B | 雜B | 23 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-小A | 炭化物D' | 粘B | 雜B | | | |
| 8 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-粒C | 焼土粒D' | 炭化物C | 粒小D | 粘B | 雜B | 24 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-小D | 焼土粒D | 炭化物C' | 粘B | 雜B | |
| 9 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-粒D | 焼土粒D | 炭化物D | 粒小C | 粘B | 雜B | 25 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-小C | 粒C | 焼土粒C | 炭化物C' | 粘B | 雜B |
| 10 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-粒C | 焼土粒C | 炭化物D' | 粘B | 雜B | 26 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-小D' | 粒C | 炭化物D' | 粘B | 雜B | | |
| 11 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-粒C | 焼土粒C | 炭化物D' | 粘B | 雜B | 27 | IVY323 | 茅葺 | ロ-A-小C | 粒B | 雜A | | | | |
| 12 | IVY323 | 埴輪 | ロ-A-粒D | 焼土粒C | 炭化物D' | 粘B | 雜B | 28 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-粒C | 炭化物D' | 粘B | 雜B | | | |
| 13 | IVY323 | 埴輪 | ロ-A-粒B | 焼土粒D | 炭化物D' | 粘B | 雜B | 29 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-小B | 小B | 炭化物D' | 粘B | 雜B | | |
| 14 | IVY322 | 茅葺 | ロ-A-粒C | 焼土粒D | 炭化物C' | 粘B | 雜B | 30 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-小C | 焼土粒D | 炭化物C' | 粘B | 雜B | | |
| 15 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-小C | 粒B | 粘B | 雜B | | 31 | IVY324 | 埴輪 | ロ-A-小D | 炭化物D' | 粘B | 雜B | | | |
| 16 | IVY323 | 埴輪 | ロ-A-粒C | 炭化物D' | 粒D | 粘B | 雜B | 32 | IVY322 | 茅葺 | ロ-A-小C | 小B | 炭化物D' | 粘B | 雜B | | |

●はS18、○はS19、□はS11の土層構成箇所

第249図 第4号竈穴建物跡実測図(1)

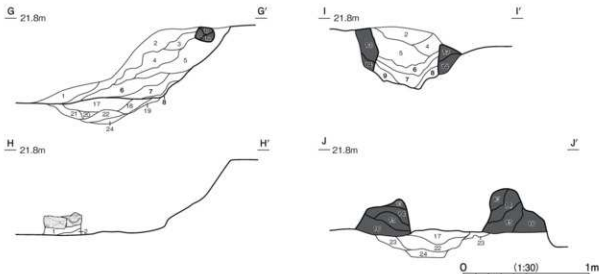
楕円形状に厚さ12cmほどが焼土化している。煙道部は遺存状況が良く、壁外へ60cmほど煙突状に掘り込まれ、火床面から外傾し立ち上がる。

ピット 9か所。P1～P4は長径32～45cm、短径28～37cm、深さ56～72cmの楕円形で、配置から主柱穴と推定される。P5は長径35cm、短径32cm、深さ52cmの方形で、南壁際で竈に正対していることから、出入口施設に伴うピットと推定される。P6～P9は長径21～37cm、短径13～25cm、深さ29～43cmの楕



ピット土層解説 (※ピット共通)

- | | | | |
|--------------|---------------------------|---------------|-----------------------------|
| 1 10Y24.4 堀 | ローム粒C、焼土粒D'、炭化粒D' / 粘土、練C | 14 10Y23.2 堀 | ローム小C、炭化粒D' / 粘土、練C |
| 2 10Y24.4 堀 | ローム粒B、焼土粒D、炭化粒D / 粘土、練C | 15 10Y24.4 堀 | ローム小C、粘土、練B |
| 3 10Y23.3 堀 | ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D' / 粘土、練C | 16 10Y24.5 土間 | ローム粒C、粘土中D、小D、粒C / 粘土、練B |
| 4 10Y23.4 堀 | ローム粒D'、焼土粒D' / 粘土、練C | 17 10Y24.4 堀 | ローム中D、小D、粘土、粘土、練C |
| 5 10Y23.4 堀 | ローム粒D'、焼土粒D' / 粘土、練C | 18 10Y27.1 溝 | ローム粒D、炭化粒D' / 粘土、練B |
| 6 10Y23.4 堀 | ローム粒C / 粘土、練C | 19 10Y22.2 溝 | ローム粒C、粘土、練B |
| 7 10Y23.3 堀 | ローム中D'、粘土、粘土、練C | 20 10Y24.4 堀 | ローム粒B、焼土粒D、炭化粒C' / 粘土、練B |
| 8 10Y24.4 堀 | ローム中C、炭渣バラス小C / 粘土、練B | 21 10Y24.4 堀 | ローム粒B、焼土粒D、炭化粒D' / 粘土、練C |
| 9 10Y24.4 堀 | ローム中C / 粘土、練B | 22 10Y24.6 堀 | ローム粒D、炭化粒D' / 粘土、練C |
| 10 10Y23.4 堀 | ローム粒D'、焼土粒D' / 粘土、練C | 23 10Y24.4 堀 | ローム小D、粘土、焼土粒D、炭化粒D' / 粘土、練B |
| 11 10Y23.4 堀 | ローム粒C / 粘土、練C | 24 10Y24.6 堀 | ローム小C、粘土、粘土、練B |
| 12 10Y24.4 堀 | ローム小B、炭渣バラス小C / 粘土、練B | 25 10Y24.4 堀 | ローム小D、粒C、炭化粒D' / 粘土、練B |
| 13 10Y24.4 堀 | ローム小C、炭化粒D' / 粘土、練B | | |

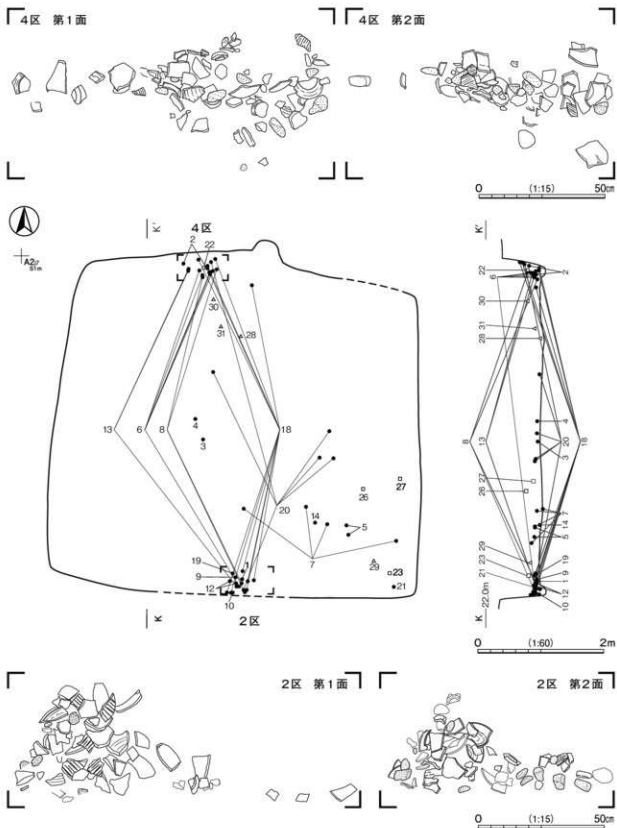


竈土層解説

- | | | | |
|---------------|---|---------------|-------------------------------------|
| 1 10Y24.3 土間 | ローム粒B、焼土中C、シルトC / 粘土、練A | 13 5Y25.6 明土 | 焼土小B、炭化粒D、白色粒子C / 粘土、練B |
| 2 10Y24.6 堀 | ローム粒C、焼土中D、中C、小C、炭化粒C、焼土粒D、シルトD / 粘土、練B | 14 10Y23.3 堀 | ローム粒C、焼土粒C、炭化粒D'、シルトC、白色粒子C / 粘土、練B |
| 3 10Y24.4 堀 | ローム粒C、焼土中D、粒C、焼土粒C、シルトD / 粘土、練B | 15 10Y23.3 堀 | ローム小D、粒C、焼土粒D、炭化粒D' / 粘土、練C |
| 4 10Y25.4 土間 | ローム中D、粒C、焼土小D / 粘土、練A | 16 10Y24.4 堀 | 焼土中D、小C、炭化粒D、シルトC、白色粒子C / 粘土、練B |
| 5 10Y26.4 土間 | 焼土粒C、炭化粒D'、粒C、粘土粒B' / 粘土、練B | 17 10Y24.4 堀 | 焼土小D、粒C、炭化粒C、シルトB、白色粒子C / 粘土、練C |
| 6 10Y24.4 堀 | ローム粒C、焼土粒C、炭化粒C、粘土粒C、シルトC / 粘土、練B | 18 10Y23.2 堀 | 焼土粒C、炭化粒D、シルトA、白色粒子C / 粘土、練B |
| 7 5Y23.6 明土 | 焼土中D、小C、粒B、焼土粒C / 粘土、練B | 19 10Y26.6 明土 | ローム小B、焼土粒D、炭化粒D' / 白色粒子C / 粘土、練B |
| 8 5Y23.4 明土 | 焼土中D、小C、粒B、炭化粒C、粒C、粘土少C / 粘土、練B | 20 10Y23.2 溝 | ローム粒C、焼土粒C、炭化粒D、炭渣バラス / 粘土、練B |
| 9 10Y24.6 堀 | ローム中D、焼土粒D、炭化粒C、粒C、粘土中D、小C、粒C / 粘土、練B | 21 10Y24.4 堀 | 焼土中D、小C、炭化粒D、粘土中D、粒C / 粘土、練A |
| 10 10Y23.3 土間 | 炭化粒D、シルトA / 粘土、練A | 22 10Y24.4 堀 | 焼土中C、粒C、炭化粒C、粘土中D、小C、粒C / 粘土、練B |
| 11 10Y25.4 堀 | 炭化粒D'、シルト小A / 粘土、練A | 23 10Y25.4 堀 | 焼土小C、粒B、炭化粒D、粘土粒C / 粘土、練A |
| 12 10Y24.4 堀 | 焼土粒C、炭化粒C、シルトC / 粘土、練A | 24 10Y24.3 土間 | 焼土小C、粒C、炭化粒C、粘土小C、粒C / 粘土、練A |

第250図 第4号竈穴建物跡実測図(2)

円形で、配置から壁柱穴と推定される。掘方調査の結果、貼床の下から24基確認でき、配置から少なくとも3回の建て替え、または拡張が行われた可能性がある。P12～P19は長径23～110cm、短径20～70cm、深さ51～88cmの楕円形で支柱穴である。重複関係から、最古の支柱穴がP13・P15・P17・P19、次にP12・

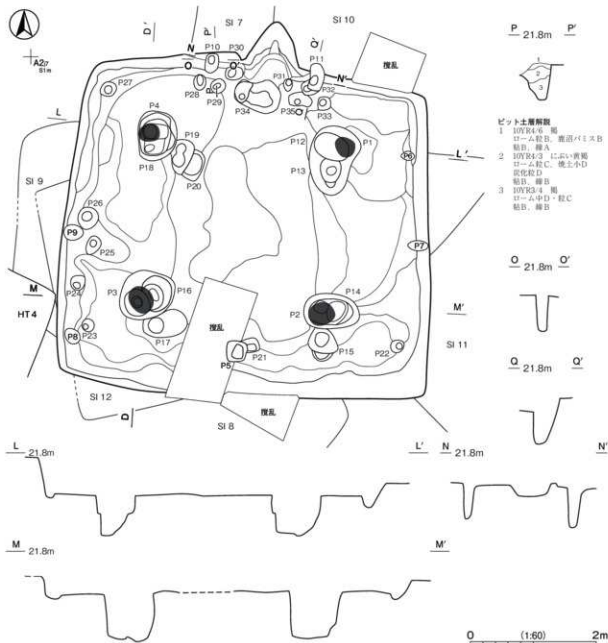


第251図 第4号堅穴建物跡遺物出土状況図

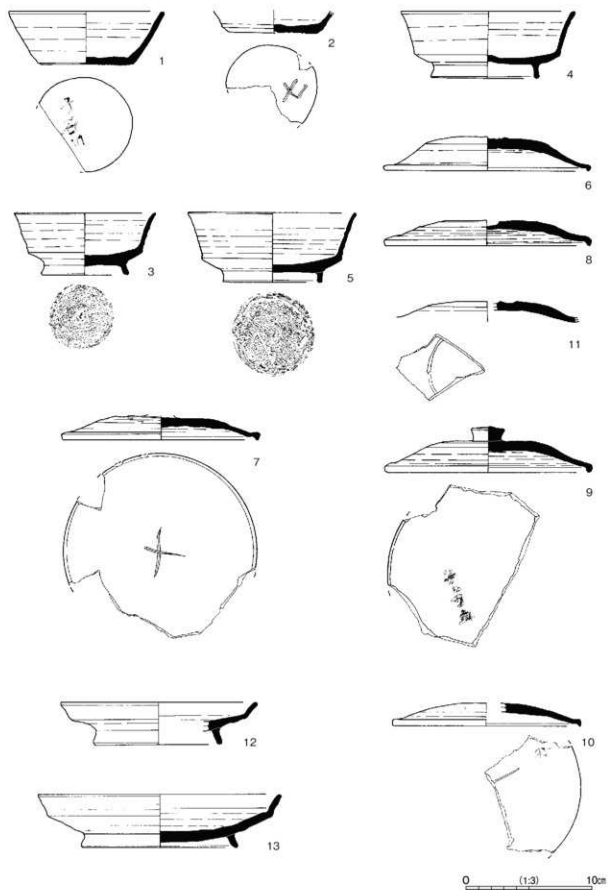
P14・P16・P18, 最新がP1～P4である。P21は長径25cm, 短径20cm, 深さ21cmの楕円形で, 配置から出入口施設に伴うピットと推定される。P22～27は, 長径21～35cm, 短径18～30cm, 深さ15～42cmの楕円形で, 配置から壁柱穴と推定される。P10・11・28～35は, 長径15～28cm, 短径15～20cm, 深さ8～27cmの楕円形で, 竈周辺に配置されており竈施設の一部と推定される。竈の掘方からは, 竈構築材の抜取痕と推定されるP31・P32が確認できた。第7～9層が崩落し, 第6層が流れ込み, 第1～5層が再度崩落したと推定される。

覆土 19層に分類できる。レンズ状に堆積しており, 自然堆積である。第20～32層は掘方の埋土である。

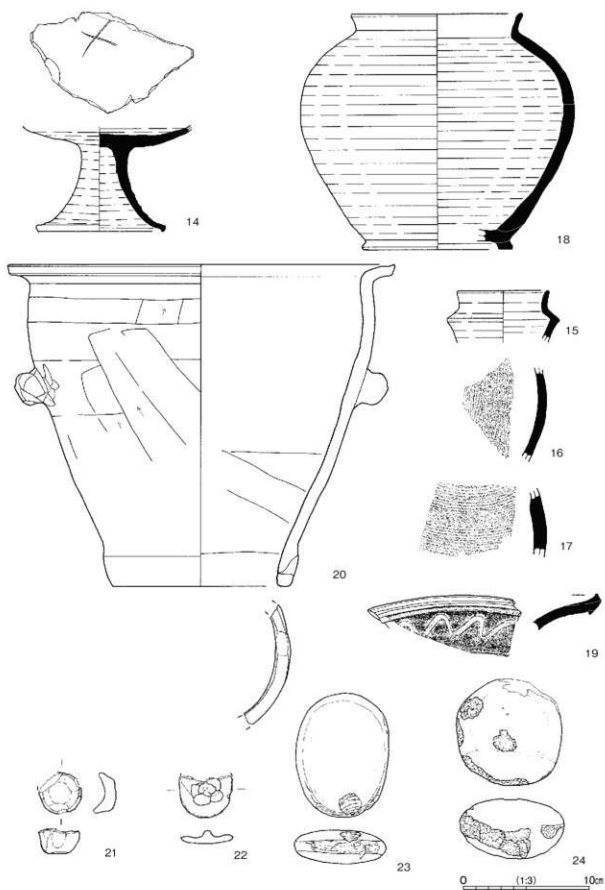
遺物出土状況 土師器片1324点(坏280, 埴2, 甕1039, 瓶2, ミニチュア土器1), 須恵器片310点(坏137, 高台付坏13, 壺58, 盤9, 高盤1, 高坏1, 鉢1, 壺1, 瓶2, 甕78, 器台1, 短頸壺1, 高台付片7), 縄文土器片10点(深鉢), 弥生土器片33点(壺), 土製品2点(鏡形模造品, 不明), 石器28点(石核1, 剥片17, 磨石3, 軽石1, 砥石4, 礫2) 金属製品4点(刀子3, 鏃1), が出土している。覆土が自然堆積で



第252図 第4号竪穴建物跡掘方実測図



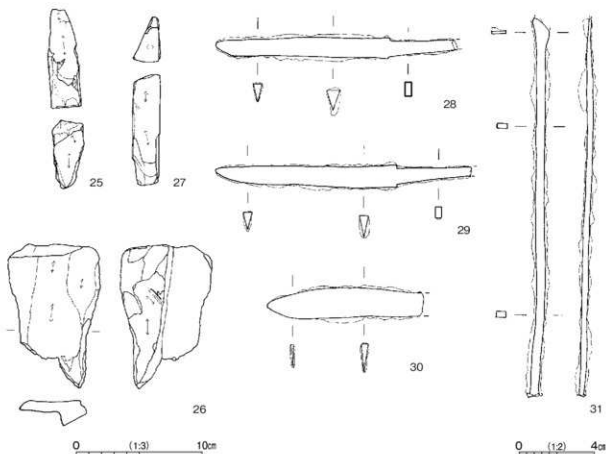
第 253 图 第 4 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 254 図 第 4 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

あることから北西壁際、南東壁際でまとまって出土している遺物は、建物廃絶時直後から第10・14層が堆積するまでの間に投棄されたものと推定される。

所見 時期は、出土遺物から8世紀末葉と推定される。



第255図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第113表 第4号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	出土	色澤	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	123	43	70	長石・石英	25YR5-1 黄灰	普通	外・内面クロナデ 底部回転ヘラ切り 底部書書「子右別」。	甕土下層	40% P.49
2	須恵器	坏	—	118	71	長石・石英	N5-0 灰	良好	底部ヘラ記号「七」。	甕土下層	30% P.49
3	須恵器	灰台付 坏	112	49	68	長石・石英・副供雑物	5YR6/1 灰	普通	外・内面クロナデ	甕土上	60% P.49
4	須恵器	灰台付 坏	137	53	83	長石・石英・副供雑物	25YR6/1 黄灰	普通	外・内面クロナデ	甕土下層	80% P.49
5	須恵器	灰台付 坏	132	55	78	長石・石英	N5-0 灰白	普通	外・内面クロナデ	甕土下層	60% P.49
6	須恵器	蓋	162	127	—	長石・石英	25YR2/1 黄白	普通	天舟部回転ヘラ削り 摩滅が著しい	甕土下層	90% P.49
7	須恵器	蓋	156	119	—	長石・石英	25YR2-1 黄灰	良好	天舟部回転ヘラ削り 内面中央部ヘラ記号「十」。	甕土下層	80% P.49
8	須恵器	蓋	162	20	—	長石・石英	5YR5/1 灰	良好	天舟部回転ヘラ削り	甕土下層	70%
9	須恵器	蓋	160	36	—	長石・石英	25YR2-1 黄灰	良好	天舟部回転ヘラ削り 内面書書「子左五」。	甕土上	60% P.49
10	須恵器	蓋	150	118	—	長石・石英	N5-0 灰	良好	天舟部回転ヘラ削り 内面書書「カ」。中央部にヘラ記号	甕土上	30% P.49
11	須恵器	蓋	—	116	—	長石・石英	25YR2-1 黄灰	普通	腕に転用	甕土中	10%
12	須恵器	壺	154	33	100	長石・石英・副供雑物	25YR6/1 黄灰	普通	摩滅が著しい	甕土下層	40% P.49
13	須恵器	壺	139	12	123	長石・石英・副供雑物	10YR2-2 灰黄緑	普通	底部回転ヘラ切り	甕土下層	60%
14	須恵器	高坏	—	189	100	長石・石英	N5-0 灰	良好	内面ヘラ削り 内面中央部にヘラ記号「メ」。	甕土上	60%
15	須恵器	鉢	70	41	—	長石・石英	10YR6/3 に、黄緑	良好	外・内面クロナデ	甕土中	10%
16	須恵器	楕瓶	—	74	—	長石・石英	25YR2-1 黄灰	良好	カキメ	甕土中	10%
17	須恵器	楕瓶	—	55	—	長石・副	25YR2-1 黄灰	良好	カキメ	甕土中	10%

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
18	須恵器 短頸甕	[134]	187	[118]	長石・石英	10YR6/2 灰青紫	良好	外面施釉	覆土中層 -下層	40% PL49
19	須恵器 甕	—	[28]	—	長石・石英	NS-0 灰	良好	口縁部のみクロナテ 凸部下に流状文	覆土下層	5%
20	土師器 甕	[307]	255	[140]	長石・石英・雲母	5YR6/4 じい色	普通	体部外面腹方向のへう張り→腹方向のヘラナデ→腹方向のへう張り 内面ナデ 底部外面へう張り	覆土中層 -下層	40% PL49
21	土師器	ヒコキ 7上層	33	34	20	長石・石英・針状鉱物	5YR7/6 黄	普通 手捏ね	覆土下層	90% PL50
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
22	鏡形銅造品	(34)	43	1.3	7.56	長石・石英・針状鉱物	10YR7/4 じい色青紫	手捏ね 中央部構み上げ	覆土下層	70% PL50
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
23	磨石	(98)	74	2.6	(305.50)	蛇紋岩	磨面磨り肌		覆土下層	
24	磨石	8.5	8.3	4.8	450.00	花崗岩	片面中央部に磨り肌 磨面磨り肌 酸化が著しい		覆土中	
25	磨石	7.8	5.4	2.5	107.91	凝灰岩	磨面2面		覆土中	
26	磨石	11.4	7.9	2.0	187.60	凝灰岩	磨面2面 片側先端部折れ		覆土中層	
27	磨石	8.8	2.2	3.6	70.37	凝灰岩	磨面2面		覆土中層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
28	刀子	(128)	11	0.3-0.7	(18.92)	鉄	刃部断面三角形 柄部断面台形 両側 葉形折れ		床面	PL50
29	刀子	(136)	12	0.3-0.5	(15.53)	鉄	刃部断面三角形 柄部断面台形 両側 葉形折れ		覆土中層	PL50
30	刀子	(83)	18	0.1-0.4	(36.08)	鉄	刃部断面三角形 柄部欠損		覆土中層	PL50
31	鏃	(201)	09	0.2-0.4	(22.70)	鉄	長距離 鏃身部・両部欠損		覆土下層	PL50

第114表 奈良時代堅穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	築造	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考		
				長軸	短軸				土柱	土間	土間	土間					土間	
3	A26	N-0°	方形	4.38	×	4.38	22~40	平田	全周	2	-	-	北側	-	自然	土師器・須恵器 土師器 土師器・須恵器 古瓦紀 米甕	5世紀 後葉	SH3、SK10→本跡→SD3
4	A27	N-4°-E	方形	5.76	×	5.32	30~62	平田	全周	4	1	4	北側	-	自然	土師器・須恵器 土師器 土師器・須恵器 古瓦紀 米甕	5世紀 前期	SD7~12→本跡

4 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、方形堅穴遺構14棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

方形堅穴遺構

第1号方形堅穴遺構（第256図 PL44）

位置 調査区北部のB2b7区、標高21.9mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号方形堅穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.96m、短軸1.87mの隅丸方形で、主軸方向はN-58°-Wである。壁は高さ33~35cmで外傾する。

床 平坦で、硬化面は確認できない。

覆土 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、人為堆積である。

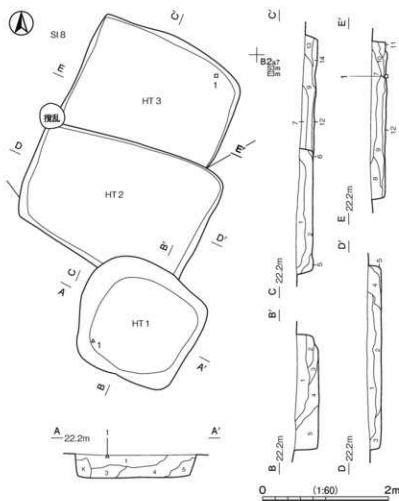
遺物出土状況 混入した土師器片25点(甕)、須恵器片1点(高台付杯)が出土している。本跡に伴う銭貨1点(不明銅銭)が出土しているが、腐食が著しく、復元が難しく図示できない。

所見 時期は、遺構の規模や形状、埋没状況、出土遺物から、第5号方形堅穴遺構と同時代の室町時代中期と推定される。

第2号方形堅穴遺構（第256図 PL44）

位置 調査区北部のB2b6区、標高21.9mほどの台地上に位置している。

重複関係 第8号堅穴建物跡、第3号方形堅穴遺構を掘り込み、第1号方形堅穴遺構に掘り込まれている。



第256図 第1・2・3号方形竪穴遺構実測図

第3号方形竪穴遺構 (第256図 PL44)

位置 調査区北部のB2a7区、標高21.9mほどの台地上に位置している。

重複関係 第8号竪穴建物跡を掘り込み、第2号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 重複状況から、南北軸1.90m、東西軸2.05mのみ確認できた。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-65°-Wと推定される。壁は高さ20cmで直立する。

床 平坦で、硬化面は確認できない。

覆土 8層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片63点(坏1, 甕62), 縄文土器片2点(深鉢), 弥生土器片2点(甕), 石器1点(石鏃)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、重複関係から、室町時代中期の第2号方形竪穴遺構以前の遺構と推定される。

第4号方形竪穴遺構 (第257図 PL44)

位置 調査区北部のB2a6区、標高21.8mほどの台地上に位置している。

重複関係 第8・9号竪穴建物跡、第13・14号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.74m、短軸2.11mの長方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁は高さ70~76cmで直立する。

規模と形状 長軸2.95m、短軸2.05mの長方形で、主軸方向はN-65°-Wである。壁は高さ30cmで外傾する。

床 平坦で、硬化面は確認できない。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片72点(坏1, 甕70, 手捏1), 須恵器片3点(蓋1, 甕2)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、遺構の規模や形状、覆土から、第5号方形竪穴遺構と同時代の室町時代中期と推定される。

HT1 土層解説

- 1 跡323 須恵 ロ-ム小C-板小、灰吹土、粘土C/粘土、粘土C
- 2 跡323 須恵 ロ-ム小C-板小、灰吹土、粘土C、粘土C/粘土、粘土C
- 3 跡323 須恵 ロ-ム小C-板小、灰吹土、粘土C、粘土C/粘土、粘土C
- 4 跡323 須恵 ロ-ム小C-板小、灰吹土、粘土C、粘土C
- 5 跡324 須恵 ロ-ム小C-板小、灰吹土、粘土C/粘土、粘土C

HT2 土層解説

- 1 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C
- 2 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C
- 3 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C
- 4 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C
- 5 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C
- 6 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C

HT3 土層解説

- 7 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C/粘土、粘土C
- 8 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C
- 9 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C
- 10 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C
- 11 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C
- 12 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C
- 13 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C
- 14 跡324 須恵 ロ-ム小D-中D-小C-板小C、灰吹土C、粘土C/粘土、粘土C

床 平坦で、硬化面は確認できない。

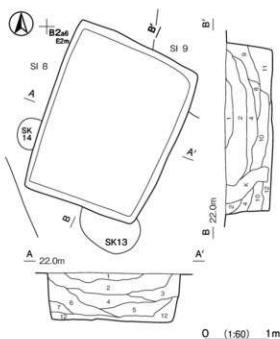
覆土 12層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片226点(坏35,高坏1,甕189,手捏1),須恵器片5点(坏3,甕2),縄文土器片7点(深鉢),弥生土器片8点(壺),旧石器2点(剥片)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、遺構の規模や形状,埋没状況から,第5号方形竪穴遺構と同時代の室町時代中期と推定される。

土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム中C・小C・粒C,炭化物D/粘B,礫B
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム中C・中B・粒C,炭土粒D,炭化物C,粘土大C/粘B,礫B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・小C・粒C,炭土粒D,粘土小C/粘B,礫B
- 4 10YR3/3 土間層 ローム大D・中C・小C・粒B,粘土中C/粘B,礫B
- 5 10YR3/2 黄褐色 ローム大D・中D・小C・粒C,粘土大D/中D/粘B,礫B
- 6 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・中B・粒C,炭化物C,粘土中D/粘B,礫B
- 7 10YR3/4 暗褐色 ローム中C・中B・小C・粒B,粘土中D/小D/粘B,礫B
- 8 10YR4/4 暗褐色 ローム中B・小B・粒B,炭化物C,粘土中C/粘B,礫B
- 9 10YR4/4 暗褐色 ローム中B・粒B,粘土小D/粘B,礫B
- 10 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小C・粒C,粘土中C/粘B,礫B
- 11 10YR4/4 暗褐色 ローム中B・中B・小B・粒B,粘土中D/粘B,礫B
- 12 10YR3/3 土間層 ローム中C・小C・粒B,粘土中D/小C/粘B,礫B



第257図 第4号方形竪穴遺構実測図

第5号方形竪穴遺構 (第258図 第115表 PL44・50)

位置 調査区南部のB2c6区,標高220mほどの台地上に位置している。

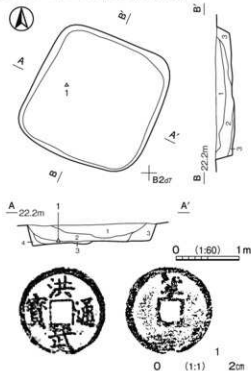
規模と形状 一辺2.0mの隅丸方形で,主軸方向はN-23°-Eである。壁は高さ22~32cmで外傾する。

床 平坦で、硬化面は確認できない。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片10点(甕),須恵器片3点(坏2,高台付坏1)が出土している。本跡に伴う銭貨1点(洪武通寶)が底面から出土している。

所見 時期は,出土遺物から室町時代中期と推定される。



第258図 第5号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第115表 第5号方形竪穴遺構出土遺物一覧

番号	類別	品名	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
1	銭貨	洪武通寶	24	0.5	0.1	(2.30)	銅銭	1368	背北平。	底面	PL50

第6号方形竪穴遺構 (第259図 PL44)

位置 調査区南部のB2b7区,標高21.9mほどの台地上に位置している。

重複関係 第7号方形竪穴遺構に掘り込まれている。東部は調査区域外のため未掘である。

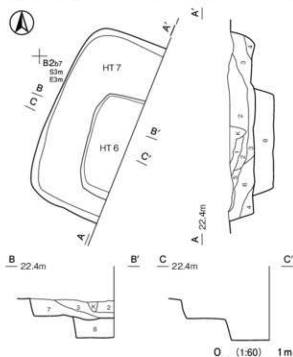
規模と形状 南北軸1.65m,東西軸0.65mのみ確認できた。隅丸方形または隅丸長方形で,主軸方向はN-

14°-Eと推定される。遺構上部は削平されており、遺構確認面から床面までの深さは60cmである。残存する壁は高さ32cmで外傾する。

床 平坦で、硬化面は確認できない。

覆土 単一層である。ブロック状の含有物が多いことから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片6点(欠)が出土している。いずれも細片で図示できない。



HT6・7 土師器片

- | | | | |
|---|---------|-----|-------------------------------|
| 1 | 10YR3-3 | 硝曜 | ロ-ム中D・小C・粒C、炭化粒D、硝曜/ヒスC・粘丸、線B |
| 2 | 10YR4-4 | 硝 | ロ-ム中D・小B・粒B、炭化粒D、粘丸、線B |
| 3 | 10YR4-6 | 硝 | ロ-ム中C・小B・粒B、炭化粒D、粘丸、線B |
| 4 | 10YR3-2 | 空陶 | ロ-ム中C・小C・粒D、炭化粒D、粘丸、線B |
| 5 | 10YR3-3 | 硝曜 | ロ-ム中D・粒D、炭化粒D、粘丸、線B |
| 6 | 10YR3-2 | 空陶 | ロ-ム中C・小D・粒D、炭化粒D、粘丸、線B |
| 7 | 10YR4-4 | 硝 | ロ-ム中C・小B・粒B、炭化粒D、粘丸、線B |
| 8 | 10YR5-4 | ヒス硝 | 焼土粒D、炭化粒D、硝曜/ヒスA・粘丸、線B |

第259図 第6・7号方形竪穴遺構実測図

所見 時期は、遺構の規模や形状、埋没状況から、第5号方形竪穴遺構と同時代の室町時代中期と推定される。

第7号方形竪穴遺構 (第259図 PL44)

位置 調査区北部のB2b7区、標高219mほどの台地上に位置している。

重複関係 第6号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。東部は調査区域外のため未掘である。

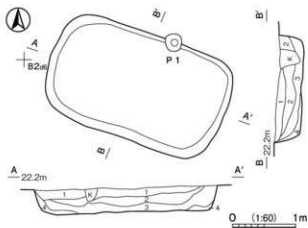
規模と形状 南北軸294m、東西軸135mのみ確認できた。隅丸方形または隅丸長方形と推測され、主軸方向はN-22°-Eと推定される。壁は高さ26~38cmで外傾する。

床 平坦で、硬化面は確認できない。

覆土 7層に分層できる。ブロック状の含有物が多いことから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片3点(欠)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、遺構の規模や形状、埋没状況から、第5号方形竪穴遺構と同時代の室町時代中期と推定される。



土師器片

- | | | | |
|---|---------|----|------------------------|
| 1 | 10YR3-4 | 硝曜 | ロ-ム中C・小C・粒C、炭化粒D/粘丸、線B |
| 2 | 10YR2-3 | 空陶 | ロ-ム中C・小C・粒D、炭化粒D/粘丸、線B |
| 3 | 10YR3-2 | 硝曜 | ロ-ム中B・小C・粒C・粘丸、線B |
| 4 | 10YR4-4 | 硝 | ロ-ム中C・小B・粒A・粘丸、線B |

第260図 第8号方形竪穴遺構実測図

第8号方形竪穴遺構 (第260図 PL44)

位置 調査区南部のB2c6区、標高221mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸292m、短軸170mの隅丸長方形で、主軸方向はN-70°-Wである。壁は高さ32~39cmで外傾する。

床 平坦で、硬化面は確認できない。

ピット 径28cmの円形で、深さ47cmである。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多いことから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片9点(欠)。

須臾器片3点(坏2, 甕1), 陶器片3点が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は, 遺構の規模や形状, 埋没状況から, 第5号方形竪穴遺構と同時代の室町時代中期と推定される。

第9号方形竪穴遺構 (第261図 PL44)

位置 調査区南部のB2c6区, 標高220mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.05m, 短軸1.40mの隅丸長方形で, 主軸方向はN-28°-Eである。壁は高さ20~25cmで外傾する。

床 平坦で, 硬化面は確認できない。

覆土 7層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片7点(甕)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は, 遺構の規模や形状, 埋没状況から, 第5号方形竪穴遺構と同時代の室町時代中期と推定される。



第261図 第9号方形竪穴遺構実測図

第10号方形竪穴遺構 (第262図 第116表 PL45・50)

位置 調査区北部のA2i7区, 標高220mほどの台地上に位置している。

重複関係 第10号竪穴建物跡, 第21号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.08m, 短軸2.85mの隅丸長方形で, 主軸方向はN-74°-Wである。壁は高さ30~34cmで外傾する。

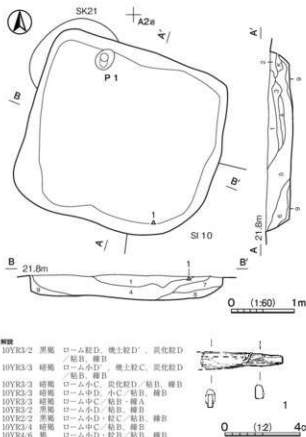
床 平坦で, 硬化面は確認できない。

ピット 径30cmの円形で, 深さ30cmである。

覆土 9層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから, 人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片138点(坏13・埴2・甕123), 縄文土器片7点(深鉢), 弥生土器片21点(甕), 石器2点(剥片), 本跡に伴う金属製品1点(刀子)が出土している。

所見 時期は, 遺構の規模や形状, 埋没状況から, 第5号方形竪穴遺構と同時代の室町時代中期と推定される。



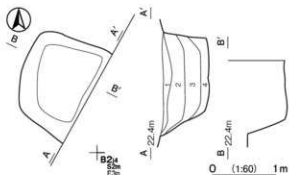
第262図 第10号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第116表 第10号方形竪穴遺構出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	産地	備考	出土位置	備考
1	刀子	(4.4)	(1.0)	0.55 0.55	(3.43)	鉄・木材	高部 木片付着 刀部磨削片		竪土上層	PL50

第11号方形竪穴遺構 (第263図 PL45)

位置 調査区南部のB2j4区、標高222mほどの台地上に位置している。東部は調査区域外へと延びている。



- 土層解説
- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム粒C、黄赤パミスC、小礫D/粘B、雜B
 - 2 10YR3-2 暗褐色 ローム粒C、赤化粒D、黄赤パミスB、小礫D/粘B、雜B
 - 3 10YR3-4 暗褐色 ローム粒B、赤化粒D、黄赤パミスA、粘B、雜B
 - 4 10YR3-4 暗褐色 ローム粒D、黄赤パミスC、小礫D/粘B、雜B

第263図 第11号方形竪穴遺構実測図

規模と形状 南北軸1.60m、東西軸1.15mのみ確認できた。隅丸長方形と想定でき、主軸方向はN-28°-Eと推定される。壁は高さ60~67cmで外傾する。

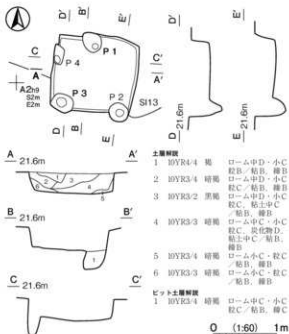
床 平坦で、硬化面は確認できない。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、人為堆積である。

所見 時期は、遺構の規模や形状、埋没状況から、第5号方形竪穴遺構と同時代の室町時代中期と推定される。

第12号方形竪穴遺構 (第264図)

位置 調査区北部のA2h9区、標高21.6mほどの台地上に位置している。



- 土層解説
- 1 10YR4-4 黄褐色 ローム中D・小C粒B/粘B、雜B
 - 2 10YR3-4 暗褐色 ローム中D・小C粒C/粘B、雜B
 - 3 10YR3-2 暗褐色 ローム中D・小C粒C、粘土中C/粘B、雜B
 - 4 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・小C粒C、赤化粒D、粘土中C/粘B、雜B
 - 5 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒C/粘B、雜B
 - 6 10YR3-3 暗褐色 ローム小C・粒C/粘B、雜B

- ピット土層解説
- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム中C・小C粒C/粘B、雜B

第264図 第12号方形竪穴遺構実測図

重複関係 第13号竪穴建物跡、第6号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.35m、短軸1.24mの隅丸長方形で、主軸方向はN-83°-Wである。壁は高さ28~30cmで直立する。

床 平坦で、硬化面は確認できない。

ピット 4か所。P1~P4は長軸28~36cm、短軸15~28cmの楕円形で、深さは18~30cmである。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片13点(壺)、弥生土器片2点(壺)、石器1点(剥片)が出土している。

所見 時期は、遺構の規模や形状、埋没状況から、第5号方形竪穴遺構と同時代の室町時代中期と推定される。

第13号方形竪穴遺構 (第265図)

位置 調査区北部のA2g9区、標高21.3mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2・13号竪穴建物跡、第14号方形竪穴遺構、第34・42号土坑を掘り込んでいる。

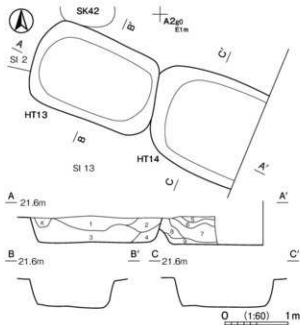
規模と形状 長軸210 m、短軸142 mの隅丸長方形で、主軸方向はN-67°-Wである。壁は高さ42～46 cmで外傾する。

床 平坦で、硬化面は確認できない。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片13点(甕)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、遺構の規模や形状、埋没状況から、第5号方形竪穴遺構と同時代の室町時代中期と推定される。



第265図 第13・14号方形竪穴遺構実測図

HT 13・14	土層解説
1	10YR3/4 暗褐色ローム中粒・小粒・炭灰、炭化物C・粒C・粘土、雜土
2	10YR3/3 暗褐色ローム中粒・小粒・炭灰、炭化物C・粘土、雜土
3	10YR3/2 暗褐色ローム大粒・中粒・小粒・炭C・粘土、雜土
4	10YR3/4 暗褐色ローム中粒・小粒・炭C・粘土、雜土
5	10YR3/4 暗褐色ローム中粒・小粒・炭灰、炭化物C・粘土、雜土
6	10YR3/2 暗褐色ローム中粒・小粒・炭C・炭化物C・粘土、雜土
7	10YR3/2 暗褐色ローム中粒・小粒・炭C・炭化物C・粘土、雜土
8	10YR3/3 暗褐色ローム中粒・小粒・炭C・粘土、雜土
9	10YR3/4 暗褐色ローム大粒・中粒・小粒・炭C・粘土、雜土

第14号方形竪穴遺構 (第265図)

位置 調査区北部のA2g0区、標高21.3 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第13号竪穴建物跡を掘り込み、第13号方形竪穴遺構に掘り込まれている。東部は調査区域外へと延びる。

規模と形状 南北軸1.64 m、東西軸1.74 mのみ確認できた。隅丸長方形と想定でき、主軸方向はN-67°-Wと推定される。壁は高さ44 cmで外傾する。

床 平坦で、硬化面は確認できない。

覆土 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片4点(甕)、須恵器片1点(高台付坏)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、遺構の規模や形状、埋没状況から、第5号方形竪穴遺構と同時代の室町時代中期と想定され、第13号方形竪穴遺構よりも古い遺構である。

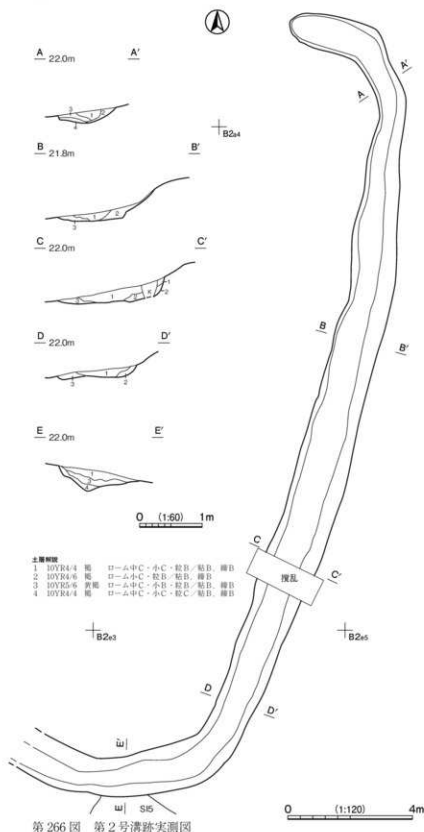
第117表 室町時代方形竪穴遺構一覧

番号	位置	主軸方向	平面形状	長さ (m)	幅 (m)	壁高 (cm)	床面	ピット	覆土	主な出土遺物	備考
1	B2a7	N-58°-W	隅丸方形	1.96	× 1.87	33-35	平坦	-	人土	土師器・須恵器・鉄貨	HT 2→本跡
2	B2a6	N-65°-W	長方形	2.95	× 2.05	30	平坦	-	人土	土師器・須恵器	SI 8、HT 3→本跡→HT 1
3	B2a7	N-65°-W	長方形	2.05	× [1.90]	20	平坦	-	人土	土師器・縄文土器・弥生土器・右器	SI 8→本跡→HT 2
4	B2a6	N-21°-E	長方形	2.74	× 2.11	70-76	平坦	-	人土	土師器・須恵器・縄文土器・弥生土器・右器	SI 8・9、SK13・14→本跡
5	B2a6	N-23°-E	隅丸方形	2.00	× 2.00	22-32	平坦	-	人土	土師器・須恵器・鉄貨	-
6	B2a7	N-14°-E	隅丸方形	1.65	× [0.65]	32	平坦	-	人土	土師器	本跡→HT 7
7	B2a7	N-22°-E	隅丸方形	2.94	× [1.35]	26-28	平坦	-	人土	土師器	HT 6→本跡
8	B2a6	N-70°-W	隅丸長方形	2.92	× 1.70	32-39	平坦	1	人土	土師器・須恵器・陶器	-
9	B2a6	N-28°-E	隅丸長方形	2.05	× 1.40	20-25	平坦	-	人土	土師器	-
10	A2g0	N-74°-W	隅丸方形	3.08	× 2.85	30-34	平坦	1	人土	土師器・縄文土器・弥生土器・土師器・右器	SI10、SK21→本跡
11	B2a4	N-28°-E	隅丸長方形	1.60	× [1.15]	60-67	平坦	-	人土	土師器	-
12	B2a9	N-83°-W	隅丸方形	1.35	× 1.24	28-30	平坦	4	人土	土師器・弥生土器・右器	SI13、SK 6→本跡
13	A2g0	N-67°-W	隅丸長方形	2.10	× 1.42	42-46	平坦	-	人土	土師器	SI 2・13、HT14、SK34・右→本跡
14	A2g0	N-67°-W	隅丸長方形	[1.74]	× 1.64	44	平坦	-	人土	土師器・須恵器	SI13→本跡→HT13

5 その他の遺構と遺物

今回の調査では、時期が明確にできなかった溝跡2条、土坑58基、遺物包含層1か所を確認できた。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 溝跡



第2号溝跡 (第266図 PL45)

位置 調査区中央部のA 2f4～B 2f4区にかけて、標高21.0mほどの台地縁辺部を段切り状に削平した部分に位置している。

重複関係 第5号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 コの字状をしており、南北(N-17°-E)に23.2m延び、両端が東西に延びる。台地が西の谷津へ向かい傾斜しており、さらに削平されているため東西方向へ延びる部分は北側(N-72°-W)で2.6m、南側(N-63°-W)で5.4mのみ確認できた。上幅0.80～1.64m、下幅0.40～1.12m、深さは0.28～0.68mである。断面形はL字状で、壁は外傾している。東側は台地上で高くなっており、底面まで0.7mほどある。西側は傾斜しており、3mほどでさらに落ち込んでいる。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片60点(坏2, 小形甕1, 甕57), 須恵器片2点(高台付坏, 蓋), 縄文土器片4点(深鉢), 石器2点(剥片, 砥石)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、方形竪穴遺構と同時代の中世に見られる段切り状遺構に伴う遺構と推定される。

第3号溝跡 (第267・268図 第118表 PL45・50)

位置 調査区のA2h7～A2i9区にかけて、標高215mほどの台地に位置している。

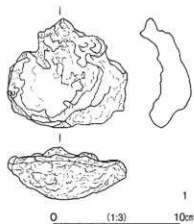
重複関係 第3・6号竪穴建物跡、第29号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 東側は調査区域外へ延びている。台地が西へ向かい傾斜しており、直線状(N-70°-W)に9.04mのみ確認できた。上幅0.88～1.15m、下幅0.29～0.52m、深さは0.16～0.28mである。断面形はU字状で、壁は外傾している。

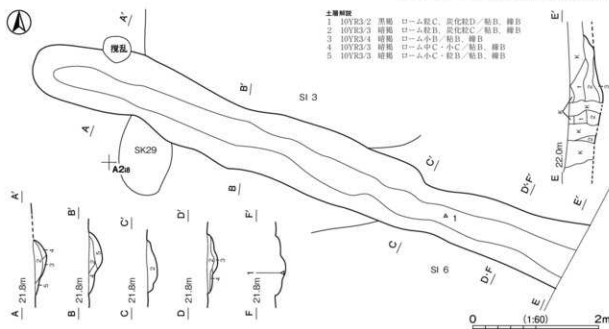
覆土 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片32点(甕)、縄文土器片4点(深鉢)、弥生土器片2点(壺)、陶器1点、旧石器1点(剥片)が出土している。土製品1点(羽巾)、金属製品1点(鉄滓)は本跡に関連する遺物の可能性があり、遺構の延びる東側に、鉄生産関連遺構があることが推定される。

所見 時期は、第3号竪穴建物跡を掘り込んでいるため、平安時代以降の遺構と推定される。



第267図 第3号溝跡出土遺物実測図



第268図 第3号溝跡実測図

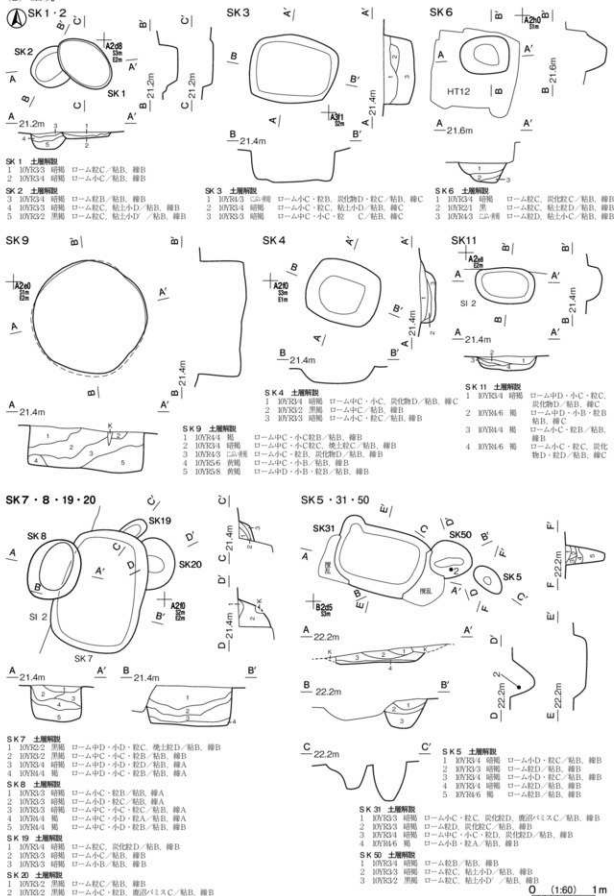
第118表 第3号溝跡出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	鉄滓	8.7	9.5	4.1	293.40	鉄	塊状滓 一部炭化 全面錆化	覆土下層	PL50

第119表 その他の溝跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	幅				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)					
2	A34 - B24	N-17°-E N-72°-W N-62°-W	直線上 扇形	23.2	0.80-1.64	0.40-1.12	0.28-0.68	L字状	外傾	人為	土師器、陶器、縄文土器、石器	SI 5→本跡
3	A2h7 - A2i9	N-70°-W	直線上	9.04	0.88-1.15	0.29-0.52	0.16-0.28	U字状	外傾	人為	土師器、縄文土器、弥生土器片、陶器、石器、土製品、鉄滓	SI 3・6、SK29→本跡

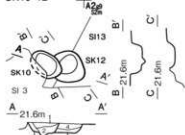
(2) 土坑



第 269 図 その他の土坑実測図 (1)

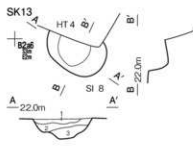


SK10-12



SK 10-12 土層解説

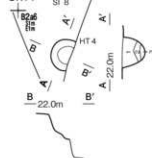
- 1 10Y3G3 埴輪 ローム粒C、炭化粒D、粘B、練B
- 2 10Y3G3 埴輪 ローム小C、粘B、練B
- 3 10Y3G3 埴輪 ローム小粒D、炭化粒D、粘B、練B
- 4 10Y3G4 埴輪 ローム小粒C、炭化粒D、粘B、練B
- 5 10Y3G4 埴輪 ローム小C、焼土粒D、炭化粒D、粘B、練B



SK 13 土層解説

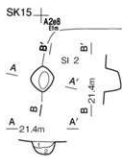
- 1 10Y3L3 埴輪 ローム粒B、炭化粒C、粘B、練B
- 2 10Y3L4 埴輪 ローム粒B、炭化粒D、粘B、練B
- 3 10Y3L4 埴輪 ローム粒C、炭化粒D、粘B、練B

SK14



SK 14 土層解説

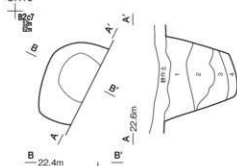
- 1 10Y3L3 埴輪 ローム粒D、炭化粒D、粘土小D、粘B、練B
- 2 10Y3L2 埴輪 ローム粒D、炭化粒C、粘土粒C、粘B、練B
- 3 10Y3L2 埴輪 ローム小C、炭化粒C、粘土C、粘B、練B



SK 15 土層解説

- 1 10Y3L3 埴輪 ローム小D、粒C、粒C、粘B、練B
- 2 10Y3L4 埴輪 ローム小B、粒B、粘B、練C

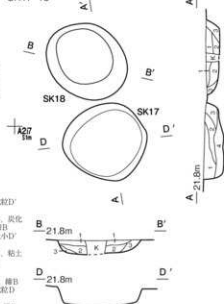
SK16



SK 16 土層解説

- 1 10Y3G2 埴輪 ローム粒B、炭化粒D、粘B、練B
- 2 10Y3G2 埴輪 ローム小D、粒C、炭化粒D、粘B、練B
- 3 10Y3G3 埴輪 ローム小C、粘土小D、粘B、練B
- 4 10Y3G2 埴輪 ローム小D、粒C、粘土小D、粘B、練B

SK17-18



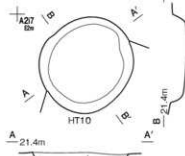
SK 17 土層解説

- 1 10Y3G2 埴輪 ローム粒B、炭化粒D、粘B、練B
- 2 10Y3G2 埴輪 ローム小D、粒C、炭化粒D、粘B、練B
- 3 10Y3G3 埴輪 ローム小C、粘土小D、粘B、練B
- 4 10Y3G2 埴輪 ローム小D、粒C、粘土小D、粘B、練B

SK 18 土層解説

- 1 10Y3L3 埴輪 ローム粒C、粘B、練B
- 2 10Y3L1 埴輪 ローム粒C、炭化粒D、粘B、練B
- 3 10Y3L2 埴輪 ローム小C、粘B、練B

SK21



SK 21 土層解説

- 1 10Y3L2 埴輪 ローム小C、炭化粒D、粘B、練C、焼土粒D、粘B、練C

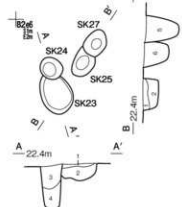
SK 23 土層解説

- 1 10Y3L1 埴輪 ローム粒C、粘B、練B
- 2 10Y3L4 埴輪 ローム小C、焼土粒D、粘B、練B

SK 24 土層解説

- 1 10Y3L2 埴輪 ローム小B、粒B、焼土粒D、粘B、練C
- 2 10Y3L2 埴輪 ローム粒B、焼土粒D、粘B、練C

SK23~25-27



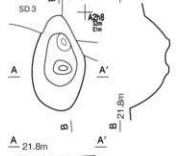
SK 25 土層解説

- 1 10Y3L2 埴輪 ローム小C、焼土粒D、粘B、練A

SK 27 土層解説

- 1 10Y3L3 埴輪 ローム中D、粒C、焼土粒D、粘B、練C

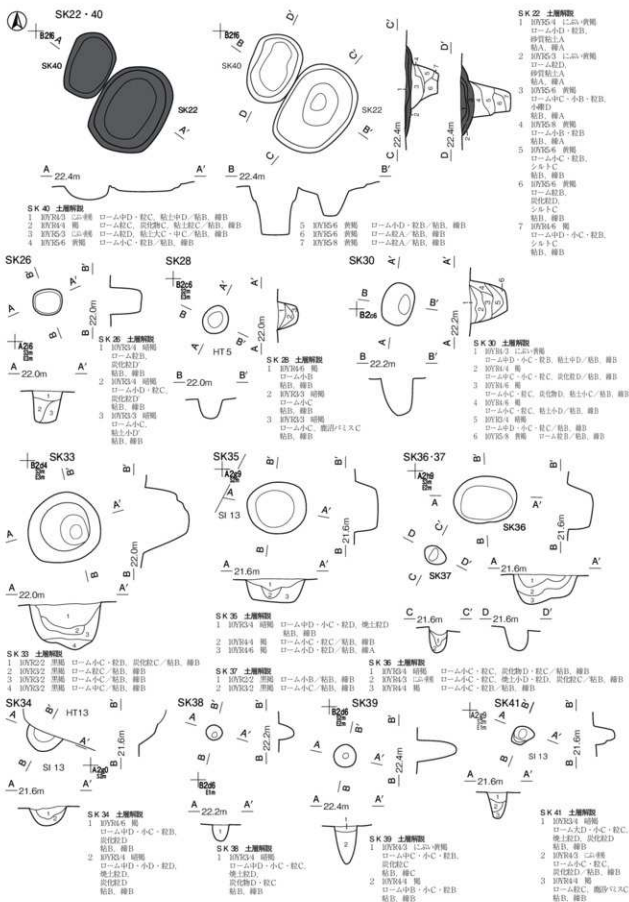
SK29



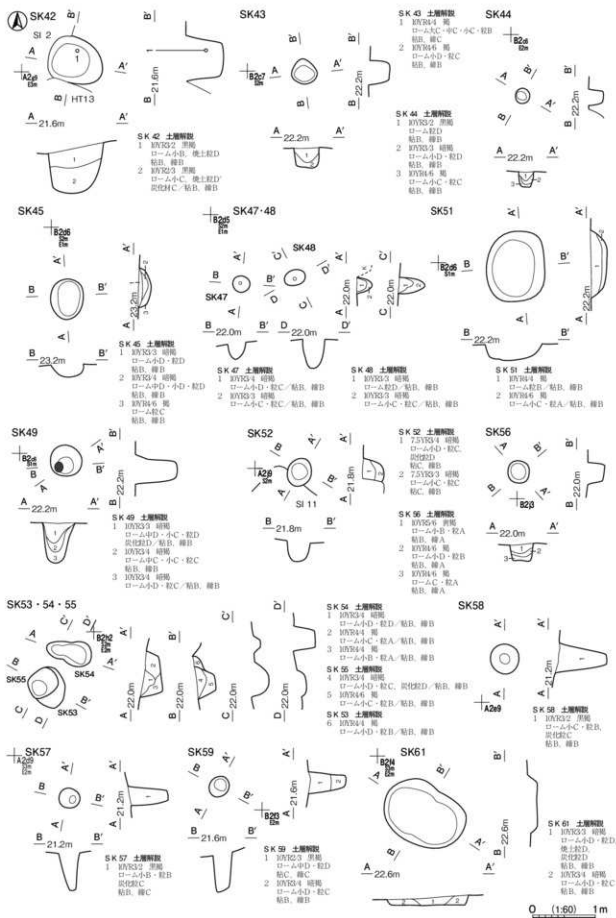
SK 29 土層解説

- 1 10Y3L4 埴輪 ローム粒C、炭化粒D、粘B、練B
- 2 10Y3L4 埴輪 ローム粒C、粘B、練B
- 3 10Y3L4 埴輪 ローム小C、シルトC、焼土粒D、粘B、練B

0 (1:50) 1m



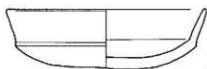
第 271 図 その他の土坑実測図 (3)



第 272 図 その他の土坑実測図 (4)



SK42-1



SK50-2

0 (1:1) 2cm

0 (1:3) 5cm

第 273 図 その他の土坑出土遺物実測図

第 120 表 その他の土坑出土遺物一覧

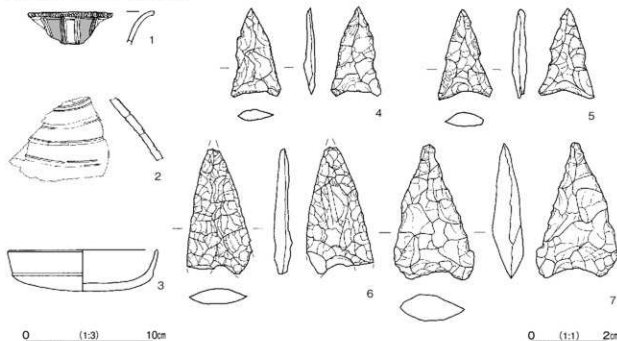
番号	器種	径	高さ	口径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
1	丸瓦	09-10	1.0	0.2	0.78	長石・石英・針状炭素	75YR 8/2	穿孔部片断小欠	SK42 甕土中層	96% I130
2	土陶器	杯	122	37	-	長石・石英・針状炭素	7.5YR 8/6 普通	口縁部ナデ 底部へり切り。全体の厚薄が著しい	SK50 甕土中層	90%

第 121 表 その他の土坑一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	量 程		壁 面	底 面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径・短径 (cm)	深さ (cm)					
1	A208	N-30°-W	楕円形	1.01 × 0.65	14	外傾	平坦	自然		SK 2→本跡
2	A208	—	[円形]	0.63 × 0.63	28	外傾	平坦	自然	発生土器	本跡→SK 1
3	A20	N-85°-W	楕円形	1.28 × 1.10	55	直立	平坦	人為	土陶器	
4	A20	N-68°-W	楕円形	1.18 × 0.97	24	外傾	平坦	自然	土陶器	
5	B245	N-54°-W	楕円形	0.55 × 0.31	62	外傾	平坦	自然		
6	A209	N-82°-E	楕円形	0.72 × 0.59	35	外傾	底状	自然	土陶器・縄文土器	本跡→HT12
7	A20	N-18°-E	楕円形	1.96 × 1.37	54	直立	平坦	人為	土陶器・須恵器	SI 2, SK19・20→本跡→SK 8
8	A20	N-37°-E	楕円形	1.04 × 0.80	62	外傾	平坦	人為	土陶器	SI 2, SK 7→本跡
9	A30	—	円形	1.83 × 1.79	66	直立	平坦	人為	土陶器・縄文土器・発生土器	
10	A208	N-50°-W	楕円形	0.53 × 0.38	23	外傾	有段	自然		SK12→本跡→SI 3
11	A208	N-85°-W	楕円形	0.96 × 0.57	23	外傾	平坦	自然	土陶器	SI 2→本跡
12	A208	—	円形	0.55 × 0.53	11	外傾	平坦	自然		SI13→本跡→SK10
13	B206	N-33°-E	[楕円形]	1.01 × 0.49	34	外傾	底状	自然	土陶器	SI 8→本跡→HT 4
14	B206	N-26°-E	[楕円形]	0.56 × 0.32	37	外傾	底状	自然	土陶器	SI 8→本跡→HT 4
15	A208	N-45°-E	楕円方形	0.34 × 0.33	23	外傾	底状	自然		SI 2→本跡
16	B207	N-27°-E	[楕円形]	1.35 × 0.75	110	外傾	平坦	人為	土陶器	
17	A207	—	円形	1.24 × 1.23	31	外傾	平坦	自然	土陶器・縄文土器	
18	A207	—	円形	1.35 × 1.22	25	外傾	平坦	自然	土陶器・須恵器	
19	A20	N-54°-E	[楕円形]	0.34 × 0.24	12	外傾	底状	自然		本跡→SK 7
20	A20	N-68°-E	[楕円形]	0.78 × 0.42	45	外傾	底状	自然		本跡→SK 7
21	A207	—	円形	1.53 × 1.43	25	外傾	平坦	自然	土陶器・発生土器	本跡→HT10
22	B206	N-35°-E	楕円形	1.47 × 1.08	54	外傾	有段	人為	土陶器	
23	B206	N-16°-W	[楕円形]	0.60 × 0.50	26	外傾	平坦	自然		本跡→SK24
24	B206	—	円形	0.25 × 0.32	63	直立	平坦	人為		SK20→本跡
25	B206	N-34°-E	[楕円形]	0.39 × 0.33	32	外傾	底状	自然		本跡→SK27
26	A206	—	円形	0.58 × 0.53	50	直立	平坦	人為	土陶器・胆石器	
27	B206	N-17°-E	楕円形	0.43 × 0.33	49	外傾	底状	人為		SK25→本跡
28	B206	N-25°-E	楕円形	0.47 × 0.40	27	外傾	平坦	自然		本跡→HT 5
29	A208	N-5°-W	楕円形	1.50 × 0.85	55	外傾	有段	人為	土陶器・胆石器	SI 3, SI 3→本跡
30	B206	N-22°-E	楕円形	0.67 × 0.50	58	外傾	平坦	人為	土陶器	

番号	位置	主軸方向	平面形状	原形		縦 面	底 面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
31	B245	N - 20° - E	[不整形] 円形	[1.12] × 0.93	20	外傾	平坦	自然	土師器	SK00 → 本跡
33	B244	—	円形	1.16 × 1.10	72	外傾	有段	人工	土師器・須恵器・陶器	
34	A249	N - 28° - E	[楕円形]	0.55 × 0.30	29	外傾	屈状	自然	土師器・縄文土器	SE13 → 本跡 → HT13
35	A249	N - 80° - E	楕円形	0.94 × 0.82	36	外傾	平坦	人工	胆石器	SE13 → 本跡
36	A249	N - 87° - E	楕円形	1.02 × 0.72	36	外傾	平坦	人工		
37	A249	N - 52° - W	楕円形	0.37 × 0.28	35	外傾	屈状	人工	弥生土器	
38	B246	—	円形	0.26 × 0.24	25	外傾	屈状	人工		
39	B246	—	円形	0.36 × 0.35	58	外傾	屈状	人工		
40	B236	N - 25° - E	楕円形	1.12 × 0.80	75	外傾	平坦	人工	縄文土器・弥生土器・金属製品	
41	A249	N - 35° - E	不整形円形	0.31 × 0.28	32	外傾	有段	人工		SE13 → 本跡
42	A249	N - 60° - W	楕円形	0.92 × 0.74	35	外傾	屈状	人工	土師器・縄文土器・弥生土器・土製品(瓦玉)	本跡 → SE 2, HT13
43	B247	—	円形	0.41 × 0.40	32	外傾	平坦	人工		
44	B246	—	円形	0.25 × 0.23	23	外傾	平坦	自然		
45	B246	N - 10° - E	楕円形	0.64 × 0.52	20	外傾	屈状	自然	土師器	
47	B245	—	円形	0.27 × 0.26	25	外傾	屈状	自然		
48	B245	N - 60° - E	楕円形	0.35 × 0.26	47	外傾	屈状	自然		
49	B246	—	円形	0.50 × 0.49	65	直立	屈状	人工	土師器	
50	B245	N - 80° - E	[楕円形]	[0.68] × 0.60	40	外傾	屈状	自然	土師器	本跡 → SK31
51	B246	N - 15° - E	楕円形	1.04 × 0.93	25	外傾	平坦	自然	土師器	
52	A249	N - 31° - E	円形	0.39 × 0.36	33	外傾	屈状	自然	胆石器	SE11 → 本跡
53	B242	N - 28° - W	[楕円形]	[0.48] × [0.22]	7	外傾	屈状	自然		本跡 → SK25
54	B242	N - 34° - W	不整形円形	0.74 × 0.41	35	外傾	平坦	人工		
55	B242	N - 12° - E	楕円形	0.48 × 0.40	27	外傾	屈状	自然		SK25 → 本跡
56	B243	—	円形	0.35 × 0.34	25	外傾	平坦	自然	土師器	
57	A249	—	円形	0.33 × 0.32	60	外傾	平坦	人工		
58	A249	—	円形	0.48 × 0.46	78	直立	屈状	人工		
59	B242	N - 28° - E	楕円形	0.35 × 0.30	58	直立	平坦	人工		
61	B241	N - 54° - E	楕円形	1.33 × 0.92	10	外傾	平坦	自然	土師器・胆石器	

(3) 遺構外出土遺物 (第274図)



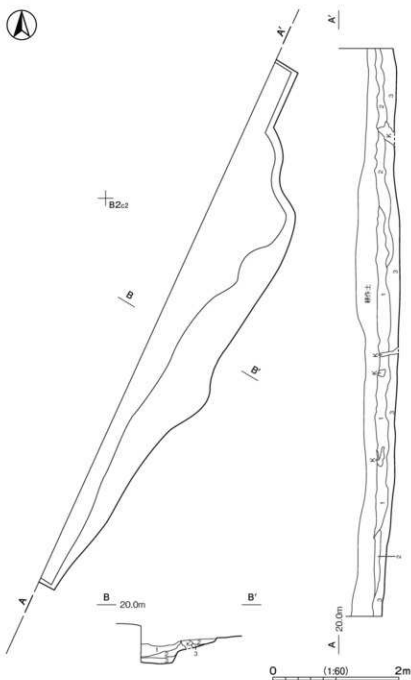
第274図 遺構外出土遺物実測図

第122表 遺構外出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	壺	—	(25)	—	長石・石英	10YR3/4 に濃い黄緑	普通	口特部キザミ目 縦方向への平行沈痾 一列おきに赤影	表塚	5%
2	弥生土器	壺	—	(50)	—	長石・石英・雲母 針状鉱物	7.5YR7/4 に近い橙	普通	論文 平行沈痾	S2 7層土中	5%
3	土師器	坏	11.8	32	—	長石・石英・針状鉱物	7.5YR6/6 黄	普通	外面下部へク崩り 全体的に摩滅が著しい	表塚	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	石皿	1.4	1.9	0.3	0.68	チャート	円基菜式 両面押圧調整	H T 3層土中	PL50
5	石皿	2.3	1.4	0.4	0.79	流紋岩	円基菜式 両面押圧調整	S 1 3層土中	PL50
6	石皿	3.3	1.8	0.5	2.50	チャート	円基菜式 両面押圧調整 先端部・基部割れ	S 1 3層土中	PL50
7	石皿	3.6	2.2	0.8	3.94	頁岩	円基菜式 両面押圧調整	S 1 3層土中	PL50

(4) 遺物包含層



第275図 第1号遺物包含層実測図

第1号遺物包含層

(第275図 PL41)

位置 調査区のB 2 a2～B 2 d1区にかけて、標高19.4mほどの西へ傾斜する緩斜面部に位置している。

規模と形状 西側は調査区域外へ延びているため、南北幅約9m、東西幅約1.4mのみ確認できた。

堆積状況 3層に分層でき、上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が主体である。斜面上部から堆積した様相を示す自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片111点(坏3、壺108)、縄文土器片14点(深鉢)、弥生土器片4点(壺)、石器1点(磨製石斧)が第1層の黒褐色土中から出土している。いずれも碎片のため図示できない。

所見 土師器片が主な遺物で台地上から流入したと考えられ、古墳時代から中世にかけて堆積したものと推定される。

土層割層
 1 10YR3/2 黄 ローム小D・粒D/粘B、細B
 2 10YR3/4 暗黄 ローム小D・粒C/粘B、細B
 3 10YR4/6 黄 ローム小C・粒A/粘B、細B

第4節 小 結

1 はじめに

今回の調査では、旧石器時代、古墳時代、奈良時代、室町時代のほか、時期不明の遺構と遺物を確認した。ここでは、確認した遺構と遺物について概観し、小結としたい。

2 旧石器時代

今回確認した旧石器時代の遺物は、剥片が主であるが、デイスait製削器、流紋岩製の尖頭器、硬質頁岩製の盤状剥片石核を含む73点（硬質頁岩10・デイスait 39・無斑晶質デイスait 4・流紋岩7・瑪瑙3・チャート5・石英5）で、調査区北部での出土がほとんどである。他時代の遺構覆土中から出土しており、その地点を中心にグリッド法で調査を行ったが、石器集中地点を確認することはできなかった。調査区北部ではローム層厚が約0.5m程度で、赤城鹿沼テフラ層となってしまうため、旧石器時代の遺物が含まれていたのであろう層位は削平されてしまった可能性が高い。

調査区は台地北西端部に位置し、低地との高低差が8mあり、低地は水田である。今回の調査中に、調査区周辺についての聞き取り調査で、「田んぼは、耕運機が埋まってしまうほどぬかるみがひどい。田起こし前に（台地上の）畑の土を入れておかないと機械を入れられない。」との話を聞くことができた。調査前現況は畑地であり、水田へ土を補充するために削平されたことが考えられる。

3 古墳時代

当時代の遺構は堅穴建物跡が11棟で、内訳は4世紀前葉～中葉が4棟、5世紀中葉～末が3棟、5世紀中葉から7世紀の間が2棟、7世紀前半が2棟である。調査区は台地北西端に位置しており、堅穴建物跡は台地縁辺部に沿って、調査区中央部10m×30mのわずかな範囲に密集していた。前期の堅穴建物跡は4世紀前葉から中葉にかけてのもので、規模は中型である。重複関係から最も古いと考えられるは第13号堅穴建物跡である。第7・8・12号堅穴建物跡は遺構の重複が激しく、遺構の一部のみの確認であった。

5世紀中葉から末にかけての堅穴建物跡は大型・中型である。北端に位置する2棟で竈を確認した。第1号堅穴建物跡では北に、第2号堅穴建物跡では東に設置されており、どちらも凝灰岩を使用した切り石組竈であり、配置や構造から煙出しが壁外に出ない初期竈である。重複が激しいため明確な時期が分からない遺構も含めれば、棟数は増加しており、集落が拡大した時期と考えられる。

7世紀の堅穴建物跡のうち第5号堅穴建物跡のみが調査区南部に位置している。規模は中期より小型化し、棟数は減少する。

※大型（一辺8m以上）、中型（一辺5～6m）、小型（一辺4m以下）とした。

4 奈良時代

当時代の遺構は、8世紀後葉と末葉の堅穴建物跡2棟である。どちらも調査区の中央部に位置し、主軸方向が北向きの方形で、規模は中型である。北壁中央部に竈を有し、壁溝が全周する。コーナー部が深く掘り込まれた貼床となっている。後葉の堅穴建物跡は主柱穴は2か所なのに対し、末葉の堅穴建物跡は主柱穴が4か所。竈に対峙する壁際に出入口施設、壁柱穴4か所を有している。また、確認できたピット

の配置から、少なくとも3回の建て替え、または拡張が行われた可能性がある。

古墳時代と比べると竪穴建物跡は11棟から2棟へと減少していることに加え、調査区内から平安時代の竪穴建物跡は確認できなかったことから、集落の規模が縮小した可能性がある。

5 室町時代

今回確認した室町時代の遺構は、方形竪穴遺構14基である。第5号方形竪穴遺構からは銭貨（洪武通寶）が出土している。他の方形竪穴遺構からは時期を決定づける遺物は出土していないが、埋没状況が似ているため同時期の遺構とした。また、調査区西側の斜面部に位置する第2号溝跡は、方形竪穴遺構と同時代の中世に見られる段切り状遺構に伴うものと推定される。

6 おわりに

以上、北久保B遺跡の竪穴建物跡の特徴を中心に各時代の遺構と遺物を再確認した。調査区内に集落が広がるのは古墳時代からである。調査区が台地の北西部に位置することや、縄文土器片、弥生土器片などの遺物が混入していることから、集落の中心部は調査区東側の台地に広がり、古墳時代以前から集落が営まれていたことが想定されるが、奈良時代以降は、集落が縮小していったものと考えられる。

今回の調査は、道路整備のための長さ70m、幅20mである。確認できたことは遺跡全体変遷の一端であり、今後の周辺遺跡の調査と合わせての考察が必要である。

引用・参考文献

- 櫻村宣行「那珂川以北を中心とする「切石組み竈」の一考察」『領域の研究－阿久津久先生還暦記念論集－』2003年4月
- 櫻村宣行「「切石組み竈」の一考察－那珂川以南を中心として－」『考古学の深層－瓦吹堅先生還暦記念論集－』2007年1月
- 櫻村宣行「「切石組み竈」の一考察－最終章－」『列島の考古学Ⅱ－渡辺誠先生古稀記念論集－』2007年11月
- 早川麗司 渡邊浩実「仁井谷遺跡 神岡上遺跡 古屋敷遺跡 叶南前入遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告第275集 2007年3月
- 高萩市史編纂委員会『高萩市史』上 高萩市役所 1969年11月
- 松田政基 早川麗司 村山卓 瓦吹堅「松岡城跡E地点」高萩市教育委員会 2013年3月
- 永井久美男「中世の出土銭―出土銭の調査と分類―」1994年10月

第5章 総括

今回の大高台遺跡及び北久保B遺跡の調査において、旧石器時代から江戸時代にかけての土地利用が確認された。本章では、両遺跡の関係を考察する他、周辺の遺跡における既存の調査成果及び文献史料等と比較検討し、今回の調査で得られた成果をもとに二つの遺跡を地域史の中に位置付けていきたい。

旧石器時代

北久保B遺跡において、ローム層中から石核と剥片が散在して出土しており、後世の遺構覆土中からは石核、剥片の他、削器、尖頭器等が出土している。石材の使用状況は、頁岩10点(13.9%)、デイサイト39点(54.2%)、無斑晶デイサイト4点(5.6%)、流紋岩(9.7点)、瑪瑙3点(4.2%)、チャート5点(6.9%)、石英5点(5.6%)である。石材の構成はデイサイトが大半を占め、那珂川・久慈川水系において採取可能な石材を多く利用している。一方で、福島県浜通り産とみられる石英斑晶を多く含む白色の流紋岩が客体的ではあるが一定量認められる。このことから、当地域の旧石器時代人の活動が、那珂川・久慈川水系を基盤として浜通り方面への移動が活発であったことが窺える¹⁾。

大高台遺跡においてはローム層中からの遺物は確認できなかったが、遺構覆土中から搔器や石核、剥片が出土している。しかし、近隣の赤浜遺跡において、弥生時代中期の石器製作跡と考えられる遺構から多量の剥片が出土しており²⁾、大高台遺跡においても弥生時代中期の遺構が確認されていることから、旧石器時代と弥生時代の遺物を明確に分離することは困難である。しかし、石材利用の特徴は、北久保B遺跡と同様にデイサイトが大半を占めており、石英、瑪瑙、チャートなどの那珂川・久慈川水系の様相を示し、客体的に流紋岩や東北産と思われる頁岩が含まれている。

弥生時代

大高台遺跡において、弥生時代中期末～後期前半にかけての竪穴建物跡を確認した。県内におけるこの時期の建物跡の確認例は非常に少ないが、近年、隣県の福島地域において調査事例が増えており³⁾、今回確認された竪穴建物跡もそれらの事例に共通する特徴がみられる。遺物は中期後半の足洗3式をはじめとして、後期前半の伊勢林前式、天王山式などが多くみられ、南東北地方の影響が強くみられる。同じ赤浜台地上に所在する赤浜遺跡の調査では、足洗1式期の竪穴建物跡と考えられる遺構が複数確認されており⁴⁾、当該期の遺跡が多く確認されている地域である。北久保B遺跡の調査では弥生時代の遺構は確認できなかったが、伊勢林前式とみられる広口壺片が採取され、周辺に集落が存在する可能性がある。

古墳時代

4世紀代の竪穴建物跡が大高台遺跡で6棟、北久保B遺跡で4棟確認されており、同時期に存在した集落と考えられる。北久保B遺跡では、壺、甕、埴の他、高坏や器台、二重口縁壺、脚付埴など豊富な器種が出土しているのに対して、大高台遺跡の出土遺物は、甕、壺、埴の他、高坏と器台は1片ずつを確認するにとどまり、器種構成が異なっている。一方で、大高台遺跡の第21号竪穴建物跡からはミニチュア土器が4点、第30号竪穴建物跡からは手捏土器が9点出土しているが、北久保B遺跡においてはこれらの小形の祭祀系遺物が確認されていないことから、二つの集落を形成した集団は異なる性格を持っていた可能性がある。

その後両遺跡ともに集落は途絶え、5世紀末葉に北久保B遺跡で出現する。当該期の第1・2号竪穴建物跡からは竈が確認されている。当地域において一般集落に竈が導入されるのは5世紀末と考えられ、県北地域における竈導入期の様相を知る貴重な資料と言える。竈の焚口部は凝灰質泥岩で補強される「切石組み竈」と呼ばれるもので、北久保B遺跡での竈出現期から大高台遺跡における集落の終末にあたる10世紀中葉のものまで継続してみられる構築方法である。確認された竈の内、切石が用いられる割合は、大高台遺跡で23棟中11棟、北久保B遺跡で4棟中4棟で、いずれも焚口部の補強材として据え付けられている。

その後、北久保B遺跡においては6世紀代の集落は確認できず、一方、台地上の大高台遺跡においては、6世紀代の竪穴建物跡が2棟確認できた。7世紀代になると大高台遺跡では集落がみられず、代わって北久保B遺跡に再び集落が営まれている。古墳時代の前期を除くと、大高台と北久保Bの集落は入れ替わるように営まれており、両集落は同じ集団によって営まれた可能性がある。

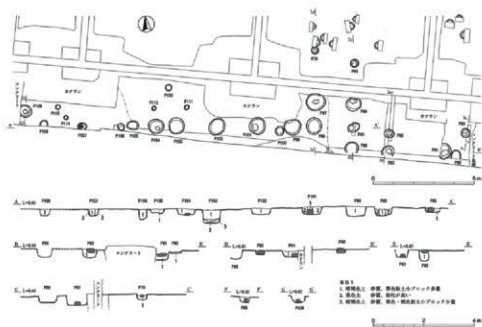
奈良・平安時代

大高台遺跡と北久保B遺跡において集落が確認されるのが8世紀後葉からで、ほぼ同時期に営まれ始めたと考えられる。北久保B遺跡においては、9世紀以降の遺構は確認されておらず、短期的な集落であるが、大高台遺跡の集落は10世紀中葉まで継続している。大高台遺跡は、かねてより常陸国多河郡の郡衙跡と推定されている遺跡ではあるが、今回の調査では、郡衙と断定できる様相はみられなかった。しかし、腰帯具や円面硯が確認されていることから集落内に官衙と関連のある人物がいたことが想定できる。北久保B遺跡の第4号竪穴建物跡からは、「子石川」、「子与五ヵ」、「刃」等の文字資料が出土している。「子石川」の文字は、篠島駅家に比定される日立市長者山遺跡の北側を流れる「小石川」と関連する可能性がある。これらの墨書土器は、集落内に識字者が存在したことを示唆し、両集落は、官衙の周辺集落である可能性が高い。大高台遺跡は8世紀末～9世紀前葉にかけてが最も集落の繁栄を見せるが、9世紀中葉以降には、徐々に建物の数が減少していく。8世紀末～9世紀前葉は、対蝦夷政策が最も激化した時期であるとともに、それまで太平洋沿岸を通過していた駅路が久慈郡家付近を通る山間部のルートに変更される時期でもある。当地域の集落の変遷は、このような当時の社会情勢が強く影響している可能性がある。

中世から近世

北久保B遺跡においては、方形竪穴遺構が14基と段切状遺構及びそれに伴う溝跡が確認されている。遺物は極めて少なく、銭貨（洪武通寶）1点が出土したのみで、当該期の遺跡の性格は不明であるが、大高台遺跡において確認されている方形竪穴遺構群の時期が16～17世紀にかけてとみられることから北久保遺跡の方形竪穴遺構群もこの時期に構築された可能性がある。16世紀代は、当地域の領主であった大塚氏が、佐竹氏や陸奥の岩城氏等の勢力争いの中で度々合戦に参加しており、不安定な情勢の中で、土地利用が活発化した可能性がある。

一方で大高台遺跡は、鎌倉後期に創建された妙法寺と称する寺院の伝承が残されており、今回の調査において、13世紀後半頃に土地利用がはじめられたこと、また、開基者と伝えられている「日弁」の名を記した土師質土器小皿が出土したことにより、当該が妙法寺跡であるとの伝承を裏付ける結果となった。出土遺物の中には、中国産陶磁器や古瀬戸産産陶器などの優品が確認でき、在地領主との結びつきが考えられる。領主と寺院との関連を示す史料として「妙法寺過去帳」が現存している。この記載によると、実名は不明であるが、「永享二年庚午（1430年）妙浄禪門 大ツカ」とあり、この人物が、籠子山に移った大塚氏の最初の人物と考え



【松岡城跡 E 地点 - 高萩市立松岡小学校校舎改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -】⁹⁾より引用

第 276 図 松岡城跡 E 地点第 1 号掘立柱建物跡実測図

られている。法華宗(妙浄)と禪宗(禪門)に関連した法名は、かつての地頭職寺岡氏の菩提寺であった曹洞宗長宏寺を保護し、法華宗の妙法寺を援助することで、上手網の領民の支持を集めるためと思われる⁵⁾。過去帳には、15人の大塚氏の一族が記載されており、また、『松岡地理誌』⁶⁾によると「大塚氏ハ法華宗ニ帰依シ妙法寺ヲ香火所トス」と伝えられていることから、大塚氏が妙法寺を保護していたことがわかる。慶長元年(1596年)に大塚氏は岩城の折木城に知行替えになり、その後龍子山城に入った戸沢政盛は、慶長10年(1605年)～同11年(1606年)にかけて、龍子山城を近世城郭として整備し松岡城と名を改め、20年間当地を領することになる。同じく日弁開基である願成寺の『開基帳』(1663年)によると、願成寺は寺内除地二石八斗九升三合、寺領八石二斗一合で、末寺二カ寺を有し、百姓旦那五百六拾五人とあるのに対し、妙法寺は寺内除地五石六斗六升六合で、末寺一カ寺を有し、百姓旦那三拾人と記されている⁷⁾。このことから、大塚氏の庇護が受けられなくなった妙法寺は衰退していったと考えられている。しかし、今回の大高台遺跡の調査において出土した陶磁器類を見ると、大塚氏が移封した後の17世紀代に入っても、志野鉄絵向付や初期柿右衛門様式の色絵付け磁器といった優品を継続的に入手していたと考えられ、文献に見られるような衰退の様子は感じられない。

今回の調査により、礎板石を用いた大型の掘立柱建物の存在を確認し、さらに、その前身として礎石建物が存在したことが、転用された礎板石から明らかとなった。礎石建物の規模や年代は不明であるが、被熱した陶磁器の存在から、16世紀後半段階に火災にあっている可能性があることが確認できた。第23号掘立柱建物跡の廃絶時期は17世紀後半に位置付けられ、掘立柱建物の耐久年数を考慮すると、建立されたのは17世紀前半頃と推測される。松岡城 E 地点の調査⁸⁾において、江戸時代前期の戸沢政盛が整備した時期のものと思われる第1号掘立柱建物跡は、柱穴に礎板石を用いる工法が採られ、身舎と庇または廊下と想定される柱が確認されているなど、大高台遺跡の第23号掘立柱建物跡と類似した特徴がみられる。また、柱掘方の規模と形状、柱間寸法に共通性がみられることから、大高台遺跡の第23号掘立柱建物跡は、松岡城整備の際と同じ規格のもとに設計されたこととみられ、戸沢氏によって妙法寺の再建が行われた可能性がある。従来、妙法寺の衰退は、戸沢氏が願成寺を重用したことと関連付けて考えられてきたが、この説については今一度検討の余地があるも

のと思われる。この後の元和8年(1622年)に、戸沢氏は出羽に移封となり、同年水戸藩領として水戸藩附家老の中山氏の領地となる。その後の妙法寺の様子を『新編常陸国誌』にみえる大高山宝塔寺鐘銘に記されている。それによると、「堂宇寢就荒廢。至千十六世日英上人。西山公有命。元禄中乃移於今地。称宝塔寺」とあり、元禄年間に妙法寺の堂宇が荒廢したので、16世日英上人の時に徳川光圀の命により成沢村に移し、宝塔寺と称したとのことである。しかし、今回の調査で確認できた遺物は17世紀中葉が最終段階のものと考えられる。また、出土した銭貨の中に寛永通寶が確認できないことから、元禄9年(1696年)に移されるという文献での記述と齟齬が生じる結果となった。

その後、妙法寺の跡地は耕作地となって今日に至っているが、日弁の350年忌にあたる寛文2年(1662年)に建立した墓碑が現在も妙法寺跡に建てられ、檀徒や宗派の僧侶たちによって大切に管理されており、今なお信仰の対象としてあり続けている。

註

- 1) 石川太郎「いわき地方の石器石材からみる後期旧石器時代の移動領域－茨城県北部との比較から－」『いわき地方史研究 第54号』いわき地方史研究会 2017年10月
- 2) 川崎純徳ほか「赤浜遺跡発掘調査報告書」高萩市教育委員会 1972年3月
- 3) 榎村圭一「福島県内の弥生時代中期の住居跡について－まほろん収蔵資料からの検討－」『福島県文化財センター白河館 研究紀要』福島県文化財センター白河館 研究紀要 2013
- 4) 註2に同じ
- 5) 志田淳一「中世常陸の村落社会－多珂郡赤浜妙法寺過去帳を読む－」筑波書林 1984年5月
- 6) 北茨城市史編さん委員会「松岡地理誌」『北茨城市史 別巻2』北茨城市 1984年12月
- 7) 註5に同じ
- 8) 松田政基ほか「松岡城跡E地点-高萩市立松岡小学校校舎改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-」高萩市教育委員会 2013年3月
- 9) 註8に同じ

参考文献

- 茨城県考古学協会中世シンポジウム実行委員会『茨城県考古学協会シンポジウム 茨城中世考古学の最前線～編年と基準資料～』茨城県考古学協会 2011年1月
- 小野正敏 編 「図解・日本の中世遺跡」 東京大学出版会 2001年3月
- 榎村宣行「松岡城A地点遺跡」松岡城A地点遺跡調査会 1982年8月
- 榎村宣行「那珂川以北を中心とする「切石組み籠」の一考察」『領域の研究－阿久津久先生還暦記念論集－』2003年4月
- 鎌倉市教育委員会・鎌倉考古学研究所「集成 鎌倉の発掘 第7～10巻 水福寺他編(1)～(4)」1996年
- 瓦吹聖 編「高萩市の文化財」高萩市教育委員会 2015年3月
- 志田淳一「中世常陸の土豪と農民」筑波書林 1989年11月
- 高萩市史編さん委員会『高萩市史上・下』高萩市 1988年6月
- 豊田智美・河野一也ほか「高名城跡-関東第五障光会館建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-」高萩市教育委員会 2010年7月
- 松岡藩藩校「就符館」編「高萩歴代領主」高萩市・高萩市教育委員会 2013年3月
- 茂木正博・采川暢敏「常陸国風土記の考古学的研究－茨城大学人文学部考古学研究室報告第10冊」茨城大学人文学部考古学研究室 2006年10月
- 諸星政博ほか「赤浜古墳群(発掘調査の概要)」高萩市教育委員会 1972年3月
- 藤澤良祐「中世瀬戸内海の研究」高志書院 2008年3月
- 宮田和男「松岡城跡D地点-高萩市立松岡小学校校舎改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-」高萩市教育委員会 2011年3月

写 真 图 版

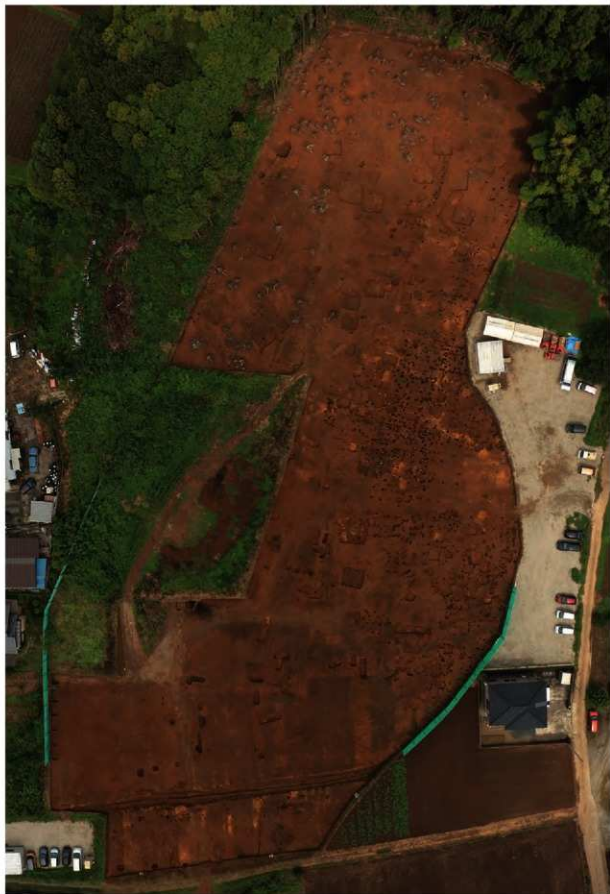
PL1



大高台遺跡遠景（南から）



大高台遺跡遠景（北から）



大高台遺跡調査区2区全景（鉛直方向）

PL3



調査区北部



調査区中央部



第6号竖穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第6号竖穴建物跡 遺物出土状況 (2)



第6号竖穴建物跡



第11号竖穴建物跡



第17号竖穴建物跡 遺物出土状況



第17号竖穴建物跡



第24号竖穴建物跡 遺物出土状況



第24号竖穴建物跡



第40号竖穴建物跡 遺物出土状況



第40号竖穴建物跡



第1号遺物包含層 (北から)



第1号遺物包含層 (東から)



第1号竖穴建物跡



第16号竖穴建物跡 遺物出土状況



第16号竖穴建物跡



第20号竖穴建物跡 貯蔵穴遺物出土状況

PL6



第20号竖穴建物跡



第21号竖穴建物跡



第30号竖穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第30号竖穴建物跡 遺物出土状況 (2)



第30号竖穴建物跡 遺物出土状況 (3)



第30号竖穴建物跡



第31号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第31号竖穴建物跡 竈



第31号竖穴建物跡



第39号竖穴建物跡 貯蔵穴遺物出土状況



第2号竖穴建物跡



第3号竖穴建物跡



第4号竖穴建物跡



第5号竖穴建物跡 遺物出土状況



第5号竖穴建物跡



第7号竖穴建物跡 遺物出土状況



第7号竖穴建物跡



第8号竖穴建物跡



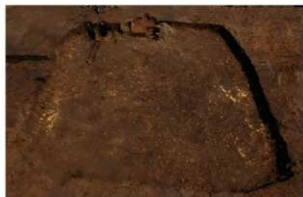
第9号竖穴建物跡



第10号竖穴建物跡



第12号竖穴建物跡



第13号竖穴建物跡



第14号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第14号竖穴建物跡



第15号竖穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第15号竖穴建物跡 遺物出土状況 (2)



第15号竖穴建物跡



第18号竖穴建物跡



第23号竖穴建物跡 遺物出土状況



第23号竖穴建物跡



第26号竖穴建物跡



第27号竖穴建物跡

PL10



第28号豎穴建物跡 竈 1



第28号豎穴建物跡 竈 2



第28号豎穴建物跡



第29号豎穴建物跡 竈



第29号豎穴建物跡



第32号豎穴建物跡



第36号豎穴建物跡



第37号豎穴建物跡



第38・39号竪穴建物跡



第43号竪穴建物跡



第32号掘立柱建物跡



第34号掘立柱建物跡



第37号掘立柱建物跡



第98号土坑 遺物出土状況



第149号土坑 遺物出土状況



第149号土坑



第 23 号掘立柱建物跡



第 3 号掘立柱建物跡 検出状況



第 5 号掘立柱建物跡



第 6 号掘立柱建物跡



第 7 号掘立柱建物跡



第 11 号掘立柱建物跡



第 23 号掘立柱建物跡 P 3 土層断面



第 23 号掘立柱建物跡 P 5 礎板出土状況



第 23 号掘立柱建物跡 P18



第 23 号掘立柱建物跡 P23 柱材出土状況 (1)



第 23 号掘立柱建物跡 P23 柱材出土状況 (2)



第 23 号掘立柱建物跡 P32



第 3 号方形竖穴遺構 遺物出土状況



第 50 号方形竖穴遺構遺物出土状況



第 70 号方形竖穴遺構



第 1 号地下式坑



第 1 号土坑墓 遺物出土状況 (1)



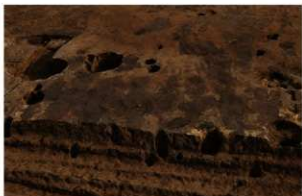
第 1 号土坑墓 遺物出土状況 (2)



第 1 号火葬施設



第 1 号道路跡 東部



第 1 号道路跡 波板状遺構検出状況



第1号道路跡



第2号溝跡



第136号土坑土層断面



第136号土坑 遺物出土状況



第152号土坑 遺物出土状況(1)



第152号土坑 遺物出土状況(2)



第 175 号土坑 炭化米核出土状况



第 273 号土坑 遗物出土状况



第 331 号土坑



第 377 号土坑 遗物出土状况



第 395 号土坑 遗物出土状况



第 230 号土坑



第 230 号土坑掘方土层断面



第 253 号土坑



第 253・255 号土坑



第 262 号土坑



第 382 号土坑



第 4 号柱穴列



第 5 号柱穴列



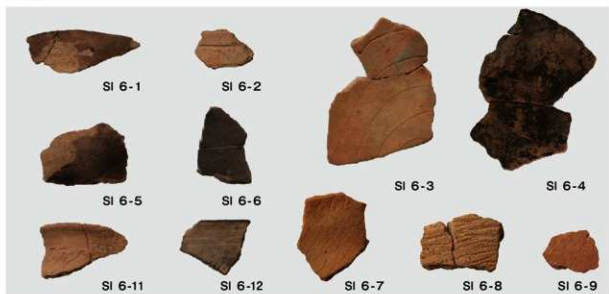
第 1 号炭窯跡



第 3 号ピット群



第 6 号ピット群と方形罫穴遺構群



第6・11・17・24号豎穴建物跡出土遺物



第40号竖穴建物跡，第1号遺物包含層出土遺物



第 1・16・20・21・30号竪穴建物跡出土遺物

PL21



第30・31・39号竪穴建物跡出土遺物



第2～5・7号竖穴建物跡出土遺物



第9・12・14・15号竖穴建物跡出土遺物



第19・23・26~28・32・34・36号竖穴建物跡出土遺物

PL25



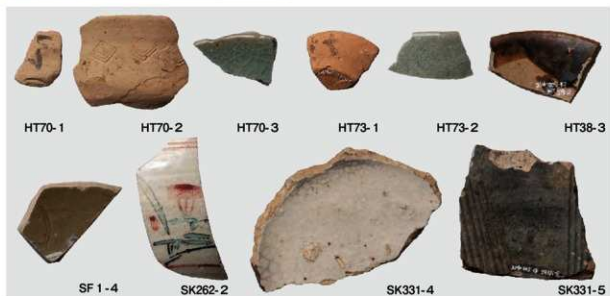
第36号竖穴建物跡，第6・9・19・23・31・40号掘立柱建物跡，第149号土坑出土遺物

PL26



第49·50·70·76号方形竖穴遗構，第136·331·377号土坑出土遺物

PL27



第38・70・73号方形竖穴遺構，第1号道路跡，第152・262・331・377号土坑出土遺物





第451号土坑，第3・6号ピット群，遺構外出土遺物



遺構外出土遺物

PL31



SI 17-5



SI 38-2



SI 31-9



PG 3-20

PG 3-21

PG 3-22



遺構外-42



遺構外-43



SI 24-9



遺構外-44

第17・24・31・38号竪穴建物跡，第3号ピット群，遺構外出土遺物



第8・13・15・27・28・38号竪穴建物跡，遺構外出土遺物

PL33



第2・4・37号竪穴建物跡，第98・136・331号土坑，第6号ピット群，遺構外出土遺物



第15号竪穴建物跡，第31号掘立柱建物跡，第7・38号方形竪穴遺構，第70・242号土坑，第6号ピット群，遺構外出土遺物

PL35



HT3-3



SF 1-5



SK377-3



PG 3-30

PG 5-35



SK148-1

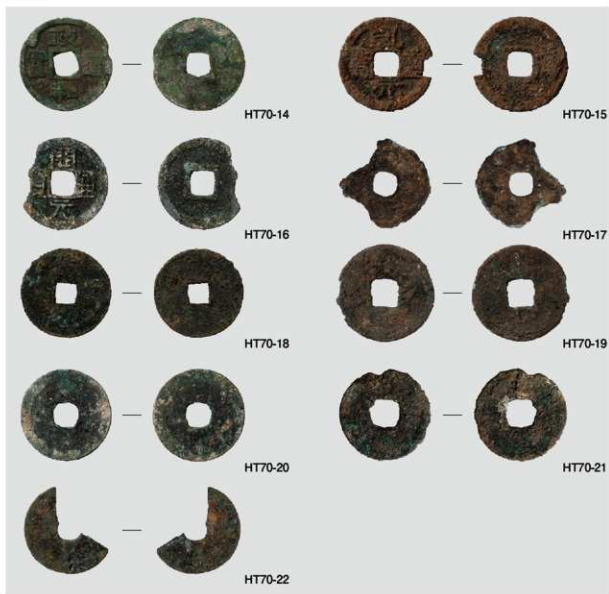
SK148-2

SK148-3

SK148-4

SK148-5

第3号方形竪穴遺構，第1号土坑墓（SK148），第1号道路跡，第377号土坑，第3・5号ピット群出土遺物



第70号方形竖穴遗構，第175号土坑出土遺物

PL37



遺跡遠景（北から）



遺跡全景（鉛直から）



旧石器時代遺物出土状況



第1号竪穴建物跡 貯蔵穴遺物出土状況



第1号竪穴建物跡 竈



第1号竪穴建物跡



第2号竪穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第2号竪穴建物跡 遺物出土状況 (2)



第2号竪穴建物跡 遺物出土状況 (3)



第2号竪穴建物跡 竈遺物出土状況



第2号竖穴建物跡 竈



第2号竖穴建物跡



第5号竖穴建物跡 遺物出土状況



第5号竖穴建物跡



第6号竖穴建物跡 遺物出土状況



第6号竖穴建物跡



第7号竖穴建物跡 遺物出土状況



第7号竖穴建物跡

PL40



第8号竖穴建物跡 遺物出土状況



第8号竖穴建物跡 P1 遺物出土状況



第11号竖穴建物跡 遺物出土状況



第11号竖穴建物跡



第13号竖穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第13号竖穴建物跡 遺物出土状況 (2)



第13号竖穴建物跡 P2 遺物出土状況



第13号竖穴建物跡 P3 遺物出土状況



第13号竖穴建物跡 炉



第1号遺物包含層



第3号竖穴建物跡 竈



第3号竖穴建物跡



第4号竖穴建物跡 重複状況



第4号竖穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第4号竖穴建物跡 遺物出土状況 (2)



第4号竖穴建物跡 遺物出土状況 (3)



第4号竖穴建物跡 遺物出土状況 (4)



第4号竖穴建物跡 2区遺物出土状況 (1)



第4号竖穴建物跡 2区遺物出土状況 (2)



第4号竖穴建物跡 2区遺物出土状況 (3)



第4号竖穴建物跡 2区遺物出土状況 (4)



第4号竖穴建物跡 4区遺物出土状況 (1)



第4号竖穴建物跡 4区遺物出土状況 (2)



第4号竖穴建物跡 4区遺物出土状況 (3)



第4号竖穴建物跡 4区遺物出土状況 (4)



第4号竖穴建物跡 竈



第4号竖穴建物跡



第4号竖穴建物跡 竈掘方



第4号竖穴建物跡 掘方



第1号方形竖穴遺構



第1・5・9号方形竖穴遺構



第2号方形竖穴遺構



第3号方形竖穴遺構



第4号方形竖穴遺構



第5号方形竖穴遺構



第6・7号方形竖穴遺構



第8号方形竖穴遺構



第10号方形竖穴遺構



第11号方形竖穴遺構



第2号溝跡



第3号溝跡 遺物出土状況



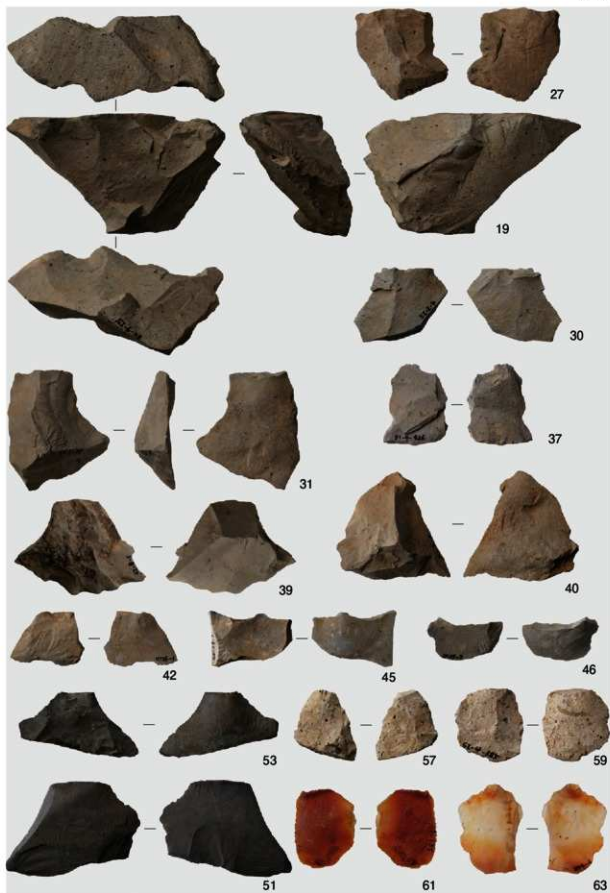
第2号溝跡



第3号溝跡



旧石器時代出土遺物 (1)



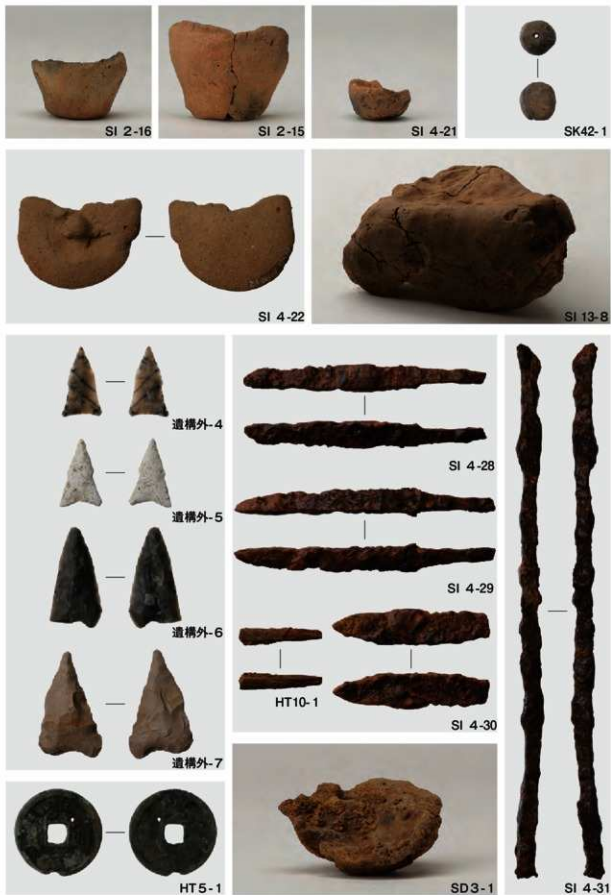
旧石器時代出土遺物 (2)



第1·2·7·8·13号竖穴建物跡出土遺物



第4・13号竪穴建物跡出土遺物



第2・4・13号竖穴建物跡，第5・10号方形竖穴遺構，第3号溝跡，第42号土坑，遺構外出土遺物

抄 録

ふりがな	おおたかだいせいせき きたくほびーいせき							
書名	大高台遺跡 北久保B遺跡							
副書名	一般県道高萩城線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第453集							
著者名	三浦裕介 萩原宏季 バリノ・サーヴェイ株式会社 山形大学高感度加速器質量分析センター							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029-225-6587							
発行日	2021(令和3)年3月16日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
大高台遺跡	茨城県高萩市 赤浜1883番地4ほか	08214 1 005	36度 73分 84秒	140度 71分 53秒	41 ～ 45m	20190104 ～ 20190331 20190401 ～ 20190831	8640㎡	一般県道高萩城線バイパス整備事業に伴う事前調査
北久保B遺跡	茨城県高萩市 赤浜1543番地3ほか	08214 1 065	36度 44分 33秒	140度 43分 1秒	19 ～ 22m	20190104 ～ 20190331	1593㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
大高台遺跡	その他	旧石器 縄文		石器(搔器・石鏃・石核・剥片) 縄文土器(深鉢)			当地には、鎌倉時代に開山された妙法寺が存在したとの伝承が残っている。調査によって、寺の開基者と伝わる僧「日弁」の名が記された墨書土器が出土し、また、礎板石を持つ大型掘立柱建物跡が確認されたことから、当跡が妙法寺の可能性が出てきた。	
	集落跡	弥生	竪穴建物跡 遺物包含層	5棟 1か所	弥生土器(高坏・蓋・壺・甕)、 土製品(紡錘車)、石器・石製品(剥片・磨製石斧・磨石・敲石・紡錘車)			
		古墳	竪穴建物跡	8棟	土師器(坏・埴・壺・甕・瓶・手捏土器)、須恵器(坏)、 石器・石製品(石皿・磨石・勾玉・支脚)			
		奈良・平安	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 土坑	29棟 6棟 2基	土師器(坏・高台付坏・甕・手捏土器)、須恵器(坏・高台付坏・蓋・盤・高盤・短頸壺・甕・円面硯)、灰軸陶器(碗)、 土製品(紡錘車・羽口)、石器・石製品(砥石・紡錘車・腰帯具)、金属製品(刀子・鎌・紡錘車・釘)、鉄滓			
	寺院跡	中世～近世	掘立柱建物跡 方形竪穴遺構 地下式坑 土坑墓 火葬施設 道路跡 溝跡 土坑 粘土貼土坑	26棟 76基 1基 1基 1基 1条 2条 7基 19基	土師質土器(小皿・内耳鍋火舎)、瓦質土器(鐻鉢・火舎)、陶器(小皿・丸皿・菊皿・天目茶碗・鉢・壺・瓶)、 磁器(皿・碗)、瓦(丸瓦)、 石器・石製品(砥石・硯)、 金属製品(鎌・刀子・刀装具・釘)、銭貨、鉄滓、自然遺物(炭化米・炭化材・人骨)			

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
大高台遺跡	その他	時期不明	溝跡 6条 柱穴列 2条 土坑 421基 炭窟跡 1基 ピット群 6か所	土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、金属製品	
北久保B遺跡	集落跡	古 墳	竪穴建物跡 11棟	土師器（坏・甕・埴・器台・高坏・脚付埴・鉢・壺・甕・瓶）、土製品（炬器台）、石器（磨石・石錘）	
		奈 良	竪穴建物跡 2棟	土師器（坏・高台付坏・鉢・甕・瓶・ミニチュア土器）、須恵器（坏・高台付坏・壺・盤・高盤・鉢・壺・短頸壺・瓶・甕）、土製品（鏡形模造品・支脚）石器（砥石）、金属製品（刀子・鉄鏝）	
		室 町	方形竪穴遺構 14基	銭貨（洪武通寶）	
	その他	時期不明	溝跡 2条	縄文土器（深鉢）、弥生土器（壺）、土師器（坏・小形甕・甕）、須恵器（高台付坏・蓋）、石器（剥片・砥石）、土製品（羽口）、鉄滓	
			土坑 58基	土師器（坏）、土製品（土玉）、石器（石核・剥片）	
		遺物包含層 1か所	縄文土器（深鉢）、弥生土器（壺）、土師器（坏・甕）、石器（磨製石斧）		
			石器（削器・尖頭器・盤状剥片石核・翼状剥片・剥片）		
要 約	<p>大高台遺跡は、弥生時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。弥生時代は中期後葉から後期前葉にかけて、古墳時代は4世紀と6世紀、奈良・平安時代は8世紀後葉から10世紀中葉にかけての集落跡を、鎌倉時代末期から江戸時代前期にかけての寺院跡と推定される遺構群を確認した。</p> <p>北久保B遺跡は、古墳時代前期から室町時代にかけての集落で、最盛期は古墳時代中期である。古墳時代の遺構から出土している土師器片は、南東北系の影響がみられる。調査区は台地縁辺部で遺跡の北西端にあたり、遺跡の中心は調査区より東側に広がり、集落の外周域に位置すると想定される。</p>				

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC 2020
	図版作成	Adobe Illustrator CC 2020
	写真調整	Adobe Photoshop CC 2020
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL、太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー-210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CC 2020でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第453集

高萩市

大高台遺跡 北久保B遺跡

一般県道高萩境線バイパス整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和3(2021)年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL. 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社 あげほの印刷社
〒310-0804 水戸市白梅1丁目2-11
TEL. 029-227-8284



付図 大高台遺跡遺構全体図（茨城県教育財団文化財調査報告第453集）